専門教育科目、共通専門教育科目、教職・博物館に関する科目

※(休)の表示がある科目は履修できないので注意すること。
※入学年度によって履修できる科目・標準履修年次が異なります。
入学時に配布された履修の手引きと本冊子P1を参照のこと。

標準履修年次欄　「☆」～2018年度入学生　履修可能　「★」2019～入学生　履修可能。

科目名	開講期・曜日・時限	教員名	標準履修年次	単位数	他学部履修	備考	授業コード	科目ナンバー
人間文化基礎論Ⅰa	前木1	佐金	1	2			L210010010	LAGEN1101
人間文化基礎論Ⅰb	前木1	磐下	1	2			L210010020	LAGEN1101
人間文化基礎論Ⅱa	後木3	土屋	1	2			L210020010	LAGEN1102
人間文化基礎論Ⅱb	後木1	向井	1	2			L210020020	LAGEN1102
人間文化概論Ⅰ	前月4	仲原	1・2	2			L210030010	LAGEN1103
人間文化概論Ⅱ	前水3	草生･渡辺･齊藤	1・2	2			L210040010	LAGEN1104
人間行動学概論Ⅰ	後金1	辻野･川邉	1	2			L220010010	LBGEN1101
人間行動学概論Ⅱ	前金1	祖田･平山	1	2			L220020010	LBGEN1102
人間行動学データ解析法Ⅰa	前月2	(櫻田)	2	2		a：社会・心理	L220030010	LBGEN1201
人間行動学データ解析法Ⅰb	前月2	(森谷)	2	2		b：教育・地理	L220030020	LBGEN1201
人間行動学データ解析法Ⅱa	後月2	佐伯	2	2			L220040010	LBGEN1202
人間行動学データ解析法Ⅱb	後月2	木村	2	2			L220040020	LBGEN1202
言語文化基礎論Ⅰ	後火1	久堀	1・2	2			L230010010	LCGEN1101
言語文化基礎論Ⅱ	後木1	内丸	1・2	2			L230020010	LCGEN1102
言語文化概論Ⅰ	前火1	小林･高橋･原野･白田	1・2	2			L230030010	LCGEN1103
言語文化概論Ⅱ	前木1	古賀･髙井･信國･福島･白田	1・2	2			L230040010	LCGEN1104
文化構想学概論Ⅰ	前火5	天野･多和田･沼田･松浦･小田中･菅原･増田･海老根･堀･宋	★ 1	2			L240010010	LEGEN1101
文化構想学概論Ⅱ	後火5	天野･多和田･沼田･松浦･小田中･増田･菅原･野末･堀･宋	★ 1	2			L240020010	LEGEN1102
文化構想学基礎演習Ⅰa	前水3	堀	★ 2	2			L240030010	LEGEN1201
文化構想学基礎演習Ⅰb	前火3	小田中	★ 2	2			L240030020	LEGEN1201
文化構想学基礎演習Ⅱa	後火4	高島	★ 2	2			L240040010	LEGEN1202
文化構想学基礎演習Ⅱb	後木3	多和田	★ 2	2			L240040020	LEGEN1202
卒業論文演習Ⅰ(旧卒業論文演習)		担当教員	4	2				
卒業論文演習Ⅱ(旧卒業論文演習)		担当教員	4	2				
卒業論文		担当教員	4	10				

■哲学歴史学科

科目名	開講期・曜日・時限	教員名	標準履修年次	単位数	他学部履修	備考	授業コード	科目ナンバー
哲学概論Ⅰ	前月3	佐金	2・3	2	可		L211010010	LAPHL3201
哲学概論Ⅱ	後月3	佐金	2・3	2	可		L211020010	LAPHL3202
哲学史通論Ⅰ	前金2	(安田)	1・2	2	可		L211030010	LAPHL2101
哲学史通論Ⅱ	後火1	高梨	1・2	2	可		L211040010	LAPHL2102
哲学演習・講読Ⅰ	前水3	佐金	2～4	2			L211050010	LAPHL3203
哲学演習・講読Ⅱ	後水3	佐金	2～4	2			L211060010	LAPHL3204
哲学史演習・講読Ⅰ	前月4	高梨	2～4	2			L211070010	LAPHL3205
哲学史演習・講読Ⅱ	後月4	高梨	2～4	2			L211080010	LAPHL3206
倫理学概論Ⅰ	前火3	土屋	2・3	2	可		L211090010	LAPHL3207
倫理学概論Ⅱ	後火3	土屋	2・3	2	可		L211100010	LAPHL3208
倫理学演習・講読Ⅰ	前水2	土屋	2～4	2			L211110010	LAPHL3209
倫理学演習・講読Ⅱ	後水2	土屋	2～4	2			L211120010	LAPHL3210
宗教学概論Ⅰ	前木2	仲原	2・3	2	可		L211130010	LAPHL3211
宗教学概論Ⅱ	後木2	仲原	2・3	2	可		L211140010	LAPHL3212
宗教学演習・講読Ⅰ	前木3	仲原	2～4	2			L211150010	LAPHL3213
宗教学演習・講読Ⅱ	後木3	仲原	2～4	2			L211160010	LAPHL3214
美学概論Ⅰ	前火4	高梨	2・3	2	可		L211190010	LAPHL3217
美学概論Ⅱ	後火4	高梨	2・3	2	可		L211200010	LAPHL3218
哲学特講Ⅰ	前集中	(川﨑)	2～4	2			L211240010	LAPHL3219
哲学特講Ⅱ	前木4	(加藤)	2～4	2		大学院共通	L211250010	LAPHL3220
哲学特講Ⅲ	後木4	土屋	2～4	2			L211260010	LAPHL3221
哲学特講Ⅳ	後水4	高梨	2～4	2			L211270010	LAPHL3222
哲学特講Ⅴ	後月2	仲原	2～4	2			L211280010	LAPHL3223

史学概論	後火3	仁木	2・3	2			L212010010	LAGEN3201
日本史基礎講読Ⅰ	後木2	佐賀	1・2	2			L212020010	LAJPH2101
日本史基礎講読Ⅱ	前月3	齊藤	2・3	2			L212030010	LAJPH3201
日本史通論Ⅰ	前月2	(天野)	2・3	2	可		L212040010	LAJPH3202
日本史通論Ⅱ	前木1	佐賀	2・3	2	可		L212050010	LAJPH3203
考古学通論	前火3	岸本	2・3	2	可		L212060010	LAJPH3204
日本史講読Ⅰ	後木3	磐下	2～4	2			L212070010	LAJPH3205
日本史講読Ⅱ	後水3	仁木	2～4	2			L212080010	LAJPH3206
日本史講読Ⅲ	後木2	齊藤	2～4	2			L212090010	LAJPH3207
日本史講読Ⅳ	前木3	佐賀	2～4	2			L212100010	LAJPH3208
日本史演習Ⅰ	前水2	磐下	3・4	2			L212110010	LAJPH3301
日本史演習Ⅱ	後水2	仁木	3・4	2			L212120010	LAJPH3302
日本史演習Ⅲ	前木2	齊藤	3・4	2			L212130010	LAJPH3303
日本史演習Ⅳ	後木3	佐賀	3・4	2			L212140010	LAJPH3304
考古学演習	後火3	岸本	3・4	2			L212150010	LAJPH3305
日本史特講Ⅰ	前集中	(吉田(歓))	3・4	2		大学院共通	L212160010	LAJPH3306
日本史特講Ⅱ	後水1	(海原)	3・4	2		大学院共通	L212170010	LAJPH3307
日本史特講Ⅲ	後水3	磐下	3・4	2			L212180010	LAJPH3308
日本史特講Ⅳ	後火2	仁木	3・4	2			L212190010	LAJPH3309
考古学実習	前火4	岸本	2～4	2			L212200010	LAJPH3209
大阪の歴史演習		【休】	2～4	2			L212210010	LAJPH3210
世界史基礎講読	前金1	上野･北村･濱本･向井･渡辺	1・2	2			L213010010	LAGEN2101
東洋史基礎講読	前火4	平田	2・3	2			L213020010	LAWHE3201
東洋史通論	後火4	平田	2・3	2	可		L213030010	LAWHE3202
世界史通論	後月3	濱本	2・3	2	可		L213040010	LAGEN3202
東洋史講読Ⅰ	前木4	平田	2～4	2			L213050010	LAWHE3203
東洋史講読Ⅱ	前火2	渡辺	2～4	2			L213060010	LAWHE3204
東洋史講読Ⅲ	後水4	上野	2～4	2			L213070010	LAWHE3205
世界史講読	前月2	濱本	2～4	2			L213080010	LAGEN3203
東洋史演習Ⅰ	前水4	上野	3・4	2			L213090010	LAWHE3301
東洋史演習Ⅱ	後水3	渡辺	3・4	2			L213100010	LAWHE3302
東洋史演習Ⅲ	後木4	平田	3・4	2			L213110010	LAWHE3303
世界史演習	後月2	濱本	3・4	2			L213120010	LAGEN3301
東洋史特講Ⅰ	前集中	(大野)	3・4	2		大学院共通	L213130010	LAWHE3304
東洋史特講Ⅱ	後集中	(辻(明))	3・4	2		大学院共通	L213140010	LAWHE3305
世界史特講	前水2	濱本	3・4	2		大学院共通	L213150010	LAGEN3302
西洋史基礎講読	前水2	(前田(充))	2・3	2			L213160010	LAWHW3201
西洋史通論	後水2	北村	2・3	2	可		L213170010	LAWHW3202
西洋史講読Ⅰ	後水5	北村	2・3	2			L213180010	LAWHW3203
西洋史講読Ⅱ	前水5	北村	3・4	2			L213190010	LAWHW3301
西洋史講読Ⅲ	後火2	向井	2・3	2			L213200010	LAWHW3204
西洋史講読Ⅳ	前火2	向井	3・4	2			L213210010	LAWHW3302
西洋史演習Ⅰ	前月4	草生	3・4	2			L213220010	LAWHW3303
西洋史演習Ⅱ	後木3	向井	3・4	2			L213230010	LAWHW3304
西洋史演習Ⅲ	後水3	北村	3・4	2			L213240010	LAWHW3305
西洋史特講Ⅰ	後月3	(図師)	3・4	2		大学院共通	L213250010	LAWHW3306
西洋史特講Ⅱ		【休】	3・4	2			L213260010	LAWHW3307

■人間行動学科

科目名	開講期・曜日・時限	教員名	標準履修年次	単位数	他学部履修	備考	授業コード	科目ナンバー
社会学概論Ⅰ	前月3	(進藤)	2	2	可		L221010010	LBS0C3201
社会学概論Ⅱ	後水4	石田	2	2	可		L221020010	LBS0C3202
社会学史Ⅰ		【休】	2	2	可		L221030010	LBS0C3203
社会学史Ⅱ	後月3	(進藤)	2	2	可	大学院共通	L221040010	LBS0C3204
社会学研究法Ⅰ	前月4	(櫻田)	2	2	可	社会調査士必修	L221050010	LBS0C3205
社会学研究法Ⅱ	前木3	伊地知	2	2	可	社会調査士必修	L221060010	LBS0C3206
社会学実習Ⅰa	前木4	伊地知	3	2		社会調査士必修	L221070010	LBS0C3301
社会学実習Ⅰb	前火4	川野	3	2		社会調査士必修	L221070020	LBS0C3301
社会学実習Ⅱa	後木4	伊地知	3	2		社会調査士必修	L221080010	LBS0C3302
社会学実習Ⅱb	後火4	川野	3	2		社会調査士必修	L221080020	LBS0C3302
社会学基礎演習a	前火3	石田	2	2			L221090010	LBS0C3207
社会学基礎演習b	前火4	平山	2	2			L221090020	LBS0C3207
社会学演習Ⅰa	後水2	石田	2～4	2			L221100010	LBS0C3208
社会学演習Ⅰb	後火3	川野	2～4	2			L221100020	LBS0C3208

社会学演習Ⅱa	前火2	平山	2～4	2			L221110010	LBSOC3209
社会学演習Ⅱb		【休】	2～4	2			L221110020	LBSOC3302
社会学演習Ⅲ	後水3	石田	2～4	2			L221120010	LBSOC3210
社会学演習Ⅳa	後火3	石田	2～4	2			L221130010	LBSOC3211
社会学演習Ⅳb	後水4	伊地知	2～4	2			L221130020	LBSOC3211
社会学演習Ⅳc	後木3	川野	2～4	2			L221130030	LBSOC3211
社会学演習Ⅳd	後水4	平山	2～4	2			L221130040	LBSOC3211
社会調査法	後水3	平山	2～4	2			L221190010	LBSOC3217
社会学データ解析法	前火3	川野	2～4	2			L221200010	LBSOC3218
社会学特講Ⅰ		【休】	2～4	2			L221160010	LBSOC3214
社会学特講Ⅱ		【休】	2～4	2			L221170010	LBSOC3215
社会学特講Ⅲ	後水1	(本郷)	2～4	2		大学院共通	L221180010	LBSOC3216
社会学特論Ⅰ	前水4	石田	2～4	2			L221140010	LBSOC3212
社会学特論Ⅱ	後木3	伊地知	2～4	2			L221150010	LBSOC3213
心理学概論Ⅰ	前木4	川邉	2～4	2	可		L222010010	LBPSY3201
心理学概論Ⅱ	後木4	川邉	2～4	2	可		L222020010	LBPSY3202
心理学研究法Ⅰ	前火3	山	2～4	2	可		L222030010	LBPSY3203
心理学研究法Ⅱ	後月3	山	2～4	2	可		L222040010	LBPSY3204
心理学実験演習Ⅰ(心理学実験)	前水3	川邉・山・佐伯・橋本	2	2			L222050010	LBPSY3205
心理学実験演習Ⅱ(心理学実験)	前水4	川邉・山・佐伯・橋本	2	2			L222060010	LBPSY3206
心理学研究演習Ⅰ	前水2	山・川邉・佐伯・橋本	3	2			L222070010	LBPSY3301
心理学研究演習Ⅱ	後水2	山・川邉・佐伯・橋本	3	2			L222080010	LBPSY3302
人間行動学データ解析法Ⅲ (心理学統計法)	前木2	(鈴木（文）)	3・4	2			L220050010	LBPSY3303
人間行動学データ解析法Ⅳ	後月3	木村	3・4	2			L220060010	LBGEN3306
神経・生理心理学特論		【休】	2～4	2	可		L222090010	LBPSY3207
知覚・認知心理学特論		【休】	2～4	2	可		L222100010	LBPSY3208
学習・言語心理学特論	後水1	佐伯	2～4	2	可		L222110010	LBPSY3209
発達心理学特論		【休】	2～4	2	可		L222120010	LBPSY3210
社会・集団・家族心理学特論	後月4	橋本	2～4	2	可		L222130010	LBPSY3211
感情・人格心理学特論	前火4	(中妻)	2～4	2	可		L222140010	LBPSY3212
動物心理学特論	前月3	川邉	2～4	2	可		L222150010	LBPSY3213
文化心理学特論	前火2	山	2～4	2	可		L222160010	LBPSY3214
心理的アセスメント特論	前火5	(中妻)	2～4	2	可		L222170010	LBPSY3215
心理学特講Ⅰ		【休】	3・4	2	可		L222180010	LBPSY3304
心理学特講Ⅱ		【休】	3・4	2	可		L222190010	LBPSY3305
心理学特講Ⅲ	前集中	(高橋（阿）)	3・4	2	可	大学院共通	L222200010	LBPSY3306
心理学統計法	後金3	(片山)	2・3	2	可		L222210010	LBPSY3216
教育学概論Ⅰ	前金4	(柏木)	2・3	2			L223010010	LBEDU3201
教育学概論Ⅱ	前月4	辻野	2・3	2			L223020010	LBEDU3202
教育方法学Ⅰ	前木2	(森)	2・3	2			L223030010	LBEDU3203
教育方法学Ⅱ	前火3	島田	3	2			L223040010	LBEDU3301
比較・国際教育学	前集中	(田中（光）)	3	2			L223050010	LBEDU3302
教育学研究法Ⅰ	前火4	添田	2	2			L223060010	LBEDU3204
教育学研究法Ⅱ	後月2	島田	3	2			L223070010	LBEDU3303
教育学実習	後月3	島田	2	2			L223080010	LBEDU3205
教育学演習Ⅰ	後火3	辻野	2	2			L223090010	LBEDU3206
教育学演習Ⅱ	後金2限	(柏木)	3	2			L223100010	LBEDU3304
教育学演習Ⅲ	前火2	島田	2	2			L223110010	LBEDU3207
教育学演習Ⅳ	前木3	(森)	3	2			L223120010	LBEDU3305
教育学演習Ⅴ		【休】	3・4	2			L223130010	LBEDU3306
教育行政学	後水3	辻野	3・4	2			L223140010	LBEDU3307
教育史	後金4	(柏木)	2～4	2			L223150010	LBEDU3208
教育メディア論	前集中	(深見)	2～4	2			L223160010	LBEDU3209
教育学特講Ⅰ	後集中	(西村)	3・4	2		大学院共通	L223170010	LBEDU3308
教育学特講Ⅱ	前集中	(髙谷)	3・4	2			L223180010	LBEDU3309
地理学概論Ⅰ	前金3	(佐久真)	2～4	2	※1	欄外参照	L224010010	LBGEO3201
地理学概論Ⅱ	後火3	(麻生)	2～4	2	可		L224020010	LBGEO3202
地誌学Ⅰ	前木2	菅野	2～4	2	可		L224030010	LBGEO3203
地誌学Ⅱ	後水5	祖田	2～4	2	可		L224040010	LBGEO3204
地理学実験実習Ⅰ	前火3	祖田・菅野	2・3	2			L224050010	LBGEO3205
地理学実験実習Ⅱ	前火4	木村	2・3	2			L224060010	LBGEO3206
地理学講読演習Ⅰ	前水2	山﨑	3	2			L224070010	LBGEO3301
地理学講読演習Ⅱ	後水2	山﨑	3	2			L224080010	LBGEO3302

地理学野外調査実習Ⅰ	後木2	祖田･菅野	2・3	2			L224090010	LBGE03207
地理学野外調査実習Ⅱ	前月4	祖田･菅野	3	2			L224100010	LBGE03303
地理学演習Ⅰ	前木3	山﨑･祖田	3	2			L224110010	LBGE03304
地理学演習Ⅱ	後木3	山﨑･祖田	3	2			L224120010	LBGE03305
地図学		【休】	2～4	2	可		L224140010	LBGE03209
地理情報学	前火2	木村	2～4	2	可		L224150010	LBGE03210
地理学特講Ⅰ	後月2	水内	2～4	2	可	大学院共通	L224160010	LBGE03211
地理学特講Ⅱ	前金2	(大場)	2～4	2	可	大学院共通	L224170010	LBGE03212

※1　他学部履修不可。但し教職を履修するもののみ履修可能。

■言語文化学科　　標準履修年次欄　「☆」～2018年度入学生　履修可能　「★」2019～入学生　履修可能。

科目名 (読替科目)	開講期・ 曜日・時限	教員名	標準履修 年次	単位数	他学部 履修	備考	授業コード	科目ナンバー
国文学史Ⅰ	前月2	奥野	1～3	2	可		L231010010	LCJPN2101
国文学史Ⅱ	後水4	山本	1～3	2	可		L231020010	LCJPN2102
国語学基礎論	前月4	丹羽	2～4	2			L231030010	LCJPN3201
国語学方法論	後月4	丹羽	2～4	2			L231040010	LCJPN3202
国語国文学講読Ⅰ	前木3	奥野	2～4	2			L231050010	LCJPN3203
国語国文学講読Ⅱ	後木3	奥野	2～4	2			L231060010	LCJPN3204
国語国文学講読Ⅲ	前月3	山本	2～4	2			L231070010	LCJPN3205
国語国文学講読Ⅳ	後月3	山本	2～4	2			L231080010	LCJPN3206
国語国文学演習Ⅰ	前火3	久堀	3・4	2			L231090010	LCJPN3301
国語国文学演習Ⅱ	後火3	久堀	3・4	2			L231100010	LCJPN3302
国語国文学演習Ⅲ	前火4	小林	3・4	2			L231110010	LCJPN3303
国語国文学演習Ⅳ	後火4	小林	3・4	2			L231120010	LCJPN3304
国語国文学演習Ⅴ	前木4	丹羽	3・4	2			L231130010	LCJPN3305
国語国文学演習Ⅵ	後木4	丹羽	3・4	2			L231140010	LCJPN3306
国語国文学特講Ⅰ	前火2	久堀	2～4	2			L231150010	LCJPN3207
国語国文学特講Ⅱ	後木2	小林	2～4	2			L231160010	LCJPN3208
国語国文学特論	前水2	(佐野)	3・4	2		大学院共通	L231170010	LCJPN3307
国語国文学特論演習	後水2	(佐野)	3・4	2		大学院共通	L231180010	LCJPN3308
中国語中国文学概論Ⅰ		【休】	2・3	2	可		L232010010	LCCHN3201
中国語中国文学概論Ⅱ	前木1	高橋	2・3	2	可		L232020010	LCCHN3202
中国語中国文学概論Ⅲ	後水1	大岩本	2・3	2	可		L232030010	LCCHN3203
中国語中国文学概論Ⅳ	後火3	張	2・3	2	可		L232040010	LCCHN3204
中国語基礎演習Ⅰ(前期ペア)	前火4	高橋	2・3	2			L232070010	LCCHN3205
中国語基礎演習Ⅱ(前期ペア)	前木2	高橋	2・3	2			L232080010	LCCHN3206
中国語学演習Ⅰ	後水3	(井出)	3・4	2			L232090010	LCCHN3301
中国語学演習Ⅱ	前水1	大岩本	3・4	2			L232100010	LCCHN3302
中国文学演習Ⅰ	前月4	高橋	3・4	2			L232110010	LCCHN3303
中国文化学演習Ⅰ		【休】	3・4	2			L232140010	LCCHN3305
中国文化学演習Ⅱ	前木4	張	3・4	2			L232150010	LCCHN3306
中国語コミュニケーションⅠ(後期ペア)	後月2	大岩本	2・3	2			L232170010	LCCHN3207
中国語コミュニケーションⅡ(後期ペア)	後水2	大岩本	2・3	2			L232180010	LCCHN3208
中国語コミュニケーションⅢ	前火3	張	2～4	2			L232190010	LCCHN3209
中国語コミュニケーションⅣ	後木4	張	2～4	2			L232200010	LCCHN3210
中国語中国文学特講Ⅰ	前木3	(田渕)	2・3	2			L232210010	LCCHN3211
中国語中国文学特講Ⅱ		【休】	2・3	2			L232220010	LCCHN3212
英米文化概論	後水4	リチャーズ	2・3	2	可		L233010010	LCENG3201
英米文学史Ⅰ	前火3	内丸	2・3	2	可		L233020010	LCENG3202
英米文学史Ⅱ	後火3	田中（孝）	2・3	2	可		L233030010	LCENG3203
英米文学史Ⅲ	前水3	古賀	2・3	2	可		L233040010	LCENG3204
英語学概論Ⅰ	前火4	豊田	2・3	2	可		L233050010	LCENG3205
英語学概論Ⅱ	後木2	豊田	2・3	2	可		L233060010	LCENG3206
英米文化演習	前水2	リチャーズ	2～4	2			L233070010	LCENG3207
英米文学演習Ⅰ	前木3	田中（孝）	2～4	2			L233080010	LCENG3208
英米文学演習Ⅱ	後火4	内丸	2～4	2			L233090010	LCENG3209
英米文学演習Ⅲ	後水3	古賀	2～4	2			L233100010	LCENG3210
英米文学演習Ⅳ	後木3	田中（孝）	2～4	2			L233180010	LCENG3211
英語学演習	後火2	豊田	2～4	2			L233190010	LCENG3212
英米文化特講		【休】	2～4	2	可		L233130010	LCENG3213
英米文学特講		【休】	2～4	2	可		L233140010	LCENG3214
英語学特講	前集中	(藤川)	2～4	2	可	大学院共通	L233150010	LCENG3215
英語コミュニケーションⅠ	前水4	リチャーズ	2～4	2			L233160010	LCENG3216
英語コミュニケーションⅡ	後月2	（クイン）	2～4	2			L233170010	LCENG3217

ドイツ語フランス語圏言語文化論Ⅰ		【休】	2～4	2	可		L234010010	LCDFX3201
ドイツ語フランス語圏言語文化論Ⅱ	前集中	(中條)	2～4	2	可	大学院共通	L234020010	LCDFX3202
ドイツ語圏文学史	後木2	髙井	2・3	2	可		L234030010	LCDFD3201
ドイツ語圏文化論	前火4	(吉田（孝）)	2・3	2	可		L234040010	LCDFD3202
ドイツ語学概論	前火2	信國	2・3	2	可		L234050010	LCDFD3203
ドイツ語圏言語文化基礎演習Ⅰ	前月2	信國	2	2	可		L234060010	LCDFD3204
ドイツ語圏言語文化基礎演習Ⅱ	前木3	髙井	2	2	可		L234070010	LCDFD3205
ドイツ語圏言語文化演習Ⅰ	後木3	信國	3・4	2	可		L234080010	LCDFD3301
ドイツ語圏言語文化演習Ⅱ	前火4	髙井	3・4	2	可		L234090010	LCDFD3302
ドイツ語圏言語文化演習Ⅲ	後月2	長谷川	3・4	2	可		L234100010	LCDFD3303
ドイツ語圏言語文化特別演習	後木4	長谷川	3	2	可		L234110010	LCDFD3304
ドイツ語コミュニケーションⅠ	前水2	[エルトレ]	3・4	2	可		L234120010	LCDFD3305
ドイツ語コミュニケーションⅡ	後水2	[エルトレ]	3・4	2	可		L234130010	LCDFD3306
ドイツ語圏ランデスクンデ	後火3	[エルトレ]	3・4	2	可		L234140010	LCDFD3307
フランス語圏文学史	後火2	原野	1・2	2	可		L234150010	LCDFF2101
フランス語圏文化論	前月4	白田	2・3	2	可		L234160010	LCDFF3201
フランス語学概論	前水2	福島	2・3	2	可		L234170010	LCDFF3202
フランス語圏言語文化基礎演習Ⅰ	後月4	白田	2	2	可		L234180010	LCDFF3203
フランス語圏言語文化基礎演習Ⅱ	前火2	原野	2	2	可		L234190010	LCDFF3204
フランス語圏言語文化演習Ⅰ	前木2	福島	3・4	2	可		L234200010	LCDFF3301
フランス語圏言語文化演習Ⅱ	前水3	原野	3・4	2	可		L234210010	LCDFF3302
フランス語圏言語文化演習Ⅲ	後火3	白田	3・4	2	可		L234220010	LCDFF3303
フランス語圏言語文化特別演習	前木3	福島	3	2	可		L234230010	LCDFF3304
フランス語コミュニケーションⅠ	前金2	[ムナン]	3・4	2	可		L234240010	LCDFF3305
フランス語コミュニケーションⅡ	後金2	[ムナン]	3・4	2	可		L234250010	LCDFF3306
エチュード・フランコフォーヌ	後水2	(岩本（和）)	2～4	2	可	大学院共通	L234260010	LCDFF3205
ヨーロッパ言語文化特講	後火2	信國	2～4	2	可		L234270010	LCDFX3203
インターカルチュラルスタディーズ		【休】	2～4	2	可		L234280010	LCDFX3204
言語学基礎論	前月3	山崎（雅）	☆ 1～4	2			L235010010	LCLNG2101
言語応用論	前木3	小倉	☆ 2・3	2			L235020010	LCLNG3201
言語比較論		【休】	☆ 2・3	2			L235030010	LCLNG3202
言語教育論	前水4	辻（香）	☆ 2・3	2			L235040010	LCLNG3203
言語情報論	後火4	田中(一)	☆ 2・3	2			L235050010	LCLNG3204
言語応用論演習	後木2	小倉	☆ 2・3	2			L235060010	LCLNG3205
言語比較論演習	後月3	山崎（雅）	☆ 2・3	2			L235070010	LCLNG3206
言語教育論演習	後火2	辻（香）	☆ 2・3	2			L235080010	LCLNG3207
言語情報論演習		【休】	☆ 2・3	2			L235090010	LCLNG3208
言語応用特論	前火4	田中(一)	☆ 3	2			L235100010	LCLNG3301
言語比較特論	後木3	山崎（雅）	☆ 3	2			L235110010	LCLNG3302
言語教育特論	前木2	田中(一)	☆ 2・3	2			L235120010	LCLNG3209
言語応用特講		【休】	☆ 2・3	2			L235130010	LCLNG3210
言語比較特講		【休】	☆ 2・3	2			L235140010	LCLNG3211
言語教育特講		【休】	☆ 2・3	2			L235150010	LCLNG3212
文化理論 (文化理論)	後火2	高島	☆ 2・3	2			L241010010	LCART3201
表現文化論 (テクスト文化論)	後木2	野末	☆ 2・3	2			L241050010	LCART3202
表象文化論 (表象文化論)	前月2	海老根	☆ 2～4	2			L241020010	LCART3203
比較表現論 (比較表現論)	前木3	高島	☆ 2～4	2			L241040010	LCART3204
文化理論基礎演習a (文化構想学基礎演習Ⅰ・Ⅱ)	前水3	堀	☆ 2	2		文化構想学基礎演習 Ⅰ・Ⅱの重複履修不可	L240030010	LCART3205
文化理論基礎演習b (文化構想学基礎演習Ⅰ・Ⅱ)	前火3	小田中	☆ 2	2		文化構想学基礎演習 Ⅰ・Ⅱの重複履修不可	L240030020	LCART3205
文化理論基礎演習a (文化構想学基礎演習Ⅰ・Ⅱ)	後火4	高島	☆ 2	2		文化構想学基礎演習 Ⅰ・Ⅱの重複履修不可	L240040010	LCART3205
文化理論基礎演習b (文化構想学基礎演習Ⅰ・Ⅱ)	後木3	多和田	☆ 2	2		文化構想学基礎演習 Ⅰ・Ⅱの重複履修不可	L240040020	LCART3205
表現・表象文化論基礎演習 (表現文化論基礎演習)	前月3	海老根･[江村]	☆ 2	2			L241060010	LCART3206
表現・表象文化論演習Ⅰ (表象文化論演習)	後月3	海老根	☆ 2・3	2			L241070010	LCART3207
表現・表象文化論演習Ⅱ (表現文化論特殊演習I)	後火4	増田・海老根	☆ 2・3	2	可		L241110010	LCART3208
表現・表象文化論演習Ⅲ (ポピュラー文化論演習)	後火3	増田	☆ 3・4	2			L241080010	LCART3301
表現・表象文化論演習Ⅳ (テクスト文化論演習)	前火4	野末	☆ 3・4	2			L241100010	LCART3302

比較表現論演習 (比較表現論演習)	前木2	高島	☆ 3・4	2			L241090010	LCART3303
文化理論特別演習 (文化理論演習)	前水4	増田	☆ 3	2			L241130010	LCART3304
表現文化論特論 (ポピュラー文化論)	前火3	増田	☆ 3・4	2			L241030010	LCART3305
表象文化論特論 (表象文化特論)	前集中	(山中)	☆ 3・4	2		大学院共通	L241150010	LCART3306
比較表現論特論 (表現文化特論)	後集中	(木村 (覚))	☆ 1～4	2		大学院共通	L241140010	LCART2101
表現文化講読Ⅰ (表現文化論特殊演習Ⅱ)	後月4	[江村]	☆ 2～4	2			L241120010	LCART3209
表現文化講読Ⅱ		【休】	☆ 2～4	2			L236170010	LCART3210
表現文化講読Ⅲ	後水3	増田	☆ 2～4	2			L236180010	LCART3211

■文化構想学科　　標準履修年次欄　「☆」～2018年度入学生　履修可能　「★」2019～入学生　履修可能。

科目名 (読替科目)	開講期・ 曜日・時限	教員名	標準履修 年次	単位数	他学部 履修	備考	授業コード	科目ナンバー
文化理論	後火2	高島	★ 2・3	2			L241010010	LEART3201
表象文化論	前月2	海老根	★ 2・3	2			L241020010	LEART3202
ポピュラー文化論	前火3	増田	★ 2・3	2			L241030010	LEART3203
比較表現論	前木3	高島	★ 2・3	2			L241040010	LEART3204
テクスト文化論	後木2	野末	★ 2・3	2			L241050010	LEART3205
表現文化論基礎演習	前月3	海老根･[江村]	★ 2	2			L241060010	LEART3206
表象文化論演習	後月3	海老根	★ 2～4	2			L241070010	LEART3207
ポピュラー文化論演習	後火3	増田	★ 2～4	2			L241080010	LEART3208
比較表現論演習	前木2	高島	★ 2～4	2			L241090010	LEART3209
テクスト文化論演習	前火4	野末	★ 2～4	2			L241100010	LEART3210
表現文化論特殊演習Ⅰ	後火4	増田・海老根	★ 3・4	2			L241110010	LEART3301
表現文化論特殊演習Ⅱ	後月4	[江村]	★ 3・4	2			L241120010	LEART3302
文化理論演習	前水4	増田	★ 3	2			L241130010	LEART3303
表現文化特論	後集中	(木村 (覚))	★ 3・4	2		大学院共通	L241140010	LEART3211
表象文化特論	前集中	(山中)	★ 3・4	2		大学院共通	L241150010	LEART3212
アジア文化学基礎論	前火2	多和田	★ 2	2			L242010010	LEASA3201
アジア地域文化概論	前金2	松浦	★ 2	2			L242020010	LEASA3202
アジア伝統文化概論	後火1	宋	★ 3	2			L242030010	LEASA3301
アジア共生文化概論	後火2	多和田	★ 2	2			L242040010	LEASA3203
アジア比較文化概論	後水3	(坂)	★ 2	2			L242050010	LEASA3204
アジア地域文化論	後木2	松浦	★ 2～4	2			L242060010	LEASA3205
アジア伝統文化論	前火1	宋	★ 3・4	2			L242070010	LEASA3302
アジア共生文化論	前木3	多和田	★ 2～4	2			L242080010	LEASA3206
アジア比較文化論	前月4	堀	★ 2～4	2			L242090010	LEASA3207
アジア地域文化論演習	前水2	松浦	★ 3・4	2			L242100010	LEASA3303
アジア伝統文化論演習	後火4	宋	★ 3・4	2			L242110010	LEASA3304
アジア共生文化論演習	後木4	多和田	★ 3・4	2			L242120010	LEASA3305
アジア比較文化論演習	後月4	堀	★ 3・4	2			L242130010	LEASA3306
文化人類学	後火3	多和田	★ 2～4	2			L242140010	LEASA3208
アジア文化特論Ⅰ	前水4	(シュラトフ)	★ 3・4	2		大学院共通	L242150010	LEASA3307
アジア文化特論Ⅱ	後金3	(王)	★ 3・4	2		大学院共通	L242160010	LEASA3308
文化資源基礎論	前木3	菅原	★ 2	2	可		L243010010	LECRS3201
観光文化論	前木3	天野	★ 2	2	可		L243020010	LECRS3205
文化デザイン論	後水3	沼田	★ 2	2	可		L243030010	LECRS3203
視覚芸術文化論	後木3	菅原	★ 2	2			L243040010	LECRS3204
舞台芸術文化論	後火3	小田中	★ 2	2			L243050010	LECRS3205
視覚文化資源論演習	前月3	菅原	★ 2～4	2			L243060010	LECRS3206
地域文化資源論演習	前水5	天野	★ 2～4	2			L243070010	LECRS3207
音楽文化資源論演習	前水4	沼田	★ 3・4	2			L243080010	LECRS3301
舞台文化資源論演習	前水3	小田中	★ 3・4	2			L243090010	LECRS3302
視覚文化資源論実習	後月3	菅原	★ 2～4	2	可		L243100010	LECRS3208
地域文化資源論実習	後水3	天野	★ 2～4	2			L243110010	LECRS3209
音楽文化資源論実習	後水4	沼田	★ 3・4	2			L243120010	LECRS3303
舞台文化資源論実習	後水3	小田中	★ 3・4	2			L243130010	LECRS3304
文化資源特論Ⅰ	前水2	天野	★ 2～4	2	可		L243140010	LECRS3210
文化資源特論Ⅱ	前金3	(木川)	★ 2～4	2	可	大学院共通	L243150010	LECRS3211
文化資源特論Ⅲ	後月2	(福田 (一))	★ 3・4	2	可	大学院共通	L243160010	LECRS3305
文化資源論特別演習	後水2	天野	★ 2～4	2	可		L243170010	LECRS3212

◆文学部共通専門教育科目　　標準履修年次欄　「☆」～2018年度入学生　履修可能　「★」2019～入学生　履修可能。

科目名 (読替科目)	開講期・ 曜日・時限	教員名	標準履修 年次	単位数	他学部 履修	備考	授業コード	科目ナンバー
美術史通論	後金4	(宇埜)	2～4	2	可		L200110010	LXGEN3201
民俗学	前火2	(岡本（真）)	2～4	2	可		L200120010	LXGEN3202
文化人類学概論Ⅰ (文化人類学)	後火3	多和田	☆ 2～4	2	可		L242140010	LXGEN3203
文化人類学概論Ⅱ (アジア文化学基礎論)	前火2	多和田	☆ 2～4	2	可		L242010010	LXGEN3204
観光文化論 （観光文化論）	前木3	天野	☆ 2～4	2	可		L243020010	LXGEN3205
観光文化実践演習	後木3	天野	☆ 2～4	2			L200400010	LXGEN3206
広報情報論Ⅰ		【休】	2～4	2	可		L200150010	LXGEN3207
広報情報論Ⅱ	前水4	(中嶋)	2～4	2	可		L200160010	LXGEN3208
マス・コミュニケーション論Ⅰ	前水2	(湯谷)	2～4	2	可		L200170010	LXGEN3209
マス・コミュニケーション論Ⅱ		【休】	2～4	2	可		L200180010	LXGEN3210
中国古典語Ⅰ	前金4	(垣内)	2・3	2	可		L200190010	LXGEN3211
中国古典語Ⅱ	後金4	(垣内)	2・3	2	可		L200200010	LXGEN3212
ギリシア語Ⅰ		【休】	1～4	2	可		L200210010	LXGEN2101
ギリシア語Ⅱ		【休】	1～4	2	可		L200220010	LXGEN2102
ラテン語Ⅰ	前木3	(佐藤（義）)	1～4	2	可		L200230010	LXGEN2103
ラテン語Ⅱ	後木3	(佐藤（義）)	1～4	2	可		L200240010	LXGEN2104
西洋古典学	前集中	(堀川)	1～4	2	可		L200250010	LXGEN2105
比較文化交流論Ⅰ	前集中	(コルナトウスキ)	2～4	2		大学院共通	L200280010	LXGEN3215
比較文化交流論Ⅱ		【休】	2～4	2			L200290010	LXGEN3216
国際都市文化論Ⅰ		【休】	2～4	2			L200300010	LXGEN3217
国際都市文化論Ⅱ		【休】	2～4	2			L200310010	LXGEN3218
国際都市社会論Ⅰ		【休】	2～4	2			L200320010	LXGEN3219
国際都市社会論Ⅱ		【休】	2～4	2			L200330010	LXGEN3220
上方文化講座	前集中	久堀	1～4	2	可		L200340010	LXGEN2106
文学部基礎演習a, b, c, d, e	前火2・ 水4・木3 ・月3・木 4	沼田・ (石川)・(渡辺) ・(佐伯)・(大山)	1	2			L200370010～ L200370050	LXGEN1101
文学部実践演習		【休】	3	2			L200380010	LXGEN3301
日本文化発信のための英語	後木2	(奥西)	2～4	2			L201040010	LXGEN3223
大阪の地域・文化実践演習	前木4	菅原	2～4	2			L201070010	LXGEN3224
自然地理学概論	後火1	(小倉)	2～4	2	可		L224130010	LXGEN3225
外国大学科目Ⅰ	－	－	1～4	2			L201080010	LXGEN2107
外国大学科目Ⅱ	－	－	1～4	2			L201090010	LXGEN2108
外国大学科目Ⅲ	－	－	1～4	2			L201100010	LXGEN2109
外国大学科目Ⅳ	－	－	1～4	2			L201110010	LXGEN2110

◆教職に関する科目　　標準履修年次欄　「☆」～2018年度入学生　履修可能　「★」2019～入学生　履修可能。

科目名 (読替科目)	開講期・ 曜日・時限	教員名	標準履修 年次	単位数	他学部 履修	備考	授業コード	科目ナンバー
教職概論a, b, c	後月2･4･ 5	(森)	1～4	2	可		L200510010・ 20・30	KLPED1101
教育基礎論a, b	前金1/後金2	(津田)	2～4	2	可		L200520010・20	KLPED2201
教育基礎論 c	前金2	(森岡)	2～4	2	可		L200520030	KLPED2201
発達・学習論a, b, c	前金3･4/ 後金4	(上宮)	2～4	2	可		L200530010 ・20・30	KLPED2202
教育制度論a	前月4	(井上（真）)	2～4	2	可		L200540010	KLPED2203
教育制度論b	前月3	(井上（真）)	2～4	2	可		L200540020	KLPED2203
教育制度論c	後集中	(三羽)	2～4	2	可		L200540030	KLPED2203
国語科教育法Ⅰ	前金3	(木村（雅）)	2～4	2	可		L200580010	KLJPN2201
国語科教育法Ⅱ	後金4	(木村（雅）)	2～4	2	可		L200590010	KLJPN2202
国語科教育法Ⅲ	前金4	(木村（雅）)	2～4	2	可		L200600010	KLJPN2203
国語科教育法Ⅳ	後金3	(木村（雅）)	2～4	2	可		L200610010	KLJPN2204
社会科・地理歴史科教育法Ⅰa	前金5	(中)	2～4	2	可		L200620010	KLSGH2201
社会科・地理歴史科教育法Ⅰb		【休】	2～4	2	可		L200620020	KLSGH2201
社会科・地理歴史科教育法Ⅱa	後金5	(中)	2～4	2	可		L200630010	KLSGH2202
社会科・地理歴史科教育法Ⅱb		【休】	2～4	2	可		L200630020	KLSGH2202
社会科・公民科教育法Ⅰa	前木3	(岩本（賢）)	2～4	2	可		L200640010	KLSCV2201
社会科・公民科教育法Ⅰb	前木4	(岩本（賢）)	2～4	2	可		L200640020	KLSCV2201

社会科・公民科教育法Ⅱa	後木3	(岩本（賢）)	2～4	2	可		L200650010	KLSCV2202
社会科・公民科教育法Ⅱb	後木4	(岩本（賢）)	2～4	2	可		L200650020	KLSCV2202
外国語科教育法(英語) Ⅰ	前金3	(石野)	2～4	2	可		L200660010	KLENG2201
外国語科教育法(英語) Ⅱ	前火1	(溝畑)	2～4	2	可		L200670010	KLENG2202
外国語科教育法(英語)Ⅲ	後火1	(溝畑)	2～4	2	可		L200680010	KLENG2203
外国語科教育法(英語)Ⅳ	後金3	(石野)	2～4	2	可		L200690010	KLENG2204
外国語科教育法(独語) Ⅰ	前水4	(神竹)	2～4	2	可		L200700010	KLGER2201
外国語科教育法(独語) Ⅱ	後水4	(神竹)	2～4	2	可		L200710010	KLGER2202
外国語科教育法(独語)Ⅲ		【休】	2～4	2	可		L200720010	KLGER2203
外国語科教育法(独語)Ⅳ	後金3	(神竹)	2～4	2	可		L200730010	KLGER2204
外国語科教育法(仏語) Ⅰ	前月2	福島	2～4	2	可		L200740010	KLFRN2201
外国語科教育法 (仏語) Ⅱ	後木3	福島	2～4	2	可		L200750010	KLFRN2202
外国語科教育法(仏語)Ⅲ		【休】	2～4	2	可		L200760010	KLFRN2203
外国語科教育法(仏語)Ⅳ	後木2	(大山)	2～4	2	可		L200770010	KLFRN2204
外国語科教育法(中国語) Ⅰ	前月2	(岩本（眞）)	2～4	2	可		L200780010	KLCHN2201
外国語科教育法(中国語) Ⅱ	後月3	(岩本（眞）)	2～4	2	可		L200790010	KLCHN2202
外国語科教育法(中国語)Ⅲ		【休】	2～4	2	可		L200800010	KLCHN2203
外国語科教育法(中国語)Ⅳ	前月3	(岩本（眞）)	2～4	2	可		L200810010	KLCHN2204
教育方法論a	後水3	(古田)	2～4	2	可		L200570010	KLPED2204
教育方法論b	前集中	(坂本)	2～4	2	可		L200570020	KLPED2204
教育方法論 c	前火3	(寺嶋)	2～4	2	可		L200570030	KLPED2204
教育課程論a	前月2	島田	2～4	2	可		L200550010	KLPED2205
教育課程論b	後木2	(木原（俊）)	2～4	2	可		L200550020	KLPED2205
教育課程論 c	前集中	(廣瀬)	2～4	2	可		L200550030	KLPED2205
特別活動論a, b	前火2/後火2	[小原]	2～4	2	可		L200560010・20	KLPED2206
特別活動論 c	前火3	添田	2～4	2	可		L200560030	KLPED2206
道徳指導論a, b	後金4･5	(丸田)	2～4	2	可		L200821010・20	KLPED2207
教育相談論a, b	前月5/後月5	(齊藤)･[弘田]	2～4	2	可		L200840010・20	KLPED2208
生徒・進路指導論a, b (生徒・進路指導と人権a, b)	前木5/後木5	(新井)	2～4	2	可		L200831010・20	KLPED2209
特別支援教育論a	後金3	(羽山)	★ 2～4	2	可		L201120010	KLPED2210
特別支援教育論b	前木1	(田中（裕）)	★ 2～4	2	可		L201120020	KLPED2210
特別支援教育論c	後水2	(古井)	★ 2～4	2	可		L201120030	KLPED2210
総合的な探究の指導論a	前木3	(香田)	★ 2～4	2	可		L201130010	KLPED2211
総合的な探究の指導論b, c	後水2/前金3	[鈴木（伸）]	★ 2～4	2	可		L201130020・30	KLPED2211
教職実践演習(中・高)	後集中	島田･辻野･添田･[小原]･ [鈴木（伸）]･[玉城]	4	2	可		L200880010	KKSEM4401
教育実習Ａ（２単位） （高等学校教育実習）	通年集中	島田･辻野	4	2	可		L200860010	KKPRA4402
教育実習Ｂ（４単位） （中学校教育実習）	通年集中	島田･辻野	4	4	可		L200850010	KKPRA4401
教育実習事前事後指導(中・高)	通年集中	島田･辻野	4	1	可		L200871010	KKLEC4401
書道 (書道Ａ)	後金2	(南條)	2～4	2	可		L200940010	KLJPN2205
教職ボランティア実習Ⅰ		【休】	1～4	2	可		L200900010	KLPRA1101
教職ボランティア実習Ⅱ		【休】	1～4	2	可		L200910010	KLPRA1102
教職ボランティア実習Ⅲ		【休】	1～4	2	可		L200920010	KLPRA1103
教職ボランティア実習Ⅳ	通年集中	添田･[玉城]	1～4	2	可		L200930010	KLPRA1104
教職ボランティア実習Ⅴ	前集中	添田･[玉城]	1～4	2	可		L201050010	KLPRA1105
教職ボランティア実習Ⅵ	後集中	添田･[玉城]	1～4	2	可		L201060010	KLPRA1106

◆博物館に関する科目

科目名	開講期・ 曜日・時限	教員名	標準履修 年次	単位数	他学部 履修	備考	授業コード	科目ナンバー
生涯学習概論	後金5	(赤尾)	1・2	2	可		L200410010	MULEC1101
博物館概論	前木5	岸本	1・2	2	可		L200420010	MULEC1102
博物館経営論	後火4	(小野)	2・3	2	可		L200960010	MULEC1103
博物館資料論	前火4	(伊藤（純）)	2・3	2	可		L200970010	MULEC1104
博物館資料保存論	前金4	(松本（百）)	2・3	2	可		L201010010	MULEC1105
博物館展示論	後金4	(佐久間)	2・3	2	可		L201020010	MULEC1106
博物館教育論	前水1	(井上（敏）)	2・3	2	可		L201030010	MULEC1107
博物館情報・メディア論	前金2	(吉田（健）)	2・3	2	可		L200980010	MULEC1108
博物館実習Ⅰ	通年水5	岸本	3・4	2	可		L200990010	MUPRA3301
博物館実習Ⅱ	通年集中	岸本	3・4	1	可		L201000010	MUPRA3302

授業科目名	科目NO.	LAGEN1101	授業コード	L210010010	
人間文化基礎論Ⅰ a Introduction to Philosophy and History (Seminar) Ⅰ			単位数	2 単位	
授業形態 演習	担当教員名 佐金 武				

●科目の主題

主として哲学コースを志望する学生のために提供する、1回生向け演習科目。

哲学に必要とされる基礎的なリテラシーを実践的に習得する。

●到達目標

様々なテーマを扱いながら、哲学的に問題を考察する力を養う。

自分の考えを発表によって他者に伝える技術、文書にまとめる能力、ディスカッションを通じて思考を深める方法など、大学生として研究を進めるうえで基本となるリテラシーの習得を目指す。

●授業内容・授業計画

今年度は、ティム・クレイン（著）、 植原亮 （訳）、『心の哲学』を読む。事前にテキストを入手すること。

第1回 ガイダンス
第2回 第1章「心」（1～4）に関する発表（デモンストレーション）とディスカッション
第3回 第1章「心」（5～8）に関する発表とディスカッション
第4回 第2章「身体」（9～12）に関する発表とディスカッション
第5回 第2章「身体」（13～16）に関する発表とディスカッション
第6回 第2章「身体」（17～20）に関する発表とディスカッション
第7回 第3章「意識」（21～23）に関する発表とディスカッション
第8回 第3章「意識」（24～27）に関する発表とディスカッション
第9回 第3章「意識」（28～30）に関する発表とディスカッション
第10回 第4章「思考」（31～33）に関する発表とディスカッション
第11回 第4章「思考」（34～36）に関する発表とディスカッション
第12回 第4章「思考」（37～39）に関する発表とディスカッション
第13回 第5章「知覚」（40～42）に関する発表とディスカッション
第14回 第5章「知覚」（43～45）に関する発表とディスカッション
第15回 グループ研究発表

●事前・事後学習の内容

章ごとに3～5名の発表担当者を割り当てる。担当者は発表当日までにレジュメもしくはスライドを用意すること。

担当者による発表後、ディスカッションやグループワークを行う。受講者は全員、事前にテキストの内容をよく検討しておくこと。

なお、受講者の人数に応じて、上記の課題は個人作業（研究ノートの作成・提出）におきかえる可能性もある。

研究発表では、テーマに関連する独自の課題設定のもと、数名のグループでプレゼンテーションと質疑応答を行う。

資料配布等はWebClassまたはウェブページを通じて行う。

●評価方法

成績評価は次のように行う。

課題60点＋授業パフォーマンス10点＋研究発表30点＝100点満点

ただし、2/3以上の出席と課題提出がない場合は評価の対象とはしない。

●受講生へのコメント

特に哲学コース志望者の受講を期待するが、他コースに進む学生の受講も歓迎する。

●参考文献・教材

テキストは、ティム・クレイン（著）、 植原亮 （訳）、『心の哲学』、勁草書房、2010年を使用する。

授業科目名	科目NO.	LAGEN1101	授業コード	L210010020	
人間文化基礎論Ⅰ b Introduction to Philosophy and History (Seminar) Ⅰ				単位数	2 単位
授業形態 演習	担当教員名 磐下 徹				

●科目の主題

「日本史(古代史)の研究に触れる」

大学で学ぶ「日本史」は、高校までとは異なり暗記科目ではない。

史料の読解・分析を基礎に自分で論を組み立てていくことが求められる。

本講義では、古代史(飛鳥・奈良・平安時代)を中心とした日本史研究の成果に触れ、大学で学ぶ「日本史」のイメージをつかんでもらいたい。

●到達目標

大学における日本史(古代史)研究の概要を理解する。

課題図書の内容を理解して適切に要約する力を身につける。

学術的な内容にもとづく討論ができるようにする。

●授業内容・授業計画

第1回　授業の進め方の説明

第2回　　課題図書の紹介

第3回　坂本太郎「『六国史』より「資料」」(文献①)の発表と討論

第4回　井上光貞「邪馬台国問題の二、三の論点」(文献①)の発表と討論

第5回　青木和夫「『律令』雑記」(文献①)の発表と討論

第6回　石母田正「天皇と「諸蕃」」(前半)(文献①)の発表と討論

第7回　石母田正「天皇と「諸蕃」」(後半)(文献①)の発表と討論

第8回　津田左右吉「神代史の述作及び作られた年代」(前半)(文献①)の発表と討論

第9回　津田左右吉「神代史の述作及び作られた年代」(後半)(文献①)の発表と討論

第10回　文献②「近代日本のアジア認識」(前半)の発表と討論

第11回　文献②「近代日本のアジア認識」(後半)の発表と討論

第12回　文献②「コロニアリズムと近代歴史学」の発表と討論

第13回　文献②「出土史料は境界を越えることができるのか」の発表と討論

第14回　まとめ

文献①:上野誠編『日本の古代を読む』(文春学藝ライブラリー、2016年)

文献②:李成市『闘争の場としての古代史』(岩波書店、2018年)

＊上記はあくまで目安。受講者の状況や学修効果を考慮し、授業内容・計画を変更することがある。

前半では、学説史上よく知られた古代史研究者の文章をとりあげて精読していく。

後半では、前半で見たような古代史研究を史学史的に位置づけた文章をとりあげて精読していく。

それぞれ2～4人1組で、文章の内容をまとめたレジュメを用意して発表してもらう。

他の参加者も事前に該当する文章を読んでおき、報告者の発表後、参加者全員で討論を行い理解を深めていく。

●事前・事後学習の内容

事前に指示・配布する文章を精読し、気づいた点や疑問点などを「読書メモ」にまとめてくる。

講義の際には、報告者の発表後の討論において、「読書メモ」をもとにしながら質疑応答に積極的に参加すること。

事後は、報告・討論を踏まえた上で、自分なりに当該文章の意義を再確認する。

必要に応じて、取り上げた論文全体や関連するほかの論文・文献を読んでみる。

●評価方法

平常点（発表内容60％、出席状況30%、受講態度10%）

●受講生へのコメント

発表するときだけではなく、毎回必ず予習（「読書メモ」の作成）をして授業に臨むこと。

主体的な授業参加を期待します。

なお、初回に発表順などを決めるので、必ず出席すること（初回に欠席した場合は、原則として受講を認めない）。

●参考文献・教材

上野誠編『日本の古代を読む』（文春学藝ライブラリー、2016年）

李成市『闘争の場としての古代史』（岩波書店、2018年）

その他、必要に応じてプリント等を配布

授業科目名	科目NO.	LAGEN1102	授業コード	L210020010	
人間文化基礎論Ⅱ a Introduction to Philosophy and History (Seminar) Ⅱ			単位数	2 単位	
授業形態 講義	担当教員名 土屋　貴志				

●科目の主題

学問を研究するために必要な基本的姿勢と諸方法を学ぶ。

●到達目標

大学におけるレポートや卒業論文を書く際に必要な、学術的文章の書き方、論理的思考、資料を収集する方法、資料の分析方法、論述の構成の仕方、発表の仕方などを身につける。

●授業内容・授業計画

この授業は対面により実施する。ただし、教材・資料・課題等の伝達および提出はすべてWebClass上で行う。
前半に学術的文章の書き方を学び、後半にはディベート試合を通して、資料収集の方法、資料の分析、論点の整理と検討、および発表の仕方を学んだ後、成果を最終レポートに集大成する。
具体的には以下の内容を予定しているが、必要に応じて変更する可能性もある。

1. オリエンテーション・小論文(400字程度)執筆
2. 科目に関連する学情ツアー
3. 学術的文章の書き方
4. 小論文例の検討①
5. 小論文例の検討②
6. 小論文例の検討③
7. 中間レポート(2000字程度)執筆
8. ディベートの行い方
9. 文献資料の探し方
10. 引用の記し方
11. ディベート試合①
12. ディベート試合②
13. ディベート試合③
14. ディベート試合④
15. 最終レポート(4000字程度)・自己評価レポート執筆

●事前・事後学習の内容

小論文執筆・小論文例の添削・資料読解・レポート執筆・文献検索・文献読解・チームでのディベート準備など、毎回のように事前提出課題ないし宿題がある。
また、授業後は担当者による添削や授業の内容をよく確認し、最終レポートに向けて準備をすること。

●評価方法

学期末の試験やレポートは行わない。
担当教員は、課題に対する提出物の内容に基づき評点原案を作成する。
受講者は、本科目に関する自らの学習活動を自己採点し、その根拠を記した「自己評価レポート」を学期末に提出する。
担当教員は、原則として、評点原案と、自己評価レポートにおける自己採点を、平均して最終評点とする。ただし、自己評価レポートが作成要領に従っていない場合は評点原案から減点し最終評点とする。

●受講生へのコメント

・開講後1か月以内に、学籍番号・氏名(ふりがな)・自己紹介を記入し、顔写真を貼り込んだ「受講カード」を提出すること。
・履修登録していても、受講カードと自己評価レポートのいずれか一方でも提出しない場合は履修放棄とみなす。

・授業は受講生諸君の主体的な作業を中心に進められる。事前・事後の課題が多いので、十分に覚悟して履修すること。

●参考文献・教材

P. シンガー『実践の倫理』(昭和堂)、G. ペンス『医療倫理』(みすず書房)ほか、授業時間中に配布ないし紹介する。

授業科目名	科目NO.	LAGEN1102	授業コード	L210020020	
人間文化基礎論Ⅱ b Introduction to Philosophy and History (Seminar) Ⅱ				単位数	2 単位
授業形態 演習	担当教員名 向井　伸哉				

●科目の主題

現代日本を理解・展望する上で重要なトピックをとりあげ、「自分」が生きている「いま、ここ」にある社会の事例とは異なる、「他者」が生きた「かつて、あそこ」にあった社会の事例を知ることで、既存の認識に揺さぶりをかけ、さらに様々な社会の事例の比較を通じて共通点と差異を把握し、人間社会に対する批判的思考力と普遍的なリテラシーを養う。

本年度は、「民主主義（住民自治）」をとりあげ、現代日本を視野に入れつつ、西洋中世都市（ドイツ・イタリア・フランス）における住民自治の実態を学び、比較検討する。

●到達目標

学生が、「民主主義（住民自治）」の問題について、時間・空間の隔たった様々な社会の事例を知り、比較検討を通じて共通性と差異を把握できるようになる。

歴史学を通じて、物事の相対化と比較の作法を身につける。

●授業内容・授業計画

1. 授業の進め方についての説明
2. 日本人と西洋中世都市（増田四郎、宮下孝吉、鯖田豊之）
3. 西洋都市の固有性（M・ウェーバー）
4. 中世都市の民主主義（H・ピレンヌ）
5. 中世都市の民主主義（N・オットカール）
6. 中世都市の民主主義（H・プラーニッツ）
7. 中世都市の民主主義（Ch・プティ＝デュタイイ）
8. 中世都市における民主主義の再評価
9. 中世ドイツ都市（1）
10. 中世ドイツ都市（2）
11. 中世イタリア都市（1）
12. 中世イタリア都市（2）
13. 中世フランス都市（1）
14. 中世フランス都市（2）
15. まとめ

●事前・事後学習の内容

授業で配布したレジュメの内容を復習する。

●評価方法

毎回授業後のコメントペーパー（50％）

期末試験（50％）

●受講生へのコメント

西洋史の基礎知識がなくとも理解可能な授業を目指します。各人で、レジュメの復習を徹底してください。

●参考文献・教材

毎回、レジュメを配布します。

授業科目名	科目NO.	LAGEN1103	授業コード	L210030010	
人間文化概論Ⅰ Introduction to Philosophy and History (Lecture) Ⅰ			単位数	2 単位	
授業形態 講義	担当教員名 仲原 孝				

●科目の主題

哲学の基本的な問題の立て方や考え方を学ぶ。

●到達目標

受講者各自がさまざまな問題を哲学的に考える態度を身につけることを目標とする。

●授業内容・授業計画

今年は、以後のすべての哲学の礎石を築いたと言ってよいソクラテスの思想を取り上げる。彼の言う「無知の知」とは何を意味するか、彼はなぜ裁判でみずから死を招くような言動をとったのか、といったことを掘り下げて考えることを通じて、哲学的な考え方を修得することをめざす。

授業は原則として対面授業で行なう。ただし、感染拡大などのゆえにやむなく遠隔授業に切り替えることもありうるので、大学からの通知に常に注意しておくこと。感染が判明したなどの理由で対面授業に出席できなくなった受講生は、すみやかにサポートセンターへ届け出て必要な指示を受けること。

授業計画は以下の通り。

第1回　イントロダクション
第2回　「ソクラテス問題」について
第3回　ソクラテスの自殺行為
第4回　ソフィストとソクラテス
第5回　「徳」の教師ソフィスト
第6回　ソクラテス告訴の真の原因
第7回　「無知の知」とは何か
第8回　「哲学」の理念
第9回　ソクラテスと神（ダイモニオン）
第10回　哲学における神の必要性
第11回　ソクラテスと死の問題
第12回　「死の練習」としての哲学
第13回　ソクラテスと国家の問題
第14回　哲学の超国家的性格
第15回　総括。哲学とは何か

●事前・事後学習の内容

必要に応じて資料を配布し、参考文献を指示するので、次回授業までにそれを熟読し、わかったことや疑問点をノートにまとめておくこと。随時それをレポートの形で提出することを求める。

●評価方法

小論文形式のレポートを課す。論ずるべき課題を通知する時に、同時に、枚数、テーマ、論じ方など、論述が満たすべき条件を何項目かにわたって指定する。それらがすべて満たされていることが単位認定の必須の条件となる。

●受講生へのコメント

授業中の私語は厳重に禁止する。レポートでは、講義で提示された問題に対して各自が主体的に答を模索することが求められる。ノートや参考書をまとめただけのレポートには単位を認定しないので注意。

●参考文献・教材

テキストは用いない。必要な資料は印刷して授業中に配布する。

授業科目名	科目NO.	LAGEN1104	授業コード	L210040010	
人間文化概論Ⅱ Introduction to Philosophy and History (Lecture) Ⅱ			単位数	2 単位	
授業形態 講義／演習／実習	担当教員名 草生　久嗣／渡辺　健哉／齊藤　紘子				

●科目の主題

「大学で学ぶ歴史学を体験する」

世界史学と日本史学の歴史学教室教員が連携し、初年次生向けに専門歴史研究の醍醐味を体験する授業です。

歴史は座して読み・学ぶだけのものではありません。研究の最前線にいる歴史研究者は、現在の情報（ニュース）を読み解き、自ら歴史の現場に赴き、可能な技術のすべてを使って、新しい見方、発見、気づきを求めています。またそのためには、隠されがちな事実の見つけ方、人々が知るべき情報の探し方、生活の風景を読み解く「街歩き」の仕方など、過去との向き合い方について研鑽を怠りません。この授業はそうした歴史学者（教員だけでなく、大学院生や学部上回生も含みます）の研究の現場を紹介していきます。

●到達目標

それぞれの専門分野に則た特色ある調査法、研究法、巡検の作法を知り、歴史研究には多様な経験と知見を持ち寄る必要があることを、実際の研究活動を通じて体験する。過去の記録や歴史書の読解入門や、情報収集演習・フィールドワークによる調査実践を織り込みつつ、大学において歴史を学び、人間文化についての深い知見を得ることの方法と意義を理解する。

●授業内容・授業計画

※担当する教材や、実習参加者の都合、専門講師の日程調整のため、各回について、内容に変更や順序が入れ替わることがあります。

初回のガイダンスおよびそれに続く授業の中での説明に注意してください。

第1回　4/14　渡辺・齊藤　ガイダンス

第2回　4/21　草生　西洋史紹介

「謎の墓碑彫刻―中世ボスニアのステッチ（墓碑）の正体」

1. これは何か？誰が何のために？

2. 謎文様へのアカデミックな向き合い方

3. 学問分野という色眼鏡

第3回　4/28　齊藤　日本史紹介

「地域に残る古文書―近世の「村」と現在」

1. 合同調査での経験：地域に残る近世～近代の史料の豊富さ・おもしろさ

2. 古文書調査の様子や近世の村の姿を簡単に紹介（絵図・簡単な史料など）

3. 地域社会における古文書保存の難しさ（京都での調査経験も含めて）

第4回　5/12　草生　研究者紹介

・歴史研究者のエゴ・ヒストリー

第5回　5/19　草生　史料紹介

「ある異端断罪の風景から―12世紀ビザンツ史書『アレクシアス』第15巻8章～10章から見る中世信仰社会」

・記録から何をどこまで読み込めるか、読み込んでよいかを探る。

第6回　5/26　草生　史料を手に取ってみる

「異端断罪の記録と「異端の源流」論」

・記録から読み込めたことを、同時代の様々な文脈にあてはめてみる。

第7回　6/2　齊藤　大学周辺巡見の準備

1. 杉本町周辺の近世の様子：村と集落の姿（絵図や村高・戸口・寺社などを示す基本史料をつかって、村の大きさや集落の特徴、現在との相違などを考える）

2. 大和川の付け替えによる変化（大和川の流路／既存の農業用水との関係／地域の反応）

3. 村での生活を伝える史料の紹介(杉本村文書などからの紹介を想定)
4. 絵図の見方と巡見ルートの説明
第8回　6/9　齊藤　大学周辺巡見―杉本に残る「村」の姿
1. 杉本村集落etc.
2. 学情に立ち寄り、杉本村文書とその史料整理の見学(可能なら)
第9回　6/16　渡辺　東洋史紹介
「元寇研究の現在――モンゴル時代史のなかの元寇」
1.『蒙古襲来絵詞』を紹介
2. 元朝の史料から見た元寇
3. 日本の史料から見た元寇
4. 日本で元寇はどのように捉えられてきたのか。
5. 再び『蒙古襲来絵詞』――歴史学にとっての史料とは?
第10回　6/23　渡辺　研究者紹介
・歴史研究者のエゴ・ヒストリー
第11回　6/30　渡辺　巡検準備
・学術情報センター(=学情)と歴史学
・様々な「分類」について紹介。一般的な十進法と四部分類の紹介。翌週手に取ってみる四庫全書の予習。
第12回　7/7　渡辺　巡検実施
・学情入口に集合して実習
・8階:特殊資料の四庫全書シリーズ、7階:個人文庫、地下書庫など
※大学図書館・専門図書館の蔵書として特徴的な、大きなまとまりとしてある叢書や、多巻出版(大型専門辞典や地図集成ファイル、雑誌バックナンバー)についての説明。
第13回 7/14　渡辺・齊藤　特別セッション
※学内巡検イベントや、座談会ほか
第14回 7/21　担当教員　まとめ回/特別セッション

●事前・事後学習の内容

各回授業の最後に、次回の予習事項を通知します。

●評価方法

学期末に、学修内容を確認するためにレポートを課す(100%)。

●受講生へのコメント

日本史コース、世界史コースへ進学予定の1回生は必ず履修すること。進学希望者に限らず、歴史に興味がある学生、過去の異文化調査・研究を志す学生一般にも受講を推奨します。

●参考文献・教材

授業各回の最後に次回の授業の参照文献などを通知します。

授業科目名	科目NO.	LBGEN1101	授業コード	L220010010	
人間行動学概論 I Introduction to Human Behavioral Sciences I			単位数	2 単位	
授業形態	担当教員名				
講義	川邉 光一／辻野 けんま				

●科目の主題

(辻野担当分) 教育学は、乳幼児から老齢期までの人間行動における「教えと学び」を分析・考察する学問分野である。本講義では教育学における重要なトピックを取り上げ、人間の行動の諸相を「教育」という観点から考察することにより、教育学という学問分野についての理解を深める。

(川邉担当分) 心理学は心やその働きによって表出される行動を対象として、実験や調査によって客観的にその仕組みを調べる学問分野である。ここでは心理学の歴史や研究手法、心理学におけるトピックを取り上げ講義を行う。

●到達目標

(辻野担当分) 学ぶとは何か、教えるとは何かを、教育学の視点から考えてみることと、大学で学びの特質を理解することを目標とする。

(川邉担当分) 心理学の観点では、人間の行動の諸相をどのような形で説明しようとしているのか、その考え方について理解を深めることを目標とする。

●授業内容・授業計画

前半を辻野(教育学)、後半を川邉(心理学)が担当する。

第1回 教育学 オリエンテーション なぜ学校(大学)に集まって学ぶのか？
第2回 教育学 カリキュラムとは
第3回 教育学 教科学習の場面以外での学び
第4回 教育学 10年後の自分 社会で求められる力 大学で何をすべきか
第5回 教育学 伝えることの難しさから教育コミュニケーションを考える
第6回 教育学 教育・学習場面における文字言語、音声言語の役割
第7回 教育学 学ぶとは 教えるとは
第8回 心理学とは―心理学の研究手法
第9回 心理学の歴史
第10回 心と行動(1):外界の受容―感覚・知覚
第11回 心と行動(2):経験に基づく行動の変化―学習
第12回 心と行動(3):人間の情報処理―記憶と認知
第13回 心と行動(4):個人差の測定―性格と知能
第14回 心と行動(5):心のトラブル―精神障害と脳

●事前・事後学習の内容

(辻野担当分) WebClassにて、事前学習教材の閲覧や各課題の入力ができるようにする。毎回課題を課す。

(川邉担当分)毎回の授業前に配布資料などに目を通しておいてほしい。授業後は講義の内容を踏まえ、資料やノートの内容について復習しておくこと。

●評価方法

(辻野担当分) 毎回の課題と最終レポートにより評価を行う。

(川邉担当分) 最終試験と平常点により評価を行う。

●受講生へのコメント

(辻野担当分)小学校から高等学校までの段階(初等・中等教育)における学びと大学(高等教育)における学びには、いくつかの点で本質的な違いがあるため、授業を通じて理解を深めてほしい。

(川邉担当分)心理学は、実験や調査のような科学的手法を使って心の仕組みを解明しようと試みる学問である。一般的に持たれている「心理学」のイメージとは異なるかもしれないが、この講義を通じて心理学についての正しい知識を持ってほしい。

●参考文献・教材

（辻野担当分）適宜紹介する。

（川邉担当分）毎回、授業内容にかかわる資料を配布する。

授業科目名	科目NO.	LBGEN1102	授業コード	L220020010	
人間行動学概論Ⅱ Introduction to Human Behavioral Sciences Ⅱ			単位数	2 単位	
授業形態 講義	担当教員名 祖田　亮次／平山　亮				

●科目の主題

人文 ・ 社会科学における人間とその行動の捉え方を、 社会学、 地理学の観点から講述する。

●到達目標

(平山担当)はじめに社会学的な発想と方法を学んだのちに、 個別の社会現象に対する社会学的なアプローチのいくつかの事例を紹介する。社会学的研究の特徴を理解することが目標である。

(祖田担当)地理学的な発想と方法(の一部)を学び、個別の現象に関する地理学的アプローチの事例を知ることで、地理学的研究がどのような特徴を持っているのかを理解する。

●授業内容・授業計画

※この授業は遠隔で行う。

前半 (1～7 回) を社会学(平山)、後半 (8～14 回) を地理学 (祖田) が担当する。 授業内容は、下記の通り。

第1回 社会のイメージ、社会学のイメージ
第2回 社会学のさまざまな研究領域①「自己」
第3回 社会学のさまざまな研究領域②「性」
第4回 社会学のさまざまな研究領域③「家族」
第5回 社会学のさまざまな研究領域④「福祉」
第6回 社会学のさまざまな研究領域⑤「老い」
第7回 社会学的な方法
第8回 地理学とは何か
第9回 環境と社会
第10回 地図と権力
第11回 都市と農村
第12回 国家・国民・領土
第13回 地域活性化
第14回 トランスディシプリン
第15回 レポート作成と提出

●事前・事後学習の内容

(平山担当分) 事前学習 ： 取り上げる内容について自分なりに事例を収集し考察する。事後学習 ： 講義の要点を整理する。

(祖田担当分) 事前学習:次週の予習としての宿題が課される。事後学習:講義の内容に即した事例を学生自らが探して考察する。

●評価方法

(平山担当分)毎週のコミュニケーションカードの提出 (30%) とレポート (70%) による。

(祖田担当分)毎週のコミュニケーションカードの内容(30%)、宿題(事前事後学習)(30%)、および中間レポート(40%)による。

●受講生へのコメント

(平山担当分)

授業中に意見交換をおこなうので、積極的に参加することが求められる。

(祖田担当分)

高校の地理を履修したかどうかは全く関係ありません。先入観を持たずに受講してください。

●参考文献・教材

(平山担当分)

テキスト ： 使用しない。WebClassを通じて事前にプリントを配布する。

参考書 ： 授業時に適宜指示する。

(祖田担当分)

テキスト ： 使用しない。 WebClassを通じて事前にプリントを配布する。

参考書 ： 授業時に適宜指示する。

授業科目名	科目NO.	LBGEN3201	授業コード	L220030010
人間行動学データ解析法Ⅰ a Data Analysis of Human Behavioral Sciences Ⅰ			単位数	2 単位
授業形態 演習	担当教員名 櫻田　和也			

●科目の主題

官庁統計や調査報告を読むための基本的知識、調査・実験から得られたさまざまな形式のデータを整理・分析するために必要な基本的知識と技術について解説する。

●到達目標

単純集計、度数分布、代表値、クロス集計、相関関係などの記述統計データの読み方や、グラフの読み方、またそれらの計算や作成の仕方を学ぶことによって、実際にデータを整理・分析できるようになることが本講義の目標である。

●授業内容・授業計画

指定の教科書の構成に従いつつ、おおむね下記のスケジュールで講義を進める。

第1回 ガイダンス
第2回 統計ソフトの基本操作
第3回 統計ソフトを使った計算
第4回 量的データの収集・入力
第5回 単純集計
第6回 代表値・散らばりの尺度(1)
第7回 代表値・散らばりの尺度(2)
第8回 クロス集計(1)
第9回 クロス集計(2)
第10回 相関係数
第11回 データのグラフ化
第12回 因果関係と相関関係
第13回 エラボレーション
第14回 疑似相関・媒介効果・交互作用
第15回 試験

●事前・事後学習の内容

事前学習 教科書の該当部分を一通り読んでおくこと。

事後学習 講義のスライドの内容を復習するとともに、講義中に指示した課題に取り組むこと。

●評価方法

出席(20%) 課題提出(20%) 試験(60%)。

●受講生へのコメント

授業は、R 言語を用いた演習形式で行われる。欠席するとついてこれなくなるので、やむを得ない場合を除いて休まないこと。なお本講義は、社会調査士資格認定C科目である。

●参考文献・教材

教科書:廣瀬毅士ほか, 2010,『社会調査のための統計データ分析』オーム社.

参考書:神林博史・三輪哲, 2011,『社会調査のための統計学』技術評論社.

参考書:G.W.ボーンシュテット・D.ノーキ, 1992,『社会統計学』ハーベスト社.

授業科目名	科目NO.	LBGEN3201	授業コード	L220030020	
人間行動学データ解析法Ⅰ b Data Analysis of Human Behavioral Sciences Ⅰ			単位数	2 単位	
授業形態 演習	担当教員名 森谷　義哉				

●科目の主題

統計学の基本的な知識を習得し、それらを実際のデータ、特に調査データに適用できるようになること。

●到達目標

(1)統計学の基本的な知識を習得する。

(2)実際のデータに対して、ソフトウェアを用いた基本的な操作を行うことができる。

(3)ソフトウェアによるデータ解析の結果を適切に解釈できる。

●授業内容・授業計画

本授業については、対面で行う。

本授業では、統計学の入門として、データの収集や整理から確率変数・確率分布、推定・検定までの基本的な内容を学習する。知識を暗記するのではなく、それらの基礎にある考え方を理解できるように、できるだけ分かりやすく説明する。説明はプリントに基づいて行い、必要に応じてソフトウェア(たとえば、ExcelやR)を用いた演習を行うことによって理解を深める。

授業計画は以下の通りである。ただし、受講生の知識と理解の程度に合わせて、内容を調整することがある。

第1回　データとは(1) 変数・尺度
第2回　データとは(2) データの可視化
第3回　1変数について(1) 度数分布表・ヒストグラム
第4回　1変数について(2) 平均値・中央値・最頻値
第5回　1変数について(3) 分散・標準偏差
第6回　1変数について(4) 標準化・偏差値
第7回　2変数について(1) 散布図・共分散・相関係数
第8回　2変数について(2) 相関係数の性質
第9回　確率変数・確率分布(1) 離散型確率分布
第10回 確率変数・確率分布(2) 連続型確率分布
第11回 推定(1) 推定(考え方・点推定・区間推定)
第12回 検定(1) 検定の考え方
第13回 検定(2) 平均の検定(1)
第14回 検定(3) 平均の検定(2)
第15回 試験

●事前・事後学習の内容

配布するプリントの内容を予習・復習して次回の授業に臨んでください。授業中の課題が残っているときや演習問題があるときは、それらに取り組むとより効果的です。理解を深めるために宿題として課題を出しますので、次回の授業までに提出してください。また、理解度を確認するために、講義内容についてクイズを行うことがあります。

●評価方法

課題40%と定期試験60%を基準として、毎回の講義・演習に対する取り組み方を含めて総合的に評価する。

●受講生へのコメント

最近は、文系・理系に関係なく、データに基づいて意思決定を行う力が求められています。統計学はそのような力を養うために必要な学問ですので、少しでも多くの人に統計学の基礎知識を身に付けて欲しいと思います。そこで、この授業では、数学やPCなどの知識を前提にせず、できるだけ分かりやすく説明するように努力しますので、講義中は説明に集中して、演習中は積極的に課題に取り組

む姿勢を期待します。数式も登場しますが、苦手な人でも説明を聞けば理解できるレベルです。理解できれば楽しくなりますので、諦めないでください。なお、質問はいつでも大歓迎です。
また、欠席や遅刻をすると理解が遅れて履修を継続することが難しくなることがありますので、できるだけ欠席や遅刻をしないように心がけてください。

●参考文献・教材

＜教科書＞

プリントを配布します。

＜参考書＞

(1)山田剛史・村井潤一郎(2004)『よくわかる心理統計』ミネルヴァ書房
(2)向後千春・冨永敦子(2007)『統計学がわかる』技術評論社
(3)高橋信(2004)『マンガでわかる統計学』オーム社
(4)ボーンシュテット&ノーキ(1992)『社会統計学』ハーベスト社
(5)慶應SFCデータ分析教育グループ(1998)『データ分析入門』慶應義塾大学出版会
(6)縄田和満(2007)『Excelによる統計入門』朝倉書店
(7)山田剛史・杉澤武俊・村井潤一郎(2008)『Rによるやさしい統計学』オーム社
(8)地道正行(2018)『Rによる統計学独習』裳華房

授業科目名	科目NO.	LBGEN3201	授業コード	L220040010	
人間行動学データ解析法Ⅱ a Data Analysis of Human Behavioral Sciences Ⅱ			単位数	2 単位	
授業形態 演習	担当教員名 佐伯　大輔				

●科目の主題

実験・調査において、標本より得られたデータから母集団についての結論を導き出すためには、推定ならびに検定と呼ばれる統計的処理を施す必要がある。本講では、点推定と区間推定、ならびに基本的な検定手法であるt検定、F検定、カイ2乗検定について、その理論と実践の両面にわたって講ずる。

●到達目標

授業で紹介する検定法の理論的基礎について理解を深めるとともに、その実際の適用の仕方に習熟することが、この授業の到達目標である。

●授業内容・授業計画

主として、平均値に関する検定を例にとって、推測統計の基本的な考え方を説明する。おおよその授業計画は以下のとおりである。

第1回 統計的推測とは
第2回 データ解析Ⅰの復習
第3回 確率変数と確率分布
第4回 正規分布
第5回 標本分布と中心極限定理
第6回 点推定と区間推定
第7回 検定の基本的手続き
第8回 カイ2乗分布・t分布・F分布
第9回 2つの平均値の差の検定(1)
第10回 2つの平均値の差の検定(2)
第11回 2つの平均値の差の検定(3)
第12回 独立性の検定
第13回 相関と無相関検定
第14回 3つ以上の平均値の差の検定
第15回 総復習

●事前・事後学習の内容

事前学習:「参考文献」に挙げた書籍の該当部分を読んでおく。

事後学習:授業で学習した概念・検定法について確認し、授業で解いた演習問題を再度解いておく。

●評価方法

学期末試験の成績によって評価する。

●受講生へのコメント

本科目は複数開講科目である。この授業は、人間行動学科の社会学コース・心理学コースの学生を対象とする。同学科の教育学コース・地理学コースならびに他学科の第1部学生は、同時間帯に同内容で開講される人間行動学データ解析法Ⅱbを受講すること。

●参考文献・教材

[テキスト]使用しない。必要な資料は、随時、授業時に配布する。

[参考文献]

(1)広田すみれ (2013)『読む統計学使う統計学　第2版』 慶應義塾大学出版会

(2)森敏昭・吉田寿夫 (1990)『心理学のためのデータ解析テクニカルブック』 北大路書房

(3)伊藤正人 (2006)『心理学研究法入門―行動研究のための研究計画とデータ解析―』昭和堂

授業科目名	科目NO.	LBGEN3201	授業コード	L220040020	
人間行動学データ解析法Ⅱ b Data Analysis of Human Behavioral Sciences Ⅱ			単位数	2 単位	
授業形態 実習	担当教員名 木村　義成				

●科目の主題

この科目では地理学や教育学の分野で必要とされる統計の原理と計算方法について学習する。

統計の原理と計算方法のみならず、地理学や教育学で用いられる地域特性分析やデータ・サンプリングと調査法についても各種統計データを用いて演習を実施する。

●到達目標

本科目の達成目標は、Excelの関数やデータベース、データ集計機能を利用して地理学や教育学に関する統計データを自身で処理し分析できるようになることである。

演習の前半においては、平均、中央値、分散、標準偏差といった広く世の中で利用される基本統計量とデータのグラフ表現について理解してもらう。

演習の後半では、地域統計のデータを用いてジニ―係数をはじめとした統計指標の算出について理解を深めてもらう。

●授業内容・授業計画

人間行動学をはじめ、様々な統計処理を用いる学問において必要とされる基本統計量や統計推測の原理と方法について学習する。

授業は理論と実践の両面から行うものとする。理論においては、正規分布など分布の種類、平均値、標準偏差、相関係数など統計の基礎となる概念について、数学的な背景、理論を理解してもらう。

実践においては、学術情報総合センターの端末室を利用し、主にExcelの統計機能を利用した処理方法を習得してもらう。

第1回 ・ガイダンス
第2回 ・基本統計量とグラフ表現①
第3回 ・基本統計量とグラフ表現②
第4回 ・基本統計量とグラフ表現③
第5回 ・データ検索・抽出①
第6回 ・データ検索・抽出②
第7回 ・データ検索・抽出③
第8回 ・ヒストグラムとローレンツ曲線①
第9回 ・ヒストグラムとローレンツ曲線②
第10回 ・ローレンツ曲線とジニ係数
第11回 ・データのばらつき(分散・標準偏差)①
第12回 ・データのばらつき(分散・標準偏差)②
第13回 ・ピボットテーブルによるデータ集計
第14回 ・共分散と相関係数の算出①
第15回 ・共分散と相関係数の算出②

●事前・事後学習の内容

事前学習としては実習当日の内容について教科書を予め熟読すること。

事後学習としては実習終了後に実習内容についてほぼ毎回課題提出してもらう。

●評価方法

出席点、および小レポート(60～70%)、最終レポート(30～40%)の割合で総合的に評価する。

具体的な評価基準については第1回のガイダンスにて説明する。

●受講生へのコメント

統計処理は、実際にデータを用いて取り組まないと理解が進まない。

本演習では、Excelを利用することにより統計の理論的な面のみならず、実用的な面も理解してもらう。

●参考文献・教材

教材・参考文献については、第1回のガイダンスにて説明を行う。

教材は以下の市販書を用いる。

Excelによる統計入門―Excel2007対応版　縄田　和満　著　朝倉書店

ISBN-13: 978-4254121728

※第1回のガイダンスには必ず受講すること。第1回を受講していない場合は、演習の参加を認めないことがある。

授業科目名	科目NO.	LCGEN1101	授業コード	L230010010	
言語文化基礎論 I Outline of Language and Culture Studies I			単位数	2 単位	
授業形態 講義	担当教員名 久堀　裕朗				

●科目の主題

古典文学注釈入門。

この授業では、日本の古典文学作品の注釈について、井原西鶴の浮世草子作品を例に、その意味、目的、方法などについて学ぶ。

●到達目標

古典文学作品の注釈の基本について習得し、授業時の解説を参考に、具体的な作品注釈について、各自の論理的な考察をレポートにまとめることができる。

●授業内容・授業計画

第1回:本授業のガイダンス
第2回:『日本永代蔵』の注釈①
第3回:『日本永代蔵』の注釈②
第4回:『日本永代蔵』の注釈③／小レポートA作成
第5回:『武道伝来記』の注釈①
第6回:『武道伝来記』の注釈②
第7回:『武道伝来記』の注釈③／小レポートB作成
第8回:『西鶴置土産』の注釈①
第9回:『西鶴置土産』の注釈②
第10回:『西鶴置土産』の注釈③／小レポートC作成
第11回:『万の文反古』の注釈①
第12回:『万の文反古』の注釈②
第13回:『万の文反古』の注釈③
第14回:『万の文反古』の注釈④／小レポートD作成
第15回:まとめ／期末レポート提出

●事前・事後学習の内容

第1回:紹介された参考文献を読む。
第2回:配布資料の予習と小レポートAに向けた考察。
第3回:配布資料の予習と小レポートAに向けた考察。
第4回:配布資料の予習と小レポートAに関する再検討。
第5回:配布資料の予習と小レポートBに向けた考察。
第6回:配布資料の予習と小レポートBに向けた考察。
第7回:配布資料の予習と小レポートBに関する再検討。
第8回:配布資料の予習と小レポートCに向けた考察。
第9回:配布資料の予習と小レポートCに向けた考察。
第10回:配布資料の予習と小レポートCに向けた考察。
第11回:配布資料の予習と小レポートDに関する再検討。
第12回:配布資料の予習と小レポートDに向けた考察。
第13回:配布資料の予習と小レポートDに向けた考察。
第14回:配布資料の予習と小レポートDに関する再検討。
第15回:全体のふり返りとまとめ

●評価方法

到達目標の達成度について、以下の通りの評価を行う。

評価方法とその割合：授業時の小レポート20％　期末レポート80％

合格（単位修得）のための最低基準：授業内容を参考に、自身の論理的な考察をレポートにまとめることができる。

●受講生へのコメント

授業では各作品の一部しか取り上げることができないが、授業での紹介を参考に、各自で作品全体や、さらに多くの古典文学作品を読み進めていくことが望ましい。

●参考文献・教材

教材：プリントを配布する。

参考文献：授業時に詳しく指示する。

授業科目名	科目NO.	LCGEN1102	授業コード	L230020010	
言語文化基礎論Ⅱ Outline of Language and Culture Studies Ⅱ			単位数	2 単位	
授業形態 講義	担当教員名 内丸　公平				

●科目の主題

本講義の前半では、16世紀の劇作家ウィリアム・シェイクスピアの演劇、19世紀の作家チャールズ・ラムの作品、現代の英国ヘリテージ映画のスクリプトなどを英文解釈方式で精読して英文学や英国の文化に触れてもらう一方で、舞台や映画のDVDなどの映像資料を見て作品への理解を深める。後半は、英語教員志望者を念頭に、日本の英語教育がどのような歴史をたどってきたのかを学び、関係書籍を読み理解を深めて、ディスカッションやグループ発表などをしてもらう。授業形式は「講義」となっているが、予習としてテクストを読んでくる、授業中にワークシートに取り組む、ペアやグループで話し合うなど、能動的かつ協働的な授業参加が求められる。

●到達目標

・シェイクスピアをはじめとしたイギリス文学、および日本の英語教育の歴史について理解し、その主旨と特徴について概要を述べることができる。

・辞書や注釈を参照しながら、自分の力で英文学の英語を精読できるようになる。

●授業内容・授業計画

第1回　オリエンテーション
第2回　Shakespeare (1) :Romeo and JulietとWest Side Story
第3回　Shakespeare (2) :Julius Caesarと演説
第4回　Shakespeare (3) :Macbethと『蜘蛛巣城』『NINAGAWAマクベス』
第5回　Shakespeare (4) :Hamletと独白
第6回　Shakespeare作品の映画史
第7回　文学とアダプテーション:Charles LambのTales from Shakespeare (1807)など
第8回　英国のヘリテージ映画:Gosford Park(2001)とDownton Abbey(2010-2019) を中心に
第9回「英文学研究」とは何か:Robert EagleストンのDoing English (2017)を読む
第10回　日本の英語教育史(1):岡倉由三郎(1868-1936)を中心に
第11回　日本の英語教育史(2):学習指導要領の変遷と検定英語教科書
第12回　日本の英語教育史(3):英語教育と英文学ー歴史と理論
第13回　日本の英語教育史(4):英語教育と英文学ー実践
第14回　まとめ

●事前・事後学習の内容

(1)毎週、確認テストを行うので、復習しておくこと。

(2)プリントの指定箇所を読み、予習を行ってくること。

●評価方法

確認テスト20%、レポート20%、試験60%として評価する。

●受講生へのコメント

授業形式は「講義」となっているが、予習としてテクストを読んでくる、授業中にワークシートに取り組む、ペアやグループで話し合うなど、能動的かつ協働的な授業参加が求められる。

●参考文献・教材

毎週Webclassにプリント・ワークシートをアップロードする。各自でダウンロードして予習を行った上で、教室に持参すること。

授業科目名	科目NO.	LCGEN1103	授業コード	L230030010	
言語文化概論 I Introduction to Language and Culture Studies I			単位数	2 単位	
授業形態	担当教員名				
講義	小林 直樹／白田 由樹／原野 葉子／高橋 未来				

●科目の主題

言語文化学科の各コースの教育研究内容の紹介。

●到達目標

本科目は、専門領域を異にする教員が行うオムニバス方式の授業であり、言語またはそれによって織りなされる文学・文化の様相を学び、両者の多様な関係のあり方について理解を深めることを目標とする。

●授業内容・授業計画

第1回～第6回(国語国文学:小林直樹教授)「日本古典文学と昔話」は、現代人にもなじみ深い「昔話」の祖型を日本古典文学に求め、「昔話」と対比的に考察することによって、そうした伝承がもっていた本来の意味や魅力を照射する。第7回～第11回(中国語中国文学:高橋未来准教授)「唐代文学のおもしろさ」は、中国唐代の詩と散文をテクストとして、その言語表現や時代背景に注意しながら作者の意図を読み解く。第12回～第14回(ドイツ語フランス語圏言語文化学フランス語圏言語文化領域:原野葉子准教授、白田由樹教授)各1～2回ずつ、担当者の専門領域であるフランス語圏文学、フランス語圏文化についての導入的な講義を行う。

1.「昔話」の「こぶとり爺」
2. 古典文学の「こぶとり爺」
3.「昔話」の「舌切り雀」
4. 古典文学の「腰折れ雀」
5.「昔話」の「一寸法師」
6. 古典文学の「一寸法師」
7. 杜牧の生涯と作品について
8. 杜牧「窴列女伝」(前半)を読む
9. 杜牧「窴列女伝」(後半)を読む
10. 杜牧「答荘充書」を読む
11. 杜牧の詠史詩を読む
12. 都市と芸術:シチュアシオニスト・アンテルナシオナルを中心に(原野)
13.日常と芸術:潜在文学工房を中心に(原野)
14.十九世紀フランスにおける日本人女性のイメージ(白田)

●事前・事後学習の内容

各教員が毎回授業時に指示する。

●評価方法

レポートおよび出席点による。

●受講生へのコメント

1 言語文化学科の必修科目なので、本学科生は必ず履修すること。

2 「言語文化概論I」「言語文化概論II」の2科目をあわせて言語文化学科のコース内容を伝える科目設定である。したがって、この2科目をともに原則として1年次に履修すること。

3 特定の担当教員のテーマを選択してレポートを提出する。ただし、その担当教員の授業回にのみ出席するのではなく、すべての担当教員の授業に出席すること。

4 「言語文化概論Ⅰ」「言語文化概論Ⅱ」の両方ともにフランス語圏言語文化領域のテーマでレポートを提出することは認められない。つまり、「言語文化概論Ⅱ」で福島祥行教授または白田由樹教授(ともにフランス語圏言語文化領域)にレポートを提出する者は、「言

語文化概論Ⅰ」において原野葉子准教授または白田由樹教授（ともにフランス語圏言語文化領域）にレポートを提出することはできない。

5　レポートと出席状況を合わせて成績評価を行う。なお、欠席回数が全授業回数の三分の一を超えた場合、原則としてレポートを提出しても評価の対象にならず、単位は認定されない。

●参考文献・教材

必要に応じて授業中に指示する。

授業科目名	科目NO.	LCGEN1104	授業コード	L230040010	
言語文化概論Ⅱ Introduction to Language and Culture Studies Ⅱ			単位数	2 単位	
授業形態	担当教員名				
講義	古賀　哲男／髙井　絹子／信國　萌／福島　祥行／白田　由樹				

●科目の主題

言語文化学科の各コースの研究内容の紹介。

●到達目標

本科目は、専門領域を異にする教員が行うオムニバス方式の授業であり、言語またはそれによって織りなされる文学・文化の様相を学び、両者の多様な関係のあり方について理解を深めることを目標とする。

●授業内容・授業計画

第1～6回（英語英米文学：古賀哲男准教授）担当者の専門領域である英米文学についての導入的な講義を行う。
第7～11回（ドイツ語フランス語圏言語文化学ドイツ語圏言語文化領域：髙井絹子教授・信國萌講師）担当者の専門領域であるドイツ語圏の文学と言語についての導入的な講義を行う。
第12回～14回（ドイツ語フランス語圏言語文化学フランス語圏言語文化領域：福島祥行教授、白田由樹教授）担当者の専門領域であるフランス語圏の言語と文化についての導入的な講義を行う。
第1回　オリエンテーション、21世紀における英米文学とは（古賀）
第2回　21世紀英米文学に向けて（1）テロリズムとグローバリゼーション（古賀）
第3回　21世紀英米文学に向けて（2）マイノリティの視点（古賀）
第4回　21世紀英米文学に向けて（3）人工知能と後期資本主義（古賀）
第5回　21世紀英米文学に向けて（4）地球環境と文学（古賀）
第6回　21世紀英米文学に向けて（5）パンデミックとディストピア的世界（古賀）
第7回　ドイツ語圏の文学　時代と文学（1）（高井）
第8回　ドイツ語圏の文学　時代と文学（2）（高井）
第9回　ドイツ語とドイツ語学（信國）
第10回　ドイツ語とその他の言語（信國）
第11回　ドイツ語を対象とした言語研究（信國）
第12回　なぜ言語は存在するのか―フランス語と人類の歴史からみる言語の生成と変化（福島）
第13回　なぜ外国語を学ぶのか―フランス共和国・フランス語圏の多様性と欧州統合（福島）
第14回　19世紀のパリ万国博覧会と異国趣味の流行（白田）
第15回　レポート相談日

●事前・事後学習の内容

各教員が毎回授業時に指示する。

●評価方法

レポートおよび出席点による。

●受講生へのコメント

1 言語文化学科の必修科目なので本学科生は必ず履修すること。

2「言語文化概論Ⅰ」「言語文化概論Ⅱ」の2科目あわせて言語文化学科のコース内容を伝える科目設定である。したがってこの2科目をもとに原則として1年次に履修すること。

3 特定の担当教員のテーマを選択してレポートを提出する。ただし、その担当教員の授業回にのみ出席するのではなく、すべての担当教員の授業に出席すること。

4「言語文化概論Ⅰ」「言語文化概論Ⅱ」ともフランス語圏言語文化領域のテーマでレポートを提出することは認められない。つまり、「言語文化概論Ⅱ」で福島祥行教授または白田由樹教授（ともにフランス語圏言語文化領域）にレポートを提出する者は、「言語文化

概論Ⅰ」において、原野葉子准教授または白田由樹教授（ともにフランス語圏言語文化領域）にレポートを提出することはできない。
5 レポートと出席状況をあわせて成績評価を行う。なお、欠席回数が全授業回数の三分の一を超えた場合、原則として、レポートを提出しても評価の対象にならず、単位は認定されない。

●参考文献・教材

必要に応じて授業中に指示する。

授業科目名	科目NO.	LEGEN1101	授業コード	L240010010	
文化構想学概論Ⅰ Introduction to Cultural Management Ⅰ			単位数	2 単位	
授業形態 講義	担当教員名 天野　景太／多和田　裕司／沼田　里衣／松浦　恆雄／小田中　章浩／菅原　真弓／増田　聡／海老根　剛／堀　まどか／宋　恵媛				

●科目の主題

文化構想学科の各コースは、文化の活用を通して社会的な諸課題の解決を目指す研究と教育を行っていく。本科目では、文化構想学科の各コースの教員による講義を通して、各コースの研究内容や所属教員の研究テーマについて紹介する。

●到達目標

本科目は、文化構想学科所属教員によるオムニバス方式の授業を通して、文化構想学科の研究領域、研究テーマ、研究方法などの理解を深めていく。文化構想学という新しい研究領域ではどのようなことを学べるのかについて広く知ることを、第一の目標とする。

●授業内容・授業計画

この授業は対面により実施する。

第1回の授業では、文化構想学科の概要を紹介するとともに、本科目履修上の注意点などを伝達した後、最初のコース（文化資源コース）の授業を行う。第2回から5回は文化資源コースの教員、第6回から9回は表現文化コースの教員、第10回から14回はアジア文化コースの教員が、それぞれ担当する。

第1回　オリエンテーション：天野
第2回　文化資源を活かす1「モノ」としての文化編：天野
第3回　文化資源を活かす2「コト」としての文化編：沼田
第4回　文化資源のとらえ方：小田中
第5回　文化資源とは何か・文化資源学ことはじめ：菅原
第6回　表現文化学とは何か：増田
第7回　文化を考えるやり方について：増田
第8回　映像表現における身体と声1：海老根
第9回　映像表現における身体と声2：海老根
第10回　アジア文化コースと文化構想学：多和田
第11回　文化人類学と文化の活用：多和田
第12回　中華圏の文化：松浦
第13回　朝鮮半島の文化：宋
第14回　アジアのなかの日本：堀
第15回　まとめ

●事前・事後学習の内容

各教員が毎回の授業時に指示する。

●評価方法

評価は、期末レポート（60％）とコミュニケーションカードによる平常点（40％） によって行う。詳細はオリエンテーション時に説明する。

●受講生へのコメント

1. 本科目は、文化構想学科の必修科目である。

2. 文化構想学概論Ⅰ、Ⅱは、両科目をあわせて文化構想学科の内容を伝える科目であるので、Ⅰ、Ⅱとも原則として1年次に履修すること。

3.　コミュニケーションカードにより 毎回出席確認をする。欠席回数が授業全体の三分の一を超えた場合、原則としてレポート提出に関わらず、単位は認定されない。

●参考文献・教材

各教員が毎回の授業時に指示する。

授業科目名	科目NO.	LEGEN1102	授業コード	L240020010	
文化構想学概論Ⅱ Introduction to Cultural Management Ⅱ			単位数	2 単位	
授業形態 講義	担当教員名 天野　景太／宋　恵媛／多和田　裕司／沼田　里衣／松浦　恆雄／小田中　章浩／増田　聡／菅原　真弓／野末　紀之／海老根　剛／堀　まどか				

●科目の主題

文化構想学科の各コースは、文化の活用を通して社会的な諸課題の解決を目指す研究と教育を行っていく。本科目では、文化構想学科の各コースの教員による講義を通して、各コースの研究内容や所属教員の研究テーマについて紹介する。

●到達目標

本科目は、文化構想学科所属教員によるオムニバス方式の授業を通して、文化構想学科の研究領域、研究テーマ、研究方法などの理解を深めていく。文化構想学という新しい研究領域ではどのようなことを学べるのかについて広く知ることを、第一の目標とする。

●授業内容・授業計画

この授業は対面により実施する(予定)。

第1回の授業では、文化構想学科の概要を紹介するとともに、本科目履修上の注意点などを伝達した後、最初のコース(文化資源コース)の授業を行う。第2回から5回は文化資源コースの教員、第6回から9回はアジア文化コースの教員、第10回から14回は表現文化コースの教員が、それぞれ担当する。

第1回 オリエンテーション:天野
第2回 観光・地域創造の現場をあるき、考える:天野
第3回 音楽ワークショップの意義とその醍醐味:沼田
第4回 演劇からみた社会と芸術のつながり:小田中
第5回 視覚文化を見出し、展示・活用する:菅原
第6回 文化を売る:マレーシアの事例から:多和田
第7回 中華圏の芸能:松浦
第8回 日本のなかのアジア:堀
第9回 コリアンディアスポラの文化:宋
第10回 ポピュラー音楽とは何か:増田
第11回 社会の中での音楽:増田
第12回 音楽と産業、およびその研究:増田
第13回 文化を享受すること／文化を研究すること:増田
第14回 異化の効用:野末
第15回 まとめ

●事前・事後学習の内容

各教員が毎回の授業時に指示する。

●評価方法

評価は、期末レポート(60%)とコミュニケーションカードによる平常点(40%) によって行う。詳細はオリエンテーション時に説明する。

●受講生へのコメント

1. 本科目は、文化構想学科の必修科目である。

2. 文化構想学概論Ⅰ、Ⅱは、両科目をあわせて文化構想学科の内容を伝える科目であるので、Ⅰ、Ⅱとも原則として1年次に履修すること。

3. コミュニケーションカードにより 毎回出席確認をする。欠席回数が授業全体の三分の一を超えた場合、原則としてレポート提出に関わらず、単位は認定されない。

●参考文献・教材

各教員が毎回の授業時に指示する。

授業科目名	科目NO.	LEGEN1201	授業コード	L240030010	
文化構想学基礎演習Ⅰ a Basic Seminar in Cultural Management Ⅰ			単位数	2 単位	
授業形態 演習	担当教員名 堀　まどか				

●科目の主題

文化構想学科の学生が、現代のさまざまな文化現象や表現のもつ意味を理解し、分析するさいに必要な基本的観点や理論を身につける。

●到達目標

上記の観点や理論を演習形式により身につけて、レポート作成のさいに応用できるようにすることが目標である。

●授業内容・授業計画

第1回:イントロダクション
第2回:怪異を伝えるために試みられたこと①
第3回:怪異を伝えるために試みられたこと②
第4回:怪異を伝えるために試みられたこと③
第5回:怪異を伝えるために試みられたこと④
第6回:怪異を伝えるために試みられたこと⑤
第7回:怪異を通じて語りうること①
第8回:怪異を通じて語りうること②
第9回:怪異を通じて語りうること③
第10回:怪異を通じて語りうること④
第11回:怪異に読者が期待すること①
第12回:怪異に読者が期待すること②
第13回:怪異に読者が期待すること③
第14回:総括・まとめ

●事前・事後学習の内容

事前に1時間半の予習(内容理解、疑問点の考察)、事後に1時間の復習(問題点の整理と考察)。
1学期に2回以上は発表演習して貰う予定。
・発表担当者は、担当の章の①要旨(＋どのような構成で論文が書かれているのかの分析) ②論文内に示されている具体例・事象の独自の分析と研究の発展性 ③疑問点と、あらたな問い ④コメントの4点 をレジュメに記すこと。
また、その章の参考文献のうち少なくとも1つ以上は読んで、コメントすること。
・発表者ではない参加者も、全員が毎回、各章の要旨はまとめてくること。

●評価方法

平常点(30%)、演習・プレゼンテーション(35%)、レポート(35%)。

●受講生へのコメント

知らないことは積極的に調べたり、見聞きしたりすること。
論文の書き方について、積極的に学ぶこと。

●参考文献・教材

一柳廣孝編『怪異を魅せる』(青弓社、2016年12月)を各自購入すること。
その他の参考文献については授業中に適宜指示する。

授業科目名	科目NO.	LEGEN1201	授業コード	L240030020	
文化構想学基礎演習Ⅰ b Basic Seminar in Cultural Management Ⅰ			単位数	2 単位	
授業形態 演習	担当教員名 小田中　章浩				

●科目の主題

本科目は、文化構想学科の2回生を主な対象とする科目である。

本科目の主題は、専門分野に関係するいくつかのテキストについて、学生がそれらを正確に読み、かつ批評する力を養うことによって、専門分野に関する「基礎体力」を付けることである。

●到達目標

文化構想学専攻の2回生が、専門分野についての基礎的な教養を構成するいくつかのテキストを出来る限り正確に読み、テキストの文脈に配慮しつつ適切に理解し、自身の立場から批判的に考える能力を身につけるようにすること。

●授業内容・授業計画

【授業内容】下記に示したテキストについて受講生の中から担当者を決め、担当者に各章の内容のまとめと内容に対する批評を報告してもらい、その報告とテキストに対する議論を行う。

【授業計画】

第一回:ガイダンス。
第二回:吉見俊哉『大学とは何か』(1)
第三回:吉見俊哉『大学とは何か』(2)
第四回:なだいなだ『民族という名の宗教』(1)
第五回:なだいなだ『民族という名の宗教』(2)
第六回:東浩紀『動物化するポストモダン』(1)
第七回:東浩紀『動物化するポストモダン』(2)
第八回:東浩紀『動物化するポストモダン』(3)
第九回:大澤真幸『不可能性の時代』(1)
第十回:大澤真幸『不可能性の時代』(2)
第十一回:大澤真幸『不可能性の時代』(3)
第十二回:テッサ・モーリスースズキ『過去は死なない』(1)
第十三回:テッサ・モーリスースズキ『過去は死なない』(2)
第十四回:テッサ・モーリスースズキ『過去は死なない』(3)
第十五回:授業のまとめ

●事前・事後学習の内容

受講者全員が使用するテキストを事前に読んで授業に臨むことが求められる。また毎回の授業で学んだことを整理し、次回の授業に備えることも必要である。授業中にディスカッションでは、担当する報告者以外も指名される。その時の対応も平常点としてカウントされる。

●評価方法

平常点70%(報告＋議論)、期末レポート30%

●受講生へのコメント

授業で用いるテキストは、文化構想学という学問について学ぶための「基礎的な教養」の一部になるものを選んだ。受講者は各自購入すること。新本の入手が難しい場合はAmazon等の中古本による購入で構わないし、それによって費用も節約することができる。

●参考文献・教材

吉見俊哉『大学とは何か』 岩波新書
なだいなだ『民族という名の宗教』 岩波新書

東浩紀『動物化するポストモダン』 講談社現代新書
大澤真幸『不可能性の時代』岩波新書
テッサ・モーリス－スズキ『過去は死なない』岩波現代文庫

授業科目名	科目NO.	LEGEN1202	授業コード	L240040010	
文化構想学基礎演習Ⅱ a Basic Seminar in Cultural Management Ⅱ				単位数	2 単位
授業形態 演習	担当教員名 高島 葉子				

●科目の主題

本講義は、文化構想学科の研究領域、研究テーマなどについて、演習形式の授業をもとに理解を深めていく。本講義は、文化構想学基礎演習Ⅰとあわせて、文献読解、資料収集、プレゼンテーションなど、文化構想学科諸領域に共通して求められる基礎的研究能力の修得を第一の目標とする。なお基礎演習Ⅱについては主として英語文献の講読をおこなう。

●到達目標

文化構想学科での研究に求められる基礎的な研究手法を自らもちいることができる。

●授業内容・授業計画

対面授業を予定しているが、状況によっては、遠隔授業あるいは混合授業に変更する可能性もある。

第1回:オリエンテーション
第2回:文献講読、受講生による発表と討論
第3回:同上
第4回:同上
第5回:同上
第6回:同上
第7回:同上
第8回:同上
第9回:同上
第10回:同上
第11回:同上
第12回:同上
第13回:受講生による研究発表
第14回:同上
第15回:同上

●事前・事後学習の内容

毎回の課題文献を読んでおくこと。

●評価方法

到達目標への達成度をもとに評価する。評価は、期末の研究発表(60%)と文献講読にさいしての討論への参加度合いなど(40%)によっておこなう。合格のための最低基準として、文化構想学科での研究に求められる基礎的な研究手法をもとに、自ら設定した課題について研究発表ができることを求める。

●受講生へのコメント

十分な予習と、積極的は発言を期待する。

●参考文献・教材

授業中に課題文献を指示する。

授業科目名	科目NO.	LEGEN1202	授業コード	L240040020	
文化構想学基礎演習Ⅱ b Basic Seminar in Cultural Management Ⅱ			単位数	2 単位	
授業形態 演習	担当教員名 多和田　裕司				

●科目の主題

本講義は、文化構想学科の研究領域、研究テーマなどについて、演習形式の授業をもとに理解を深めていく。本講義は、文化構想学基礎演習Aとあわせて、文献読解、資料収集、プレゼンテーションなど、文化構想学科諸領域に共通して求められる基礎的研究能力の修得を第一の目標とする。なお基礎演習Bについては主として英語文献の講読をおこなう。

●到達目標

文化構想学科での研究に求められる基礎的な文献（日本語、英語）を読解し、内容を正確に理解し、要点を分かりやすく報告することができるようになる。また、関連資料を収集し、自らの関心に基づいて報告することを通して、プレゼンテーションのスキルを身に着ける。

●授業内容・授業計画

この授業は対面によって実施する（予定）。

第1回：オリエンテーション
第2回：文献講読、受講生による報告と討論
第3回：同上
第4回：同上
第5回：同上
第6回：同上
第7回：同上
第8回：同上
第9回：同上
第10回：同上
第11回：同上
第12回：同上
第13回：受講生による研究発表
第14回：同上
第15回：同上

●事前・事後学習の内容

授業前は課題文献を読んで要点を把握しておき、授業後は講読箇所の復習をおこなうこと。

●評価方法

到達目標への達成度をもとに評価する。評価は、期末の研究発表（60％）と文献講読にさいしての討論への参加度合いなど（40％）によっておこなう。

●受講生へのコメント

毎回予習を行った上で受講すること。授業の進め方、課題文献の入手方法等についてはオリエンテーション時に指示する。

●参考文献・教材

授業中に課題文献を指示する。

授業科目名	科目NO.	LXGEN4402	授業コード	L200020010	
卒業論文演習Ⅰ（哲学） Supervision of Graduation Thesis Ⅰ				単位数	2 単位
授業形態	担当教員名				
演習	仲原　孝／高梨　友宏／土屋　貴志／佐金　武				

●科目の主題

論文は、4年間にわたる学修の成果である。卒業論文の執筆は、4年次の「卒業論文演習1」（前期）、「卒業論文演習2」（後期）によって指導を受けながら進める。

前期の「卒業論文演習1」では、1年次から 3年次までの学修に基づいて卒業論文の執筆計画を立てる。そして、卒業論文構想発表会・卒業論文中間発表会といった機会を通じて、卒業論文に必要な知識・技能を身につける。

●到達目標

(1) 卒業論文執筆計画を立て実施する
(2) 卒業論文の構想を立てる
(3) 卒業論文の章立てを考える
(4) 学術文献の検察・引用の作法や、注の在り方を身につける
(5) 一次資料の学術的な利用方法を身につける
(6) 卒業論文研究に関わる研究倫理について考える

●授業内容・授業計画

第1回　　オリエンテーション
　卒業論文とは何か（確認）
　哲学研究の方法論（確認）
　卒論研究・執筆計画について
　卒業論文の評価基準について
第2～5回　　卒業論文構想発表会（連続 4コマ）
　テーマに関する問題意識の整理
　現時点で構想している結論
　研究方法の目処
　同学年他学年の学生、複数の教員との質疑応答から学ぶ
第6回　　学術文献の探索的検索と収束的検索
第7回　　文献一覧と出典表示方法
　注の意味と注の表記方法
　直接引用と要約引用
第8回　　「先行研究の整理」の意義と方法
　一次資料の考え方と扱い方
第9回　　卒業論文の章立て
第10回　　引用と剽窃の違い
　一次資料の整理と保管の在り方
　卒業論文中間発表会に向けて
第11～14回　　卒業論文中間発表会（連続 4コマ）
　問題意識の提示
　論証しようとしていること（仮の結論）
　論証のための方法とその目処
　章立て

これからの課題

第15回　　卒業論文中間発表会のふりかえり

●事前・事後学習の内容

第1回　卒業論文計画を立てて提出する。卒業論文構想発表会の準備を行い、レジュメを作成する。

第2～5回　卒業論文構想発表会の議論を踏まえ、自分の卒業論構想を練り直す。

第6回　自分のテーマに関わる学術論文を探索的に検索し、文献一覧を作成する。 具体化した部分については、収束的検索により、文献一覧を充実させる。

第7回　モデルとなる文献一覧の整理方法に従い、自分の卒業論文に必要な文献一覧を整備する。

第8回　自分の卒業論文に必要な「先行研究の整理」を行う。

第9回　卒業論文の章立てを考える

第10回　卒業論文中間発表の準備を行い、レジュメを作成する。

第11～14回　卒業論文中間発表会の議論を踏まえ、自分の卒業論文研究・執筆計画を練り直す。

第15回　7月以降の卒業論文執筆計画を立てる。

●評価方法

卒業論文中間発表会等の発表内容、議論への貢献、および、文献一覧の作成等、各回で指定する課題をどの程度果たしたかにより評価する。

●受講生へのコメント

卒業論文は 4年間の学士課程の集大成である。広義の哲学（哲学史・宗教学・倫理学・美学などを含む）の研究方法と専門知識を踏まえ、4年間の学修成果を基盤とした論文を完成させてほしい。また、学術情報総合センターの文献や機能を活用し、複数の教員や同学年・異学年の学生と頻繁に議論を進めながら、互いに切磋琢磨して研究を深めてほしい。

「卒業論文演習1」での演習を基盤としながら、卒業論文に主体的に取り組み、学士課程を集大成させてほしい。

●参考文献・教材

特に指定しない。

授業科目名	科目NO.	LXGEN4402	授業コード	L200020020	
卒業論文演習Ⅰ（日本史） Supervision of Graduation Thesis Ⅰ			単位数	2 単位	
授業形態 演習	担当教員名 仁木　宏／岸本　直文／佐賀　朝／磐下　徹／齊藤　紘子				

●科目の主題

卒業論文は、4年間にわたる学修の成果であるが、実際の執筆にあたっては、4年次の「卒業論文演習1」（前期）、「卒業論文演習2」（後期）の指導によって完成させる。

前期の「卒業論文演習1」では、1年次から3年次までの学修に基づき、卒業論文の執筆計画を立て、卒業論文に必要な知識、技能を卒業論文の執筆を通して身に付けるようにする。

●到達目標

(1)卒業論文執筆計画を立て実施する

(2)卒業論文の構想を立てる

(3)卒業論文の章立てを考える

(4)学術文献検察、引用の作法、注の在り方を身につける

(5)一次資料の学術的な整理の方法を身につける

(6)卒業論文研究に関わる研究倫理について考える

●授業内容・授業計画

第1回　オリエンテーション；卒論研究・執筆計画について

第2～5回　卒業論文構想発表会（連続4コマ）；テーマに関する問題意識の整理。予想される（期待している）結論。研究方法の目処

第6回　学術文献の探索的検索と収束的検索

第7回　文献一覧と出典表示方法。注の意味と注の表記方法。直接引用と要約引用

第8回　「先行研究の整理」の意義と方法。一次資料の考え方と扱い方

第9回　卒業論文の章立て

第10回　引用と剽窃の違い。一次資料の整理と保管の在り方

第11～14回　卒業論文中間発表会―章立ての仮決定のために―（連続4コマ）：問題意識の提示。論証しようとしていること（仮の結論）。論証のための方法とその目処。章立て。これからの課題

●事前・事後学習の内容

授業の前後に自習する。

●評価方法

卒業論文中間発表会等の発表内容、議論への貢献、および、文献一覧の作成等、各回で指定する課題の内容などにより評価する。

●受講生へのコメント

卒業論文にとりかかる最初の課程である。就職活動や大学院入試の準備に忙殺されるであろうが、卒論準備も確実に進めてほしい。

●参考文献・教材

適宜、指示する。

授業科目名	科目NO.	LXGEN4402	授業コード	L200020030	
卒業論文演習Ⅰ（世界史） Supervision of Graduation Thesis Ⅰ			単位数	2 単位	
授業形態 演習	担当教員名 平田　茂樹／渡辺　健哉／上野　雅由樹／濱本　真実／北村　昌史／ 草生　久嗣／向井　伸哉				

●科目の主題

卒業論文は、4年間にわたる学修の成果であるが、実際の執筆にあたっては、4年次の「卒業論文演習1」（前期）、「卒業論文演習2」（後期）の指導によって完成させる。

前期の「卒業論文演習1」では、1年次から3年次までの学修に基づき、卒業論文の執筆計画を立て、卒業論文構想発表会、卒業論文中間発表会といった機会を柱としながら、卒業論文に必要な知識、技能を卒業論文の執筆を通して身に付けるようにする。

●到達目標

(1)卒業論文執筆計画を立て実施する

(2)卒業論文の構想を立てる

(3)卒業論文の章立てを考える

(4)学術文献検察、引用の作法、注の在り方を身につける

(5)一次資料の学術的な整理の方法を身につける

(6)卒業論文研究に関わる研究倫理について考える

●授業内容・授業計画

第1回　オリエンテーション
　　卒業論文とは何か（確認）
　　○○学の方法論（確認）
　　卒論研究・執筆計画について
　　卒業論文の評価規準・基準について第2回卒業論文構想発表会（連続4コマ）
第2回　テーマに関する問題意識の整理
第3回　予想される（期待している）結論
第4回　研究方法の目処
第5回　同学年他学年の学生、複数の教員との質疑応答から学ぶ
第6回　学術文献の探索的検索と収束的検索
第7回　文献一覧と出典表示方法
　　注の意味と注の表記方法
　　直接引用と要約引用
第8回　「先行研究の整理」の意義と方法
　　一次資料の考え方と扱い方
第9回　卒業論文の章立て
第10回　引用と剽窃の違い
　　一次資料の整理と保管の在り方
　　卒業論文中間発表会に向けて
第11回～第14回
　　卒業論文中間発表会
　　―章立ての仮決定のために―（連続4コマ）
　　問題意識の提示
　　論証しようとしていること（仮の結論）
　　論証のための方法とその目処

章立て
これからの課題

第15回　卒業論文中間発表会のふりかえり

●事前・事後学習の内容

第1回　卒業論文計画を立てて提出する

卒業論文構想発表会の準備を行い、レジュメを作成する。

第2回～5回　卒業論文構想発表会の議論を踏まえ、自分の卒業論構想を練り直す。

第6回　自分のテーマに関わる学術論文を探索的に検索し、文献一覧を作成する。

具体化した部分については、収束的検索により、文献一覧を充実させる。

第7回　モデルとなる文献一覧の整理方法に従い、自分の卒業論文に必要な文献一覧を整備する。

第8回　自分の卒業論文に必要な「先行研究の整理」を行ってみる。

第9回　卒業論文の章立てを考える

第10回　卒業論文中間発表の準備を行い、レジュメを作成する。

第11回～14回　卒業論文中間発表会の議論を踏まえ、自分の卒業論文研究・執筆計画を練り直す。

第15回　7月以降の卒業論文執筆計画を立てる。

●評価方法

卒業論文中間発表会等の発表内容、議論への貢献、および、文献一覧の作成等、各回で指定する課題の内容などにより評価する。

●受講生へのコメント

卒業論文は4年間の学士課程の集大成である。履修モデルとしてのコースに対応した学問分野（世界史、日本史）の研究方法と専門知識を踏まえ、4年間の学修成果を基盤とした論文を完成させてほしい。また、学術情報総合センターの文献や機能を活用し、複数の教員や同学年・異学年の学生と頻繁に議論を進めながら、互いに切磋琢磨して研究を深めてほしい。

「卒業論文演習1」は授業科目のひとつであるが、この科目の演習を基盤としながら、卒業論文に主体的に取り組み、学士課程を集大成させてほしい。

●参考文献・教材

指定しない

授業科目名	科目NO.	LXGEN4402	授業コード	L200020040	
卒業論文演習Ⅰ（社会学） Supervision of Graduation Thesis Ⅰ			単位数	2 単位	
授業形態	担当教員名				
演習	石田　佐恵子／伊地知　紀子／川野　英二／笹島　秀晃／平山　亮				

●科目の主題

卒業論文は、4年間にわたる学修の成果であるが、実際の執筆にあたっては、4年次の「卒業論文演習1」（前期）、「卒業論文演習2」（後期）の指導によって完成させる。 前期の「卒業論文演習1」では、1年次から3年次までの学修に基づき、卒業論文の執筆計画を立て、卒業論文構想発表会、卒業論文中間発表会といった機会を柱としながら、卒業論文に必要な知識、技能を卒業論文の執筆を通して身に付けるようにする。

●到達目標

(1)卒業論文執筆計画を立て実施する

(2)卒業論文の構想を立てる

(3)卒業論文の章立てを考える

(4)学術文献検察、引用の作法、注の在り方を身につける

(5)一次資料の学術的な整理の方法を身につける

(6)卒業論文研究に関わる研究倫理について考える

●授業内容・授業計画

各自の問題意識にそった発表を行う。

第1回 オリエンテーション

第2回 受講生による報告と討議(主題と問題意識)

第3回 受講生による報告と討議(主題と問題意識)

第4回 受講生による報告と討議(主題と問題意識)

第5回 受講生による報告と討議(主題と問題意識)

第6回 受講生による報告と討議(主題と問題意識)

第7回 受講生による報告と討議(主題と問題意識)

第8回 受講生による報告と討議(調査や資料収集の設計)

第9回 受講生による報告と討議(調査や資料収集の設計)

第10回 受講生による報告と討議(調査や資料収集の設計)

第11回 受講生による報告と討議(調査や資料収集の設計)

第12回 受講生による報告と討議（卒業論文目次構成など）

第13回 受講生による報告と討議（卒業論文目次構成など）

第14回 受講生による報告と討議（卒業論文目次構成など）

第15回 受講生による報告と討議（卒業論文目次構成など）

●事前・事後学習の内容

事前学習:レジュメを作成する。

事後学習:指摘された点を確認する。

●評価方法

平常点(出席と参加態度、レジュメ)

●受講生へのコメント

社会学コースの4回生を教員毎にクラス分けする。クラス分けは、4回生の履修登録時に掲示するので、履修前に必ず確認すること。

●参考文献・教材

随時指示する。

授業科目名	科目NO.	LXGEN4402	授業コード	L200020050	
卒業論文演習Ⅰ（心理学） Supervision of Graduation Thesis Ⅰ			単位数	2 単位	
授業形態 演習	担当教員名 山　祐嗣／川邉　光一／佐伯　大輔／橋本　博文				

●科目の主題

卒業論文は、4年間にわたる学修の成果であるが、実際の執筆にあたっては、4年次の「卒業論文演習Ⅰ」（前期）、「卒業論文演習Ⅱ」（後期）の指導によって完成させる。

前期の「卒業論文演習Ⅰ」では、1年次から3年次までの学修に基づき、卒業論文の執筆計画を立て、卒業論文構想発表会、卒業論文中間発表会といった機会を柱としながら、卒業論文に必要な知識、技能を卒業論文の執筆を通して身に付けるようにする。

●到達目標

(1)卒業論文執筆計画を立て実施する

(2)卒業論文の構想を立てる

(3)卒業論文の章立てを考える

(4)学術文献検察、引用の作法、注の在り方を身につける

(5)実験・調査の方法を身につける

(6)卒業論文研究に関わる研究倫理について考える

●授業内容・授業計画

1オリエンテーション
　卒業論文とは何か
　心理学の方法論
　卒論研究・執筆計画について
　卒業論文の評価規準・基準について
2,3,4,5卒業研究計画発表（連続4コマ）
　テーマに関する問題意識の整理
　予想される（期待している）結論
　研究方法の目処
　同学年他学年の学生、複数の教員との質疑応答から学ぶ
6学術文献の探索的検索と収束的検索
7文献一覧と出典表示方法
　注の意味と注の表記方法
　直接引用と要約引用
8「先行研究の整理」の意義と方法
　一次資料の考え方と扱い方
9卒業論文の章立て
10引用と剽窃の違い
　一次資料の整理と保管の在り方
　卒業論文中間発表会に向けて
11,12,13,14実験・調査研究計画発表
―章立ての仮決定のために―（連続4コマ）
　問題意識の提示
　論証しようとしていること（仮の結論）
　論証のための方法とその目処

章立て

これからの課題

15実験・調査実施準備

●事前・事後学習の内容

受講者は、研究テーマに関連する文献や研究計画の発表、研究結果の中間報告を行うため、事前にレジメを準備する。授業時に受けたコメントや議論の内容を次回の発表に生かすようにする。

●評価方法

実験・調査研究計画発表等の発表内容、議論への貢献、および、文献一覧の作成等、各回で指定する課題の内容などにより評価する。

●受講生へのコメント

卒業論文は4年間の学士課程の集大成である。履修モデルとしてのコースに対応した学問分野（心理学）の研究方法と専門知識を踏まえ、4年間の学修成果を基盤とした論文を完成させてほしい。また、学術情報総合センターの文献や機能を活用し、複数の教員や同学年・異学年の学生と頻繁に議論を進めながら、互いに切磋琢磨して研究を深めてほしい。

「卒業論文演習Ⅰ」は授業科目のひとつであるが、この科目の演習を基盤としながら、卒業論文に主体的に取り組み、学士課程を集大成させてほしい。

●参考文献・教材

適宜、紹介する。

授業科目名	科目NO.	LXGEN4402	授業コード	L200020060	
卒業論文演習Ⅰ（教育学） Supervision of Graduation Thesis Ⅰ				単位数	2 単位
授業形態	担当教員名				
演習	添田　晴雄／島田　希／辻野　けんま				

●科目の主題

卒業論文は、4年間にわたる学修の成果であるが、実際の執筆にあたっては、4年次の「卒業論文演習1」（前期）、「卒業論文演習2」（後期）の指導によって完成させる。

前期の「卒業論文演習1」では、1年次から3年次までの学修に基づき、卒業論文の執筆計画を立て、卒業論文構想発表会、卒業論文中間発表会といった機会を柱としながら、卒業論文に必要な知識、技能を卒業論文の執筆を通して身に付けるようにする。

●到達目標

(1)卒業論文執筆計画を立て実施する

(2)卒業論文の構想を立てる

(3)卒業論文の章立てを考える

(4)学術文献検索、引用の作法、注の在り方を身につける

(5)一次資料の学術的な整理の方法を身につける

(6)卒業論文研究に関わる研究倫理について考える

●授業内容・授業計画

第1回：オリエンテーション
　卒業論文とは何か（確認）
　○○学の方法論（確認）
　卒論研究・執筆計画について
　卒業論文の評価規準・基準について
第2回～第5回：卒業論文構想発表会（連続4コマ）
　テーマに関する問題意識の整理
　予想される（期待している）結論
　研究方法の目処
　同学年他学年の学生、複数の教員との質疑応答から学ぶ
第6回：学術文献の探索的検索と収束的検索
第7回：論文の客観性の確保
　文献一覧と出典表示方法
　注の意味と注の表記方法
　直接引用と要約引用
第8回：「研究」の基本事項
　「先行研究の整理」の意義と方法
　一次資料の考え方と扱い方
第9回：卒業論文の章立て
第10回：研究上の「倫理」事項
　引用と剽窃の違い
　一次資料の整理と保管の在り方
　卒業論文中間発表会に向けて
第11回～14回：卒業論文中間発表会―章立ての仮決定のために―（連続4コマ）
　問題意識の提示

論証しようとしていること(仮の結論)
論証のための方法とその目処
章立て
これからの課題

●事前・事後学習の内容

事前学習

第1回:卒業論文計画を立てて提出する。

第2回～第5回:構想発表に向け、論文の内容やプレゼンテーションスタイルを検討する。

第6回:自分のテーマに関わる学術論文を探索的に検索し、文献一覧を作成する。

第7回:モデルとなる文献一覧の整理方法に従い、自分の卒業論文に必要な文献一覧を整備する。

第8回:自分の卒業論文に必要な「先行研究の整理」を行ってみる。

第9回:卒業論文の章立てを考える。

第10回:卒業論文中間発表の準備を行い、レジュメを作成する。

第11回～14回:卒業論文中間発表会の議論を踏まえ、自分の卒業論文研究・執筆計画を練り直す。

事後学習

第1回:卒業論文構想発表会の準備を行い、レジュメを作成する。

第2回～第5回:卒業論文構想発表会の議論を踏まえ、自分の卒業論構想を練り直す。

第6回:具体化した部分について、収束的検索により、文献一覧を充実させる。

第7回:モデルとする先行研究や学術論文を参考に、注記方法や引用スタイルなどを検討しておく。

第8回:アドバイスに基づいて、先行研究の整理方法を再検討する。

第9回:様々な先行研究や研究論文を参考にしながら、章立てを吟味する。

第10回:レジュメ、プレゼンテーションの内容やスタイルについて、複数の教員、大学院生にアドバイスを求めておく。

第11回～14回:卒業論文中間発表会の議論を踏まえ、自分の卒業論文研究・執筆計画を練り直す。

●評価方法

卒業論文中間発表会等の発表内容、議論への貢献、および、文献一覧の作成等、各回で指定する課題の内容などにより評価する。

●受講生へのコメント

卒業論文は4年間の学士課程の集大成である。履修モデルとしてのコースに対応した教育学の研究方法と専門知識を踏まえ、4年間の学修成果を基盤とした論文を完成させてほしい。また、学術情報総合センターの文献や機能を活用し、複数の教員や同学年・異学年の学生と頻繁に議論を進めながら、互いに切磋琢磨して研究を深めてほしい。

「卒業論文演習1」は授業科目のひとつであるが、この科目の演習を基盤としながら、卒業論文に主体的に取り組み、学士課程を集大成させてほしい。

●参考文献・教材

特に指定しない。

授業科目名	科目NO.	LXGEN4402	授業コード	L200020070	
卒業論文演習Ⅰ（地理学） Supervision of Graduation Thesis Ⅰ			単位数	2 単位	
授業形態	担当教員名				
演習	祖田　亮次／山﨑　孝史／木村　義成／菅野　拓／水内　俊雄				

●科目の主題

地理学の分野における卒業論文

●到達目標

地理学の分野における卒業論文の作成に向け、研究計画を作成し、必要な調査を実施することができる。

●授業内容・授業計画

＊この授業は対面を基本としつつ、状況に応じてオンラインで行う場合もある。

地理学の分野における卒業論文の執筆に向け、担当教員の指導のもと準備を行う。

●事前・事後学習の内容

事前学習:地理学の分野における卒業論文の準備

事後学習:卒論合同演習における進捗状況の報告

●評価方法

地理学の分野における卒業論文の準備状況を評価の対象とする

●受講生へのコメント

卒業に必要なすべての単位を修得し、前後期の演習を通じて担当教員から十分な指導を受けること

●参考文献・教材

教科書は使用しないが、参考文献等については担当教員を通じて適宜紹介する。

授業科目名	科目NO.	LXGEN4402	授業コード	L200020080	
卒業論文演習Ⅰ（国語国文学） Supervision of Graduation Thesis Ⅰ			単位数	2 単位	
授業形態 演習	担当教員名 丹羽　哲也／小林　直樹／久堀　裕朗／奥野　久美子／山本　真由子				

●科目の主題

卒業論文完成に向けて研究を進める。

●到達目標

研究テーマに関する資料を収集し、作品やデータを読み込んで行きながら、卒業論文の具体的な構想を練る。

●授業内容・授業計画

この授業は対面で行う。

各自のテーマに応じた指導教員の指導を受けながら、作業を進めていく。

●事前・事後学習の内容

各自の研究が大部分を占め、その成果をもとに教員と相談する。

●評価方法

平常の準備の進捗ぶりと卒業論文中間発表会における発表の出来具合による。

●受講生へのコメント

研究に行き悩んだ時に、いかに研究対象と格闘するか、そこが問われる。

●参考文献・教材

各指導教員が助言もするが、自分で先行研究や資料を見つけるのが基本である。

授業科目名	科目NO.	LXGEN4402	授業コード	L200020090	
卒業論文演習Ⅰ（中文） Supervision of Graduation Thesis Ⅰ			単位数	2 単位	
授業形態	担当教員名				
演習	張　新民／大岩本　幸次／高橋　未来				

●科目の主題

卒業論文作成に至る研究の指導。

●到達目標

中国語・中国文学・中国文化学に関する諸テーマを専門的に研究するために必要な知識や研究方法を身につけることを目標とする。また学術論文やレポートの書き方等も具体的に指導する。

●授業内容・授業計画

卒業論文の研究課題を取り扱うために必要な基礎的知識、研究方法の修得に努めさせる。同時に、関連する資料の調査、収集にも当たらせる。学生の研究課題に応じて、その分野の先行研究、関連書物の読解を行わせ、課題にかかわる問題点を整理、把握させる。またそれと並行して、主要なテクストの講読を行い、問題点に関する理解を深化させる。学生はその研究テーマに応じて、研究指導の教員の指導を受けるものとする。
（張　新民）中国文化学分野の課題に関して研究指導を行う。（高橋　未来）中国文学分野の課題に関して研究指導を行う。（大岩本　幸次）中国語学分野の課題に関して研究指導を行う。

●事前・事後学習の内容

毎回、前回の指導内容を踏まえ、卒業論文執筆のための報告内容をしっかり用意すること。

●評価方法

卒業論文中間発表会等の発表内容、議論への貢献、および、文献一覧の作成等、各回で指定する課題の内容などにより評価する。

●受講生へのコメント

卒業論文は4年間の学士課程の集大成である。履修モデルとしてのコースに対応した学問分野の研究方法と専門知識を踏まえ、4年間の学修成果を基盤とした論文を完成させてほしい。また、学術情報総合センターの文献や機能を活用し、複数の教員や同学年・異学年の学生と頻繁に議論を進めながら、互いに切磋琢磨して研究を深めてほしい。

●参考文献・教材

適宜指示する。

授業科目名	科目NO.	LXGEN4402	授業コード	L200020100	
卒業論文演習Ⅰ（英文） Supervision of Graduation Thesis Ⅰ			単位数	2 単位	
授業形態 演習	担当教員名 田中　孝信／豊田　純一／Ian　M　RICHARDS／古賀　哲男／ 内丸　公平				

●科目の主題

卒業論文は、4年間にわたる学修の成果であるが、実際の執筆にあたっては、4年次の「卒業論文演習Ⅰ」（前期）、「卒業論文演習Ⅱ」（後期）の指導によって完成させる。

前期の「卒業論文演習Ⅰ」では、1年次から3年次までの学修に基づき、卒業論文の執筆計画を立て、卒業論文構想発表会、卒業論文中間発表会といった機会を柱としながら、卒業論文に必要な知識、技能を卒業論文の執筆を通して身に付けるようにする。

●到達目標

(1)卒業論文執筆計画を立て実施する。

(2)卒業論文の構想を立てる。

(3)卒業論文の章立てを考える。

(4)学術文献検索、引用の作法、注の在り方を身につける。

(5)一次資料の学術的な整理の方法を身につける。

(6)卒業論文研究に関わる研究倫理について考える。

●授業内容・授業計画

第1回　オリエンテーション　卒業論文とは何か（確認）　英語英米文学の方法論（確認）　卒論研究・執筆計画について　卒業論文の評価規準・基準について

第2回　卒業論文構想発表会（連続4コマ）

第3回　テーマに関する問題意識の整理

第4回　予想される（期待している）結論

第5回　研究方法の目処

第6回　同学年他学年の学生、複数の教員との質疑応答から学ぶ

第7回　学術文献の探索的検索と収束的検索

第8回　文献一覧と出典表示方法　注の意味と注の表記方法　直接引用と要約引用

第9回　卒業論文の章立て

第10回　引用と剽窃の違い　一次資料の整理と保管の在り方　卒業論文中間発表会に向けて

第11回　卒業論文中間発表会　―章立ての仮決定のために―（連続4コマ）

第12回　問題意識の提示

第13回　論証しようとしていること（仮の結論）

第14回　論証のための方法とその目処　章立て　これからの課題

第15回　卒業論文中間発表会のふりかえり

●事前・事後学習の内容

第1回　卒業論文計画を立てて提出する。卒業論文構想発表会の準備を行い、レジュメを作成する。

第2回　卒業論文構想発表会の議論を踏まえ、自分の卒業論構想を練り直す。

第3回　卒業論文構想発表会の議論を踏まえ、自分の卒業論構想を練り直す。

第4回　卒業論文構想発表会の議論を踏まえ、自分の卒業論構想を練り直す。

第5回　卒業論文構想発表会の議論を踏まえ、自分の卒業論構想を練り直す。

第6回　自分のテーマに関わる学術論文を探索的に検索し、文献一覧を作成する。具体化した部分については、収束的検索により、文献一覧を充実させる。

第7回　モデルとなる文献一覧の整理方法に従い、自分の卒業論文に必要な文献一覧を整備する。

第8回　自分の卒業論文に必要な「先行研究の整理」をおこなってみる。

第9回　卒業論文の章立てを考える。

第10回　卒業論文中間発表の準備を行い、レジュメを作成する。

第11回　卒業論文中間発表会の議論を踏まえ、自分の卒業論文研究・執筆計画を練り直す。

第12回　卒業論文中間発表会の議論を踏まえ、自分の卒業論文研究・執筆計画を練り直す。

第13回　卒業論文中間発表会の議論を踏まえ、自分の卒業論文研究・執筆計画を練り直す。

第14回　卒業論文中間発表会の議論を踏まえ、自分の卒業論文研究・執筆計画を練り直す。

第15回　7月以降の卒業論文執筆計画を立てる。

●評価方法

卒業論文中間発表会等の発表内容、議論への貢献、および文献一覧の作成等、各回で指定する課題の内容などにより評価する。

●受講生へのコメント

卒業論文は4年間の学士課程の集大成である。履修モデルとしてのコースに対応した学問分野の研究方法と専門知識を踏まえ、4年間の学修成果を基盤とした論文を完成させてほしい。また、学術情報総合センターの文献や機能を活用し、複数の教員や同学年・異学年の学生と頻繁に議論を進めながら、互いに切磋琢磨して研究を深めてほしい。

「卒業論文演習Ⅰ」は授業科目のひとつであるが、この科目の演習を基盤としながら、卒業論文に主体的に取り組み、学士課程を集大成させてほしい。

●参考文献・教材

教科書：特に指定しない。

参考文献：特に指定しない。

授業科目名	科目NO.	LXGEN4402	授業コード	L200020110	
卒業論文演習Ⅰ（独仏） Supervision of Graduation Thesis Ⅰ			単位数	2 単位	
授業形態 演習	担当教員名 髙井　絹子／長谷川　健一／信國　萌／福島　祥行／白田　由樹／ 原野　葉子				

●科目の主題

卒業論文は、4年間にわたる学修の成果であるが、実際の執筆にあたっては、4年次の「卒業論文演習Ⅰ」（前期）、「卒業論文演習Ⅱ」（後期）の指導によって完成させる。前期の「卒業論文演習Ⅰ」では、1年次から3年次までの学修に基づき、卒業論文の執筆計画を立て、卒業論文構想発表会、卒業論文中間発表会といった機会を柱としながら、卒業論文に必要な知識、技能を卒業論文の執筆を通して身に付けるようにする。

●到達目標

(1)卒業論文執筆計画を立て実施する

(2)卒業論文の構想を立てる

(3)卒業論文の章立てを考える

(4)学術文献検察、引用の作法、注の在り方を身につける

(5)一次資料の学術的な整理の方法を身につける

(6)卒業論文研究に関わる研究倫理について考える

●授業内容・授業計画

第1回オリエンテーション

卒業論文とは何か（確認）

ドイツ語フランス語圏言語文化学の方法論（確認）

卒論研究・執筆計画について

卒業論文の評価規準・基準について卒業論文計画を立てて提出する

卒業論文構想発表会の準備を行い、レジュメを作成する。第2回卒業論文構想発表会（連続4コマ）

テーマに関する問題意識の整理

予想される（期待している）結論

研究方法の目処

同学年他学年の学生、複数の教員との質疑応答から学ぶ卒業論文構想発表会の議論を踏まえ、自分の卒業論構想を練り直す。第3回第4回第5回第6回学術文献の探索的検索と収束的検索自分のテーマに関わる学術論文を探索的に検索し、文献一覧を作成する。

具体化した部分については、収束的検索により、文献一覧を充実させる。第7回文献一覧と出典表示方法

注の意味と注の表記方法

直接引用と要約引用モデルとなる文献一覧の整理方法に従い、自分の卒業論文に必要な文献一覧を整備する。

第8回「先行研究の整理」の意義と方法

一次資料の考え方と扱い方自分の卒業論文に必要な「先行研究の整理」を行ってみる。第9回卒業論文の章立て

卒業論文の章立てを考える第10回引用と剽窃の違い

一次資料の整理と保管の在り方

卒業論文中間発表会に向けて卒業論文中間発表の準備を行い、レジュメを作成する。第11回卒業論文中間発表会

―章立ての仮決定のために―（連続4コマ）

問題意識の提示

論証しようとしていること（仮の結論）

論証のための方法とその目処

章立て

これからの課題卒業論文中間発表会の議論を踏まえ、自分の卒業論文研究・執筆計画を練り直す。第12回第13回第14回第15回卒業論文中間発表会のふりかえり7月以降の卒業論文執筆計画を立てる。

●事前・事後学習の内容

各回研究テーマについて考察を加える。

●評価方法

卒業論文中間発表会等の発表内容、議論への貢献、および、文献一覧の作成等、各回で指定する課題の内容などにより評価する。

●受講生へのコメント

卒業論文は4年間の学士課程の集大成である。ドイツ語フランス語圏言語文化学コースの研究方法と専門知識を踏まえ、4年間の学修成果を基盤とした論文を完成させてほしい。また、学術情報総合センターの文献や機能を活用し、複数の教員や同学年・異学年の学生と頻繁に議論を進めながら、互いに切磋琢磨して研究を深めてほしい。「卒業論文演習Ⅰ」は授業科目のひとつであるが、この科目の演習を基盤としながら、卒業論文に主体的に取り組み、学士課程を集大成させてほしい。

●参考文献・教材

とくに指定しない。

授業科目名	科目NO.	LXGEN4402	授業コード	L200020120	
卒業論文演習Ⅰ（言語） Supervision of Graduation Thesis Ⅰ			単位数	2 単位	
授業形態 講義	担当教員名 山崎　雅人／田中　一彦／辻　香代／小倉　雅明				

●科目の主題

本講義は、初めてこの学問に接する人が、多岐に渡る言語学の知識を取得することで、その知的な面白さを感じ取れるように、言語学を構成するさまざまな分野を理解することを主題とする。

●到達目標

受講生が言語学の基本概念に関する知識を習得することを到達目標とする。

●授業内容・授業計画

テキストは、受講生の既存の知識を確認しながら理解が深まるように工夫された自作教材を用いる。そこでは、受講者は与えられた課題への自分の考えをまずまとめ、後に解説を聞くことで自分の考えの当否を確認しながら、言語研究の基礎的知識を獲得してゆく。

第1回　言語学への招待　その1
第2回　言語学への招待　その2
第3回　構造について　その1
第4回　構造について　その2
第5回　研究方法について　その1
第6回　研究方法について　その2
第7回　比較言語学　その1
第8回　比較言語学　その2
第9回　類型論　その1
第10回　類型論　その2
第11回　記号論
第12回　社会言語学
第13回　心理言語学
第14回　応用言語学
第15回　言語哲学と文学

●事前・事後学習の内容

事前学習としては、予め指定された各回のテーマに関する重要な概念を意味する学術用語を、授業に先立って調べて罫線紙に書いて持って来ること。事後学習としては、授業で触れた内容を題材とした宿題を出すので、それに対する解答を準備して次の授業で提出すること。

●評価方法

受講生は、授業中の課題や指名に対して各自で考えて応答するとともに、宿題としての課題への解答を提出する。さらに、その日の講義内容に関して、「興味が持てたこと」と「理解ができなかったこと」（初めのうちは講義に関する要望を可とする場合もある）をまとめることで復習とする。こうした毎回の作業をきちんとこなすことと、規定以上の出席回数を満たすことに基づいて、成績評価を行う。

●受講生へのコメント

我々が日々関わり囲まれている「言葉の世界」には、少し見方を変えることで得られる「小さな発見」がたくさん潜んでいる。言葉は、自分自身の一部であるとともに、他者とつながる架け橋でもある。上に述べた「発見」は、自分とは何者か、自分が接する社会とはどのような存在か、という問題に何かしらの手がかりを与えてくれると思う。進んで言葉の世界へ赴き、探求の旅を楽しんでもらいたい。

●参考文献・教材

テキストは教員が準備して各回の授業に先立って配布する。参考文献は適宜教室で指示するが、以前にこの講義で用いた以下の本

は、参考図書として有用と考える。

・町田健著『町田健のたのしい言語学』2004年、ソフトバンクパブリッシング
・佐久間淳一、加藤重広、町田健著『言語学入門：これから始める人のための入門書』2004年、研究社
・星浩司著『言語学への扉』2006年、慶應義塾大学出版会
・佐久間淳一著『はじめてみよう言語学』2007年、研究社
・大津由紀雄編著『はじめて学ぶ言語学－ことばの世界をさぐる17章』2009年、ミネルヴァ書房
・大津由紀雄編、池上嘉彦著『ことばワークショップ―言語を再発見する』2011年、開拓社
・東京大学言語情報科学専攻編『言語科学の世界へ―ことばの不思議を体験する45題』2011年、東京大学出版会
・西原哲雄著『言語学入門』2012年、朝倉書店
・佐久間淳一著『フシギなくらい見えてくる! 本当にわかる言語学』2013年、日本実業出版社
・小泉政利編著『ここから始める言語学プラス統計分析（クロスセクショナル統計シリーズ）』2016年、共立出版

授業科目名	科目NO.	LXGEN4402	授業コード	L200020130	
卒業論文演習Ⅰ（表現文化） Supervision of Graduation Thesis Ⅰ				単位数	2 単位
授業形態	担当教員名				
演習	高島　葉子／小田中　章浩／海老根　剛				

●科目の主題

卒業論文は、4年間にわたる学修の成果であるが、実際の執筆にあたっては、4年次の「卒業論文演習1」（前期）、「卒業論文演習2」（後期）の指導によって完成させる。

前期の「卒業論文演習1」では、1年次から3年次までの学修に基づき、卒業論文の執筆計画を立て、卒業論文構想発表会、卒業論文中間発表会といった機会を柱としながら、卒業論文に必要な知識、技能を卒業論文の執筆を通して身に付けるようにする。

●到達目標

(1)卒業論文執筆計画を立て実施する

(2)卒業論文の構想を立てる

(3)卒業論文の章立てを考える

(4)学術文献検察、引用の作法、注の在り方を身につける

(5)一次資料の学術的な整理の方法を身につける

(6)卒業論文研究に関わる研究倫理について考える

●授業内容・授業計画

第1回　オリエンテーション

卒業論文とは何か（確認）、表現文化学の方法論（確認）、卒論研究・執筆計画について

卒業論文の評価規準・基準について

第2回～第5回　卒業論文構想発表会（連続4コマ）

テーマに関する問題意識の整理、予想される（期待している）結論、研究方法の目処、同学年他学年の学生、複数の教員との質疑応答から学ぶ

第6回　学術文献の探索的検索と収束的検索

第7回　文献一覧と出典表示方法、注の意味と注の表記方法、直接引用と要約引用

第8回　「先行研究の整理」の意義と方法、一次資料の考え方と扱い方

第9回　卒業論文の章立て

第10回　引用と剽窃の違い、一次資料の整理と保管の在り方、卒業論文中間発表会に向けて

第11回～第13回　卒業論文中間発表会―章立ての仮決定のために―（連続4コマ）

問題意識の提示、論証しようとしていること（仮の結論）、論証のための方法とその目処、章立て、これからの課題

第14回　卒業論文中間発表会のふりかえり

●事前・事後学習の内容

第1回　卒業論文計画を立てて提出する。卒業論文構想発表会の準備を行い、レジュメを作成する。

第2回～第5回　卒業論文構想発表会の議論を踏まえ、自分の卒業論構想を練り直す。

第6回　卒業論文構想発表会の議論を踏まえ、自分の卒業論構想を練り直す。

第7回　モデルとなる文献一覧の整理方法に従い、自分の卒業論文に必要な文献一覧を整備する。

第8回　自分の卒業論文に必要な「先行研究の整理」を行ってみる。

第9回　卒業論文の章立てを考える。

第10回　卒業論文中間発表の準備を行い、レジュメを作成する。

第11回～第14回　卒業論文中間発表会の議論を踏まえ、自分の卒業論文研究・執筆計画を練り直す。

第15回　7月以降の卒業論文執筆計画を立てる。

モデルとなる文献一覧の整理方法に従い、自分の卒業論文に必要な文献一覧を整備する。

●評価方法

卒業論文中間発表会等の発表内容、議論への貢献、および、文献一覧の作成等、各回で指定する課題の内容などにより評価する。

●受講生へのコメント

卒業論文は4年間の学士課程の集大成である。履修モデルとしてのコースに対応した学問分野（表現文化学、アジア文化学、文化資源学）の研究方法と専門知識を踏まえ、4年間の学修成果を基盤とした論文を完成させてほしい。また、学術情報総合センターの文献や機能を活用し、複数の教員や同学年・異学年の学生と頻繁に議論を進めながら、互いに切磋琢磨して研究を深めてほしい。

「卒業論文演習1」は授業科目のひとつであるが、この科目の演習を基盤としながら、卒業論文に主体的に取り組み、学士課程を集大成させてほしい。

●参考文献・教材

特に指定しない。

授業科目名	科目NO.	LXGEN4403	授業コード	L200030010	
卒業論文演習Ⅱ（哲学） Supervision of Graduation Thesis Ⅱ			単位数	2 単位	
授業形態	担当教員名				
演習	仲原　孝／高梨　友宏／土屋　貴志／佐金　武				

●科目の主題

卒業論文は、4年間にわたる学修の成果である。卒業論文の執筆は、4年次の「卒業論文演習1」（前期）、「卒業論文演習2」（後期）によって指導を受けながら進める。

後期の「卒業論文演習2」では、卒業論文の仕上げに向けて、卒業論文中間発表会などの機会を柱としながら、卒業論文に必要な知識・技能を身につける。

●到達目標

(1) 卒業論文の評価規準と基準を知る

(2) 執筆途上において、その時点の自分の卒業論文を評価基準に準拠して点検する

(3) 点検の結果を踏まえ、卒業論文計画・執筆計画を修正しながら卒業論文を完成させる

●授業内容・授業計画

第1回　　卒業論文の進捗状況の報告

第2回　　卒業論文の評価基準の確認

第3～6回　　卒業論文中間発表会（4コマ連続）

完成に向けての執筆方針の確認

（研究方法論、課題設定、先行研究の整理、 章立て等）

完成に向けての研究・執筆計画

第7回　　卒業論文中間発表会の振り返り

第8回　　課題の背景を扱う部分についての点検

第9回　　先行研究の整理を扱う部分について点検

第10回　　主に一次資料を扱う部分についての点検

第11回　　論文全体の結論に直結する部分の論理展開についての点検

第12回　　具体例の吟味と抽象的な考察の往還についての点検

第13回　　説得力ある文章に関する点検

第14回　　典拠を示しながら論述する部分の点検。 注、文献一覧等の表記を含む。

第15回　　研究倫理の側面からの卒業論文の点検

●事前・事後学習の内容

第1回　卒業論文研究進捗状況の報告レジュメ提出。

第2回　卒業論文中間発表の準備を行い、レジュメを作成する。

第3～6回　卒業論文中間発表会の議論を踏まえ、自分の卒業論研究・執筆計画を練り直す。

第7回　完成までの期間の研究・執筆計画を立てる

第8回　点検の対象になる部分を執筆する。点検を受けた部分を修正し、補足ための研究計画を立てる。

第9回　点検の対象になる部分を執筆する。点検を受けた部分を修正し、補足ための研究計画を立てる。

第10回　点検の対象になる部分を執筆する。点検を受けた部分を修正し、補足ための研究計画を立てる。

第11回　点検の対象になる部分を執筆する。点検を受けた部分を修正し、補足ための研究計画を立てる。

第12回　点検の対象になる部分を執筆する。点検を受けた部分を修正し、補足ための研究計画を立てる。

第13回　点検の対象になる部分を執筆する。点検を受けた部分を修正し、補足ための研究計画を立てる。

第14回　点検の対象になる部分を執筆する。点検を受けた部分を修正し、補足ための研究計画を立てる。

第15回　卒業論文作成全体を通しての振り返り。振り返りのための発表の準備をする。

●評価方法

卒業論文中間発表会等の発表内容、議論への貢献、および、文献一覧の作成等、各回で指定する課題の内容などにより評価する。「卒業論文演習2」の評価は、「卒業論文」の評価と同時期に行われるが、後者が論文の内容そのものの質を評価するのに対して、前者は、論文作成過程の学修状況が評価の対象となる。ただし、仮に「卒業論文」が不可となった場合は、「卒業論文演習2」も不可となる。

●受講生へのコメント

卒業論文は 4年間の学士課程の集大成である。広義の哲学（哲学史・宗教学・倫理学・美学などを含む）の研究方法と専門知識を踏まえ、4年間の学修成果を基盤とした論文を完成させてほしい。また、学術情報総合センターの文献や機能を活用し、複数の教員や同学年・異学年の学生と頻繁に議論を進めながら、互いに切磋琢磨して研究を深めてほしい。

「卒業論文演習2」での演習を基盤としながら、卒業論文に主体的に取り組み、学士課程を集大成させてほしい。

●参考文献・教材

特に指定しない。

授業科目名	科目NO.	LXGEN4403	授業コード	L200030020	
卒業論文演習Ⅱ（日本史） Supervision of Graduation ThesisⅡ			単位数	2 単位	
授業形態 演習	担当教員名 仁木　宏／岸本　直文／佐賀　朝／磐下　徹／齊藤　紘子				

●科目の主題

卒業論文は、4年間にわたる学修の成果であるが、実際の執筆にあたっては、4年次の「卒業論文演習Ⅰ」（前期）、「卒業論文演習Ⅱ」（後期）の指導によって完成させる。

後期の「卒業論文演習Ⅱ」では、卒業論文の仕上げに向けて、卒業論文中間発表会の機会を柱としながら、卒業論文に必要な知識、技能を卒業論文の執筆を通して身に付けるようにする。

●到達目標

(1) 卒業論文の評価規準と基準を知る

(2) 執筆途上において、その時点の自分の卒業論文を評価基準に準拠して点検する

(3) 点検の結果を踏まえ、卒業論文計画・執筆計画を修正しながら卒業論文を完成させる

●授業内容・授業計画

第1回　卒業論文の進捗状況の報告
第2回　卒業論文の評価基準の確認
第3～6回　　卒業論文中間発表会（4コマ連続）
　完成に向けての執筆方針の確認
（研究方法論、課題設定、先行研究の整理　章立て等）
　完成に向けての研究・執筆計画
第7回　卒業論文中間発表会の振り返り
第8回　　課題の背景を扱う部分についての点検
第9回　　先行研究の整理を扱う部分について点検
第10回　主に一次資料を扱う部分についての点検
第11回　論文全体の結論に直結する部分の論理展開についての点検
第12回　具体例の吟味と抽象的な考察
第13回　　説得力ある文章に関する点検
第14回　典拠を示しながら論述する部分の点検

●事前・事後学習の内容

授業の前後に自習する。

●評価方法

卒業論文中間発表会等の発表内容、議論への貢献、および、文献一覧の作成等、各回で指定する課題の内容などにより評価する。「卒業論文演習Ⅱ」の評価は、「卒業論文」の評価と同時期に行われるが、後者が論文の内容そのものの質が評価されるのに対して、前者は、論文作成過程の学修状況が評価の対象となる。ただし、仮に「卒業論文」が不可となった場合は、「卒業論文演習Ⅱ」も不可となる。

●受講生へのコメント

卒論作成の最終段階である。まだ就職活動に従事している者もいるかもしれないが、集中してがんばってほしい。

●参考文献・教材

適宜、指示する。

授業科目名	科目NO.	LXGEN4403	授業コード	L200030030	
卒業論文演習Ⅱ（世界史） Supervision of Graduation Thesis Ⅱ			単位数	2 単位	
授業形態 演習	担当教員名 北村　昌史／平田　茂樹／渡辺　健哉／上野　雅由樹／濱本　真実／ 草生　久嗣／向井　伸哉				

●科目の主題

卒業論文は、4年間にわたる学修の成果であるが、実際の執筆にあたっては、4年次の「卒業論文演習1」（前期）、「卒業論文演習2」（後期）の指導によって完成させる。

後期の「卒業論文演習2」では、卒業論文の仕上げに向けて、卒業論文中間発表会といった機会を柱としながら、卒業論文に必要な知識、技能を卒業論文の執筆を通して身に付けるようにする。

●到達目標

(1) 卒業論文の評価規準と基準を知る

(2) 執筆途上において、その時点の自分の卒業論文を評価基準に準拠して点検する

(3) 点検の結果を踏まえ、卒業論文計画・執筆計画を修正しながら卒業論文を完成させる

●授業内容・授業計画

第1回　卒業論文の進捗状況の報告

第2回　卒業論文の評価基準の確認

第3回～第6回

　　卒業論文中間発表会（4コマ連続）

　　完成に向けての執筆方針の確認

　　（研究方法論、課題設定、先行研究の整理、章立て等）

　　完成に向けての研究・執筆計画

第7回　卒業論文中間発表会の振り返り

第8回　課題の背景を扱う部分についての点検

第9回　先行研究の整理を扱う部分について点検

第10回　主に一次資料を扱う部分についての点検

第11回　論文全体の結論に直結する部分の論理展開についての点検

第12回　具体例の吟味と抽象的な考察の往還についての点検

第13回　説得力ある文章に関する点検

第14回　典拠を示しながら論述する部分の点検

　　含　注、文献一覧等の表記

第15回　研究倫理の側面からの卒業論文の点検

　　卒業論文作成全体を通しての振り返り

●事前・事後学習の内容

第1回　卒業論文研究進捗状況の報告レジュメ提出

第2回　卒業論文中間発表の準備を行い、レジュメを作成する。

第3回～第6回　卒業論文中間発表会の議論を踏まえ、自分の卒業論研究・執筆計画を練り直す。

第7回　完成までの期間の研究・執筆計画を立てる

第8回　点検の対象になる部分を執筆する。点検を受けた部分を修正し、補足ための研究計画を立てる。

第9回　点検の対象になる部分を執筆する。点検を受けた部分を修正し、補足ための研究計画を立てる。

第10回　点検の対象になる部分を執筆する。点検を受けた部分を修正し、補足ための研究計画を立てる。

第11回　点検の対象になる部分を執筆する。点検を受けた部分を修正し、補足ための研究計画を立てる。

第12回　点検の対象になる部分を執筆する。点検を受けた部分を修正し、補足ための研究計画を立てる。
第13回　点検の対象になる部分を執筆する。点検を受けた部分を修正し、補足ための研究計画を立てる。
第14回　点検の対象になる部分を執筆する。点検を受けた部分を修正し、補足ための研究計画を立てる。
第15回　振り返りのための発表の準備をする。

●評価方法

卒業論文中間発表会等の発表内容、議論への貢献、および、文献一覧の作成等、各回で指定する課題の内容などにより評価する。「卒業論文演習2」の評価は、「卒業論文」の評価と同時期に行われるが、後者が論文の内容そのものの質が評価されるのに対して、前者は、論文作成過程の学修状況が評価の対象となる。ただし、仮に「卒業論文」が不可となった場合は、「卒業論文演習2」も不可となる。

●受講生へのコメント

卒業論文は4年間の学士課程の集大成である。履修モデルとしてのコースに対応した学問分野（世界史、日本史）の研究方法と専門知識を踏まえ、4年間の学修成果を基盤とした論文を完成させてほしい。また、学術情報総合センターの文献や機能を活用し、複数の教員や同学年・異学年の学生と頻繁に議論を進めながら、互いに切磋琢磨して研究を深めてほしい。
「卒業論文演習2」は授業科目のひとつであるが、この科目の演習を基盤としながら、卒業論文に主体的に取り組み、学士課程を集大成させてほしい。

●参考文献・教材

指定なし

授業科目名	科目NO.	LXGEN4403	授業コード	L200030040
卒業論文演習Ⅱ（社会学） Supervision of Graduation ThesisⅡ			単位数	2 単位
授業形態	担当教員名			
演習	川野　英二／石田　佐恵子／伊地知　紀子／笹島　秀晃／平山　亮			

●科目の主題

卒業論文は、4年間にわたる学修の成果であるが、実際の執筆にあたっては、4年次の「卒業論文演習1」（前期）、「卒業論文演習2」（後期）の指導によって完成させる。 後期の「卒業論文演習2」では、卒業論文の仕上げに向けて、卒業論文中間発表会といった機会を柱としながら、卒業論文に必要な知識、技能を卒業論文の執筆を通して身に付けるようにする。

●到達目標

(1)卒業論文の評価規準と基準を知る

(2)執筆途上において、その時点の自分の卒業論文を評価基準に準拠して点検する

(3)点検の結果を踏まえ、卒業論文計画・執筆計画を修正しながら卒業論文を完成させる

●授業内容・授業計画

各自の問題意識にそった発表を行う。

第1回　後期のオリエンテーション
第2回　受講生による報告と討議(調査データの分析や解釈等)
第3回　受講生による報告と討議(調査データの分析や解釈等)
第4回　受講生による報告と討議(調査データの分析や解釈等)
第5回　受講生による報告と討議(調査データの分析や解釈等)
第6回　受講生による報告と討議(論文全体の記述について)
第7回　受講生による報告と討議(論文全体の記述について)
第8回　受講生による報告と討議(論文全体の記述について)
第9回　受講生による報告と討議(論文全体の記述について)
第10回　受講生による報告と討議(結論の導き方、文献リスト等体裁)
第11回　受講生による報告と討議(結論の導き方、文献リスト等体裁)
第12回　受講生による報告と討議(結論の導き方、文献リスト等体裁)
第13回　受講生による報告と討議(結論の導き方、文献リスト等体裁)
第14回　受講生による報告と討議(卒業論文の完成と提出、報告会)
第15回　卒業論文　口述試験

●事前・事後学習の内容

事前学習:レジュメを作成する。

事後学習:指摘された点を確認する。

●評価方法

平常点(出席と参加態度、レジュメ)

●受講生へのコメント

社会学コースの4回生を教員毎にクラス分けする。クラス分けは、基本的に「卒業論文演習1」と同じ。

●参考文献・教材

随時指示する。

授業科目名	科目NO.	LXGEN4403	授業コード	L200030050	
卒業論文演習Ⅱ（心理学） Supervision of Graduation ThesisⅡ			単位数	2 単位	
授業形態	担当教員名				
演習	山　祐嗣／川邉　光一／佐伯　大輔／橋本　博文				

●科目の主題

卒業論文は、4年間にわたる学修の成果であるが、実際の執筆にあたっては、4年次の「卒業論文演習Ⅰ」（前期）、「卒業論文演習2」（後期）の指導によって完成させる。

後期の「卒業論文演習Ⅱ」では、卒業論文の仕上げに向けて、卒業論文指導会といった機会を柱としながら、卒業論文に必要な知識、技能を卒業論文の執筆を通して身に付けるようにする。

●到達目標

(1) 卒業論文の評価規準と基準を知る

(2) 執筆途上において、その時点の自分の卒業論文を評価基準に準拠して点検する

(3) 点検の結果を踏まえ、卒業論文計画・執筆計画を修正しながら卒業論文を完成させる

●授業内容・授業計画

1実験・調査の進捗状況の報告
2卒業論文の評価基準の確認
3実験・調査中間発表（4コマ連続）
　完成に向けての執筆方針の確認
（研究方法論、課題設定、先行研究の整理
　章立て等）
　完成に向けての研究・執筆計画
4567実験・調査中間発表の反省
8課題の背景を扱う部分についての点検
9先行研究の整理を扱う部分について点検
10実験・調査結果発表
11論文全体の結論に直結する部分の論理展開についての点検
12具体例の吟味と抽象的な考察の往還についての点検
13説得力ある文章に関する点検
14典拠を示しながら論述する部分の点検
　含　注、文献一覧等の表記
15研究倫理の側面からの卒業論文の点検
卒業論文作成全体を通しての振り返り

●事前・事後学習の内容

受講者は、研究テーマに関連する文献や研究計画の発表、研究結果の中間報告を行うため、事前にレジメを準備する。授業時に受けたコメントや議論の内容を次回の発表に生かすようにする。

●評価方法

卒業論文発表の発表内容、議論への貢献、および、文献一覧の作成等、各回で指定する課題の内容などにより評価する。

「卒業論文演習Ⅱ」の評価は、「卒業論文」の評価と同時期に行われるが、後者が論文の内容そのものの質が評価されるのに対して、前者は、論文作成過程の学修状況が評価の対象となる。ただし、仮に「卒業論文」が不可となった場合は、「卒業論文演習Ⅱ」も不可となる。

●受講生へのコメント

卒業論文は4年間の学士課程の集大成である。履修モデルとしてのコースに対応した学問分野（心理学）の研究方法と専門知識を踏

まえ、4年間の学修成果を基盤とした論文を完成させてほしい。また、学術情報総合センターの文献や機能を活用し、複数の教員や同学年・異学年の学生と頻繁に議論を進めながら、互いに切磋琢磨して研究を深めてほしい。
「卒業論文演習Ⅱ」は授業科目のひとつであるが、この科目の演習を基盤としながら、卒業論文に主体的に取り組み、学士課程を集大成させてほしい。

●参考文献・教材

適宜、紹介する。

授業科目名	科目NO.	LXGEN4403	授業コード	L200030060	
卒業論文演習Ⅱ（教育学） Supervision of Graduation Thesis Ⅱ			単位数	2 単位	
授業形態	担当教員名				
演習	添田　晴雄／辻野　けんま／島田　希				

●科目の主題

卒業論文は、4年間にわたる学修の成果であるが、実際の執筆にあたっては、4年次の「卒業論文演習1」（前期）、「卒業論文演習2」（後期）の指導によって完成させる。

後期の「卒業論文演習2」では、卒業論文の仕上げに向けて、卒業論文中間発表会といった機会を柱としながら、卒業論文に必要な知識、技能を卒業論文の執筆を通して身に付けるようにする。

●到達目標

(1) 卒業論文の評価規準と基準を知る

(2) 執筆途上において、その時点の自分の卒業論文を評価基準に準拠して点検する

(3) 点検の結果を踏まえ、卒業論文計画・執筆計画を修正しながら卒業論文を完成させる

●授業内容・授業計画

第1回：卒業論文の進捗状況の報告

第2回：卒業論文の評価基準の確認

第3回～第6回：卒業論文中間発表会（4コマ連続）

卒業論文完成に向けての執筆方針の確認

・研究方法論

・課題設定、先行研究の整理

・章立て

・完成に向けての研究・執筆計画

第7回：卒業論文中間発表会の振り返り

第8回：課題の背景を扱う部分についての点検

第9回：先行研究の整理を扱う部分について点検

第10回：主に一次資料を扱う部分についての点検

第11回：論文全体の結論に直結する部分の論理展開についての点検

第12回：説得力ある文章に関する点検

第13回：典拠を示しながら論述する部分の点検

第14回：研究倫理の側面からの卒業論文の点検

●事前・事後学習の内容

事前学習

第1回：卒業論文研究進捗状況の報告レジュメを作成する。

第2回：卒業論文中間発表の準備を行い、レジュメを作成する。

第3回～第6回：他の報告者の議論に参加する。

第7回：完成までの期間の研究・執筆計画を立てる。

第8回：点検の対象になる部分を執筆する。

第9回：点検の対象になる部分を執筆する。

第10回：点検の対象になる部分を執筆する。

第11回：点検の対象になる部分を執筆する。

第12回：点検の対象になる部分を執筆する。

第13回：点検の対象になる部分を執筆する。

第14回:これまでの点検を総括的に振り返り、論文に反映させる。

事後学習

第1回:担当教員のアドバイスに基づき、今後の計画を立てる

第2回:担当教員、周囲のアドバイスを参考に、中間発表のレジュメを見直しておく。

第3回～第6回:卒業論文中間発表会の議論を踏まえ、自分の卒業論研究・執筆計画を練り直す。

第7回:指導を参考に、具体的な資料収集・調査の予定を立てる。

第8回:点検を受けた部分を修正し、補足ための研究計画を立てる。

第9回:点検を受けた部分を修正し、補足ための研究計画を立てる。

第10回:点検を受けた部分を修正し、補足ための研究計画を立てる。

第11回:点検を受けた部分を修正し、補足ための研究計画を立てる。

第12回:点検を受けた部分を修正し、補足ための研究計画を立てる。

第13回:点検を受けた部分を修正し、補足ための研究計画を立てる。

第14回:これまでの指導、発表会での議論を振り返り、論文完成に向けて執筆する。

●評価方法

卒業論文中間発表会等の発表内容、議論への貢献、および、文献一覧の作成等、各回で指定する課題の内容などにより評価する。「卒業論文演習2」の評価は、「卒業論文」の評価と同時期に行われるが、後者が論文の内容そのものの質が評価されるのに対して、前者は、論文作成過程の学修状況が評価の対象となる。ただし、仮に「卒業論文」が不可となった場合は、「卒業論文演習2」も不可となる

●受講生へのコメント

卒業論文は4年間の学士課程の集大成である。履修モデルとしてのコースに対応した教育学の研究方法と専門知識を踏まえ、4年間の学修成果を基盤とした論文を完成させてほしい。また、学術情報総合センターの文献や機能を活用し、複数の教員や同学年・異学年の学生と頻繁に議論を進めながら、互いに切磋琢磨して研究を深めてほしい。

「卒業論文演習2」は授業科目のひとつであるが、この科目の演習を基盤としながら、卒業論文に主体的に取り組み、学士課程を集大成させてほしい。

●参考文献・教材

特に指定しない。

授業科目名	科目NO.	LXGEN4403	授業コード	L200030070	
卒業論文演習Ⅱ（地理学） Supervision of Graduation ThesisⅡ			単位数	2 単位	
授業形態	担当教員名				
演習	祖田　亮次／山﨑　孝史／木村　義成／菅野　拓／水内　俊雄				

●科目の主題

地理学の分野における卒業論文

●到達目標

地理学の分野における卒業論文を作成し、期日までに提出することができる。

●授業内容・授業計画

＊この授業は対面を基本としつつ、状況に応じてオンラインで行う場合もある。

地理学の分野における卒業論文の完成に向け、担当教員の指導のもと準備を行う。

●事前・事後学習の内容

事前学習:地理学の分野における卒業論文の執筆

事後学習:卒業論文進捗状況の報告

●評価方法

地理学の分野における卒業論文の執筆状況を評価の対象とする

●受講生へのコメント

卒業に必要なすべての単位を修得し、前後期の演習を通じて担当教員から十分な指導を受けること

●参考文献・教材

教科書は使用しないが、参考文献等については担当教員を通じて適宜紹介する。

授業科目名	科目NO.	LXGEN4403	授業コード	L200030080	
卒業論文演習Ⅱ（国語国文学） Supervision of Graduation ThesisⅡ			単位数	2 単位	
授業形態	担当教員名				
演習	丹羽　哲也／小林　直樹／久堀　裕朗／奥野　久美子／山本　真由子				

●科目の主題

卒業論文の執筆。

●到達目標

卒業論文を完成させる。

●授業内容・授業計画

この授業は対面で行う。

各自のテーマに応じた指導教員の指導を受けながら、作業を進め、完成させる。

●事前・事後学習の内容

各自の研究が大部分を占め、その成果をもとに教員と相談する。

●評価方法

平常の研究の進捗ぶりと卒業論文中間発表会における発表の出来具合による。

●受講生へのコメント

資料の解釈や論文の構成など、最後まで粘り強く修正し続けることが重要である。

●参考文献・教材

先行研究や資料の探索を続ける。

授業科目名	科目NO.	LXGEN4403	授業コード	L200030090	
卒業論文演習Ⅱ（中文） Supervision of Graduation ThesisⅡ			単位数	2 単位	
授業形態	担当教員名				
演習	張　新民／大岩本　幸次／高橋　未来				

●科目の主題

卒業論文作成に至る研究の指導。

●到達目標

中国語学・中国文学・中国文化学に関して、専門的に研究する上で必須の知識や方法を身につけることを目標とする。また学術論文やレポートの書き方等を具体的に指導する。

●授業内容・授業計画

研究指導Ⅰを受けて、収集した資料、文献の読解と整理を行わせ、主要なテクストの分析を進めさせると同時に、研究課題に即した論述のあり方を指導し、卒業論文の完成を目指す。学生はその研究テーマに応じて、研究指導の教員の指導を受けるものとする。

（張　新民）中国文化学分野の課題に関して研究指導を行う。（高橋　未来）中国文学分野の課題に関して研究指導を行う。（大岩本　幸次）中国語学分野の課題に関して研究指導を行う。

●事前・事後学習の内容

毎回、前回の指導内容を踏まえ、卒業論文執筆のための報告内容をしっかり用意すること。

●評価方法

卒業論文中間発表会等の発表内容、議論への貢献、および、文献一覧の作成等、各回で指定する課題の内容などにより評価する。「卒業論文演習2」の評価は、「卒業論文」の評価と同時期に行われるが、後者が論文の内容そのものの質が評価されるのに対して、前者は、論文作成過程の学修状況が評価の対象となる。ただし、仮に「卒業論文」が不可となった場合は、「卒業論文演習2」も不可となる。

●受講生へのコメント

卒業論文は4年間の学士課程の集大成である。履修モデルとしてのコースに対応した学問分野の研究方法と専門知識を踏まえ、4年間の学修成果を基盤とした論文を完成させてほしい。また、学術情報総合センターの文献や機能を活用し、複数の教員や同学年・異学年の学生と頻繁に議論を進めながら、互いに切磋琢磨して研究を深めてほしい。

●参考文献・教材

適宜指示する。

授業科目名	科目NO.	LXGEN4403	授業コード	L200030100	
卒業論文演習Ⅱ（英文） Supervision of Graduation ThesisⅡ			単位数	2 単位	
授業形態 演習	担当教員名 田中　孝信／豊田　純一／Ian　M　RICHARDS／古賀　哲男／ 内丸　公平				

●科目の主題

卒業論文は、4年間にわたる学修の成果であるが、実際の執筆にあたっては、4年次の「卒業論文演習Ⅰ」（前期）、「卒業論文演習Ⅱ」（後期）の指導によって完成させる。

後期の「卒業論文演習Ⅱ」では、卒業論文の仕上げに向けて、卒業論文中間発表会といった機会を柱としながら、卒業論文に必要な知識、技能を卒業論文の執筆を通して身に付けるようにする。

●到達目標

(1) 卒業論文の評価規準と基準を知る。

(2) 執筆途上において、その時点の自分の卒業論文を評価基準に準拠して点検する。

(3) 点検の結果を踏まえ、卒業論文計画・執筆計画を修正しながら卒業論文を完成させる。

●授業内容・授業計画

第1回　卒業論文の進捗状況の報告
第2回　卒業論文の評価基準の確認
第3回　卒業論文中間発表会（4コマ連続）
第4回　　完成に向けての執筆方針の確認
第5回　　（研究方法論、課題設定、先行研究の整理章立て等）
第6回　　完成に向けての研究・執筆計画
第7回　卒業論文中間発表会の振り返り
第8回　課題の背景を扱う部分についての点検
第9回　先行研究の整理を扱う部分について点検
第10回　主に一次資料を扱う部分についての点検
第11回　論文全体の結論に直結する部分の論理展開についての点検
第12回　具体例の吟味と抽象的な考察の往還についての点検
第13回　説得力ある文章に関する点検
第14回　典拠を示しながら論述する部分の点検　含　注・文献一覧等の表記
第15回　研究倫理の側面からの卒業論文の点検　卒業論文作成全体を通しての振り返り

●事前・事後学習の内容

第1回　卒業論文研究進捗状況の報告レジュメ提出。
第2回　卒業論文中間発表の準備を行い、レジュメを作成する。
第3回　卒業論文中間発表会の議論を踏まえ、自分の卒業論研究・執筆計画を練り直す。
第4回　卒業論文中間発表会の議論を踏まえ、自分の卒業論研究・執筆計画を練り直す。
第5回　卒業論文中間発表会の議論を踏まえ、自分の卒業論研究・執筆計画を練り直す。
第6回　卒業論文中間発表会の議論を踏まえ、自分の卒業論研究・執筆計画を練り直す。
第7回　完成までの期間の研究・執筆計画を立てる。
第8回　　点検の対象になる部分を執筆する。点検を受けた部分を修正し、補足ための研究計画を立てる。
第9回　　点検の対象になる部分を執筆する。点検を受けた部分を修正し、補足ための研究計画を立てる。
第10回　点検の対象になる部分を執筆する。点検を受けた部分を修正し、補足ための研究計画を立てる。
第11回　点検の対象になる部分を執筆する。点検を受けた部分を修正し、補足ための研究計画を立てる。

第12回　点検の対象になる部分を執筆する。点検を受けた部分を修正し、補足ための研究計画を立てる。
第13回　点検の対象になる部分を執筆する。点検を受けた部分を修正し、補足ための研究計画を立てる。
第14回　点検の対象になる部分を執筆する。点検を受けた部分を修正し、補足ための研究計画を立てる。
第15回　振り返りのための発表の準備をする。

●評価方法

卒業論文中間発表会等の発表内容、議論への貢献、および、文献一覧の作成等、各回で指定する課題の内容などにより評価する。「卒業論文演習Ⅱ」の評価は、「卒業論文」の評価と同時期に行われるが、後者が論文の内容そのものの質が評価されるのに対して、前者は、論文作成過程の学修状況が評価の対象となる。ただし、仮に「卒業論文」が不可となった場合は、「卒業論文演習Ⅱ」も不可となる。

●受講生へのコメント

卒業論文は4年間の学士課程の集大成である。履修モデルとしてのコースに対応した学問分野の研究方法と専門知識を踏まえ、4年間の学修成果を基盤とした論文を完成させてほしい。また、学術情報総合センターの文献や機能を活用し、複数の教員や同学年・異学年の学生と頻繁に議論を進めながら、互いに切磋琢磨して研究を深めてほしい。

「卒業論文演習Ⅱ」は授業科目のひとつであるが、この科目の演習を基盤としながら、卒業論文に主体的に取り組み、学士課程を集大成させてほしい。

●参考文献・教材

教科書：特に指定しない。

参考文献：特に指定しない。

授業科目名	科目NO.	LXGEN4403	授業コード	L200030110	
卒業論文演習Ⅱ（独仏） Supervision of Graduation ThesisⅡ			単位数	2 単位	
授業形態 演習	担当教員名 髙井　絹子／長谷川　健一／信國　萌／福島　祥行／白田　由樹／ 原野　葉子				

●科目の主題

卒業論文は、4年間にわたる学修の成果であるが、実際の執筆にあたっては、4年次の「卒業論文演習Ⅰ」（前期）、「卒業論文演習Ⅱ」（後期）の指導によって完成させる。後期の「卒業論文演習Ⅱ」では、卒業論文の仕上げに向けて、卒業論文中間発表会といった機会を柱としながら、卒業論文に必要な知識、技能を卒業論文の執筆を通して身に付けるようにする。

●到達目標

(1)卒業論文の評価規準と基準を知る

(2)執筆途上において、その時点の自分の卒業論文を評価基準に準拠して点検する

(3)点検の結果を踏まえ、卒業論文計画・執筆計画を修正しながら卒業論文を完成させる

●授業内容・授業計画

第1回卒業論文の進捗状況の報告卒業論文研究進捗状況の報告レジュメ提出

第2回卒業論文の評価基準の確認卒業論文中間発表の準備を行い、レジュメを作成する。

第3回卒業論文中間発表会（4コマ連続）

完成に向けての執筆方針の確認

（研究方法論、課題設定、先行研究の整理

章立て等）

完成に向けての研究・執筆計画卒業論文中間発表会の議論を踏まえ、自分の卒業論研究・執筆計画を練り直す。

第4回第5回第6回第7回

卒業論文中間発表会の振り返り完成までの期間の研究・執筆計画を立てる第8回課題の背景を扱う部分についての点検点検の対象になる部分を執筆する。点検を受けた部分を修正し、補足ための研究計画を立てる。

第9回先行研究の整理を扱う部分について点検点検の対象になる部分を執筆する。点検を受けた部分を修正し、補足ための研究計画を立てる。

第10回主に一次資料を扱う部分についての点検点検の対象になる部分を執筆する。点検を受けた部分を修正し、補足ための研究計画を立てる。

第11回論文全体の結論に直結する部分の論理展開についての点検点検の対象になる部分を執筆する。点検を受けた部分を修正し、補足ための研究計画を立てる。

第12回具体例の吟味と抽象的な考察の往還についての点検点検の対象になる部分を執筆する。点検を受けた部分を修正し、補足ための研究計画を立てる。

第13回説得力ある文章に関する点検点検の対象になる部分を執筆する。点検を受けた部分を修正し、補足ための研究計画を立てる。

第14回典拠を示しながら論述する部分の点検

含　注、文献一覧等の表記点検の対象になる部分を執筆する。点検を受けた部分を修正し、補足ための研究計画を立てる。第15回研究倫理の側面からの卒業論文の点検

卒業論文作成全体を通しての振り返り振り返りのための発表の準備をする。

●事前・事後学習の内容

各回卒論のテーマについて考察を行う。

●評価方法

卒業論文中間発表会等の発表内容、議論への貢献、および、文献一覧の作成等、各回で指定する課題の内容などにより評価する。「卒業論文演習Ⅱ」の評価は、「卒業論文」の評価と同時期に行われるが、後者が論文の内容そのものの質が評価されるのに対して、前者は、論文作成過程の学修状況が評価の対象となる。ただし、仮に「卒業論文」が不可となった場合は、「卒業論文演習Ⅱ」も不可となる。

●受講生へのコメント

卒業論文は4年間の学士課程の集大成である。ドイツ語フランス語圏言語文化学の研究方法と専門知識を踏まえ、4年間の学修成果を基盤とした論文を完成させてほしい。また、学術情報総合センターの文献や機能を活用し、複数の教員や同学年・異学年の学生と頻繁に議論を進めながら、互いに切磋琢磨して研究を深めてほしい。「卒業論文演習Ⅱ」は授業科目のひとつであるが、この科目の演習を基盤としながら、卒業論文に主体的に取り組み、学士課程を集大成させてほしい。

●参考文献・教材

とくに指定しない。

授業科目名	科目NO.	LXGEN4403	授業コード	L200030120	
卒業論文演習Ⅱ（言語） Supervision of Graduation Thesis Ⅱ			単位数	2 単位	
授業形態 講義	担当教員名 山崎　雅人／田中　一彦／辻　香代／小倉　雅明				

●科目の主題

本講義は、初めてこの学問に接する人が、多岐に渡る言語学の知識を取得することで、その知的な面白さを感じ取れるように、言語学を構成するさまざまな分野を理解することを主題とする。

●到達目標

受講生が言語学の基本概念に関する知識を習得することを到達目標とする。

●授業内容・授業計画

テキストは、受講生の既存の知識を確認しながら理解が深まるように工夫された自作教材を用いる。そこでは、受講者は与えられた課題への自分の考えをまずまとめ、後に解説を聞くことで自分の考えの当否を確認しながら、言語研究の基礎的知識を獲得してゆく。

第1回　言語学への招待　その1
第2回　言語学への招待　その2
第3回　構造について　その1
第4回　構造について　その2
第5回　研究方法について　その1
第6回　研究方法について　その2
第7回　比較言語学　その1
第8回　比較言語学　その2
第9回　類型論　その1
第10回　類型論　その2
第11回　記号論
第12回　社会言語学
第13回　心理言語学
第14回　応用言語学
第15回　言語哲学と文学

●事前・事後学習の内容

事前学習としては、予め指定された各回のテーマに関する重要な概念を意味する学術用語を、授業に先立って調べて罫線紙に書いて持って来ること。事後学習としては、授業で触れた内容を題材とした宿題を出すので、それに対する解答を準備して次の授業で提出すること。

●評価方法

受講生は、授業中の課題や指名に対して各自で考えて応答するとともに、宿題としての課題への解答を提出する。さらに、その日の講義内容に関して、「興味が持てたこと」と「理解ができなかったこと」（初めのうちは講義に関する要望を可とする場合もある）をまとめることで復習とする。こうした毎回の作業をきちんとこなすことと、規定以上の出席回数を満たすことに基づいて、成績評価を行う。

●受講生へのコメント

我々が日々関わり囲まれている「言葉の世界」には、少し見方を変えることで得られる「小さな発見」がたくさん潜んでいる。言葉は、自分自身の一部であるとともに、他者とつながる架け橋でもある。上に述べた「発見」は、自分とは何者か、自分が接する社会とはどのような存在か、という問題に何かしらの手がかりを与えてくれると思う。進んで言葉の世界へ赴き、探求の旅を楽しんでもらいたい。

●参考文献・教材

テキストは教員が準備して各回の授業に先立って配布する。参考文献は適宜教室で指示するが、以前にこの講義で用いた以下の本

は、参考図書として有用と考える。

・町田健著『町田健のたのしい言語学』2004年、ソフトバンクパブリッシング
・佐久間淳一、加藤重広、町田健著『言語学入門：これから始める人のための入門書』2004年、研究社
・星浩司著『言語学への扉』2006年、慶應義塾大学出版会
・佐久間淳一著『はじめてみよう言語学』2007年、研究社
・大津由紀雄編著『はじめて学ぶ言語学－ことばの世界をさぐる17章』2009年、ミネルヴァ書房
・大津由紀雄編、池上嘉彦著『ことばワークショップ―言語を再発見する』2011年、開拓社
・東京大学言語情報科学専攻編『言語科学の世界へ―ことばの不思議を体験する45題』2011年、東京大学出版会
・西原哲雄著『言語学入門』2012年、朝倉書店
・佐久間淳一著『フシギなくらい見えてくる! 本当にわかる言語学』2013年、日本実業出版社
・小泉政利編著『ここから始める言語学プラス統計分析（クロスセクショナル統計シリーズ）』2016年、共立出版

授業科目名	科目NO.	LXGEN4403	授業コード	L200030130	
卒業論文演習Ⅱ（表現文化） Supervision of Graduation Thesis Ⅱ			単位数	2 単位	
授業形態	担当教員名				
演習	海老根　剛／野末　紀之／高島　葉子／小田中　章浩				

●科目の主題

卒業論文は、4年間にわたる学修の成果であるが、実際の執筆にあたっては、4年次の「卒業論文演習1」（前期）、「卒業論文演習2」（後期）の指導によって完成させる。

後期の「卒業論文演習2」では、卒業論文の仕上げに向けて、卒業論文中間発表会といった機会を柱としながら、卒業論文に必要な知識、技能を卒業論文の執筆を通して身に付けるようにする。

●到達目標

(1) 卒業論文の評価規準と基準を知る

(2) 執筆途上において、その時点の自分の卒業論文を評価基準に準拠して点検する

(3) 点検の結果を踏まえ、卒業論文計画・執筆計画を修正しながら卒業論文を完成させる

●授業内容・授業計画

第1回　卒業論文の進捗状況の報告

第2回　卒業論文の評価基準の確認

第3回～第6回　卒業論文中間発表会（4コマ連続）

完成に向けての執筆方針の確認（研究方法論、課題設定、先行研究の整理章立て等）、完成に向けての研究・執筆計画

第7回　卒業論文中間発表会の振り返り

第8回　課題の背景を扱う部分についての点検

第9回　先行研究の整理を扱う部分について点検

第10回　主に一次資料を扱う部分についての点検

第11回　論文全体の結論に直結する部分の論理展開についての点検

第12回　具体例の吟味と抽象的な考察の往還についての点検

第13回　説得力ある文章に関する点検

第14回　典拠を示しながら論述する部分の点検、注、文献一覧等の表記

第15回　研究倫理の側面からの卒業論文の点検、卒業論文作成全体を通しての振り返り

●事前・事後学習の内容

第1回　卒業論文研究進捗状況の報告レジュメ提出

第2回　卒業論文中間発表の準備を行い、レジュメを作成する。

第3回　卒業論文中間発表会の議論を踏まえ、自分の卒業論研究・執筆計画を練り直す。

第4回　完成までの期間の研究・執筆計画を立てる

第5回　点検の対象になる部分を執筆する。点検を受けた部分を修正し、補足ための研究計画を立てる。

第6回　点検の対象になる部分を執筆する。点検を受けた部分を修正し、補足ための研究計画を立てる。

第7回　点検の対象になる部分を執筆する。点検を受けた部分を修正し、補足ための研究計画を立てる。

第8回　点検の対象になる部分を執筆する。点検を受けた部分を修正し、補足ための研究計画を立てる。

第9回　点検の対象になる部分を執筆する。点検を受けた部分を修正し、補足ための研究計画を立てる。

第10回　点検の対象になる部分を執筆する。点検を受けた部分を修正し、補足ための研究計画を立てる。

第11回　点検の対象になる部分を執筆する。点検を受けた部分を修正し、補足ための研究計画を立てる。

第12回　振り返りのための発表の準備をする。

●評価方法

卒業論文中間発表会等の発表内容、議論への貢献、および、文献一覧の作成等、各回で指定する課題の内容などにより評価する。「卒業論文演習2」の評価は、「卒業論文」の評価と同時期に行われるが、後者が論文の内容そのものの質が評価されるのに対して、前者は、論文作成過程の学修状況が評価の対象となる。ただし、仮に「卒業論文」が不可となった場合は、「卒業論文演習2」も不可となる。

●受講生へのコメント

卒業論文は4年間の学士課程の集大成である。履修モデルとしてのコースに対応した学問分野（表現文化学、アジア文化学、文化資源学）の研究方法と専門知識を踏まえ、4年間の学修成果を基盤とした論文を完成させてほしい。また、学術情報総合センターの文献や機能を活用し、複数の教員や同学年・異学年の学生と頻繁に議論を進めながら、互いに切磋琢磨して研究を深めてほしい。

「卒業論文演習2」は授業科目のひとつであるが、この科目の演習を基盤としながら、卒業論文に主体的に取り組み、学士課程を集大成させてほしい。

●参考文献・教材

特に指定しない。

授業科目名	科目NO.	LXGEN4401	授業コード	L200010010	
卒業論文（哲学） Graduation Thesis			単位数	10 単位	
授業形態	担当教員名				
演習	仲原　孝／高梨　友宏／土屋　貴志／佐金　武				

●科目の主題

文学部では、卒業論文を通しての学修を重視しており、ディプロマポリシーで定める学修成果を学生が修めることができるよう、学士課程の 4年間をとおし、専門授業科目における指導のほか、コースごとの卒業論文ガイダンス、卒業論文構想発表会、卒業論文中間発表会など、学生どうしが切磋琢磨できる機会を設け、あわせて、きめこまかな個別指導を行う。

卒業論文は、4年間にわたる学修の成果である。卒業論文の執筆は、4年次の「卒業論文指導1」「卒業論文指導2」の指導を受けながら薦める。

●到達目標

卒業論文の審査基準は次のとおりであり、これを到達目標とする。

(1) 卒業論文は、当該学科における一定の研究成果を示すものでなければならない。

(2) (評価基準)卒業論文は以下の各項目について、当該学科における十分な水準を満たさなければならない。

・明確に課題を設定し、適切な研究方法をもちいて論証している。

1. 課題が設定されており、論証しようとしている。
2. 明確に課題を設定し、研究方法を意識しながら論証している。
3. 明確に課題を設定し、適切な研究方法をもちいて論証している。

・図書館の機能を十分に使いこなしている。

1. OPAC や書架を利用して文献を入手している。
2. OPAC や書架を利用しつつ、学術情報データベースを活用して文献を入手している。
3. OPAC や書架、学術情報データベースを利用しつつ、文献複写等の図書館サービスを駆使して、適切かつ必要な文献を入手している。

・多様な他者と関わりながら論文を作成している。

1. 教員の指導を受けながら論文を作成している。
2. 教員のみならず、他の学生と関わりながら論文を作成している。
3. 教員、学内学生のみならず、学外を含む多様な他者と関わりながら論文を作成している。

・先行研究や参考文献をよく読みこなし批判的に吟味している。

1. 先行研究や参考文献を読んでいる。
2. 先行研究や参考文献をよく読みこなしている。
3. 先行研究や参考文献をよく読みこなし批判的に吟味している。

・一次資料・データを広く収集し、独自の観点から分析している。

1. 一次資料・データを利用している。
2. 一次資料・データを広く収集して利用している。
3. 一次資料・データを広く収集し、独自の観点から分析している。

・適切に典拠を示しながら論述している。

1. 典拠を示そうとしている。
2. 適切に論拠を示している。
3. 適切に論拠をしめしながら論述している。

・具体例の吟味と抽象的な考察の往還ができている。

1. 具体例の吟味または抽象的な考察のどちらかができている。
2. 具体例の吟味と抽象的な考察がある。

3. 具体例の吟味と抽象的な考察を相互に結びつけながら論証している。

・論理展開を明確にし、説得力ある文章で論証している。

1. ある程度意味が通じる文章で論証している。
2. 論理展開を明確にしようとして論証している。
3. 論理展開を明確にし、説得力ある文章で論証している。

(3)（論文の体裁）卒業論文は、400 字詰原稿用紙に換算して、原則として 50 枚以上の分量がなければならない。

●授業内容・授業計画

各回の授業内容の記述は「卒業論文」にそぐわないので省略する。なお、「卒業論文」に連動するものとして、「卒業論文指導1」「卒業論文指導2」のシラバスを参照すること。

●事前・事後学習の内容

「卒業論文」にそぐわないので省略する。

●評価方法

卒業論文は、「大阪市立大学学位規程に関する文学部内規」にしたがい、学部教授会において当該学科の教員から主査1名、副査1名以上を審査員として選出した上で審査をおこなう。審査は提出された卒業論文とその内容に関する面接試験の結果による。2月に実施する面接試験の日時は、各コースから通知する。審査基準は、文学部が定める「卒業論文に関する文学部ガイドライン」に示す手順と評価基準にしたがう。

●受講生へのコメント

「卒業論文」および「卒業論文演習Ⅰ」は、卒業論文を提出する年度の前期に、「卒業論文演習Ⅱ」は後期の履修登録期間中にWeb 履修登録すること。

卒業論文は 4年間の学士課程の集大成である。広義の哲学（哲学史・宗教学・倫理学・美学などを含む）の研究方法と専門知識を踏まえ、4年間の学修成果を基盤とした論文を完成させてほしい。また、学術情報総合センターの文献や機能を活用し、複数の教員や同学年・異学年の学生と頻繁に議論を進めながら、互いに切磋琢磨して研究を深めてほしい。

●参考文献・教材

各自が参考文献一覧を作成することになる。

授業科目名	科目NO.	LXGEN4401	授業コード	L200010020	
卒業論文（日本史） Graduation Thesis			単位数	10 単位	
授業形態 演習	担当教員名 仁木　宏／岸本　直文／佐賀　朝／齊藤　紘子／磐下　徹				

●科目の主題

日本史コースでは、卒業論文を通しての学修を重視しており、ディプロマポリシーで定める学修成果を学生が修めることができるよう、学士課程の4年間をとおし、専門授業科目における指導のほか、卒業論文中間発表会などの学生どうしが切磋琢磨できる機会を設け、あわせて、きめこまかな個別指導を行う。

卒業論文は、4年間にわたる学修の成果であるが、実際の執筆にあたっては、4年次の「卒業論文演習1」「卒業論文演習2」の指導によって完成させる。

●到達目標

卒業論文の審査基準は次のとおりであり、これを到達目標とする。

(1)卒業論文は、当該学科における一定の研究成果を示すものでなければならない。

(2)(評価基準)卒業論文は以下の各項目について、当該学科における十分な水準を満たさなければならない。

・明確に課題を設定し、適切な研究方法をもちいて論証している。

・図書館の機能を十分に使いこなしている。

OPACや書架、学術情報データベースを利用しつつ、文献複写等の図書館サービスを駆使して、適切かつ必要な文献を入手している。

・教員、学内学生のみならず、学外を含む多様な他者と関わりながら論文を作成している。

・先行研究や参考文献をよく読みこなし批判的に吟味している。

・一次資料・データを広く収集し、独自の観点から分析している。

・適切に論拠をしめしながら論述している。

・具体例の吟味と抽象的な考察を相互に結びつけながら論証している。

・論理展開を明確にし、説得力ある文章で論証している。

(3)(論文の体裁)卒業論文は、400字詰原稿用紙に換算して、原則として50枚以上の分量がなければならない。

●授業内容・授業計画

卒業論文について、個別に指導する。

●事前・事後学習の内容

指導の前後に自習を求める。

●評価方法

卒業論文は、「大阪市立大学学位規程に関する文学部内規」にしたがい、学部教授会において当該学科の教員から主査1名、副査1名以上を審査員として選出した上で審査をおこなう。審査は提出された卒業論文とその内容に関する面接試験の結果による。2月に実施する面接試験の日時は、各コースから通知する。審査基準は、文学部が定める「卒業論文に関する文学部ガイドライン」に示す手順と評価基準にしたがう。

●受講生へのコメント

卒業論文は、大学生活の集大成であることを自覚して前向きに取り組んでほしい。

●参考文献・教材

各自に適宜、示す。

授業科目名	科目NO.	LXGEN4401	授業コード	L200010030	
卒業論文（世界史） Graduation Thesis			単位数	10 単位	
授業形態 演習	担当教員名 平田　茂樹／渡辺　健哉／濱本　真実／上野　雅由樹／北村　昌史／ 草生　久嗣／向井　伸哉				

●科目の主題

文学部では、卒業論文を通しての学修を重視しており、ディプロマポシシーで定める学修成果を学生が修めることができるよう、学士課程の4年間をとおし、専門授業科目における指導のほか、コースごとの卒業論文ガイダンス、卒業論文構想発表会、卒業論文中間発表会など、学生どうしが切磋琢磨できる機会を設け、あわせて、きめこまかな個別指導を行う。

卒業論文は、4年間にわたる学修の成果であるが、実際の執筆にあたっては、4年次の「卒業論文演習1」「卒業論文演習2」の指導によって完成させる。

●到達目標

卒業論文の審査基準は次のとおりであり、これを到達目標とする。

(1)卒業論文は、当該学科における一定の研究成果を示すものでなければならない。

(2)(評価基準)卒業論文は以下の各項目について、当該学科における十分な水準を満たさなければならない。

・明確に課題を設定し、適切な研究方法をもちいて論証している。

1　課題が設定されており、論証しようとしている。

2　明確に課題を設定し、研究方法を意識しながら論証している。

3　明確に課題を設定し、適切な研究方法をもちいて論証している。

・図書館の機能を十分に使いこなしている。

1　OPACや書架を利用して文献を入手している。

2　OPACや書架を利用しつつ、学術情報データベースを活用して文献を入手している。

3　OPACや書架、学術情報データベースを利用しつつ、文献複写等の図書館サービスを駆使して、適切かつ必要な文献を入手している。

・多様な他者と関わりながら論文を作成している。

1　教員の指導を受けながら論文を作成している。

2　教員のみならず、他の学生と関わりながら論文を作成している。

3　教員、学内学生のみならず、学外を含む多様な他者と関わりながら論文を作成している。

・先行研究や参考文献をよく読みこなし批判的に吟味している。

1　先行研究や参考文献を読んでいる。

2　先行研究や参考文献をよく読みこなしている。

3　先行研究や参考文献をよく読みこなし批判的に吟味している。

・一次資料・データを広く収集し、独自の観点から分析している。

1　一次資料・データを利用している。

2　一次資料・データを広く収集して利用している。

3　一次資料・データを広く収集し、独自の観点から分析している。

・適切に典拠を示しながら論述している。

1　典拠を示そうとしている。

2　適切に論拠を示している。

3　適切に論拠をしめしながら論述している。

・具体例の吟味と抽象的な考察の往還ができている。

●授業内容・授業計画

各回の授業内容の記述は「卒業論文」にそぐわないので省略する。なお、「卒業論文」に連動するものとして、「卒

業論文演習1」「卒業論文演習2」のシラバスを参照すること。

●事前・事後学習の内容

事前・事後学習の内容は「卒業論文」にそぐわないので省略する。なお、「卒業論文」に連動するものとして、「卒業論文演習1」「卒業論文演習2」のシラバスを参照すること。

●評価方法

卒業論文は、「大阪市立大学学位規程に関する文学部内規」にしたがい、学部教授会において当該学科の教員から主査1名、副査1名以上を審査員として選出した上で審査をおこなう。審査は提出された卒業論文とその内容に関する面接試験の結果による。2月に実施する面接試験の日時は、各コースから通知する。審査基準は、文学部が定める「卒業論文に関する文学部ガイドライン」に示す手順と評価基準にしたがう。

●受講生へのコメント

「卒業論文」および「卒業論文演習1」は、卒業論文を提出する年度の前期に、「卒業論文演習2」は後期の履修登録期間中にWeb履修登録すること。

卒業論文は4年間の学士課程の集大成である。履修モデルとしてのコースに対応した学問分野（世界史・日本史）の研究方法と専門知識を踏まえ、4年間の学修成果を基盤とした論文を完成させてほしい。また、学術情報総合センターの文献や機能を活用し、複数の教員や同学年・異学年の学生と頻繁に議論を進めながら、互いに切磋琢磨して研究を深めてほしい。

●参考文献・教材

指定しない

授業科目名	科目NO.	LXGEN4401	授業コード	L200010040	
卒業論文（社会学） Graduation Thesis			単位数	10 単位	
授業形態	担当教員名				
演習	石田　佐恵子／伊地知　紀子／川野　英二／笹島　秀晃／平山　亮				

●科目の主題

文学部では、卒業論文を通しての学修を重視しており、ディプロマポシシーで定める学修成果を学生が修めることができるよう、学士課程の4年間をとおし、専門授業科目における指導のほか、コースごとの卒業論文ガイダンス、卒業論文構想発表会、卒業論文中間発表会など、学生どうしが切磋琢磨できる機会を設け、あわせて、きめこまかな個別指導を行う。 卒業論文は、4年間にわたる学修の成果であるが、実際の執筆にあたっては、4年次の「卒業論文演習1」「卒業論文演習2」の指導によって完成させる。

●到達目標

卒業論文の審査基準は次のとおりであり、これを到達目標とする。

（1）卒業論文は、当該学科における一定の研究成果を示すものでなければならない。

（2）（評価基準）卒業論文は以下の各項目について、当該学科における十分な水準を満たさなければならない。

・明確に課題を設定し、適切な研究方法をもちいて論証している。

1　課題が設定されており、論証しようとしている。

2　明確に課題を設定し、研究方法を意識しながら論証している。

3　明確に課題を設定し、適切な研究方法をもちいて論証している。

・図書館の機能を十分に使いこなしている。

1　OPACや書架を利用して文献を入手している。

2　OPACや書架を利用しつつ、学術情報データベースを活用して文献を入手している。

3　OPACや書架、学術情報データベースを利用しつつ、文献複写等の図書館サービスを駆使して、適切かつ必要な文献を入手している。

・多様な他者と関わりながら論文を作成している。

1　教員の指導を受けながら論文を作成している。

2　教員のみならず、他の学生と関わりながら論文を作成している。

3　教員、学内学生のみならず、学外を含む多様な他者と関わりながら論文を作成している。

・先行研究や参考文献をよく読みこなし批判的に吟味している。

1　先行研究や参考文献を読んでいる。

2　先行研究や参考文献をよく読みこなしている。

3　先行研究や参考文献をよく読みこなし批判的に吟味している。

・一次資料・データを広く収集し、独自の観点から分析している。

1　一次資料・データを利用している。

2　一次資料・データを広く収集して利用している。

3　一次資料・データを広く収集し、独自の観点から分析している。

・適切に典拠を示しながら論述している。

1　典拠を示そうとしている。

2　適切に論拠を示している。

3　適切に論拠をしめしながら論述している。

・具体例の吟味と抽象的な考察の往還ができている。

●授業内容・授業計画

第1回　ガイダンス

第2回　テーマについて（1）

第3回　テーマについて(2)
第4回　方法論について(1)
第5回　方法論について(2)
第6回　先行文献レビュー(1)
第7回　先行文献レビュー(2)
第8回　先行文献レビュー(3)
第9回　事例分析(1)
第10回　事例分析(2)
第11回　事例分析(3)
第12回　最終報告(1)
第13回　最終報告(2)
第14回　最終報告(3)
第15回　社会学の分野における卒業論文の完成と提出

●事前・事後学習の内容

事前学習:社会学の分野における卒業論文の完成と提出　事後学習:口述試験

●評価方法

卒業論文は、「大阪市立大学学位規程に関する文学部内規」にしたがい、学部教授会において当該学科の教員から主査1名、副査1名以上を審査員として選出した上で審査をおこなう。審査は提出された卒業論文とその内容に関する面接試験の結果による。2月に実施する面接試験の日時は、各コースから通知する。審査基準は、文学部が定める「卒業論文に関する文学部ガイドライン」に示す手順と評価基準にしたがう。

●受講生へのコメント

「卒業論文」および「卒業論文演習1」は、卒業論文を提出する年度の前期に、「卒業論文演習2」は後期の履修登録期間中にWeb履修登録すること。

卒業論文は4年間の学士課程の集大成である。履修モデルとしてのコースに対応した学問分野(社会学、心理学、教育学、地理学【←学科に応じて書き換えてください】)の研究方法と専門知識を踏まえ、4年間の学修成果を基盤とした論文を完成させてほしい。また、学術情報総合センターの文献や機能を活用し、複数の教員や同学年・異学年の学生と頻繁に議論を進めながら、互いに切磋琢磨して研究を深めてほしい

●参考文献・教材

卒業論文の体裁(表紙・背表紙・中表紙)についての文学部の規定
卒業論文の体裁(判型・文字数・その他)についての社会学教室の規定
http://www.lit.osaka-cu.ac.jp/soc/thesis.html

授業科目名	科目NO.	LXGEN4401	授業コード	L200010050	
卒業論文（心理学） Graduation Thesis			単位数	10 単位	
授業形態	担当教員名				
演習	山　祐嗣／川邉　光一／佐伯　大輔／橋本　博文				

●科目の主題

文学部では、卒業論文を通しての学修を重視しており、ディプロマポリシーで定める学修成果を学生が修めることができるよう、学士課程の4年間をとおし、専門授業科目における指導のほか、心理学コースの卒業研究指導会など、学生どうしが切磋琢磨できる機会を設け、あわせて、きめこまかな個別指導を行う。

卒業論文は、4年間にわたる学修の成果であるが、実際の執筆にあたっては、4年次の「卒業論文演習Ⅰ」「卒業論文演習Ⅱ」の指導によって完成させる。

●到達目標

卒業論文の審査基準は次のとおりであり、これを到達目標とする。

(1)卒業論文は、当該学科における一定の研究成果を示すものでなければならない。

(2)(評価基準)卒業論文は以下の各項目について、当該学科における十分な水準を満たさなければならない。

・明確に課題を設定し、適切な研究方法をもちいて論証している。

1　課題が設定されており、論証しようとしている。

2　明確に課題を設定し、研究方法を意識しながら論証している。

3　明確に課題を設定し、適切な研究方法をもちいて論証している。

・図書館の機能を十分に使いこなしている。

1　OPACや書架を利用して文献を入手している。

2　OPACや書架を利用しつつ、学術情報データベースを活用して文献を入手している。

3　OPACや書架、学術情報データベースを利用しつつ、文献複写等の図書館サービスを駆使して、適切かつ必要な文献を入手している。

・多様な他者と関わりながら論文を作成している。

1　教員の指導を受けながら論文を作成している。

2　教員のみならず、他の学生と関わりながら論文を作成している。

3　教員、学内学生のみならず、学外を含む多様な他者と関わりながら論文を作成している。

・先行研究や参考文献をよく読みこなし批判的に吟味している。

1　先行研究や参考文献を読んでいる。

2　先行研究や参考文献をよく読みこなしている。

3　先行研究や参考文献をよく読みこなし批判的に吟味している。

・実験・調査を行い、独自の観点から分析している。

1　実験・調査の計画をたてている。

2　実験・調査を行っている。

3　実験・調査のデータを分析している。

・適切に典拠を示しながら論述している。

1　典拠を示そうとしている。

2　適切に論拠を示している。

3　適切に論拠をしめしながら論述している。

・具体例の吟味と抽象的な考察の往還ができている。

●授業内容・授業計画

適宜、卒業論文の研究課題のために行った実験・調査のデータをまとめ、卒業論文の構成と論述の仕方などを

具体的に指導する。そして、最終的に卒業論文を完成させる。
　なお、学生は、各自の研究テーマに応じて、いずれかの教員の指導を受けるものとする。
〔山　祐嗣教授〕 主に、思考と推論、認知の文化差など、認知心理学の分野に関する卒業論文の指導を行う。
〔川邉光一教授〕 学習・記憶などの精神機能の脳内機構、精神疾患の脳内機構など、生理心理学の分野に関する卒業論文の指導を行う。
〔佐伯大輔准教授〕 ヒトや動物を対象とした意思決定や選択行動など、学習心理学・行動分析学の分野に関する卒業論文の指導を行う。
〔橋本博文准教授〕 人間の協力性を扱う研究や「心の文化差」を追究する研究など，主として社会心理学・文化心理学の分野に関する卒業論文の指導を行う。

●事前・事後学習の内容

受講者は、卒業論文研究のテーマに関連する文献や研究計画の発表、研究結果の報告を行い、論文の執筆を行う。授業時に受けたコメントや議論の内容を論文に生かすようにする。

●評価方法

卒業論文は、「大阪市立大学学位規程に関する文学部内規」にしたがい、学部教授会において当該学科の教員から主査1名、副査1名以上を審査員として選出した上で審査をおこなう。審査は提出された卒業論文とその内容に関する面接試験の結果による。2月に実施する面接試験の日時は、各コースから通知する。審査基準は、文学部が定める「卒業論文に関する文学部ガイドライン」に示す手順と評価基準にしたがう。

●受講生へのコメント

「卒業論文」および「卒業論文演習Ⅰ」は、卒業論文を提出する年度の前期に、「卒業論文演習Ⅱ」は後
期の履修登録期間中にWeb履修登録すること。
卒業論文は4年間の学士課程の集大成である。履修モデルとしてのコースに対応した学問分野（心理学）の研究方法と専門知識を踏まえ、4年間の学修成果を基盤とした論文を完成させてほしい。また、学術情報総合センターの文献や機能を活用し、複数の教員や同学年・異学年の学生と頻繁に議論を進めながら、互いに切磋琢磨して研究を深めてほしい。

●参考文献・教材

受講生各自必要な文献を探したり、教員が適宜紹介したりする。

授業科目名	科目NO.	LXGEN4401	授業コード	L200010060	
卒業論文（教育学） Graduation Thesis			単位数	10 単位	
授業形態	担当教員名				
演習	添田　晴雄／島田　希／辻野　けんま				

●科目の主題

ディプロマポシシーで定める学修成果を学生が修めることができるよう、学士課程の4年間をとおし、専門授業科目における指導のほか、コースごとの卒業論文ガイダンス、卒業論文構想発表会、卒業論文中間発表会など、学生どうしが切磋琢磨できる機会を設け、あわせて、きめこまかな個別指導を行う。

卒業論文は、4年間にわたる学修の成果であるが、実際の執筆にあたっては、4年次の「卒業論文演習1」「卒業論文演習2」の指導によって完成させる。

●到達目標

卒業論文の審査基準は次のとおりであり、これを到達目標とする。

(1) 卒業論文は、当該学科における一定の研究成果を示すものでなければならない。

(2) (評価基準) 卒業論文は授業で取り組む各項目について、当該学科における十分な水準を満たさなければならない。

(3) (論文の体裁) 卒業論文は、400字詰原稿用紙に換算して、原則として50枚以上の分量がなければならない。

●授業内容・授業計画

1時間目　課題設定と論証について
2時間目　各自の課題と研究方法の検討
3時間目　学術情報センターにおける文献の検索・収集
4時間目　OPAC、各種データベースを利用した文献・データの収集
5時間目　教員とのディスカッション～議論を通じた問題意識の深化～
6時間目　論文構想発表会におけるプレゼンテーションとディスカッション
7時間目　外部の研究会、ワークショップへの参加
8時間目　先行研究、参考文献の吟味
9時間目　一次資料、データの収集・方法について
10時間目　収集した一次資料・データの吟味・検討
11時間目　典拠、論拠の整理
12時間目　論理構成の検討
13時間目　典拠・論拠提示の確認
14時間目　論文の考察、結論の吟味

●事前・事後学習の内容

事前学習：論文のテーマに関わる文献や資料を読み込み、担当教員への質問事項を整理しておく。

事後学習：教員の指導を、調査・執筆に反映させ、論文の内容を展開する。

なお、事前・事後ともに、指導担当以外の教員、学生、大学院生とも日常的に議論をし、アドバイスを求めるようにすること。

●評価方法

卒業論文は、「大阪市立大学学位規程に関する文学部内規」にしたがい、学部教授会において当該学科の教員から主査1名、副査1名以上を審査員として選出した上で審査をおこなう。審査は提出された卒業論文とその内容に関する面接試験の結果による。2月に実施する面接試験の日時は、各コースから通知する。審査基準は、文学部が定める「卒業論文に関する文学部ガイドライン」に示す手順と評価基準にしたがう。

●受講生へのコメント

「卒業論文」および「卒業論文演習1」は、卒業論文を提出する年度の前期に、「卒業論文演習2」は後期の履修登録期間中にWeb履修登録すること。

卒業論文は4年間の学士課程の集大成である。履修モデルとしてのコースに対応した学問分野（社会学、心理学、教育学、地理学【←学科に応じて書き換えてください】）の研究方法と専門知識を踏まえ、4年間の学修成果を基盤とした論文を完成させてほしい。また、学術情報総合センターの文献や機能を活用し、複数の教員や同学年・異学年の学生と頻繁に議論を進めながら、互いに切磋琢磨して研究を深めてほしい。

●参考文献・教材

指定しない。

授業科目名	科目NO.	LXGEN4401	授業コード	L200010070	
卒業論文（地理学） Graduation Thesis				単位数	10 単位
授業形態	担当教員名				
演習	祖田　亮次／山﨑　孝史／木村　義成／菅野　拓／水内　俊雄				

●科目の主題

地理学の分野における卒業論文

●到達目標

地理学の分野における卒業論文を作成し、完成することができる。

●授業内容・授業計画

＊この授業は対面とオンラインを組み合わせて行う。

地理学の分野における卒業論文を執筆、完成させ期日までに提出する。

●事前・事後学習の内容

事前学習:地理学の分野における卒業論文の作成と提出

事後学習:口述試験

●評価方法

地理学の分野における卒業論文を評価の対象とする

●受講生へのコメント

卒業に必要なすべての単位を修得し、卒業論文演習において担当教員から十分な指導を受けること

●参考文献・教材

教科書は使用しないが、参考文献等については担当教員を通じて適宜紹介する。

授業科目名	科目NO.	LXGEN4401	授業コード	L200010080	
卒業論文（国語国文学） Graduation Thesis				単位数	10 単位
授業形態	担当教員名				
演習	丹羽　哲也／小林　直樹／久堀　裕朗／奥野　久美子／山本　真由子				

●科目の主題

卒業論文の執筆。

●到達目標

卒業論文の完成。

●授業内容・授業計画

この授業の指導は対面で行う。

各自のテーマに応じた指導教員に相談しながら、研究の計画を立て、資料を収集し、作品やデータを読み込み、論文の構想を練り、具体的な内容を固めていって、執筆をする。

●事前・事後学習の内容

論文の完成に必要なあらゆることをする。

●評価方法

論文内容の独創性、論理性、資料解釈の正確さ、全体的な完成度の高さなどを総合的に評価する。

●受講生へのコメント

年間を通じた持続力、執筆に到る集中力、自分の研究を客観的に見て修正していく柔軟性が問われる。

●参考文献・教材

指導教員が助言もするが、必要な資料を自力で探すことが基本である。

授業科目名	科目NO.	LXGEN4401	授業コード	L200010090	
卒業論文（中文） Graduation Thesis			単位数	10 単位	
授業形態	担当教員名				
演習	張 新民／大岩本 幸次／高橋 未来				

●科目の主題

中国語学・中国文学・中国文化に関わる卒業論文作成のための指導。

●到達目標

卒業論文の審査基準は次のとおりであり、これを到達目標とする。

(1) 卒業論文は、当該学科における一定の研究成果を示すものでなければならない。

(2) (評価基準) 卒業論文は以下の各項目について、当該学科における十分な水準を満たさなければならない。

・明確に課題を設定し、適切な研究方法をもちいて論証している。

1 課題が設定されており、論証しようとしている。

2 明確に課題を設定し、研究方法を意識しながら論証している。

3 明確に課題を設定し、適切な研究方法をもちいて論証している。

・図書館の機能を十分に使いこなしている。

1 OPACや書架を利用して文献を入手している。

2 OPACや書架を利用しつつ、学術情報データベースを活用して文献を入手している。

3 OPACや書架、学術情報データベースを利用しつつ、文献複写等の図書館サービスを駆使して、適切かつ必要な文献を入手している。

・多様な他者と関わりながら論文を作成している。

1 教員の指導を受けながら論文を作成している。

2 教員のみならず、他の学生と関わりながら論文を作成している。

3 教員、学内学生のみならず、学外を含む多様な他者と関わりながら論文を作成している。

・先行研究や参考文献をよく読みこなし批判的に吟味している。

1 先行研究や参考文献を読んでいる。

2 先行研究や参考文献をよく読みこなしている。

3 先行研究や参考文献をよく読みこなし批判的に吟味している。

・一次資料・データを広く収集し、独自の観点から分析している。

1 一次資料・データを利用している。

2 一次資料・データを広く収集して利用している。

3 一次資料・データを広く収集し、独自の観点から分析している。

・適切に典拠を示しながら論述している。

1 典拠を示そうとしている。

2 適切に論拠を示している。

3 適切に論拠をしめしながら論述している。

・具体例の吟味と抽象的な考察の往還ができている。

1 具体例の吟味または抽象的な考察のどちらかができている。

2 具体例の吟味と抽象的な考察がある。

3 具体例の吟味と抽象的な考察を相互に結びつけながら論証している。

・論理展開を明確にし、説得力ある文章で論証している。

1 ある程度意味が通じる文章で論証している。

2 論理展開を明確にしようとして論証している。

3　論理展開を明確にし、説得力ある文章で論証している。

(3)（論文の体裁）卒業論文は、400字詰原稿用紙に換算して、原則として50枚以上の分量がなければならない。

●授業内容・授業計画

「卒業論文」に連動するものとして、「卒業論文演習1」「卒業論文演習2」のシラバスを参照すること。

●事前・事後学習の内容

毎回、前回の指導内容を踏まえて、論文執筆のための報告内容をしっかり用意すること。

●評価方法

卒業論文は、「大阪市立大学学位規程に関する文学部内規」にしたがい、学部教授会において当該学科の教員から主査1名、副査1名以上を審査員として選出した上で審査をおこなう。審査は提出された卒業論文とその内容に関する面接試験の結果による。2月に実施する面接試験の日時は、各コースから通知する。審査基準は、文学部が定める「卒業論文に関する文学部ガイドライン」に示す手順と評価基準にしたがう。

●受講生へのコメント

「卒業論文」および「卒業論文演習1」は、卒業論文を提出する年度の前期に、「卒業論文演習2」は後期の履修登録期間中にWeb履修登録すること。

卒業論文は4年間の学士課程の集大成である。履修モデルとしてのコースに対応した学問分野の研究方法と専門知識を踏まえ、4年間の学修成果を基盤とした論文を完成させてほしい。また、学術情報総合センターの文献や機能を活用し、複数の教員や同学年・異学年の学生と頻繁に議論を進めながら、互いに切磋琢磨して研究を深めてほしい。

●参考文献・教材

適宜指示する。

授業科目名	科目NO.	LXGEN4401	授業コード	L200010100	
卒業論文（英文） Graduation Thesis				単位数	10 単位
授業形態 演習	担当教員名 田中　孝信／豊田　純一／Ian　M　RICHARDS／古賀　哲男／ 内丸　公平				

●科目の主題

文学部では、卒業論文を通しての学修を重視しており、ディプロマシーで定める学修成果を学生が修めることができるよう、学士課程の4年間を通し、専門授業科目における指導の他、コースごとの卒業論文ガイダンス、卒業論文構想発表会、卒業論文中間発表会など、学生同士が切磋琢磨できる機会を設け、あわせて、きめ細かな個別指導をおこなう。

卒業論文は、4年間にわたる学修の成果であるが、実際の執筆にあたっては、4年次の「卒業論文演習Ⅰ」「卒業論文演習Ⅱ」の指導によって完成させる。

●到達目標

卒業論文の審査基準は次のとおりであり、これを到達目標とする。

(1) 卒業論文は、当該学科における一定の研究成果を示すものでなければならない。

(2) (評価基準) 卒業論文は以下の各項目について、当該学科における十分な水準を満たさなければならない。

・明確に課題を設定し、適切な研究方法をもちいて論証している。

1　課題が設定されており、論証しようとしている。

2　明確に課題を設定し、研究方法を意識しながら論証している。

3　明確に課題を設定し、適切な研究方法をもちいて論証している。

・図書館の機能を十分に使いこなしている。

1　OPACや書架を利用して文献を入手している。

2　OPACや書架を利用しつつ、学術情報データベースを活用して文献を入手している。

3　OPACや書架、学術情報データベースを利用しつつ、文献複写等の図書館サービスを駆使して、適切かつ必要な文献を入手している。

・多様な他者と関わりながら論文を作成している。

1　教員の指導を受けながら論文を作成している。

2　教員のみならず、他の学生と関わりながら論文を作成している。

3　教員、学内学生のみならず、学外を含む多様な他者と関わりながら論文を作成している。

・先行研究や参考文献をよく読みこなし批判的に吟味している。

1　先行研究や参考文献を読んでいる。

2　先行研究や参考文献をよく読みこなしている。

3　先行研究や参考文献をよく読みこなし批判的に吟味している。

・一次資料・データを広く収集し、独自の観点から分析している。

1　一次資料・データを利用している。

2　一次資料・データを広く収集して利用している。

3　一次資料・データを広く収集し、独自の観点から分析している。

・適切に典拠を示しながら論述している。

1　典拠を示そうとしている。

2　適切に論拠を示している。

3　適切に論拠をしめしながら論述している。

・具体例の吟味と抽象的な考察の往還ができている。

1　具体例の吟味または抽象的な考察のどちらかができている。

2　具体例の吟味と抽象的な考察がある。
3　具体例の吟味と抽象的な考察を相互に結びつけながら論証している。
・論理展開を明確にし、説得力ある文章で論証している。
1　ある程度意味が通じる文章で論証している。
2　論理展開を明確にしようとして論証している。
3　論理展開を明確にし、説得力ある文章で論証している。
(3)（論文の体裁）卒業論文は、400字詰原稿用紙に換算して、原則として50枚以上の分量がなければならない。

●授業内容・授業計画

※各回の授業内容の記述は「卒業論文」にそぐわないので省略する。なお、「卒業論文」に連動するものとして、「卒業論文演習1」「卒業論文演習2」のシラバスを参照すること。

●事前・事後学習の内容

※各回の事前・事後学習内容の記述は「卒業論文」にそぐわないので省略する。なお、「卒業論文」に連動するものとして、「卒業論文演習1」「卒業論文演習2」のシラバスを参照すること。

●評価方法

卒業論文は、「大阪市立大学学位規程に関する文学部内規」にしたがい、学部教授会において当該学科の教員から主査1名、副査1名以上を審査員として選出した上で審査をおこなう。審査は提出された卒業論文とその内容に関する面接試験の結果による。2月に実施する面接試験の日時は、各コースから通知する。審査基準は、文学部が定める「卒業論文に関する文学部ガイドライン」に示す手順と評価基準にしたがう。

●受講生へのコメント

「卒業論文」および「卒業論文演習Ⅰ」は卒業論文を提出する年度の前期に、「卒業論文演習Ⅱ」は後期の履修登録期間中にWeb履修登録すること。

卒業論文は4年間の学士課程の集大成である。履修モデルとしてのコースに対応した学問分野（英語英米文学）の研究方法と専門知識を踏まえ、4年間の学修成果を基盤とした論文を完成させてほしい。また、学術情報総合センターの文献や機能を活用し、複数の教員や同学年・異学年の学生と頻繁に議論を進めながら、互いに切磋琢磨して研究を深めてほしい。

●参考文献・教材

教科書：特に指定しない。
参考文献：各自が参考文献一覧を作成することになる。

授業科目名	科目NO.	LXGEN4401	授業コード	L200010110	
卒業論文（独仏） Graduation Thesis			単位数	10 単位	
授業形態 演習	担当教員名 白田　由樹／髙井　絹子／長谷川　健一／信國　萌／福島　祥行／ 原野　葉子				

●科目の主題

文学部では、卒業論文を通しての学修を重視しており、ディプロマポシシーで定める学修成果を学生が修めることができるよう、学士課程の4年間をとおし、専門授業科目における指導のほか、コースごとの卒業論文ガイダンス、卒業論文構想発表会、卒業論文中間発表会など、学生どうしが切磋琢磨できる機会を設け、あわせて、きめこまかな個別指導を行う。卒業論文は、4年間にわたる学修の成果であるが、実際の執筆にあたっては、4年次の「卒業論文演習Ⅰ」「卒業論文演習Ⅱ」の指導によって完成させる。

●到達目標

卒業論文の審査基準は次のとおりであり、これを到達目標とする。

(1)卒業論文は、当該学科における一定の研究成果を示すものでなければならない。

(2)(評価基準)卒業論文は以下の各項目について、当該学科における十分な水準を満たさなければならない。

・明確に課題を設定し、適切な研究方法をもちいて論証している。

1　課題が設定されており、論証しようとしている。

2　明確に課題を設定し、研究方法を意識しながら論証している。

3　明確に課題を設定し、適切な研究方法をもちいて論証している。

・図書館の機能を十分に使いこなしている。

1　OPACや書架を利用して文献を入手している。

2　OPACや書架を利用しつつ、学術情報データベースを活用して文献を入手している。

3　OPACや書架、学術情報データベースを利用しつつ、文献複写等の図書館サービスを駆使して、適切かつ必要な文献を入手している。

・多様な他者と関わりながら論文を作成している。

1　教員の指導を受けながら論文を作成している。

2　教員のみならず、他の学生と関わりながら論文を作成している。

3　教員、学内学生のみならず、学外を含む多様な他者と関わりながら論文を作成している。

・先行研究や参考文献をよく読みこなし批判的に吟味している。

1　先行研究や参考文献を読んでいる。

2　先行研究や参考文献をよく読みこなしている。

3　先行研究や参考文献をよく読みこなし批判的に吟味している。

・一次資料・データを広く収集し、独自の観点から分析している。

1　一次資料・データを利用している。

2　一次資料・データを広く収集して利用している。

3　一次資料・データを広く収集し、独自の観点から分析している。

・適切に典拠を示しながら論述している。

1　典拠を示そうとしている。

2　適切に論拠を示している。

3　適切に論拠をしめしながら論述している。

・具体例の吟味と抽象的な考察の往還ができている。

1　具体例の吟味または抽象的な考察のどちらかができている。

2　具体例の吟味と抽象的な考察がある。

3　具体例の吟味と抽象的な考察を相互に結びつけながら論証している。

・論理展開を明確にし、説得力ある文章で論証している。

1　ある程度意味が通じる文章で論証している。

2　論理展開を明確にしようとして論証している。

3　論理展開を明確にし、説得力ある文章で論証している。

(3)（論文の体裁）卒業論文は、400字詰原稿用紙に換算して、原則として50枚以上の分量がなければならない。

●授業内容・授業計画

各回の授業内容の記述は「卒業論文」にそぐわないので省略する。なお、「卒業論文」に連動するものとして、「卒業論文演習Ⅰ」「卒業論文演習Ⅱ」のシラバスを参照すること。

●事前・事後学習の内容

各回の事前・事後学習の内容の記述は「卒業論文」にそぐわないので省略する。なお、「卒業論文」に連動するものとして、「卒業論文演習Ⅰ」「卒業論文演習Ⅱ」のシラバスを参照すること。

●評価方法

卒業論文は、「大阪市立大学学位規程に関する文学部内規」にしたがい、学部教授会において当該学科の教員から主査1名、副査1名以上を審査員として選出した上で審査をおこなう。審査は提出された卒業論文とその内容に関する面接試験の結果による。2月に実施する面接試験の日時は、各コースから通知する。審査基準は、文学部が定める「卒業論文に関する文学部ガイドライン」に示す手順と評価基準にしたがう。

●受講生へのコメント

「卒業論文」および「卒業論文演習Ⅰ」は、卒業論文を提出する年度の前期に、「卒業論文演習Ⅱ」は後期の履修登録期間中にWeb履修登録すること。卒業論文は4年間の学士課程の集大成である。ドイツ語フランス語圏言語文化学の研究方法と専門知識を踏まえ、4年間の学修成果を基盤とした論文を完成させてほしい。また、学術情報総合センターの文献や機能を活用し、複数の教員や同学年・異学年の学生と頻繁に議論を進めながら、互いに切磋琢磨して研究を深めてほしい。

●参考文献・教材

指定しない。

授業科目名	科目NO.	LXGEN4401	授業コード	L200010120	
卒業論文（言語） Graduation Thesis			単位数	10 単位	
授業形態	担当教員名				
講義	山崎　雅人／田中　一彦／辻　香代／小倉　雅明				

●科目の主題

本講義は、初めてこの学問に接する人が、多岐に渡る言語学の知識を取得することで、その知的な面白さを感じ取れるように、言語学を構成するさまざまな分野を理解することを主題とする。

●到達目標

受講生が言語学の基本概念に関する知識を習得することを到達目標とする。

●授業内容・授業計画

テキストは、受講生の既存の知識を確認しながら理解が深まるように工夫された自作教材を用いる。そこでは、受講者は与えられた課題への自分の考えをまずまとめ、後に解説を聞くことで自分の考えの当否を確認しながら、言語研究の基礎的知識を獲得してゆく。

第1回　言語学への招待　その1
第2回　言語学への招待　その2
第3回　構造について　その1
第4回　構造について　その2
第5回　研究方法について　その1
第6回　研究方法について　その2
第7回　比較言語学　その1
第8回　比較言語学　その2
第9回　類型論　その1
第10回　類型論　その2
第11回　記号論
第12回　社会言語学
第13回　心理言語学
第14回　応用言語学
第15回　言語哲学と文学

●事前・事後学習の内容

事前学習としては、予め指定された各回のテーマに関する重要な概念を意味する学術用語を、授業に先立って調べて罫線紙に書いて持って来ること。事後学習としては、授業で触れた内容を題材とした宿題を出すので、それに対する解答を準備して次の授業で提出すること。

●評価方法

受講生は、授業中の課題や指名に対して各自で考えて応答するとともに、宿題としての課題への解答を提出する。さらに、その日の講義内容に関して、「興味が持てたこと」と「理解ができなかったこと」（初めのうちは講義に関する要望を可とする場合もある）をまとめることで復習とする。こうした毎回の作業をきちんとこなすことと、規定以上の出席回数を満たすことに基づいて、成績評価を行う。

●受講生へのコメント

我々が日々関わり囲まれている「言葉の世界」には、少し見方を変えることで得られる「小さな発見」がたくさん潜んでいる。言葉は、自分自身の一部であるとともに、他者とつながる架け橋でもある。上に述べた「発見」は、自分とは何者か、自分が接する社会とはどのような存在か、という問題に何かしらの手がかりを与えてくれると思う。進んで言葉の世界へ赴き、探求の旅を楽しんでもらいたい。

●参考文献・教材

テキストは教員が準備して各回の授業に先立って配布する。参考文献は適宜教室で指示するが、以前にこの講義で用いた以下の本

は、参考図書として有用と考える。

・町田健著『町田健のたのしい言語学』2004年、ソフトバンクパブリッシング
・佐久間淳一、加藤重広、町田健著『言語学入門：これから始める人のための入門書』2004年、研究社
・星浩司著『言語学への扉』2006年、慶應義塾大学出版会
・佐久間淳一著『はじめてみよう言語学』2007年、研究社
・大津由紀雄編著『はじめて学ぶ言語学－ことばの世界をさぐる17章』2009年、ミネルヴァ書房
・大津由紀雄編、池上嘉彦著『ことばワークショップ―言語を再発見する』2011年、開拓社
・東京大学言語情報科学専攻編『言語科学の世界へ―ことばの不思議を体験する45題』2011年、東京大学出版会
・西原哲雄著『言語学入門』2012年、朝倉書店
・佐久間淳一著『フシギなくらい見えてくる! 本当にわかる言語学』2013年、日本実業出版社
・小泉政利編著『ここから始める言語学プラス統計分析（クロスセクショナル統計シリーズ）』2016年、共立出版

授業科目名	科目NO.	LXGEN4401	授業コード	L200010130	
卒業論文（表現文化） Graduation Thesis			単位数	10 単位	
授業形態	担当教員名				
演習	高島　葉子／野末　紀之／小田中　章浩／海老根　剛				

●科目の主題

文学部では、卒業論文を通しての学修を重視しており、ディプロマポシシーで定める学修成果を学生が修めることができるよう、学士課程の4年間をとおし、専門授業科目における指導のほか、コースごとの卒業論文ガイダンス、卒業論文構想発表会、卒業論文中間発表会など、学生どうしが切磋琢磨できる機会を設け、あわせて、きめこまかな個別指導を行う。

卒業論文は、4年間にわたる学修の成果であるが、実際の執筆にあたっては、4年次の「卒業論文演習1」「卒業論文演習2」の指導によって完成させる。

●到達目標

卒業論文の審査基準は次のとおりであり、これを到達目標とする。

(1)卒業論文は、当該学科における一定の研究成果を示すものでなければならない。

(2)(評価基準)卒業論文は以下の各項目について、当該学科における十分な水準を満たさなければならない。

・明確に課題を設定し、適切な研究方法をもちいて論証している。

1　課題が設定されており、論証しようとしている。

2　明確に課題を設定し、研究方法を意識しながら論証している。

3　明確に課題を設定し、適切な研究方法をもちいて論証している。

・図書館の機能を十分に使いこなしている。

1　OPACや書架を利用して文献を入手している。

2　OPACや書架を利用しつつ、学術情報データベースを活用して文献を入手している。

3　OPACや書架、学術情報データベースを利用しつつ、文献複写等の図書館サービスを駆使して、適切かつ必要な文献を入手している。

・多様な他者と関わりながら論文を作成している。

1　教員の指導を受けながら論文を作成している。

2　教員のみならず、他の学生と関わりながら論文を作成している。

3　教員、学内学生のみならず、学外を含む多様な他者と関わりながら論文を作成している。

・先行研究や参考文献をよく読みこなし批判的に吟味している。

1　先行研究や参考文献を読んでいる。

2　先行研究や参考文献をよく読みこなしている。

3　先行研究や参考文献をよく読みこなし批判的に吟味している。

・一次資料・データを広く収集し、独自の観点から分析している。

1　一次資料・データを利用している。

2　一次資料・データを広く収集して利用している。

3　一次資料・データを広く収集し、独自の観点から分析している。

・適切に典拠を示しながら論述している。

1　典拠を示そうとしている。

2　適切に論拠を示している。

3　適切に論拠をしめしながら論述している。

・具体例の吟味と抽象的な考察の往還ができている。

1　具体例の吟味または抽象的な考察のどちらかができている。

2　具体例の吟味と抽象的な考察がある。

3　具体例の吟味と抽象的な考察を相互に結びつけながら論証している。

・論理展開を明確にし、説得力ある文章で論証している。

1　ある程度意味が通じる文章で論証している。

2　論理展開を明確にしようとして論証している。

3　論理展開を明確にし、説得力ある文章で論証している。

(3)（論文の体裁）卒業論文は、400字詰原稿用紙に換算して、原則として50枚以上の分量がなければならない。

●授業内容・授業計画

各回の授業内容の記述は「卒業論文」にそぐわないので省略する。なお、「卒業論文」に連動するものとして、「卒業論文演習1」「卒業論文演習2」のシラバスを参照すること。

●事前・事後学習の内容

各回の事前・事後学習内容の記述は「卒業論文」にそぐわないので省略する。なお、「卒業論文」に連動するものとして、「卒業論文演習1」「卒業論文演習2」のシラバスを参照すること。

●評価方法

卒業論文は、「大阪市立大学学位規程に関する文学部内規」にしたがい、学部教授会において当該学科の教員から主査1名、副査1名以上を審査員として選出した上で審査をおこなう。審査は提出された卒業論文とその内容に関する面接試験の結果による。2月に実施する面接試験の日時は、各コースから通知する。審査基準は、文学部が定める「卒業論文に関する文学部ガイドライン」に示す手順と評価基準にしたがう。

●受講生へのコメント

「卒業論文」および「卒業論文演習1」は、卒業論文を提出する年度の前期に、「卒業論文演習2」は後期の履修登録期間中にWeb履修登録すること。

卒業論文は4年間の学士課程の集大成である。履修モデルとしてのコースに対応した学問分野（表現文化学、アジア文化学、文化資源学）の研究方法と専門知識を踏まえ、4年間の学修成果を基盤とした論文を完成させてほしい。また、学術情報総合センターの文献や機能を活用し、複数の教員や同学年・異学年の学生と頻繁に議論を進めながら、互いに切磋琢磨して研究を深めてほしい。

●参考文献・教材

参考文献：各自が参考文献一覧を作成することになる。

授業科目名	科目NO.	LAPHL3201	授業コード	L211010010	
哲学概論 I Introduction to Philosophy I			単位数	2 単位	
授業形態 講義	担当教員名 佐金 武				

●科目の主題

形而上学とは、世界の根本的なあり方を探求する哲学の一分野である。

その主要な問題の検討を通じて、われわれの世界観の明晰化を試みる。

●到達目標

哲学の基礎である論理的思考を身につけ、形而上学における基本的な諸問題を深く理解することを目標とする。

その際、自ら問題を形成する発想力と粘り強く考えぬく探究心、偏狭な見方を避けあらゆる可能性に対して開かれた知性を育むことを目指す。

●授業内容・授業計画

形而上学の主要な問題について、新旧の様々な理論的可能性を探る。

講義パートで学んだことを土台としてグループワークやディスカッションなどを行い、問題を多角的に検討する。

第1回 イントロダクション

第2回 時間の経過(1):マクタガート・パラドクス

第3回 時間の経過(2):無時制理論

第4回 時間の経過(3):様々な時制理論

第5回 まとめと課題の検討I

第6回 持続(1):一時的な内在的性質の問題

第7回 持続(2):延続説

第8回 持続(3):耐続説

第9回 まとめと課題の検討II

第10回 タイムトラベル(1):タイムトラベルとは何か

第11回 タイムトラベル(2):タイムトラベルの論理的可能性

第12回 タイムトラベル(3):タイムトラベルの形而上学的(不)可能性

第13回 まとめと課題の検討III

第14回 レポート作成の準備

第15回 アブストラクト発表会

●事前・事後学習の内容

ハンドアウトを利用して予習・復習をしっかり行い、様々な哲学的見解を十分に理解するとともに、自分の考えをもつように努めること。

各テーマに関連して3つの課題を与える。これらの課題の提出が、最終レポートに取り組むための前提条件となるので注意すること。

資料配布等はWebClassまたはウェブページを通じて行う。

●評価方法

授業内でのパフォーマンス20点、課題30点、最終レポート50点で総合的に評価する。

ただし、6回以上の欠席は評価の対象としない。

●受講生へのコメント

本科目は、後期に開講される哲学概論IIとあわせて受講することが望ましい。

●参考文献・教材

参考文献として次のテキストをあげる。(購入の必要はとくになし。)

[1]『現代形而上学』, 秋葉剛史ほか, 新曜社, 2014年.

[2] S. Mumford (2012), Metaphysics: A Very Short Introduction, Oxford University Press.(『哲学がわかる形而上学』, S・マンフォード著, 秋葉剛史ほか訳, 岩波書店, 2017年.)
[3] J. W. Carroll and N. Markosian (2010), An Introduction to Metaphysics, Cambridge University Press.
[4] J. Tallant (2011), Metaphysics: An Introduction, Continuum.
[5] E. B. Conee and T. Sider (2007), Riddles of Existence: A Guided Tour of Metaphysics, Oxford University Press.(『形而上学レッスン』、A・コニー&T・サイダー著、小山虎訳、春秋社)

授業科目名	科目NO.	LAPHL3202	授業コード	L211020010	
哲学概論Ⅱ Introduction to Philosophy Ⅱ			単位数	2 単位	
授業形態 講義	担当教員名 佐金　武				

●科目の主題

形而上学とは、世界の根本的なあり方を探求する哲学の一分野である。

その主要な問題の検討を通じて、われわれの世界観の明晰化を試みる。

●到達目標

哲学の基礎である論理的思考を身につけ、形而上学における基本的な諸問題を深く理解することを目標とする。

その際、自ら問題を形成する発想力と粘り強く考えぬく探究心、偏狭な見方を避けあらゆる可能性に対して開かれた知性を育むことを目指す。

●授業内容・授業計画

形而上学の主要な問題について、新旧の様々な理論的可能性を探る。

講義パートで学んだことを土台としてグループワークやディスカッションなどを行い、問題を多角的に検討する。

第1回　イントロダクション
第2回　性質(1):多にわたる一の問題
第3回　性質(2):実在論
第4回　性質(3):唯名論
第5回　まとめと課題の検討I
第6回　束説と基体説(1):個体の構成要素
第7回　束説と基体説(2):性質の束説
第8回　束説と基体説(3):基体説
第9回　まとめと課題の検討II
第10回　傾向性(1):反事実的条件法分析
第11回　傾向性(2):カテゴリー主義
第12回　傾向性(3):傾向性本質主義
第13回　まとめと課題の検討III
第14回　レポート作成の準備
第15回　アブストラクト発表会

●事前・事後学習の内容

ハンドアウトを利用して予習・復習をしっかり行い、様々な哲学的見解を十分に理解するとともに、自分の考えをもつように努めること。

各テーマに関連して3つの課題を与える。これらの課題の提出が、最終レポートに取り組むための前提条件となるので注意すること。

資料配布等はWebClassまたはウェブページを通じて行う。

●評価方法

授業内でのパフォーマンス20点、課題30点、最終レポート50点で総合的に評価する。

ただし、6回以上の欠席は評価の対象としない。

●受講生へのコメント

本科目は、前期に開講される哲学概論Iとあわせて受講することが望ましい。

●参考文献・教材

以下を参考文献としてあげる(購入の必要は特になし)。

[1]『現代形而上学』, 秋葉剛史ほか, 新曜社, 2014年.

[2] S. Mumford (2012), Metaphysics: A Very Short Introduction, Oxford University Press.(『哲学がわかる形而上学』, S・マンフォー

ド著, 秋葉剛史ほか訳, 岩波書店, 2017年.)
[2] J. W. Carroll and N. Markosian (2010), An Introduction to Metaphysics, Cambridge University Press.
[3] J. Tallant (2011), Metaphysics: An Introduction, Continuum.
[4] E. B. Conee and T. Sider (2007), Riddles of Existence: A Guided Tour of Metaphysics, Oxford University Press.(『形而上学レッスン』、A・コニー&T・サイダー著、小山虎訳、春秋社)

授業科目名	科目NO.	LAPHL2101	授業コード	L211030010	
哲学史通論 I Outline of the History of Philosophy I			単位数	2 単位	
授業形態	担当教員名				
講義	安田 将				

●科目の主題

哲学史の学習のためには古代哲学史に関する基本的な知識が必要である。この授業では古代哲学の主たる問題の展開と、主たる哲学者および哲学派の教説が古代哲学史のながれのなかでもつ意義をテーマとする。なお、講義は2年で1サイクルとなり、今年度はアリストテレス以後の時代を扱う(以下のスケジュールは順序・内容の入れ替え等変更の可能性があります)。

●到達目標

目標は、古代哲学史の基礎的な知識をもつこと、ならびに授業でとりあげる哲学者たちの取り組む問題を理解することである。

●授業内容・授業計画

本授業は、基本対面形式で行います。

第1回:イントロダクション(古代における哲学と哲学史)
第2回:アリストテレス①(学問論、知識論)
第3回:アリストテレス②(問答法、倫理学の方法論、弁論術と感情論)
第4回:アリストテレス③(モラル・サイコロジー)
第5回:アリストテレス④(自然学──運動論)
第6回:アリストテレス⑤(自然学──宇宙論)
第7回:アリストテレス⑥(ウーシア論、神論)
第8回:アリストテレス⑦(観想と実践)
第9回:エピクロス派の哲学(「プロレープシス」の概念、原子論・神論、エピクロス派の倫理学と功利主義)
第10回:ストア派の哲学(理性・問答法・世界、自然と神、自由意志論)
第11回:懐疑主義①(プラトン主義と「懐疑主義」、「問答法」の諸概念、「蓋然性」の概念史)
第12回:懐疑主義②(新ピュロン主義と表象・信念・行為、近代哲学と古代懐疑主義)
第13回:アリストテレス注釈と新プラトン主義①(哲学の方法としての注釈、ペリパトス派の哲学とアリストテレス主義)
第14回:アリストテレス注釈と新プラトン主義②(プラトン主義と新プラトン主義、新プラトン主義とアリストテレスの注釈)
第15回:試験

●事前・事後学習の内容

授業内で哲学的問題や哲学史・思想史的なトピックを取り上げる際には参考文献を合わせて紹介する。それらのうち関心のあるものを授業後に自らあたり哲学的・哲学史的知識を深める。また授業内で配布する資料を授業後に読み、授業の理解を深める。

●評価方法

成績は出席状況および試験成績を考慮して評価する。 内訳は、 出席が20%、 試験成績が80% とする。 聴講者が多い場合、 出席状況はランダムに 4 回調査する。

●受講生へのコメント

本授業は当面は対面形式で行います。ただし遠隔形式へと変更する可能性があります(その際は授業内で連絡します)。

●参考文献・教材

教科書は指定しない。資料は授業内で配布する。以下を参考書とする。内山勝利(編)『哲学の歴史 1 哲学誕生(古代I)』(2008年, 中央公論新社), 内山勝利(編)『哲学の歴史 2 帝国と賢者(古代II)』(2007年, 中央公論新社), 神崎繁・熊野純彦・鈴木泉(編)『西洋哲学史 I 「ある」の衝撃から始まる』(2011年, 講談社), 伊藤邦武・山内志朗・中島隆博。納富信留(編)『世界哲学史 I 古代I(知恵から愛知へ)』・『世界哲学史 II 古代II (世界哲学の成立と展開)』(2020年, 筑摩書房), G・E・R・ロイド(著), 山野耕治・山口義久(訳)『初期ギリシア科学 タレスからアリストテレスまで』(1994年, 原著1970年, 法政大学出版会), G・E・R・ロイド(著), 山野耕

治・山口義久・金山弥平（訳）『後期ギリシア科学 アリストテレス以後』（2000年，原著1973年，法政大学出版会），Guthrie, W. K. C., 1962?1981, A History of Greek Philosophy (Six volumes), Cambridge: Cambridge University Press.（全6巻中第6巻が本講義と関連する）

授業科目名	科目NO.	LAPHL2102	授業コード	L211040010	
哲学史通論Ⅱ Outline of the History of PhilosophyⅡ			単位数	2 単位	
授業形態 講義	担当教員名 高梨　友宏				

●科目の主題

大陸合理論の諸思想について概観する。

●到達目標

「我思う、ゆえに我あり」の命題によって人間の「自我」を認識論および存在論の要石として据えた17世紀のデカルトから、スピノザ、ライプニッツに至る「大陸合理論の哲学」を概観する。とくに「実体」「属性」「様相」「神」「精神」「物体」「情念(感情)」など、複数の思想家たちに共通して用いられながら、論者によって異なる意味と機能を持たされている基本概念に注目して、思想史の概観を行いたい。

●授業内容・授業計画

できる限り、以下のようなプランに沿って進めたい。

第1回 導入:合理論と経験論、およびその総合としての超越論的批判哲学について
第2回 デカルト(1):思惟する実体、明晰判明な認識、神
第3回 デカルト(2):属性・実体・二元論、延長を持つ実体
第4回 デカルト(3):身体と精神の関係について:松実腺と動物精気、情念
第5回 デカルト(4):身体と精神の関係について:原始的情念の諸相(「驚き」、「愛」、「憎しみ」、「欲望」)
第6回 デカルト(5):身体と精神の関係について:原始的情念の諸相(「喜び」、「悲しみ」)、「高邁」の情念、倫理
第7回 スピノザ(1):デカルトからの影響
第8回 スピノザ(2):神:神という実体、神の属性、神の様態
第9回 スピノザ(3):人間:精神と身体、認識
第10回 スピノザ(4):人間:感情、道徳
第11回 スピノザ(5):人間:自由、神への知性的な愛
第12回 ライプニッツ(1):実体:デカルトとアトミズムからの影響、表象
第13回 ライプニッツ(2):予定調和説、最良説
第14回 ライプニッツ(3):神、連続律
第15回 期末試験

●事前・事後学習の内容

事前学習:授業用に事前配布するプリントを読んで、授業に臨むこと。

事後学習:授業で触れた内容に関して、第一次文献に当たって復習するのが望ましい。

●評価方法

期末試験を課し、授業内容の理解の如何を評価対象とする。

なお、期末試験については、受験資格を「全授業回数の6割超出席者」のみに与えることとする。

●受講生へのコメント

・毎回「出席調査票」を配布し、出席の確認をする他、これに記載された受講者の質問や感想に答(応)える形で授業内容を補足する。
・「哲学史通論Ⅱ」の提供内容について:「大陸合理論」について概観する年と、「イギリス経験論からカントの批判哲学まで」を概観する年とが交替する。今年度は前者を扱う。

●参考文献・教材

教材として授業プリントを配布する。

その他、第一次文献、参考書等は適宜授業中に紹介する。

授業科目名	科目NO.	LAPHL3203	授業コード	L211050010	
哲学演習・講読 I Reading Seminar in Philosophy I			単位数	2 単位	
授業形態 演習	担当教員名 佐金 武				

●科目の主題

英語文献の講読を通じて、古くて新しい形而上学の主要な問題について考察する。

●到達目標

哲学の文献の読解力を養うとともに、形而上学とはいかなる知的営みであるかを実践的に学ぶ。

●授業内容・授業計画

今年度から、次のテキストの精読に取り組む。

Peter van Inwagen (2009) Metaphysics, Westview Press.

第1回 導入:テキストについての解説と授業の準備
第2回 第6章Necessary Being: The Ontological Argumentの講読(1)
第3回 第6章の講読(2)
第4回 第6章の講読(3)
第5回 課題I
第6回 第6章の講読(4)
第7回 第6章の講読(5)
第8回 第6章の講読(6)
第9回 第6章の講読(7)
第10回 課題II
第11回 第6章の講読(8)
第12回 第6章の講読(9)
第13回 第6章の講読(10)
第14回 第6章の講読(11)
第15回 課題III

●事前・事後学習の内容

各回、英語のテキストを全員で読解する。予習・復習をしっかり行うこと。

全3回の小レポートを課す。課題の内容は授業において示す。それに備え、普段からノートを作っておくこと。

資料配布等はWebClassまたはウェブページを通じて行う。

●評価方法

授業内でのパフォーマンスと全3回の小レポートにより評価する。

ただし、6回以上の欠席は評価の対象としない。

●受講生へのコメント

この科目は、後期に開講される哲学演習・講読IIとあわせて受講することが望ましい。

●参考文献・教材

Peter van Inwagen (2009) Metaphysics, Westview Press.

授業科目名	科目NO.	LAPHL3204	授業コード	L211060010	
哲学演習・講読Ⅱ Reading Seminar in Philosophy Ⅱ			単位数	2 単位	
授業形態 演習	担当教員名 佐金 武				

●科目の主題

英語文献の講読を通じて、古くて新しい形而上学の主要な問題について考察する。

●到達目標

哲学の文献の読解力を養うとともに、形而上学とはいかなる知的営みであるかを実践的に学ぶ。

●授業内容・授業計画

今年度から、次のテキストの精読に取り組む。

Peter van Inwagen (2009) Metaphysics, Westview Press.

第1回 導入:テキストについての解説と授業の準備
第2回 第7章Necessary Being: The Cosmological Argumentの講読(1)
第3回 第7章の講読(2)
第4回 第7章の講読(3)
第5回 課題I
第6回 第7章の講読(4)
第7回 第7章の講読(5)
第8回 第7章の講読(6)
第9回 第7章の講読(7)
第10回 課題II
第11回 第7章の講読(8)
第12回 第7章の講読(9)
第13回 第7章の講読(10)
第14回 第7章の講読(11)
第15回 課題III

●事前・事後学習の内容

各回、英語のテキストを全員で読解する。予習・復習をしっかり行うこと。

全3回の小レポートを課す。課題の内容は授業において示す。それに備え、普段からノートを作っておくこと。

資料配布等はWebClassまたはウェブページを通じて行う。

●評価方法

授業内でのパフォーマンスと全3回の小レポートにより評価する。

ただし、6回以上の欠席は評価の対象としない。

●受講生へのコメント

この科目は、前期に開講される哲学演習・講読Iとあわせて受講することが望ましい。

●参考文献・教材

Peter van Inwagen (2009) Metaphysics, Westview Press.

授業科目名	科目NO.	LAPHL3205	授業コード	L211070010	
哲学史演習・講読Ⅰ Reading Seminar in the History of Philosophy Ⅰ			単位数	2 単位	
授業形態 演習	担当教員名 高梨　友宏				

●科目の主題

フッサール『ヨーロッパ諸学の危機と超越論的現象学』を読む。

●到達目標

フッサール後期現象学の代表的著作の一つである『ヨーロッパ諸学の危機と超越論的現象学』における、フッサールの近代哲学史観の吟味を通して、(「哲学史通論Ⅱ」で取り上げた)デカルトからカントに至る近大哲学の諸思想の理解を深める。加えて、フッサールの「生活世界」の理念や「他者問題」についても理解することを目指す。

●授業内容・授業計画

最初の数回で、第1部「ヨーロッパ的人間の根本的な生活危機の表現としての学問の危機」、および第2部「近代における物理学的客観主義と超越論的主観主義との対立の起源の解明」のうち、第15節までの内容を講師が講述し、第16節から「演習」を行う。演習の進め方については第1回目に説明する。

第1回　導入:フッサール『危機』書について
第2回 『危機』書第1部の内容についての講述(1)
第3回 『危機』書第2部の内容についての講述(2)
第4回 『危機』書第2部の内容についての講述(3)
第5回 『危機』書第2部の内容についての講述(4)
第6回　演習(1)
第7回　演習(2)
第8回　演習(3)
第9回　演習(4)
第10回　演習(5)
第11回　演習(6)
第12回　演習(7)
第13回　演習(8)
第14回　演習(9)

●事前・事後学習の内容

事前学習　講述部分については、事前に配布する関連資料を読んで授業に臨まれたい。演習部分については、担当者を事前に決める(履修者の人数によっては、同一箇所を複数名のグループで担当してもらう)が、その日演習を担当しない人も、必ずテキストに目を通して授業に臨むこと。演習を担当する人は、内容に関する授業用レジュメを用意し、内容に関して十分説明できるようにテキストをよく読み込んでくること。

事後学習　本演習における既読のテキスト箇所については、講師の講述に拘わらず、第一次文献を用いて、遡って独習されたい。

●評価方法

平常点による評価。ただし、当日の受講者による議論を行うので、授業への出席を重視する。全授業回数の6割以上の出席率が必須。

●受講生へのコメント

・基本的に翻訳書に基づいて演習を進めるが、原文を参照する場合があるので、少なくとも初級ドイツ語の既修者が受講されることが望ましい。

・『危機』書はフッサールの西洋近世哲学史への批判的考察を含むため、履修に当たっては「哲学史通論」などの哲学史系科目を並行履修するか、既修であることが望ましい。そうでなければ、哲学史の書物(とくに指定はしない)を自分で読み、少なくともデカルトからカントまでの西洋哲学史上の一般的知見をあらかじめ得ておいてほしい。

●参考文献・教材

教材：E.フッサール『ヨーロッパ諸学の危機と超越論的現象学』細谷恒夫・木田元訳、中公文庫、1995年。他にも翻訳が出ているが、授業ではテキストのページ数などを確認しながら進めるので、履修に当たってはこの訳書を必ず入手しておいてほしい。

なお、独語原文は必要に応じてコピーして配布する。

授業科目名	科目NO.	LAPHL3206	授業コード	L211080010	
哲学史演習・講読Ⅱ Reading Seminar in the History of PhilosophyⅡ			単位数	2 単位	
授業形態 演習	担当教員名 高梨　友宏				

●科目の主題

フッサール『ヨーロッパ諸学の危機と超越論的現象学』を読む(「哲学史演習・講読Ⅰ」のつづき)。

●到達目標

「哲学史演習・講読Ⅰ」に記載の内容に同じ。

●授業内容・授業計画

本年度前期「哲学史演習講読Ⅰ」の続き。最初の数回で、第2部「近代における物理学的客観主義と超越論的主観主義との対立の起源の解明」の今年度前期に既読の箇所の内容について講師が講述し、その続きから「演習」を行う。

第1回『危機』書第2部の既読箇所の内容についての講述(1)
第2回『危機』書第2部の既読箇所の内容についての講述(2)
第3回 演習(1)
第4回 演習(2)
第5回 演習(3)
第6回 演習(4)
第7回 演習(5)
第8回 演習(6)
第9回 演習(7)
第10回 演習(8)
第11回 演習(9)
第12回 演習(10)
第13回 演習(11)
第14回 演習(12)

●事前・事後学習の内容

事前学習 「哲学史演習・講読Ⅰ」に記載の内容に同じ。

事後学習 「哲学史演習・講読Ⅰ」に記載の内様に同じ。

●評価方法

平常点による評価。ただし、当日の受講者による議論を行うので、授業への出席を重視する。全授業回数の6割以上の出席率が必須。

●受講生へのコメント

・本講は前期の続きとなるので、本年度の「哲学史演習講読Ⅰ」の既修を前提に進める。Ⅱから履修する人は、前期に取り上げた内容に関して自分で訳書等を読んでフォローすること。

・その他、「哲学史演習・講読Ⅰ」に記載の内容を参照。

●参考文献・教材

教材:E.フッサール『ヨーロッパ諸学の危機と超越論的現象学』細谷恒夫・木田元訳、中公文庫、1995/6年

受講者各自が用意すること。なお、独語原文はコピーして配布する。

授業科目名	科目NO.	LAPHL3207	授業コード	L211090010	
倫理学概論 I Introduction to Ethics I			単位数	2 単位	
授業形態 講義	担当教員名 土屋 貴志				

●科目の主題

倫理学(道徳哲学)とは、規範の根拠について考える学問である。いいかえれば「～はわるい」「～はよい」「～してはいけない」「～してもよい」「～すべきだ」「～すべきではない」等ということが、どうしてそう言えるのか、その理由を示そうとするのが倫理学である。

本科目においては倫理学基礎論(倫理学的思考とはそもそもどういうことか)について考察する。

●到達目標

受講生諸君が、社会におけるさまざまな規範の根拠について考え、自分の規範的判断の理由を、他者の納得できる形で表現するために、留意すべき事項を知る。

●授業内容・授業計画

この授業は対面により実施する。ただし、教材・資料・課題等の伝達および提出はすべてWebClass上で行う。

授業は主に講義テキストに関する質疑応答により進める。

内容は下記の予定であるが、必要に応じて変更する可能性もある。

1. オリエンテーション
2. 倫理学とはなにか
3.「事実」と「規範」の違い①指図性
4.「事実」と「規範」の違い②「世界」の二つの扱い方
5. 現実の問題と倫理学の関係
6. 事例1をめぐる討論
7. 事例1をめぐる討論の分析
8. 規範を根拠づけるとはどういうことか①
9. 規範を根拠づけるとはどういうことか②
10. 究極的原理はどのようなものか①
11. 究極的原理はどのようなものか②
12. どちらにすべきか決められない:葛藤
13. わかっているけどできない:無抑制
14. まとめの質疑
15. 自己評価レポート執筆

●事前・事後学習の内容

事前学習として、WebClass上の指示に従い、毎回、担当者のウェブサイト(http://www.lit.osaka-cu.ac.jp/user/tsuchiya/class/class-index.html)で公開している講義テキストの次回分を精読し、テキストに関する質問を整理して記入した小レポート(質問レポート)を、授業前日朝までにWebClassに提出すること。

事後学習として、授業での質疑応答の内容を踏まえ、改めて講義テキストを熟読すること。

●評価方法

学期末の試験やレポートは行わない。

担当教員は、各回の質問レポートを8点満点で評価し、学期末にすべての質問レポートの得点を合計して評点原案を作成する(上限100点)。

受講者は、本科目に関する自らの学習活動を自己採点し、その根拠を記した「自己評価レポート」を学期末に提出する。

担当教員は、原則として、評点原案と、自己評価レポートにおける自己採点を、平均して最終評点とする。ただし、自己評価レポートが作成要領に従っていない場合は評点原案から減点し最終評点とする。

●受講生へのコメント

・開講後1か月以内に、学籍番号・氏名（ふりがな）・自己紹介を記入し顔写真を貼り込んだ受講カードを提出すること。

・履修登録していても、受講カードと自己評価レポートのいずれか一方でも提出しない場合は履修放棄とみなす。

●参考文献・教材

以下の参考図書のほか、授業中に適宜紹介する。

佐藤岳詩『メタ倫理学入門』(勁草書房)

レイチェルズ『現実をみつめる道徳哲学』(晃洋書房)

授業科目名	科目NO.	LAPHL3208	授業コード	L211100010	
倫理学概論Ⅱ Introduction to Ethics Ⅱ			単位数	2 単位	
授業形態 講義	担当教員名 土屋　貴志				

●科目の主題

倫理学(道徳哲学)とは、規範の根拠について考える学問である。いいかえれば「～はわるい」「～はよい」「～してはいけない」「～してもよい」「～すべきだ」「～すべきではない」等ということが、どうしてそう言えるのか、その理由を示そうとするのが倫理学である。

本科目では倫理学の代表的な諸理論について検討する。

●到達目標

倫理学の諸理論とその問題点について考え議論することにより、受講生が「倫理学について語る」ための基礎的知識を得る。

●授業内容・授業計画

この授業は対面により実施する。ただし、教材・資料・課題等の伝達および提出はすべてWebClass上で行う。

授業は講義テキストに関する質疑応答により進める。

内容は下記の予定であるが、必要に応じて変更する可能性もある。

1. オリエンテーション
2. 現代倫理学「理論」の特長に基づく分類
3. 発見の方法～決疑論
4. 正当化①義務論
5. 正当化②帰結主義 (1)利己主義
6. 正当化②帰結主義 (2)功利主義 (a)古典的功利主義と選好功利主義
7. 正当化②帰結主義 (2)功利主義 (b)行為功利主義と規則功利主義
8. 正当化②帰結主義 (2)功利主義 (c)総量説と平均効用説、先行存在説
9. 正当化③社会契約説
10. 起源の説明①共同体主義
11. 起源の説明②進化論的倫理学
12. 教育～徳倫理学
13. 実践上の注意～ケア倫理学
14. まとめの質疑
15. 自己評価レポート執筆

●事前・事後学習の内容

事前学習として、WebClass上の指示に従い、毎回、担当者のウェブサイト(http://www.lit.osaka-cu.ac.jp/user/tsuchiya/class/class-index.html)で公開している講義テキストの次回分を精読し、テキストに関する質問を整理して記入した小レポート(質問レポート)を、授業前日朝までにWebClassに提出すること。

事後学習として、授業での質疑応答の内容を踏まえ、改めて講義テキストを熟読すること。

●評価方法

学期末の試験やレポートは行わない。

担当教員は、各回の質問レポートを8点満点で評価し、学期末にすべての質問レポートの得点を合計して評点原案を作成する(上限100点)。

受講者は、本科目に関する自らの学習活動を自己採点し、その根拠を記した「自己評価レポート」を学期末に提出する。

担当教員は、原則として、評点原案と、自己評価レポートにおける自己採点を、平均して最終評点とする。ただし、自己評価レポートが作成要領に従っていない場合は評点原案から減点し最終評点とする。

●受講生へのコメント

・開講後1か月以内に、学籍番号・氏名（ふりがな）・自己紹介を記入し、顔写真を貼り込んだ「受講カード」を提出すること。
・履修登録していても、受講カードと自己評価レポートのいずれか一方でも提出しない場合は履修放棄とみなす。
・文学部専門科目「倫理学概論Ⅰ」の内容を理解していなければ、当科目の授業内容は理解できない。「倫理学概論Ⅰ」を履修済みであるか、上記担当者ウェブサイトにある「倫理学概論Ⅰ」の講義テキストを全て熟読していなければ、履修すべきではない。

●参考文献・教材

以下の参考図書のほか、授業中に適宜紹介する。
ジョンセン他『臨床倫理学』(新興医学出版社)
カント『プロレゴーメナ・人倫の形而上学の基礎づけ』(中公クラシックス)
フランケナ『倫理学』(培風館)
『エピクロス――教説と手紙』(岩波文庫)
ランド『利己主義という気概』(ビジネス社)
『世界の名著49・ベンサム/J.S.ミル』(中央公論新社)
ヘア『道徳的に考えること』(勁草書房)
シンガー『実践の倫理』(昭和堂)
ホッブズ『リヴァイアサン』(岩波文庫)
ロック『完訳統治二論』(岩波文庫)
ロールズ『正義論』(紀伊國屋書店)
アリストテレス『ニコマコス倫理学』(光文社古典新訳文庫)
マッキンタイア『美徳なき時代』(みすず書房)
ジェイムズ『進化倫理学入門』(名古屋大学出版会)
ノディングズ『ケアリング』(晃洋書房)

授業科目名	科目NO.	LAPHL3209	授業コード	L211110010	
倫理学演習・講読Ⅰ Seminars in Ethics Ⅰ			単位数	2 単位	
授業形態 演習	担当教員名 土屋 貴志				

●科目の主題

西洋倫理学の代表的な古典三点を日本語で通読する。

●到達目標

西洋倫理学の代表的古典に関して、

1) 著者は倫理をどのようなものと考えていたか

2) 著者が答えようとした問いとは何だったのか、それは現代の日本社会に生きる我々にとって、どのような意義をもつか

3) 著者の考え方や論の進め方の特徴

の三点について、受講生が自分自身の解答を得る。

●授業内容・授業計画

この授業は対面により実施する。毎週少なくとも100ページ以上の読書課題を課す。毎回、読書課題に関する質疑応答を行う。課題文献についてのレポート(4000字程度)を二回課す。

具体的には下記のように進める予定であるが、必要に応じて変更する可能性もある。

1. オリエンテーション・受講カード作成
2. プラトン『国家』第1巻～第3巻18章
3. プラトン『国家』第3巻19章～第5巻
4. プラトン『国家』第6巻・第7巻
5. プラトン『国家』第8巻～第10巻
6. 中間レポート執筆
7. アリストテレス『ニコマコス倫理学』第1巻～第3巻第9章
8. アリストテレス『ニコマコス倫理学』第3巻第10章～第5巻
9. アリストテレス『ニコマコス倫理学』第6巻～第8巻第7章
10. アリストテレス『ニコマコス倫理学』第8巻第8章～第10巻
11. カント『人倫の形而上学の基礎づけ』序言・第1章
12. カント『人倫の形而上学の基礎づけ』第2章前半
13. カント『人倫の形而上学の基礎づけ』第2章後半
14. カント『人倫の形而上学の基礎づけ』第3章
15. 期末レポート執筆・採点面接

●事前・事後学習の内容

事前学習として、テキストの読書課題箇所を、ウェブサイト http://www.lit.osaka-cu.ac.jp/user/tsuchiya/class/ethics_seminar/seminar-eth-sylbs.html に掲げられた問いに回答しながら、精読してくること。

事後学習として、レポートに向け、テキストを繰り返し読み直し、理解を深めること。

●評価方法

出席状況(10%)および二回のレポート(中間45%+期末45%＝90%)を、担当教員による評価の対象とする。

学期末試験は行わないが、採点に関する面談を行う。

採点面接では、受講生は自らの学習活動の自己評価とその根拠を説明する。担当教員は受講生の自己評価を考慮し最終評点を決定する。

●受講生へのコメント

読書課題の量が多いが、一字一句の理解よりも、論旨は何かを考えて、大意をつかむ読み方を習得するように心がけてほしい。

●参考文献・教材

テキストは以下の本全部である。

プラトン『国家』（上・下、岩波文庫）

アリストテレス『ニコマコス倫理学』（上・下、光文社古典新訳文庫）

カント「人倫の形而上学の基礎づけ」（中公クラシックス『プロレゴーメナ・人倫の形而上学の基礎づけ』所収）

参考文献は必要に応じて授業中に紹介する。

授業科目名	科目NO.	LAPHL3210	授業コード	L211120010	
倫理学演習・講読Ⅱ Seminars in Ethics Ⅱ				単位数	2 単位
授業形態 演習	担当教員名 土屋　貴志				

●科目の主題

英米倫理学の代表的な古典五点を日本語で通読する。

●到達目標

英米倫理学の代表的古典に関して、

1) 著者は倫理をどのようなものと考えていたか

2) 著者が答えようとした問いとは何だったのか、それは現代の日本社会に生きる我々にとって、どのような意義をもつか

3) 著者の考え方や論の進め方の特徴

の三点について、受講生が自分自身の解答を得る。

●授業内容・授業計画

この授業は対面により実施する。毎週少なくとも100ページ以上の読書課題を課す。毎回、読書課題に関する質疑応答を行う。課題文献についてのレポート(4000字程度)を二回課す。

具体的には下記のように進める予定であるが、必要に応じて変更する可能性もある。

1. オリエンテーション・受講カード作成
2. ホッブズ『リヴァイアサン』序説～第9章
3. ホッブズ『リヴァイアサン』第10章～第16章
4. ホッブズ『リヴァイアサン』第17章～第25章
5. ホッブズ『リヴァイアサン』第26章～第31章
6. ロック『統治二論』後編第1章～第8章
7. ロック『統治二論』後編第9章～第19章
8. 中間レポート執筆
9. ベンサム『道徳および立法の諸原理序説』序言・第1章～第6章
10. ベンサム『道徳および立法の諸原理序説』第7章～第17章
11. J. S. ミル「功利主義」第1章～第3章
12. J. S. ミル「功利主義」第4章・第5章
13. J. S. ミル『自由論』第1章・第2章
14. J. S. ミル『自由論』第3章～第5章
15. 期末レポート執筆・採点面接

●事前・事後学習の内容

事前学習として、テキストの読書課題箇所を、ウェブサイト http://www.lit.osaka-cu.ac.jp/user/tsuchiya/class/ethics_seminar/seminar-eth-sylbs.html に掲げられた問いに回答しながら、精読してくること。

事後学習として、レポートに向け、テキストを繰り返し読み直し、理解を深めること。

●評価方法

出席状況(10%)および二回のレポート(中間45%+期末45%＝90%)を、担当教員による評価の対象とする。

学期末試験は行わないが、採点に関する面談を行う。

採点面接では、受講生は自らの学習活動の自己評価とその根拠を説明する。担当教員は受講生の自己評価を考慮し最終評点を決定する。

●受講生へのコメント

読書課題の量が多いが、一字一句の理解よりも、論旨は何かを考えて、大意をつかむ読み方を習得するように心がけてほしい。

●参考文献・教材

テキストは以下の文献全部である（ベンサムとミルのテキストはWebClassで配布する）。

ホッブズ『リヴァイアサン』(1) (2)（岩波文庫）

ロック『完訳統治二論』（岩波文庫）

ベンサム『道徳および立法の諸原理序説』（『世界の名著49　ベンサム/J. S. ミル』中公バックス［中央公論新社］所収）

J. S. ミル「功利主義」（『J. S. ミル功利主義論集』京都大学学術出版会、所収）

J. S. ミル『自由論』（光文社古典新訳文庫［2006年版・山岡洋一訳］）

参考文献は必要に応じて授業時間内に紹介する。

授業科目名	科目NO.	LAPHL3211	授業コード	L211130010	
宗教学概論 I Introduction to the Study of Religion I			単位数	2 単位	
授業形態 講義	担当教員名 仲原 孝				

●科目の主題

世界に数えきれないほど存在する宗教について考えるのに、すべての宗教をひとまとめにして扱ってしまったのでは宗教の真相は見えなくなる。そこでこの講義では、毎年、特定の宗教的・宗教哲学的思想を主題として取り上げ、それについて深く掘り下げながら、宗教の本質について考えてゆく。

●到達目標

具体的な宗教現象に即しながら、宗教の本質について受講者各自が独自の哲学的思考を展開できるようになることを、授業の目標とする。

●授業内容・授業計画

今年は、アルトゥール・ショーペンハウアーの宗教哲学について解説しながら、宗教とは何か、哲学とは何かについて考えてゆく。

授業は原則として対面授業で行なう。ただし、感染拡大などのゆえにやむなく遠隔授業に切り替えることもありうるので、大学からの通知に常に注意しておくこと。感染が判明したなどの理由で対面授業に出席できなくなった受講生は、すみやかにサポートセンターへ届け出て必要な指示を受けること。

授業計画は以下のとおり。

第 1回 イントロダクション
第 2回 ショーペンハウアーの生涯
第 3回 『意志と表象としての世界』について
第 4回 表象一元論
第 5回 「充足理由律」について
第 6回 充足理由律に従う表象
第 7回 空間・時間の本質について
第 8回 カントとショーペンハウアー
第 9回 悟性と理性との区別
第10回 概念とは何か
第11回 動物と人間とのちがいについて
第12回 学問の役割
第13回 理性の対象の観念性
第14回 哲学の役割について
第15回 総括

●事前・事後学習の内容

必要に応じて資料を配布し、参考文献を指示するので、次回授業までにそれを熟読し、わかったことや疑問点をノートにまとめておくこと。随時それをレポートの形で提出することを求める。

●評価方法

小論文形式のレポートを課す。論ずるべき課題を通知する時に、同時に、枚数、テーマ、論じ方など、論述が満たすべき条件を何項目かにわたって指定する。それらがすべて満たされていることが単位認定の必須の条件となる。

●受講生へのコメント

授業中の私語は厳重に禁止する。成績評価のためのレポートでは、講義で提示された問題に対して各自が主体的に答を模索することが求められる。ノートや参考書をまとめただけのレポートには単位を認定しないので注意。

●参考文献・教材

テキストは用いない。必要な資料は印刷して授業中に配布する。

授業科目名	科目NO.	LAPHL3212	授業コード	L211140010	
宗教学概論Ⅱ Introduction to the Study of Religion Ⅱ				単位数	2 単位
授業形態 講義	担当教員名 仲原　孝				

●科目の主題

世界に数えきれないほど存在する宗教について考えるのに、すべての宗教をひとまとめにして扱ってしまったのでは宗教の真相は見えなくなる。そこでこの講義では、毎年、特定の宗教的・宗教哲学的思想を主題として取りあげ、それについて深く掘り下げながら、宗教の本質について考えてゆく。

●到達目標

具体的な宗教現象に即しながら、宗教の本質について受講者各自が独自の哲学的思考を展開できるようになることを、授業の目標とする。

●授業内容・授業計画

前期に続いてショーペンハウアーの宗教哲学について解説しながら宗教および哲学の本質について考察する。前期と連続して受講することが望ましい。

授業は原則として対面授業で行なう。ただし、感染拡大などのゆえにやむなく遠隔授業に切り替えることもありうるので、大学からの通知に常に注意しておくこと。感染が判明したなどの理由で対面授業に出席できなくなった受講生は、すみやかにサポートセンターへ届け出て必要な指示を受けること。

授業計画は以下のとおり。

第 1回　イントロダクション
第 2回　表象としての世界と意志としての世界との関係
第 3回　意志とは何か
第 4回　意志としての身体
第 5回　自然の階層構造
第 6回　芸術の本質について
第 7回　イデアの観照としての芸術
第 8回　プラトンとショーペンハウアー
第 9回　美と崇高との関係
第10回　美の諸段階
第11回　宗教の本質について
第12回　生は苦悩である
第13回　意志の単純肯定
第14回　意志の絶対的否定としての宗教
第15回　総括

●事前・事後学習の内容

必要に応じて資料を配布し、参考文献を指示するので、次回授業までにそれを熟読し、わかったことや疑問点をノートにまとめておくこと。随時それをレポートの形で提出することを求める。

●評価方法

小論文形式のレポートを課す。論ずるべき課題を通知する時に、同時に、枚数、テーマ、論じ方など、論述が満たすべき条件を何項目かにわたって指定する。それらがすべて満たされていることが単位認定の必須の条件となる。

●受講生へのコメント

授業中の私語は厳重に禁止する。成績評価のためのレポートでは、講義で提示された問題に対して各自が主体的に答を模索することが求められる。ノートや参考書をまとめただけのレポートには単位を認定しないので注意。

●参考文献・教材

テキストは用いない。必要な資料は印刷して授業中に配布する。

授業科目名	科目NO.	LAPHL3213	授業コード	L211150010	
宗教学演習・講読 I Reading Seminar in the Study of Religion I			単位数	2 単位	
授業形態 演習	担当教員名 仲原 孝				

●科目の主題

宗教学・宗教哲学の基礎的文献を講読する。

●到達目標

文献を正確に読解する能力を身につけつつ、しかもそれに対する自分独自の解釈を形成する力を養うことを、授業の目標とする。

●授業内容・授業計画

今年はフリードリヒ・ニーチェの『悦ばしき学問』をドイツ語原書で講読する。

授業計画は以下のとおり。

第1 回 §1

第2 回 §2

第3 回 §3

第4 回 §4

第5 回 §5

第6 回 §6

第7 回 §7

第8 回 §8

第9 回 §9

第10回 §10

第11回 §11

第12回 §12

第13回 §13

第14回 §14

第15回 §15

●事前・事後学習の内容

毎回、受講者全員が指定された範囲のテキストを翻訳し、要点を十分に理解した上で授業に臨むこと。授業後は各自の翻訳の誤りをチェックしなおし、授業で提示された問題に対する各自の解釈をまとめておくこと。随時そのまとめをレポートの形で提出するよう求める。

●評価方法

担当課題をどの程度適切に果たしたか、授業時の議論にどの程度積極的に参加したか、要求されたレポートは適切であったか、を総合的に考慮して評価する。

●受講生へのコメント

欠席・遅刻は大幅に減点する。特段の理由なく欠席した者には単位を認めないので注意すること。

●参考文献・教材

テキストは、Friedrich Nietzsche: "Die Fröhliche Wissenschaft", Kritische Studienausgabe, Walter de Gruyter Verlag を使用する（初回授業時にテキストのコピーを配布する）。

授業科目名	科目NO.	LAPHL3214	授業コード	L211160010	
宗教学演習・講読Ⅱ Reading Seminar in the Study of Religion Ⅱ			単位数	2 単位	
授業形態 演習	担当教員名 仲原　孝				

●科目の主題

宗教学・宗教哲学の基礎的文献を講読する。

●到達目標

文献を正確に読解する能力を身につけつつ、しかもそれに対する自分独自の解釈を形成する力を養うことを、授業の目標とする。

●授業内容・授業計画

前期にひきつづき、ニーチェの『悦ばしき学問』を、ドイツ語原語で講読する。前期と連続して受講することが望ましい。

授業計画は以下のとおり。

第1 回　§16
第2 回　§17
第3 回　§18
第4 回　§19
第5 回　§20
第6 回　§21
第7 回　§22
第8 回　§23
第9 回　§24
第10回　§25
第11回　§26
第12回　§27
第13回　§28
第14回　§29
第15回　§30

●事前・事後学習の内容

毎回、受講者全員が指定された範囲のテキストを翻訳し、要点を十分に理解した上で授業に臨むこと。授業後は各自の翻訳の誤りをチェックしなおし、授業で提示された問題に対する各自の解釈をまとめておくこと。随時そのまとめをレポートの形で提出するよう求める。

●評価方法

担当課題をどの程度適切に果たしたか、授業時の議論にどの程度積極的に参加したか、要求されたレポートは適切であったか、を総合的に考慮して評価する。

●受講生へのコメント

欠席・遅刻は大幅に減点する。特段の理由なく欠席した者には単位を認めないので注意すること。

●参考文献・教材

テキストは、Friedrich Nietzsche: "Die Fröhliche Wissenschaft", Kritische Studienausgabe, Walter de Gruyter Verlag を使用する（初回授業時にテキストのコピーを配布する）。

授業科目名	科目NO.	LAPHL3217	授業コード	L211190010	
美学概論 I Introduction to Aesthetics I			単位数	2 単位	
授業形態 講義	担当教員名 高梨 友宏				

●科目の主題

近代ドイツ美学史を概観する。

●到達目標

「美学」は18世紀ドイツの哲学者A.G.バウムガルテンによって「感性的認識の学」として―ただし実質的には美や芸術を主題とする学として―打ちたてられた、比較的歴史の浅い、哲学の一分科である。バウムガルテン以後、「美学」は様々な思想家の手に委ねられ、独自の思想史を形成していく。本講では、ドイツの思想家たちに担われた美学思想を、その成立から現代に至るまで編年的に概観しながら、とくに美学の中心概念である「美的／感性的なもの」および、それに深い関連をもつ周辺的諸概念、すなわち、「芸術」、「感情」、「趣味」、「価値」などが、これを論じる哲学者たちにより、彼らの思想的立場を反映して、どのように扱われていくかについて検討したい。I ではバウムガルテン、カント、シラーらドイツ近代初期の美学思想を取り上げる予定だが、とくにカントに重点を置いて講じる予定。

●授業内容・授業計画

できるかぎり、以下のプランに沿って授業を進めたい。

第1回 導入「美学とは何か？」
第2回 バウムガルテン(1):感性的認識の学
第3回 バウムガルテン(2):美と芸術
第4回 カント(1):批判哲学体系の中での“美学”の位置づけ
第5回 カント(2):“趣味判断”の第1契機
第6回 カント(3):“趣味判断”の第2契機
第7回 カント(4):“趣味判断”の第3契機
第8回 カント(5):“趣味判断”の第4契機
第9回 カント(6):芸術論
第10回 カント(7):天才論
第11回 カント(8):崇高論
第12回 カント(9):美と道徳的善
第13回 シラー(1):カント美学への批判と美の自律性
第14回 シラー(2):美的教育論
第15回 期末試験

●事前・事後学習の内容

事前学習:授業で用いるテキストを事前にプリントして配布するので、少なくともこれを読んで授業に臨まれたい。
事後学習:可能であれば、授業で触れた内容について当該の哲学者の一次資料に当たって確認されたい。

●評価方法

学期末試験を課し、授業内容の理解の如何を評価対象とする。
なお、期末試験については、受験資格を「全授業回数の6割超出席者」のみに与えることとする。

●受講生へのコメント

・受講に際して、特に予備知識は必要としないが、美や芸術に対すると同程度に、哲学にも関心を持つ人の受講が望ましい。
・毎授業の終わりに、10分程度、授業内容に関連するクラシック音楽を観賞する時間を設ける予定。
・毎回「出席調査票」を配布し出席確認をする他、これに記載された受講者の質問や感想に答(応)える形で授業内容を補足する。

●参考文献・教材

教材：授業用プリントを配布する。
参考書：今道友信編講座『美学』（東京大学出版会）／新田博衛編『藝術哲学の根本問題』（晃洋書房）／木幡順三『美と芸術の論理』（勁草書房）／佐々木健一『美学辞典』（東京大学出版会）／当津武彦編『美の変貌』（世界思想社）他、授業時間中に適宜指示する。

授業科目名	科目NO.	LAPHL3218	授業コード	L211200010	
美学概論Ⅱ Introduction to Aesthetics Ⅱ				単位数	2 単位
授業形態	担当教員名				
講義	高梨　友宏				

●科目の主題

ヘーゲル以後の主たるドイツ系美学・芸術哲学の概観。

●到達目標

美学概論Ⅰの続き(Ⅰの項を参照されたい)。Ⅱでは、ヘーゲル、ショーペンハウアー、ニーチェ、フィードラー、ハイデガーらの美学または芸術哲学を概観しながら、美学(または芸術哲学)の諸問題についての理解を目指す。

●授業内容・授業計画

できるかぎり、以下のプランに沿って授業を進めたい。

第1回 導入「美学の課題と展開」
第2回 ヘーゲル(1):芸術哲学の方法論
第3回 ヘーゲル(2):芸術の歴史的展開
第4回 ヘーゲル(3):芸術終焉論
第5回 ショーペンハウアー(1):表象としての世界
第6回 ショーペンハウアー(2):意志としての世界
第7回 ショーペンハウアー(3):イデアの直観
第8回 ショーペンハウアー(4):美もしくは芸術の目的
第9回 ショーペンハウアー(5):芸術ジャンル論と音楽への評価
第10回 フィードラー(1):芸術活動の意義、すなわち現実性の把握
第11回 フィードラー(2):芸術活動の自立性、すなわち芸術学の基礎付けへの貢献
第12回 ハイデガー(1):現象学的存在論
第13回 ハイデガー(2):芸術作品における存在の生起、または“大地”と“世界”の抗争
第14回 ハイデガー(3):美学への批判
第15回 期末試験

●事前・事後学習の内容

事前学習:授業で用いるテキストを事前にプリントして配布するので、少なくともこれを読んで授業に臨まれたい。

事後学習:可能であれば、授業で触れた内容について当該の哲学者の一次資料に当たって確認されたい。

●評価方法

学期末試験を課し、授業内容の理解の如何を評価対象とする。

なお、期末試験については、受験資格を「全授業回数の6割超出席者」のみに与えることとする。

●受講生へのコメント

・受講に際して、特に予備知識は必要としないが、美や芸術に対すると同程度に、哲学にも関心を持つ人の受講が望ましい。
・本講は前期「美学概論Ⅰ」の続きであるため、Ⅰの受講者が継続して受講することが望ましい。
・毎授業の終わりに、10分程度、授業内容に関連するクラシック音楽を観賞する時間を設ける予定。
・毎回「出席調査票」を配布し、出席の確認をする他、これに記載された受講者の質問や感想に答(応)える形で授業内容を補足する。

●参考文献・教材

教材:授業用プリントを配布する。

参考書:今道友信編講座『美学』(東京大学出版会)／新田博衛編『藝術哲学の根本問題』(晃洋書房)／木幡順三『美と芸術の論理』(勁草書房)／佐々木健一『美学辞典』(東京大学出版会)／当津武彦編『美の変貌』(世界思想社)他、授業時間中に適宜指示する。

授業科目名	科目NO.	LAPHL3219	授業コード	L211240010	
哲学特講Ⅰ Special Lecture on Philosophy Ⅰ			単位数	2 単位	
授業形態 講義	担当教員名 川崎 えり				

●科目の主題

中世末期、ルネサンス前夜に独創的な思想を紡いだとされるニコラウス・クザーヌス(1401-1464)のテキストを軸に、関連するテーマ・文献に触れながら、彼の思惟に根差す中世哲学の伝統と近世哲学の萌芽を読み解く。前半では彼の思想の背景となるより基礎的なトピックを扱い、後半では現代哲学に通じるよりラディカルな問題に踏み込む。

●到達目標

キリスト教思想の文献に携わる際に必要な基礎的知識を得ると共に、現代に通じる哲学的諸問題に展開・応用する力を養う。

●授業内容・授業計画

第1回 イントロダクション
第2回 神と〈反対対立の一致〉
第3回 無限
第4回 新プラトン主義
第5回 神の存在証明
第6回 神秘思想
第7回 ルネサンス①
第8回 ルネサンス②
第9回 前半総括
第10回 無の問題①
第11回 無の問題②
第12回 ディスカッション
第13回 存在と可能の問題①
第14回 存在と可能の問題②
第15回 ディスカッション

●事前・事後学習の内容

予習:事前に配布する資料、テキストに目を通し、各自疑問点を整理すること。
復習:レポート執筆に向けて、理解した要点や提起したいトピックを見つけ、まとめておくこと。

●評価方法

平常点:出席、ディスカッション 50%
レポート:3000字程度 50%

●受講生へのコメント

単に知識、教養を得るために学ぶという姿勢よりも、自身の問題意識と関連づけてそれを深めることに重きを置く態度を歓迎したい。他者の考えを読むこと、聴くこと、だけでなく、自身の考えを話すこと、書くことも大いに重んじる。

●参考文献・教材

事前に資料を配布する。

授業科目名	科目NO.	LAPHL3220	授業コード	L211250010	
哲学特講Ⅱ Special Lecture on Philosophy Ⅱ			単位数	2 単位	
授業形態 演習	担当教員名 加藤　憲治				

●科目の主題

哲学的古典をフランス語(あるいは英語)で精読することによって、哲学的基礎知識を習得し、西洋哲学の思考方法に慣れ親しむ。

●到達目標

フランス語(あるいは英語)文献読解能力の向上と西洋哲学史の潮流を把握することを目的とする。

●授業内容・授業計画

この授業は、対面で行なう予定です。
デカルトの『方法序説』(1637)は、正確には『理性をよく導き、諸学問において真理を探究するための方法序説』という表題をもつ哲学的古典です。
この書物は「我思う、ゆえに我あり」という一節を含んでいることで有名ですが、デカルトの学問的自叙伝でもあります。しかし、この書物は単なる自伝ではなく、学者にだけではなく万人に向けられた学問論を意図していました。
だからこそラテン語ではなく一般人向けにフランス語で書かれたのです。
さらに、『方法序説』は現代においても哲学的諸問題(自我論、心身問題など)を提起し続けているテキストでもあります。この授業では、このテキストから抜粋しながら読解していきます。
第1回　デカルト哲学と『方法序説』への導入
第2回　諸学問の考察(1)
第3回　諸学問の考察(2)
第4回　方法の規則(1)
第5回　方法の規則(2)
第6回　道徳の規則(1)
第7回　道徳の規則(2)
第8回　形而上学の基礎(1)――方法的懐疑
第9回　形而上学の基礎(2)――「我思う、ゆえに我あり」
第10回　形而上学の基礎(3)――神の存在
第11回　形而上学の基礎(4)――幾何学の真理と神
第12回　形而上学の基礎(5)――神の認識と懐疑の解除
第13回　自然学の諸問題
第14回　自然研究公刊の是非

●事前・事後学習の内容

フランス語(あるいは英語)文献読解能力を向上させるためには、
この演習の予習・復習をしっかりやることが求められる。
演習内容を包括的に理解するためには『方法序説』全体を
翻訳(日本語)で読んでおくことが望ましい。

●評価方法

平常点によって評価する。
平常点は、出席状況、演習に取り組む態度、議論への参加から総合的に判定する。

●受講生へのコメント

これからフランス語を習得しようとする者の参加を歓迎する。英訳での参加も可。

デカルトのテキストは慣れないととっつきにくいところがあります。

しかし、じっくりと付き合うことで、文章の構成の仕方など、

論文を書く上で参考になります。

●参考文献・教材

R.Descartes, Discours de la Méthode
(Discourse on the Method)
プリントを配布する

授業科目名	科目NO.	LAPHL3221	授業コード	L211260010	
哲学特講Ⅲ Special Lecture on Philosophy Ⅲ				単位数	2 単位
授業形態 講義	担当教員名 土屋　貴志				

●科目の主題

現代倫理学の基本文献を読み進めながら解説する。

●到達目標

現代倫理学の主要問題について基礎的知識と展望を得る。

●授業内容・授業計画

この授業は対面で実施する。テキストの課題部分に関する質疑応答と解説を行う。
具体的には下記のように進める予定であるが、必要に応じて変更する可能性もある。

1. オリエンテーション・受講カード作成
2. はじめに
3. 第1章
4. 第2章
5. 第3章
6. 第4章
7. 第5章
8. 中間まとめ
9. 第6章
10. 第7章
11. 第8章
12. 第9章
13. 第10章
14. 第11章
15. 全体のまとめ

●事前・事後学習の内容

事前学習として、テキストの課題部分を精読し、内容の要点と疑問点を発表できるよう準備してくること。

事後学習として、授業での講義内容を踏まえ、テキストを読み直すこと。

●評価方法

毎回の授業準備における達成度を総合し平常点として評価する(100%)。

●受講生へのコメント

内容の要点と論理を正確に把握することを重視する。全体を平板に読解するのではなく、重要な箇所を見極めて、アウトラインをしっかりつかむ読み方を身につけてほしい。

●参考文献・教材

下記の書籍をテキストとする。

トマス・ネーゲル『どこでもないところからの眺め』春秋社、2009年

(T. Nagel, The View from Nowhere, Oxford University Press, 1986.)

参考文献については授業中に紹介する。

授業科目名	科目NO.	LAPHL3222	授業コード	L211270010	
哲学特講Ⅳ Special Lecture on Philosophy Ⅳ			単位数	2 単位	
授業形態 演習	担当教員名 高梨　友宏				

●科目の主題

フッサール『デカルト的省察』を通して、フッサール現象学の基本的諸理念を学ぶ。

●到達目標

『デカルト的省察』はフッサール後期現象学の代表的著作の一つ。デカルトの『省察』の叙述形式に範をとり、5つの「省察」から構成される。このうち第5省察では、それまでに刊行されたフッサールの著作では明示的に主題化されていなかった「間主観性」、「感情移入」、「共現前」などの問題があらたに取り上げられ、他者経験の可能性の探究や客観的世界の超越論的解明が目指されている。この授業では、まず『デカルト的省察』の第1～第4省察の内容に関する講義を通じてフッサール現象学の基本理念を理解し、次いで第5省察を巡って、受講者による読解(プレゼン)と受講者全員による議論を行う。こうしたプロセスを通じてフッサール後期現象学の諸問題の理解に到達することを目標とする。

●授業内容・授業計画

最初の3回は講義形式で、フッサールの基本理念について講師が説明する。4回目以降、受講生によるプレゼンと議論を含む演習を行う。

第1回　導入:フッサール現象学について
第2回　講義:『デカルト的省察』第1省察の内容について
第3回　講義:『デカルト的省察』第2省察の内容について
第4回　講義:『デカルト的省察』第3省察の内容について
第5回　講義:『デカルト的省察』第4省察の内容について
第6回　『デカルト的省察』第3省察から第5省察に関する演習(以下、演習と略記)(1)
第7回　演習(2)
第8回　演習(3)
第9回　演習(4)
第11回　演習(5)
第12回　演習(6)
第13回　演習(7)
第14回　演習(8)

●事前・事後学習の内容

事前学習として、テキストの課題部分を全員必ず精読してくること。とくに、演習の担当が当たっている人はプレゼンの準備をし、配布用資料を作成してくること。

事後学習として、講義内容を踏まえ、テキストを読み直すこと。

●評価方法

平常点による評価。ただし、全授業回数の6割以上の出席が必須。

●受講生へのコメント

演習では、事前に決められた担当者(履修人数によっては、グループを組む場合もありうる)が担当箇所の内容についてプレゼンを行い、次にこのプレゼンをめぐって、担当者を含む受講生全員が議論することになる。したがって、当日担当者に当たっていない受講生(グループ)も全員、その日の授業で読む予定のテキストを精読してくること。

●参考文献・教材

教材:

E.フッサール(浜渦辰二訳)『デカルト的省察』、岩波文庫、2001年

受講者は遅くとも2回目の授業までに入手しておくこと（なお、入手可能な同書の訳書としては、上掲書の他に舟橋弘訳中公クラシックス版があるが、授業を進めるにあたって便宜上同一のテキスト使用したいので、岩波文庫版を用意してほしい）。
独語原文を参照する必要がある場合は、コピーを配布する。

授業科目名	科目NO.	LAPHL3223	授業コード	L211280010	
哲学特講Ⅴ Special Lecture on Philosophy Ⅴ			単位数	2 単位	
授業形態 演習	担当教員名 仲原 孝				

●科目の主題

毎年、哲学・宗教哲学の多様な個別的問題の中からひとつを選び、それについて深く探求的に考えるための手法を学ぶ。

●到達目標

受講者各自が哲学的問題について自立的に探求する態度を身につけることを目標とする。

●授業内容・授業計画

今年はヘーゲルの『エンチュクロペディー』の序論(Einleitung)をドイツ語原典により講読することを通じて、「哲学とは何であるか」についてのヘーゲルの思想を理解することを目指す。
授業は原則として対面授業で行なう。ただし、感染拡大などのゆえにやむなく遠隔授業に切り替えることもありうるので、大学からの通知に常に注意しておくこと。感染が判明したなどの理由で対面授業に出席できなくなった受講生は、すみやかにサポートセンターへ届け出て必要な指示を受けること。

第1回 §1
第2回 §2
第3回 §3
第4回 §4
第5回 §5
第6回 §6
第7回 §7
第8回 §8
第9回 §9
第10回 §10
第11回 §11-12
第12回 §13-14
第13回 §15-16
第14回 §17-18
第15回 総括と考察

●事前・事後学習の内容

毎回の授業までに、前回の授業の資料やノートを読み直して内容を確認し、わかったことや疑問点をノートにまとめておくこと。随時それをレポートの形で提出することを求める。

●評価方法

担当課題をどの程度適切に果たしたか、授業時の議論にどの程度積極的に参加したか、要求されたレポートは適切であったか、を総合的に考慮して評価する。

●受講生へのコメント

授業中の私語は厳重に禁止する。レポートでは、講義で提示された問題に対して各自が主体的に答を模索することが求められる。ノートや参考書をまとめただけのレポートには単位を認定しないので注意。

●参考文献・教材

G.W.F. Hegel: Enzyklopädie der Philosophischen Wissenschaften im Grundriss, hrsg. von Karl Rosenkranz 1870 を使用するが、実際に授業で使用する資料は印刷して授業中に配布する。

授業科目名	科目NO.	LAGEN3201	授業コード	L212010010	
史学概論 Introduction to History			単位数	2 単位	
授業形態 講義	担当教員名 仁木 宏				

●科目の主題

「大学で学ぶ歴史学とはどのようなものか」

高校までに学んできた歴史とのちがい。一般社会(テレビや小説など)で見聞きする歴史、受験勉強で学んできた歴史と、学問としての歴史との本質的なちがいは何かを伝える。担当教員(仁木)が専門とする日本中世史を素材として、さまざまな角度から歴史の見方、歴史を明らかにするための方法、歴史学のおもしろさ、歴史を学ぶことで開ける未来などについて論じる。

●到達目標

歴史学の展開と現代歴史学の課題を学ぶことで、各自が歴史学に向かうスタンスを確立する。

●授業内容・授業計画

第1回　ガイダンス
第2回　中世の古文書に「触れて」みよう……織田信長の文書など
第3回　中世の古文書に「触れて」みよう……14世紀の文書など
第4回　現地踏査のノウハウ
第5回　地域の総合調査とは
第6回　歴史学を学ぶことのキャリアパス……先輩たちの証言
第7回　史料の読み方;貴族の日記から戦国時代京都の「喧嘩」の作法を知る
第8回　大阪の中世城郭をさぐる;池田城(池田市)①
第9回　大阪の中世城郭をさぐる;池田城(池田市)②……現地見学
第10回　日本史研究の歩みⅠ
第11回　日本史研究の歩みⅡ
第12回　日本史研究の歩みⅢ
第13回　学際的研究とはどのようなものか
第14回　これから歴史学を学んでゆくために

●事前・事後学習の内容

授業の最後に次回の授業の予習事項を通知します。毎回授業終了後に復習事項の指示をします。

●評価方法

学期末に、学修内容を確認するためにレポートを課す。

●受講生へのコメント

日本史コース、世界史コースの学生は必ず履修すること。大学での歴史学とは何か、学問としての歴史学の方法、本質は何かを学んでもらいたい。

●参考文献・教材

授業中に示す。

授業科目名	科目NO.	LAJPH2101	授業コード	L212020010	
日本史基礎講読Ⅰ Basic Reading in Japanese History Ⅰ			単位数	2 単位	
授業形態 演習	担当教員名 佐賀　朝				

●科目の主題

歴史学・歴史資料と現代―「従軍慰安婦」問題を素材に―

2010年代半ば以降も、日韓両政府間の外交問題の一つとして焦点化され、現在も暗礁に乗り上げたままとなっている「従軍慰安婦」問題を素材に、歴史研究と現代との関係、歴史資料と史実の関係、文書史料と証言（オーラルヒストリー）の有効性と限界などについて、多角的に検討する。

●到達目標

「従軍慰安婦」問題をめぐる現状を知り、その解決について具体的に議論し考えること。また、その前提となるべき、「慰安婦」をめぐる史実とそれへの歴史学を通じたアプローチの内容・方法などを学ぶこと。

以上を通じて、素材である歴史資料と、学問的方法である歴史学を通じて、史実にどのように迫りうるのか、を具体的に体感してもらいたい。

●授業内容・授業計画

まず現在、争点となっている「慰安婦」問題に関する新聞記事の講読と検討、ディスカッションから始め、争点にかかわる研究や史料、証言などを実際に読み進めていき、随時、ディスカッションをはさみながら、この問題に歴史学がどのようにアプローチするのかを具体的に学ぶとともに、受講生各自が「慰安婦」問題をめぐる史実とそのあるべき解決策について考察を深めていく。

1. ガイダンス
2.「慰安婦」問題の現状について考える①
3.「慰安婦」問題の現状について考える②
4.「慰安婦」問題の現状について考える③
5. 吉見義明氏のテキスト講読①
6. 吉見義明氏のテキスト講読②
7. 日本軍・日本政府の文書史料①
8. 日本軍・日本政府の文書史料②
9. 体験者の証言をめぐって①
10. 体験者の証言をめぐって②
11. 秦郁彦氏のテキスト講読①
12. 秦郁彦氏のテキスト講読②
13.「慰安婦」問題の解決策をめぐって①
14.「慰安婦」問題の解決策をめぐって②
15. まとめ

●事前・事後学習の内容

各種新聞記事や研究者による論文、文書史料や体験者の証言などは、関連資料とともにプリントの形で随時、配布するので、必要なものを精読した上で授業に参加すること。

毎回の授業で課題シートに記入し、意見交換を行った論点については、多くの場合、次回以降も継続して取り上げるので、新聞記事やテキストなどの資料類は、事後にも適宜読み返し、復習と論点整理を行うようにすること。

●評価方法

授業における報告や課題シート、学期末のレポートなどにより総合的に評価する。

●受講生へのコメント

日本史コースを志望し、あるいは日本史や歴史学に興味がある1回生の皆さんは、ぜひ受講してください。
近年も注目を浴び続けている「従軍慰安婦」問題は、報道のあり方をめぐる問題にとどまらず、歴史資料を通じて何を明らかにできるか、歴史研究と現代はどのようにつながっているのか、などを考える素材として、とても深い意義を持っています。
この授業を通じて、「慰安婦」問題をめぐる史実や多様な論点を学ぶだけでなく、歴史や史実と、私たちや私たちの社会をつなぐ、史料と歴史学の意義と可能性について具体的に体感してもらえると思います。

●参考文献・教材

・吉見義明『従軍慰安婦』(岩波新書、1995年)
・秦郁彦『慰安婦と戦場の性』(新潮選書、1999年)
・吉見義明『日本軍「慰安婦」制度とは何か』(岩波ブックレット、2010年)

以上のほか、授業の中で随時、配布あるいは提示する。

授業科目名	科目NO.	LAJPH3201	授業コード	L212030010	
日本史基礎講読Ⅱ Basic Reading in Japanese HistoryⅡ			単位数	2 単位	
授業形態 演習	担当教員名 齊藤　紘子				

●科目の主題

「地域の歴史的総合調査」の意義と古文書読解の基礎を学ぶ

●到達目標

①1つの地域に即して、時代を越えて、史料調査・聞き取り調査・地域空間把握など総合的な調査を行う「地域の歴史的総合調査」の目的と方法を説明できる。

②史料調査に際して必要となる古文書（くずし字）読解の初歩を身につけ、自分で基礎的な読み解きができる。

●授業内容・授業計画

第2・3回の講義で「地域の歴史的総合調査」の実際を紹介し、その目的と意義について考える。その後は、毎回、近世史料の写真版コピーをテキストとして、受講生各自の筆写（予習シート）、読み合せ、内容理解によって授業を進める。テキストには、基本的なくずし方の史料を用いる。

第1回 ガイダンス
第2回 「地域の歴史的総合調査」とは何か
第3回 これまでの「地域の歴史的総合調査」の成果から
第4回 古文書講読：文書の形式・辞書の使い方
第5回 古文書講読：基礎①
第6回 古文書講読：基礎②
第7回 古文書講読：基礎③
第8回 古文書講読：応用①
第9回 古文書講読：応用②
第10回 古文書講読：応用③
第11回 調査に向けたガイダンス
第12回 古文書講読：実践①
第13回 古文書講読：実践②
第14回 古文書講読：実践③
第15回 到達確認（期末筆記試験）

第2・3回は前回授業で配布する関連文献を読んだうえで参加する。第4回以降の「古文書講読」では、各回に取り上げる史料（写真版）について、各自が事前に「予習シート」に翻刻し、読めないところもチェックしておく。授業では各自の翻刻を確認しながら古文書の解読を進める。史料の内容（現代語訳、解釈）については授業内で解説する。

●事前・事後学習の内容

日本史コースが実施する「合同調査」の準備授業であるため、2年次での履修が望ましい。古文書講読では、指定された範囲について必ず予習しておくこと。

●評価方法

授業参加態度（「予習シート」の確認）50%、期末筆記試験50%の総合評価。

●受講生へのコメント

毎回必ず予習して臨むこと。

●参考文献・教材

授業内でプリントを配布する。

参考文献：和泉市史編さん委員会編／塚田孝・町田哲監修『和泉市の近世』和泉市、2018年

授業科目名	科目NO.	LAJPH3202	授業コード	L212040010	
日本史通論Ⅰ Outline of Japanese History Ⅰ			単位数	2 単位	
授業形態 講義	担当教員名 天野　忠幸				

●科目の主題

戦国時代の日本社会の多様性を知る。

●到達目標

戦国時代の基本的な流れを知り、説明できるようになること。および、戦国社会の多様性や特徴について、基本的な論点や考え方を習得することを目標とする。

●授業内容・授業計画

本講義は、遠隔で行う。

第1回　室町幕府と社会の枠組み
第2回　応仁の乱と明応の政変
第3回　幕府の分裂と三好政権の成立
第4回　畿内の都市と村落
第5回　宗教と文化
第6回　領国支配のあり方
第7回　畿内近国の大名
第8回　西日本の社会の大名１
第9回　西日本の社会と大名２
第10回　東日本の社会と大名１
第11回　東日本の社会と大名２
第12回　織田政権の登場
第13回　豊臣政権の全国統一
第14回　江戸幕府の成立
第15回　日本国王と東アジア

●事前・事後学習の内容

事前学習として、高校の教科書や新書などで、時代背景などの概要を知っておくこと(1時間)。事後学習として、授業で出された課題に対する小レポートを作成すること(3時間)。

●評価方法

毎授業後の小レポート60%、最終レポート40%。

最低限の基礎知識を持っているか、授業内容を正確に理解しているか、優れた分析を加えているか、について評価する。

●受講生へのコメント

大阪歴史博物館や大阪城天守閣など、戦国時代を感じられる施設や遺跡を訪れ、体感する機会をもって欲しい。

●参考文献・教材

教科書なし、授業中に頒布する。

授業科目名	科目NO.	LAJPH3203	授業コード	L212050010	
日本史通論Ⅱ Outline of Japanese HistoryⅡ			単位数	2 単位	
授業形態 講義	担当教員名 佐賀　朝				

●科目の主題

「巨大都市大阪の形成・発展と都市問題」というテーマのもと、明治維新から第二次大戦終結までの近代日本と大阪の歴史について概観する。

●到達目標

近代における都市社会の発展とその矛盾の様相を捉えることを通じて、現代の地域社会が抱える課題に向き合うための基本的な視座を獲得することを目標としたい。

●授業内容・授業計画

前半では、明治維新の概要を押さえた上で、1889年の地方自治制実施によって大阪市が誕生してから、日清・日露戦争と産業資本の確立を経て、大阪が100万の人口を有する巨大都市へと発展し、その一方で都市社会問題が広範に成立する様相を見る。後半では、第一次世界大戦期の経済発展によって都市問題がさらに深刻化するなか、階級的社会運動が展開され、新しい都市政策が登場するプロセスを論じたうえで、昭和恐慌と満州事変を経て大阪大空襲に至る、戦時体制下大阪の経済・社会についても見、可能な範囲で戦後への展望にも触れたい。近年、進展しつつある近代都市史研究の成果をふまえ、明治半ばから終戦にいたるまでの巨大都市大阪の歴史的なあゆみを概観しながら、その特徴を明らかにする。

第1回 明治維新と大阪の都市空間―導入
第2回 近代都市の成立―市制町村制と大阪市の成立―
第3回 企業勃興―大阪の紡績会社と鉄道資本―
第4回 産業革命と地域社会―九条・西九条の工場集積―
第5回 日清・日露戦争と大阪
第6回 社会問題の成立―労働問題と社会運動―
第7回 阪神と阪急―「私鉄王国」大阪と郊外開発―
第8回 第一次世界大戦期の経済発展と都市化
第9回 都市問題の深刻化―住宅問題と借家争議―
第10回 米騒動と方面委員制度の発足―新しい社会政策―
第11回 都市政策・都市計画の誕生―関一大阪市長の役割―
第12回 日本橋「裏長屋」の生活と不良住宅地区改良事業
第13回 昭和恐慌・満州事変と都市社会問題
第14回 戦時体制と大阪市民―国防婦人会と大阪の町会―
第15回 大阪大空襲―太平洋戦争下の空襲と都市―

●事前・事後学習の内容

事前・事後学習については、毎回の授業で事前・事後学習のポイントと課題を提示する。
主として配布プリント(レジュメと資料プリント)を用いた事後学習について指示する。

●評価方法

平常点、小レポート、学期末試験などにより総合的に評価する。

●受講生へのコメント

毎回のコメントカードへの記入内容も重視しますので、まずはしっかり出席して話を聞いてください。

●参考文献・教材

・小山仁示『(改訂)大阪大空襲―大阪が壊滅した日』(東方出版、1989年)

・原田敬一『日本近代都市史研究』(思文閣出版、1997年)
・芝村篤樹『日本近代都市の成立―1920・30年代の大阪―』(松籟社、1998年)
・広川禎秀編『近代大阪の行政・社会・経済』(青木書店、1998年)
・佐賀朝『近代大阪の都市社会構造』(日本経済評論社、2007年)
・広川禎秀編『近代大阪の地域と社会変動』(部落問題研究所、2009年)
以上のほか、授業のなかで随時、提示する。

授業科目名	科目NO.	LAJPH3204	授業コード	L212060010	
考古学通論 Outline of Archaeology			単位数	2 単位	
授業形態 講義	担当教員名 岸本 直文				

●科目の主題

水田稲作による農耕社会が始まったのが弥生時代である。先行する朝鮮半島の農耕文化である無文土器文化、それが倭におよぶ。これにより狩猟採集社会の広がっていた日本列島に、水田稲作が定着した地域が生まれ、そうでない地域との差が生まれる。また、切り開いた生業基盤である水田は自分たちの不動産で領域であり、また稲作に特化することにより災害や不足に大きな影響を受けることになり、組織的な戦いも始まる。稲作の定着は人口を増やし、さらに水田を開き、集落は大きくなり拠点集落とよばれるものが生まれる。やがて隣接集団との競合を生み出し、地域統合が進行していく。それはまたムラのリーダーから集団を統率する権力者を生む。紀元前1世紀には朝鮮半島北部が漢帝国の版図になり、中国の文物がもたらされ、さらに鉄器化が急速な地域統合を促し、倭国の形成へと進む。こうした日本列島における、以後に続く稲作という基本的生業が始まり、国家形成へと進む変革期が弥生時代である。こうした弥生時代像の骨格を理解する。

●到達目標

水田稲作がどのように始まったのか、それはどのようなものであったのかを知る。集落の大規模化や構造変化、また墳墓に見る格差から、権力者の生成を確認したい。そして環壕集落や武器の発達、戦いの証拠となる戦死者から、農耕社会の内包する競合的性格と戦いの実態を知る。そして、紀元後の弥生時代後期に、鉄器化を背景に、急速な地域統合が進み、西日本諸地域の広域地域圏のネットワークが、倭国というさらに大きな連帯を生む過程を確認し、古墳時代へと進む基本的プロセスを理解することを目標としたい。

●授業内容・授業計画

資料を配付した上で、パワーポイントを使いながら以下の通り進める。

第1回　考古学史と考古学の方法
第2回　世界の農耕文化
第3回　弥生時代の学史と水田稲作の起源
第4回　弥生の水田稲作の伝来と定着
第5回　弥生時代の水田稲作
第6回　弥生時代の環濠集落
第7回　弥生時代の戦いと地域の統合(1)
第8回　弥生時代の青銅器
第9回　弥生時代の戦いと地域の統合(2)
第10回　石器から鉄器へ
第11回　弥生時代後期の地域ブロックの形成
第12回　ヤマト(邪馬台)国の成立
第13回　倭国の成立
第14回　倭国乱と卑弥呼共立
第15回　まとめ

●事前・事後学習の内容

前回の受講ノートを見直した上で授業に臨むこと。また事後に、授業内容の理解をまとめておくことが望ましい。

●評価方法

定期試験による。

●受講生へのコメント

中国では農耕が始まる長い新石器時代を経て初期王朝を生み、青銅器や文字が登場する。また秦の統一までの長い競合期間がある。これに対し、日本列島の倭は、農耕開始から、青銅器・鉄器の導入も短期間のうちに進行し、急速な社会統合が果たされる。そこ

に東アジアのなかでも縁辺に位置した倭の特性があり、またこうした影響を受けながらも、倭独自の縄文文化から弥生文化への移行、社会統合の固有のあり方があった。後発であった畿内がなぜ古墳時代の中心地となるのか、まだ学界でも意見が分かれるが、こうした重要な課題に関心をもってほしい。

●参考文献・教材

資料を配付する。

授業科目名	科目NO.	LAJPH3205	授業コード	L212070010	
日本史講読Ⅰ Reading in Japanese History Ⅰ				単位数	2 単位
授業形態 演習	担当教員名 磐下　徹				

●科目の主題

日本古代史の基礎的史料の読解

●到達目標

『続日本紀』を素材に古代史料の基礎的読解力を習得する。

●授業内容・授業計画

第1回　ガイダンス
第2回　『続日本紀』解題
第3回　発表①『続日本紀』読解（人物評伝記事・前半）
第4回　発表②『続日本紀』読解（人物評伝記事・後半）
第5回　発表③『続日本紀』読解（奈良時代の政変関連記事）
第6回　発表④奈良時代の古文書読解
第7回　発表⑤『続日本紀』読解4（対外関係記事・前半）
第8回　発表⑥『続日本紀』読解5（対外関係記事・後半）
第9回　発表⑦『続日本紀』読解6（政治経済関係記事・前半）
第10回　発表⑧奈良時代の金石文読解
第11回　発表⑨『続日本紀』読解7（政治経済関係記事・後半）
第12回　発表⑩『続日本紀』読解8（仏教関係記事・前半）
第13回　発表⑪『続日本紀』読解9（仏教関係記事・後半）
第14回　まとめ
＊上記はあくまで目安。受講者の状況と学修効果を考慮して計画は変更されることもある。
語註や補注の充実している新日本古典文学大系『続日本紀』（岩波書店）をテキストとして使用し、史料の読解とはどのようなものであるのかを理解してもらう。
また、一部の回では『続日本紀』と同時代の古文書や金石文もとりあげる。
原則として参加者1人が一日～二日分の記事（一つの資料）を担当し、その読解・考察を発表。他の参加者は発表を聞き、疑問点や論点を提示して議論する。
なお、第1回のガイダンス時に報告の順番等を決定するので、受講を希望する者は必ず第1回から参加すること（欠席した場合は原則として受講を認めない）。

●事前・事後学習の内容

本講義でとりあげる『続日本紀』のテキストは事前に指示しておくので、毎回該当記事に目を通してくること（分からない言葉などは辞書類で確認しておくこと）。
事後は報告・議論の内容や教員の補足説明を振り返り、記事の内容を正確に把握しておくこと。
講義で紹介された参考文献に、各自の判断で適宜目を通しておくこと。

●評価方法

平常点で評価。
発表内容（70%）と発表回以外の授業参加態度（30%）で判定する。

●受講生へのコメント

史料読解は歴史学の基本である。細かい点も疎かにしない史料の読み方を体得してほしい。はじめはできなくても、積み重ねを大切に、粘り強く前進してほしい。

なお、第1回に報告順などを決めるので、必ず出席するように。

●参考文献・教材

新日本古典文学大系『続日本紀』(岩波書店)

井上薫「続日本紀」(『国史大系書目解題　上巻』吉川弘文館)

笹山晴生「続日本紀と古代の史書」(『平安初期の王権と文化』吉川弘文館)

その他、必要に応じてプリント等配布

授業科目名	科目NO.	LAJPH3206	授業コード	L212080010	
日本史講読Ⅱ Reading in Japanese HistoryⅡ				単位数	2 単位
授業形態 演習	担当教員名 仁木　宏				

●科目の主題

中世史料を読解する基礎力を養う。

●到達目標

中世文書には独特な表現があり、そこには中世社会の特色が反映されている。史料からそうした社会のあり方を読みとる能力をみがかせる。

史料を正確に読むことは日本史を学習してゆく上で必修である。単なる「読み」や表面的な意味にとどまらず、その背後にある中世社会の諸側面をいかに深くとらえることができるかがポイントとなる。

卒業論文を書く上では高度な史料読解能力が必要とされるが、そのための必要十分な訓練の場とする。

●授業内容・授業計画

中世の都市・流通にかかわる史料をテキストにする。

グループにわかれて、順番に報告してもらう。グループ内で十分議論して、その成果を発表するようにする。

第1回　ガイダンス
第2回　鎌倉時代Ⅰ
第3回　鎌倉時代Ⅱ
第4回　市の伝承
第5回　室町幕府法Ⅰ
第6回　室町幕府法Ⅱ
第7回　徳政をめぐって
第8回　撰銭をめぐって
第9回　座掟
第10回　町掟
第11回　戦国大名法
第12回　戦国大名と都市
第13回　楽市令
第14回　信長・秀吉と都市
第15回　まとめ

●事前・事後学習の内容

事前には、担当の各班は、学情その他で辞書などをもとに該当史料の読み、意味、意義などについて調べ、班で相談の上、レジメを作成し提出する。担当者以外は、該当史料を読み込んでくること。

事後には、授業中の復習をおこない、史料の読解・解釈を深める。

●評価方法

授業における報告と、学期末の定期試験で評価する。

●受講生へのコメント

法令は比較的難しい史料が多いが、これが読めるようになれば、他の史料は容易に解読できるようになる。

●参考文献・教材

プリントを配布する。参考文献は、適宜指示する。

授業科目名	科目NO.	LAJPH3207	授業コード	L212090010	
日本史講読Ⅲ Reading in Japanese HistoryⅢ				単位数	2 単位
授業形態	担当教員名				
演習	齊藤　紘子				

●科目の主題

近世古文書講読。

●到達目標

①近世古文書の基礎的な読解力を身につける。

②古文書読解を通じて、近世の民衆生活について理解する。

●授業内容・授業計画

この授業では、くずし字で書かれた古文書（主に和泉市域の村方文書）をテキストとする。いくつかのテーマでグループをつくり、史料の精読（翻刻と現代語訳）→論点の整理→総括の順で発表を行う。

第1回 史料概要と方針説明、グループ分け
第2回 関連先行研究の検討①
第3回 関連先行研究の検討②
第4回 古文書講読①
第5回 古文書講読②
第6回 古文書講読③
第7回 古文書講読④
第8回 古文書講読⑤
第9回 古文書講読⑥
第10回 論点の整理①
第11回 論点の整理②
第12回 論点の整理③
第13回 総括発表①
第14回 総括発表②

●事前・事後学習の内容

各班で担当する史料については、事前に翻刻、現代語訳、内容理解を準備し、レジュメにまとめる。それを授業で発表して討論し、他班の作業などと突き合わせ、次の発表までにレジュメの修正版を作成する。次の発表の際、その回の報告レジュメとともに前回のレジュメ修正版も配布する。

●評価方法

授業参加態度（発表・レジュメ・討論での発言など）50%、「総括発表」を踏まえて各自で執筆する期末レポート50%の総合的評価。

●受講生へのコメント

夏季休暇中に実施される日本史コースの「合同調査」にも参加すること。

●参考文献・教材

古文書（写真版コピー）は授業内で配布する。参考文献についても適宜紹介する。

授業科目名	科目NO.	LAJPH3208	授業コード	L212100010	
日本史講読Ⅳ Reading in Japanese HistoryⅣ				単位数	2 単位
授業形態 演習	担当教員名 佐賀　朝				

●科目の主題

「戦時下の国民動員と市民生活・地域社会」というテーマのもと、「十五年戦争」期（1931～45）の史料を読んでいく。

●到達目標

活字史料を中心に、近現代史料を読み解くための基礎的な方法や知識の修得を目ざす。

●授業内容・授業計画

この授業では、「十五年戦争」期における国民動員や戦時政策と、市民生活や地域社会との関係について、まずは関連する先行研究を論文単位で取り上げて、要約・論評を通じてを読みこなしてもらう。その上で、『資料日本現代史』（大月書店）などの史料集に収録された活字史料を読み進める形で考察していく。

受講生とも相談しつつ、テキストの中から取り上げる史料を選択し、関連する論文などにも言及する形での分担発表を順番に行ってもらう。

発表は、1人ずつ、あるいは2～3人程度の少人数のグループで担当してもらう予定。

第1回 ガイダンス
第2回 論文検討報告①
第3回 史料報告その1
第4回 史料報告その2
第5回 史料報告その3
第6回 論文検討報告②
第7回 史料報告その4
第8回 史料報告その5
第9回 史料報告その6
第10回 史料報告その7
第11回 論文検討報告③
第12回 史料報告その8
第13回 史料報告その9
第14回 史料報告その10
第15回 まとめ

●事前・事後学習の内容

論文報告のテキスト、史料報告で取り上げる史料は事前に配布するので、通読した上で授業に参加すること。

毎回の報告についての議論は次回にも継続して行うことが多いので、論文や史料、報告の内容についても事後に読み返し、論点などを確認しておくこと。

●評価方法

平常点、発表、議論への参加状況、期末レポートなどにより総合的に評価する。

●受講生へのコメント

近現代の史料を、まずは活字のものから読んでもらい、分析や論述の基礎となるような史料の読み方を学び取ってください。

あわせて戦時下の生活や社会の実態にも触れてほしいと思います。

意欲的な参加を期待しています。

●参考文献・教材

・藤原彰・功刀俊洋編『資料日本現代史8 満洲事変と国民動員』（大月書店、1983年）

・粟屋憲太郎・小田部雄次編『資料日本現代史9 二・二六事件前後の国民動員』(大月書店、1984年)
・吉田裕・吉見義明編『資料日本現代史10 日中戦争期の国民動員①』(大月書店、1984年)
・伊香俊哉・吉田裕・吉見義明編『資料日本現代史11 日中戦争期の国民動員②』(大月書店、1984年)
・赤澤史朗・北河賢三・由井正臣編『資料日本現代史13 太平洋戦争下の国民生活』(大月書店、1985年)
・小林啓治『総力戦体制の正体』(柏書房、2016年)
・京丹後市史編さん委員会編『史料集 総動員体制と村』(京丹後市、2013年)
以上のほか、基本文献や論文についてについては授業のなかで随時、提示する。

授業科目名	科目NO.	LAJPH3301	授業コード	L212110010	
日本史演習Ⅰ Seminar in Japanese History Ⅰ			単位数	2 単位	
授業形態 演習	担当教員名 磐下　徹				

●科目の主題

日本古代法制史料の講読

●到達目標

『類聚三代格』を素材に、史料の性質に即した読解・考察力を身につける。

●授業内容・授業計画

第1回　ガイダンス
第2回　『類聚三代格』解題
第3回　発表①『類聚三代格』読解（仏教関連法令・前半）
第4回　発表②『類聚三代格』読解（仏教関連法令・後半）
第5回　発表③『類聚三代格』読解（郡司関連法令・前半）
第6回　発表④『類聚三代格』読解（郡司関連法令・後半）
第7回　発表⑤『類聚三代格』読解（交通関連法令・前半）
第8回　発表⑥『類聚三代格』読解（交通関連法令・後半）
第9回　発表⑦『類聚三代格』読解（税制関連法令・前半）
第10回　発表⑧『類聚三代格』読解（税制関連法令・後半）
第11回　発表⑨『類聚三代格』読解9（院宮王臣家関連法令・前半）
第12回　発表⑩『類聚三代格』読解10（院宮王臣家関連法令・後半）
第13回　発表⑪『類聚三代格』読解11（土地制度関連法令）
第14回　まとめ
＊受講者の状況と学修効果を考慮して計画は変更されることがある。

『類聚三代格』の読解により、前近代日本史史料に共通する漢文史料の読解力を養う。
また、法制史料の考察を通して、古代日本の政治・行政手続きや当時の社会状況等についての理解を深める。
原則として参加者1人が一～二つの格（太政官符や詔・勅）を担当し、その読解・考察を発表。他の参加者は発表を聞き、疑問点や論点を提示して議論する。
なお、第1回のガイダンス時に報告の順番等を決定するので、受講を希望する者は必ず第1回から参加すること（欠席した場合は原則として受講を認めない）。

●事前・事後学習の内容

本講義でとりあげる『類聚三代格』の条文は事前に指示しておくので、毎回該当条文に目を通し、読み下しておくこと（分からない言葉などは辞書類で確認しておくこと）。
事後は、報告・議論の内容や教員の補足説明を振り返りながら、条文の内容を正確に把握するようにしておくこと。
講義で紹介された参考文献に、各自の判断で適宜目を通しておくこと。

●評価方法

平常点で評価。
発表内容（70%）と発表回以外の授業参加態度（30%）で判定する。

●受講生へのコメント

この演習でとりあげる『類聚三代格』は、古代史研究に必要な史料読解力を身につけるのには好適な史料である。
ここで身につけた力は他時代の研究にも役立つものなので、意欲的に参加してほしい。

なお、第1回に報告順などを決めるので、必ず出席するように。

●参考文献・教材

新訂増補国史大系『類聚三代格』(吉川弘文館)

吉田孝「類聚三代格」(『続　律令国家と古代の社会』岩波書店)

その他、必要に応じてプリント等を配布

授業科目名	科目NO.	LAJPH3302	授業コード	L212120010	
日本史演習Ⅱ Seminar in Japanese HistoryⅡ			単位数	2 単位	
授業形態 演習	担当教員名 仁木　宏				

●科目の主題

「日本史研究上の諸問題」と題して、日本史コース3回生が、次年度の卒業論文作成に向けて日本史の研究論文を読み、批判的に理解する力を養うとともに、自らテーマを考え、絞り込んでいく場とする。

●到達目標

卒業論文の作成を念頭において、各時代・分野の最新の研究状況をフォローするとともに、先行研究を正確に理解し、自らの課題との関係を意識して、内在的・批判的に論文を読み解き、そこから学ぶことをめざす。

後期終了までに、基本的な卒論テーマないしは取り上げる領域・分野を固めることを目ざす。

●授業内容・授業計画

卒業論文作成に向けて、受講生の関心にしたがった研究上の諸問題を取り上げ、受講生による関連文献の要約と批判的コメントを中心とした報告を重ねる。各報告をめぐって受講生全員で討論し、問題意識を深め、卒業論文に備える。

第1回　卒論とは何か―史料と問題意識
第2回　刊行された卒論に学ぶ①考古学
第3回　刊行された卒論に学ぶ②古代
第4回　刊行された卒論に学ぶ③中世
第5回　刊行された卒論に学ぶ④近世
第6回　刊行された卒論に学ぶ⑤近現代
第7回　受講生による先行研究の整理・検討報告①
第8回　受講生による先行研究の整理・検討報告②
第9回　受講生による先行研究の整理・検討報告③
第10回　受講生による先行研究の整理・検討報告④
第11回　受講生による先行研究の整理・検討報告⑤
第12回　受講生による先行研究の整理・検討報告⑥
第13回　受講生による先行研究の整理・検討報告⑦
第14回　受講生による先行研究の整理・検討報告⑧

●事前・事後学習の内容

受講生は、各自の関心と課題設定に沿って、取り上げるべき先行研究を随時、収集し精読しながら報告の準備を行うとともに、報告後も次の報告や学期末の最終レポートに向けて研究史整理と課題の模索を継続的に行うこととする。

●評価方法

授業での報告と最終レポートで総合的に評価する。

●受講生へのコメント

この授業は、日本史コースの4回生が取り組む卒業論文につながるものである。卒論とはどういうものなのか、卒論を通じて何を明らかにしたいか、じっくり考える機会にしてほしい。

●参考文献・教材

プリント等を適宜、配布する。参考文献等は、授業や個別指導のなかで随時、提示する。

授業科目名	科目NO.	LAJPH3303	授業コード	L212130010	
日本史演習Ⅲ Seminar in Japanese HistoryⅢ			単位数	2 単位	
授業形態	担当教員名				
演習	齊藤　紘子				

●科目の主題

近世都市史演習

●到達目標

①自らの関心に即してテーマ(問い)を設定し、研究史を調べ、史料にもとづいて考察できる。

②近世史料の読解を通じて、基礎的な研究方法を習得する。

●授業内容・授業計画

『大阪市史』などに収録された町触の中から、受講生の関心に即したテーマで数点の史料を選択する。各テーマ2～3名のグループで担当し、「町触報告」「研究史報告」「総括報告」まで、ほぼ3回の報告(発表)を行う。「町触報告」では基本史料となる町触について正確に解釈し、「研究史報告」ではその町触の内容がどのように論じられてきたかを理解する。それらを踏まえて関連史料なども検討し、「総括報告」を行う。

第1回 ガイダンス:町触とは何か
第2回 近世大坂の支配と町の仕組み
第3回 町触報告①
第4回 町触報告②
第5回 町触報告③
第6回 町触報告④
第7回 研究史報告①
第8回 研究史報告②
第9回 研究史報告③
第10回 研究史報告④
第11回 総合報告①
第12回 総合報告②
第13回 総合報告③
第14回 総合報告④

●事前・事後学習の内容

事前に各班で担当する史料について、現代語訳と論点の整理を行い、またそのテーマに関する先行研究を調べて、レジュメにまとめる。それを授業で発表して討論し、他班の作業などと突き合わせ、理解を深め、レジュメの修正版を作成する。次回の発表の際、その回の報告レジュメとともに前回のレジュメ修正版も配布する。

●評価方法

授業参加態度(40%)、発表および発表レジュメ(30%)、「総括報告」を踏まえて各自で執筆する期末レポート(30%)の総合評価。

●受講生へのコメント

卒業論文の執筆を見据え、史料を読み込む力・研究史を整理する力を身につけてほしい。

●参考文献・教材

史料についてはプリント配布。参考文献については授業内で適宜紹介する。

授業科目名	科目NO.	LAJPH3304	授業コード	L212140010	
日本史演習Ⅳ Seminar in Japanese HistoryⅣ			単位数	2 単位	
授業形態 演習	担当教員名 佐賀　朝				

●科目の主題

「近現代地域社会史の調査・研究」というテーマのもと、大阪府南部の和泉市域に残された近現代の地域史料を素材として共同研究を進める。

●到達目標

多様な形態の近代史料を読み解き、分析する力を鍛えることを目ざす。

●授業内容・授業計画

この授業では、毎年秋に日本史研究室が行なっている和泉市教育委員会との合同調査(「地域の歴史的総合調査」)によって発見された史料をテキストとする。
近年あるいは本年秋に実施される合同調査で発見された史料を素材として、4つ程度の班(グループ)にわかれて史料の解読や分析作業を進め、中間発表をくり返しながら共同研究の成果を論文などの形式でまとめることを目ざす。
必要に応じて、『和泉市の歴史　地域叙述編』などの関係文献・論文の分担報告なども織り込む。
第1回 ガイダンス
第2回 関連論文・文献報告(その1)
第3回 関連論文・文献報告(その2)
第4回 1班第1回報告
第5回 2班第1回報告
第6回 3班第1回報告
第7回 4班第1回報告
第8回 1班第2回報告
第9回 2班第2回報告
第10回 3班第2回報告
第11回 4班第2回報告
第12回 1班第3回報告
第13回 2班第3回報告
第14回 3班第3回報告
第15回 4班第3回報告

●事前・事後学習の内容

この授業では、各班の受講生が中間報告を繰り返しながら最終共同論文作成を進めていくので、毎回の報告後、教員や他班の受講生からのコメントを整理、検討して次の報告の課題設定や内容に反映させるなど、事前・事後学習を継続的に行うことになる。

●評価方法

出席、中間発表、成果報告などにより総合的に評価する。

●受講生へのコメント

生の地域史料に触れ、人びとの生活や地域社会の歴史を復元する作業に共同で取り組みます。共同研究作業の楽しさを体感してください。しんどいことも少なくありませんが、意欲的な参加を期待しています。

●参考文献・教材

・和泉市史編さん委員会『和泉市の歴史1横山と槙尾山の歴史』(和泉市、2005年)
・和泉市史編さん委員会『和泉市の歴史2松尾谷の歴史と松尾寺』(和泉市、2008年)

・和泉市史編さん委員会『和泉市の歴史3池田谷の歴史と開発』(和泉市、2011年)
・和泉市史編さん委員会『和泉市の歴史4信太山地域の歴史と生活』(和泉市、2015年)
以上のほか、授業のなかで随時、提示する。

授業科目名	科目NO.	LAJPH3305	授業コード	L212150010	
考古学演習 Seminar in Archaeology			単位数	2 単位	
授業形態 演習	担当教員名 岸本　直文				

●科目の主題

考古学を専攻しようとする者であるかないかを問わず、受講者の関心のある歴史のテーマに即して考古学的な課題を設定し、先行研究から考古学の成果を学ぶ。自分の研究テーマに考古学の成果を活かす基本を身につけることが主題である。

●到達目標

先行研究を調べ主要な論文を読み、咀嚼し整理・発表する。その内容について参加者で討論し、そのなかから次回の発表について考えていく。これを重ねることで、テーマについての理解を深めるとともに、研究の現状を把握し、自分なりの論点を見いだすことを目標とする。

●授業内容・授業計画

参加人数によるが、2～3回程度の発表を予定している。1人30分の発表、15分の質疑を行い、1回に2人を基本とする。理解に必要な図や表・写真を含めた資料を準備すること。

第1回 各自の興味関心にもとづくテーマ設定と文献紹介を行う。
第2回 受講者の発表1回目(1)
第3回 受講者の発表1回目(2)
第4回 受講者の発表1回目(3)
第5回 受講者の発表1回目(4)
第6回 受講者の発表1回目(5)
第7回 受講者の発表1回目(6)
第8回 2回目の発表について相談し指導を行う
第9回 受講者の発表2回目(1)
第10回 受講者の発表2回目(2)
第11回 受講者の発表2回目(3)
第12回 受講者の発表2回目(4)
第13回 受講者の発表2回目(5)
第14回 受講者の発表2回目(6)
第15回 レポートについて相談し必要な指示を行う

●事前・事後学習の内容

発表は、特定の論文1本だけを単に紹介するのでなく、重要ないくつかの論文を選び、現在の研究状況の把握するように心がけ準備してほしい。資料作成にあたっては、考古学は図が半分と考え、理解に必要な図表等を準備すること。また、発表時の質疑をふまえ、自分の選択したテーマの研究状況をさらに正確に捉えることを心がけ、発表後ただちに次に取り組むべき課題を整理し、それにしたがって次回の発表の準備に進むこと。

●評価方法

発表内容を中心に、質疑への積極的な参加を加味し、総合的に評価する。

●受講生へのコメント

各自のテーマについては、相談の上決めるが、日本史・世界史を問わないし、時代も自由である。また、設定が難しい場合は、論文をこちらが指定することもある。

●参考文献・教材

各自に対して事前に参考文献を紹介する。

授業科目名	科目NO.	LAJPH3306	授業コード	L212160010	
日本史特講Ⅰ Problems in Japanese History Ⅰ				単位数	2 単位
授業形態 講義	担当教員名 吉田　歓				

●科目の主題

「古代の都城と地方拠点」

日本の古代国家は平城京をはじめとする都城を建設していったが、そのモデルとなったのが中国の都城である。この講義では、中国の都城の展開過程と韓半島諸国の都をたどりながら日本の都城について検討する。あわせて地方に誕生した拠点についても取り上げる。

●到達目標

古代の東アジア世界に展開した都の歴史について理解する。あわせて広い視野で歴史を捉えることを目指す。

●授業内容・授業計画

授業については対面で行う。

第1回 ガイダンス
第2回 中国の都城（先秦から秦漢）
第3回 中国の都城（魏晋南北朝）
第4回 中国の都城（隋唐）
第5回 藤原京の誕生
第6回 大極殿の誕生
第7回 平城京の諸問題
第8回 平安京へ
第9回 韓半島の都城
第10回 渤海の都城
第11回 国府と城柵
第12回 中国の都城の変質
第13回 平安京の変質
第14回 まとめ（中世都市へ）
第15回 試験

●事前・事後学習の内容

事前学習

配布したプリントなどに目を通して辞典などでわからないことを調べておく。

事後学習

講義の内容を見直して理解を深める。

●評価方法

受講態度と試験を総合的に評価。受講態度30%、試験70%を目安とする。

●受講生へのコメント

講義の内容を理解するだけではなく、自分なりの問題意識を持ってみてください。

●参考文献・教材

プリントなどを配布する。

参考文献

妹尾達彦『長安の都市計画』講談社、木下正史『藤原京』中央公論新社

授業科目名	科目NO.	LAJPH3307	授業コード	L212170010	
日本史特講Ⅱ Problems in Japanese History Ⅱ			単位数	2 単位	
授業形態 講義	担当教員名 海原　亮				

●科目の主題

近世都市大坂の社会と文化・学問

●到達目標

都市社会の文化・学問をめぐる諸問題について、史料に即しながら、歴史的文脈のなかで理解できるようになることを目標とする

●授業内容・授業計画

・授業内容

都市大坂をおもな素材として、近世社会における文化・学問の動向を検討する。「天下の台所」「商人の町」といったイメージの強い大坂だが、鎖国＝海禁体制を原則とする当時、国際的な物流拠点として大いに栄えた側面も見逃すことはできない。そのことが、大坂の文化・学問に独自の色合いを加えたからである。

講義にあたっては、毎回、具体的な史料をとりあげ、それに即して受講生と一緒に考えていきたい。外国人がみた大坂の様子、異国の影響を多分にうけた都市民衆の生活、信仰の側面、出版文化・医学の展開など、テーマは多彩なものとする予定。なお本講義では、近年、学界で盛んにおこなわれている「社会＝文化構造」論の方法に学び、あらたな「文化史」「学問史」の構築をめざしていきたい。

・授業計画

第1回 「社会＝文化構造」論で近世の都市文化を考える
第2～3回 朝鮮通信使がみた大坂／公儀の対外政策と文化交流
第4回 参府オランダ人と大坂／銅吹所住友の記録
第5～6回 銅がむすぶ世界／長崎と大坂
第7～8回 人びとの信仰をめぐる都市文化／京都嵯峨清涼寺の大坂出開帳
第9回 異国文化獲得のツールとしての書籍／都市文人・木村蒹葭堂
第10回 出版文化の隆盛と大坂の学問／医学書の普及
第11～12回 「町人の学問」～大坂学問史の特質／西洋知識の流入
第13～14回 幕末の牛痘種痘／予防医学のはじめ
第15回 試験

●事前・事後学習の内容

毎回の授業で事前・事後学習のポイントと課題を提示する

●評価方法

小レポートと学期末試験により評価する

●受講生へのコメント

本講義を通じて、正しい歴史理解は必要だが、微細な史実のひとつひとつについて暗記することは全く求めない。鍵となる概念を講義のなかで確実に理解し、大まかな歴史の流れをつかめばよい。歴史を自分で調べるテクニックや、文化史研究の基本的な手法を身につけたい。また、史料の精読を通じ、生活のあらゆる場面に歴史の蓄積があることを知り、そこから何かを学ぶ姿勢を大切にしてほしい（成績評価にあたっても、以上の姿勢を重視する予定である）

●参考文献・教材

教科書は使用しない。毎回、史料レジュメを配布する。（参考書）：海原亮「世界のなかの近世文化」（荒野泰典編『日本の対外関係』第6巻、吉川弘文館、2010年）

授業科目名	科目NO.	LAJPH3308	授業コード	L212180010	
日本史特講Ⅲ Problems in Japanese HistoryⅢ				単位数	2 単位
授業形態 講義	担当教員名 磐下　徹				

●科目の主題

「日本古代地方社会の研究」

この講義では、平安時代の地方社会の様相について『朝野群載』巻22に収録された文書を素材に考える。

収録文書の詳細な読解を通して、主に平安時代後期の国司（受領）の在り方や地方社会の状況を読み取っていく。

●到達目標

主に平安時代後期の地方支配制度や地方社会についての知見を深める。

あわせて史料（資料）の分析方法についても理解を深める。

●授業内容・授業計画

第1回　ガイダンス
第2回　『朝野群載』について
第3回　『朝野群載』のテキストについて
第4回　『朝野群載』巻22所収文書の概観
第5回　藤原俊信申文（受領への任官）
第6回　源義家申文（受領への任官）
第7回　国司庁宣・初度（受領の赴任）
第8回　国司庁宣・二度（受領の赴任）
第9回　国務条事（受領の赴任）
第10回　淡路国司補押領使申文（受領の任国統治）
第11回　越前国司停追捕使押領使申文（受領の任国統治）
第12回　国務条事（受領の任国統治）
第13回　補郡司官符（平安時代の郡司）
第14回　まとめ

＊講義内容は受講者の理解度に応じて適宜変更することがある。

配布プリントにもとづいた講義形式で進める。

リアクションカードに質問や感想などを書いてもらうことがある。

講義内容は受講者の理解度等に応じて変更することがある。

●事前・事後学習の内容

事前学習

配布したプリント等に目を通し、分からない語句などがあれば、辞典類を使って調べておく。

事後学修

プリントやノートを読み返して講義内容を整理し、それに対する自分の意見・考えをまとめておく。

そのほか、講義中に紹介された参考文献等を各自の判断で適宜目を通しておく。

●評価方法

期末の筆記試験と受講態度を総合的に勘案して評価（おおよそ試験70％、受講態度30％が目安）。

試験では講義内容の理解度と、それらを踏まえた自らの見解を論理的に記述できているかを問う。

●受講生へのコメント

大学の歴史学の講義は暗記科目ではない。一方的に講義を聴くだけではなく、講義内容を理解した上で自分なりの考えを持てるよう、

積極的な姿勢で毎回の授業に臨んでほしい。

●参考文献・教材

毎回プリント・資料を配布し、それに即しながら講義を進める。

参考文献：佐藤信監修・朝野群載研究会編『朝野群載 巻二十二 校訂と註釈』（吉川弘文館、2015年）

授業科目名	科目NO.	LAJPH3309	授業コード	L212190010	
日本史特講Ⅳ Problems in Japanese HistoryⅣ				単位数	2 単位
授業形態 講義	担当教員名 仁木　宏				

●科目の主題

中世の都市社会史

●到達目標

①史料をもとに中世史を実証的に研究できるようになる。

②先行研究を学ぶことから中世都市史研究の課題をとらえる。

●授業内容・授業計画

中世都市史研究は、近年、考古学中心に進められてきた。しかし、文献史料によって解明すべき課題は多く、新たな方法論の開発も待たれている。

この授業では、最新の中世都市史研究の成果と課題を掌握するとともに、法令を通じて都市社会を読み解く方法について講義する。

第1回　導入
第2回　楽市研究の歩み
第3回　「楽市令」の分布
第4回　楽市条項の対象
第5回　楽市と戦国時代の市庭
第6回　新しい楽市像の創出
第7回　戦後日本中世都市研究の歩み(1)
第8回　戦後日本中世都市研究の歩み(2)
第9回　都市史と村落史
第10回　都市と地域社会
第11回　戦国大名研究と都市史
第12回　統一政権と都市支配
第13回　中世近世の移行を都市から読み解く
第14回　総括

●事前・事後学習の内容

講義では中世史料（活字翻刻）を取り上げる。読み下しや現代語訳などの解説をよく聞き、毎回必ず復習すること。後半では主要参考文献を提示するので、事前の学修を怠らないこと。

●評価方法

授業の理解度を確認するため、各回の授業後に簡単な要点整理・感想・質問の提出を求める。評価基準は、授業参加度50%、期末レポート50%とする。

●受講生へのコメント

対象とするのは都市をめぐる法令・研究史などだが、それらのあり方を規定する中世社会、前近代日本の特質についても理解を深めてほしい。

●参考文献・教材

授業でレジュメ・資料を配布する。

参考文献

・仁木　宏『空間・公・共同体』青木書店、1997年

授業科目名	科目NO.	LAJPH3209	授業コード	L212200010	
考古学実習 Practice in Archaeology			単位数	2 単位	
授業形態 実習	担当教員名 岸本　直文				

●科目の主題

考古学の基本技術として、遺物実測の基本を習得する。

●到達目標

遺物の実物観察の基礎を身につけ、それを図化して資料化する基本技術を身につけることを目標とする。

●授業内容・授業計画

大学が保管する実物の石器・土器等の考古資料を観察・整理しながら、石器や土器の実測を行う。またこれ以外に、古墳の測量調査を行うことがある。

第1回　土器の観察とスケッチ
第2回　写真撮影(1)
第3回　写真撮影(2)
第4回　打製石器の実測(1)
第5回　打製石器の実測(2)
第6回　磨製石器の実測(1)
第7回　磨製石器の実測(2)
第8回　完形土器の実測(1)
第9回　完形土器の実測(2)
第10回　完形土器の実測(3)
第11回　完形土器の実測(4)
第12回　完形土器の実測(5)
第13回　土器の破片資料の実測(1)
第14回　土器の破片資料の実測(2)
第15回　拓本

●事前・事後学習の内容

毎回の時間に熱心に取り組み、また課題を仕上げることがなにより大切である。日頃からスケッチを描いたり、これはと思う対象をうまく撮影したり、メモを含め、対象物を捉え記録する姿勢を養うこと。また、毎回後、見本となるものと自分の図を比べ、より丁寧な線描や表現能力に近づける見直しをしてほしい。

●評価方法

出席および各課題で仕上げられた図面による。

●受講生へのコメント

作業空間や道具類の数量、また実習という性格から、10名程度しか受け入れられない。また、進捗状況をそろえる必要があり、毎回の課題について、区切りのつくまで延長して仕上げてもらう。

●参考文献・教材

必要なものは、適宜、プリントを配布する。

授業科目名	科目NO.	LAGEN2101	授業コード	L213010010	
世界史基礎講読 Basic Reading in World History			単位数	2 単位	
授業形態 講義／演習	担当教員名 上野　雅由樹／北村　昌史／濱本　真実／向井　伸哉／渡辺　健哉				

●科目の主題

この科目は、初年次学生を主な対象として、大学における歴史学への導入を行うことを目的とする。そのために、現代の日本という、いま、われわれの世界から、過去の、日本以外の異文化へと踏み出す第一歩として、生活に関わる身近なテーマを題材として取り上げる。なかでも今年度は、感染症という、新型コロナウイルスの流行により、いまのわれわれにとってはあまりに身近となった存在を歴史的な観点から読み解き、外国の歴史を学ぶ意義を検討する材料のひとつとする。

●到達目標

高校までに学習した「世界史」という枠組みを超えて、より広い視野から現代世界とその過去を見直す知的インフラを身につける。具体的には、マクロ・ヒストリーやグローバル・ヒストリーといった大きな見方、その一方で自分たちの生活に則したテーマについて学習し、必要な情報を入手する仕組みについて知見を得つつ、学習したことについて適切な説明を自分自身でできるようにする。

●授業内容・授業計画

世界史学教室所属教員各々が自身の専門分野（中国史・ロシア史・オスマン史・ヨーロッパ史）に基づきつつ、オムニバス形式で授業を行う。

1. ガイダンス
2. 中世西欧のペスト禍（向井）
3. 中世南仏の漁業権（向井）
4. 中世南仏の通貨（向井）
5. 近世中国（宋～清）の飲料と食事（渡辺）
6. 近世中国の訴訟（渡辺）
7. モンゴル帝国治下の疫病（渡辺）
8. 疫病とモスクワ公国（濱本）
9. 毛皮の世界史（濱本）
10. ロシアンティーと茶貿易（濱本）
11. 19世紀ヨーロッパのコレラ流行と清潔な街（北村）
12. モダニズム建築と大阪市立大学学舎（北村）
13. オスマン帝都イスタンブルにおけるコーヒーとカフェ（上野）
14. 西アジアにおける移動制限と疫病（上野）

●事前・事後学習の内容

授業時に教員が指示する資料・史料について事前に検討すること。その資料・史料が歴史理解にどのように役立つかについて、各自の考察を適切にまとめた小レポート提出をもって事後学習とする。

●評価方法

各担当教員が課す小レポートの総点で上記の到達目標を評価する。

●受講生へのコメント

受講生は、各回の授業前後に、教員が指示する参考文献や各種情報を参照して下さい。その過程で図書館やインターネット検索など資料収集について慣れるよう心掛けて下さい。

●参考文献・教材

参考文献として以下の2点をあげる。

小田中直樹・帆刈浩之『世界史／いま、ここから』山川出版社、2017年。

木村靖二・岸本美緒・小松/久男『詳説世界史研究』山川出版社、2017年。

授業科目名	科目NO.	LAWHE3201	授業コード	L213020010	
東洋史基礎講読 Basic Reading in Oriental History			単位数	2 単位	
授業形態 演習	担当教員名 平田　茂樹				

●科目の主題

諸子百家選読。

●到達目標

春秋戦国時代にかけて活躍した思想家たちは、それぞれ異なる考え方を主張し、諸子百家と呼ばれている。これらの考えは今日の中国の伝統文化の基礎を形作っており、中国を知る上では不可欠なものである。今回は諸子百家を選読することにより、古代中国の人々の生活や考え方を学ぶと共に、基礎的な漢文読解能力を身につけることを目指してゆく。

●授業内容・授業計画

諸子百家の文献を少しずつ読み進めて行く。

第1回 ガイダンス
第2回『論語』選読
第3回『論語』選読
第4回『孟子』選読
第5回『孟子』選読
第6回『老子』選読
第7回『老子』選読
第8回『荘子』選読
第9回『荘子』選読
第10回『韓非子』選読
第11回『韓非子』選読
第12回『孫子』選読
第13回『孫子』選読
第14回　まとめ

●事前・事後学習の内容

毎回、授業で読む史料について予習を課します。授業終了後は、授業で指摘されたポイントを振り返り、漢文読解能力を高めることに努める。

●評価方法

平常点(100%)

●受講生へのコメント

基礎的な漢文読解能力を身につけることを目指してゆきますので、毎回必ず出席し、課題に取り組むようにしてください。

●参考文献・教材

参考書:湯浅邦弘『諸子百家―儒家・墨家・道家・法家・兵家』(中公新書)
金谷治『論語』(岩波文庫)
白川静『孔子伝』(中公文庫)
金谷治『孟子』)(朝日文庫)
蜂屋邦夫『老子』(岩波文庫)
金谷治『荘子』(岩波文庫)
浅野裕一『孫子』(講談社学術文庫)
金谷治『韓非子』(岩波文庫)

授業科目名	科目NO.	LAWHE3202	授業コード	L213030010	
東洋史通論 Outline of Oriental History			単位数	2 単位	
授業形態 講義	担当教員名 平田　茂樹				

●科目の主題

「刑は大夫に上らず、礼は庶人に下らず」(『礼記』) の言葉は、礼によって規定される「士大夫」と刑によって規定される「庶人」の階層区別をあらわし、「士庶」の間には大きな隔てがあったことを示している。本講義では、前近代中国のエリート(士大夫・文人・読書人)の実態について、科挙と官僚制、儒教、人文的素養、趣味、娯楽、経済生活、ネットワークといった事柄について考え、エリートと大衆の別とは何であったのか、そしてそこから歴史を捉える視点を養うことを目指す。

●到達目標

世界史的な観点から前近代中国社会について概括的に説明することができる。

●授業内容・授業計画

世界の歴史、そして現代世界のあり方を理解するためには、「比較史」の視点が必要となってくる。具体的には、古代と中世、中世と近世、近世と近代、近代と現代といった時間軸、中国と日本、中国と西欧といった空間の比較を通して、客観的な視点を養う必要がある。講義それ自体は前近代中国のエリート(士大夫・文人・読書人)を扱いながらも、絶えず過去と現在、中国と日本・西欧との対比を心がけ、現在おかれている自己の社会について見つめなおし、そして大学で歴史を学ぶというのがどのような営みなのかについて基本的な理解を身につけることを目指す。

1. 中国についての概説
2. 前近代中国のエリート(「士大夫」「文人」「読書人」)
3. 科挙と官僚制
4. 皇帝政治と朋党
5. エリートの経済生活
6. エリートの人文的素養(「儒学」と作詩文)
7. 中間的総括
8. 中国文人画の世界から見たエリートの趣味・娯楽
9. 中国文人の生活「文房四宝」「琴棋書画」
10. 「雅」と「俗」(エリートと大衆との交差)
11. エリートの交遊
12. エリートのネットワーク
13. エリートと「儒教」「道教」「仏教」、及び「方術」との関り
14. 最終総括

●事前・事後学習の内容

事前学習として、シラバスや授業で紹介する参考図書の内容を読み、歴史の大まかな流れや時代背景を確認する。事後学習として、授業内で配布する参考史料を読み、講義内容との関連性から検討を加える。

●評価方法

授業中に課される小レポートの記入(50パーセント)および試験(50パーセント)によって評価する。

●受講生へのコメント

これまでの知識からいったん離れて、自ら考える力を身に着けてください。授業では高校までに学んできた所謂通説とは異なる考え方を提示してゆきます。その内容についてじっくり考え、また様々な文献を調べ、自己の考え方を確立するように努めてください。

●参考文献・教材

ほぼ毎回プリントを配布する。事前・事後学習用の参考図書として以下の4点をあげる。

村上哲見『中国文人論』汲古書院、1994年。
平田茂樹『科挙と官僚制』山川出版社、1997年。
伊原弘・小島毅（編）『知識人の諸相―中国宋代を基点として』勉誠出版、2001年。
平田茂樹『宋代政治構造研究』汲古書院、2012年。

授業科目名	科目NO.	LAGEN3202	授業コード	L213040010	
世界史通論 Introduction to World History			単位数	2 単位	
授業形態 講義	担当教員名 濱本 真実				

●科目の主題

本科目では、ロシア帝国史・ソ連史を、ロシア正教徒が主体のロシアと、中央ユーラシアのイスラーム世界との関わりに注目しながら、通史的に学ぶ。ロシアはキリスト教正教を国教としたために、伝統的にヨーロッパに含めて考えられることが多いが、キリスト教受容以前から、南方の草原地帯の遊牧民と密接な関係にあった、アジア的側面を強く持つ国でもある。13-15世紀にモンゴル帝国に組み入れられたロシアが、16世紀以降は逆に草原地帯を征服し、ヨーロッパの大国へと変貌していく過程をたどることにより、受講者が、ロシア史と中央ユーラシア史の大枠を理解するとともに、近世から近代にかけて、世界史の重心がアジアからヨーロッパに移っていく流れを具体的にとらえられるようになることを目標とする。

●到達目標

ロシアと中央ユーラシアの関係について、通史的に説明できる。

近世から近代にかけてロシア帝国が強国となっていった要因を説明できる。

●授業内容・授業計画

第1回 導入:ロシア正教とイスラーム
第2回 キエフ時代のロシア
第3回 中央ユーラシアのイスラーム化
第4回 ロシアとタタールのくびき
第5回 草原の覇者としてのロシア
第6回 ムスリムの正教改宗
第7回 エカチェリーナ2世の対ムスリム政策
第8回 西方への領土拡大(1):ウクライナとベラルーシ
第9回 西方への領土拡大(2):ポーランド分割
第10回 18-19世紀ロシアのアジアへの領土拡大
第11回 多民族帝国ロシアの近代化
第12回 諸民族の挑戦とロシア革命
第13回 ソ連の諸民族
第14回 ソ連崩壊と中央アジア諸国
第15回 試験

●事前・事後学習の内容

第1～2回事前学習 参考文献の栗生沢猛夫『図説ロシアの歴史増補新装版』を読み、ロシア史の概要を理解する。

第3回事前学習 参考文献の濱田正美『中央アジアのイスラーム 』を読み、疑問点を整理しておく。

第4～7回事前学習 参考文献の濱本真実『共生のイスラーム : ロシアの正教徒とムスリム』を読み、疑問点を整理しておく。

第8～9回事前学習 参考文献の中井和夫他編著『ポーランド・ウクライナ・バルト史(新版世界各国史》20)』を読み、疑問点を整理しておく。

第10～11回事前学習 参考文献の和田春樹他編著『世界歴史大系 ロシア史』第2巻第5、6章を読み、19世紀ロシアの大改革と領土拡大について疑問点を整理しておく。

第12～14回事前学習 参考文献の宇山智彦『中央アジアの歴史と現在』を読み、多民族帝国ロシアとソ連の民族問題について疑問点を整理しておく。

●評価方法

平常点、学期末試験などにより総合的に評価する。

●受講生へのコメント

ロシアの具体的なイメージをつかんでもらうために、なるべく多くの映像資料を利用する予定です。

●参考文献・教材

教科書は用いず、毎回の授業でプリントを配布する。

参考文献

宇山智彦『中央アジアの歴史と現在』東洋書店, 2000

栗生沢猛夫『図説ロシアの歴史増補新装版（ふくろうの本）』河出書房新社, 2014

小松久男他編著『中央ユーラシア史（新版世界各国史4）』 山川出版社, 2000

中井和夫他編著『ポーランド・ウクライナ・バルト史（新版世界各国史20）』山川出版社, 1998

濱田正美『中央アジアのイスラーム 』山川出版社, 2008

濱本真実『共生のイスラーム ： ロシアの正教徒とムスリム』 山川出版社, 2011

和田春樹他編著『世界歴史大系 ロシア史』1－3巻、山川出版社, 1994-1997

授業科目名	科目NO.	LAWHE3203	授業コード	L213050010	
東洋史講読Ⅰ Reading in Oriental History Ⅰ				単位数	2 単位
授業形態 演習	担当教員名 平田　茂樹				

●科目の主題

『宋史』列伝選読

●到達目標

『宋史』列伝を読み進めることを通じて、基本的な漢文読解能力を養うとともに、前近代中国がどのような社会であったかを学ぶことを目指す。

●授業内容・授業計画

『宋史』列伝を順次読み進めていく。

第1回　宋代史概説
第2回 『宋史』列伝(1)
第3回 『宋史』列伝(2)
第4回 『宋史』列伝(3)
第5回 『宋史』列伝(4)
第6回 『宋史』列伝(5)
第7回 『宋史』列伝(6)
第8回 『宋史』列伝(7)
第9回 『宋史』列伝(8)
第10回 『宋史』列伝(9)
第11回 『宋史』列伝(10)
第12回 『宋史』列伝(11)
第13回 『宋史』列伝(12)
第14回 『宋史』列伝(13)

●事前・事後学習の内容

受講生は毎回指定された箇所の史料について事前に十分に予習をして出席し、事後は授業での指摘を元に、自己の講読の誤りについて修正し、きちんとした史料講読方法を学ぶ。

●評価方法

出席・授業への取り組み(50%)、レポート(50%)

●受講生へのコメント

漢文読解能力は積み重ねによって身につくものですので、毎回予習、復習に努めるようにしてください。

●参考文献・教材

プリント配付。

授業科目名	科目NO.	LAWHE3204	授業コード	L213060010	
東洋史講読Ⅱ Reading in Oriental HistoryⅡ			単位数	2 単位	
授業形態 演習	担当教員名 渡辺　健哉				

●科目の主題

中国史研究の基礎となる漢文史料を、分担を決めて輪読形式で読み進め、文献史料の利用方法とそれを使った研究手法を学んでいく。宋代に編纂された『棠陰比事(とういんひじ)』という名裁判の判例を読み進めていく。なおテキストとして返り点が付されている「和刻本」を使用する。

●到達目標

①漢文史料を読み解いていくことで、漢文の基礎的な読解力を身につけ、その性格を理解したうえで、研究に利用できるようになる。
②アジア諸地域・諸民族の歴史と文化について理解を深め、その概要を説明できるようになる。

●授業内容・授業計画

第01回:ガイダンス　前近代中国の裁判制度について
第02回:講義　漢文史料の読解にあたって基礎知識の習得(1)
第03回:講義　漢文史料の読解にあたって基礎知識の習得(2)
第04回:史料読解 『棠陰比事』(1)
第05回:史料読解 『棠陰比事』(2)
第06回:史料読解 『棠陰比事』(3)
第07回:史料読解 『棠陰比事』(4)
第08回:史料読解 『棠陰比事』(5)
第09回:史料読解 『棠陰比事』(6)
第10回:史料読解 『棠陰比事』(7)
第11回:史料読解 『棠陰比事』(8)
第12回:史料読解 『棠陰比事』(9)
第13回:史料読解 『棠陰比事』(10)
第14回:まとめ

●事前・事後学習の内容

事前学習:講読箇所について予習をしておく。
事後学習:授業で理解できなかった点について改めて調べるとともに、整理しておく。

●評価方法

授業に取り組む姿勢(70%)、テキストの翻訳(30%)。

●受講生へのコメント

史料を的確に読む力を身につけることができます。また、前近代中国の裁判を通して、彼らの日常生活について理解が深まります。

●参考文献・教材

プリントを配布する。

授業科目名	科目NO.	LAWHE3205	授業コード	L213070010	
東洋史講読Ⅲ Reading in Oriental HistoryⅢ			単位数	2 単位	
授業形態 演習	担当教員名 上野　雅由樹				

●科目の主題

オスマン帝国の歴史について学ぶための、基礎的なトルコ語読解力を身につけること、それを通じて近世・近代のオスマン社会について学ぶことを目的とする。トルコ語文献を講読すべく、最初に基礎的な文法事項を学び、文章読解に必要な最低限の知識を習得する。その後、簡単な文献の講読へと進む。

●到達目標

辞書を用いながら、現代トルコ語で書かれた平易な文献を読解することができる。

●授業内容・授業計画

トルコ語文献を講読すべく、最初に基礎的な文法事項を学び、文章読解に必要な最低限の知識を習得する。その後、簡単な文献の講読へと進む。扱うテーマは以下のようなものを予定しているが、進捗状況に応じて変更する。

第1回 トルコ語の発音と構文
第2回 名詞の基本的な形
第3回 名詞の語尾
第4回 動詞の基本的な形
第5回 時制
第6回 動詞の語尾
第7回 動名詞
第8回 寓話に見る社会
第9回 コーヒー文化の流入
第10回 イスタンブルの教会
第11回 クリミア戦争の日々
第12回 トプカプ宮殿
第13回 映画の導入
第14回 地下鉄の導入

●事前・事後学習の内容

事前学習として、学期前半には各回、教材の指定箇所に一通り目を通し、学期後半には講読予定の内容を図書館等にある辞書を使って予習すること。事後学習として、授業で扱った文法事項を復習し、習得に努めること。

●評価方法

本科目は、辞書を用いながら、現代トルコ語で書かれた平易な文献を読解することができることを単位修得の最低基準とし、小テスト(50%)と定期試験(50%)でその達成度を評価する。

●受講生へのコメント

トルコ語の知識は前提としません。テキストは適宜、配布します。

●参考文献・教材

テキストは適宜配布する。参考文献として以下のものをあげる。

東京外国語大学トルコ語専攻編『トルコ語文法の基礎』東京外国語大学生活協同組合出版部、2007年。

竹内和夫『ポケット版トルコ語辞典』大学書林、1989年。

Türkçe-İngilizce Redhouse Sözlüğü (Istanbul: SEV Matbaacılık, 1999).

授業科目名	科目NO.	LAGEN3203	授業コード	L213080010	
世界史講読 Reading in World History			単位数	2 単位	
授業形態 演習	担当教員名 濱本 真実				

●科目の主題

本科目の主な対象は文学部2回生であり、講読を通して、歴史学に関する英語の論文を正確に読み解く能力を養うとともに、近世・近代の諸帝国の歴史を、民族という要素を軸に分析する方法を理解することを目指す。20世紀終わり頃まで、ロシア史といえばロシア人の歴史を指すのが普通だったが、現在ではロシア帝国を多民族・多宗教国家ととらえる考え方が広く受け入れられている。近年では、ロシア帝国が領土拡大に伴って臣民として取り込んだ非ロシア人をいかにして統治したのか、また、非ロシア人はどのようにその統治を受け入れたのかという視点からの研究が盛んにおこなわれている。このような研究動向を踏まえ、本科目では、ロシア帝国のロシア人と非ロシア人との関係に注目して著された、英語の単著や論文集を選び、輪読形式で読む。

●到達目標

歴史に関する英語の文章を正確に読み解くとともに、要旨をまとめることができる。

●授業内容・授業計画

第1回 授業で取り上げるKappeler, A. (Trans. by Clayton, A.), The Russian Empire: A Multi-ethnic History, Harlow et al., (2001)等の英語の単著と、Burbank, J. et al. (eds.), Russian Empire: Space, People, Power, 1700-1930, Bloomington, (2007)等の英語論文集について解説する。
第2回 授業で取り上げる英語の単著のうち、受講者の関心のある章のなかから、授業でとり上げる章を決定する。
英語の単著の講読(1)
第3回 英語の単著の講読(2)
第4回 英語の単著の講読(3)
第5回 英語の単著の講読(4)
第6回 英語の単著の講読(5)
第7回 英語の単著の講読(6)
第8回 授業で取り上げる英語論文集のうち、受講者の関心のある章のなかから、授業でとり上げる章を決定する。
英語論文集の講読(1)
第9回 英語論文集の講読(2)
第10回 英語論文集の講読(3)
第11回 英語論文集の講読(4)
第12回 英語論文集の講読(5)
第13回 英語論文集の講読(6)
第14回 英語論文集の講読(7)
第15回 まとめ

●事前・事後学習の内容

第1回事前学習 授業で取り上げる書籍の目次から、自分が関心のある章を選び、目を通しておく。また、次週に講読予定の章を精読する。
第2～7回事前学習 英語の単著のうち、講読予定の章を精読して授業に臨む。
第8～14回事前学習 講読予定の章を精読して授業に臨むとともに、関連する事柄についての研究文献を授業前に独自に調査する。
第15回事前学習 授業での講読を通して、多民族帝国ロシアの性格について考察する。

●評価方法

授業での報告と最終レポートで総合的に評価する。

●受講生へのコメント

必ず英和辞典を持参すること。

●参考文献・教材

毎回、講読する章や論文のプリントを配布する。

授業科目名	科目NO.	LAWHE3301	授業コード	L213090010	
東洋史演習Ⅰ Seminar in Oriental History Ⅰ			単位数	2 単位	
授業形態 演習	担当教員名 上野　雅由樹				

●科目の主題

本科目は、オスマン帝国史に関する日本語論文の輪読を通じて歴史学の研究文献を批判的に読解する方法を学びつつ、オスマン帝国史研究の分野でどのようなテーマが研究課題として認識されているのかについて知見を広めること、あわせて、英文史料の講読を通じて史料から情報を得るための基礎を学ぶことを目的としている。

●到達目標

歴史学分野の学術論文で何が論じられているかを説明すること、疑問点を提示することができる。

●授業内容・授業計画

事前に決めた担当者が担当箇所の内容を報告し、それをもとに疑問点を出し合う形で進める。取り上げる予定の論文で扱われているテーマは以下の通りではあるが、受講者の関心や議論の深まりに応じて変更する可能性がある。

1. ガイダンス
2. 歴史叙述と帝国の起源
3. イスタンブルと宮殿
4. キリスト教と東地中海世界
5. 宗教知識人と官僚制
6. 都市文化と祝祭
7. 商業と商人
8. 外交とカピチュレーション
9. 同職組合
10. 地方名望家
11. 近代国家化と難民
12. 学校教育
13. 都市行政と公衆衛生
14. 国制論と国法学

●事前・事後学習の内容

事前学習として、講読予定の英文を精読しておくこと。事後学習として、授業で取り上げられた日本語文献を再読し、各自の理解を再確認すること。

●評価方法

演習形式の授業であるため、発表や議論など、授業への取り組みを総合的に評価します。

●受講生へのコメント

教材は適宜、配布します。コースにかかわらず歴史学に関心のある受講生を歓迎します。

●参考文献・教材

参考文献として以下のものをあげる。

林佳世子『オスマン帝国500年の平和』講談社学術文庫、2016年。

授業科目名	科目NO.	LAWHE3302	授業コード	L213100010	
東洋史演習Ⅱ Seminar in Oriental HistoryⅡ				単位数	2 単位
授業形態	担当教員名				
演習	渡辺　健哉				

●科目の主題

前近代中国における史料の編纂に関する研究:前近代中国には様々な性質の史料がある。ここでは、元代を解明する根本史料である『元史』から記事を項目立てて整理した『元史紀事本末』の「科挙」「元寇」に関わる個所を輪読しながら、その知識を整理するとともに、前近代中国にはどのような史料があり、それがどのような過程を経て編纂されていくのかについて理解する。

●到達目標

『元史紀事本末』を講読することで、史料読解能力を養成しつつ、史料がどのように編纂されていくのかについて理解を深める。

●授業内容・授業計画

文献の読解能力を養成しつつ、史料編纂の過程について理解を深める。
第1回:ガイダンス　資料と史料
第2回:講義 『元史紀事本末』の性質について(1)
第3回:講義 『元史紀事本末』の性質について(2)
第4回:史料読解 『元史紀事本末』「科挙学校之制」(1)
第5回:史料読解 『元史紀事本末』「科挙学校之制」(2)
第6回:史料読解 『元史紀事本末』「科挙学校之制」(3)
第7回:史料読解 『元史紀事本末』「科挙学校之制」(4)
第8回:史料読解 『元史紀事本末』「科挙学校之制」(5)
第9回:史料読解 『元史紀事本末』「日本用兵」(1)
第10回:史料読解 『元史紀事本末』「日本用兵」(2)
第11回:史料読解 『元史紀事本末』「日本用兵」(3)
第12回:史料読解 『元史紀事本末』「日本用兵」(4)
第13回:史料読解 『元史紀事本末』「日本用兵」(5)
第14回:全体のまとめ

●事前・事後学習の内容

事前学習:講読箇所に目をとおしておく。
事後学習:復習をするとともに理解できなかった箇所を整理しておく。

●評価方法

授業に取り組む姿勢(70%)、テキストの翻訳(30%)。

●受講生へのコメント

漢文の基礎的な読解力を身につけることができます。また、史料編纂の過程を理解することで、リテラシーを身につけることにつながります。

●参考文献・教材

プリントを配布する。

授業科目名	科目NO.	LAWHE3303	授業コード	L213110010	
東洋史演習Ⅲ Seminar in Oriental HistoryⅢ				単位数	2 単位
授業形態 演習	担当教員名 平田　茂樹				

●科目の主題

『夷堅志』選読

●到達目標

南宋・洪邁『夷堅志』を選読しながら、漢文のやや高度な読解能力を身につけるとともに、前近代中国社会の生活がどのようなものであったかを理解する。

●授業内容・授業計画

『夷堅志』選読

第1回 宋代史概説

第2回『夷堅志』乙志

第3回『夷堅志』乙志

第4回『夷堅志』乙志

第5回『夷堅志』乙志

第6回『夷堅志』丙志

第7回『夷堅志』丙志

第8回『夷堅志』丙志

第9回『夷堅志』丙志

第10回『夷堅志』丙志

第11回『夷堅志』丙志

第12回『夷堅志』丙志

第13回『夷堅志』丁志

第14回『夷堅志』丁志

●事前・事後学習の内容

事前に各回の講読箇所に目を通し、大まかに内容を把握する。事後学習として、講読箇所を読み返し、理解を定着させることが望ましい。

●評価方法

毎回の課題レポート(100%)

●受講生へのコメント

『夷堅志』は 中国宋代の日常生活を知る上で格好な史料です。授業を通じて、漢文の読解能力を身につけると共に、 一千年前の中国人の生活の様子をしっかり学んでいってください。

●参考文献・教材

参考書:稲畑耕一郎監修／劉煒編／杭侃著／大森信徳訳『図説中国文明史 7 宋 成熟する文明』(創元社)

『南宋の隠れたベストセラー『夷堅志』の世界』(勉誠出版)

授業科目名	科目NO.	LAGEN3301	授業コード	L213120010	
世界史演習 Seminar in World History			単位数	2 単位	
授業形態 演習	担当教員名 濱本 真実				

●科目の主題

本科目は、文学部世界史コースの3回生を主な対象とし、ロシアと中央ユーラシア（ロシアのアジア部、コーカサス、中央アジア五か国）の民族と宗教に関わる諸問題をテーマにした邦文・英文の論文を、批判的に読む能力を身につけることを目的とする。最初の授業で、それぞれの回に取り上げる論文と担当者を決め、担当者は、論文の内容をまとめるとともに、関連文献にあたって批評の準備をし、他の出席者は、毎回論文を精読したうえで授業に参加する。授業では、担当者によるプレゼンテーションののち、全員で担当者の批評について議論するとともに、各出席者が出す疑問点についても討議する。

●到達目標

ロシアと中央ユーラシアの歴史に関する論文の内容を要約できる。また、論文を批判的に読み、批評することができる。

●授業内容・授業計画

第1回 授業で取り上げる、宇山智彦（編著）『ロシア革命とソ連の世紀 5 越境する革命と民族』等の日本語論文集とUYAMA, T. (ed.), Empire, Islam, and Politics in Central Eurasia等の英語論文集の解説。また、各回の担当者と担当論文の決定。
第2回 初回授業で担当を決めた日本語論文についての報告と批評（1）
第3回 初回授業で担当を決めた日本語論文についての報告と批評（2）
第4回 初回授業で担当を決めた日本語論文についての報告と批評（3）
第5回 初回授業で担当を決めた日本語論文についての報告と批評（4）
第6回 初回授業で担当を決めた日本語論文についての報告と批評（5）
第7回 初回授業で担当を決めた日本語論文についての報告と批評（6）
第8回 初回授業で担当を決めた英語論文についての報告と批評（1）
第9回 初回授業で担当を決めた英語論文についての報告と批評（2）
第10回 初回授業で担当を決めた英語論文についての報告と批評（3）
第11回 初回授業で担当を決めた英語論文についての報告と批評（4）
第12回 初回授業で担当を決めた英語論文についての報告と批評（5）
第13回 初回授業で担当を決めた英語論文についての報告と批評（6）
第14回 初回授業で担当を決めた英語論文についての報告と批評（7）
第15回 まとめ

●事前・事後学習の内容

第1回事後学習 参考文献の宇山智彦（編著）『ロシア革命とソ連の世紀 5 越境する革命と民族』冒頭の総説を読み、疑問点を整理しておく。

第2～14回事前学習 担当者は発表の準備を整え、その他の受講者は論文を精読し、疑問点、批判できる部分を明確にして授業に臨む。

第15回事後学習 授業でとり上げた論文の内容とそれについての批評をふりかえる。

●評価方法

発表内容を中心に、質疑への積極的な参加を加味し、レポートを含め総合的に評価する。

●受講生へのコメント

第1回の授業で報告の順番等を決定するので、受講を希望する者は必ず第1回から参加すること（欠席した場合は原則として受講を認めない）。

●参考文献・教材

授業でとりあげる論文は、以下の書籍から教員がコピーし、授業時に配布する。

宇山智彦（編著）『ロシア革命とソ連の世紀 5 越境する革命と民族』岩波書店、2017

UYAMA, T. (ed.), Empire, Islam, and Politics in Central Eurasia, Sapporo, 2007

授業科目名	科目NO.	LAWHE3304	授業コード	L213130010	
東洋史特講Ⅰ Problems in Oriental History Ⅰ				単位数	2 単位
授業形態 講義	担当教員名 大野　晃嗣				

●科目の主題

中国の近世王朝である明朝について、その官僚制度・文書システムについて理解を深める。

●到達目標

明王朝の国家体制を支える多様な制度がそれぞれ相互に関連していることを学び、加えて基本的な文書を読むスキルを身につけることによって、自分で問題を発見し探究できるようになることを目標とする。

●授業内容・授業計画

本講義は遠隔により実施する。

第一回　オリエンテーション（授業の進め方、予習などについて説明を行う）
第二回　明朝史概説
第三回　明代官僚制度（中央官制）
第四回　明代官僚制度（地方官制）
第五回　明朝文書行政の解説(1)：基本構造
第六回　明朝文書行政の解説(2)：史料用語の理解　第七回　明代法制史と法制史文書の解説
第八回　法制史文書読解と発表
第九回　法制史文書読解と討論
第十回　明代外交文書の解説
第十一回　外交文書読解と発表
第十二回　外交文書読解と討論
第十三回　明朝の制度と清朝の制度(1)
第十四回　明朝の制度と清朝の制度(2)

●事前・事後学習の内容

第一回の授業時に、史料を配布する。その史料を自分で読んだ上で、授業に臨むこと。また授業後は読解した内容と講義で説明した知識とを自分で結びつけて、理解を定着させること。

●評価方法

平常点（出席状況と発表内容）

●受講生へのコメント

歴史を研究をする上では多様な知識が必要になること、また手元にある漢和辞典だけでは史料を読むことはできないことを学んでいただければ、と思います。

●参考文献・教材

特になし

授業科目名	科目NO.	LAWHE3305	授業コード	L213140010	
東洋史特講Ⅱ Problems in Oriental History Ⅱ			単位数	2 単位	
授業形態 講義	担当教員名 辻　明日香				

●科目の主題

前近代イスラーム期エジプト社会の変容について、コプト教会の歴史を中心に論じる

●到達目標

多様で多層的な中東社会に関する理解を深める

●授業内容・授業計画

第1回イントロダクション
第2回古代末期エジプトのキリスト教徒(1)
第3回古代末期エジプトのキリスト教徒(2)
第4回アラブのエジプト支配とコプト教会の成立(1)
第5回アラブのエジプト支配とコプト教会の成立(2)
第6回ファーティマ朝下のエジプト社会
第7回改宗と言語交替
第8回政権に仕える人々、教会に仕える人々
第9回十字軍と中東のキリスト教徒(1)
第10回十字軍と中東のキリスト教徒(2)
第11回マムルーク朝下の生存戦略(1)
第12回マムルーク朝下の生存戦略(2)
第13回聖人崇敬のあり方:イスラームとキリスト教、ユダヤ教
第14回現代におけるディアスポラ
第15回定期試験

●事前・事後学習の内容

授業前に西アジア史の流れを復習しておくこと。配布資料は事前に内容を確認し、授業に臨んでください。

●評価方法

試験で評価する。

●受講生へのコメント

中東のキリスト教徒は、2千年ほどの歴史を有し、そのうちの1400年ほど、イスラーム教徒と共存してきました。本講義では、中東のキリスト教徒とはどのような人々で、イスラーム教徒、ひいてはイスラーム文明と歴史的にどのように関わってきたのかということを、エジプトのコプト教会信徒の歴史を中心に見ていきます。また、古代末期にはキリスト教社会であったエジプトがイスラーム社会に変容していった過程を考察します。

●参考文献・教材

テキスト:特になし。参考文献:三代川寛子編『東方キリスト教諸教会:基礎データと研究案内』明石書店、2017年。

授業科目名	科目NO.	LAGEN3302	授業コード	L213150010	
世界史特講 Problems in World History				単位数	2 単位
授業形態 講義	担当教員名 濱本 真実				

●科目の主題

19世紀から20世紀はじめにかけて、アジアの覇権をめぐって大英帝国とロシア帝国は「グレート・ゲーム」と呼ばれる争いを繰り広げた。南下政策をとるロシアと、英領インドとの間にあった中央アジアは、この「グレート・ゲーム」の主要な舞台の一つである。授業では、この対立を背景に中央アジアを訪れた様々な英国人による旅行記を輪読形式で読み、英文史料を正確に読み解く力を養う。また、当時の中央アジアの状況と英露の角逐について理解を深めるとともに、「旅行記」というジャンルの史料の扱い方について学ぶことも目的とする。

●到達目標

英語の史料を正確に読み解くことができる。また、史料批判を意識しながら、史料を読むことができる。

●授業内容・授業計画

第1回 英露の「グレート・ゲーム」についての解説と、本授業で取り上げる英国人による中央アジア旅行記の説明
第2回 1831-1833年にインドから中央アジアのブハラ・アミール国に旅したアレクサンダー・バーンズの旅行記A. Burnes, Travels into Bokhara; being the account of a journey from India to Cabool, Tartary, and Persia, London, 1834など、英国人による19世紀前半の中央アジア旅行記の講読(1)。
第3回 英国人による19世紀前半の中央アジア旅行記の講読(2)
第4回 英国人による19世紀前半の中央アジア旅行記の講読(3)
第5回 英国人による19世紀前半の中央アジア旅行記の講読(4)
第6回 英国人による19世紀前半の中央アジア旅行記の講読(5)
第7回 英国人による19世紀前半の中央アジア旅行記の講読(6)
第8回 1860-70年代に新疆に成立したヤークーブ・ベク政権についての解説
第9回 冒険家であり外交官でもあったロバート・ショウの1871年の新疆南部への旅行記R. B. Shaw, A Visit to High Tartary, Yarkund, and Kashgar, London, 1871 など、英国人による19世紀後半の新疆南部・中央アジア関連記録の講読(1)
第10回 19世紀後半の新疆南部・中央アジア関連記録の講読(2)
第11回 19世紀後半の新疆南部・中央アジア関連記録の講読(3)
第12回 19世紀後半の新疆南部・中央アジア関連記録の講読(4)
第13回 19世紀後半の新疆南部・中央アジア関連記録の講読(5)
第14回 19世紀後半の新疆南部・中央アジア関連記録の講読(6)
第15回 まとめ

●事前・事後学習の内容

第1回 事前学習 グレート・ゲームについて参考文献を読んで疑問点を整理しておく。
第2～7回 事前学習 講読予定の部分を精読して授業に臨む。
第8回 事前学習　ヤークーブ・ベク政権について、参考文献を読んで疑問点を整理しておく。
第9～14回事前学習 講読予定の部分を精読して授業に臨む。
第15回事後学習 授業で講読した旅行記の記述をもとに、史料批判の方法と重要性について考察する。

●評価方法

毎回の授業での輪読で、英語の文章を正確に読み解くことができているかを評価し、レポートを含め総合的に評価する。

●受講生へのコメント

英和辞典を必ず持参すること。

●参考文献・教材

毎回、講読する部分のプリントを配布する。

授業科目名	科目NO.	LAWHW3201	授業コード	L213160010	
西洋史基礎講読 Basic Reading in Western History			単位数	2 単位	
授業形態 演習	担当教員名 前田　充洋				

●科目の主題

近現代ドイツについて、日本語・英語の研究成果を講読します。

●到達目標

英語で書かれた研究書を正確に読み、必要な情報を収集しつつ、内容を論旨に沿って把握できるようになる。

●授業内容・授業計画

Epkenhans, Michael, Tirpitz: Architect of the German High Seas Fleet, Potomac Books, Washington, D. C., 2008を用い、これの輪読を主体としたを講読を実施します。
また、この英語テキストを輪読する前段階として、日本語論文を輪読します（第2回～第4回）。日本語論文については、初回ガイダンス時に提示します。
補足説明や補足資料配布、参考文献の紹介などは、適宜行います。
第1回　ガイダンス(テキストの解説、授業の進め方等について)
第2回　Tirpitz: Architect of the German High Seas Fleetを読むための準備①
第3回　Tirpitz: Architect of the German High Seas Fleetを読むための準備②
第4回　Tirpitz: Architect of the German High Seas Fleetを読むための準備③
第5回　Tirpitz: Architect of the German High Seas Fleetを読む: Chapter 1 Young Tirpitz
第6回　Tirpitz: Architect of the German High Seas Fleetを読む: Chapter 2 An Able and Ambitious Naval Officer (1)
第7回　Tirpitz: Architect of the German High Seas Fleetを読む: Chapter 2 An Able and Ambitious Naval Officer (2)
第8回　Tirpitz: Architect of the German High Seas Fleetを読む: Chapter 3 A Man of New Ideas (1)
第9回　Tirpitz: Architect of the German High Seas Fleetを読む: Chapter 3 A Man of New Ideas (2)
第10回　Tirpitz: Architect of the German High Seas Fleetを読む: Chapter 4 In the Center of Power (1)
第11回　Tirpitz: Architect of the German High Seas Fleetを読む: Chapter 4 In the Center of Power (2)
第12回　Tirpitz: Architect of the German High Seas Fleetを読む: Chapter 5 Failure (1)
第13回　Tirpitz: Architect of the German High Seas Fleetを読む: Chapter 5 Failure (2)
第14回　Tirpitz: Architect of the German High Seas Fleetを読む: Chapter 6 Grey Excellence
第15回　Tirpitz: Architect of the German High Seas Fleetを読む: Chapter 7 Aftermath
★注:進め方やスピードは、受講者に応じて変更する可能性があります。

●事前・事後学習の内容

毎回のテキストの講読範囲および担当箇所を指定するので、各自読み進め、日本語訳を作成してきてください。
また事後には、自分が作成した日本語訳を修正して復習をするとともに、必要があれば授業で紹介した他の文献や論文を参照し、理解をより深めることを心がけてください。

●評価方法

平常点　60点
レポート　40点(内容については授業中に提示します)

●受講生へのコメント

この授業では、毎回受講者全員が各自の担当箇所を日本語に訳することになります。そのため、予習は必須です。
予習の際、担当箇所のみを読んで訳すだけでなく、担当以外の箇所も必ず目を通すようにしてください。

●参考文献・教材

主要テキスト：Epkenhans, Michael, Tirpitz: Architect of the German High Seas Fleet, Potomac Books, Washington, D. C., 2008.

また、日本語論文については、初回にコピーを配布します。

授業科目名	科目NO.	LAWHW3202	授業コード	L213170010	
西洋史通論 Outline of Western History			単位数	2 単位	
授業形態 講義	担当教員名 北村　昌史				

●科目の主題

19世紀ドイツおよびハプスブルク帝国史の概説。

●到達目標

近現代ドイツ史・ハプスブルク帝国史の基本的事実を学ぶとともに、歴史研究の基本的スタンスを学ぶ。

●授業内容・授業計画

19世紀ドイツとハプスブルク帝国の歴史を、それぞれの国単位ではなく、相互の関係や周囲との関係からとらえなおす。新型コロナウイル氏の流行状況によって、授業の形態（対面か遠隔）や受講方法については授業開始時点にWebClassを通じて指示する。

授業計画

第1回　ガイダンス
第2回　近世までのドイツ史
第3回　ポーランド分割と神聖ローマ帝国の解体
第4回　19世紀初頭の改革
第5回　19世紀前半の社会変動：工業化の開始と鉄道建設
第6回　1848年革命
第7回　革命後の社会
第8回　オーストリア・ハンガリー帝国の誕生（1867年）
第9回　ドイツ帝国の成立（1871年）
第10回　第1次世界大戦に至る変動
第11回　第1次世界大戦の影響：社会国家の誕生
第12回　都市化による社会の変化（ライフラインの整備）
第13回　20世紀ドイツ史
第14回　比較の試み：イギリス史とフランス史
第15回　まとめ

●事前・事後学習の内容

事前学習としては参考文献の該当箇所を通読して授業に臨む。事後学習としては授業中に指示した参考文献を図書館や書店でふれ、可能ならば、通読する。

●評価方法

定期試験100％。ただし、新型コロナウイルスの流行状況によっては、「レポート100％」へ変更することもありえる。

●受講生へのコメント

高校までの「歴史」や「世界史」とは異なる観点で授業をおこなう。高校の「世界史」の知識は不十分でも構わない。

●参考文献・教材

教科書：南直人、谷口健治、北村昌史、進藤修一編著『はじめて学ぶドイツの歴史と文化』ミネルヴァ書房、2020年。参考文献としては、小山哲ほか編『大学で学ぶ西洋史　近現代史編』ミネルヴァ書房のほか、授業で適宜指示する。

授業科目名	科目NO.	LAWHW3203	授業コード	L213180010	
西洋史講読Ⅰ Reading in Western History Ⅰ			単位数	2 単位	
授業形態 演習	担当教員名 北村　昌史				

●科目の主題

ドイツ語で書かれた研究書や史料を読み込むドイツ語力を身に着ける。

●到達目標

ドイツ語の文章を正確に読む訓練をする。

●授業内容・授業計画

Volker Wieprecht/Robert Skuppin, Berliner populäre Irrtümer: Ein Lexikon, 2007を講読する。ベルリンの様々な事象を歴史的背景と交えつつ、平明に述べた本書からいくつかの項目をピックアップして精読する。例として授業計画の各回にそうした項目を記しておくが、実際の授業ではそれにこだわらない。

第1回 ガイダンス
第2回 ドイツ語の講読（カリーヴルスト）
第3回 ドイツ語の講読（アンペルマン）
第4回 ドイツ語の講読（ケバブ）
第5回 ドイツ語の講読（天気）
第6回 ドイツ語の講読（テンペルホーフ空港）
第7回 ドイツ語の講読（ヴィルマーズドルフの未亡人）
第8回 ドイツ語の講読（ワイン製造）
第9回 ドイツ語の講読（飲み屋の閉店時間）
第10回 ドイツ語の講読（自転車レーン）
第11回 ドイツ語の講読（ベルリンの壁）
第12回 ドイツ語の講読（ミルク売りの女性の算術法）
第13回 ドイツ語の講読（モスクワ時間）
第14回 ドイツ語の講読（揚げドーナツ）
第15回ドイツ語の講読（ベルリンの起源）

●事前・事後学習の内容

事前学習については、1回に2頁程度進むが、予習すること。その際に、自分なりの訳を思い描いておくようにする。事後学習については、ドイツ語の復習をするとともに、必要に応じて、文献やインターネットで歴史的事実について確認する。

●評価方法

平常点：100％

●受講生へのコメント

誰がどこにあたるかあらかじめわからないようにして授業を進める。予習は必須。CD教材もあるので適宜聞いていただく。

●参考文献・教材

Volker Wieprecht/Robert Skuppin, Berliner populäre Irrtümer: Ein Lexikon, 2007. テキストのコピーを配布する。

授業科目名	科目NO.	LAWHW3301	授業コード	L213190010	
西洋史講読Ⅱ Reading in Western HistoryⅡ			単位数	2 単位	
授業形態 演習	担当教員名 北村　昌史				

●科目の主題

ドイツ語で書かれた歴史研究の論文を講読する。

●到達目標

ドイツ語を正確に読めるようになるとともに、外国語文献をその背景まで立ち入って読み込む力を取得する。

●授業内容・授業計画

テキスト未定。ドイツ語の論文をただひたすら読む。

第1回　ガイダンス
第2回　ドイツ語の講読
第3回　ドイツ語の講読
第4回　ドイツ語の講読
第5回　ドイツ語の講読
第6回　ドイツ語の講読
第7回　ドイツ語の講読
第8回　ドイツ語の講読
第9回　ドイツ語の講読
第10回　ドイツ語の講読
第11回　ドイツ語の講読
第12回　ドイツ語の講読
第13回　ドイツ語の講読
第14回　ドイツ語の講読
第15回　ドイツ語の講読

●事前・事後学習の内容

事前学習については、1回に2～3頁進むが、予習すること。その際に、自分なりの訳を思い描いておくようにする。事後学習については、ドイツ語の復習をすること。

●評価方法

平常点：100％。

●受講生へのコメント

「西洋史講読Ⅰ」を履修していることが望ましい。誰がどこにあたるかあらかじめわからないようにして授業を進める。予習は必須。

●参考文献・教材

テキストは、ガイダンスの際に配布。参考書や辞書などは適宜指示する。

授業科目名	科目NO.	LAWHW3204	授業コード	L213200010	
西洋史講読Ⅲ Reading in Western HistoryⅢ			単位数	2 単位	
授業形態 演習	担当教員名 向井　伸哉				

●科目の主題

西洋史関係のフランス語テクストの講読し、卒業論文作成に必要な仏語研究文献の読解力を養う科目である。

●到達目標

学生が、仏和辞典や歴史事典を使いこなし、フランス語で歴史学の研究文献を読みこなすことができるようになる。

●授業内容・授業計画

アルベール・バボ著『旧体制下の村落』(Albert Babeau, Le village sous l'ancien regime, Paris, 1878)の講読を通じて、フランス語読解の基礎を習得しつつ、中近世フランスの農村というミクロな世界で営まれていた政治と行政について学ぶ。「序論」ならびに「第一巻　第一章　村落共同体」の箇所を読み進めていく。

第1回　授業の進め方についての説明
第2回　Babeau, Le village, pp. i-ii.
第3回　Babeau, Le village, pp. iii-iv.
第4回　Babeau, Le village, pp. v-vi.
第5回　Babeau, Le village, pp. vii-1.
第6回　Babeau, Le village, pp. 2-3.
第7回　Babeau, Le village, pp. 4-5.
第8回　Babeau, Le village, pp. 6-7.
第9回　Babeau, Le village, pp. 8-9.
第10回　Babeau, Le village, pp. 10-11.
第11回　Babeau, Le village, pp. 12-13.
第12回　Babeau, Le village, pp. 14-15.
第13回　Babeau, Le village, pp. 16-17.
第14回　Babeau, Le village, pp. 18-19.
第15回　訳出した章の総括

●事前・事後学習の内容

テクスト本文については、仏和辞典を参照して、毎回全員が、日本語訳を作ってくる。日本語訳は、手書きのノートあるいはワードファイルを印刷したものを持参すること。重要語句については、歴史事典や参考文献等を参照して、予習しておく。

●評価方法

「日本語訳の提出」など授業への参加態度(100%)
最終三回分の日本語訳の精度によって、到達目標の達成度を評価する。
仏和辞典や歴史事典を使いこなし、フランス語で歴史学の研究文献を読みこなすことができるようになることが合格(単位修得)のための最低基準となる。

●受講生へのコメント

この科目は、来年度の「西洋史講読IV」と合わせて受講することが望ましい。

●参考文献・教材

テクスト:Albert Babeau, Le village sous l'ancien regime, Paris, 1878.　＊初回時に配布。
仏和辞典:『小学館ロベール仏和大辞典』、小学館、1988年。
歴史事典:Lucien Bely, dir., Dictionnaire de l'Ancien Regime, Paris, 1996.
参考文献:柴田三千雄、樺山紘一、福井憲彦編『世界歴史大系　フランス史』、全三巻、山川出版社、1995-1996年。

授業科目名	科目NO.	LAWHW3302	授業コード	L213210010	
西洋史講読Ⅳ Reading in Western HistoryⅣ			単位数	2 単位	
授業形態 演習	担当教員名 向井　伸哉				

●科目の主題

西洋史関係のフランス語テクストを講読し、卒業論文作成に必要な仏語研究文献の読解力を強化する科目である。

●到達目標

学生が、仏和辞典や歴史事典を使いこなし、フランス語で歴史学の研究文献をスピーディーに読みこなすことができるようになる。

●授業内容・授業計画

アルベール・バボ著『旧体制下の村落』(Albert Babeau, Le village sous l'ancien regime, Paris, 1878)の講読を通じて、フランス語読解の基礎を習得しつつ、中近世フランスの農村というミクロな世界で営まれていた政治と行政について学ぶ。「第一巻　第二章　住民集会」の箇所を読み進めていく。

第1回　授業の進め方についての説明
第2回　Babeau, Le village, pp. 20-21.
第3回　Babeau, Le village, pp. 22-23.
第4回　Babeau, Le village, pp. 24-25.
第5回　Babeau, Le village, pp. 26-27.
第6回　Babeau, Le village, pp. 28-29.
第7回　Babeau, Le village, pp. 30-31.
第8回　Babeau, Le village, pp. 32-33.
第9回　Babeau, Le village, pp. 34-35.
第10回　Babeau, Le village, pp. 36-37.
第11回　Babeau, Le village, pp. 38-39.
第12回　Babeau, Le village, pp. 40-41.
第13回　Babeau, Le village, pp. 42-43.
第14回　Babeau, Le village, pp. 44. +その他。
第15回　訳出した章の総括

●事前・事後学習の内容

テクスト本文については、仏和辞典を参照して、毎回全員が、日本語訳を作ってくる。日本語訳は、手書きのノートあるいはワードファイルを印刷したものを持参すること。重要語句については、歴史事典や参考文献等を参照して、予習しておく。

●評価方法

「日本語訳の提出」など授業への参加態度(100%)

最終三回分の日本語訳の精度によって、到達目標の達成度を評価する。

仏和辞典や歴史事典を使いこなし、フランス語で歴史学の研究文献をスピーディーに読みこなすことができるようになることが合格(単位修得)のための最低基準となる。

●受講生へのコメント

「西洋史講読III」を既に履修していることが望ましい。

●参考文献・教材

テクスト:Albert Babeau, Le village sous l'ancien regime, Paris, 1878.　＊初回時に配布。

仏和辞典:『小学館ロベール仏和大辞典』、小学館、1988年。

歴史事典:Lucien Bely, dir., Dictionnaire de l'Ancien Regime, Paris, 1996.

参考文献:柴田三千雄、樺山紘一、福井憲彦編『世界歴史大系　フランス史』、全三巻、山川出版社、1995-1996年。

授業科目名	科目NO.	LAWHW3303	授業コード	L213220010	
西洋史演習Ⅰ Seminar in Western History Ⅰ			単位数	2 単位	
授業形態 演習	担当教員名 草生　久嗣				

●科目の主題

西洋史史料・文献を用いた研究入門。卒業論文執筆入門を兼ねる。

●到達目標

史料や関連二次文献の収集や取り扱いについて学習し理解を深めることで、議論構築の基礎を学習する。自分が担当した史資料の持つ意義や問題点を、明確に指摘できるようになる。

●授業内容・授業計画

専門論文および史料を用いた演習。報告者は担当論文について精読、十分な調査のうえ報告紹介する。その他の参加者は、演習内容の書記、記録編集、議論を行い、その成果を、学期末までに各自が執筆する小論文に結実させる。

第1回 ガイダンス － 西洋史学における調査
第2回 イントロダクション(1)参加者自己紹介、参考資料の確認、教材の確定
第3回 イントロダクション(2)
第4回 イントロダクション(3)
第5回 演習(A－1)キーワード、概念とは
第6回 演習(A－2)専門事典および研究入門書を用いた調査
第7回 演習(A－3)書誌情報と文献目録を用いた調査
第8回 演習(A－4)研究文献目録をつくってみる
第9回 演習(B－1)史料とは
第10回 演習(B－2)史料情報のとらえ方
第11回 演習(B－3)史料一覧をつくってみる
第12回 演習(B－4)小論考執筆ガイダンス
第13回 演習(C－1)小論文のレジュメ
第14回 演習(C-2＝まとめ)小論文の下書き

●事前・事後学習の内容

各自が関心を持った歴史事象についての「文献・史料」を集め、精読し、内容を紹介してもらいます。集め方、精読法、紹介の手順については、授業で説明を行います。

本演習に用いる資料は年度ごとの最新の出版物や論文を用います。

●評価方法

割り当てた作業役割(資料用意、報告、書記、質問、議論)に対する取り組み方をもって評価する。

●受講生へのコメント

自分のアカデミックな関心を大事にし、それに対する自覚を持って参加してください。それぞれの得意とする話題の際には、授業内で随時、助言を求めます。本格的な歴史研究に必要な技術(史料論・史料操作)を段階を踏んで学習する構成になっています。

●参考文献・教材

以下の書物について、閲覧しておく、また学期中閲覧できるようにしておくことが望ましい。

1)勉強法・小論文・読書

・井上浩一著『私もできる西洋史研究 － 仮想(バーチャル)大学に学ぶ』和泉書院、2012年

・山内志朗著『ぎりぎり合格への論文マニュアル』平凡社新書、2001年

・J. モーティマー・アドラー 他著、 外山 滋比古訳、『本を読む本』 講談社学術文庫、1997年

2）西洋史学研究入門

・『論点・西洋史学』ミネルヴァ書房2020年

・○○史研究入門（○○にはいるのは、ドイツ、フランス、アメリカ、イギリス、中世ほか）

3）研究文献目録

・『史学雑誌』各年第5号「回顧と展望」

授業科目名	科目NO.	LAWHW3304	授業コード	L213230010	
西洋史演習Ⅱ Seminar in Western HistoryⅡ			単位数	2 単位	
授業形態 演習	担当教員名 向井　伸哉				

●科目の主題

西欧中近世史に関する研究論文や動向論文を読み、学術論文の構成・作法を学ぶ。くわえて、卒業論文を書く際に必要な学問上の手続きを身につける。

●到達目標

学生が、卒業論文を書く際に必要な学問上の手続きを習得し、研究テーマの選定、文献収集、文献目録の作成、問題設定、論文の構成、先行研究の引用・参照などを自力でできるようになる。

●授業内容・授業計画

西欧中近世史に関する専門論文の講読、および卒業論文作成に向けての基礎的作業を行う。授業を大きく二部に分ける。第一部では、毎回二名が、指定された研究論文や動向論文の要約・論評（重要語句の解説含む）ならびに当該論文のテーマに関する文献目録作成をおこなう。第二部では、毎回二名が、各自の関心に沿った自由研究発表・文献目録作成を行う。加えて、随時、先行研究の引用・参照の仕方を訓練する。期末には、自由研究発表の内容をレポートにまとめて提出してもらう。

第1回　授業の進め方についての説明
第2回　指定論文の要約・論評・文献目録作成×２
第3回　指定論文の要約・論評・文献目録作成×２
第4回　指定論文の要約・論評・文献目録作成×２
第5回　指定論文の要約・論評・文献目録作成×２
第6回　指定論文の要約・論評・文献目録作成×２
第7回　指定論文の要約・論評・文献目録作成×２
第8回　指定論文の要約・論評・文献目録作成×２
第9回　自由研究発表・文献目録作成×２
第10回　自由研究発表・文献目録作成×２
第11回　自由研究発表・文献目録作成×２
第12回　自由研究発表・文献目録作成×２
第13回　自由研究発表・文献目録作成×２
第14回　自由研究発表・文献目録作成×２
第15回　自由研究発表・文献目録作成×２

●事前・事後学習の内容

指定論文の報告者は、十分に準備を行い、A3用紙三～四枚のレジュメと文献目録を用意する。報告者以外の受講生も指定論文を事前に読み込んでくること。自由研究発表の報告者は、十分に準備を行い、A3用紙三～四枚のレジュメと文献目録を用意する。

●評価方法

期末レポート（50％）、「報告・発表」など授業への参加態度（50％）
期末レポートによって、到達目標の達成度を評価する。
研究テーマの選定、文献収集、文献目録の作成、問題設定、論文の構成、先行研究の引用・参照などを自力でできるようになることが合格（単位修得）のための最低基準となる。

●受講生へのコメント

任意のテーマを設定し、関連するデータを収集し、特定の観点（問題設定）から整理し、論理的な構成で、定められた形式に則って、明快に文章で表現する「技術」を身につけましょう。

●参考文献・教材

教材：指定論文は、教員がPDFで配布し、受講生各自で印刷してもらう。

授業科目名	科目NO.	LAWHW3305	授業コード	L213240010	
西洋史演習Ⅲ Seminar in Western HistoryⅢ			単位数	2 単位	
授業形態 演習	担当教員名 北村　昌史				

●科目の主題

西洋史をめぐる諸問題。英語文献の輪読をおこなう。

●到達目標

近現代史に関する英語論文あるいは研究書を読み、英語文献を読み込む力を身につける。この作業を通じて卒業論文を作成するための基本的な文献読解力や議論を展開する能力を取得する。

●授業内容・授業計画

ひたすら英語論文の講読。

第1回 ガイダンス
第2回 英語文献の講読
第3回 英語文献の講読
第4回 英語文献の講読
第5回 英語文献の講読
第6回 英語文献の講読
第7回 英語文献の講読
第8回 英語文献の講読
第9回 英語文献の講読
第10回 英語文献の講読
第11回 英語文献の講読
第12回 英語文献の講読
第13回 英語文献の講読
第14回 英語文献の講読
第15回英語文献の講読

●事前・事後学習の内容

英語講読は1回に2～3頁進むが、予習すること。その際に、自分なりの訳を思い描いておくようにする。事後学習については、全体を通じて、必要に応じて、文献やインターネットで歴史的事実について確認し、英語の復習をすること。

●評価方法

平常点:100%。

●受講生へのコメント

英語文献の講読は、誰にあたるかあらかじめわからない方法で行う。予習は必須。

●参考文献・教材

未定。

授業科目名	科目NO.	LAWHW3306	授業コード	L213250010	
西洋史特講Ⅰ Problems in Western History Ⅰ			単位数	2 単位	
授業形態 講義	担当教員名 図師　宣忠				

●科目の主題

中世ヨーロッパにおける紛争と裁判

●到達目標

①歴史的な知識の習得：中世ヨーロッパ社会の歴史過程について基本的な知識を習得する。

②歴史学的なまなざしの獲得：歴史的な史料の性質を踏まえて、そこから読み取れる内容について判断できるようになるとともに、歴史を学ぶ意味について考えを深める。

③法的思考の涵養：法の根本的な価値や考え方を理解し、社会的判断力を培う。

●授業内容・授業計画

本授業については基本対面を予定しているが、状況によって遠隔に切り替える場合がある。

第1回　イントロダクション：中世とは何か？
第2回　中世における記憶と記録
第3回　紛争のなかのヨーロッパ中世
第4回　紛争と紛争解決1：神判・宣誓・決闘裁判
第5回　紛争と紛争解決2：フェーデと神の平和
第6回　紛争と紛争解決3：中世都市と暴力
第7回　中世におけるキリスト教と異端
第8回　異端審問と権力1：異端審問とは何か？
第9回　異端審問と権力2：審問記録の作成・保管・利用
第10回　ジャンヌ・ダルク裁判1：ジャンヌ・ダルクとその時代
第11回　ジャンヌ・ダルク裁判2：審問記録を読む
第12回　近世への展望1：国王裁判と恩赦嘆願
第13回　近世への展望2：魔女裁判と拷問による自白
第14回　まとめ：中世史とは何か？

●事前・事後学習の内容

事前学習：授業前に、次回の講義に関する資料を本授業のWebサイトに掲出する。あらかじめ内容を確認しておくこと。

事後学習：授業後に、講義内容について小レポートを課す。授業内容を振り返り、講義の要点をまとめておくこと。

●評価方法

レポート 70%

授業中の課題 30%

●受講生へのコメント

この講義では、中世ヨーロッパの紛争や裁判に関するトピックを取り上げて、「メディアとコミュニケーション」という観点を通じて具体的に検討していく。現代の日本社会との比較を通じて、過去の社会のあり方について理解を深めたい。過去のヨーロッパ社会を生きた人々は、日常的な争いや諍いにどのように対処していたのだろうか。紛争と紛争解決のあり方は、その時代の社会の構造や人々の価値観を映し出す。紛争の記録や裁判記録など関連する史料を読み解きながら、当時の社会について学んでいくとともに、それによって私たちの当たり前に受け取っている現代社会のありようを見つめ直すきっかけをもちたい。

●参考文献・教材

必要に応じて資料を配布する。授業の各トピックに関する参考文献は授業中に提示するが、さしあたり次の文献を参照。

参考書：上垣豊編『はじめて学ぶフランスの歴史と文化』ミネルヴァ書房、2020年

授業科目名	科目NO.	LBSOC3201	授業コード	L221010010	
社会学概論 I Introduction to Sociology I			単位数	2 単位	
授業形態 講義	担当教員名 進藤 雄三				

●科目の主題

社会学の基礎概念、分析方法、および個別分野における代表的な諸学説を概説する。

●到達目標

社会学という学問の特徴、その方法と対象に関する概観を獲得し、個別領域における知見を学習するとともに、社会学的思考法の習得を目指す。

●授業内容・授業計画

授業形式は「遠隔授業」で行います。講義は、以下の授業計画にそって進めます。

第1回　　オリエンテーション
第2回　社会学の基礎概念：行為、相互行為、地位―役割、組織、制度、全体社会
第3回　　分析の範例1：行為論的視点（M.Weber）
第4回　　分析の範例2：相互作用論的視点（G.Simmel）
第5回　　分析の範例3：全体論的視点（E.Duekheim）
第6回　　現代的範例：予言の自己成就、ラベリング論、世界システム論
第7回　　範例の含意：意図せざる結果、構造と行為
第8回　　家族社会学
第9回　　医療社会学
第10回　　教育社会学
第11回　　メディア社会学
第12回　　逸脱・社会問題の社会学
第13回　　ジェンダーの社会学
第14回　　階層の社会学
第15回　　試験

●事前・事後学習の内容

事前学習：特段の事前学習は要請しません。事後学習：講義内容の理解に、プリント、および講義内での前回の復習を活用して下さい。

●評価方法

授業参加度10、コメント20、小レポート20　試験あるいはレポート50、総合100点満点で評価します。

●受講生へのコメント

能動的な参加を期待します。コメントは評価対象となります。講義を関心の糸口するように受講してください。

●参考文献・教材

教科書：特に指定しません。

参考書：進藤他著『社会学』医学書院(2012)。盛山他編『社会学入門』ミネルヴァ書房(2017)その他、随時紹介します。

授業科目名	科目NO.	LBSOC3202	授業コード	L221020010	
社会学概論Ⅱ Introduction to Sociology Ⅱ				単位数	2 単位
授業形態 講義	担当教員名 石田　佐恵子				

●科目の主題

主たるテーマ「グローバル化時代の社会学的課題」

●到達目標

社会学概論は、社会学のさまざまな概念、キーワードを紹介し、社会学的な考え方と方法への理解を深めることを目的とする。
社会学概論Ⅱでは、特にグローバル化時代における新しい社会学的課題を念頭に置いて、新型コロナウィルス感染流行とともに生きる時代をも視野に入れ、社会学的発想法について、短いレポート作成やグループディスカッションを通じて学ぶ。

●授業内容・授業計画

社会学の基本的性格について、特に「是非を考える」「根本から考える」「メディアから考える」など、さまざまなトピックスから概説する。受講生は、講義時に出題される短いレポート(ブリーフレポート)を各回作成する。

第1回　ガイダンス
第2回　トピックについての概念理解とブリーフレポート作成(1)
第3回　トピックについての概念理解とブリーフレポート作成(2)
第4回　トピックについての概念理解とブリーフレポート作成(3)
第5回　トピックについてグループディスカッション(1)
第6回　トピックについての概念理解とブリーフレポート作成(4)
第7回　トピックについてグループディスカッション(2)
第8回　トピックについての概念理解とブリーフレポート作成(5)
第9回　中間評価と講評
第10回　トピックについてグループディスカッション(3)
第11回　トピックについての概念理解とブリーフレポート作成(6)
第12回　トピックについてグループディスカッション(4)
第13回　トピックについての概念理解とブリーフレポート作成(7)
第14回　トピックについてグループディスカッション(5)
第15回　授業のまとめと評価

●事前・事後学習の内容

受講生には、毎回の教科書該当章の予習、復習、インターネットの積極的な活用など、熱心な参加を求める。
事前学習：教科書の該当章をよく読み、ノートを作成すること。
事後学習：当日ブリーフレポートの自己評価、ディスカッションの振り返り学習が必須である。

●評価方法

講義時には毎回の当日ブリーフレポート、またはディスカッション報告を作成する。
参加と態度、平常点全体で評価する。最終回には、自己評価書の作成も行う。

●受講生へのコメント

社会学概論Ⅰを受講済みであることが望ましい。
毎回のレポート採点、ディスカッションを行う形式の授業であるため、60名程度の履修制限を行うことがある。第1回授業には必ず参加すること。

＊特記事項＊

この授業は、遠隔（双方向型）で実施する。インターネット環境、レポート作成可能なパソコン、ディスカッションに参加するカメラとマイクが必要である。

●参考文献・教材

教科書：開講時に指示する。

参考書：随時紹介する。

授業科目名	科目NO.	LBSOC3204	授業コード	L221040010	
社会学史Ⅱ History of SociologyⅡ				単位数	2 単位
授業形態 講義	担当教員名 進藤　雄三				

●科目の主題

「すべての歴史は現代史である」との観点から、社会学史の中から、何が現代の社会学にとって枢要な課題・対象であるのか提示する。

社会学史の伝統の中から抽出された根本課題を素材に、社会学史における諸見解を配置することが本講義の主題である。

●到達目標

以下の3項目を講義の到達目標とする。

1）社会学の歴史において、何が重要な問題として提起され、研究され、現在に至っているのかを理解する。

2）また、その問題自体が、どのような経緯・変遷を経て現在に至っているのかを理解する。

3）その上で、現代の問題に対し、どのような処方が可能であるのかについての知見を習得する。

●授業内容・授業計画

授業形態は、「対面」で行います。講義は、以下15回の授業計画にしたがって進めます。

第1講　オリエンテーション

第2講　1）ミクロ：自己、他者、社会

1　私とは何か：問い自体の問題

2　「私」を現在においてどのように問うか：社会学的問題設定

3　現代的文脈理解のキーワード：個人化

第3講　2）メゾ：家族、教育、労働市場

1　家族、教育、労働市場をとらえる視点

2　現代的関心の契機：個人化」論のリバイバル(1980s～)

3　何が起きているのか？

第4講　3）マクロ：グローバリゼーション・インパクト

1　現代という時代のキーワード：　グローバリゼーション

2　現代をとらえる視点：グローバリゼーション・インパクト』解題

3　Back to the Future

第5講　現代社会論への視角：資本主義の現在

1　資本主義とは何か

2　資本主義システムの現代像

3　現代社会をとらえる視点

第6講　メディア・インパクト

1　現代社会のメルクマール

2　現代社会におけるメディア論

3　メディア・インパクト

第7講　格差社会の背景

1　なぜ「格差社会」なのか

2　「格差社会」論の論点

3　格差社会論の学術的系譜

第8講　福祉国家の現在とその背景（小レポート1）

1 なぜ福祉国家か
2 福祉国家の起源
3 福祉国家をどうとらえるか
4 現在の争点のパラドクス
第9講 エスニシティ、ジェンダー、年齢
1 なぜこの三つか
2 ジェンダー論の系譜
3 エスニシティ論の系譜
4 エイジング論の系譜
5 「社会」の構築性根拠:「他者」の発見
第10講 ケア論と正義論
1 なぜケア論なのか
2 正義論の概要
3 ケア論の概要
4 再度、なぜケア論、正義論なのか
第11講 社会学的認識を問う:科学哲学と科学社会学(小レポート2)
1 社会学史における社会学的認識
2 科学哲学の系譜
3 現代社会の科学的認識とは何か?
4「近代社会」論再考
第12講 日常性の社会学
1「日常性の社会学」の誕生
2 社会的リアリティのとらえ方
3 日常性の社会学と認識論的転換の融合?
4 日常性の社会学
第13講 アイデンティティ
1 アイデンティティとは何か?
2 現代的文脈
3 社会学的解釈
4 個人化とアイデンティティ
第14講 社会学の問い
1 ミクロとマクロ:個人と社会
2 現代社会理解のキーワード
3 属性カテゴリーの復権?
第15講 0121 Coda: Last Class
個人と社会:ジンメルとデュルケムの着想
近代社会の構造的問題:自由・平等・友愛、民主主義と全体主義

●事前・事後学習の内容

事前学習:特段の事前学習は要請しない。

事後学習:講義後、プリント・資料などによりつつ、適宜検索などで理解を確認しておくこと。各講義の冒頭で各講義の復習時間を取るので、それを活用して欲しい。

●評価方法

授業の参加度10、コメント20、小レポート(2回)20、期末レポート50の100点満点で評価する。コメントは評価対象となることに留意。

●受講生へのコメント

小レポートを2回、および期末レポート1回を課します。毎回の講義後コメントを要請しますが、評価対象となることに留意しておいてください。講義を、レポー作成のテーマを意識しつつ聴講してください。

●参考文献・教材

特段の教科書は使用せず、配布プリントに基づいて講義をします。各回の講義で、随時関連文献を紹介します。

授業科目名	科目NO.	LBSOC3205	授業コード	L221050010	
社会学研究法Ⅰ Methods of Sociological Studies Ⅰ			単位数	2 単位	
授業形態 講義	担当教員名 櫻田　和也				

●科目の主題

社会学の目的は社会現象の解明にあるから、社会学の研究は、まずは現実の社会を知ることから始めなければならない。そのための方法が「社会調査」である。社会調査の方法には大別して量的方法と質的方法がある。本講義ではいずれの方法も扱うが、特に社会調査の歴史、社会調査の目的、社会調査の方法論などの社会調査の基礎的な事項について講義する。

●到達目標

社会学における社会調査の意義と、さまざまな社会調査法に関する基本的事項の習得を目標とする。

●授業内容・授業計画

本講義は、遠隔で行う。
おおむね以下のスケジュールで講義を行う。
第1回　ガイダンス
第2回　社会調査の意義と役割
第3回　社会調査の歴史（欧米と日本）
第4回　社会調査の種類
第5回　量的調査と質的調査
第6回　量的調査のプロセス
第7回　調査票の作成・ワーディング
第8回　サンプリング
第9回　インタビュー調査
第10回　参与観察
第11回　ライフヒストリー調査
第12回　二次データ・歴史資料の分析
第13回　世論調査・市場調査
第14回　調査・研究倫理について
第15回　試験
※状況に応じて順序を変更する場合がある。

●事前・事後学習の内容

事前学習　図書館で参考図書等に随時目を通すおくこと。
事後学習　授業で配布したプリントの内容を復習すること。
（オンライン教材で随時クイズ等を課す可能性がある。）

●評価方法

期末試験（100％）
ただしオンライン教材への取組みを加味することがある。

●受講生へのコメント

本講義は、社会調査士資格認定A科目である。社会学コース生は、必ず前期開講の「社会学研究法Ⅰ」（前期開講※調査士A科目）と「社会調査法」（後期開講※調査士B科目）を通年で履修すること。

●参考文献・教材

参考書：江口英一編，1990，『日本社会調査の水脈』法律文化社.
参考書：林知己夫，[2002] 2017，『社会調査ハンドブック』新装版，朝倉書店.

参考書:杉原薫・玉井金吾, [1986] 2008,『大阪・大正・スラム』増補版, 新評論.

授業科目名	科目NO.	LBSOC3206	授業コード	L221060010	
社会学研究法Ⅱ Methods of Sociological Studies Ⅱ			単位数	2 単位	
授業形態 講義	担当教員名 伊地知　紀子				

●科目の主題

質的調査の歴史、目的、方法論等を学ぶ。

●到達目標

本講義では、質的調査の特徴を理解し、フィールドワーク、参与観察、インタビュー等さまざまな調査方法の基本的知識を習得すること。

●授業内容・授業計画

本講義は遠隔にて実施する。

下記スケジュールで講義を行う。

第1回 ガイダンス
第2回 質的調査とは
第3回 質的調査とは
第4回 調査技法と分析
第5回 調査技法と分析
第6回 調査技法と分析
第7回 調査技法と分析
第8回 調査技法と分析
第9回 調査のプロセス
第10回 グループワーク
第11回 グループワーク
第12回 グループワーク
第13回 グループ報告
第14回 グループ報告
第15回まとめ

●事前・事後学習の内容

授業外で、事前・事後の作業が発生することがあります。グループワークを行うため、積極性ある授業参加を求めます。

●評価方法

平常点（授業参加度・提出物）と期末レポートで評価します。

●受講生へのコメント

本講義は、 社会調査士資格認定F科目である。 社会学コース生は、 必ず前期開講の「社会学研究法II」（調査士A科目）と「社会調査法」（調査士B科目）を履修すること。 社会調査士資格を申請予定の学生（主に社会学コースの学生）は、 篠原清夫ほか, 2010,『社会調査の基礎』弘文堂を購入しておくこと。

●参考文献・教材

授業内に提示。

授業科目名	科目NO.	LBSOC3301	授業コード	L221070020	
社会学実習Ⅰ b Practice in Sociology Ⅰ				単位数	2 単位
授業形態 実習	担当教員名 川野　英二				

●科目の主題

社会学実習Ⅰ・Ⅱでは、「大阪大都市圏の社会的紐帯と近隣関係」というテーマで、大阪大都市圏の住民を対象に大規模な質問紙調査をする。

●到達目標

本授業では、量的な調査の企画、設計、実査、集計、分析の一連の作業過程を、じっさいの大規模社会調査の実施にあわせて実際に身につけることを目的とする。調査によって収集したデータは、統計ソフトを用いて多変量解析を行ない、最終的に報告書を完成させる。前期では、調査計画の検討から始め、先行研究の検討と既存データの分析をつうじて分析方法をあらかじめ学ぶ。さらに、調査票を検討・作成し、標本抽出を行ない、後期の実査の準備を行なう。

●授業内容・授業計画

この授業は可能であれば対面で行なうが、必要に応じて随時遠隔（標準手順：同時双方向）により実施する。
遠隔の場合、授業はTeamsのクラスとZoomをもちいて行なうので、つねに良好な接続環境で受講することが望ましい。
WebClassでの受講にあたっては、WebClassのコース「学生向け遠隔講義入門」の「受講方法」を参照し、受講の準備および当日の受講を行うこと。
・調査のテーマ：大阪大都市圏住民の社会的紐帯と近隣関係
・調査概要：大阪都市雇用圏内の自治体から対象地区（町丁目）100地点を確率比例抽出し、住民基本台帳から系統抽出によって一地点約60名を抽出し、郵送配布・郵送回収を行なう（回収率約50%、3,000名を予定）。近隣関係、家族関係、仕事関係、社会意識など多様な調査項目をもちいて、さまざまな観点からの分析を行ない、報告書を執筆する。
・調査の範囲/対象：大阪大都市圏（大阪都市雇用圏）の20歳以上の男女約3,000名
・主な調査項目：年齢、性別、職業、所得、近隣関係、生育歴、健康状態、ソーシャル・キャピタル、集合的効力、社会意識など。
・データ収集(現地調査)の方法：層化多段抽出法による無作為抽出によって対象者を抽出。郵送配布・郵送回収を予定。
1　調査計画の検討
2　調査計画の検討
3　先行研究の検討と既存データの分析
4　先行研究の検討と既存データの分析
5　先行研究の検討と既存データの分析
6　先行研究の検討と既存データの分析
7　調査票の検討
8　調査票の検討
9　調査票の作成
10　調査票の作成
11　標本抽出計画の検討
12　標本抽出計画の検討
13　標本抽出作業
14　標本抽出作業

15　標本抽出作業

●事前・事後学習の内容

事前学習:事前に課題図書・文献を読む。

事後学習:指定された課題をおこなう。

●評価方法

課題報告・提出(40%)・報告書執筆(60%)

●受講生へのコメント

本授業は社会調査士科目Gに該当する。前期と後期はセットで認定されているので、同じ教員の科目を履修登録するこ と。

また授業外・ 夏休みの期間も作業が必要であり、実習生の協力と積極的な参加が不可欠である。

他の実習生や住民に迷惑のかからないように真剣な態度で授業に臨むことが求められる。

前期は「社会学データ解析法」を同時に履修して、社会調査法とデータ解析を総合的に学ぶことが望ましい。

●参考文献・教材

授業中に指示する。

授業科目名	科目NO.	LBSOC3302	授業コード	L221080020	
社会学実習Ⅱ b Practice in Sociology Ⅱ			単位数	2 単位	
授業形態 実習	担当教員名 川野　英二				

●科目の主題

社会学実習Ⅰ・Ⅱでは、「大阪大都市圏の社会的紐帯と近隣関係」というテーマで、大阪大都市圏の住民を対象に大規模な質問紙調査をする。

●到達目標

本授業では、量的な調査の企画、設計、実査、集計、分析の一連の作業過程を、じっさいの大規模社会調査の実施にあわせて実際に身につけることを目的とする。調査によって収集したデータは、統計ソフトを用いて多変量解析を行ない、最終的に報告書を完成させる。前期では、調査計画の検討から始め、先行研究の検討と既存データの分析をつうじて分析方法をあらかじめ学ぶ。さらに、調査票を検討・作成し、標本抽出を行ない、後期の実査の準備を行なう。

●授業内容・授業計画

この授業は可能であれば対面で行なうが、必要に応じて随時遠隔（標準手順：同時双方向）により実施する。
遠隔の場合、授業はTeamsのクラスとZoomをもちいて行なうので、つねに良好な接続環境で受講することが望ましい。
WebClassでの受講にあたっては、WebClassのコース「学生向け遠隔講義入門」の「受講方法」を参照し、受講の準備および当日の受講を行うこと。
・調査のテーマ：大阪大都市圏住民の社会的紐帯と近隣関係
・調査概要：大阪都市雇用圏内の自治体から対象地区（町丁目）100地点を確率比例抽出し、住民基本台帳から系統抽出によって一地点約60名を抽出し、郵送配布・郵送回収を行なう（回収率約50%、3,000名を予定）。近隣関係、家族関係、仕事関係、社会意識など多様な調査項目をもちいて、さまざまな観点からの分析を行ない、報告書を執筆する。
・調査の範囲/対象：大阪大都市圏（大阪都市雇用圏）の20歳以上の男女約3,000名
・主な調査項目：年齢、性別、職業、所得、近隣関係、生育歴、健康状態、ソーシャル・キャピタル、集合的効力、社会意識など。
・データ収集(現地調査)の方法：層化多段抽出法による無作為抽出によって対象者を抽出。郵送配布・郵送回収を予定。
1　実査
2　実査
3　実査
4　実査
5　クリーニング
6　クリーニング
7　クリーニング
8　集計作業
9　集計作業
10　分析
11　分析
12　分析
13　報告書原稿執筆
14　報告書原稿執筆

15　報告書原稿執筆

●事前・事後学習の内容

事前学習:事前に課題図書・文献を読む。

事後学習:指定された課題をおこなう。

●評価方法

課題報告・提出(40%)・報告書執筆(60%)

●受講生へのコメント

本授業は社会調査士科目Gに該当する。前期と後期はセットで認定されているので、同じ教員の科目を履修登録するこ と。

また授業外・ 夏休みの期間も作業が必要であり、実習生の協力と積極的な参加が不可欠である。

他の実習生や住民に迷惑のかからないように真剣な態度で授業に臨むことが求められる。

●参考文献・教材

授業時に随時紹介する。

授業科目名	科目NO.	LBSOC3207	授業コード	L221090010	
社会学基礎演習 a Basic Seminar in Sociology			単位数	2 単位	
授業形態 演習	担当教員名 石田 佐恵子				

●科目の主題

社会学の基本文献をテキストに用いて、 社会学の基礎を習得する。 社会学では、どのような「問い」を立てるのか。 社会学では、どのようなものの見方、 考え方をするのか。 社会学の理論と方法にはどのようなものがあるのか。 社会 学によって分かること、 社会学することの意味を深く探求することが基礎演習の目的である。

●到達目標

社会学の文献を探し出す方法、 文献の読み方、 読書ノートの取り方、 演習での発表と議論のしかた、 レジュメの 作成方法、 レポートの書き方などを学ぶ。

●授業内容・授業計画

共通したテキストを購読し、毎回の報告とディスカッションを通して理解を深める。

第1回 オリエンテーション（報告・発表スケジュールの決定）
第2回 インターネットを通じた文献検索方法
第3回 学情センター・ツアー
第4回 社会学の基本文献を読む(1)
第5回 社会学の基本文献を読む(2)
第6回 社会学の基本文献を読む(3)
第7回 社会学の基本文献を読む(4)
第8回 社会学の基本文献を読む(5)
第9回 社会学の基本文献を読む(6)
第10回 社会学の基本文献を読む(7)
第11回 社会学の基本文献を読む(8)
第12回 社会学の基本文献を読む(9)
第13回 社会学の基本文献を読む(10)
第14回 レポートの書き方、引用、文献リストについて
第15回 レポートの作成と提出について

●事前・事後学習の内容

事前学習：報告者はレジュメを用意してくること。報告者以外の参加者は討議に参加する準備を整えてくること。
事後学習：議論となったさまざまな論点について、自分なりのノートを作成し、自らの研究展開に活かす。

●評価方法

発表・報告の内容、平常点（出席と参加度）、学期末レポート

●受講生へのコメント

社会学新2回生を2つのグループに分け、それぞれa組とb組とする。クラス分けは、新年度始めに掲示をするので、必ず確認すること。

＊特記事項＊

この授業は、遠隔（双方型）で実施する可能性がある。遠隔と対面の混在スタイルをとる予定。可能な日には対面で行い、学生同士の交流機会を確保する。

●参考文献・教材

教科書：開講時に指示する。
参考書：随時紹介する。

授業科目名	科目NO.	LBSOC3207	授業コード	L221090020	
社会学基礎演習 b Basic Seminar in Sociology			単位数	2 単位	
授業形態 演習	担当教員名 平山 亮				

●科目の主題

社会学の基本文献をテキストに用いて、社会学の基礎を習得する。社会学はどのような「問い」を立てるのか、社会学はどのようなものの見方、考え方をするのか。社会学の理論と方法にはどのようなものがあるのか。社会学によって分かること、社会学することの意味を深く探求することが基礎演習の目的である。

●到達目標

社会学の文献を探し出す方法、文献の読み方、読書ノートの取り方、演習での発表と議論のしかた、レジュメの作成方法、レポートの書き方を学ぶ。

●授業内容・授業計画

※この授業は対面で行う予定ですが、諸事情を鑑みて遠隔に変わる可能性もあります。

共通したテキストを講読し、毎回の報告とディスカッションを通して理解を深めます。

第01回　オリエンテーション、各回の報告担当者の決定
第02回　文献の調べ方
第03回　文献の読み方(1)議論を分析する
第04回　文献の読み方(2)批判をおこなう
第05回　社会学の基本文献を読む(1)
第06回　社会学の基本文献を読む(2)
第07回　社会学の基本文献を読む(3)
第08回　社会学の基本文献を読む(4)
第09回　社会学の基本文献を読む(5)
第10回　社会学の基本文献を読む(6)
第11回　社会学の基本文献を読む(7)
第12回　社会学の基本文献を読む(8)
第13回　レポートの書き方
第14回　レポートの構想と報告(1)
第15回　レポートの構想と報告(2)

●事前・事後学習の内容

事前学習：報告者はレジュメを用意してくること。報告者以外の参加者は討議に参加する準備を整えてくること。

事後学習：議論となったさまざまな論点について、自分なりのノートを作成し、自らの研究展開に活かす。

●評価方法

報告を含む担当役割の遂行（25%）、議論への貢献（25%）、学期中に課される複数の小レポート（25%）、学期末のレポート（25%）で評価します。

●受講生へのコメント

社会学コース新2回生を2つのグループに分け、それぞれa組とb組とする。クラス分けは新年度始めに掲示をするので、必ず確認すること。

●参考文献・教材

教科書：初回の授業時に参加者と相談のうえ決定します。

参考書：各回の内容に関連する論文や書籍をその都度紹介します。

授業科目名	科目NO.	LBSOC3208	授業コード	L221100010	
社会学演習Ⅰ a Seminar in Sociology Ⅰ			単位数	2 単位	
授業形態 演習	担当教員名 石田　佐恵子				

●科目の主題

2回生向け。メディア文化の社会学演習。メディア文化研究、現代文化の社会学などに関する国内外の最新文献を購読する。

●到達目標

文献を丹念に読み解くことにより、当該領域の基本概念を学ぶ。各自の関心に基づいた文献研究、資料収集を行い、報告と議論をとおして社会学的発想力を身につける。

●授業内容・授業計画

第1回　ガイダンス
第2回　テキストに関する報告とディスカッション（1）
第3回　テキストに関する報告とディスカッション（2）
第4回　テキストに関する報告とディスカッション（3）
第5回　テキストに関する報告とディスカッション（4）
第6回　テキストに関する報告とディスカッション（5）
第7回　テキストに関する報告とディスカッション（6）
第8回　テキストに関する報告とディスカッション（7）
第9回　テキストに関する報告とディスカッション（8）
第10回　テキストに関する報告とディスカッション（9）
第11回　テキストに関する報告とディスカッション（10）
第12回　　受講生による発表（1）
第13回　受講生による発表（2）
第14回　受講生による発表（3）
第15回　レポート作成について

●事前・事後学習の内容

事前学習：報告者は、担当部分に関するレジュメを作成する。参加者は、事前に該当箇所を読んでおく。
事後学習：報告者・参加者ともに、討議過程での論点を整理・確認しておく。

●評価方法

平常点（出席と参加態度）、ミニレポート、学期末レポート

●受講生へのコメント

2回生向け。社会学演習Ⅰには、a組とb組があるので、どちらかを選んで履修すること。
現代文化、メディア文化研究に関心を持つ者、大学院進学を希望する者の受講を歓迎する。
ただし、履修希望者が10名を超えるときには人数調整を行うことがある。

＊特記事項＊

この授業は遠隔（双方向）で行う可能性がある。遠隔と対面の混在のスタイルをとる予定。可能な日には対面で行い、学生同士の交流の機会を確保する。

●参考文献・教材

開講時に指示する。
参考書は適宜紹介する。

授業科目名	科目NO.	LBSOC3208	授業コード	L221100020	
社会学演習Ⅰ b Seminar in Sociology Ⅰ			単位数	2 単位	
授業形態 演習	担当教員名 川野　英二				

●科目の主題

社会学の考え方と方法について学ぶ。

●到達目標

社会学の考え方と方法に関するテキストを読み、さまざまなテーマについての関心を深め、それらを社会学としてどのように扱うのかを考えるための技法を学ぶ。

●授業内容・授業計画

この授業は可能であれば対面で行なうが、必要に応じて遠隔（標準手順：同時双方向）により実施する。
遠隔の場合、授業はTeamsのクラスとZoomをもちいて行なうので、つねに良好な接続環境で受講することが望ましい。
WebClassでの受講にあたっては、WebClassのコース「学生向け遠隔講義入門」の「受講方法」を参照し、受講の準備および当日の受講を行うこと。
第1回 ガイダンス
第2回 テキストに関する報告(1)
第3回 テキストに関する報告(2)
第4回 テキストに関する報告(3)
第5回 テキストに関する報告(4)
第6回 テキストに関する報告(5)
第7回 テキストに関する報告(6)
第8回 テキストに関する報告(7)
第9回 テキストに関する報告(8)
第10回 テキストに関する報告(9)
第11回 受講生による発表(1)
第12回 受講生による発表(2)
第13回 受講生による発表(3)
第14回 受講生による発表(4)
第15回 レポート作成と提出

●事前・事後学習の内容

事前学習：テキストを十分に読んでおくこと
事後学習：課題を行って提出すること

●評価方法

課題提出(40%)とレポート(60%)で評価する。

●受講生へのコメント

2~3回生向けである。参加者には、討論への積極的参加が求められる。

●参考文献・教材

テキストは授業中に配布する。

授業科目名	科目NO.	LBSOC3209	授業コード	L221110010	
社会学演習Ⅱ a Seminar in Sociology Ⅱ			単位数	2 単位	
授業形態 演習	担当教員名 平山　亮				

●科目の主題

家族社会学演習

●到達目標

① 講読文献が対象とする分野の争点や、理論的立場の多様性・相違を理解する。

② 当該分野におけるさまざまなアプローチに触れながら、それとの比較のもとで、自分の立場や関心の所在を明確にする。

●授業内容・授業計画

※この授業は対面で行う予定ですが、諸事情を鑑みて遠隔に変わる可能性もあります。

おもに社会調査を用いた家族研究の文献から、比較的新しいものを選んで講読します。

参加者による報告と議論を中心に運営します。

第01回　ガイダンス

第02回　テキストに基づく報告と議論(1)

第03回　テキストに基づく報告と議論(2)

第04回　テキストに基づく報告と議論(3)

第05回　テキストに基づく報告と議論(4)

第06回　テキストに基づく報告と議論(5)

第07回　テキストに基づく報告と議論(6)

第08回　テキストに基づく報告と議論(7)

第09回　テキストに基づく報告と議論(8)

第10回　テキストに基づく報告と議論(9)

第11回　テキストに基づく報告と議論(10)

第12回　テキストに基づく報告と議論(11)

第13回　各自の関心に基づく発表(1)

第14回　各自の関心に基づく発表(2)

第15回　各自の関心に基づく発表(3)

●事前・事後学習の内容

事前学習：議論に積極的に参加できるよう、対象文献から得られた発見や、腑に落ちなかった点などを整理しておく。

事後学習：議論のなかで上がった論点を振り返り、対象文献に対する自分の立場や評価を改めて考え、読書ノートにまとめておく。

●評価方法

報告を含む担当役割の遂行(35%)、議論への貢献(35%)、学期末のレポート(30%)で評価する。

●受講生へのコメント

講読文献は家族研究の動向を踏まえて選びますが、担当者の専門性により、世代間関係やケア責任、ジェンダーとセクシュアリティの差別と不平等に関するものが多くなることをご了承ください。

●参考文献・教材

教科書：候補となる文献を初回に提示します。参加者の関心にあわせて、そのなかから相談のうえ決定しましょう。

参考書：対象文献に関連する論文や書籍をその都度紹介します。

授業科目名	科目NO.	LBSOC3210	授業コード	L221120010	
社会学演習Ⅲ a Seminar in SociologyⅢ				単位数	2 単位
授業形態 演習	担当教員名 石田　佐恵子				

●科目の主題

2～3回生向け。内容分析の手法に関する文献を購読し、実際に内容分析を試みることでその手法を身につける。

●到達目標

まず、メディア文化研究における内容分析の研究論文を講読する。文献を丹念に読み解くことにより、内容分析の基本概念を学ぶ。
授業の後半では、各自の関心に基づいた資料収集を行い、実際に内容分析を試みる。演習内で報告し、討論を通して理解を深める。

●授業内容・授業計画

第1回　ガイダンス
第2回　論文講読とディスカッション(1)
第3回　論文講読とディスカッション(2)
第4回　論文講読とディスカッション(3)
第5回　論文講読とディスカッション(4)
第6回　論文講読とディスカッション(5)
第7回　各自のテーマ・関心に基づく報告
第8回　資料収集について
第9回　受講生による発表(1)
第10回　受講生による発表(2)
第11回　受講生による発表(3)
第12回　　受講生による発表(4)
第13回　受講生による発表(5)
第14回　受講生による発表(6)
第15回　レポート作成について

●事前・事後学習の内容

事前学習：報告者は、担当部分に関するレジュメを作成する。参加者は、事前に該当箇所を読んでおく。
事後学習：報告者・参加者ともに、討議過程での論点を整理・確認しておく。

●評価方法

平常点(出席と参加態度)、ミニレポート、学期末レポート

●受講生へのコメント

2～4回生向け。社会学演習Ⅲには、a組とb組があるので、どちらかを選んで履修すること。
現代文化、メディア文化研究に関心を持つ者、大学院進学を希望する者の受講を歓迎する。
ただし、履修希望者が10名を超えるときには人数調整を行うことがある。

＊特記事項＊

この授業は遠隔(双方向)で行う可能性がある。遠隔と対面の混在のスタイルをとる予定。可能な日には対面で行い、学生同士の交流の機会を確保する。

●参考文献・教材

開講時に指示する。
参考書は適宜紹介する。

授業科目名	科目NO.	LBSOC3211	授業コード	L221130010	
社会学演習Ⅳ a Seminar in SociologyⅣ			単位数	2 単位	
授業形態 演習	担当教員名 石田　佐恵子				

●科目の主題

卒業論文の主題設定、調査や資料収集の設計、論述方法などを総合的に学ぶ。

●到達目標

卒業論文の主題を確定し、最終学年における年間研究の計画を立てる。

●授業内容・授業計画

関連分野における社会学の共通テキストを参照し、各自の問題意識にそった発表を行う。

第1回　オリエンテーション
第2回　受講生による報告（主題と問題意識）
第3回　受講生による報告（主題と問題意識）
第4回　受講生による報告（主題と問題意識）
第5回　受講生による報告（主題と問題意識）
第6回　受講生による報告（主題と問題意識）
第7回　受講生による報告（主題と問題意識）
第8回　受講生による報告（調査や資料収集の設計）
第9回　受講生による報告（調査や資料収集の設計）
第10回　受講生による報告（調査や資料収集の設計）
第11回　受講生による報告（調査や資料収集の設計）
第12回　上回生による卒業論文報告
第13回　上回生による卒業論文報告
第14回　主題の確定と企画書の書き方
第15回　卒業論文作成に向けて

●事前・事後学習の内容

事前学習：レジュメを作成する。
事後学習：指摘された点を確認する。

●評価方法

平常点（出席と参加態度、レジュメ）
学期末レポート

●受講生へのコメント

社会学コースの3回生を教員毎のクラスに分け、それぞれa組～e組とする。クラス分けは、後期学期の履修登録時に掲示するので、履修前に必ず確認すること。なお、a組の専門分野は、文化の社会学、メディア研究、感情と身体の社会学、知識社会学などである。

＊特記事項＊

この授業は、遠隔（双方型）で実施する可能性がある。遠隔と対面の混在スタイルをとる予定。可能な日には対面で行い、学生同士の交流機会を確保する。

●参考文献・教材

参考書:『メディアの卒論　第2版』ミネルヴァ書房、『よくわかる卒論の書き方　第2版』ミネルヴァ書房、他、随時紹介する。

授業科目名	科目NO.	LBSOC3211	授業コード	L221130020	
社会学演習Ⅳ b Seminar in SociologyⅣ				単位数	2 単位
授業形態	担当教員名				
演習	伊地知　紀子				

●科目の主題

卒業論文の主題設定、調査や資料収集の設計、論述方法などを総合的に学ぶ。

●到達目標

卒業論文の主題を確定し、最終学年における年間研究の計画を立てる。

●授業内容・授業計画

関連分野における社会学の共通テキストを参照し、各自の問題意識にそった発表を行う。

第1回 ガイダンス
第2回 受講生による報告（主題と問題意識）
第3回 受講生による報告（主題と問題意識）
第4回 受講生による報告（主題と問題意識）
第5回 受講生による報告（主題と問題意識）
第6回 受講生による報告（主題と問題意識）
第7回 受講生による報告（調査や資料収集の設計）
第8回 受講生による報告（調査や資料収集の設計）
第9回 受講生による報告（調査や資料収集の設計）
第10回 受講生による報告（調査や資料収集の設計）
第11回 上回生による卒業論文報告
第12回 上回生による卒業論文報告
第13回 主題の確定と企画書の書き方
第14回 卒業論文作成に向けて
第15回まとめ

●事前・事後学習の内容

事前学習：報告者はレジュメを用意してくること。報告者以外の参加者は討議に参加する準備を整えてくること。
事後学習：議論となったさまざまな論点について、自分なりのノートを作成し、自らの研究展開に活かす。

●評価方法

平常点（出席と参加態度、レジュメ）
学期末レポート

●受講生へのコメント

社会学コースの3回生を5つのクラスに分け、それぞれa組～e組とする。クラス分けは、後期学期の履修登録時に掲示するので、履修前に必ず確認すること。なお、b組の専門分野は、「エスニシティの社会学」「地域研究」「生活世界の社会学」などである。

●参考文献・教材

参考書：随時紹介する。

授業科目名	科目NO.	LBSOC3211	授業コード	L221130030	
社会学演習Ⅳ c Seminar in SociologyⅣ				単位数	2 単位
授業形態 演習	担当教員名 川野　英二				

●科目の主題

卒業論文の主題設定、調査や資料収集の設計、論述方法などを総合的に学ぶ。

●到達目標

卒業論文の主題を確定し、最終学年における年間研究の計画を立てる。

●授業内容・授業計画

この授業は可能であれば対面で行なうが、必要に応じて随時遠隔（標準手順：同時双方向）により実施する。
遠隔の場合、授業はTeamsのクラスとZoomをもちいて行なうので、つねに良好な接続環境で受講することが望ましい。
WebClassでの受講にあたっては、WebClassのコース「学生向け遠隔講義入門」の「受講方法」を参照し、受講の準備および当日の受講を行うこと。
関連分野における社会学の共通テキストを参照し、各自の問題意識にそった発表を行う。
第1回 ガイダンス
第2回 受講生による報告（主題と問題意識）
第3回 受講生による報告（主題と問題意識）
第4回 受講生による報告（主題と問題意識）
第5回 受講生による報告（主題と問題意識）
第6回 受講生による報告（主題と問題意識）
第7回 受講生による報告（調査や資料収集の設計）
第8回 受講生による報告（調査や資料収集の設計）
第9回 受講生による報告（調査や資料収集の設計）
第10回 受講生による報告（調査や資料収集の設計）
第11回 受講生による報告（調査や資料収集の設計）
第12回 上回生による卒業論文報告
第13回 上回生による卒業論文報告
第14回 主題の確定と企画書の書き方
第15回 卒業論文作成に向けて

●事前・事後学習の内容

報告に向けた文献の熟読、整理、考察をしっかりおこなうこと。事後には議論を受けた要点の整理、課題に関する文献のフォローやデータの収集をしっかりおこなうこと。

●評価方法

平常点（出席と参加態度、レジュメ）60%、学期末レポート40%

●受講生へのコメント

社会学コースの3回生を5つのクラスに分け、それぞれa組～e組とする。クラス分けは、後期学期の履修登録時に掲示するので、履修前に必ず確認すること。
c組は、主に現代のさまざまな社会問題に関するテーマを実証的に研究する。手堅い方法論と分析技術の習得と鍛錬を厭わない受講生を期待する。

●参考文献・教材

教科書：開講時に指示する。

参考書:『よくわかる卒論の書き方　第2版』ミネルヴァ書房、他、随時紹介する。

授業科目名	科目NO.	LBSOC3211	授業コード	L221130040	
社会学演習Ⅳ d Seminar in SociologyⅣ				単位数	2 単位
授業形態	担当教員名				
演習	平山　亮				

●科目の主題

卒業論文の主題設定、調査や資料収集の設計、論述方法などを総合的に学ぶ。

●到達目標

卒業論文の主題を確定し、最終学年における年間研究の計画を立てる。

●授業内容・授業計画

※この授業は対面で行う予定ですが、諸事情を鑑みて遠隔に変わる可能性もあります。

関連分野における社会学の共通テキストを参照し、各自の問題意識にそった発表を行う。

第01回　ガイダンス
第02回　受講生による報告（主題と問題意識）
第03回　受講生による報告（主題と問題意識）
第04回　受講生による報告（主題と問題意識）
第05回　受講生による報告（主題と問題意識）
第06回　受講生による報告（主題と問題意識）
第07回　受講生による報告（調査や資料収集の設計）
第08回　受講生による報告（調査や資料収集の設計）
第09回　受講生による報告（調査や資料収集の設計）
第10回　受講生による報告（調査や資料収集の設計）
第11回　受講生による報告（調査や資料収集の設計）
第12回　上回生による卒業論文報告
第13回　上回生による卒業論文報告
第14回　主題の確定と企画書の書き方
第15回　卒業論文作成に向けて

●事前・事後学習の内容

事前学習：次回の授業で扱う文献に対する自分の意見や立場、疑問点などを整理しておく。

事後学習：授業の内容を復習し、卒業論文に取り組む際に参照できるよう、自分なりにノートにまとめておく。

●評価方法

報告を含む担当役割の遂行（35%）、議論への貢献（35%）、学期末のレポート（30%）で評価する。

●受講生へのコメント

社会学コースの3回生を5つのクラスに分け、それぞれa組～e組とする。クラス分けは後期学期の履修登録時に掲示するので、履修前に必ず確認すること。なお、d組の専門分野は、家族社会学、福祉社会学、ライフコース、ジェンダー研究などです。

●参考文献・教材

教科書：初回の授業時に参加者と相談のうえ決定します。

参考書：各回の内容に関連する論文や書籍をその都度紹介します。

授業科目名	科目NO.	LBSOC3217	授業コード	L221190010	
社会調査法 Methods of Social Research			単位数	2 単位	
授業形態 講義	担当教員名 平山　亮				

●科目の主題

社会調査によって資料やデータを収集し、分析しうる形にまで整理していく具体的な方法について学習する。

●到達目標

調査目的と調査方法、調査方法の決め方、調査設計と企画、仮説構成、サンプリングの方法、調査票の作成・質問文の作り方、調査の実施方法、調査データの整理などについて解説し、「いい加減」な調査をおこなったり「いい加減」な調査のデータにだまされたりしないようになることが本講義の目標である。

●授業内容・授業計画

※この授業は対面で行う予定ですが、諸事情を鑑みて遠隔に変わる可能性もあります。

第01回　社会調査の意義
第02回　社会調査の歴史
第03回　社会調査の目的と方法
第04回　調査方法の決め方
第05回　調査の設計と企画
第06回　仮説の構築
第07回　量的調査の意義
第08回　量的調査の方法(1):サンプリング
第09回　量的調査の方法(2):調査票の作成
第10回　量的調査の方法(3):調査票の配布と回収
第11回　量的調査の方法(4):データの整理
第12回　質的調査の意義
第13回　質的調査の方法と注意点
第14回　質的データの取り扱い
第15回　試験

●事前・事後学習の内容

事前学習:次回の授業で扱う教科書の範囲を読んでおく。

事後学習:教科書と講義の内容を自分なりに改めて整理し、実習や卒論研究を行う際にいつでも参照できるよう、ノートにまとめておく。

●評価方法

平常点(40%)と学期末の試験(60%)で評価する。

●受講生へのコメント

本授業は社会調査士認定科目(B)に相当する。

3年次の実習、4年次の卒業論文のために必要となる科目なので、社会学コース生は必ず前期開講の「社会学研究法Ⅰ」と後期開講の「社会調査法」を通年で履修すること。

●参考文献・教材

教科書・参考書ともに初回の授業時に提示します。

授業科目名	科目NO.	LBSOC3218	授業コード	L221200010	
社会学データ解析法 Data Analysis for Sociology			単位数	2 単位	
授業形態 講義／演習	担当教員名 川野　英二				

●科目の主題

社会調査データの計量分析の基礎を学ぶ。

●到達目標

計量論文を読み書きするために必要な多変量解析の基本的な技法を習得する。

●授業内容・授業計画

この授業は可能であれば対面で行なうが、必要に応じて随時遠隔（標準手順：同時双方向）により実施する。
遠隔の場合、授業はTeamsのクラスとZoomをもちいて行なうので、つねに良好な接続環境で受講することが望ましい。
WebClassでの受講にあたっては、WebClassのコース「学生向け遠隔講義入門」の「受講方法」を参照し、受講の準備および当日の受講を行うこと。
授業は統計ソフトウェアRとRStudioを使用し、実習形式でおこなう。授業では、各分析について説明したのち、ソフトウェアを用いて実際にデータを分析する。この授業は、社会調査士（E）科目として認定を受ける予定である。なお、本授業を履修するさいには、「人間行動学データ解析IおよびII」を履修済みであること。
第1回 統計ソフトRとRStudioの基本的な使用法 1
第2回 統計ソフトRとRStudioの基本的な使用法 2
第3回 統計学の復習1
第4回 統計学の復習2
第5回 回帰分析の基礎と実践
第6回 重回帰分析の基礎
第7回 重回帰分析の実践
第8回 交互作用効果
第9回 モデルの診断（多重共線性や残差の分布のチェック）
第10回 モデルの選択（AICとステップワイズ法）
第11回 ロジスティック回帰分析の基礎
第12回 ロジスティック回帰分析の実践
第13回 主成分分析
第14回 対応分析
第15回 その他の分析

●事前・事後学習の内容

事前学習：テキスト・参考書の該当箇所を読む。

事後学習：課題をおこなう。

●評価方法

平常点

課題の提出

●受講生へのコメント

ソフトの操作に習熟するまでにやや時間はかかるが、自宅学習を重ねて根気強く続けること。

社会学コースの学生で「人間行動学データ解析IおよびII」を履修済みであること。

●参考文献・教材

【テキスト・資料】授業中に配布する。

【参考書】永吉希久子『行動科学の統計学：社会調査のデータ解析』共立出版　2016年

小杉考司『言葉と数式で理解する多変量解析入門』北大路書房　2018年

授業科目名	科目NO.	LBSOC3216	授業コード	L221180010	
社会学特講Ⅲ Special Lecture on SociologyⅢ			単位数	2 単位	
授業形態 講義	担当教員名 本郷　正武				

●科目の主題

社会運動論

●到達目標

社会運動論の分析概念や基本的な考え方を身に付けることで、一見すると暴力的な現象と捉えられがちな社会運動を違った角度からみることができるようになることを目標とする。

●授業内容・授業計画

本講義は対面を基本とする。

第1回 イントロダクション
第2回 「第一の近代」の生起
第3回 「第一の近代」のゆらぎ
第4回 公害反対運動
第5回 公害問題の理解
第6回 薬害エイズ
第7回 薬害概念の普及
第8回 ハンセン病と隔離政策
第9回 脱施設化と脱制度化
第10回 反五輪運動
第11回 祝賀資本主義
第12回 チェルノブイリ原発事故
第13回 生物学的市民権
第14回 現代の社会運動
第15回 試験

●事前・事後学習の内容

講義の理解度を確認するための「まとめ（小テスト）」を随時おこなうので、こまめに講義内容の復習と論点の整理を心がけること。

●評価方法

試験（60%）、まとめ（40%）、コメントペーパーの内容が優れているものには加点する。

●受講生へのコメント

講義で紹介した概念や理論を駆使して、身の回りで起きた出来事や社会現象の謎解きをしてみること。うまくいかない場合は、質問やコメントペーパーのかたちで言葉にしてみること。

●参考文献・教材

教科書は使用しない。授業で講義レジュメを配布する。

（参考書）：長谷川公一編, 2020,『社会運動の現在 市民社会の声』有斐閣. 濱西栄司ほか, 2020,『問いからはじめる社会運動論』有斐閣. これらの他にも講義中に随時紹介する。

授業科目名	科目NO.	LBSOC3212	授業コード	L221140010	
社会学特論Ⅰ Specific Issues in Sociology Ⅰ			単位数	2 単位	
授業形態 講義	担当教員名 石田　佐恵子				

●科目の主題

映像社会学の主題と研究方法を学ぶ

●到達目標

まず、映像社会学の領域がいかにして注目されるようになってきたのかを理解する。主要な先行研究の概要を読み解くことで、研究方法を実際に学び、自ら主題を考え、映像資料の収集、分析、報告を行えるようになることが目標である。

●授業内容・授業計画

今日の人々の暮らしは、圧倒的なビジュアル文化に埋め尽くされている。映像社会学とは、それらの映像の影響力を視野に入れつつ、方法・対象・実践としての「映像」を総合的に考える領域と定義される。本講義では、映像社会学の先行研究を紹介し、その研究主題と研究手法を学ぶ。

第1回　ガイダンス
第2回　映像社会学の主題について
第3回　先行研究の紹介（1）
第4回　先行研究の紹介（2）
第5回　先行研究の紹介（3）
第6回　映像アーカイブを用いた分析の紹介（1）
第7回　映像アーカイブを用いた分析の紹介（2）
第8回　映像アーカイブを用いた分析の紹介（3）
第9回　映像資料の収集と分析方法について
第10回　受講生による発表と討論（1）
第11回　受講生による発表と討論（2）
第12回　受講生による発表と討論（3）
第13回　受講生による発表と討論（4）
第14回　受講生による発表と討論（5）
第15回　レポートの作成について

●事前・事後学習の内容

事前学習：配布された先行研究を読んでノートを作成しておく。

事後学習：授業内容を振り返り、整理しておく。自分の関心を発展させるために、日常生活における資料収集を心がける。

●評価方法

平常点（出席と参加態度）、授業時の発表、発表に基づく期末レポート

●受講生へのコメント

テレビや動画配信サイトなど、映像文化に関心を持つ学生を歓迎する。

＊特記事項＊

この授業は、遠隔（双方向型）で実施する。インターネット環境、レポート作成可能なパソコン、ディスカッションに参加するカメラとマイクを準備しておくこと。

●参考文献・教材

教科書：資料を配付する予定。

参考書：随時紹介する。

授業科目名	科目NO.	LBSOC3213	授業コード	L221150010	
社会学特論Ⅱ Specific Issues in SociologyⅡ			単位数	2 単位	
授業形態 講義／演習	担当教員名 伊地知　紀子				

●科目の主題

生活世界の社会学:大阪のなかのコリア

●到達目標

大阪は近代に入って以降、朝鮮半島出身者が最も多く居住してきた地域である。なかでも、済州島出身者は20世紀初頭から現在にいたるまで継続して往来している。本講義をとおして、朝鮮半島と日本の近現代史について、済州島と大阪のつながりを中心として学ぶとともに、大阪という都市の形成過程を重層的に捉える視点を発見し、豊かな大阪像を見出す契機となることが本講義の目的である。

●授業内容・授業計画

第1回　ガイダンス
第2回　第3回　君が代丸に乗って大阪築港へ
第4回　第5回　大阪湾で潜った済州チャムス(海女)
第6回　第7回　猪飼野を生きてきた済州人
第8回　第9回　朝鮮市場からコリアタウンへ
第10回　　民族まつりからコリアタウンまつりへ
第11回　第12回　ヘイトスピーチ
第14回　第13回　大阪の文化を創りだす越境者たち
第15回　まとめ

●事前・事後学習の内容

事前学習:テキストを読む。

事後学習:配布資料を確認し、課題を整理する。

●評価方法

コメントペーパー(20%)と論述試験(80%)によって評価する。

●受講生へのコメント

授業の内容に関して意見交換を求める。

●参考文献・教材

【参考文献】

伊地知紀子『生活世界の創造と実践ー韓国・済州島の生活誌から』御茶の水書房、2000
伊地知 紀子他『済州島を知るための55章 (エリア・スタディーズ166)』明石書店、2018
洪 性翊『どやどやどや 絵のみち食のみち奮闘記』東方出版、2019
高賛侑『コリアタウンに生きる 洪呂杓ライフヒストリー』エンタイトル出版、2007
在日コリアン青年連合(KEY)『在日コリアンの歴史を歩く;未来世代のためのガイドブック』彩流社、2017

授業科目名	科目NO.	LBPSY3201	授業コード	L222010010	
心理学概論 I Introduction to Psychology I			単位数	2 単位	
授業形態 講義	担当教員名 川邉　光一				

●科目の主題

エビングハウスの「心理学の過去は長いが、歴史は短い」の言葉のように、心理学が学問として独立してから百数十年程度しか経過していない。しかしながら、心を対象とした様々な考え方や研究手法が生まれた結果、心理学は著しい発展を遂げてきている。この講義では、心理学の基礎的な知見や考え方を概説するとともに、これらが生まれた歴史的背景をたどることにより、心理学に関する全般的な理解を促すことを目的とする。「心理学概論Ⅱ」とともに、現代に至るまでの心理学の歴史をたどりながら、心理学における基礎的知見を概説する。

●到達目標

主として心理学コースの学生が心理学の全体像を把握し、心理学の各専門分野を学ぶための基礎知識を習得できるようにする。

●授業内容・授業計画

本授業は遠隔で行う。

心理学の誕生から現代に至るまでの心理学の主要な潮流とその成果を学ぶ。授業計画は概ね以下の通りとなる。

第1回　心理学とはどのような学問か―心理学の方法論
第2回　心理学前史―古代～近世哲学における心の見方
第3回　実験心理学の誕生：ヴントの心理学
第4回　精神物理学
第5回　感覚・知覚心理学
第6回　精神分析学（1）：フロイトの力動論
第7回　精神分析学（2）：精神分析学の展開
第8回　ゲシュタルト心理学
第9回　行動主義心理学（1）：パブロフの古典的条件づけ
第10回　行動主義心理学（2）：ワトソンの行動主義
第11回　行動主義心理学（3）：新行動主義
第12回　行動主義心理学（4）：スキナーのオペラント条件づけ
第13回　行動主義心理学（5）：行動主義心理学の展開
第14回　認知主義の台頭―認知革命
第15回　試験

●事前・事後学習の内容

ノートや配布資料、参考書などを通じ、前回の授業内容をよく理解した上で、次の授業に臨んでもらいたい。

●評価方法

上記の「到達目標」の達成度について評価を行う。評価は期末試験、および平常点により行う。出席が6割に満たない者は評価の対象としない。講義でとりあげた心理学に関わる概念や理論について説明できることを評価の基準とする。

●受講生へのコメント

心理学の研究方法への理解を深めるため、授業終了時に種々の質問紙調査を依頼したり、授業時間外に行われる実験への参加を要請したりすることもある。受講生は積極的に参加してほしい。なお、本科目は、公認心理師科目「心理学概論」に対応している。

●参考文献・教材

毎回、資料を配付する。

参考書：梅本堯夫・大山正（1994）『心理学史への招待―現代心理学の背景』 サイエンス社／鹿取廣人他（1994）『心理学』第5版 東京大学出版会

授業科目名	科目NO.	LBPSY3202	授業コード	L222020010	
心理学概論Ⅱ Introduction to Psychology Ⅱ			単位数	2 単位	
授業形態 講義	担当教員名 川邉　光一				

●科目の主題

本講義は「心理学概論Ⅰ」に引き続き、心理学の基礎的な知見や考え方を概説するとともに、これらが生まれた歴史的背景をたどることにより、心理学に関する全般的な理解を促すことを目的とする。

●到達目標

主として心理学コースの学生が心理学の全体像を把握し、心理学の各専門分野を学ぶための基礎知識を習得できるようにする。

●授業内容・授業計画

本授業は遠隔で行う(予定)。

「心理学概論Ⅰ」に引き続き、現代に至るまでの心理学の主要な潮流とその成果を学ぶ。授業計画は概ね以下の通りとなる。

第1回　認知心理学(1):知覚の情報処理
第2回　認知心理学(2):記憶
第3回　認知心理学(3):推論・意思決定
第4回　認知心理学(4):言語・コミュニケーション
第5回　社会心理学(1):対人関係
第6回　社会心理学(2):集団と心理
第7回　社会心理学(3):社会的認知
第8回　個人差の心理学(1):性格の個人差
第9回　個人差の心理学(2):知能の個人差
第10回　発達心理学(1):認知機能の発達
第11回　発達心理学(2):性格の発達
第12回　生理心理学(1):精神機能と脳
第13回　生理心理学(2):脳の障害と精神疾患
第14回　動物心理学:心の連続性と進化
第15回　試験

●事前・事後学習の内容

ノートや配布資料、参考書などを通じ、前回の授業内容をよく理解した上で、次の授業に臨んでもらいたい。

●評価方法

上記の「到達目標」の達成度について評価を行う。評価は期末試験、および平常点により行う。出席が6割に満たない者は評価の対象としない。講義でとりあげた心理学に関わる概念や理論について説明できることを評価の基準とする。

●受講生へのコメント

心理学の研究方法への理解を深めるため、授業終了時に種々の質問紙調査を依頼したり、授業時間外に行われる実験への参加を要請したりすることもある。受講生は積極的に参加してほしい。なお、本科目は、公認心理師科目「心理学概論」に対応している。

●参考文献・教材

毎回、資料を配付する。

参考書:梅本堯夫・大山正(1994)『心理学史への招待―現代心理学の背景』サイエンス社／鹿取廣人他(1994)『心理学』第5版東京大学出版会

授業科目名	科目NO.	LBPSY3203	授業コード	L222030010
心理学研究法 I Research Methods for Psychology I			単位数	2 単位
授業形態 講義	担当教員名 山　祐嗣			

●科目の主題

心理学の研究を行う際に必要になる実験・調査の計画やデータの解析の方法、すなわち心理学における方法論の問題を概説する。

●到達目標

研究論文を読んで問題点を見つけ、その問題点を解決できるような実験・調査能力の基礎となる知識やスキルを習得することを目標とする。実験・調査を遂行するための計画法と、得られたデータから何がいえるかという科学的な思考能力が求められる。

●授業内容・授業計画

講義は概ね以下の内容で行われる。

第1回　科学的・実証的方法とは：心理学実験
第2回　科学的・実証的方法とは：調査法
第3回　実験と観察
第4回　実証の手続き：心理学実験
第5回　実証の手続き：調査法
第6回　調査の設計：サンプリングなど
第7回　調査の設計における独立変数の操作
第8回　実験計画における独立変数の操作
第9回　実験における従属変数と測定
第10回　調査法における従属変数と測定
第11回　質問紙による調査：調査票の構成と質問文の作り方(1)
第12回　質問紙による調査：調査票の構成と質問文の作り方(2)第13回　実験室実験の研究法上の問題
第14回　調査の研究法上の問題　心理学に特有の研究法上の問題

●事前・事後学習の内容

基本的に教科書である『心理学研究法』に沿って授業を行いますので、それを読んで予習・復習をしてください。

●評価方法

期末試験の成績による。

●受講生へのコメント

自分の研究テーマについての論文を読んだとき、独立変数の操作や従属変数の測定法などに留意する。なお、この科目は公認心理師科目となっている。

●参考文献・教材

教科書：高野陽太郎・岡　隆(編)『心理学研究法』有斐閣　2004
参考書：伊藤正人『心理学研究法入門：行動研究のための研究計画とデータ解析』昭和堂2006
森　敏昭・吉田寿夫(編著)『心理学のためのデータ解析テクニカルブック』北大路書房1990

授業科目名	科目NO.	LBPSY3204	授業コード	L222040010	
心理学研究法Ⅱ Research Methods for Psychology Ⅱ			単位数	2 単位	
授業形態 講義	担当教員名 山　祐嗣				

●科目の主題

心理学研究法Ⅰで習得した知識・スキルをさらに発展させるべく、心理学の研究を行う際に必要になる実験・調査の計画やデータの解析の方法を概説する。

●到達目標

研究論文を読んで問題点を見つけ、その問題点を解決できるような実験・調査能力の基礎となる知識やスキルを習得することを目標とする。実験・調査を遂行するための計画法と、得られたデータから何がいえるかという科学的な思考能力が求められる。

●授業内容・授業計画

講義は概ね以下の内容で行われる。

第1回　はじめに(既存の知識の確認)
第2回　調査法(1):調査票の構成と質問文の作り方
第3回　調査法(2):調査票の配布と回収
第4回　調査法(3):実施の方法など
第5回　観察法(1):実施の方法など
第6回　観察法(2):実施の方法など
第7回　検査法:実施の方法など
第8回　研究の実施:実験室実験
第9回　研究の実施:調査法
第10回　調査データの整理および統計的分析(1)
第11回　調査データの整理および統計的分析(2)
第12回　調査データの整理および統計的分析(3)
第13回　実験データの統計的分析
第14回　実験データ・調査データの結果の解釈　実験的研究報告・調査報告

●事前・事後学習の内容

基本的に、教科書である『心理学研究法』に沿って授業を行います。それで予習と復習を行ってください。

●評価方法

興味がある論文を読み、研究計画書についてのレポートによって評価する。

●受講生へのコメント

自分の研究テーマについての論文を読んだとき、研究の方法論、データ分析の方法などに留意する。なお、この科目は公認心理師科目となっている。

●参考文献・教材

教科書:高野陽太郎・岡　隆(編)『心理学研究法』有斐閣 2004
参考書:伊藤正人『心理学研究法入門:行動研究のための研究計画とデータ解析』昭和堂 2006
森　敏昭・吉田寿夫(編著)『心理学のためのデータ解析テクニカルブック』北大路書房 1990

授業科目名	科目NO.	LBPSY3205	授業コード	L222050010
心理学実験演習Ⅰ（心理学実験） Psychological Experiments I			単位数	2 単位
授業形態	担当教員名			
実験	山　祐嗣／川邉　光一／佐伯　大輔／橋本　博文			

●科目の主題

心理学の代表的な実験・調査をとりあげ、それらの実験方法・調査方法、データ獲得の手順、結果の統計的な処理方法などを学ぶ。

●到達目標

心理学の基礎的な研究法を理解し習得すると同時に、実験を通じて科学的なものの考え方を身につける。

●授業内容・授業計画

実験演習ⅠとⅡを通して約10種の実験課題を行い、原則として毎回レポートの提出を義務づける。すべての実験についての出席とレポート提出を単位取得の最低要件とする。実験演習ⅠとⅡは時限をまたぎ連続して行うので、同じ学年度に履修すること。実験の順序は入れ替わることがある。

第1回　オリエンテーション
第2回　実験(1)（ミュラー・リヤーの錯視）
第3回　実験(2)（重さの弁別閾）
第4回　実験(3)（オペラント条件づけ）
第5回　実験(4)（重さの感覚尺度）
第6回　実験(5)（要求水準）
第7回　実験(6)（一対比較による好悪の尺度化）
第8回　実験(7)（両側性転移）
第9回　実験(8)（質問紙による性格の測定）
第10回　実験(9)（社会的態度尺度の構成Ⅰ）
第11回　実験(10)（行動の生理学的基盤）
第12回　実験(11)（記憶：系列位置効果）
第13回　実験(12)（判断に及ぼす社会的影響）
第14回　実験(13)（社会的態度尺度の構成Ⅱ）

●事前・事後学習の内容

授業当日に予定される実験について、テキストを通じ事前に大まかな内容を理解しておくこと。返却されたレポートを通じて、レポートの内容や書き方などについて再学習を行い、以降のレポート執筆に生かしてほしい。

●評価方法

実験課題ごとに課されるレポートを基準に評価を行う。未提出のレポートがある場合は、評価の対象外となるので注意すること。

●受講生へのコメント

レポートや論文の執筆技術は、執筆を繰り返すことによって向上する。この演習を通じて、心理学における研究手法のみでなく、これらの技術についてもしっかりと習得し、研究演習Ⅰ・Ⅱや卒業論文に生かしてもらいたい。

なお、本科目は公認心理師科目「心理学実験」に対応している。

●参考文献・教材

テキスト　心理学実験指導研究会編『実験とテスト＝心理学の基礎』実習編、解説編　培風館

参考書　課題ごとに随時紹介する。

授業科目名	科目NO.	LBPSY3206	授業コード	L222060010	
心理学実験演習Ⅱ（心理学実験） Psychological Experiments II			単位数	2 単位	
授業形態	担当教員名				
実験	山　祐嗣／川邉　光一／佐伯　大輔／橋本　博文				

●科目の主題

心理学の代表的な実験・調査をとりあげ、それらの実験方法・調査方法、データ獲得の手順、結果の統計的な処理方法などを学ぶ。

●到達目標

心理学の基礎的な研究法を理解し習得すると同時に、実験を通じて科学的なものの考え方を身につける。

●授業内容・授業計画

実験演習ⅠとⅡを通して約10種の実験課題を行い、原則として毎回レポートの提出を義務づける。すべての実験についての出席とレポート提出を単位取得の最低要件とする。実験演習ⅠとⅡは時限をまたぎ連続して行うので、同じ学年度に履修すること。実験の順序は入れ替わることがある。

第1回　オリエンテーション
第2回　実験(1)（ミュラー・リヤーの錯視）
第3回　実験(2)（重さの弁別閾）
第4回　実験(3)（オペラント条件づけ）
第5回　実験(4)（重さの感覚尺度）
第6回　実験(5)（要求水準）
第7回　実験(6)（一対比較による好悪の尺度化）
第8回　実験(7)（両側性転移）
第9回　実験(8)（質問紙による性格の測定）
第10回　実験(9)（社会的態度尺度の構成Ⅰ）
第11回　実験(10)（行動の生理学的基盤）
第12回　実験(11)（記憶：系列位置効果）
第13回　実験(12)（判断に及ぼす社会的影響）
第14回　実験(13)（社会的態度尺度の構成Ⅱ）

●事前・事後学習の内容

授業当日に予定される実験について、テキストを通じ事前に大まかな内容を理解しておくこと。返却されたレポートを通じて、レポートの内容や書き方などについて再学習を行い、以降のレポート執筆に生かしてほしい。

●評価方法

実験課題ごとに課されるレポートを基準に評価を行う。未提出のレポートがある場合は、評価の対象外となるので注意すること。

●受講生へのコメント

レポートや論文の執筆技術は、執筆を繰り返すことによって向上する。この演習を通じて、心理学における研究手法のみでなく、これらの技術についてもしっかりと習得し、研究演習Ⅰ・Ⅱや卒業論文に生かしてもらいたい。

なお、本科目は公認心理師科目「心理学実験」に対応している。

●参考文献・教材

テキスト　心理学実験指導研究会編『実験とテスト＝心理学の基礎』実習編、解説編　培風館

参考書　課題ごとに随時紹介する。

授業科目名	科目NO.	LBPSY3301	授業コード	L222070010	
心理学研究演習Ⅰ Research Seminar in Psychology I			単位数	2 単位	
授業形態	担当教員名				
演習	山　祐嗣／川邉　光一／佐伯　大輔／橋本　博文				

●科目の主題

卒業論文作成の前段階として、各自で設定したテーマに基づいた研究を計画・実施し、その成果を論文（レポート）としてまとめるまでの一連の過程を実践する。この研究演習は、「心理学実験演習Ⅰ・Ⅱ」並びに「心理学研究法Ⅰ・Ⅱ」で習得した基礎的事項や研究方法に関する知識を前提とする。

●到達目標

心理学の論文を作成するために必要な文献の検索、実験・調査の計画、実験・調査の実施、データ解析など、実証科学としての心理学の思考法と技能の習得を目標とする。

各自の卒業論文に関連するテーマを取り上げることが望ましいが、卒業論文と異なるテーマでもよい。

●授業内容・授業計画

各自が研究テーマを決め、そのテーマに関連する文献（主に英語論文）を検索し、その中から少なくとも3編以上読み、その内容をレジュメにまとめて授業時に発表する。授業では、指導教員からのコメントや受講者との議論を通して、各自の研究テーマに関する研究計画（目的、方法、解析法などをまとめたもの）を立てる。この研究計画にもとづいて、実験・調査を実施し、得られたデータに適切な解析を行い、研究目的に対する結論を導出する。最後に、これらをレポートにまとめ提出する。

第1回 ガイダンス
第2回 文献検索
第3回 文献発表(1)
第4回 文献発表(2)
第5回 文献発表(3)
第6回 文献発表(4)
第7回 文献発表(5)
第8回 研究計画発表
第9回 実験・調査(1)
第10回 実験・調査(2)
第11回 実験・調査(3)
第12回 実験・調査(4)
第13回 実験・調査(5)
第14回 研究結果報告
第15回 レポート提出

●事前・事後学習の内容

文献の発表、研究計画の発表、研究結果の報告など、受講生は全員さまざまな発表を毎回求められるので、授業前にその準備をし発表用のレジメを作成しなければならない。また、授業時に教員等から受けた指摘や与えられた課題に基づき、次回の発表に備えなければならない。

●評価方法

各自が作成した研究レポートの評価による。

●受講生へのコメント

英語論文を読むことは最初は難しく感じるかもしれないが、いくつか読むうちに、容易に読めるようになる。また、実験や調査を行うことは、かなりの時間と労力を必要とするが、こうした努力を通して、実証科学としての心理学のものの見方を体得することができるのであ

る。

最初の授業時に各自の希望する研究テーマに応じて担当指導教員を決定するため、予めテーマを決めておいてほしい。

●参考文献・教材

指導教員が適宜指示する。

授業科目名	科目NO.	LBPSY3302	授業コード	L222080010	
心理学研究演習Ⅱ Research Seminar in Psychology II			単位数	2 単位	
授業形態	担当教員名				
演習	山　祐嗣／川邉　光一／佐伯　大輔／橋本　博文				

●科目の主題

卒業論文作成の前段階として、各自で設定したテーマに基づいた研究を計画、実施し、その成果を論文(レポート)としてまとめるまでの一連の過程を実践する。この研究演習は、「心理学実験演習Ⅰ、Ⅱ」、「心理学研究法Ⅰ、Ⅱ」および「心理学研究演習Ⅰ」で習得した基礎的事項、研究方法に関する知識を前提とする。

●到達目標

「心理学研究演習Ⅰ」に引き続き、心理学の論文を作成するために必要な文献の検索、実験・調査の計画、実験・調査の実施、データ解析など、実証科学としての心理学の思考法と技能の習得を目標とする。

授業の進め方は「心理学研究演習Ⅰ」とほぼ同様であるが、「心理学研究演習Ⅱ」で設定する研究テーマは、卒業論文に関連するテーマであることが望ましい。

●授業内容・授業計画

各自が研究テーマを決め、その研究テーマに関連する文献(主に英語論文)を検索し、その中から少なくとも3編以上読み、その内容をレジュメにまとめて授業時に発表する。授業では、指導教員からのコメントや受講者との議論を通して、各自の研究テーマに関する研究計画(目的、方法、解析法などをまとめたもの)を立てる。この研究計画にもとづいて、実験・調査を実施し、得られたデータに適切な解析を行い、研究目的に対する結論を導出する。最後に、これらをレポートにまとめ提出する。

第1回 ガイダンス
第2回 文献検索
第3回 文献発表(1)
第4回 文献発表(2)
第5回 文献発表(3)
第6回 文献発表(4)
第7回 文献発表(5)
第8回 研究計画発表
第9回 実験・調査(1)
第10回 実験・調査(2)
第11回 実験・調査(3)
第12回 実験・調査(4)
第13回 実験・調査(5)
第14回 研究結果報告
第15回 レポート提出

●事前・事後学習の内容

文献の発表、研究計画の発表、研究結果の報告など、受講生は全員さまざまな発表を毎回求められるので、授業前にその準備をし発表用のレジメを作成しなければならない。また、授業時に教員等から受けた指摘や与えられた課題に基づき、次回の発表に備えなければならない

●評価方法

各自が作成した研究レポートの評価による。

●受講生へのコメント

英語論文を読むことは最初は難しく感じるかもしれないが、いくつか読むうちに、容易に読めるようになる。また、実験や調査を行うこと

は、かなりの時間と労力を必要とするが、こうした努力を通して、実証科学としての心理学のものの見方を体得することができるのである。

最初の授業時に各自の希望する研究テーマに応じて担当指導教員を決定するため、予めテーマを決めておいてほしい。

●参考文献・教材

指導教員が適宜指示する。

授業科目名	科目NO.	LBPSY3303	授業コード	L220050010	
人間行動学データ解析法Ⅲ（心理学統計法） Data Analysis of Human Behavioral Sciences Ⅲ (Psychological Statistics)			単位数	2 単位	
授業形態 演習	担当教員名 鈴木 文子				

●科目の主題

心理学統計法の基礎を学び、二つの平均値の差の検定（t検定）や、より複雑な実験デザインに対応した統計分析（分散分析）および複数の変数間の複雑な関係を明らかにするための統計分析（重回帰分析）を学習する。それらの分析について基本的な考え方と実際の適用の仕方を習得する。

●到達目標

t検定、分散分析、重回帰分析の基本的な考え方を理解し、コンピューターを用いて実際に分析ができ、分析結果を適切に記述できるようになることが目標である。

●授業内容・授業計画

対面授業

講義は概ね以下の内容で行われる。

第1回 統計的仮説検定の原理
第2回 記述統計
第3回 二つの平均値の差の検定
第4回 t検定の実践
第5回 分散分析とは
第6回 1要因分散分析（対応がない場合）
第7回 1要因分散分析（対応がある場合）
第8回 1要因分散分析の実践
第9回 2要因分散分析（2要因とも対応がない場合）
第10回 2要因分散分析（混合要因の場合）
第11回 2要因分散分析（2要因とも対応がある場合）
第12回 2要因分散分析の実践
第13回 相関係数とは
第14回 重回帰分析とは
第15回 相関係数・重回帰分析の実践

●事前・事後学習の内容

授業ごとに出される課題にしっかりと取り組むこと。不明な点があれば、その都度質問をするか参考書で調べるなどして理解しながら課題に取り組むことが望まれる。

●評価方法

各分析の実践のための課題と学期末のレポートによって評価を行う。

●受講生へのコメント

統計に関する知識は研究を進める上で必要不可欠なので、しっかり身につけてほしい。

なお、本科目は、公認心理師科目「心理学統計法」に対応している。

●参考文献・教材

参考文献

田中敏・山際勇一郎『新訂ユーザーのための教育・心理統計と実験計画法』教育出版

森敏昭・吉田寿夫編著『心理学のためのデータ解析テクニカルブック』北大路書房

授業科目名	科目NO.	LBGEN3306	授業コード	L220060010	
人間行動学データ解析法Ⅳ Data Analysis in Human Behavioral Sciences Ⅳ			単位数	2 単位	
授業形態 実習	担当教員名 木村　義成				

●科目の主題

本科目では地理学や心理学分野において利用される多変量解析の原理と方法について学習する。

各種の統計データを受講生に配布し、データ分析と分析の解釈の方法を中心に解説する。

●到達目標

本科目の到達目標は、自分の研究課題に対して、どのようなデータを用いて、どのような分析を行い、どのように結果の解釈を行うかを自身で行えるようになることである。

また、地理学や心理学では多変量解析を用いた研究が多数あり、自身で既存の研究手法を理解できるようになることである。

●授業内容・授業計画

人間行動学をはじめ、様々な統計処理を用いる学問において必要とされる、多変量解析の原理と方法について学習する。

重回帰分析、クラスタ分析、主成分分析、因子分析などの各種分析方法の原理について学習し、学術情報総合センターの端末室のSPSSを用いて多変量解析を実際に行う。

第1回 ・イントロダクション
第2回 ・基本統計量①
第3回 ・基本統計量②
第4回 ・判断分析
第5回 ・重回帰分析①
第6回 ・重回帰分析②
第7回 ・ロジステック回帰分析
第8回 ・各種の回帰分析
第9回 ・クラスタ分析
第10回 ・数量化理論Ⅰ類
第11回 ・数量化理論Ⅱ類
第12回 ・主成分分析
第13回 ・因子分析
第14回 ・数量化理論Ⅲ類
第15回 ・総括

●事前・事後学習の内容

本科目は、SPSSを用いた統計処理の実習という性格上、事後学習を重視する。

原則、実習の終了後にその日の内容に関するSPSSファイルを提出してもらう。

また、卒業論文など、本科目で習得した統計処理について積極的に利用すること。

●評価方法

出席、および課題提出(60%)、最終レポート(40%)の割合を目安に総合的に評価する。

詳細については第1回のガイダンスにて説明する。

●受講生へのコメント

統計処理は、実際にデータを用いて取り組まないと理解が進まない。

本演習で紹介する多変量解析は広くマーケティング等で利用されている手法なので、是非理解してもらいたい。

なお、本講義は人間行動学データ解析法IIbなどの講義を既に単位取得し、統計学の基礎を既に学んでいることを前提とする。

●参考文献・教材

教材・参考文献については演習中に逐次紹介する。

※）第1回のガイダンスには必ず受講すること。第1回を受講していない場合は、演習の参加を認めないことがある。

授業科目名	科目NO.	LBPSY3209	授業コード	L222110010	
学習・言語心理学特論 Special Studies in Psychology of Learning and Language			単位数	2 単位	
授業形態 講義	担当教員名 佐伯　大輔				

●科目の主題

心理学における「学習」とは、個体が様々なことを経験することにより、行動が変化することをいう。この授業では、これまでヒトや動物を対象に研究されてきた学習の現象について、オペラント条件づけを用いた研究を中心に、実験室における基礎研究から行動改善を目的とした応用研究まで、幅広く紹介し考察する。また、ヒトに特有とされる言語の使用について、学習心理学の観点からどのように説明できるのかを考察する。

●到達目標

ヒトや動物の学習に関する知見を得ることを通して、行動にはどのような法則性があり、それはどのように研究をすれば明らかになるのかを理解する。さらに、実験室で得られた法則性が、私達の日常行動の理解にどう役立てられるのかを学ぶ。

●授業内容・授業計画

主に以下の章立てに沿って、講義形式で授業を行う。

第1回 学習研究の歴史
第2回 学習研究の方法
第3回 レスポンデント条件づけ(1):基礎的事実
第4回 レスポンデント条件づけ(2):その展開
第5回 オペラント条件づけ(1):基礎的事実
第6回 オペラント条件づけ(2):強化スケジュール
第7回 オペラント条件づけ(3):刺激性制御
第8回 複雑な学習(1):言語行動
第9回 複雑な学習(2):ルール支配行動
第10回 複雑な学習(3):概念弁別
第11回 複雑な学習(4):選択行動
第12回 学習研究の応用(1):系統的脱感作、モデリング
第13回 学習研究の応用(2):バイオ・フィードバック
第14回 学習研究の応用(3):応用行動分析

●事前・事後学習の内容

事前学習:テキストの該当部分を読み、疑問点を挙げておく。

事後学習:授業で進んだ部分について確認し、自分の意見をまとめる。

●評価方法

平常点と期末試験で評価する。

●受講生へのコメント

・本科目は、「公認心理師」受験資格の取得に必要な科目「学習・言語心理学」に対応している。

・心理学の研究方法への理解を深めてもらうため、質問紙調査に協力を求めたり、実験への参加協力を要請する場合がある。受講者は、これらに積極的に参加、協力してほしい。

●参考文献・教材

テキスト

伊藤正人(2005)「行動と学習の心理学:日常生活を理解する」昭和堂

授業科目名	科目NO.	LBPSY3211	授業コード	L222130010	
社会・集団・家族心理学特論 Special Studies in Social,Group and Family Psychology			単位数	2 単位	
授業形態 講義	担当教員名 橋本　博文				

●科目の主題

本講では、社会・集団および家族関係における人間の行動についての理解をめざす。人は社会的動物であり、他者とのかかわりの中で生活をする生き物である。日常生活場面で生じる人間の心理について学習することで、人間の基本的な心理メカニズムの理解ができるように講義を進める。

●到達目標

日常生活場面で遭遇するさまざまな事象について、社会心理学の観点から解釈することができるようになること、また、家庭や集団、文化が私たちにどのような影響を与えているか理解し、説明出来るようになることをめざす。

●授業内容・授業計画

(1)イントロダクション
(2)社会的認知
(3)社会的自己
(4)対人関係・対人行動
(5)態度と意思決定
(6)集団での意思決定:多数派の影響
(7)集団での意思決定:少数派の影響
(8)集団での活動
(9)チーム成果
(10)リーダーシップ
(11)説得的コミュニケーション
(12)家族の機能
(13)家族内の関係
(14)文化と社会心理
(15)1～14回のまとめ

●事前・事後学習の内容

事前学習:前回の授業時までに次回授業にかかわるプリントを配布し、事前に目を通しておくよう指示する。事後学習:当該授業のテーマにかかわる参考図書を紹介し、各自が学期末までに読んでおくよう指示する。

●評価方法

学期末に行う試験の成績を主とし、これに授業期間中に提出を求める課題を加算して評価する。

●受講生へのコメント

社会心理学の研究方法への理解を深めるために、授業時間を利用して種々の質問紙調査への協力を依頼したり、授業時間外に行われるさまざまな心理学実験への参加を求めることがある。受講生は積極的に参加、協力してほしい。なお、本科目は「公認心理師」受験資格の取得に必要な科目「社会・集団・家族心理学」に対応している。

●参考文献・教材

参考書:竹村和久(編)『公認心理士の基礎と実践11　社会・集団・家族心理学』遠見書房. 2018年池上知子・遠藤由美(著)『グラフィック社会心理学(第2版)』サイエンス社. 2008年

授業科目名	科目NO.	LBPSY3212	授業コード	L222140010	
感情・人格心理学特論 Special Studies in Psychology of Emotion and Personality			単位数	2 単位	
授業形態 講義	担当教員名 中妻　拓也				

●科目の主題

感情や性格は人間の行動，判断を心理的な観点から見る時に重要な要素となる。感情や性格についての概要を有用な諸理論から学び、行動を科学的に理解する方法を学習することを目指す。

●到達目標

1.感情に関する理論及び感情喚起の機序について概説できる

2.感情が行動に及ぼす影響について概説できる

3.人格の概念及び形成過程について概説できる

4.人格の類型，特性等について概説できる

●授業内容・授業計画

第 1 回: ガイダンス(講義の進め方,感情の基礎)
第 2 回: 感情の定義と理論
第 3 回: 感情の生起
第 4 回: 感情と判断，行動
第 5 回: 感情の社会的働き
第 6 回: 感情のコントロールと失調
第 7 回: 感情の測定
第 8 回: パーソナリティの概念・定義
第 9 回: パーソナリティの測定
第10回: パーソナリティの理論1:類型論，特性論
第11回: パーソナリティの理論2: 因子論，ビックファイブ
第12回: パーソナリティと病理
第13回: 自己の感情・認知
第14回: 自己とパーソナリティ
第15回: 試験

●事前・事後学習の内容

講義を聴くだけでは把握しきれない内容が出てくると思いますので、適宜予習でテキストを読む、復習で講義内容のメモを見返すなど行ってください。

●評価方法

出席(コミュニケーションペーパー、小レポート含む)50%、試験50%

●受講生へのコメント

講義はパワーポイントを提示する形で行います。内容は教材に沿って行いますが、一部内容を加えていることが多々あります。テキストだけではなく講義内容から試験を行いますので、出来る限り講義を受けるようにしてください。

授業内容は授業の進捗によって前後・変更することがあります。

●参考文献・教材

川畑直人・大島剛・郷式徹（監修)中間玲子（編)(2020) 感情・人格心理学「その人らしさ」をかたちづくるもの
野島一彦・繁桝算男(監修)（2020) 公認心理師の基礎と実践――感情・人格心理学, 遠見書房

授業科目名	科目NO.	LBPSY3213	授業コード	L222150010	
動物心理学特論 Special Studies in Animal Psychology			単位数	2 単位	
授業形態 講義	担当教員名 川邉　光一				

●科目の主題

動物心理学は、『種の起源』を著したダーウィン以来の長い歴史を特つ。その目的は、主として実験や観察といった科学的手法を用い動物の行動を客観的に分析することにより、ヒトにも共通する行動・心的機能の基礎を探ることや、行動・心的機能の系統発生的過程を追跡することが目的とされる。

本講義では、心理学における動物実験の意義や歴史、動物の行動に関する基礎的な知見、動物実験の方法論(特に生理心理学的、神経科学的手法)について概説する。また、精神疾患の動物モデルを例に挙げ、動物実験の結果をヒトに外挿するために必要な考え方について学んでもらう。同時に、これらを学ぶ上で必要となる基礎的な神経科学的知識についても取り上げる。

●到達目標

心理学において、動物実験によって得られた知見は数多い。この講義では、心理学における動物実験の意義や方法論について理解を深めることを目標とする。

●授業内容・授業計画

本授業は対面にて実施する。
講義は概ね以下の内容で行われる。
第1回　心理学における動物実験の意義
第2回　動物心理学の歴史
第3回　動物の行動特性―種・系統による差異
第4回　行動と遺伝、行動と進化
第5回　脳・神経系の構造とその進化
第6回　神経細胞・シナプスの構造とその情報伝達
第7回　神経科学における動物実験の手法(1):ヒトを対象とした実験と動物実験の差異
第8回　神経科学における動物実験の手法(2):動物実験で用いられる実験手法
第9回　動物行動の評価法(1):動物行動を測定・評価する上での諸問題
第10回　動物行動の評価法(2):学習・記憶課題
第11回　動物行動の評価法(3):情動・不安、その他の精神機能の測定法
第12回　行動薬理学の基礎
第13回　動物実験の実際(1):精神疾患の発症メカニズム
第14回　動物実験の実際(2):精神疾患モデルの作製とその評価

●事前・事後学習の内容

ノートや配布資料、参考書などを通じ、前回の授業内容をよく理解した上で、次の授業に臨んでもらいたい。

●評価方法

期末試験による成績評価を基本とするが、これに平常点も加味する。出席率が6割に満たない場合は評価の対象としない。

●受講生へのコメント

心理学の研究方法への理解を深めるため、授業時間に種々の質問紙調査を実施したり、授業時間外に実験への参加を要請することもある。受講生は積極的に参加してほしい。

●参考文献・教材

参考書

八木冕(編)(1975)『心理学研究法5　動物実験I』 東京大学出版会
八木冕(編)(1975)『心理学研究法6　動物実験Ⅱ』 東京大学出版会

Carlson, N.R.（泰羅雅登・中村克樹監訳）(2013)『神経科学テキスト―脳と行動』(第4版) 丸善
Pinel, J.P.J.（佐藤敬他訳）(2005)『バイオサイコロジー:脳―心と行動の神経科学』 西村書店
日本薬理学会（編）(2010)『実験薬理学「実践行動薬理学」』 金芳堂

授業科目名	科目NO.	LBPSY3214	授業コード	L222160010	
文化心理学特論 Special Studies in Cultural Psychology			単位数	2 単位	
授業形態 講義	担当教員名 山　祐嗣				

●科目の主題

認知心理学、進化心理学、文化心理学という視点から、さまざまな研究を紹介し、文化の創生と文化的適応の人間の合理性について追及する。

●到達目標

認知心理学、進化心理学、文化心理学という視点から、認知の文化的適応についての理解を深め、自分で問題を追及する資質を涵養する。

●授業内容・授業計画

授業はWebClassを使用して遠隔で行う。前半は主として適応一般の概念について、後半は文化的適応と文化多様性について解説する。

1-15回

1. 適応とは何か
2. 進化心理学　認知の進化
3. 二重過程理論
4. 文化とは何か
5. 適応という視点からの認知
6. 文化的多様性の始まり
7. 文化心理学とは何か
8. 個人主義と集団主義1
9. 個人主義と集団主義2
10. 自己と文化
11. 認知と文化1
12. 認知と文化2
13. 東洋人の弁証法
14. 文化の伝達・伝播

●事前・事後学習の内容

事前学習として、授業中の配布や資料参考書を読み、事後学習として、これらの復習を行ったり授業中に紹介した書籍・文献を読んだりすることが推奨される。

●評価方法

期末試験において成績を評価する。

●受講生へのコメント

心理学においては、実際に実験や調査がどのように行われているのか実際に体験することが重要である。本講においても、時々デモあるいは、実験・調査が行われるが、参加してほしい。

●参考文献・教材

参考文献

増田貴彦・山岸俊男 「文化心理学(上)(下)」培風館 2010

山　祐嗣 「日本人は論理的に考えることが本当に苦手なのか」 新曜社 2015

授業科目名	科目NO.	LBPSY3215	授業コード	L222170010	
心理的アセスメント特論 Special Studies in Psychological Assessment			単位数	2 単位	
授業形態 講義	担当教員名 中妻　拓也				

●科目の主題

臨床の現場で使用されることがある心理的アセスメントを体験も含めて学習することで、その実際の内容について学ぶことが本科目の主題となる。

各心理検査の実施方法や結果の整理、解釈、報告書のまとめ方等を包括的に学習する。

●到達目標

1.心理的アセスメントの目的及び倫理

2.心理的アセスメントの観点及び展開

3.心理的アセスメントの方法(観察，面接及び心理検査)

4.適切な記録及び報告

●授業内容・授業計画

第 1 回: ガイダンス(心理的アセスメントとは:心理的アセスメントの定義、目的、心理的アセスメントに関係する倫理)

第 2 回: 心理的アセスメントの基本:心理的アセスメントをめぐる諸概念

第 3 回: 行動観察

第 4 回: アセスメント面接

第 5 回: 心理検査の基礎

第 6 回: 代表的心理検査の種類と内容:質問紙法

第 7 回: 質問紙法と作業検査法

第 8 回: 知能検査

第 9 回: 発達検査

第10回: 代表的心理検査の種類と内容:投映法

第11回: 心理的アセスメントの実際:検査バッテリー

第12回: 適切な記録、包括的解釈と報告

第13回: 各分野における心理的アセスメントの実際

第14回: 心理的アセスメントの観点及び展開

第15回: 試験

●事前・事後学習の内容

講義を聴くだけでは把握しきれない内容が出てくると思いますので、適宜予習でテキストを読む、復習で講義内容のメモを見返すなど行ってください。

●評価方法

出席(コミュニケーションペーパー、小レポート含む)50%、試験50%

●受講生へのコメント

講義はパワーポイントを提示する形で行います。内容は教材に沿って行いますが、一部内容を加えていることが多々あります。テキストだけではなく講義内容から試験を行いますので、出来る限り講義を受けるようにしてください。

授業内容は授業の進捗によって前後・変更することがあります。

●参考文献・教材

野島一彦・繁桝算男(監修) (2020)公認心理師の基礎と実践⑭——心理的アセスメント，　遠見書房

授業科目名	科目NO.	LBPSY3306	授業コード	L222200010	
心理学特講Ⅲ Selected Topics in PsychologyⅢ			単位数	2 単位	
授業形態 講義	担当教員名 高橋　阿貴				

●科目の主題

なぜ私たちは喜び、悲しみ、怒り、憂鬱になるのでしょう。また、人によって怒りやすい人とそうでない人もいます。そのような違いはどうしてうまれるのでしょう。「こころ」の理解を目指す行動神経科学の分野はどんどん発展してきており、情動に関わる生物学的な基盤が明らかになりつつあります。本講義では、情動や社会性など様々な行動について、どのような脳領域そして神経回路が関与するのか（行動神経科学）に加えて、行動が遺伝するしくみ（行動遺伝学）、ホルモンが中枢神経系に作用して行動に影響を与えるしくみ（行動神経内分泌学）、免疫系や腸内細菌叢と中枢神経系の相互作用（精神神経免疫学）という多様な観点から学びます。学部生レベルから大学院生レベルまで、できるだけ広くカバーします。

●到達目標

行動に関わる生物学的な基礎についての幅広い知識に加えて、より実践的・発展的な研究知見に触れることで、広い視野からの思考力と理解力を持ち、自分で研究を進める基礎を構築する。

●授業内容・授業計画

主に以下の内容で予定しています。ただし、順番を変更したり、要望に応じて特定のトピックを深めたりする可能性があります。

第1回　情動・感情
第2回　行動神経科学（1）
第3回　行動神経科学（2）
第4回　行動神経科学（3）
第5回　行動遺伝学（1）
第6回　行動遺伝学（2）
第7回　行動遺伝学（3）
第8回　行動神経内分泌学（1）
第9回　行動神経内分泌学（2）
第10回　行動神経内分泌学（3）
第11回　精神神経免疫学（1）
第12回　精神神経免疫学（2）
第13回　精神神経免疫学（3）
第14回　今後の課題と展望

●事前・事後学習の内容

事前学習として、参考書籍の中で興味があるものを参照しておくと、本講義の理解が深まると思います。本講義では、様々な論文からの知見も紹介していきますので、事後学習として、講義の中で興味を持った論文を実際に読んでみることで理解を深めてください。

●評価方法

講義への出席状況と提出された小テストもしくはレポートを総合的に考慮して評価する予定です。配点は授業中に説明します。

●受講生へのコメント

質問やコメントなど、積極的な授業参加を歓迎します。

●参考文献・教材

講義では資料を配布する予定です。参考書籍は以下をご参照ください。

1) Biopsychology (5th ed.), John P.J. Pinel, 2002.

2) How genes influence behavior, Jonathan Flint, Ralph J. Greenspan, Kenneth S. Kendler, 2010.

3) 脳とホルモンの行動学、近藤・小川・菊水・富原・山田(編)、2010年、西村書店
4) Psychoneuroimmunology (2nd ed.), Jorge H. Daruna, 2012.

授業科目名	科目NO.	LBPSY3216	授業コード	L222210010	
心理学統計法 Psychological Statistics			単位数	2 単位	
授業形態 講義	担当教員名 片山　綾				

●科目の主題

心理学において、質的なデータや小標本のデータを扱うにあたり、統計的仮説検定を理解し有効に使えることは重要である。本講ではまず推測統計の基本原理について学び、その後、種々のケースにおいて用いられる検定法について、その理論と実践の両面にわたって講ずる。

●到達目標

この授業の到達目標は、授業で紹介する検定法の適用の仕方を習熟するとともに統計的仮説検定の本質を理解することである。

●授業内容・授業計画

主として、推測統計の基本的な考え方と検定法を説明する。おおよその授業計画は以下の通りである。

第1回　推測統計の基礎
第2回　パラメトリック検定とノンパラメトリック検定法とは
第3回　2項検定
第4回　カイ2乗検定
第5回　Fisherの直接法
第6回　McNemarの検定
第7回　CochranのQ検定
第8回　逆正弦変換法
第9回　Mann-Whitneyの検定
第10回　符号つき順位検定
第11回　Kruskal-Wallisの検定
第12回　Friedmanの検定
第13回　t検定
第14回　分散分析
第15回　試験

●事前・事後学習の内容

事前学習：「参考文献」に挙げた書籍の該当部分を読んでおく。

事後学習：授業で学習した概念・検定法について確認し、授業で解いた演習問題を再度解いておく。

●評価方法

学期末試験の成績によって評価する。

●受講生へのコメント

本科目は、公認心理師科目「心理学統計法」に対応する。

●参考文献・教材

［テキスト］使用しない。必要な資料は、随時、授業時に配布する。

［参考文献］森敏昭・吉田寿夫（1990）『心理学のためのデータ解析テクニカルブック』 北大路書房

授業科目名	科目NO.	LBEDU3201	授業コード	L223010010	
教育学概論 I Introduction to Education I			単位数	2 単位	
授業形態 講義	担当教員名 柏木 敦				

●科目の主題

今日生起している様々な教育問題について、受講者が教育学の基礎的・概略的知識に基づいて、自ら考え、解決するための素材を提供することを本講義の主題とする。

●到達目標

教育学に関する基礎的・概略的知識を習得し、教育に関する社会上の諸問題を、教育学の観点から理解・検討するための方法を身につける。

●授業内容・授業計画

この講義は遠隔で行う。

第1回 ガイダンス(教育の基本的概念および歴史に関する概説)
第2回 対象としての子ども(第2～3章)
第3回 子どもの権利と親の権利(第4～5章)
第4回 「教育」とは何か、「学校」とは何か(第6～7章)
第5回 学校と教育の歴史――古代～中世(第8～9章)
第6回 学校と教育の歴史――近世～近代初期(第10～11章)
第7回 近現代日本における教育理念(第11～13章)
第8回 戦後教育改革と教育基本法の理念(第14章)
第9回 教育思想家たち(1)(第15章)
第10回 教育思想家たち(2)(第15章)
第11回 教育基本法(1)(第16～17章)
第12回 教育基本法(2)(第18～19章)
第13回 義務教育の原則と現状(第20～22章)
第14回 中等教育の諸問題(第24～25章)

●事前・事後学習の内容

事前学習:各回のテキスト該当箇所を読み、当該テキストの思想的背景や今日的意義について、自分なりの意見をもって講義に臨むこと。

事後学習:講義の範囲に入らないテキストの箇所と、当日扱った箇所の内容や自分なりに考えたことを結びつけ、自らの課題意識につなげること。

●評価方法

最終レポート(60%)および講義へのコメント(40%)の総合成績による。

●受講生へのコメント

従来、教職課程科目「教育基礎論」で用いていたテキストを、「教育学」の観点から読み解き、理解してゆく。

なお第一回目の講義で講義内容や成績評価の詳細をアナウンスするので、第一回目の講義は必ず出席すること。

講義受講にあたっては、次回講義の内容に該当する文献を指示するので、予め読み込んでおき、テキストの内容に就いて自分なりの考えや問題意識を持って講義に臨むこと。また日常的に新聞、教育関係雑誌を読み、今日の教育状況について自分なりの理解を作っておくこと。

●参考文献・教材

高橋陽一『新しい教育通義』武蔵野美術大学出版局、2018年。

その他参考文献等は適宜紹介する。

授業科目名	科目NO.	LBEDU3202	授業コード	L223020010	
教育学概論Ⅱ Introduction to EducationⅡ				単位数	2 単位
授業形態 講義	担当教員名 辻野　けんま				

●科目の主題

人間は学校において学ぶだけではなく、家庭において学んだり、スポーツや芸術活動を通して学んだり、あるいは図書館や博物館、公民館などで学んだりしている。あるいは、たまたま観たテレビや映画から学ぶこともあれば、旅に出かけて学ぶこともある。さらには、非行等により学校教育から離脱し少年院や児童自立支援施設などで学ぶ場合もある。一方、学校は公教育の代表的な機関ではあるが、その学校においてさえ非教育的・反教育的な現象は存在している。これら社会の中にある様々な〈教育〉について、諸制度を概観した上で（第1～3講）、それぞれの関心にしたがいグループワークとプレゼンテーションを行い（第4～9講）、さらに教育経営の観点から教育学の知見を深める（第10～14講）。

●到達目標

教育学の対象の多様性を知り、個人の経験・関心を教育経営の観点から探究できる。

●授業内容・授業計画

GW…グループワーク、P…プレゼンテーション

第1回　オリエンテーション
第2回　学校教育
第3回　社会教育
第4回　家庭教育
第5回　公教育と私教育
第6回　義務教育
第7回　教育行政
第8回　教育権
第9回　特別権力関係
第10回　教育と政治
第11回　教育の公共性
第12回　教育経営
第13回　社会変動と教育
第14回　総括的討議

●事前・事後学習の内容

初回オリエンテーション時および毎回の授業で適宜指示する。

●評価方法

平常点・小課題（あわせて2割）、プレゼンテーション（3割）最終レポート（5割）を総合的に判断する。

●受講生へのコメント

討議・発表を交えて講義内容を深めていく形態の授業となる。

●参考文献・教材

特に指定しない。レジュメ・配布資料にしたがって講義を進める。

授業科目名	科目NO.	LBEDU3203	授業コード	L223030010	
教育方法学Ⅰ Educational Methods Ⅰ			単位数	2 単位	
授業形態 講義	担当教員名 森 久佳				

●科目の主題

教育方法学の古典に触れることで、教育方法学に関する基本的な思想や理論、考え方について学ぶ。今年度は、ルソー、ペスタロッチ、デューイの代表的な古典を翻訳で講読し、それぞれの教育思想や理論のエッセンスを、教育方法学の観点から解釈し価値づけることを試みる。

●到達目標

・教育方法学の基本的な思想・理論・考え方を知る。

・「学び(学習)」や「教える(教授)」、「授業 」や「カリキュラム(教育課程)」、「教師」といったテーマに関する基本的な知見を身につける。

●授業内容・授業計画

第1回 オリエンテーション (授業の進め方などについての説明)
第2回 ルソー『エミール』に関する基本的事項
第3回 ルソー『エミール』をめぐって①(【テキストⅠ】)
第4回 ルソー『エミール』をめぐって②(【テキストⅠ】)
第5回 ルソー『エミール』をめぐって③(【テキストⅠ】)
第6回 ルソー『エミール』をめぐって④(【テキストⅠ】)
第7回 デューイ『学校と社会』に関する基本的事項
第8回 デューイ『学校と社会』をめぐって①(【テキストⅡ】)
第9回 デューイ『学校と社会』をめぐって②(【テキストⅡ】)
第10回 デューイ『学校と社会』をめぐって③(【テキストⅡ】)
第11回 デューイ『学校と社会』をめぐって④(【テキストⅡ】)
第12回 『エミール』と『学校と社会』の共通点と相違点
第13回 『エミール』と『学校と社会』の今日的意義
第14回 教育方法学における『エミール』と『学校と社会』の可能性

●事前・事後学習の内容

テキストの講読と自身の考えの整理・検討。

●評価方法

・授業への参加状況と提出物(50%)

・期末レポート(50%)

●受講生へのコメント

入念な予習と活発な議論を期待します。

●参考文献・教材

<使用するテキスト>【テキストⅠ】:J・J・ルソー(1962)『エミール〈上〉』今野一雄訳、岩波文庫.【テキストⅡ】:J・デューイ(1998)『学校と社会・子どもとカリキュラム』市村尚久訳、講談社学術文庫.

<参考文献> (下記以外の文献も、 授業中に随時紹介する予定)佐藤学(1995)『教育方法学』(岩波テキストブック)岩波書店. 田中耕治・鶴田清司・橋本美保・藤村宣之(2012)『新しい時代の教育方法』(有斐閣アルマ)有斐閣. 日本教育方法学会編(2004)『現代教育方法事典』図書文化社. 日本教育方法学会編(2009)『日本の授業研究』(上・下巻) 学文社. 日本教育方法学会編(2014)『教育方法学研究ハンドブック』学文社.

授業科目名	科目NO.	LBEDU3301	授業コード	L223040010	
教育方法学Ⅱ Educational Methods Ⅱ			単位数	2 単位	
授業形態 講義	担当教員名 島田　希				

●科目の主題

学習観の転換や子どもたちの学力実態など、教育方法をめぐる今日的課題をふまえた上で、それらの解決に資する新しい学びのあり方を探究する。

様々な教育実践を分析することを通じて、今日求められる新しい学びの意義や課題について、自分なりの考えをまとめることができることを目指す。

●到達目標

①教育方法をめぐる今日的課題について説明することができる。

②上記①の解決を目指した教育実践について、その特徴・意義・課題を分析することができる。

③上記①②をふまえた上で、今日求められる新しい学びの意義や課題について考えをまとめることができる。

●授業内容・授業計画

教育方法をめぐる今日的課題とその解決に資する新しい学びのあり方について、以下のテーマを中心に考察を深めていく。

第1回オリエンテーション
第2回教育方法をめぐる今日的課題
第3回多様な学習形態の特徴・意義・課題①―一斉学習―
第4回多様な学習形態の特徴・意義・課題②―個別学習―
第5回多様な学習形態の特徴・意義・課題③―協働学習―
第6回特色ある教育実践の分析①日本型授業の特徴
第7回プロジェクトアプローチによる探究的な学習活動①
第8回プロジェクトアプローチによる探究的な学習活動②
第9回特色ある教育実践の分析②中学校における総合的な学習の時間の事例
第10回オープンスクールにおけるカリキュラム①
第11回オープンスクールにおけるカリキュラム②
第12回専門的な学習共同体としての学校を実現する取り組み①
第13回専門的な学習共同体としての学校を実現する取り組み②
第14回全体のまとめ

●事前・事後学習の内容

授業中に紹介・配付する資料や参考文献を授業の事前・事後に読むなど、授業内容のさらなる理解に努めること。

●評価方法

各回における小レポート(30%)と期末レポート(70%)により、総合評価する。

●受講生へのコメント

本科目では、講義に加えて、グループでのディスカッション、実践事例の分析等を行う。それらへの積極的な参加を求める。

●参考文献・教材

授業中に適宜資料を配付する。以下を主たる参考文献とする。

・日本教育方法学会編(2014)『教育方法学研究ハンドブック』学文社.
・佐藤学(2010)『教育の方法』左右社.

授業科目名	科目NO.	LBEDU3302	授業コード	L223050010	
比較・国際教育学 Comparative and International Education			単位数	2 単位	
授業形態 講義	担当教員名 田中　光晴				

●科目の主題

本授業では比較教育学の手法を学び、私たちのまわりにある教育事象についてグローバルな視点から考察することによって、日本の教育の特徴をより明確に理解するとともに、今後の改革の指針として諸外国の動向を検討することを目的とする。

●到達目標

様々な教育のトピックについて、世界各国の動向の検討を通じて、その問題及び改善の在り方を比較できる。

●授業内容・授業計画

対面授業で行うが、新型コロナウィルスの感染拡大状況により対面実施が困難となった場合は、遠隔授業に切り替える可能性がある。

第1回:比較教育学とは
第2回:比較教育学の方法①
第3回:比較教育学の方法②
第4回:教育における伝統と革新
第5回:世界の教育課程・教育文化
第6回:教育問題の国際比較
第7回:学力問題の国際比較
第8回:高等教育の国際比較
第9回:教員養成制度の国際比較－グループ発表①
第10回:入試の国際比較－グループ発表②
第11回:才能教育の国際比較－グループ発表③
第12回:就学前教育の国際比較－グループ発表④
第13回:教科書制度の国際比較－グループ発表⑤
第14回:オルタナティブ教育の国際比較－グループ発表⑥

●事前・事後学習の内容

当該トピックに関する参考書や資料を提示するので、予習及び発展的に学習してください。

●評価方法

期末レポート(70%)とグループ発表(30%)を総合して評価する。
期末レポートは仮提出－担当教員によるコメント－修正－本提出の手続きをとる。
評価の観点は以下の通り。
比較教育学の研究方法を理解出来る／諸外国の教育動向を説明できる／海外との比較を通じて日本の学校教育の持つ特質を見いだすことが出来る

●受講生へのコメント

これまで受けてきた皆さんの教育経験について、講義中にディスカッションを行います。また、授業時間以外にインターネット等で文献を調べたり、グループ発表のための打ち合わせ・ディスカッションをすることを前提に授業を進めます。

●参考文献・教材

授業中に提示する資料を参照。
参考資料:二宮皓(2013)『新版世界の学校』学事出版、比較教育学会『比較教育学研究』各年版、文部科学省『諸外国の教育動向』各年版。

授業科目名	科目NO.	LBEDU3204	授業コード	L223060010	
教育学研究法Ⅰ Research Methods in Education Ⅰ			単位数	2 単位	
授業形態 講義	担当教員名 添田　晴雄				

●科目の主題

「教育」「教育学」を研究対象として捉えるための基礎的なトレーニングとして、研究のテーマやトピックの設定の仕方、教育・教育学の概念、論文の読み方と書き方、文献・資料の検索に関わる基本的な事柄を学ぶ。

●到達目標

到達目標は以下の3点である。

(1)「教育」に関わる課題意識をもつこと。

(2)課題意識を「研究」に結びつけること。

(3)課題を実証的に検討する手法を身につけること。

(4)教育学のミニ論文を書いてみること。

●授業内容・授業計画

課題意識を形にし、それをミニ論文にしていく過程を経験する。

第1回 オリエンテーション 「教育学」の諸領域

第2回 学術情報総合センターを知る

第3回 課題意識を形にする(1)

第4回 課題意識を形にする(2)

第5回 論文の構成要素、引用の意義と形式

第6回 論文購読

第7回 個別中間発表(1)

第8回 個別中間発表(2)

第9回 具体と抽象の振幅

第10回 グループ発表(1)

第11回 グループ発表(2)

第12回 グループ発表(3)

第13回 グループ発表(4)

第14回 授業のまとめ

●事前・事後学習の内容

授業時間以外に学術情報総合センター等で文献を調べたり、グループ内で発表内容の打合せをしたりすることを前提に授業を進める。また、毎回の授業で考えたことをPukiWikiに書き込む課題を課す。各授業の前後の学修がそれぞれ2時間程度となるように課題を調整する。

●評価方法

ミニ論文の内容、講義中に行う発表の評価と授業参加度を加味して評価する。出席の3分の2以上をもって、単位認定の最低要件とする。

●受講生へのコメント

第1回目の授業で、授業内容や履修方法について詳しく説明するので極力欠席しないこと。

授業形態の分類上「講義」としているが、アクティブ・ラーニング的要素を多く取り入れるため、実態は演習に近くなっている。

●参考文献・教材

授業中に学術情報総合センターの機能を駆使して各自が集める

授業科目名	科目NO.	LBEDU3303	授業コード	L223070010	
教育学研究法Ⅱ Research Methods in EducationⅡ			単位数	2 単位	
授業形態 講義	担当教員名 島田　希				

●科目の主題

質的アプローチによる教育研究の基本的な方法論を身につけることを目指す。学校におけるフィールドワークを通じて、授業観察、授業記録の収集、分析手順など、授業研究の方法論を理解する。あわせて、インタビューの方法、手順、留意点についても扱う。

●到達目標

①授業研究やインタビューの方法論について、その意義や留意点を説明することができる。

②上記①をふまえた上で、学校におけるフィールドワークやインタビューを実施することができる。

③質的アプローチによる教育研究の基本的な方法論およびその特徴について説明することができる。

●授業内容・授業計画

授業研究やインタビューなど、質的アプローチによる教育研究の方法について、学校現場におけるフィールドワーク等を行いながら、以下のテーマを中心に考察を深めていく。

第1回 オリエンテーション（質的アプローチによる教育研究の特徴）
第2回 授業研究の方法①参与観察の方法・留意点
第3回 授業研究の方法②映像をもちいた観察演習
第4回 授業研究の方法③授業記録の収集・分析方法
第5回 授業研究の方法④学校現場における授業記録の収集
第6回 授業研究の方法⑤授業記録の整理
第7回 授業研究の方法⑥授業記録の分析結果のまとめ
第8回 インタビューの方法①研究方法としての特徴と留意点
第9回 インタビューの方法②実施、解釈、まとめ方に関する留意点
第10回 インタビューの方法③インタビュー実施にむけた検討（インタビューガイドの作成）
第11回 インタビューの方法④インタビューの実施
第12回 インタビューの方法⑤インタビューデータの整理
第13回 インタビューの方法⑥インタビューデータの分析結果のまとめ
第14回 全体のまとめ

●事前・事後学習の内容

授業中に紹介・配付する資料や参考文献を授業の事前・事後に読むなど、授業内容のさらなる理解に努めること。

●評価方法

授業におけるグループワーク等の取り組み(60%)と期末レポート(40%)により、総合評価する。

●受講生へのコメント

本科目では、講義に加えて、実際に学校現場等における観察、インタビューを実施し、データの整理・分析をグループに分かれて行う。

それらへの積極的な参加を通じて、質的アプローチによる教育研究の基本的な考え方について学んでほしい。

●参考文献・教材

授業中に適宜資料を配布する。以下を主たる参考文献とする。

・箕浦康子（1999）『フィールドワークの技法と実際－マイクロエスノグラフィー入門』ミネルヴァ書房.
・箕浦康子（2009）『フィールドワークの技法と実際Ⅱ－分析・解釈編』ミネルヴァ書房.
・関口靖広（2013）『教育研究のための質的研究法講座』北大路書房.
・柴山真琴（2006）『子どもエスノグラフィー入門－技法の基礎から活用まで』新曜社.

授業科目名	科目NO.	LBEDU3205	授業コード	L223080010	
教育学実習 Field Work in Education			単位数	2 単位	
授業形態 実習	担当教員名 島田　希				

●科目の主題

教育学研究には、授業実践研究など、研究対象・研究方法いずれにおいても教育実践現場に密接した研究分野もあれば、教育哲学などのようにどちらかと言えば思弁的要素の強い研究分野がある。しかしながら、教育の実態や教育実践を踏まえない教育学研究はありえない。大学における教育学研究は、ともすると文献研究、理念研究に偏りがちであり、教育実践現場の経験がほとんどない学生は、現実を踏まえない理想論に終始することが少なくない。そこで、本科目では、大阪市学校支援学生ボランティア制度の機会を利用して学校における教育実践に参加し、教育の現実から教育学を考察しなおす契機とすることを目的とする。受講生には、上記のボランティアに参加し、その経験を教育学的に意義付けるための発表・討論を行い、レポートを作成することが課せられる。

●到達目標

⑴教育現場を教育学の視点から観察したり、聞き取り調査をしたりして、記録をとる。

⑵観察・聞き取り・考察したことをパワーポイントを使って発表する。

⑶他の学生の発表について教育学的に討論することができる。

●授業内容・授業計画

4月に大阪市学校支援学生ボランティアの事前指導を行う。ボランティアはその直後から始めてよい。

第1回　大阪市学校支援学生ボランティア事前指導（前期に行う）

第2回　発表要領とパワーポイントによるプレゼンテーションについて

第3回　モノから読み解く観察校園・学級の特徴（第1回発表）⑴

第4回　モノから読み解く観察校園・学級の特徴（第1回発表）⑵

第5回　モノから読み解く観察校園・学級の特徴（第1回発表）⑶

第6回　モノから読み解く観察校園・学級の特徴（第1回発表）⑷

第7回　着目した子どもと変化を観察する文脈（第2回発表）⑴

第8回　着目した子どもと変化を観察する文脈（第2回発表）⑵

第9回　着目した子どもと変化を観察する文脈（第2回発表）⑶

第10回　着目した子どもと変化を観察する文脈（第2回発表）⑷

第11回　子どもの変化と教師の働きかけ（第3回発表）⑴

第12回　子どもの変化と教師の働きかけ（第3回発表）⑵

第13回　子どもの変化と教師の働きかけ（第3回発表）⑶

第14回　子どもの変化と教師の働きかけ（第3回発表）⑷

●事前・事後学習の内容

授業時間以外に、大阪市立の学校園でボランティアをすること、それを契機に教育実践を観察すること、担当教員に聞き取りを行うことを課す。

また、発表のための準備や打合せを課す。そして、観察や聞き取りで得た知見を内容としたレポートを課す。

●評価方法

発表および討論の取組（60％）と期末レポート（40％）により総合評価する。

●受講生へのコメント

本科目は後期科目であるが、4月にボランティアの登録等の説明（事前指導）を行う。

事前指導の日程等についてポータルサイト等を通じてアナウンスするので、その確認を怠らないよう留意してほしい。

●参考文献・教材

4月の説明会で「教育学実習の手引き」を配布する。

授業科目名	科目NO.	LBEDU3206	授業コード	L223090010
教育学演習Ⅰ Seminar in Education Ⅰ			単位数	2 単位
授業形態	担当教員名			
演習	辻野　けんま			

●科目の主題

人々が生きている社会が複雑化し変化が加速化する中で、「正しい」教育を明確にイメージすることが難しくなっている。むしろ、教育について葛藤し合う様々な観点が存在する。そこで本演習では、教育観の違いが先鋭化するテーマをとりあげ、情報収集や討議を通じて論理をつくりあげる力を身につける。

●到達目標

葛藤する様々な教育観について、事実をふまえつつ比較考量し論理構成できる。

●授業内容・授業計画

第1回　講義(1):教育と権力
第2回　講義(2):公教育と国家
第3回　探究I:教育における権利と責任―資料読解―
第4回　探究I:教育における権利と責任―グループワーク―
第5回　探究I:教育における権利と責任―プレゼンテーション―
第6回　探究I:教育における権利と責任―総括的討議―
第7回　講義(3):公教育と私教育
第8回　講義(4):教育における自律性と他律性
第9回　探究II:公教育と私教育―資料読解―
第10回　探究II:公教育と私教育―グループワーク―
第11回　探究II:公教育と私教育―プレゼンテーション―
第12回　探究II:公教育と私教育―総括的討議―
第13回　講義(5):公教育の射程
第14回　講義(6):ポスト福祉国家時代の教育の探究

●事前・事後学習の内容

初回オリエンテーション時および毎回の授業で適宜指示する。

●評価方法

プレゼンテーションI(3割)、プレゼンテーションII(3割)、レポート(4割)の総計

●受講生へのコメント

本授業では、賛否の分かれる論題をとりあげ、小グループに分かれて、資料の読解・討議からプレゼンテーションまでを行う。最終的には、個人レポートを執筆する。

●参考文献・教材

初回オリエンテーション時および毎回の授業で適宜指示する。

授業科目名	科目NO.	LBEDU3304	授業コード	L223100010	
教育学演習Ⅱ Seminar in EducationⅡ			単位数	2 単位	
授業形態 演習	担当教員名 柏木 敦				

●科目の主題

レポート、論文、研究のまとめかた、教育学研究の基礎、課題の捉え方などを、受講者同士の議論を通じて、各自が考察・検討することを演習の主題とする。

●到達目標

受講者各自が、自分の課題意識を明確にし、それを表現する方法・技法を身につけることを目的とする。

●授業内容・授業計画

この演習は遠隔で行う。

以下に示す概要に従って、発表・討論を行う。

第1回 ガイダンス
第2回 問題意識をどう形にするか:プレゼンテーション・ディスカッション1
第3回 問題意識をどう形にするか:プレゼンテーション・ディスカッション2
第4回 問題意識をどう形にするか:プレゼンテーション・ディスカッション3
第5回 問題意識をどう形にするか:プレゼンテーション・ディスカッション4
第6回 問題意識を絞り込む:プレゼンテーション・ディスカッション1
第7回 問題意識を絞り込む:プレゼンテーション・ディスカッション2
第8回 問題意識を絞り込む:プレゼンテーション・ディスカッション3
第9回 問題意識を絞り込む:プレゼンテーション・ディスカッション4
第10回 「論」の流れをつくる:プレゼンテーション・ディスカッション1
第11回 「論」の流れをつくる:プレゼンテーション・ディスカッション2
第12回 「論」の流れをつくる:プレゼンテーション・ディスカッション3
第13回 「論」の流れをつくる:プレゼンテーション・ディスカッション4
第14回 演習の振り返り

●事前・事後学習の内容

事前学習:予め用意された発表資料を読み、自分なりに関連事項について調べておくこと。課題に関するレジュメ・メモを作成すること。

事後学習:議論およびレジュメの内容を自分なりにまとめ、議論した内容の今日的意義を考えておくこと。

●評価方法

演習参加状況(発言状況が主となる)20%、毎回提出するレジュメ80%で評価する。発言がない場合は、出席扱いにはならない。また事前・事後学習の様子が見られない場合、マイナス評価がつく。

●受講生へのコメント

毎回、受講者全員に発言を求める。評価方法の項にある通り、発言がない場合は出席とはみなさない。

●参考文献・教材

授業内容・授業計画に示した文献全て。

なお参考文献としては、現代の貧困・格差問題、また教育政策批判の視点を養うための資料として、以下の資料集を見ておくのが望ましい。

大阪児童愛護連盟『子供の世紀』(六花出版復刻版、全15巻)、六花出版、2015～2017年。

荻野富士夫編『文部省思想統制関係資料集成』(全11巻)、不二出版、2007～2008年。

授業科目名	科目NO.	LBEDU3207	授業コード	L223110010	
教育学演習Ⅲ Seminar in EducationⅢ			単位数	2 単位	
授業形態 演習	担当教員名 島田　希				

●科目の主題

戦後の特色ある教育実践や教育の今日的課題を扱った文献を読み解きながら、教育方法をめぐるキーコンセプトや論点について理解を深めていく。

あわせて、多様な文献や資料を読み解き、受講生相互にディスカッションを重ねることにより、多面的な見方を身につけることを目指す。

●到達目標

①教育方法をめぐるキーコンセプトについて説明することができる。

②上記①をふまえつつ、戦後の特色ある教育実践の意義や課題を分析することができる。

③上記①②をふまえた上で、21世紀型の学びの創造にむけた検討課題について考えをまとめることができる。

●授業内容・授業計画

戦後の特色ある教育実践を読み解くことを通じて、教育方法に関する諸概念について考察する。以下のテーマを中心に扱いつつ、最終的には21世紀型の学びに関する検討へとつなげていく。

第1回 オリエンテーション
第2回 戦後の特色ある教育実践を読み解くキーコンセプトの検討
第3回 生活とのつながりを重視した教育実践の分析①
第4回 生活とのつながりを重視した教育実践の分析②
第5回 科学的な見方・考え方を育む教育実践の分析①
第6回 科学的な見方・考え方を育む教育実践の分析②
第7回中間まとめ（第3～6回の内容についての総括的なディスカッション）
第8回 学力の保障をめざした教育実践の分析①
第9回 学力の保障をめざした教育実践の分析②
第10回 綿密な教材研究に支えられた教育実践の分析①
第11回 綿密な教材研究に支えられた教育実践の分析②
第12回 21世紀型の学びの創造にむけた検討①
第13回 21世紀型の学びの創造にむけた検討②
第14回全体のまとめ

●事前・事後学習の内容

授業中に紹介・配付する資料や参考文献を事前・事後に読むなど、授業内容のさらなる理解に努めること。

●評価方法

授業時の発表、ディスカッションへの参加、小レポート(60%)と期末レポート(40%)により、総合評価する。

●受講生へのコメント

本科目では、以下に挙げる教材や資料をグループで読み解き、発表してもらう。それをもとに受講生相互にディスカッションを行う。

受講生には課題となる教材のみならず、関連する資料等を自ら調べ、発表の準備を整えるなど、積極的な参加を求める。

●参考文献・教材

以下を主たる教材とする。あわせて、関連する教材、資料については授業中に適宜紹介する。

・田中耕治編著（2005）『時代を拓いた教師たち－戦後教育実践からのメッセージ』日本標準.

・田中耕治編著（2009）『時代を拓いた教師たちⅡ－実践から教育を問い直す』日本標準.

授業科目名	科目NO.	LBEDU3305	授業コード	L223120010	
教育学演習Ⅳ Seminar in EducationⅣ			単位数	2 単位	
授業形態 講義	担当教員名 森 久佳				

●科目の主題

本演習は、 子どもの格差・貧困と教育をテーマに、教育学 (とりわけ教育方法学)における研究的なアプローチの理解とその深化を目指す。 具体的には、課題文献をそれぞれグループで講読の上、その内容を授業時に発表することになる。なお、ここでいう発表とは、 単に課題文献の内容を発表するのではなく、他の演習の出席者が理解できるように発表内容の工夫等を行うことを意味する。そのため、入念な準備が必要になると思われるので、 その心づもりで出席してもらいたい。

●到達目標

(1) 子どもの格差・貧困に関する基本的な知識や考え方を習得する

(2) 教育学 (とりわけ教育方法学) に関するテーマを研究するアプローチについて理解する

●授業内容・授業計画

子どもの格差 ・ 貧困を中心的なテーマとする文献の講読と発表を通して、 教育学 (とりわけ教育方法学) における基本的な知識や考え方の習得を目指す。 その上で、 関連する研究論文等の文献の講読に進む予定である。

第1回 オリエンテーション (授業の進め方などの説明)
第2回 子どもの格差・貧困の現状①
第3回 子どもの格差・貧困の現状②
第4回 子どもの格差・貧困の現状③
第5回 子どもの格差・貧困の現状④
第6回 子どもの貧困対策と教育支援①
第7回 子どもの貧困対策と教育支援②
第8回 子どもの貧困対策とスクールソーシャルワーク①
第9回 子どもの貧困対策とスクールソーシャルワーク②
第10回 教育と福祉の連携①
第11回 教育と福祉の連携②
第12回 教育と福祉の連携③
第13回 教育と福祉の連携④
第14回 格差 ・ 貧困から問い直す公教育の可能性
定期試験は実施しない。

●事前・事後学習の内容

使用するテキスト及び関連文献の講読

●評価方法

・授業への参加状況と発表及び提出物(40%)
・期末レポート (60%)

●受講生へのコメント

主体的・自律的に学ぶことを重視する。

●参考文献・教材

<テキスト>山野良一 (2008)『子どもの最貧国 ・ 日本 : 学力 ・ 心身 ・ 社会におよぶ諸影響』光文社新書. 山野良一(2014)『子どもに貧困を押しつける国・日本』光文社新書. 阿部彩 (2014)『子どもの貧困Ⅱ : 解決策を考える』岩波新書. 松本伊知朗(2019)「なぜ、どのように、子どもの貧困を問題にするのか」松本伊知朗・湯澤直美編著『生まれ、育つ基盤:子どもの貧困と家族・社会』(シリーズ子どもの貧困①)明石書店. 末冨芳(2017)「子どもの貧困対策と教育支援」『子どもの貧困対策と教育支援:より良い政

策・連携・協働のために』明石書店. 堅田香織里(2019)「『子どもの貧困』再考:『教育』を中心とする『子ども貧困対策』のゆくえ」佐々木宏・鳥山まどか編著『教える・学ぶ:教育に何ができるか』(シリーズ子どもの貧困③)明石書店. 横井葉子(2017)「スクールソーシャルワーカーを活かした組織的・計画的な支援:義務教育の学校からのアプローチ」『子どもの貧困対策と教育支援:より良い政策・連携・協働のために』明石書店. 金澤ますみ(2019)「『学校以前』を直視する:学校現場で見える子どもの貧困とソーシャルワーク」佐々木宏・鳥山まどか編著『教える・学ぶ:教育に何ができるか』(シリーズ子どもの貧困③)明石書店. 柏木智子(2017)「ケアする学校教育への挑戦:排除に抗するカリキュラム・マネジメント」『子どもの貧困対策と教育支援:より良い政策・連携・協働のために』明石書店.
西田芳正(2012)『排除する学校・排除に抗する学校』大阪大学出版会. 山野則子(2018)『学校プラットフォーム:教育・福祉、そして地域の協働で子どもの貧困に立ち向かう』有斐閣.
＜参考文献＞以下の他にも随時紹介する。日本財団子どもの貧困対策チーム (2016)『徹底調査 子どもの貧困が日本を滅ぼす : 社会的 損失 40 兆円の衝撃』文春新書. 赤林英夫・直井道生・ 敷島千鶴編著 (2016)『学力 ・ 心理 ・ 家庭環境の経済分析 : 全国小中学生の追跡 調査から見えてきたもの』有斐閣. 埋橋孝文・矢野裕俊編著(2015)『子どもの貧困／不利／困難を考えるⅠ:理論的アプローチと各国の取組み』ミネルヴァ書房. 埋橋孝文・大塩まゆみ・居神浩編著(2015)『子どもの貧困／不利／困難を考えるⅡ:社会的支援をめぐる政策的アプローチ』ミネルヴァ書房. 柏木智子・仲田康一(2017)『子どもの貧困・不利・困難を越える学校:行政・地域と学校がつながって実現する子ども支援』学事出版. 金子充(2017)『入門 貧困論:ささえあう／たすけあう社会をつくるために』明石書店. 鈴木康裕他(2018)『子どもの貧困に向き合える学校づくり:地域のなかのスクールソーシャルワーク』かもがわ出版. 日本教育方法学会編 (2014)『教育方法学研究ハンドブック』学文社. 松本伊智朗他編著(2016)『子どもの貧困ハンドブック』かもがわ出版. 耳塚寛明編 (2014)『教育格差の社会学』有斐閣アルマ. 山田哲也 (2016)「格差 ・ 貧困から公教育を問い直す」志水宏吉編『社会の中の教育』(岩波講座 教育 変革への展望 第 2 巻) 岩波書店. 山野良一 (2016)「発達格差の中の子どもたち : 保育と文化資本の観点から」秋田喜代美編『変容する子ど もの関係』(岩波講座 教育 変革への展望 第 3 巻) 岩波書店.

授業科目名	科目NO.	LBEDU3307	授業コード	L223140010	
教育行政学 Educational Administration			単位数	2 単位	
授業形態 講義	担当教員名 辻野　けんま				

●科目の主題

人間の発達を社会全体としてどのように保障していくのか、そのためにどのような制度が求められるのか、このような問題を考えることが本授業のテーマである。学校はじめ教育が営まれるさまざまな機会に影響を与える法や制度は、「子どもをどう育てるか」等の〈ミクロな教育実践〉に対して「家庭の教育格差をどう是正するか」「学校ごとの教育の質をどのように保証するか」等の〈マクロな規定要因〉となっている。学校はじめ教育が営まれるさまざまな場がおかれているマクロな文脈（制度や政策など）についての視野をもつことで、「教育改革」の潮流を読み解き教育経営の思考力を磨く。

●到達目標

ミクロな教育の営みをマクロな制度との関わりから捉えられる。

●授業内容・授業計画

第1回　教育行政学へのいざない
第2回　学校教育の法と制度
第3回　諸外国の教育行政
第4回　学級・授業と教育行政
第5回　教職員と教育行政
第6回　中央の教育行政
第7回　地方の教育行政
第8回　社会教育と教育行政
第9回　家庭教育・保育と教育行政
第10回　教育行政における公・私の問題
第11回　教育課程行政
第12回　教育財政の制度
第13回　教育行政の改革課題
第14回　総括的討議

●事前・事後学習の内容

初回授業でのオリエンテーションや毎回の授業時に適宜支持する

●評価方法

レポート70％、平常点30％を総合的に評価する。

●受講生へのコメント

教育行政というテーマは一見すると親しみをもちにくいが、それが扱う対象は学校だけでなく社会教育や家庭教育、さらには個人の自由な学びへと広がっている。教育に関する経験は一人一人異なるが、それら個人的な経験がいずれも教育行政学の研究の対象になりうるという面白さを伝えたい。

●参考文献・教材

特に指定しない。レジュメにしたがって講義を進める。

授業科目名	科目NO.	LBEDU3208	授業コード	L223150010
教育史 History of Education			単位数	2 単位
授業形態 講義	担当教員名 柏木 敦			

●科目の主題

近代公教育の形成・展開の過程について、主として日本近代における学校教育制度の成立過程を概観する。本講義では特に義務教育制度の成立、展開過程を中心に講義を進め、日本近代において「学校に通う」ということ、「学校で学ぶ」ということがどのような形で日本の人々の学習のありようや生活のありようを変えていったのかということを考えてゆく。

●到達目標

以下の三点を到達目標とする。

(1)日本の教育制度政策の展開過程を、史料に基づいて理解してゆく。

(2)教育の歴史的な出来事を実証する史資料について知る。

(3)「学校に通う」「学校で学ぶ」ということの意味について、歴史的経緯を踏まえた考え方を持つ。

●授業内容・授業計画

この講義は遠隔で行う。

以下のような内容で授業を進める。

第1回 ガイダンス

第2回 学校がない頃の子どもの学び方

第3回 学校教育のはじまり～「学制」と学校制度のはじまり

第4回 小学校教育の展開

第5回 中等教育の形成

第6回 御真影と教育勅語

第7回 実業教育の展開

第8回 義務教育無償制の成立

第9回 子どもの労働環境と教育制度

第10回 「特別教育」「特殊教育」の流れ

第11回 大正デモクラシーと子どもの教育

第12回 戦時下の教育

第13回 敗戦後の教育改革

第14回 戦後における子ども

●事前・事後学習の内容

事前学習:事前配布するレジュメ・資料を、講義までに読んでおくこと。また参考文献を部分的にでも読んでおくのが望ましい。

事後学習:当該講義で扱った史的事項の今日的意義を自分なりに考えておくこと。

●評価方法

課題レポート(60%)、講義へのコメント(40%)の総合評価による。

●受講生へのコメント

学校教育制度の形成過程や日本近現代史に興味をもって受講するのが望ましい。

なお第一回目の講義で、講義内容や成績評価の詳細をアナウンスするので、第一回目の講義は必ず出席すること。

●参考文献・教材

教材はレジュメ・資料を配付する。その他参考文献については授業中に適宜紹介するが、当面、以下のものを挙げておく。

石川松太郎『往来物解題辞典』解題編・図版編、大空社、2001年

金馬国晴　安井一郎『戦後コア・カリキュラム研究資料集』東日本編、クロスカルチャー出版、2018年

金馬国晴　安井一郎『戦後コア・カリキュラム研究資料集』西日本編、クロスカルチャー出版、2019年
東京都立研究所編『戦後東京都教育史』上（教育行政編）中（学校教育編）下（社会教育編）、1964-1967年
奈良県教育百二十年史編さん委員会『奈良県教育百二十年史』 本編・資料編、1995年
日本教職員組合『日教組五十年史』労働教育センター、1997年
日本教職員組合『日教組五十年史資料集』労働教育センター、1997年
三好学編『授業日誌』上・下、岩村町教育委員会1993年

授業科目名	科目NO.	LBEDU3209	授業コード	L223160010
教育メディア論 Theory and Practice of Educational Media			単位数	2 単位
授業形態 講義／演習	担当教員名 深見　俊崇			

●科目の主題

学校現場におけるICT環境の整備に伴い，ICTを各教科等の指導で用いるだけでなく，児童・生徒の情報活用能力を育成することが教師に求められている。そのため，教師は，授業等において自らがICTを活用するに留まらず，児童・生徒が主体的にICTを活用できる授業や学習環境をデザインせねばならない。

また，海外においては，インターネットによる教育の変化やプログラミングやゲームを用いた創造的な実践等の新しい試みが様々に見られるようになっている。

本講義では，授業等においてICTを積極的に活用し，児童・生徒の情報活用能力を育むための基礎的な知識やフレームワークを身に付けることを第1の目的とする。そして，海外における教育実践を踏まえ，日本における教育そのもののあり方を再考することを第2の目的とする。

●到達目標

情報活用能力の育成を踏まえた児童・生徒の主体的なICT活用につながる学習方法や学習環境を提案できる。インターネットがもたらす教育の変化やプログラミングやゲームを用いた創造的な実践の可能性を考察できる。ペアやグループでの制作活動を通じて21世紀型スキルを基盤とした学習プロセスのイメージを獲得できる。

●授業内容・授業計画

基本、対面授業とする。

各回の内容は以下の通りである。

第1回　情報とメディア
第2回　情報教育とICT活用
第3回　ICT活用の実際（海外の動向を踏まえて）
第4回　ICT活用の実際（国内の実践事例）
第5回　情報モラルからデジタル・シティズンシップへ
第6回　メディア・リテラシー
第7回　メディア・リテラシーの視点を踏まえた制作活動
第8回　メディア・リテラシーの視点を踏まえた制作活動／発表会
第9回　プログラミング教育
第10回　プログラミングの実践
第11回　プログラミングの実践／成果発表会
第12回　ゲームと教育
第13回　インターネット社会における教育のあり方
第14回　21世紀に求められる教育

●事前・事後学習の内容

集中講義開始までに「教育の情報化に関する手引」を読んでおくこと。

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/mext_00117.html

すべて読むのが理想的だが、かなりのボリュームがあるので以下の部分については必ず目を通すこと。

一、第2章、第3章、第4章第1節・第2節、第6章

一、第4章第3節以降の小・中・高のいずれかの教科等を選んで校種ごとを比較しながら確認する。

●評価方法

授業における課題（50%）＋レポート（50%）授業における課題は以下の通り・ディスカッション等についての取り組み（ワークシート）

・毎回の授業に関するふり返りコメント（Webフォーム）
・制作課題（作品の評価）
・プログラミング課題（作品の評価）
レポートの内容については講義中に伝える。

●受講生へのコメント

毎回の講義では，それぞれのテーマについて受講者間で議論するので，積極的に参加してもらいたい。
また，映像制作等ペアもしくはグループで取り組む課題がいくつか設定しているので，チームでの協働が不可欠である。
ICTをいかに活用するかに留まらず，教育そのものを再検討する講義を目指すため，教育について幅広く考えてみたいという人も受講を歓迎したい。

●参考文献・教材

教材：プリント・配付資料を配付する。
参考文献：
コリンズ・ハルバーソン（稲垣忠編訳）（2012）『デジタル社会の学びのかたち』，北大路書房
サルマン・カーン（2013）『世界はひとつの教室』，ダイヤモンド社
ジェイン・マクゴニガル（2011）『幸せな未来は「ゲーム」が創る』，早川書房

授業科目名	科目NO.	LBEDU3308	授業コード	L223170010	
教育学特講Ⅰ Special Lecture on Education Ⅰ			単位数	2 単位	
授業形態 講義	担当教員名 西村　拓生				

●科目の主題

思想史研究と教育の現実

●到達目標

教育実践にとって思想を学ぶことの意義を理解すること。

●授業内容・授業計画

担当教員が行ってきた「美と教育」に関する研究と物語り論的な臨床教育学研究を紹介することを通して、思想史研究と教育の現実とのつながりを考える。

第1回：問いの所在――思想史研究と教育の現実
第2回：「美と教育」という問題――思想史的概観
第3回：ポストモダンの時代の「美と教育」
第4回：プリズムとしてのシラー『美育書簡』
第5回：シラー解釈の諸相
第6回：仮象としての美
第7回：仮象論と物語り論
第8回：教育の物語り論の文脈――ポスト冷戦期教育学と臨床教育学
第9回：物語り論の理論――リクールを中心に
第10回：物語り論的授業研究の試み
第11回：物語りと公共性
第12回：公共性と美――シラーとハーバーマス
第13回：物語りの彼岸
第14回：おわりに――実践において生成する理念

●事前・事後学習の内容

事前学習：集中講義の各ユニット毎に、事前に配布した文献を読んでおくこと。

事後学習：集中講義の各ユニット毎に、講義内容に関する自分の理解をまとめた上で、疑問点、感想を書いてミニレポートとして提出すること。

●評価方法

最終レポート（100％）

●受講生へのコメント

「美」と「物語り」をキーワードに、教育の思想（史）研究と現実との往還の中で考えてきたことをお話ししたいと思っています。いくつかある「引き出し」の中から何を取り上げるのかは、初回に受講者の皆さんの関心をお聞きして決めます。

●参考文献・教材

テキスト

特に使用しない

参考書・参考資料等

・『教育思想史コメンタール』教育思想史学会、2010年
・矢野智司・鳶野克己編『物語の臨界――「物語ること」の教育学』世織書房、2003年
・皇紀夫編『「人間と教育」を語り直す――教育研究へのいざない』ミネルヴァ書房、2012年
・西村拓生『教育哲学の現場――物語りの此岸から』東京大学出版会、2013年

・西村拓生『「美と教育」という謎――プリズムとしてのシラー『美育書簡』』東京大学出版会、2021年

授業科目名	科目NO.	LBEDU3309	授業コード	L223180010
教育学特講Ⅱ Special Lecture on EducationⅡ			単位数	2 単位
授業形態	担当教員名			
講義	髙谷　哲也			

●科目の主題

・本講義では、学校教育や教員が直面している課題やそれに対する自身の考えや世の中の議論を対象に、その基盤にある考え方の妥当性を様々な観点から論考することを通して、教師研究や教育学研究が蓄積してきた専門的知見と専門的な議論の作法を学ぶ。

・学校教育や教員のあり方をめぐって、世の中では様々な主張・議論が展開されている。その中で、授業づくりに関するもの、学校のあり方や危機に関するもの、生徒指導の背景にある文化・価値観に関するもの、教師の成長に関するものをとりあげ、各種議論における主張の背景にある論理や価値観等を確認していく。それに対し、教育学分野で蓄積されてきた研究知見に基づくとどのような問いが生起するのかを学び、自身の考えを専門的な知見に基づいてまとめ、論理的かつ複眼的に表現することのできる専門的見識を身につけてもらう。

・本科目は、講義、対話、課題演習、映像視聴、ワークショップ等の学習活動を組み合わせながら進める。

・様々な学習形態と学習課題に挑戦することを通して、対話や演習をファシリテートする技術や意見の交流方法など、他者との間で新たな知が創出されるような上質な学びを自分たちで生み出す方法等も、獲得してもらいたい。

●到達目標

学校教育や教師のあり方をめぐる各種の議論・主張の特徴を理解するとともに、本質的な課題を見出し考察・論考を進めていくことのできる専門的見識を身につける。主な到達目標は以下の通り。学校教育が直面している課題の特徴を把握する教師に求められる専門性の特徴を理解する学校や教師のあり方を常に問い直し続けることのできる思考スタイル、教育学的なものの見方、考え方、批判的思考力や複眼的思考力を獲得する

●授業内容・授業計画

本科目は対面による集中講義にて実施する予定である。

第1回 オリエンテーション：自身の「良い学校」「教師の成長」イメージと向き合う
第2回 論考1「学校において子どもたちはどのような学びを経験しているか」
第3回 子どもたちが経験する学校生活と隠れたカリキュラム
第4回 論考2「教育における暴力・暴言はなぜなくならないか」
第5回 ブラック校則・ブラック部活動からみえる学校文化
第6回 成長主体としての子どもの可能性と子どもの権利
第7回 論考3「教師の成長とはどのような変化か」
第8回 子どもという存在と教育者の役割
第9回 教えることと学ぶことの関係と「教育」の危険性
第10回 論考4「子どもたちは教師の何をみているか」
第11回 教育学研究の特徴と魅力
第12回 論考5「子どもたちはどのように学びを進めていくか」
第13回 学校教育の果たす役割と学校づくり
第14回 新たな学びを創出する学校と教師の専門性

●事前・事後学習の内容

・事前学習として、翌日の講義において議論するテーマについて自身の考えを深め、整理してきてもらう。

・事後学習として、受講した講義内容に関連する資料を読み、自身の考えや論点を整理し、講義ポートフォリオを作成する学習に取り組んでもらう。

・集中講義全日程終了後、全体を通して学んだこと、考えたこと、新たに有した問いなどを整理し、レポートにまとめてもらう。

●評価方法

1. 講義内の対話や演習への積極的参加ならびに対話促進への貢献度:20%

2. 講義ポートフォリオとしての「記録シート」の内容充実度:40%

3. 「ふりかえりレポート」の内容充実度と自己分析の深さ:40%

●受講生へのコメント

・本講義は、講義、対話、課題演習、映像視聴、ワークショップ等を組み合わせながら進めます。

・集中講義3日目と4日目には、鹿児島大学教育学部の学生との交流学習を予定しています。

・本講義の受講にあたって、教育学に関する専門的な知識の多寡は問いません。教育学を専門としている人に限らず、学校教育や教師に関心のある人の受講を大いに歓迎します。

・自身の意見を論理的に述べる方法、自分たちで自分たちの学びを創っていく方法、対話をファシリテートする技術等を学びたい人の参加も歓迎します。

●参考文献・教材

講義中に資料を配付する。

授業科目名	科目NO.	LBGEO3201	授業コード	L224010010	
地理学概論 I General Geography I			単位数	2 単位	
授業形態 講義	担当教員名 佐久真 沙也加				

●科目の主題

本講義では大きく、「政治地理学がたどってきた道」、「空間・場所・領域」、「コンテクスト／スケール／言説の政治」、「理論に根差した事例研究へ」の4つのテーマを通して「政治地理学とは何か」を考えます。政治地理学の視角、分析方法、そして事例研究について解説します。

●到達目標

本講義では次のとおり、テーマごとに理解目標を設定します。①政治地理学の展開を批判的に振り返り、歴史的背景を理解すること②空間・場所・領域について説明でき、政治地理学におけるその重要性を理解すること③地理的文脈、スケール、空間と場所をめぐる言説の関わりについて理解すること④事例研究を通してこれまでの理論的・概論的考察を応用する可能性と課題について理解すること。政治と地理的要因の結びつきを理解することで、私たちの身の回りでおこる政治的事象に対する理解を深めることを目指します。

●授業内容・授業計画

本講義は遠隔により実施します。「政治地理学がたどってきた道」、「空間・場所・領域」、「コンテクスト／スケール／言説の政治」、「理論に根差した事例研究へ」の4つのテーマを通して政治地理学の理論と分析方法を理解します。

各週のトピックは以下のとおりです。

第1回　講義オリエンテーション
第2回　政治地理学がたどってきた道その1「政治地理学の起源と地政学の盛衰」
第3回　政治地理学がたどってきた道その2「戦後の政治地理学―その日本的展開」
第4回　政治地理学がたどってきた道その3「政治地理学の展開と課題」
第5回　空間・場所・領域その1「空間分析批判」
第6回　空間・場所・領域その2「場所の政治的意味」
第7回　空間・場所・領域その3「人間の領域性」
第8回　空間・場所・領域その4「グローバル化とナショナリズム」
第9回　コンテクスト／スケール／言説の政治その1「コンテクストの政治」
第10回　コンテクスト／スケール／言説の政治その2「スケールの政治」
第11回　コンテクスト／スケール／言説の政治その3「言説の政治」
第12回　理論に根差した事例研究へその1「政党の編成と投票行動」
第13回　理論に根差した事例研究へその2「領域と社会運動」
第14回　理論に根差した事例研究へその3「自由研究アイディア発表」

●事前・事後学習の内容

WebClassを用いて講義日当日までに講義スライドを提供します。各自該当する章を読んで事前学習としてください。各テーマごとに実施される小テスト対策として講義スライドを用い、各自テストの結果を振り返ることで事後学習としてください。

●評価方法

本講義ではすべての課題を通して合計1000ポイント（100％）となるように配分されています。各課題と評価方法の詳細は以下のとおりです。

（1）リーディングコメント・レスポンス（評価配分50％）

講義日にWebClassに音声付講義ファイルをアップロードしますので必ず目を通してください。次回講義前の水曜日朝までにコメント800字程度をWebClassの掲示板に入力してください。また、次回講義までにクラスメイト3人のコメントを選びレスポンスを書き込んでく

ださい（各週50ポイント）。締め切りよりも早くコメントを提出した受講生の先着3名には2ポイントの加点をします。決められた時間を超えたコメント・レスポンスの入力は減点の対象となります。コメントのみ、レスポンスのみの入力は評価の対象になりません。各週の課題の詳細は講義スライドで説明します。

（2）テーマごとの小テスト（評価配分30％）

講義内で扱うテーマごとに小テストを3回行います。評価配分は各100ポイントで合計300ポイントです。小テストを行う週はリーディングコメント・レスポンスの課題はありません。各小テストの詳細は講義スライドで説明します。

（3）自由研究アイディア・フィードバック（評価配分20％）

WebClass上で政治地理学の事例研究のアイディアを発表し、クラスメイトとフィードバック（評価・感想）を交換します。各受講生は講義内で説明した理論や分析方法を用いて自分だったらどのような研究をしてみたいかを記述します。（実際に調査し研究レポートを書くのではなく、問題設定、理論、分析方法を説明することが課題となります）課題の詳細は講義スライドで説明します。

（4）大学の規定に基づき評点が全体の60％（600ポイント）以上の受講生を合格とします。

（5）不正行為　課題等の不正提出や不正作成（盗作）、そのほか不正行為が認められた場合は、その時点で厳正な処置を行い、所属学部に報告します。チャットや掲示板での迷惑行為についても同様の処置を行います。

●受講生へのコメント

毎週講義内容と課題についての詳細を講義スライドで説明しますので、各自必ず確認してください。体調不良等でテストへの参加ができない場合はその証明となる書類（医療費領収書や診断書のコピー）を送信していただければ追試を実施します。講義に関する教員からの連絡や指示はWebClassからお知らせします。受講生からの質問や意見はメールでご連絡ください。

●参考文献・教材

本講義のテキストは山﨑孝史（2013）『政治・空間・場所―「政治の地理学」にむけて［改訂版］』（ナカニシヤ出版）です（旧版ではありませんのでご注意ください）。受講生は入手しておいて下さい。それ以外に必要な教材はWebClass等を通して指示します。

授業科目名	科目NO.	LBGEO3202	授業コード	L224020010	
地理学概論Ⅱ General Geography Ⅱ				単位数	2 単位
授業形態 講義	担当教員名 麻生　将				

●科目の主題

この授業では「文化」「国家」「伝統」などの表象・言説が実は政治的に創造・管理されているということと、それを地理学的な観点から読み解くことが可能であるという点をいくつかの事例を通して考えていきます。すなわち、文化というものが所与のものではなく、政治的に創造され、管理されていくものであり、文化の背後にある政治的な要因や力によって空間が創造され、影響されていくという点を明らかにするのが本講義の主題です（したがって、本講義は人文地理学の中でも主に文化地理学、社会地理学、政治地理学の各領域を中心に展開します）。

●到達目標

一見すると所与のものとして捉えられがちな「文化」「国家」「伝統」といった概念について、そこにいかに政治的・社会的な力が働いているか、そこからどのような人々（と彼らに関わる事柄）がいかに排除されながら我々を取り巻く空間や景観が形成されてきたかについて、批判的な眼差しを持って考え、捉える観点ないしはスキルを身に付けることを到達目標とします。

●授業内容・授業計画

第1回　イントロダクション―講義全体の構造
第2回　排除の地理学―地理学の社会問題へのコミットと排除の関係について
第3回　「日本文化」という表象と京都―京都は日本文化の中心か？
第4回　「郷土」／「伝統」という概念―近代に創られた「郷土」・「伝統」
第5回　好まれる空間／好まれない空間　の逆転
第6回　安全安心のまちづくりとコミュニティ・ポリシング
第7回　ギャンブル空間にみる社会的排除とジェンダー
第8回　ジェンダーをめぐる排除と空間
第9回　パリ・マレ地区の開発とユダヤ人
第10回　近代化遺産をめぐるポリティクス
第11回　宗教集団の排除と景観（1）―岐阜県大垣市のプロテスタント教会の事例
第12回　宗教集団の排除と景観（2）―鹿児島県奄美大島のカトリック教会の事例
第13回　宗教集団の排除と景観（3）―熊本県阿蘇地方の聖公会の事例
第14回　宗教集団の排除と景観（4）―中近世京都のキリシタンの事例
第15回　試験

●事前・事後学習の内容

次回の内容に関わる参考文献や資料を講義の中で提示しますので、次の時間までに熟読してください。

●評価方法

(1) 出席：毎週の講義には必ず出席して下さい。出席数が2/3（10回）以上の受講生を評価対象とします。病欠などの場合は診断書のコピー等の提出があれば考慮します。

(2) 定期試験（記述式）を実施します。講義の内容を踏まえて論理的・実証的に記述できているかどうかを問います。

●受講生へのコメント

メディア（ニュース、新聞、出版物など）で言われている事柄について、その裏側にある文脈を注意深く読み解く姿勢を持って、日々の報道に触れていただきたいと思います。

●参考文献・教材

教科書は特に指定せず、授業中に資料を配布します。参考文献は授業中に適宜提示します。

授業科目名	科目NO.	LBGEO3203	授業コード	L224030010	
地誌学Ⅰ Regional Geography Ⅰ			単位数	2 単位	
授業形態 講義	担当教員名 菅野　拓				

●科目の主題

本講義では地域の面白さを捉えることを考える。地理学を研究理念や対象へのアプローチの仕方で区分するなら、系統地理学（一般地理学）と地誌学（地域地理学）に分けることができる。系統地理学はある特定のテーマに関して一般化・理論化・法則性発見などの志向性を持つ一方で、地誌学（地域地理学）は特定地域の現象を総合的に把握しその地域の特性を描こうとする。本講義では、地誌学に関する基礎的・一般的な考え方を提示したうえで、国内外の特定地域を取り上げつつ、そうした地域を描出する方法を具体的に検討する。

●到達目標

地域の面白さを捉えられるようになることが究極の目標である。地理学の主要な研究理念やアプローチを理解できるようになり、そのうえで、検討の対象となる地域の選定、地域調査の準備、地域を捉えるためのデータの収集方法などについて理解できるようになることを到達目標とする。

●授業内容・授業計画

本講義は遠隔で実施する。
第1回：イントロダクション
第2回：地誌学と系統地理学
第3回：新しい地誌学
第4回：実際に地域を見る
第5回：実際に地域を描く
第6回：地域の描かれ方1―地域の特殊性
第7回：地域の描かれ方2―構造
第8回：地域の描かれ方3―行為者
第9回：地域の描かれ方4―マクロ・ミクロリンク―
第10回：大阪の描かれ方1―経済的な視点―
第11回：大阪の描かれ方2―政治的な視点―
第12回：大阪の描かれ方3―社会的な視点―
第13回：再び実際に地域を見る
第14回：再び実際に地域を描く

●事前・事後学習の内容

講義中に配布・指示する資料で各自予習・復習すること。必要に応じて紹介する文献、映画などを参照すること。

●評価方法

学期末レポートと平常点（受講態度、授業中の小課題等）によって総合的に評価する。

●受講生へのコメント

特別な予備知識は必要としない。講義を聴けば理解できるように進めるので、集中して授業に望んでほしい。

●参考文献・教材

教科書：使用しない。講義資料に参考文献は記載しているので、関心に応じ参照すること。
参考書：必要に応じて、授業中に紹介する。

授業科目名	科目NO.	LBGEO3204	授業コード	L224040010	
地誌学Ⅱ Regional GeographyⅡ			単位数	2 単位	
授業形態 講義	担当教員名 祖田　亮次				

●科目の主題

本授業では，「第三世界」あるいは「発展途上国」と呼ばれる地域のなかでも，特に，アジア諸地域における国家，地域，民族（エスニシティ）について，各種の研究事例を紹介し，従来の国家像や地域区分では理解できないさまざまな問題や矛盾について考察する。具体的に取り上げる地域は，東南アジアが中心となるが，必要に応じてアフリカや南アメリカの事例とも比較・検討しながら，より深いアジア理解を得ることを目指す。授業のキーワードとしては，国民国家，植民地，開発主義，エスニシティ，人口移動などである。これらのキーワードを具体的事例にもとづいて考察する。

●到達目標

国民国家を相対化する視点，地域を捉えなおす視点を身につけることが，本授業の最終的な目標である。

●授業内容・授業計画

＊この授業は対面を基本としつつ、状況に応じてオンラインで行う場合もある。

本授業では，以下の各テーマについて，1～2回ずつで完結する話題を提供する。

1. イントロダクション
2. 東南アジアとは何か、南アジアとは何か、アジアとは何か？
3. 植民地行政と独立：国民国家とは何か？
4. アジアの開発主義政策
5. 多民族国家の国民統合
6. 国民統合の事例1：地方文化かエスニシティか
7. 国民統合の事例2：揺れ動く民族概念
8. 国民統合の事例3：移民と国民国家形成
9. 小テスト
10. ZOMIA：アジアの平地－山地関係
11. ZOMIA：逃げの文化誌
12. 曖昧な国境線1：越境する山の民
13. 曖昧な国境線2：越境する海の民
14. 国民国家の課題、国民国家の相対化
15. 地域区分、地域認識のあり方とは？

●事前・事後学習の内容

東南アジアやアフリカなど、学生にとって馴染みの薄い地域や話題が数多く出てくるので、予習的な宿題を課して授業の理解の一助としてもらう予定である。

また、授業内で提供した情報をもとに、自分なりの考えをまとめてもらうための宿題を課すこともある。

●評価方法

授業内で書くコメント、授業外の時間に貸す宿題・レポート、授業の参加度合いなどを総合的に判断して評価する。およその配分は以下の通り。出席点：5～10%、宿題・コメントペーパー・小レポート・小テスト：45～50%、期末レポート：35～40%。

●受講生へのコメント

毎回、アンケートや小テスト的なものを書いてもらいます。

1～2回に1回のペースで宿題（小レポート的なるもの）が出ます。それなりにしんどい授業です。

●参考文献・教材

特定の教材は指定しない。授業中にプリントを配布する。参考文献等は，授業中に適宜指示する。

授業科目名	科目NO.	LBGEO3205	授業コード	L224050010	
地理学実験実習Ⅰ Experimental Practice in Geography Ⅰ			単位数	2 単位	
授業形態 実習	担当教員名 祖田　亮次／菅野　拓				

●科目の主題

本実習の目的は地理学の分野において卒業論文を作成していく上で必要な技術と知識の習得です。また、そうした技術が地理学のものの見方・考え方と密接に結びついていることも理解してもらいます。本実習は地理学実験実習Ⅱと並行して開講されるので、合わせて受講してください。本実習Iでは、フィールドワークに必要な技術・作法・資料収集・データ分析を中心に学び、同時並行の実験実習IIでは、GISの考え方と使い方を身につけてもらいます。

●到達目標

フィールドワークとは何かを理解し、地図や資料の収集、読解、分析が可能になること。

●授業内容・授業計画

＊ この授業は基本的に対面で行いますが、状況によりオンラインで実施します。

授業はおよそ以下の計画で進めます。

第1回 イントロダクション
第2回 地図の読み方と描き方1
第3回 地図の読み方と描き方2
第4回 地図の読み方と描き方3
第5回 フィールドワークと地図1
第6回 フィールドワークと地図2
第7回 フィールドワークの方法論1
第8回 フィールドワークの方法論2
第9回 フィールドワークの準備1（資料収集）
第10回 フィールドワークの準備2（資料分析）
第11回 フィールドワークの準備3（調査項目の設定）
第12回 フィールドワークの準備4（アポイントメントの取り方）
第13回 フィールドで収集したデータの使い方1
第14回 フィールドで収集したデータの使い方2
第15回 フィールドで収集したデータの使い方3

●事前・事後学習の内容

フィールドワークの技能の習得や、実際の調査の準備は、授業時間内では完結せず、授業前後の作業が重要になります。毎回、何らかの課題が出ます。課題内容としては、調査対象の探索と選定、調査地の地理情報の収集、聞き取り調査の質問項目の作成、アポイントメントの取得などが含まれます。

●評価方法

各週課題（60%）、レポート課題（40%）で評価します。特に各週課題は怠らずに提出してください。

●受講生へのコメント

今後、地理学の専門課程で学習し、卒業論文を執筆していく上で、これらの技術は不可欠ですので、継続的に作業に取り組んでください。必ず、地理学実験実習Ⅱと同時に受講してください。

●参考文献・教材

必要なリーディング課題は担当者より提供します。作業ファイルの保存のためにUSBメモリーが必要となりますので、各自ご準備ください。

授業科目名	科目NO.	LBGEO3206	授業コード	L224060010	
地理学実験実習Ⅱ Experimental Practice in GeographyⅡ			単位数	2 単位	
授業形態 実習	担当教員名 木村　義成				

●科目の主題

本実習では、地域特性の分析やデータ・サンプリングと調査法、地域住民への質問票の作成や分析について実データを用いて演習形式で学ぶ。

なお、同時並行の実験実習Ⅰにおいても、フィールドワークに必要な技術・作法・資料収集・データ分析を学んでもらうので、必ず実験実習Ⅰも受講すること。

●到達目標

本科目の到達目標は卒業論文を作成していく上で必要な技術と知識の習得である。

本実習では、空間データの作成と編集、GISやGPSの考え方と使い方を学ぶことにより、地理学の研究を行う上で必要な地域統計を用いた統計処理、及び空間解析に関する技術と知識を習得することを目的とする。

●授業内容・授業計画

地理学教室所有のGISやGPSを利用した実習を行う。

本実習は地理学実験実習Ⅰと並行して開講されるので、必ず合わせて受講すること。

第1回 ・イントロダクション
第2回 ・一般地図の作成①
第3回 ・一般地図の作成②
第4回 ・統計地図の作成①
第5回 ・統計地図の作成②
第6回 ・統計地図の作成③
第7回 ・空間データの作成と編集①
第8回 ・空間データの作成と編集②
第9回 ・空間データの作成と編集③
第10回 ・基礎統計量とグラフ表現①
第11回 ・基礎統計量とグラフ表現②
第12回 ・空間解析
第13回 ・GPSを用いた位置情報の取得
第14回 ・空間データの統合利用
第15回 ・総括

●事前・事後学習の内容

実習の1週間前を目途に教材を配布するので、事前に実習の内容を熟読すること。

実習終了後に地図作製などの課題を指示するので、指示に従い課題に取り組むこと。

●評価方法

実験実習という講義の性格上、出席点を最重視する。出席点が80～90%、課題提出点が10～20%の配分で成績評価する。

実習の内容は連続するものであり、欠席すると次回以降、実習に付いて行けなくなる可能性があるので留意すること。

●受講生へのコメント

今後、地理学の専門課程で学習し、卒業論文を執筆していく上で、これらの技術は不可欠なので継続的に作業に取り組むこと。

また、「地理学実験実習Ⅰ」と必ず受講すること。「地理学実験実習Ⅱ」のみの受講は許可しない。

●参考文献・教材

教材・参考文献については、随時紹介する。

授業科目名	科目NO.	LBGEO3301	授業コード	L224070010	
地理学講読演習Ⅰ Reading Seminar in Geography Ⅰ			単位数	2 単位	
授業形態 演習	担当教員名 山﨑　孝史				

●科目の主題

地理学において、外国語は少なくとも英語の能力を磨くことが求められます。なぜなら、学界の最新の研究動向を知るには英語文献の読解力が前提となり、 将来自らの仕事や研究の成果を国際的に発信していく上で英語が鍵を握るからです。本演習ではこうした観点から英語文献の精読とそれに関する文面・口頭発表から構成されます。特に今年度の演習は、本学における「大学の世界展開力強化事業―日米をつなぐ共創的ソーシャルイノベーター育成プログラム 」（文部科学省助成）の一環として、後期に実施されるCOIL型授業「地理学講読演習Ⅱ」の準備演習として位置付けられます。COILとはCollaborative Online International Learningの略でZoomなどのICTを駆使した海外学生との地球規模のコミュニケーションにより、新しい観点や知識とより深い学びを得る教育方法です。後期にはハワイ大学マノア校地理環境学部と連携した授業構築を予定しており、受講生はハワイ大学生とオンライン上で交流できるようトレーニングを積むことになります。

●到達目標

本年度前期の講読演習は、"Political geographies of Pacific islands: Japan-US relations seen from Okinawa and Hawai'i（太平洋島嶼の政治地理―沖縄とハワイからみる日米関係 ）"というテーマで、後期のCOIL型授業でハワイ大学地理環境学部と共有される教材を中心に、英語文献を全員で翻訳・精読し、かつその感想を英文で書くトレーニングを進めます。学期末には一連の学習成果を英文でまとめ、その内容を英語で口頭発表します。以上を通して後期のハワイ大学との交流に必要な語学スキルを養います。

●授業内容・授業計画

各週のテーマは暫定的なもので、ハワイ大との調整を経て確定されます。

Week 1 Introduction to the course
Week 2 Histories and geographies of Pacific islands
Week 3 Ryukyu Kingdom and Japan
Week 4 Japan's modernization and Okinawa Prefecture
Week 5 The Battle of Okinawa and US military administration
Week 6 Japan-US alliance and the reversion of Okinawa
Week 7 Thinking about the current situation of Okinawa
Week 8 Hawaiian Kingdom and the US
Week 9 Annexation and militarization of Hawaii islands by the US
Week 10 Struggles of Hawaiians
Week 11 Thinking about the current situation of Hawaii
Week 12 Similarities and differences between Okinawa and Hawaii
Week 13 What do you lean from these Pacific islands?
Week 14 If you were those islanders, what would you act?
Week 15 Writing an English essay

●事前・事後学習の内容

各週の翻訳課題や英作文は担当者が事前にGoogleドキュメントにアップロードし、教員のチェックを受けます。発表された成果については事後参照できるようGoogleドライブにアップロードします。

●評価方法

(1) 出席：毎週の講義には必ず出席して下さい。出席数が2/3以上の受講生を評価対象とします。欠席の場合は減点しますが、病欠などの場合は診断書のコピー等の提出があれば減点しません。

(2) 翻訳課題：各週の課題文献について、オンライン翻訳サイトを用いて全員で翻訳を進めます。課題の翻訳文と疑問点をGoogleド

キュメントにアップロードして下さい(80点)。
(3) 英作文課題:期末の演習課題について短い英文エッセイを作成し、その内容を発表します。オンライン翻訳サイトを利用して英文を作成した上で口頭発表し、コメントに応じて英文を修正の上提出して下さい(20点)。
(4) それぞれの課題の内容を評価し、総得点60点以上を合格とします。

●受講生へのコメント

翻訳に際してはテキストを一括して機械翻訳するGoogle翻訳やWeblio翻訳がありますので、これらを併用して翻訳や英作文を進めて下さい。その他の連絡はWebClassか教員のホームページ「政治地理のページ」を通して行います。翻訳・英作文などで困ったことがあれば遠慮なく教員に相談して下さい。

●参考文献・教材

課題文献およびシラバスの内容やその変更箇所については、学期開始前は教員ホームページで、学期開始後は授業中に指示し、WebClassに掲示していきます。

授業科目名	科目NO.	LBGEO3302	授業コード	L224080010	
地理学講読演習Ⅱ Reading Seminar in GeographyⅡ			単位数	2 単位	
授業形態 演習	担当教員名 山﨑　孝史				

●科目の主題

地理学において、外国語は少なくとも英語の能力を磨くことが求められます。なぜなら、学界の最新の研究動向を知るには英語文献の読解力が前提となり、 将来自らの仕事や研究の成果を国際的に発信していく上で英語が鍵を握るからです。本演習ではこうした観点から英語文献の精読に基づく文面・口頭発表を中心に構成されます。特に本演習は、前期の「地理学講読演習Ⅰ」をベースに、本学における「大学の世界展開力強化事業―日米をつなぐ共創的ソーシャルイノベーター育成プログラム 」（文部科学省助成）の一環として実施されるCOIL型授業として位置付けられます。COILとはCollaborative Online International Learningの略でZoomなどのICTを駆使した海外学生との地球規模のコミュニケーションにより、新しい観点や知識とより深い学びを得る教育方法です。本演習はハワイ大学マノア校地理環境学部と連携した授業であり、受講生はハワイ大学生とオンライン上で交流します。

●到達目標

後期の講読演習は、前期に続き"Political geographies of Pacific islands: Japan-US relations seen from Okinawa and Hawai'i（太平洋島嶼の政治地理―沖縄とハワイからみる日米関係 ）"というテーマで、COIL型授業としてハワイ大学地理環境学部と共有される教材を中心に、受講生はいくつかのグループに分かれ、相互に協力しながら教材の内容を理解し、議論した上で、その成果を英文で記録します。学期中にSNSやシェアフォルダーを用いて非同期型の授業形式でハワイ大学生とタイムラグを含む意見交換を行います。意見交換で明らかになった論点を次の意見交換で深めていくとともに、学期末には時差を考慮した同期型の授業を実施し、直接意見交換し相互の理解と交流を図る予定です。以上を通して国を超えた社会問題の共有とそれをとらえる新しい視点の獲得を目指し、国際性を養います。

●授業内容・授業計画

各週のテーマとスケジュール暫定的なもので、後期開始前にハワイ大との調整を経て確定されます。

Week 1 Introduction to the course
Week 2 Shared issues of Pacific islands 1
Week 3 Issue 1: opinions from OCU
Week 4 Issue 1: opinions from UHM
Week 5 Shared issues of Pacific islands 2
Week 6 Issue 2: opinions from OCU
Week 7 Issue 2: opinions from UHM
Week 8 Shared issues of Pacific islands 3
Week 9 Issue 3: opinions from OCU
Week 10 Issue 3: opinions from UHM
Week 11 Shared issues of Pacific islands 4
Week 12 Issue 4: opinions from OCU
Week 13 Issue 4: opinions from UHM
Week 14 Online discussion themes
Week 15 Online discussion

●事前・事後学習の内容

各週の翻訳課題や英作文は担当者が事前にGoogleドキュメントにアップロードし、教員のチェックを受けます。発表された成果については事後参照できるようGoogleドライブにアップロードします。授業外でもグループごとに協議の時間を設けることがあります。

●評価方法

(1) 出席：毎週の講義には必ず出席して下さい。出席数が2/3以上の受講生を評価対象とします。欠席の場合は減点しますが、病欠

などの場合は診断書のコピー等の提出があれば減点しません。
(2) 協議課題：ハワイ大と共有される論点や質問を個人ごと、グループごとにまとめ、Googleドキュメントにアップロードして下さい（40点）。
(3) 英作文課題：ハワイ大に提示する質問や回答を英文で作成し、各グループでまとめます。教員の添削を受けた上でハワイ大に提示します（60点）。
(4) それぞれの課題の内容を評価し、総得点60点以上を合格とします。

●受講生へのコメント

翻訳に際してはテキストを一括して機械翻訳するGoogle翻訳やWeblio翻訳がありますので、これらを併用して翻訳や英作文を進めて下さい。その他の連絡はWebClassか教員のホームページ「政治地理のページ」を通して行います。翻訳・英作文などで困ったことがあれば遠慮なく教員に相談して下さい。

●参考文献・教材

課題文献およびシラバスの内容やその変更箇所については、学期開始前は教員ホームページで、学期開始後は授業中に指示し、WebClassに掲示していきます。

授業科目名	科目NO.	LBGEO3207	授業コード	L224090010	
地理学野外調査実習Ⅰ Geographical Field Survey Ⅰ			単位数	2 単位	
授業形態	担当教員名				
実習	祖田　亮次／菅野　拓				

●科目の主題

野外調査実習では、調査の準備と実施、成果の整理と分析という野外調査の一連のプロセスを通じて、文献・資料の収集法、調査テーマの設定手順、聞き取りや観察の技術、収集した情報の整理方法などを学び、フィールドワークに必要な知識と方法を身につけることを目的とする。教員と受講生で設定したテーマに基づいて、自治体、企業、各種団体、住民への聞き取り調査、アンケート調査、観察、写真撮影、作図などを実施する。

●到達目標

フィールドワークの方法論を理解したうえで、実際に現地でどのように行動すべきなのか、実践を通じて習得できるようになる。

●授業内容・授業計画

＊この授業は対面を基本としつつ、状況に応じてオンラインで行う場合もある。

下記の3段階を踏んで、現地調査の準備を行っていく。

第1回 イントロダクション
第2回 調査地域の選定と同地域に関する基本的な文献・地図・資料の輪読1
第3回 調査地域の選定と同地域に関する基本的な文献・地図・資料の輪読2
第4回 調査テーマの選定と調査項目の検討、現地関係機関との調整、調査計画の作成1
第5回 調査テーマの選定と調査項目の検討、現地関係機関との調整、調査計画の作成2
第6回 調査テーマの選定と調査項目の検討、現地関係機関との調整、調査計画の作成3
第7回 現地調査・エクスカーション1
第8回 現地調査・エクスカーション2
第9回 現地調査・エクスカーション3
第10回 現地調査・エクスカーション4
第11回 成果報告と報告書作成1
第12回 成果報告と報告書作成2
第13回 成果報告と報告書作成3
第14回 成果報告と報告書作成4
第15回 成果報告と報告書作成5

●事前・事後学習の内容

実際の調査は授業時間外に行います。それらの成果のまとめと、レポートの作成も、授業時間内では完結しません。授業時間中は、事前に準備してきたものを授業中に共有し、検討するという作業が中心になりますので、事前・事後の学習が重要になります。

●評価方法

平常点(出席状況と課題への取り組み方)と最終レポートによって評価する。

●受講生へのコメント

「地理学実験実習Ⅰ」、「地理学実験実習Ⅱ」を履修済みであることが望ましい。

授業では、ほぼ毎回課題を課すので、受講生には個人またはグループでの作業に積極的に参加することが求められる。

また、現地調査・巡検に参加しない場合には単位修得は認められないので、くれぐれも留意すること。現地調査・巡検等で若干の交通費がかかる。

●参考文献・教材

テキスト:使用しない。

参考書:授業時に適宜指示する。

授業科目名	科目NO.	LBGEO3303	授業コード	L224100010	
地理学野外調査実習Ⅱ Geographical Field Survey Ⅱ			単位数	2 単位	
授業形態	担当教員名				
演習	祖田　亮次／菅野　拓				

●科目の主題

この実習では、春季の教室巡検先となる調査地を選定し、現地調査と巡検の企画を行うとともに、その成果を報告書として公表するプロセスを学ぶ。受講生各自が設定したテーマに基づいて、自治体、企業、各種団体、住民への聞き取り調査、アンケート調査、観察、写真撮影、作図などを実施する。

●到達目標

調査地候補についての各種情報を収集し、事前調査を実施した上で、現地調査ならびに巡検を行う。巡検後も調査を継続して調査成果を授業時に報告するとともに、受講生全員で調査報告書を作成して公表する。こうした作業を通じて、フィールドワークの企画・実施・まとめという一連のプロセスを習得することが、この実習の到達目標である。

●授業内容・授業計画

＊この授業は基本的に対面で行うが、状況によりオンラインで行う場合もある。

下記の3段階を踏んで、現地調査を実施し、成果を報告・公表する。

第1回　ガイダンス
第2回　フィールドワークの企画1（調査地域の選定）
第3回　フィールドワークの企画2（調査地に関する文献・地図・史資料の収集整理）
第4回　調査テーマの選定と調査項目の検討1（質問票調査の準備）
第5回　調査テーマの選定と調査項目の検討2（聞き取り調査の準備）
第6回　調査テーマの選定と調査項目の検討3（景観調査の準備）
第7回　フィールドワークの実施1（景観調査）
第8回　フィールドワークの実施2（土地利用調査）
第9回　フィールドワークの実施3（地域構造調査）
第10回　フィールドワークの実施4（経済活動調査）
第11回　フィールドワークの実施5（地域文化調査）
第12回　フィールドワークの実施6（社会生活調査）
第13回　フィールドワークのまとめと報告書作成1（報告書の構成）
第14回　フィールドワークのまとめと報告書作成2（図表の作成法）
第15回　フィールドワークのまとめと報告書作成3（地図化）

●事前・事後学習の内容

受講に際しては、指導教員の指示に基づき、事前に十分な準備を行った上で臨むこと。また、授業の終了後には、指摘された内容をもとにフィールドワークの実施計画や報告書の修正を行い、次回の報告に備えること。

●評価方法

平常点（出席状況と課題提出60%）と報告書執筆内容（40%）により評価する。

●受講生へのコメント

「地理学野外調査実習Ⅰ」、「地理学実験実習Ⅰ」、「地理学実験実習Ⅱ」を履修済みであることが受講の前提である。現地調査の実施、収集した資料の整理と分析、成果報告書の作成に至るまで、個人またはグループでの作業が授業の中心となるので、受講にあたっては積極的に参加する姿勢が求められる。なお、現地調査・巡検に参加しない場合には単位修得は認められないので、くれぐれも留意すること。

●参考文献・教材

テキスト：使用しない。／参考書：授業時に適宜指示する。

授業科目名	科目NO.	LBGEO3304	授業コード	L224110010	
地理学演習Ⅰ Seminar in Geography Ⅰ			単位数	2 単位	
授業形態	担当教員名				
演習	祖田　亮次／山﨑　孝史				

●科目の主題

地理学の諸分野における近年の学術雑誌論文の中から、受講生各自が関心ある文献を選び、レジュメを作成して発表し、それに基づき受講生全員で議論をする。

●到達目標

この演習を通じて、

①地理学における様々な研究分野と研究方法

②資料の収集・分析方法と、その分析結果の妥当性

③論文の書き方

を学んでもらう。

●授業内容・授業計画

＊この授業は対面を基本としつつ、状況に応じてオンラインで行う場合もある。

各自が関心のあるテーマに基づき、学術雑誌に公表された論文を選択し、その内容を要約して発表する。受講生は報告内容に関する質疑・討論を行う。レジュメの作成方法、発表の要領など、詳細は第1回の授業で説明するので、必ず出席のこと。

第1回 授業の進め方と基本文献の紹介
第2回 受講生による報告
第3回 同上
第4回 同上
第5回 同上
第6回 同上
第7回 同上
第8回 同上
第9回 同上
第10回 同上
第11回 同上
第12回 同上
第13回 同上
第14回 同上
第15回 授業のまとめと後期への展開

●事前・事後学習の内容

受講に際しては、担当教員の指示に基づき、指定された文献を精読するなど、事前に十分な準備を行った上で臨むこと。また、授業の終了後には、議論の要点や指摘されたコメントを整理し、復習を欠かさないようにすること。

●評価方法

(1)到達目標の達成度について評価をおこなう。

(2)評価方法は、授業内での演習発表(質疑、ディスカッションを含む)(60%)、質問など議論への参加状況(40%)

(3)合格(単位修得)のための最低基準は、テキストの文意を把握するにとどまらず、選定した論文の意義や今後の課題について説明できることである。

●受講生へのコメント

必ず「地理学演習Ⅱ」をペアで受講すること。本演習は4年次の卒業論文執筆に向けて、地理学における研究方法や論文の書き方を先行研究から学ぶことを目指す。そのためには、自分が報告するだけではなく、他の受講生による発表を理解し、建設的な質疑・批判を行うことが重要である。したがって、授業への出席はもとより、議論への積極的参加が求められる。

●参考文献・教材

テキスト：使用しない。

参考書：授業時に適宜指示する。

授業科目名	科目NO.	LBGEO3305	授業コード	L224120010	
地理学演習Ⅱ Seminar in Geography Ⅱ			単位数	2 単位	
授業形態	担当教員名				
演習	山﨑 孝史／祖田 亮次				

●科目の主題

「地理学演習Ⅰ」の受講を基礎に、地理的研究課題の選定、先行研究の渉猟、調査方法の検討、予備調査、発表と討論の各段階の作業を通して、地理学研究の理論・方法に精通し卒業論文の作成に備えます。

●到達目標

受講生は、この演習を通して4年次の卒業論文の研究課題を決定し、学期末に予定される卒業論文合同演習のための研究計画レポートを作成します。

●授業内容・授業計画

以下の計画に沿って授業を進めます。受講生は各週の課題にそって卒論計画を練っていきます。

第1回 地理的研究課題の発見
第2回 地理的研究課題の特定
第3回 研究課題発表・討論
第4回 先行研究の渉猟
第5回 先行研究の批判的摂取
第6回 先行研究展望・討論
第7回 調査方法の検討
第8回 調査方法の採用
第9回 調査方法発表・討論
第10回 調査地候補の選定
第11回 調査地の選定
第12回 調査地発表・討論
第13回 研究計画の作成
第14回 卒論研究計画の発表
第15回 卒論研究計画の完成

●事前・事後学習の内容

受講に際しては、担当教員の指示に基づき、指定された文献を精読するなど、事前に十分な準備を行った上で臨むこと。また、授業の終了後には、授業の要点や指摘されたコメントを整理し、復習を欠かさないようにすること。

●評価方法

課題提出・発表(60点)、研究計画書(40点)から評価します。合計得点が60点以上の者を合格とします。

●受講生へのコメント

必ず「地理学演習Ⅰ」を合わせて受講してください。本演習は4年生次の卒業論文執筆に直接つながる演習として、具体的な卒業論文の研究計画を作成しますので、各自の研究課題・方法の具体化にとどまらず、相互討論を通してその洗練も目指します。したがって、自己の課題への取り組みに加え演習への恒常的参加、4年生向けの卒論合同演習・論文発表会への出席も必要とされます。

●参考文献・教材

テキスト:使用しません。
参考書:授業時に適宜指示します。

授業科目名	科目NO.	LBGEO3210	授業コード	L224150010	
地理情報学 Geographic Information			単位数	2 単位	
授業形態 講義	担当教員名 木村　義成				

●科目の主題

地理情報と言えば、何か特殊な分野に聞こえるが、Google MapやYahoo Mapに代表されるように、地理情報は、誰にとっても身近にアクセスでき、日々の生活の中で役立つ情報となっている。

近年のIT技術の進展により、地理情報は、GIS（地理情報システム）で管理・分析できるようになり、GPS（全地球測位システム）で高精度の位置情報を取得できるようになった。

カーナビゲーションは、それらの一例である。

現在、位置情報／地理情報は、皆さんが利用するスマホや人工衛星、ドローンなどを利用して収集され、AI（人工知能）によって分析されている。

このような背景をふまえて、本講義では地理情報の活用例のみならず、地理情報の取得、加工、管理、分析、解釈という一連の流れを説明する。

●到達目標

本講義を受講することにより、受講生は地理情報がどのような目的で、どのように取得され、どのように活用されているかを自身で考えられるようになることが到達目標である。

●授業内容・授業計画

第1回　イントロダクション
第2回　なぜ地理情報が必要なのか？①
第3回　なぜ地理情報が必要なのか？②
第4回　GISとは？・GPSとは？
第5回　地理情報の取得方法・管理方法・表現方法
第6回　ベクトルデータを用いた属性検索／空間検索
第7回　道路ネットワークデータを用いた空間分析
第8回　道路ネットワークデータを用いた空間分析
第9回　危機管理分野（防災、犯罪、感染症、救急医療など）における地理情報の利用①
第10回　危機管理分野（防災、犯罪、感染症、救急医療など）における地理情報の利用②
第11回　危機管理分野（防災、犯罪、感染症、救急医療など）における地理情報の利用③
第12回　マーケティング戦略における地理情報の利用①
第13回　マーケティング戦略における地理情報の利用②
第14回　地理情報を取り巻く社会
第15回　本講義に対する総括

●事前・事後学習の内容

本科目に関しては科目の性質上、事後学習を特に重視する。

事後学習では講義の内容をふまえて、学術的な側面の他、皆さんの生活の場で、位置／地理情報がどのように利用されているか、学術論文や新聞記事で調べる内容を想定している。

事後学習については毎回あたり2時間程の時間を想定している。

●評価方法

講義中の課題やレポート等から総合的に評価する。配点の目安は小レポート課題が50%、学期末のレポート課題が50%である。

第1回目のガイダンスで詳細を述べるので、必ずガイダンスを受講すること。

単位修得のための最低基準は、受講生自身で、地理情報の利活用について、学術論文や新聞記事等で検索・整理することができ、

その利活用の課題や問題点について検討できるようになることである。

●受講生へのコメント

日常生活で利用されている地理情報の活用事例を中心に判り易く説明するので、受講されたい。

皆さんの従来の地理という教科に対する考え方が変わると確信している。

総合教育科目「地図と地理情報」と内容はオーバーラップするところもあるが、より理論的な側面についても説明する。

本講義の詳細について第1回目のガイダンス時に解説する。

したがって、第1回のガイダンスは必ず受講すること。

●参考文献・教材

教材については、授業ごとに適宜配布し、参考資料についても授業の中で紹介する。

参考図書として、以下の書籍を紹介する。

浅見泰司　他,『地理情報科学―GISスタンダード』古今書院,　2015.　ISBN－13:　978－4772252867

授業科目名	科目NO.	LBGEO3211	授業コード	L224160010	
地理学特講Ⅰ Special Lecture on Geography Ⅰ				単位数	2 単位
授業形態	担当教員名				
講義	水内　俊雄				

●科目の主題

都市社会・政治地理学の実践：日本の都市を中心に、繁栄と衰退という分極化を示しつつも、さまざまなグラデーションで都市が近年変容している実態を肌身で感じてもらう授業である。フィールドワークも多用するが、前半は都市地域における生活困窮問題、住宅貧困問題、特にホームレス問題にどのように接近し、観察し、関係者と接し、問題の改善にあたっての仕組みづくり、施策づくりの後方支援に関与することを、国内外のフィールドも紹介しながら、身につけてゆくことをめざす。とくに脱ホームレス支援、居住福祉支援というフィールドに焦点をあてて、如上の課題を具体的に紹介したい。一面この分野におけるNPO、NGO、あるいは社会的企業研究でもある。広範は、都市の分極化という観点で、繁栄の景観的反映は何かということで、大阪の都心部の変容、あるいは衰退地域だったところの急激な変身などを観察してもらうことになる。

●到達目標

水内自身が、脱ホームレス支援のNPOの理事として活動しているが、その活動の意味と課題を実感してもらうような講義をめざしている。そのために、現場の支援者（NPO、社会的企業ほか）にも講義に登場してもらいながら、受講生の率直な意見をフィードバックする形で、対話型の授業もめざしたい。脱ホームレス支援は、総合的な生活支援に他ならない。そうしたスキルやモチベーションを少しでも学んでもらいたい。教科書や一般書籍ではなかなか得られない事実が満載であるので、みなさんの生き方や就職のありかたを考える上でも大いに参考になることを期待している。

●授業内容・授業計画

この授業は、対面で行う（予定）。

前半は、座学を中心に、生活困窮者問題と都市問題の関わりについて、社会保障、セーフティネットの再編と関連させながら課題の摘出を行う。特にホームレス問題やインナーシティ問題に具体の状況を紹介しながら、現状の最前線を知ってもらう。後半は、実際に地域に出てフィールドワークを行い、特に支援の現場に焦点をあて、現場の声や地域状況を肌で感じてもらう。水内が関係する企画の紹介も行い、自主的に参加してもらう機会も提供する。

第1回　セーフティネットの重荷と大学生として、大学としてわれわれが考えるべきこと
第2回　セーフティネットのほころび：その1　ホームレス問題とハウスレス問題
第3回　新しいホームレス、ネットカフェ難民、派遣切り、ワーキングプア、そして生活困窮者問題
第4回　脱ホームレス支援が居住福祉支援につながる実践事例の紹介：その1
第5回　脱ホームレス支援が居住福祉支援につながる実践事例の紹介：その2
第6回　居住福祉の支援と社会的不動産、NPOとの関係
第7回　社会的企業、NPO論と都市論との関係の整理
第8回　居住福祉の支援は都市再生につながるその実例紹介
第9回　現場訪問その1寄せ場、簡易宿所集中地域における脱ホームレス支援の実態
第10回　現場訪問その2：中間施設としての無料低額宿泊所の役割とNPOの機能
第11回　現場訪問その3：NPOによる支援付住宅という中間施設を用いた脱ホームレス支援
第12回　現場訪問その4：脱ホームレス支援におけるアフターケア支援の実態
第13回　現場訪問その5：アートを生かした新しいまちづくり現場
第14回　現場訪問その6：社会的不動産業による新しいまちづくり現場
第15回　現場訪問その7：社会的企業による新しいまちづくり現場

●事前・事後学習の内容

,

●評価方法

授業やフィールドワーク毎のミニレポートによる平常点とする。

●受講生へのコメント

現場感覚を養ってもらうために、ゲストスピーカーや関連するプログラムへの参加、あるいはフィールドワークを行うので、体を動かして、目を動かして、五感を働かせて、問題に対処してもらう。大学での講義スタイルから少々異なるので、好奇心あふれる探究心の持ち主が授業参加してくれるとうれしい。

●参考文献・教材

『モダン都市の系譜―地図から読み解く社会と空間―』(ナカニシヤ出版)を参考書として紹介しておく。

授業科目名	科目NO.	LBGEO3212	授業コード	L224170010	
地理学特講Ⅱ Special Lecture on Geography Ⅱ			単位数	2 単位	
授業形態 講義	担当教員名 大場　茂明				

●科目の主題

異なる文化をもって発展してきた諸地域を、近代ナショナリズムの所産である「国民国家」の枠を越えて、経済的・政治的に統合しようという未曾有の試みが行われているEUの現状と課題を扱う。

●到達目標

欧州統合が「ひとつのヨーロッパ」を目標としているのと同時に、実は多様な地域・住民で構成される「いくつものヨーロッパ」を目指す試みであることを、順次取り上げるトピックの学習を通じて理解する。あわせて、欧州統合の拡大と深化が域内諸地域に及ぼした影響や、イギリスのEU離脱やユーロ圏の債務・財政危機、大量の難民流入など、近年ヨーロッパが直面している様々な問題とその背景についての知見を深め、地域問題に対する思考力を身につけることができる。

●授業内容・授業計画

本講義では、①欧州統合の拡大と深化の過程、②経済・政治統合をめぐる諸問題、③EU域内の地域格差（成長地域、旧工業地域、発展途上地域）に焦点を絞って、人口・経済力ともに域内最大の加盟国であるドイツを中心としたヨーロッパの実情について講述する。

第1回 欧州統合の歴史
第2回 EUの組織
第3回 経済統合の過程;転機にあるEURO
第4回 EU域内の地域格差
第5回 EU地域政策の展開
第6回 外国人とは誰か？ (1) 同化・編入・統合
第7回 外国人とは誰か？ (2) ドイツにおける移民たち
第8回 政治統合への道
第9回 ヨーロッパの都市景観 (スライド上映)
第10回 ドイツにおける産業構造の転換と地域間格差
第11回 ドイツの成長地域:バイエルン州
第12回 ドイツの旧工業地域:ルール地域
第13回 ドイツの発展途上地域:旧東ドイツ地域
第14回 ドイツの都市居住とまちづくり (ビデオ上映)
第15回 試験

●事前・事後学習の内容

各回授業終了時に、次回の講義内容を予告するとともに、主要項目を3～4個のキーワードで示す。必ず事前にそれらの内容を確認し、授業に臨むこと。また、各自講義の要点を整理するなど、復習を欠かさないようにすること。

●評価方法

(1)到達目標の達成度について評価をおこなう。
(2)評価方法は、論述形式の定期試験による(100%)
(3)合格(単位修得)のための最低基準は、講義内容に即して論理的な記述が出来ていることである。

●受講生へのコメント

本講義では、スライドやビデオの上映、担当教員自身の現地での体験を織り込みながら、ヨーロッパの風景や日常生活を多少なりとも実感してもらえるよう工夫する。単にEUに関する知見を深めるのみならず、受講者が自らヨーロッパを訪れてみたくなるような授業を展開して行きたい。

●参考文献・教材

テキスト：使用しない。毎回、最新情報を交えた講義資料を用意する。

参考書：授業時に適宜指示する。

授業科目名	科目NO.	LCJPN2101	授業コード	L231010010	
国文学史Ⅰ History of Japanese Literature Ⅰ			単位数	2 単位	
授業形態 講義	担当教員名 奥野　久美子				

●科目の主題

近代文学作品原稿の研究　:本講義では、文学作品を原稿で読むことで、その生成過程を研究する。完成作品を読んでの鑑賞とは異なる、近代文学研究の面白さ、および、文学作品を後世に残すために必要な基礎研究の重要性を学び、身につけることを目的とする。

●到達目標

・近代文学研究の基礎を修得する。

・一般読者の目には触れない直筆稿、草稿類の研究により、作品をその成り立ちや背景に遡って考究することができるようになる。

・講義を聴き、要点をつかみ、疑問点を整理して問題を発見し、自ら研究し成果をまとめる能力を修得する。

●授業内容・授業計画

第1回　ガイダンス:芥川龍之介について
第2回　芥川龍之介「鼻」の原稿
第3回　「鼻」精読(1)
第4回　「鼻」精読(2)典拠など
第5回　「鼻」草稿(1)
第6回　「鼻」草稿(2)・小レポート
第7回　芥川龍之介「山鴫」の原稿
第8回　「山鴫」精読(1)
第9回　「山鴫」精読(2)典拠など
第10回　「山鴫」草稿(1)
第11回　「山鴫」草稿(2)
第12回　「山鴫」と一高生のトルストイ受容・小レポート
第13回　谷崎潤一郎「異端者の悲しみ」の原稿
第14回　「異端者の悲しみ」精読・まとめ・小レポート
第15回　レポート式記述試験

●事前・事後学習の内容

・事前学習:毎回の対象作品および配布資料をよく読んでおくこと。

・事後学習:資料を見て授業内容を復習し、小レポートに向けて疑問点などを整理すること。

●評価方法

到達目標の達成度について、以下の通りの評価を行う。

授業への参加姿勢(15点)、小レポート(15点)、レポート式記述試験(70点)により評価する。

単位修得の最低基準は、講義の要点を理解し、自ら課題に取り組み調査を行い、考えを論述することができること。

●受講生へのコメント

初回授業で授業内容や評価内容を詳しく説明するので、履修を決めている者はできるだけ初回を欠席しないこと。

欠席した回の配布資料は次回授業時に自ら受け取りに来ること。

●参考文献・教材

教材:プリントを配布する。

参考文献:授業中に指示する。

授業科目名	科目NO.	LCJPN2102	授業コード	L231020010	
国文学史Ⅱ History of Japanese LiteratureⅡ			単位数	2 単位	
授業形態 講義	担当教員名 山本　真由子				

●科目の主題

平安時代における和歌文学の展開と変遷を知り、その特質について理解を深める。

●到達目標

平安時代における和歌文学の展開と変遷、その研究史について、基本的な内容を説明することができるようになる。

●授業内容・授業計画

第1回　ガイダンス　平安朝の和歌文学について
第2回　古今和歌集の成立まで①－『萬葉集』の終焉から光孝朝まで－
第3回　古今和歌集の成立まで②－『新撰萬葉集』『句題和歌』の世界－
第4回　古今和歌集①－構造と序－
第5回　古今和歌集②－表現と歌人－
第6回　歌合
第7回　贈答歌と屏風歌
第8回　後撰和歌集
第9回　曾禰好忠と河原院の歌人たち
第10回　拾遺和歌集と藤原公任
第11回　物語・日記と和歌
第12回　後拾遺和歌集
第13回　源俊頼と藤原基俊
第14回　六条藤家と御子左家

●事前・事後学習の内容

第2回以降は、授業中、次時にとりあげる和歌文学作品についての参考文献を紹介するので、読んでから授業に臨むこと。授業後は、とりあげられた和歌を読み直し、分からない語は辞書などを使って調べる。授業で論じた文献の他の箇所や、同じ作者の別の和歌など、できる限り多くの和歌を読む。

●評価方法

・上記到達目標の達成度について評価を行う。
・期末試験（70％）と、授業時の小レポート（30％）によって評価する。

●受講生へのコメント

講義では、特に知っておいてほしい和歌をとりあげる。興味を持った和歌については、ぜひ、表現の類似する和歌や、同じ作者の別の和歌などと読み比べて、平安時代の和歌文学の世界に親しんでほしい。

●参考文献・教材

教材　プリントを配布する。
参考文献　授業時に詳しく指示する。

授業科目名	科目NO.	LCJPN3201	授業コード	L231030010	
国語学基礎論 Introduction to Japanese Linguistics			単位数	2 単位	
授業形態 講義	担当教員名 丹羽　哲也				

●科目の主題

日本語研究の基礎。

●到達目標

日本語文法に関わる基礎的な知識を習得し、言葉についての思考方法を身につける。

●授業内容・授業計画

この授業は対面で行う。

現代語文法と古典語文法について、両者を対照しながら解説する。毎回、演習問題を課す。

第1回　導入
第2回　文の構造と品詞
第3回　代名詞の用法
第4回　形容動詞の問題
第5回　動詞の活用
第6回　活用の変遷
第7回　格関係
第8回　「は」と「が」
第9回　係り結び
第10回　述語の構造
第11回　動詞の自他と態（ヴォイス）
第12回　時制と相（アスペクト）
第13回　叙法（モダリティ）と終助詞
第14回　接続関係
第15回　試験

●事前・事後学習の内容

配布プリントの問題を事前に解答してみる。配布プリントを読み返し、必要に応じて参考文献を読む。

●評価方法

授業中に課される課題の提出（1.5割）と学期末の試験（8.5割）による。

●受講生へのコメント

日本語研究の基礎を扱うが、毎回の課題など決して平易ではない。

●参考文献・教材

プリントを配布する。参考文献は授業中に指示する。

授業科目名	科目NO.	LCJPN3202	授業コード	L231040010	
国語学方法論 Methods of Japanese Linguistics				単位数	2 単位
授業形態 演習	担当教員名 丹羽　哲也				

●科目の主題

類義語の分析。

●到達目標

言葉の意味分析を通して、自分の普段使っている言葉を内省し、言語の体系性・論理性と言語使用の柔軟性について自覚を深める。

●授業内容・授業計画

この授業は対面で行う。

受講生が課題として与えられる類義語を比較・考察し、発表資料を作成して、発表する。それをもとに、受講生全員で議論する。

第1回 発表資料作成の方法と用例データについての説明。
第2回 語義分析の方法についての解説。
第3回 動詞・形容詞の類義語(1)
第4回 動詞・形容詞の類義語(2)
第5回 動詞・形容詞の類義語(3)
第6回 動詞・形容詞の類義語(4)
第7回 副詞の類義語(1)
第8回 副詞の類義語(2)
第9回 副詞の類義語(3)
第10回 副詞の類義語(4)
第11回 名詞の類義語(1)
第12回 名詞の類義語(2)
第13回 名詞の類義語(3)
第14回 名詞の類義語(4)

●事前・事後学習の内容

担当する類義語について、辞書の記述の調査、用例の検索と分析、担当グループ内での議論、レジュメの作成を行う。また、自グループの担当した類義語、および、他グループの発表した類義語について、レポート作成に取り組む。

●評価方法

平常点（発表内容、および、発表担当でない時の発言ぶり）7割と学期末のレポート3割。

●受講生へのコメント

国語辞典に載っている意味記述は十分とは言えないものが少なくなく、より深く正確な意味の定義を考える。担当者は作例と電子テキストによる用例を検討し、その類義語の間に直感的に感じられる微妙な意味の違いを論理的に説明することが求められる。他の受講生は、その発表について自分の意見を表明することが求められる。

●参考文献・教材

参考文献は授業中に指示する。

授業科目名	科目NO.	LCJPN3203	授業コード	L231050010
国語国文学講読Ⅰ Reading in Japanese Language and Literature Ⅰ			単位数	2 単位
授業形態	担当教員名			
演習	奥野 久美子			

●科目の主題

夏目漱石「坊っちゃん」講読(前半)

●到達目標

夏目漱石の「坊っちゃん」を、原稿や初出誌面、初刊本(複製)と比較しながら精読する。本文校訂と注釈、および先行研究の調査研究を中心とし、一言一句をおろそかにしない読みにより、作品や作家とその時代への理解を深めることを目標とする。あわせて近代文学の研究方法の基礎を身につける。

●授業内容・授業計画

「坊っちゃん」前半を受講生の人数に合わせて分割し、各自の担当箇所について調査研究し、発表する。担当者以外の受講生は討議に参加し、受講生全員で作品の理解を深めていく。

第1回 ガイダンスと発表担当順決め
第2回 資料探索の方法
第3回 「坊っちゃん」発表と討議1
第4回 「坊っちゃん」発表と討議2
第5回 「坊っちゃん」発表と討議3
第6回 「坊っちゃん」発表と討議4
第7回 「坊っちゃん」 発表と討議5
第8回 「坊っちゃん」発表と討議6
第9回 「坊っちゃん」発表と討議7
第10回 「坊っちゃん」発表と討議8
第11回 「坊っちゃん」発表と討議9
第12回 「坊っちゃん」発表と討議10
第13回 「坊っちゃん」発表と討議11
第14回 まとめ
第15回 レポート試験

●事前・事後学習の内容

事前に全体を通読のうえ、毎回、考察対象となる箇所について再度熟読して疑問点をまとめておく。
発表準備には2～3週間程度を要するので、早めにとりかかること。

●評価方法

発表内容(45%)、討議への参加状況(15%)と学期末のレポート(40%)による。

●受講生へのコメント

受講生が授業を作るという意識を持ち、自分の担当でない場合も、積極的に質問・意見を出し、討議の活発化に努めること。

●参考文献・教材

教科書:①夏目漱石『坊っちやん』(新潮文庫、2003年改版、341円、ISBN: 978-4101010038)※全員購入。毎回持参。
:『②直筆で読む「坊っちやん 」』(集英社新書ビジュアル版、1200円+税、ISBN:978-4-08-720414-8)※全員購入。毎回持参。
その他授業中に指示する。

授業科目名	科目NO.	LCJPN3204	授業コード	L231060010	
国語国文学講読Ⅱ Reading in Japanese Language and Literature Ⅱ			単位数	2 単位	
授業形態 演習	担当教員名 奥野　久美子				

●科目の主題

夏目漱石「坊っちゃん」講読（後半）

●到達目標

夏目漱石の「坊っちゃん」（後半）を、原稿、初出誌面や初刊本（複製）と比較しながら精読する。本文校訂と注釈、および先行研究の調査研究を中心とし、一言一句をおろそかにしない読みにより、作品や作家とその時代への理解を深めることを目標とする。あわせて近代文学の研究方法の基礎を身につける。

●授業内容・授業計画

「坊っちゃん」後半を受講生の人数に合わせて分割し、各自の担当箇所について調査研究し、発表する。担当者以外の受講生は討議に参加し、受講生全員で作品の理解を深めていく。

第1回　ガイダンスと発表順決め
第2回　資料探索の方法
第3回 「坊っちゃん」発表と討議1
第4回 「坊っちゃん」発表と討議2
第5回 「坊っちゃん」発表と討議3
第6回 「坊っちゃん」発表と討議4
第7回 「坊っちゃん」発表と討議5
第8回 「坊っちゃん」発表と討議6
第9回 「坊っちゃん」発表と討議7
第10回 「坊っちゃん」発表と討議8
第11回 「坊っちゃん」発表と討議9
第12回 「坊っちゃん」発表と討議10
第13回 「坊っちゃん」発表と討議11
第14回　まとめ
第15回　レポート試験

●事前・事後学習の内容

・発表の準備には最低2～3週間を要するので、早めにとりかかること。

・受講前に作品を通読し、毎回の授業前にはその回に扱う箇所を再度熟読しておくこと。事後にはさらに疑問点などを整理しておくこと。

●評価方法

発表内容（45%）、討議への参加状況（15%）と学期末のレポート（40%）による。

●受講生へのコメント

・前期の国語国文学講読Ⅰと内容は連続するが、前期の受講を前提としない。後期のみの受講も可。

・受講生が授業を作るという意識を持ち、自分の担当でない場合も、積極的に質問・意見を出し、討議の活発化に努めること。

●参考文献・教材

教科書：①夏目漱石『坊っちやん』（新潮文庫、2003年改版、341円、ISBN:　978-4101010038）※全員購入。毎回持参。
　　：『②直筆で読む「坊っちやん　」』（集英社新書ビジュアル版、1200円+税、ISBN：978-4-08-720414-8）※全員購入。毎回持参。
その他授業中に指示する。

授業科目名	科目NO.	LCJPN3205	授業コード	L231070010	
国語国文学講読Ⅲ Reading in Japanese Language and Literature Ⅲ			単位数	2 単位	
授業形態 演習	担当教員名 山本　真由子				

●科目の主題

『大和物語』講読

●到達目標

『大和物語』(大永本)を、詳しく読み解くことを通して、平安時代の文学作品を注釈する際に必要となる文献を知り、他の作品を読み解く際に応用できるようになることを目標とする。また、写本の影印を用いて読むことにより、くずし字に親しみ、併せて書物の成立と伝来について考える視点を養う。

●授業内容・授業計画

『大和物語』は、平安時代に成立した物語である。まず、学期初めに、平安時代の物語文学と『大和物語』について概説し、文献調査方法などについて講義する。その後、受講者が各自の担当箇所を翻字、調査して、発表する。発表を承けて、他の受講者も質疑に参加し、受講者全員で本作を読み解いてゆく。

第1回　ガイダンス　平安時代の物語文学および『大和物語』概説／発表順の決定
第2回　文献調査方法／平安時代の文学作品の写本・くずし字について
第3回　講師による発表の例示
第4回　受講者による発表・質疑
第5回　受講者による発表・質疑
第6回　受講者による発表・質疑
第7回　受講者による発表・質疑
第8回　受講者による発表・質疑
第9回　受講者による発表・質疑
第10回　受講者による発表・質疑
第11回　受講者による発表・質疑
第12回　受講者による発表・質疑
第13回　受講者による発表・質疑
第14回　まとめ／レポート提出

●事前・事後学習の内容

授業までに、その回に扱う箇所を翻字しておくこと。

授業後は、発表レジュメや授業の内容をふまえて、作品を読み直し、予習の翻字を修正すること。

●評価方法

授業時の発表と、発表後に質疑をふまえて改訂し学期末に提出するレポート(発表レジュメ)による。また授業中不定期に翻字の小テストを行い、その成績も評価に加味する。

●受講生へのコメント

授業時に紹介する注釈書を用いて、『大和物語』を通して読んでみること。

●参考文献・教材

教材

プリントを配布する。

参考文献

授業時に詳しく指示する。

授業科目名	科目NO.	LCJPN3206	授業コード	L231080010	
国語国文学講読Ⅳ Reading in Japanese Language and Literature Ⅳ			単位数	2 単位	
授業形態 演習	担当教員名 山本　真由子				

●科目の主題

『紫式部日記』講読

●到達目標

宮内庁書陵部蔵『紫式部日記』(黒川本)を、詳しく読み解くことを通して、平安時代の文学作品を注釈する際に必要となる文献を知り、他の作品を読み解く際に応用できるようになることを目標とする。また、写本の影印を用いて読むことにより、くずし字に親しみ、併せて書物の成立と伝来について考える視点を養う。

●授業内容・授業計画

『紫式部日記』は、平安時代の仮名日記である。本作は、藤原道長の娘彰子が一条天皇の中宮として皇子を出産したという歴史的出来事を記す。読解には歴史資料や儀礼・行事の書など、多様な文献を調べる必要がある。まず、学期初めに、平安時代の日記文学と『紫式部日記』について概説し、文献調査方法などについて講義する。その後、受講者が各自の担当箇所を翻字、調査して、発表する。発表を承けて、他の受講者も質疑に参加し、受講者全員で本作を読み解いてゆく。

第1回 ガイダンス　平安時代の日記文学および『紫式部日記』概説／発表順の決定
第2回 文献調査方法
第3回 講師による発表の例示
第4回 受講者による発表・質疑
第5回 受講者による発表・質疑
第6回 受講者による発表・質疑
第7回 受講者による発表・質疑
第8回 受講者による発表・質疑
第9回 受講者による発表・質疑
第10回 受講者による発表・質疑
第11回 受講者による発表・質疑
第12回 受講者による発表・質疑
第13回 受講者による発表・質疑
第14回 まとめ／レポート提出

●事前・事後学習の内容

授業までに、その回に扱う箇所を翻字しておくこと。授業後は、発表レジュメや授業の内容をふまえて、作品を読み直し、予習の翻字を修正すること。

●評価方法

授業時の発表と、発表後に質疑をふまえて改訂し学期末に提出するレポート(発表レジュメ)による。また授業中不定期に翻字の小テストを行い、その成績も評価に加味する。

●受講生へのコメント

授業時に紹介する注釈書を用いて、『紫式部日記』を通して読んでみること。

●参考文献・教材

教材:プリントを配布する。
参考文献:授業時に詳しく指示する。

授業科目名	科目NO.	LCJPN3301	授業コード	L231090010	
国語国文学演習Ⅰ Seminar in Japanese Language and Literature Ⅰ			単位数	2 単位	
授業形態 演習	担当教員名 久堀　裕朗				

●科目の主題

近世の文学作品を対象に、原本の影印によって精読しながら、先行の注釈書では解決できない、解釈上の問題点を見出して検討を加える。作品の精読作業を通じ、近世の文学作品を注釈する際に必要となる同時代の基本文献について広範な知識を得、実証的な文献の扱い方を学んで、他の作品を精読・分析する際に応用できる力を身につけることを目標とする。また、近世の板本を読むことによって、くずし字に親しみ、かつ板本に関する書誌的知識を習得する。

●到達目標

近世の文献について基本的な知識を身につけ、近世の文学作品に適切な注釈をほどこすことができる。

●授業内容・授業計画

西鶴の浮世草子『武家義理物語』精読

『武家義理物語』は貞享五年(1688)に刊行された井原西鶴作の浮世草子作品(今日の小説。短編集)である。この授業では、受講者が各自の担当範囲を調査・発表する演習形式で近世の文学作品を精読していく。まず学期初めに、取り上げる作品について概説し、読解に当たって留意すべき点、文献調査方法などについて講義する。以降受講者が順にそれぞれの担当部分について発表し、それを承けて他の出席者も参加して質疑を行うという形で授業を進めていく。

第1回:本授業のガイダンス／作品解説
第2回:文献調査方法／近世の板本について
第3回:受講者による発表・質疑
第4回:受講者による発表・質疑
第5回:受講者による発表・質疑／中間整理①
第6回:受講者による発表・質疑
第7回:受講者による発表・質疑
第8回:受講者による発表・質疑／中間整理②
第9回:受講者による発表・質疑
第10回:受講者による発表・質疑
第11回:受講者による発表・質疑／中間整理③
第12回:受講者による発表・質疑
第13回:受講者による発表・質疑
第14回:受講者による発表・質疑／中間整理④
第15回:全体の整理／レポート提出

●事前・事後学習の内容

第1回:取りあげる作品や指定された文献を読む。
第2回:取りあげる作品や指定された文献を読む。
第3回:演習箇所に関する事前精読と、問題点の再検討。
第4回:演習箇所に関する事前精読と、問題点の再検討。
第5回:演習箇所に関する事前精読と、問題点の再検討。中間整理①。
第6回:演習箇所に関する事前精読と、問題点の再検討。
第7回:演習箇所に関する事前精読と、問題点の再検討。
第8回:演習箇所に関する事前精読と、問題点の再検討。中間整理②。

第9回：演習箇所に関する事前精読と、問題点の再検討。
第10回：演習箇所に関する事前精読と、問題点の再検討。
第11回：演習箇所に関する事前精読と、問題点の再検討。中間整理③。
第12回：演習箇所に関する事前精読と、問題点の再検討。
第13回：演習箇所に関する事前精読と、問題点の再検討。
第14回：演習箇所に関する事前精読と、問題点の再検討。中間整理④。
第15回：全体の整理、まとめ。

●評価方法

到達目標の達成度について、以下の通りの評価を行う。
評価方法とその割合：授業時の発表と期末レポート80％　授業時の小テスト20％
合格（単位修得）のための最低基準：近世の文献について基本的な知識を身につけ、担当箇所について適切に発表することができる。

●受講生へのコメント

担当範囲だけではなく、取り上げる作品全体を読みこみ、毎回積極的に授業参加すること。

●参考文献・教材

教材：プリントを配布する。
参考文献：授業時に詳しく指示する。

授業科目名	科目NO.	LCJPN3302	授業コード	L231100010	
国語国文学演習Ⅱ Seminar in Japanese Language and Literature Ⅱ			単位数	2 単位	
授業形態 演習	担当教員名 久堀　裕朗				

●科目の主題

近世の文学作品を対象に、原本の影印によって精読しながら、先行の注釈書では解決できない、解釈上の問題点を見出して検討を加える。作品の精読作業を通じ、近世の文学作品を注釈する際に必要となる同時代の基本文献について広範な知識を得、実証的な文献の扱い方を学んで、他の作品を精読・分析する際に応用できる力を身につけることを目標とする。また、近世の板本を読むことによって、くずし字に親しみ、かつ板本に関する書誌的知識を習得する。

●到達目標

作品注釈能力を高め、近世の文学作品に適切な注釈をほどこすことができる。

●授業内容・授業計画

近松の浄瑠璃『堀川波鼓』精読。

『堀川波鼓（ほりかわなみのつづみ）』は宝永3年もしくは4年（1706～7年）に初演された近松門左衛門作、姦通物の世話浄瑠璃である。この授業では、受講者が各自の担当範囲を調査・発表する演習形式で本作を精読していく。

第1回：本授業のガイダンス／作品解説
第2回：人形浄瑠璃作品を読むに当たって
第3回：受講者による発表・質疑
第4回：受講者による発表・質疑
第5回：受講者による発表・質疑／中間整理①
第6回：受講者による発表・質疑
第7回：受講者による発表・質疑
第8回：受講者による発表・質疑／中間整理②
第9回：受講者による発表・質疑
第10回：受講者による発表・質疑
第11回：受講者による発表・質疑／中間整理③
第12回：受講者による発表・質疑
第13回：受講者による発表・質疑
第14回：受講者による発表・質疑／中間整理④
第15回：全体の整理／レポート提出

●事前・事後学習の内容

第1回：取りあげる作品や指定された文献を読む。
第2回：取りあげる作品や指定された文献を読む。
第3回：演習箇所に関する事前精読と、問題点の再検討。
第4回：演習箇所に関する事前精読と、問題点の再検討。
第5回：演習箇所に関する事前精読と、問題点の再検討。中間整理①。
第6回：演習箇所に関する事前精読と、問題点の再検討。
第7回：演習箇所に関する事前精読と、問題点の再検討。
第8回：演習箇所に関する事前精読と、問題点の再検討。中間整理②。
第9回：演習箇所に関する事前精読と、問題点の再検討。
第10回：演習箇所に関する事前精読と、問題点の再検討。
第11回：演習箇所に関する事前精読と、問題点の再検討。中間整理③。

第12回：演習箇所に関する事前精読と、問題点の再検討。

第13回：演習箇所に関する事前精読と、問題点の再検討。

第14回：演習箇所に関する事前精読と、問題点の再検討。中間整理④。

第15回：全体の整理、まとめ。

●評価方法

到達目標の達成度について、以下の通りの評価を行う。

評価方法とその割合：授業時の発表と期末レポート80％　授業時の小テスト20％

合格（単位修得）のための最低基準：作品注釈能力を身につけ、担当箇所について適切に発表することができる。

●受講生へのコメント

担当範囲だけではなく、取り上げる作品全体を読みこみ、毎回積極的に授業参加すること。

●参考文献・教材

教材：プリントを配布する。

参考文献：授業時に詳しく指示する。

授業科目名	科目NO.	LCJPN3303	授業コード	L231110010	
国語国文学演習Ⅲ Seminar in Japanese Language and Literature Ⅲ			単位数	2 単位	
授業形態 演習	担当教員名 小林　直樹				

●科目の主題

中世の文学作品を対象に、受講生による報告と討議を通して、中世文学を読むための基本的な方法を学んでいく。今期は鎌倉後期の説話集『沙石集』を精読する。

●到達目標

『沙石集』の精読を通じて、中世の文学作品を、その作品が成立した時代の文脈の中に位置づけて読み解く基本姿勢の習得を目指す。

●授業内容・授業計画

『沙石集』を注釈的に読解する。担当者による報告と、受講者全員による討議を経て、テキスト理解を深めていく。

第1回　ガイダンス
第2回　受講生による報告と討議
第3回　受講生による報告と討議
第4回　受講生による報告と討議
第5回　受講生による報告と討議
第6回　受講生による報告と討議
第7回　受講生による報告と討議
第8回　受講生による報告と討議
第9回　受講生による報告と討議
第10回　受講生による報告と討議
第11回　受講生による報告と討議
第12回　受講生による報告と討議
第13回　受講生による報告と討議
第14回　受講生による報告と討議
第15回　受講生による報告と討議

●事前・事後学習の内容

事前学習：WebClass上に掲載される授業資料や発表レジュメを熟読の上、疑問点を明らかにした上で受講する。自分が報告の担当者になった場合は、少なくとも一か月前から入念な準備を行い、参加者に理解しやすい報告を行うよう努める。

事後学習：授業中に指示された参考文献を読むことで、さらに理解を深める。

●評価方法

報告ないしレポート（80点）と授業中の発言など参加姿勢（20点）による。授業回数の3分の2以上出席していない場合、評価対象としない。

●受講生へのコメント

本科目は後期の演習Ⅳと併せて受講することが極めて望ましい。

●参考文献・教材

テキスト：プリントによる。

参考書：日本古典文学大系『沙石集』（岩波書店）、新編日本古典文学全集『沙石集』（小学館）、大隅和雄『信心の世界、遁世者の心』（中央公論新社）他、授業中に指示。

授業科目名	科目NO.	LCJPN3304	授業コード	L231120010	
国語国文学演習Ⅳ Seminar in Japanese Language and Literature Ⅳ			単位数	2 単位	
授業形態 演習	担当教員名 小林　直樹				

●科目の主題

中世の文学作品を対象に、受講生による報告と討議を通して、中世文学を読むための基本的な方法を学んでいく。今期は鎌倉後期の説話集『沙石集』を精読する。

●到達目標

『沙石集』の精読を通じて、中世の文学作品を、その作品が成立した時代の文脈の中に位置づけて読み解く基本姿勢の習得を目指す。

●授業内容・授業計画

『沙石集』を注釈的に読解する。担当者による報告と、受講者全員による討議を経て、テキスト理解を深めていく。

第1回　受講生による報告と討議
第2回　受講生による報告と討議
第3回　受講生による報告と討議
第4回　受講生による報告と討議
第5回　受講生による報告と討議
第6回　受講生による報告と討議
第7回　受講生による報告と討議
第8回　受講生による報告と討議
第9回　受講生による報告と討議
第10回　受講生による報告と討議
第11回　受講生による報告と討議
第12回　受講生による報告と討議
第13回　受講生による報告と討議
第14回　受講生による報告と討議
第15回　受講生による報告と討議

●事前・事後学習の内容

事前学習：授業前にWebClass上に掲載される授業資料や発表レジュメを熟読の上、疑問点を明らかにした上で受講する。報告の担当者になった場合は、少なくとも一か月前から入念に準備を行い、参加者に理解しやすい報告を行うよう努める。

事後学習：授業中に指示された参考文献を読むことで、理解をさらに深める。

●評価方法

報告ないしレポート(80点)、授業中の発言など参加姿勢(20点)。

●受講生へのコメント

本科目は前期の演習Ⅲと併せて受講することが極めて望ましい。

●参考文献・教材

テキスト：プリントによる。

参考書：日本古典文学大系『沙石集』(岩波書店)、新編日本古典文学全集『沙石集』(小学館)、大隅和雄『信心の世界、遁世者の心』(中央公論新社)等、授業中に指示。

授業科目名	科目NO.	LCJPN3305	授業コード	L231130010	
国語国文学演習Ⅴ Seminar in Japanese Language and Literature Ⅴ			単位数	2 単位	
授業形態 演習	担当教員名 丹羽　哲也				

●科目の主題

語の歴史。『日本国語大辞典』の精読。

●到達目標

単語の意味が歴史的にどう変遷していくか、その過程を文献資料によって明らかにしていくための方法を身につける。一つの語が様々な用法を派生・拡大していき、また、縮小していく、そういう流れの多様性と法則性を追究する。

●授業内容・授業計画

この授業は対面で行う。

担当者は、課題の語について、古典文献（電子テキストも含む）から用例を収集し、『日本国語大辞典』（第二版）の記述を批判的に検討しながら、意味・用法の分析をし、いかなる変遷過程をたどってきたかという問題を考察、発表する。他の受講生はそれについて意見表明を求められる。

第1回 レジュメの作成方法、調査する資料についての説明。
第2回 言葉の意味変化に関する概説(1)
第3回 言葉の意味変化に関する概説(2)
第4回 発表と議論(1)
第5回 発表と議論(2)
第6回 発表と議論(3)
第7回 発表と議論(4)
第8回 発表と議論(5)
第9回 発表と議論(6)
第10回 発表と議論(7)
第11回 発表と議論(8)
第12回 発表と議論(9)
第13回 発表と議論(10)
第14回 発表と議論(11)

●事前・事後学習の内容

担当する語について、辞書の記述の調査、用例の収集と考察、レジュメの作成を行う。発表後は、レポートの作成に取り組む。

●評価方法

平常点（発表、および、他の発表の時の質問ぶり）7割と学期末のレポート3割。

●受講生へのコメント

各時代の用例を集めて分析するのは手間がかかることなので、準備に十分な時間をかけること。

●参考文献・教材

参考文献は授業中に指示する。

授業科目名	科目NO.	LCJPN3306	授業コード	L231140010	
国語国文学演習Ⅵ Seminar in Japanese Language and Literature Ⅵ				単位数	2 単位
授業形態 演習	担当教員名 丹羽　哲也				

●科目の主題

日本語の諸相。

●到達目標

日本語がいかに変化して現在に至っているか、あるいは、日本語の現在の諸事象がいかなる歴史的背景を持っているか、自分で問題を設定して調べ、理解を深めていく力を養う。

●授業内容・授業計画

この授業は対面で行う。

受講生各自が、日本語に関して興味を抱いている問題（意味、語源、文法、敬語、文体、音韻、表記、方言など）について、具体的なテーマを設定し、文献を調べたりデータを集めたりして考察を加え、複数回の発表をする。他の受講生は、それについての意見表明が求められる。

第1回 テーマ設定の相談、文献の紹介(1)
第2回 テーマ設定の相談、文献の紹介(2)
第3回 発表と議論(1)
第4回 発表と議論(2)
第5回 発表と議論(3)
第6回 発表と議論(4)
第7回 発表と議論(5)
第8回 発表と議論(6)
第9回 発表と議論(7)
第10回 発表と議論(8)
第11回 発表と議論(9)
第12回 発表と議論(10)
第13回 発表と議論(11)
第14回 発表と議論(12)

●事前・事後学習の内容

発表テーマの選定と継続的な調査・考察。レポートの作成。

●評価方法

平常点と学期末のレポートによる。

●受講生へのコメント

あらかじめ、どんなテーマ・問題を設定するかある程度考えておくこと。

●参考文献・教材

参考文献は授業中に指示する。

授業科目名	科目NO.	LCJPN3207	授業コード	L231150010	
国語国文学特講Ⅰ Special Lecture in Japanese Language and Literarture Ⅰ			単位数	2 単位	
授業形態 講義	担当教員名 久堀　裕朗				

●科目の主題

本授業では、近世の演劇作品（浄瑠璃）の中からいくつかの作品（場面）を選び、精読しながら、それらに関する注釈上、読解上、また研究史上のさまざまな問題を講じ、近世の国文学研究に関する多様な知識と方法を身につける。

●到達目標

授業時の解説を参考に、取り上げる作品の解釈について、各自の論理的な考察をレポートにまとめることができる。

●授業内容・授業計画

近世の演劇作品（浄瑠璃）の中から、先行研究や劇評などにおいて様々な解釈が提示されてきた作品（場面）を選び、それらを原作に立ちかえって読み直すことによって、そのドラマが初演時に観客にどのように理解されていたのかについて考察する。今期は小説家の故・橋本治氏の著書『浄瑠璃を読もう』『もう少し浄瑠璃を読もう』（新潮社）を利用し、その解釈に対して批評を加えながら、上記の理解について考えてみたい。

第1回：本授業のガイダンス
第2回：『義経千本桜』に関する解説と検討①
第3回：『義経千本桜』に関する解説と検討②
第4回：『義経千本桜』に関する解説と検討③／小レポートA作成
第5回：『本朝廿四孝』に関する解説と検討①
第6回：『本朝廿四孝』に関する解説と検討②
第7回：『本朝廿四孝』に関する解説と検討③／小レポートB作成
第8回：『妹背山婦女庭訓』に関する解説と検討①
第9回：『妹背山婦女庭訓』に関する解説と検討②
第10回：『妹背山婦女庭訓』に関する解説と検討③／小レポートC作成
第11回：『伊賀越道中双六』に関する解説と検討①
第12回：『伊賀越道中双六』に関する解説と検討②
第13回：『伊賀越道中双六』に関する解説と検討③
第14回：『伊賀越道中双六』に関する解説と検討④／小レポートD作成
第15回：まとめ／期末レポート提出

●事前・事後学習の内容

第1回：紹介された参考文献を読む。
第2回：配布資料の予習と小レポートAに向けた考察。
第3回：配布資料の予習と小レポートAに向けた考察。
第4回：配布資料の予習と小レポートAに関する再検討。
第5回：配布資料の予習と小レポートBに向けた考察。
第6回：配布資料の予習と小レポートBに向けた考察。
第7回：配布資料の予習と小レポートBに関する再検討。
第8回：配布資料の予習と小レポートCに向けた考察。
第9回：配布資料の予習と小レポートCに向けた考察。
第10回：配布資料の予習と小レポートCに向けた考察。
第11回：配布資料の予習と小レポートDに関する再検討。
第12回：配布資料の予習と小レポートDに向けた考察。

第13回：配布資料の予習と小レポートDに向けた考察。

第14回：配布資料の予習と小レポートDに関する再検討。

第15回：全体のふり返りとまとめ

●評価方法

到達目標の達成度について、以下の通りの評価を行う。

評価方法とその割合：授業時の小レポート20％　期末レポート80％

合格（単位修得）のための最低基準：授業内容を参考に、自身の論理的な考察をレポートにまとめることができる。

●受講生へのコメント

授業では各作品の一部しか取り上げることができないが、授業での紹介を参考に、各自で作品全体や、さらに多くの古典文学作品を読み進めていくことが望ましい。

●参考文献・教材

教材：プリントを配布する。

参考文献：授業時に詳しく指示する。

授業科目名	科目NO.	LCJPN3208	授業コード	L231160010	
国語国文学特講Ⅱ Special Lecture in Japanese Language and Literature Ⅱ			単位数	2 単位	
授業形態 講義	担当教員名 小林　直樹				

●科目の主題

本授業では、中世文学を特徴づける要素のひとつである遁世僧の文学を取り上げる。鴨長明『発心集』、慶政『閑居友』、無住『沙石集』、および『撰集抄』といった遁世僧の手になる説話集を素材に、それぞれの特色および影響関係について考察し、文学史的系譜を明らかにする。

●到達目標

中世伝承文学の特色について理解するとともに、当該文学を読む際に必要な基本的な知識や方法を身につける。

●授業内容・授業計画

第1回:理想の遁世僧・玄賓
第2回:『発心集』の玄賓伝承
第3回:『発心集』の遁世僧伝承
第4回:『発心集』から『閑居友』へ
第5回:『閑居友』の玄賓伝承
第6回:『閑居友』の遁世僧伝承
第7回:『閑居友』から『撰集抄』へ
第8回:『撰集抄』の玄賓伝承
第9回:『撰集抄』の遁世僧伝承
第10回:『沙石集』と『発心集』
第11回:『沙石集』と『閑居友』
第12回:『沙石集』の遁世僧伝承
第13回:慶政の学問と文芸
第14回:無住の学問と文芸
第15回:『撰集抄』と遁世僧の学問

●事前・事後学習の内容

事前学習:授業前にWebClass上に掲示された授業資料をよく読んだ上で受講する。

事後学修:受講後は授業内容を整理するとともに、指示された文献を読んでさらに理解を深める。

●評価方法

試験(90点)、コメントカードの記載(10点)

●受講生へのコメント

授業をきっかけとしてできるだけ多くの関連図書を読むことが望ましい受講のあり方である。

●参考文献・教材

テキスト:プリントによる。

参考書:目崎徳衛『出家遁世』(中公新書)他、授業中に指示。

授業科目名	科目NO.	LCJPN3307	授業コード	L231170010	
国語国文学特論 Special Lecture in Japanese Language and Literature			単位数	2 単位	
授業形態 講義／演習	担当教員名 佐野　宏				

●科目の主題

古代日本文学における歌謡及び和歌作品について、後世の歌語以前の「文脈付帯語彙」の形成過程について考察を行う。

●到達目標

萬葉集、古事記、日本書紀、風土記といった上代作品についての基礎知識の確認と、それらを研究対象とする場合の学的方法について説明できることを目的とする。

●授業内容・授業計画

基本、遠隔授業とする。

第1回　上代語概説①語彙
第2回　上代語概説②音韻
第3回　上代語概説③文法（活用）・付；特殊語法
第4回　上代語概説④文法（副助詞と係助詞）
第5回　上代語概説⑤文法（推量の助動詞の解釈をめぐって）
第6回　上代語資料概説①；資料の範囲、木簡及び出土資料群
第7回　上代語資料概説②：日本文学史上の上代文学
第8回　萬葉集研究の諸問題①：和歌の定型
第9回　萬葉集研究の諸問題②：「歌群論」の問題点
第10回　萬葉集研究の諸問題③：「萬葉集」という作品
第11回　萬葉集研究の諸問題④：古事記、日本書紀との関連性
第12回　萬葉集研究の諸問題⑤：享受史について
第13回　萬葉集研究の諸問題⑥：修辞法
第14回　今期のまとめ

●事前・事後学習の内容

課題を与えるので配付のプリントを参考にして課題について調査と考察を行う。課題は個別作品、あるいは古代語語彙といった個別の課題ですから、具体的な事前事後学習については個別に指示をします。学的方法（個別の研究対象への分析方法と体系的観点からみたその研究に対する評価）について考えて欲しいと思います。

●評価方法

期末のレポート70%、小テストを含む平常点30%（小テストは事前に設問を開示しますので、ご準備ください）

●受講生へのコメント

とくに事前の知識は必要ありません。古代和歌や日本神話に興味のある方を歓迎します。ただし国文学研究に国語学の知識を活用し、国語学研究に国文学の成果を取り入れるようにしたいと思います。なお、受講生にあわせて素材を適宜変更しますので、上記の回数と内容は順序を入れ換えることがあります。

●参考文献・教材

井手至・毛利正守『校注萬葉集』（和泉書院）、『萬葉事始』（和泉書院）、校注萬葉集の代わりに小島憲之他『萬葉集』本文篇（塙書房）を用いてもよい。

授業科目名	科目NO.	LCJPN3308	授業コード	L231180010	
国語国文学特論演習 Special Seminar in Japanese Language and Literature			単位数	2 単位	
授業形態 演習	担当教員名 佐野　宏				

●科目の主題

国語学と国文学の見方を踏まえて、研究対象を多角的に分析することを通して、人文科学における知識の継承と「古典」形成の意義について考察する。

●到達目標

萬葉集、古事記、日本書紀、風土記といった上代作品について自ら問題を設定し、解決できるようになることを目指します。

●授業内容・授業計画

基本、対面とするが遠隔に変更する場合がある。

第1回　演習について
第2回　萬葉集の場合：具体例を示す（譬喩と問答について；文脈付帯語の展相）。
第3回　古事記の場合：具体例を示す（古事記上巻について；天孫降臨の論理）。
第4回　日本書紀の場合：具体例を示す（雄略天皇について；萬葉集巻頭歌の意義）。
第5回　風土記の場合：具体例を示す（三輪山伝説の話形と萬葉集巻13「泣く子守る山」）。
第6回　上代文学研究で今何が問題か（記紀歌謡の諸問題；和歌の次元に措いた時）
第7回　上代語研究で今何が問題か（助動詞の意味分化と事態把握のあり方）
第8回　個別演習①：担当者による研究発表
第9回　個別演習②：担当者による研究発表
第10回　個別演習③：担当者による研究発表
第11回　個別演習④：担当者による研究発表
第12回　個別演習⑤：担当者による研究発表
第13回　個別演習⑥：担当者による研究発表
第14回　今期のまとめ

●事前・事後学習の内容

課題を与えるので配付のプリントを参考にして課題について調査と考察を行う。課題は個別作品、あるいは古代語語彙といった個別の課題ですから、具体的な事前事後学習については個別に指示をします。学的方法（個別の研究対象への分析方法と体系的観点からみたその研究に対する評価）について考えて欲しいと思います。

●評価方法

期末のレポート70%、小テストを含む平常点30%（小テストは事前に設問を開示しますので、ご準備ください）

●受講生へのコメント

演習科目になりますので、国語国文学特論を履修しておくことが望ましいと考えますが、既に古代語・上代文学について素養のある方はその限りではありません。

●参考文献・教材

井手至・毛利正守『校注萬葉集』（和泉書院）、『萬葉事始』（和泉書院）、校注萬葉集の代わりに小島憲之他『萬葉集』本文篇（塙書房）を用いてもよい

授業科目名	科目NO.	LCCHN3202	授業コード	L232020010	
中国語中国文学概論Ⅱ Introduction to Chinese Linguistics and Literature Ⅱ			単位数	2 単位	
授業形態 講義	担当教員名 高橋　未来				

●科目の主題

本講義は、中国古典文学の流れについての基礎知識を培うものである。中でも主要な作品については、とくに取り上げて分析と鑑賞を行う。これにより、『詩経』・『楚辞』の時代からおよそ宋代頃までの中国古典文学の流れを体系的に把握し、あわせてその文学が育まれた文化的、歴史的背景などについても多層的に理解することを目的とする。

●到達目標

中国古典文学の全体的な流れ、各時代ごとの特徴および主要な文学者とその作品を体系的に把握し、解説ができる

●授業内容・授業計画

対面で行う。

第1回 ガイダンス
第2回 漢字と音韻についての概説
第3回『詩経』の誕生と特徴
第4回『楚辞』の誕生と特徴
第5回 漢代の文学と文化・賦と五言詩
第6回 漢代の文学と文化・楽府
第7回 六朝の王朝の変遷と文人
第8回 六朝の詩と賦
第9回 六朝の志怪小説
第10回 唐代の文学・初唐
第11回 唐代の文学・盛唐
第12回 唐代の文学　中唐と晩唐
第13回 宋代の文学
第14回 宋代の文学

●事前・事後学習の内容

第2回 漢字の六書と代表的な韻書について調べておく
第3回『詩経』の内容について概要を調べる
第4回『楚辞』の内容について概要を調べる
第5回～第6回 漢代の代表的な文学者とその作品について概要を調べる
第7回～第9回 六朝の王朝の変遷と文学者について概要を調べる
第10回～第12回 唐代の盛唐から晩唐に到るまでの文学の特徴をまとめておく
第13回 北宋の主要な文人について概要を調べる
第14回 南宋の主要な文人について概要を調べる

●評価方法

小課題40%、レポート60%として評価する。

●受講生へのコメント

事前・事後学習として小課題を二回程度出すので、必ず提出すること。
事前・事後学習の具体的内容と方法については授業中に指示する。
事前学習で作品の内容や文学者について調べる際には、漢和辞典やレファレンス事典の類を用いること。

●参考文献・教材

授業時にプリントを配布する。参考文献は、前野直彬編『中国文学史』(東京大学出版会、1975)、佐藤正光『南朝の門閥貴族と文学』(汲古書院、1997)、浅見洋二・高橋文治・谷口高志『皇帝のいる文学史　中国文学概説』(大阪大学出版会、2015)、高橋未来『杜牧研究―杜牧における政治と文学―』(東京学芸大学出版会、2016)など。その他は授業中に適宜紹介する。

授業科目名	科目NO.	LCCHN3203	授業コード	L232030010	
中国語中国文学概論Ⅲ Introduction to Chinese Linguistics and Literature Ⅲ			単位数	2 単位	
授業形態 講義	担当教員名 大岩本　幸次				

●科目の主題

中国古代における言語研究ともいえる小学の三分野、すなわち訓詁・文字・音韻の学について、関連する資料を紹介しつつ概説する。また文字学の著作である後漢・許慎『説文解字』の内容を選読する。

●到達目標

学生が小学の分野についての概括的な知識を得ることを目的とする。また古来の読書音や訓釈を保存する字書を古籍の読解に利用する、あるいは古代中国の言語や文化をうかがう参考資料として活用する契機ともなることを期待する。

●授業内容・授業計画

おおよその進捗計画は以下の通り。

第1回 ガイダンス
第2回 訓詁(1)爾雅
第3回 訓詁(2)方言
第4回 訓詁(3)釋名
第5回 訓詁(4)まとめ
第6回 文字(1)説文解字
第7回 文字(2)玉篇・字林
第8回 文字(3)字様書
第9回 文字(4)まとめ
第10回 音韻(1)切韻
第11回 音韻(2)廣韻・集韻
第12回 音韻(3)等韻学
第13回 音韻(4)近世の韻書
第14回 音韻(5)まとめ
第15回 全体のまとめ

●事前・事後学習の内容

事前学習(第2回～第15回):毎回事前に配布する資料を読み、要点をまとめる。あわせて古典資料の訳など、用意された設問の答えを準備する。

事後学習(第1回～第15回):学習した内容を復習する。

●評価方法

毎回の小テストおよび資料読解への参加度、また期末のレポートによって評価を定める。総合評価における前者と後者との割合はそれぞれ50%で、単位取得のための最低基準は達成度60%以上を超えることとする。

●受講生へのコメント

特になし。

●参考文献・教材

授業の際にプリントを配布する。

授業科目名	科目NO.	LCCHN3204	授業コード	L232040010	
中国語中国文学概論Ⅳ Introduction to Chinese Linguistics and Literature Ⅳ				単位数	2 単位
授業形態 講義	担当教員名 張　新民				

●科目の主題

この授業では、中国語圏で制作された数々の映画作品を実際に観賞、また細かく分析することを通して、中国語圏の映画とそれを生み出した現代中国文化との関わりについて講義する。受講生が、中国・香港・台湾といった中国語圏の映画作品を深く観賞することによって、また作品が作られた背景にある歴史的・社会的・思想的状況についての知識を獲得することによって、中国語圏のさまざまな文化に対する理解を深めていけることを目的とする。

●到達目標

学生が、中国・香港・台湾の映画作品の鑑賞を通して、その歴史的・社会的・思想的背景についての知識を獲得し、中国語圏の文化に対する理解を深められるようになることを目標とする。

●授業内容・授業計画

映画を鑑賞するとともに、その歴史的・社会的・思想的背景を概説する。

第1回 ガイダンス
第2回　中国語圏映画の歴史を概説する
第3回『西洋鏡/映画の夜明け』①
第4回『西洋鏡/映画の夜明け』②
第5回『花の生涯/梅蘭芳』①
第6回『花の生涯/梅蘭芳』②
第7回『悲情城市』①
第8回『悲情城市』②
第9回『悲情城市』③
第10回『活きる』①
第11回『活きる』②
第12回『活きる』③
第13回『長江哀歌』①
第14回『長江哀歌』②
第15回　総括

●事前・事後学習の内容

事前学習：資料を事前に読み、疑問点などを整理する。

事後学習：学習内容を復習する。

●評価方法

授業中の発表（50％）とレポート（50％）による。

単位取得のための最低基準は達成度60％以上を超えることとする。

●受講生へのコメント

中国語の基礎力を必要とする。

●参考文献・教材

プリント配布

授業科目名	科目NO.	LCCHN3205	授業コード	L232070010	
中国語基礎演習Ⅰ Basic Seminar in Chinese Ⅰ			単位数	2 単位	
授業形態	担当教員名				
演習	高橋　未来				

●科目の主題

本講義は、中国語の聴解力と読解力の養成に重点を置き、中国語中国文学の専門科目の授業を受けるにふさわしい中国語の能力を身につけるためのものである。受講生が、本講義によって中国語の力を養い、現代中国語による短編のエッセイや論文の概要を理解、解説できることを目的とする。

●到達目標

中国語教科書中級レベルの聴解力と読解力を身につけて、テキストのリスニング問題は全て理解でき、短編のエッセイや新聞記事の内容も正確に読み取ることができる。

●授業内容・授業計画

この授業は対面で行う。

第1回　ガイダンス
第2回　テキスト第一課「打车（タクシーに乗る）」
第3回　テキスト第二課「上网（インターネットをする）」
第4回　テキスト第三課「做客（客として招かれる）」
第5回　テキスト第四課「在办公室（オフィスにて）」
第6回　テキスト第五課「球迷（サッカーファン）」
第7回　テキスト第六課「点菜的学问（料理注文の奥深さ）」
第8回　テキスト第七課「便利店（コンビニエンスストア）」
第9回　テキスト第八課「阴晴冷暖（天候・気候に関して）」
第10回　テキスト第九課「点菜的学问（色彩の象徴する意味）」
第11回　テキスト第十課「中医养生（漢方に基づく健康維持）」
第12回　テキスト既習事項の総復習
第13回　短編エッセイの読解（中級編）
第14回　短編エッセイの読解（上級編）

●事前・事後学習の内容

一課ごとに小テスト（聞き取りや単語テストなど）を行うので、必ず復習をして授業に臨むこと。予習と復習では、とくに本文と練習問題の音声ファイルを必ずくり返し聞くこと。

第2回　テキスト第一課の予習と復習
第3回　テキスト第二課の予習と復習
第4回　テキスト第三課の予習と復習
第5回　テキスト第四課の予習と復習
第6回　テキスト第五課の予習と復習
第7回　テキスト第六課の予習と復習
第8回　テキスト第七課の予習と復習
第9回　テキスト第八課の予習と復習
第10回　テキスト第九課の予習と復習
第11回　テキスト第十課の予習と復習
第12回　テキストの総復習
第13回　短編エッセイの下調べと訳作り

第14回　短編エッセイの下調べと訳作り

●評価方法

期末試験60%、小テスト40%として評価する

●受講生へのコメント

この授業は中国語基礎演習Ⅱとペアで週二回連続で授業を行う。片方だけの受講は認めない。

●参考文献・教材

上野恵司監修・李錚強『総合中級中国語教程（改訂版）』（白帝社、2016）。その他、プリントを配布する。

授業科目名	科目NO.	LCCHN3206	授業コード	L232080010	
中国語基礎演習Ⅱ Basic Seminar in Chinese Ⅱ				単位数	2 単位
授業形態 演習	担当教員名 高橋　未来				

●科目の主題

本講義は、中国語の聴解力と読解力の養成に重点を置き、中国語中国文学の専門科目の授業を受けるにふさわしい中国語の能力を身につけるためのものである。受講生が、本講義によって中国語の力を養い、現代中国語による短編のエッセイや論文の概要を理解、解説できることを目的とする。

●到達目標

中国語教科書中級レベルの聴解力と読解力を身につけて、テキストのリスニング問題は全て理解でき、短編のエッセイや新聞記事の内容も正確に読み取ることができる。

●授業内容・授業計画

この授業は対面で行う。

第1回　ガイダンス
第2回　テキスト第一課「打车（タクシーに乗る）」
第3回　テキスト第二課「上网（インターネットをする）」
第4回　テキスト第三課「做客（客として招かれる）」
第5回　テキスト第四課「在办公室（オフィスにて）」
第6回　テキスト第五課「球迷（サッカーファン）」
第7回　テキスト第六課「点菜的学问（料理注文の奥深さ）」
第8回　テキスト第七課「便利店（コンビニエンスストア）」
第9回　テキスト第八課「阴晴冷暖（天候・気候に関して）」
第10回　テキスト第九課「颜色的象征意义（色彩の象徴する意味）」
第11回　テキスト第十課「中医养生（漢方に基づく健康維持）」
第12回　テキスト既習事項の総復習
第13回　短編エッセイの読解（中級編）
第14回　短編エッセイの読解（上級編）

●事前・事後学習の内容

一課ごとに小テスト（聞き取りや単語テストなど）を行うので、必ず復習をして授業に臨むこと。予習と復習では、とくに本文と練習問題の音声ファイルを必ずくり返し聞くこと。

第2回　テキスト第一課の予習と復習
第3回　テキスト第二課の予習と復習
第4回　テキスト第三課の予習と復習
第5回　テキスト第四課の予習と復習
第6回　テキスト第五課の予習と復習
第7回　テキスト第六課の予習と復習
第8回　テキスト第七課の予習と復習
第9回　テキスト第八課の予習と復習
第10回　テキスト第九課の予習と復習
第11回　テキスト第十課の予習と復習
第12回　テキストの総復習

第13回　短編エッセイの下調べと訳作り

第14回　短編エッセイの下調べと訳作り

●評価方法

期末試験60%、小テスト40%として評価する

●受講生へのコメント

この授業は中国語基礎演習Ⅰとペアで週二回連続で授業を行う。片方だけの受講は認めない。

●参考文献・教材

上野恵司監修・李錚強『総合中級中国語教程（改訂版）』（白帝社、2016）。その他、プリントを配布する。

授業科目名	科目NO.	LCCHN3301	授業コード	L232090010	
中国語学演習Ⅰ Seminar in Chinese Linguistics Ⅰ			単位数	2 単位	
授業形態	担当教員名				
演習	井出　克子				

●科目の主題

中級レベルの学習者を対象とし、既習の文法事項を整理しながら、様々な表現への対応が可能となるよう訓練する。

●到達目標

既習の文法知識をさらに一歩深めることで、読解力・発信力の強化に努める。

●授業内容・授業計画

中国語学の立場から書かれた文章を精読する。また、多読を習慣化するため長期の課題を与える。各自が自分で現代中国語作品を選び、その内容の要約紹介を期末のレポートとして提出する。

第1回 ガイダンス
第2回 外国学生学習漢語時的語法錯誤挙例①
第3回 外国学生学習漢語時的語法錯誤挙例②
第4回 論助動詞①
第5回 論助動詞②
第6回 時態助詞的研究与“VO過”①
第7回 時態助詞的研究与“VO過”②
第8回 部分和全体
第9回 “女孩子看不見闘鶏眼了”
第10回 岐義引起感情色彩的岐異
第11回 評改一篇短文①
第12回 評改一篇短文②
第13回 語文平議①
第14回 語文平議②
第15回 まとめ

●事前・事後学習の内容

事前学習：本文内容の予習。

事後学習：長期課題への取り組み。

●評価方法

毎回の発表とレポートによる。

●受講生へのコメント

複数の辞書の記述を読み比べて検討することが必要であり、早い段階から中中辞典の使用を習慣化してほしい。日本語に置き換えることで語や文の意味が理解できたものと、即断しないでほしい。

●参考文献・教材

劉堅『人与文――憶幾位師友論若干語言問題』北京語言文化大学出版社
プリントを配布する。

授業科目名	科目NO.	LCCHN3302	授業コード	L232100010	
中国語学演習Ⅱ Seminar in Chinese Linguistics Ⅱ			単位数	2 単位	
授業形態 演習	担当教員名 大岩本　幸次				

●科目の主題

古代漢語の一側面である音韻について、その歴史的側面の一端をうかがう上で参考となる一次資料を材料に用い、実際に当該資料について具体的に整理・分析・検討を行い、資料に反映される音韻体系に関する一定の理解を得る。

●到達目標

中古音系に関する概略を知り、その知識を古代漢語の一側面である音韻の状況をうかがう上で活用し、当該資料がどのような音韻特徴を有しているか、整理・分析することのできる実践的な知識を身につける。

●授業内容・授業計画

古代漢語に関わる資料を分析・検討していく。

第1回 ガイダンス・資料配付
第2回 中古音概説1
第3回 中古音概説2
第4回 中古音概説3
第5回 書誌調査
第6回 資料整理1
第7回 資料整理2
第8回 資料整理3
第9回 データ分析1
第10回 データ分析2
第11回 データ分析3
第12回 音韻体系検討1
第13回 音韻体系検討2
第14回 音韻体系検討3
第15回 まとめ

●事前・事後学習の内容

事前学習：配付された資料に目を通し、付設された問題の答えを考える（第2回～第4回）。配布された資料を比較し差異を見出す（第5回）。配布された資料の要素を整理する（第6回～第8回）。整理したデータを中古音と対照する（第9回～第11回）。中古音との対照結果から当該資料の性格を検討する（第12回～第14回）。これまでの作業をまとめ結論を出す（第15回）。

事後学習（第1回～第15回）：学習した内容を復習する。

●評価方法

毎回の発表による平常点により成績を評価する。単位取得のための最低基準は達成度60％以上を超えることとする。

●受講生へのコメント

特になし。

●参考文献・教材

授業中に配布する。

授業科目名	科目NO.	LCCHN3303	授業コード	L232110010	
中国文学演習Ⅰ Seminar in Chinese Literature Ⅰ			単位数	2 単位	
授業形態	担当教員名				
演習	高橋　未来				

●科目の主題

本講義は、明・凌稚隆撰『史記評林』所収の列伝を精読することにより、中国古典文学作品を読むための基礎的事項を学ぶものである。本講義により、受講生が中国古典作品を読むための工具書の種類、注釈の読み方、文中に用いられる語彙・語法等を理解し、本文と注釈を正確に解説できることを目的とする。

●到達目標

中国古典文学作品をよむための基礎的な知識を修得し、読解能力を養う。授業で扱った作品と注釈を正確に理解し、解説できる。

●授業内容・授業計画

対面で行う。

第1回 ガイダンス
第2回『史記評林』游侠列伝「韓子曰」精読（第一回）
第3回『史記評林』游侠列伝「太史公曰」精読（第二回）
第4回『史記評林』游侠列伝「古布衣之侠」精読（第三回）
第5回『史記評林』游侠列伝・朱家列伝　精読（第四回）
第6回『史記評林』游侠列伝・劇孟列伝　精読（第五回）
第7回『史記評林』游侠列伝・郭解列伝　精読（第六回）
第8回『史記評林』游侠列伝・郭解列伝　精読（第七回）
第9回『史記評林』游侠列伝・郭解列伝　精読（第八回）
第10回『史記評林』游侠列伝・郭解列伝　精読（第九回）
第11回『史記評林』游侠列伝・郭解列伝　精読（第十回）
第12回『史記評林』游侠列伝・郭解列伝　精読（第十一回）
第13回『史記評林』游侠列伝・郭解列伝　精読（第十二回）
第14回『史記評林』游侠列伝「太史公曰」精読（第十三回）

●事前・事後学習の内容

事前にプリントを配るので、担当者以外も全員下読みと語句などの下調べを行うこと。
第2回『史記評林』游侠列伝「韓子曰」以降の本文及び注釈の下読みと語句の下調べ
第3回『史記評林』游侠列伝「太史公曰」以降の本文及び注釈の下読みと語句の下調べ
第4回『史記評林』游侠列伝「古布衣之侠」以降の本文及び注釈の下読みと語句の下調べ
第5回『史記評林』游侠列伝・朱家列伝　本文及び注釈の下読みと語句の下調べ
第6回『史記評林』游侠列伝・劇孟列伝　本文及び注釈の下読みと語句の下調べ
第7回～第13回『史記評林』游侠列伝・郭解列伝　本文及び注釈の下読みと語句の下調べ
第14回『史記評林』游侠列伝「太史公曰」以降の本文及び注釈の下読みと語句の下調べ。
事後学習については授業で指示する。

●評価方法

担当する作品の発表30%、レポート40%、小課題30%として評価する。

●受講生へのコメント

演習の授業なので、毎回担当者の発表を行う。ただし受講生全員に意見を求めるので、下読みをしておくこと。
第1回の授業時にプリントを配布し、授業の進め方についての具体的な指示を行うので、受講生は必ず出席してください。

●参考文献・教材

プリントを配布する。その他、史記に関する参考資料を授業中に適宜紹介する。

授業科目名	科目NO.	LCCHN3306	授業コード	L232150010	
中国文化学演習Ⅱ Seminar in Chinese Cultural Study Ⅱ			単位数	2 単位	
授業形態 演習	担当教員名 張　新民				

●科目の主題

この授業では、映画、テレビ、雑誌、漫画、歌謡、大衆演芸といった様々なテキストを視聴また閲読し、これによって中国語の読解能力を養成するとともに、中国の大衆文化についての基本的な知識を修得することを目指す。演習1では、中国の主要な大衆文化の一つである漫画、特に伝統ある絵物語の一種である「連環画」のテキストに着目し、その中でも有名な題材の一つである『三国演義』を描いたものを取り上げて、中国語でテキストを読んでいく。

●到達目標

学生が、映画、テレビ、雑誌、漫画、歌謡、大衆演芸などに関するテキストを読み解ける中国語の読解能力を修得し、中国大衆文化についての基本的な知識を修得することを目標とする。

●授業内容・授業計画

第1回　連環画『三国演義』の概説
第2回 『三国演義』1
第3回 『三国演義』2
第4回 『三国演義』3
第5回 『三国演義』4
第6回 『三国演義』5
第7回 『三国演義』6
第8回 『三国演義』7
第9回 『三国演義』8
第10回 『三国演義』9
第11回 『三国演義』10
第12回 『三国演義』11
第13回 『三国演義』12
第14回 『三国演義』13
第15回　総括

●事前・事後学習の内容

事前学習：分担部分を翻訳、疑問点を整理する。
事後学習：学習内容を復習する。

●評価方法

成績評価に関する割合：授業中の発表（50％）とレポート（50％）による。
単位取得のための最低基準：学生が、種々のテキストを読み解く中国語の読解能力を修得し、中国大衆文化についての基本的な知識を説明できること。

●受講生へのコメント

受講者に中国語の基礎的な知識・学力があることを前提とする。

●参考文献・教材

テキストについては、毎回プリントを配布する。

授業科目名	科目NO.	LCCHN3207	授業コード	L232170010	
中国語コミュニケーションⅠ Studies in Chinese Communication Ⅰ				単位数	2 単位
授業形態	担当教員名				
演習	大岩本　幸次				

●科目の主題

特定の場面での会話例および関連する表現についての文法説明を有する教材を用いて授業を行う。様々な語彙や表現に触れて基礎的知識を豊富にし、また規範文法に関する正しい理解をふまえての作文能力についても水準の向上を図ることが目的である。

●到達目標

学生が、ナチュラルなスピードで話される短い中国語会話の内容をつかみとることができるようになること、また同様の表現を自分でも話せるようになること、また規範文法をふまえての正確な中国語の作文ができるようになることを目標とする。

●授業内容・授業計画

授業では各単元の材料について学生が自らの理解に基づき準備してきた和訳などを発表し、教員はその内容を確認するとともに必要に応じて修正・補足を行う。その後、文法について確認し、関連する作文問題などにとりくむ。学んだ内容については次回の最初にテストを行って理解度を測る。各回の進捗計画は以下の通り。

第1回 ガイダンス・第1課
第2回 第1課テスト・第2課
第3回 第2課テスト・第3課
第4回 第3課テスト・第4課
第5回 第4課テスト・第5課
第6回 第5課テスト・第6課
第7回 第6課テスト・第7課
第8回 第7課テスト・第8課
第9回 第8課テスト・第9課
第10回 第9課テスト・第10課
第11回 第10課テスト・第11課
第12回 第11課テスト・第12課
第13回 第12課テスト・第13課
第14回 第13課テスト・第14課
第15回 第14課テスト・第15課

●事前・事後学習の内容

事前学習（第2回～第15回）：毎回、担当箇所について音や意味を調べ、用意された設問の答えを準備しておく。事後学習（第1回～第15回）：次回のテストに備えて、学習した内容をそのつど復習する。

●評価方法

表現能力については毎回のテストによって達成度を評価する。読解力および作文力については、授業の中での発表内容に基づいて評価を決定する。総合評価における前者と後者との割合はそれぞれ50％で、単位取得のための最低基準は達成度60％以上を超えることとする。

●受講生へのコメント

「中国語コミュニケーションⅡ」と併せて履修する必要がある。

●参考文献・教材

毎回、授業の際に資料を配付する。

授業科目名	科目NO.	LCCHN3208	授業コード	L232180010	
中国語コミュニケーションⅡ Studies in Chinese Communication Ⅱ			単位数	2 単位	
授業形態 演習	担当教員名 大岩本　幸次				

●科目の主題

中国留学1年目の学生を想定して作られた音声教材を用いて授業を行う。材料となるのは対話や短文であり、聞き取り能力に加えて読解の側面についても水準の向上を図ることが目的である。その過程で語彙やフレーズに習熟し、基礎的文法をふまえてさらに幅のある表現ができる能力を養いたい。

●到達目標

学生が、ナチュラルなスピードで話される短い中国語会話の内容をつかみとることができるようになること、また400字程度の文章について理解度を問う設問に中国語で回答しながら短文読解のコツを把握できるようになることを目標とする。

●授業内容・授業計画

授業では各単元の材料について学生が自らの理解に基づき準備してきた発話内容および問題の解答を発表し、教員はその内容を確認するとともに必要に応じて修正・補足を行う。学んだ内容については次回の最初にテストを行って理解度を測る。各回の進捗計画は以下の通り。

第1回 ガイダンス・第1課
第2回 第1課テスト・第2課
第3回 第2課テスト・第3課
第4回 第3課テスト・第4課
第5回 第4課テスト・第5課
第6回 第5課テスト・第6課
第7回 第6課テスト・第7課
第8回 第7課テスト・第8課
第9回 第8課テスト・第9課
第10回 第9課テスト・第10課
第11回 第10課テスト・第11課
第12回 第11課テスト・第12課
第13回 第12課テスト・第13課
第14回 第13課テスト・第14課
第15回 第14課テスト・第15課

●事前・事後学習の内容

事前学習（第2回～第15回）：毎回、担当箇所について音や意味を調べ、用意された設問の答えを準備しておく。事後学習（第1回～第15回）：次回のテストに備えて、学習した内容をそのつど復習する。

●評価方法

聞き取り能力については毎回のテストによって達成度を評価する。読解力および作文力については、授業の中での発表内容に基づいて評価を決定する。総合評価における前者と後者との割合はそれぞれ50％で、単位取得のための最低基準は達成度60％以上を超えることとする。

●受講生へのコメント

「中国語コミュニケーションⅠ」と併せて履修する必要があるので注意して下さい。

●参考文献・教材

毎回、授業の際に資料を配付する。

授業科目名	科目NO.	LCCHN3209	授業コード	L232190010	
中国語コミュニケーションⅢ Studies in Chinese Communication Ⅲ				単位数	2 単位
授業形態 演習	担当教員名 張　新民				

●科目の主題

この授業では、「職業選択」「工作面試」「迎接挑戦」など、さまざまな場面を想定して中国語の多彩な表現に触れ、テキストのタスクをこなしながら、実用に耐える応用発展をめざした授業を行う。複雑な内容を具えた対話を進めていく能力と、説得力のあるスピーチを構成するための語学力を養成することが目的であり、豊富な場面設定を盛り込んだ教材を用い、各課のタスクを達成しながら、円滑なコミュニケーションが可能となるよう訓練する。

●到達目標

学生が、複雑な内容を具えた対話を進めていく能力と、説得力のあるスピーチを構成するための語学力を修得することを目標とする。

●授業内容・授業計画

テキストのタスクをこなしながら、応用発展をめざした授業を行う。

第1回：職業選択①
第2回：職業選択②
第3回：職業選択③
第4回：職業選択④
第5回：工作面試①
第6回：工作面試②
第7回：工作面試③
第8回：工作面試④
第9回：迎接挑戦①
第10回：迎接挑戦②
第11回：迎接挑戦③
第12回：迎接挑戦④
第13回：スピーチ原稿の検討
第14回：スピーチ大会
第15回：まとめと整理

●事前・事後学習の内容

事前学習：各課のウォーミングアップの課題をこなしておく。

事後学習：毎回の発表内容とその修正箇所を確認して、口頭練習を繰り返す。

●評価方法

授業中の発表（50％）とレポート（50％）による。

単位取得のための最低基準は達成度60％以上を超えることとする。

●受講生へのコメント

授業は中国語で行い、辞書を携帯すること。

●参考文献・教材

超雷他編『任務型中級漢語口語』北京語言大学出版社　コピーを配布する。

授業科目名	科目NO.	LCCHN3210	授業コード	L232200010	
中国語コミュニケーションⅣ Studies in Chinese Communication Ⅳ			単位数	2 単位	
授業形態	担当教員名				
講義／演習	張　新民				

●科目の主題

この授業では、人々の生活に根ざした熟語やことわざを取り上げ、それらを材料とする聞き取り練習、口頭作文、朗読練習を中心に授業を進める。中国において人口に膾炙している熟語やことわざについて、アニメなど映像資料も活用して学ぶことで、受講者がそれらを生きた教材として身につけ、さらには中国語の表現力を高めることを目標とする。

●到達目標

学生が、人々の生活に根ざした熟語やことわざを生きた教材として身につけ、高い中国語の表現力を獲得できることを目標とする。

●授業内容・授業計画

第1回　孤注一掷（聞き取り）
第2回　孤注一掷（朗読、作文）
第3回　自相矛盾（聞き取り）
第4回　自相矛盾（朗読、作文）
第5回　世外桃源（聞き取り）
第6回　世外桃源（朗読、作文）
第7回　囫囵吞枣（聞き取り）
第8回　囫囵吞枣（朗読、作文）
第9回　狐假虎威（聞き取り）
第10回　狐假虎威（朗読、作文）
第11回　杀鸡教子（聞き取り）
第12回　杀鸡教子（朗読、作文）
第13回　亡羊补牢（聞き取り）
第14回　亡羊补牢（朗読、作文）
第15回　総括

●事前・事後学習の内容

事前学習：資料を事前に読み、疑問点などを整理する。
事後学習：学習内容を復習する。

●評価方法

授業中の発表（50％）とレポート（50％）による。
単位取得のための最低基準は達成度60％以上を超えることとする。

●受講生へのコメント

授業は中国語で行い、辞書を携帯すること。

●参考文献・教材

プリント配布

授業科目名	科目NO.	LCCHN3211	授業コード	L232210010	
中国語中国文学特講Ⅰ Special Lecture an Chinese Linguistics and Literature Ⅰ			単位数	2 単位	
授業形態 演習	担当教員名 田渕 欣也				

●科目の主題

南宋の洪邁(1123―1202)による小説集『夷堅志』の説話を読む。

●到達目標

『夷堅志』は六朝時代からの志怪小説の流れを汲み、珍しい不思議な出来事を記した説話の宝庫となっている。一方、その詳細な叙述には、宋代の経済・社会生活が色濃く反映されており、宋代社会を研究する上で重要な歴史資料としても活用されている。本授業では、『夷堅志』の説話を読むことによって読解・鑑賞の力を育むとともに、時代背景への理解も深められるようにしたいと考えている。

●授業内容・授業計画

『夷堅志』から選んだ話を精読していく。初回の授業時にプリントを配布し、授業の進め方を説明するので、受講生は必ず出席すること。

第1回　ガイダンス
第2回『夷堅志』選読(第一回)
第3回『夷堅志』選読(第二回)
第4回『夷堅志』選読(第三回)
第5回『夷堅志』選読(第四回)
第6回『夷堅志』選読(第五回)
第7回『夷堅志』選読(第六回)
第8回『夷堅志』選読(第七回)
第9回『夷堅志』選読(第八回)
第10回『夷堅志』選読(第九回)
第11回『夷堅志』選読(第十回)
第12回『夷堅志』選読(第十一回)
第13回『夷堅志』選読(第十二回)
第14回『夷堅志』選読(第十三回)
第15回 まとめ

●事前・事後学習の内容

担当者は事前に訳注を作成し、担当でない者も原文を読んで説話の概要を把握しておくこと。授業後は、討論による修正などを踏まえ、説話の内容を十分に理解してもらいたい。

●評価方法

出席と授業への取り組みを総合した平常点により評価する(100%)。

●受講生へのコメント

中国語の基礎力を必要とする。

●参考文献・教材

プリントを授業中に配布する。参考文献は適宜指示する。

授業科目名	科目NO.	LCENG3201	授業コード	L233010010	
英米文化概論 Introduction to English and American Cultural Studies			単位数	2 単位	
授業形態 講義	担当教員名 Ian M RICHARDS				

●科目の主題

文化的事項を扱った文献の講読を通して、文化の多様性及び異文化交流の意義について体感的に理解する。

●到達目標

異なる文化的背景を持った人々とのコミュニケーション能力を育成する観点から、外国語やその背景にある文化の多様性及び異文化コミュニケーションの現状と課題について学び、英語が使われている国・地域の歴史・社会・文化について基本的な内容への理解を深め、中学校および高等学校における外国語科の授業に資する知見を身に付ける。

●授業内容・授業計画

文学、記号論、社会学、文化人類学などの学際的な資料を手がかりにして、イギリス・アメリカ・ニュージーランド・オーストラリアの各地域の歴史・社会・文化を紹介し、主なる英語圏の国々の文化の多様性と異文化コミュニケーションについて考察する。また、学生の理解力向上のため、ライティング、ディスカッションなども随時行う。

第1回:オリエンテーション:コースの概要
第2回:文化の定義と異文化コミュニケーション
第3回:異文化コミュニケーションを難しくさせる要因
第4回:日英における行間理解と知覚・コンテクスト・コミュニケーション能力
第5回:ジェスチャーと非言語コミュニケーションを通しての留学生との異文化体験及び理解
第6回:言葉の壁と異文化 第7回:多様な文化的背景が存在する国家と文化
第8回:アメリカに見る文化における優位性
第9回:宗教とアイデンティティー
第10回:文化とジェンダー
第11回:移民・移住と異文化への同化に見る異文化交流の意義
第12回:日本文化の中の英米文化の体験的理解
第13回:アイデンティティーとサブグループ
第14回:異なる文化の交流に見られる排除と寛容についての留学生との体験談・意見交換
定期試験

●事前・事後学習の内容

必ず辞書を持参すること。

●評価方法

定期試験(50%)、小レポート(50%)

●受講生へのコメント

各授業に対して、 事前に課題にきちんと対応すること。
出席や授業への積極的な参加が要求される。

●参考文献・教材

プリント リチャーズ作成 授業中に適宜資料を配布する。

授業科目名	科目NO.	LCENG3202	授業コード	L233020010	
英米文学史Ⅰ History of English and American Literature Ⅰ			単位数	2 単位	
授業形態 講義	担当教員名 内丸　公平				

●科目の主題

英語文学作品とその背景を学習することにより、中学校や高等学校における英語の授業に生かせる。

●到達目標

英語文学の代表的な作品や英語の歴史を学習することにより、多様な英語表現を理解し、英国人の文化や考え方を把握できるようにする。

●授業内容・授業計画

英語の歴史及び英国ロマン派以前の文学作品や時代背景を学習することにより、英語表現の豊かさを体験する。また、英国文化について考察を深め、最終的にそれをまとめレポートとして提出する。

第1回：文学史の意味
第2回：古英語・中英語の文学：ラングランド、チョーサー
第3回：英国ルネサンス文学（1）：ソネットの導入とシドニー
第4回：英国ルネサンス文学（2）：スペンサー、ルネサンス演劇の先行伝統
第5回：大学出才人たちの演劇
第6回：シェイクスピアの演劇（1）：喜劇
第7回：シェイクスピアの演劇（2）：悲劇
第8回：17世紀の演劇：ジョンソン、ジャコビアン・ドラマティスト
第9回：17世紀の詩：形而上詩人、マーヴェル
第10回：王政復古期の文学：ミルトン、バニヤン、ウォールトン
第11回：シェイクスピア改作時代：ドライデン
第12回：18世紀の文学：小説、デフォー、スウィフト
第13回：女流作家オースティン、スターン、ゴールドスミス
第14回：チャールズ・ラムの随筆
定期試験

●事前・事後学習の内容

授業までに教科書の当該箇所を読んで、当該テーマ（作品）について自身の見解をまとめておくこと。また、学習内容を理解し、身に着けるためには実際の作品に接することが重要である。そのため、各授業の前後にそれぞれ1時間程度の予習・復習を行うことが望ましい。具体的な予習方法は初回の授業時に指示する。

●評価方法

定期試験（60%）、レポート（20%）、毎回の小テスト(20%)

●受講生へのコメント

多くの文学作品に触れることを望む。

●参考文献・教材

川崎寿彦『イギリス文学史』（成美堂、2013年）及びプリント 参考書 A. J. Pinnington, On Britain: An Introduction 開文社、1996年
※ 補助教材として、毎週ワークシートをWebclassにアップする。各自DLして指定の範囲の予習を行い、教室に持参すること。

授業科目名	科目NO.	LCENG3203	授業コード	L233030010	
英米文学史Ⅱ History of English and American LiteratureⅡ			単位数	2 単位	
授業形態 講義	担当教員名 田中　孝信				

●科目の主題

英文学作品とその背景を成す文化や社会や歴史を通して、英国や英国民の特質を独自性と普遍性の両面から探る。

●到達目標

英語で書かれた代表的な文学作品を通時的に読み解くことで、使用されている様々な英語表現への理解を深め活用できるようにすると同時に、英語が使われている国や地域の文化や歴史への関心を高め理解する。

●授業内容・授業計画

18世紀末のロマン派から現代に至るまでの英文学の流れを、主要な作家の作品を取り上げながら概観し、各作品の個別性と普遍性に着目する。

第1回:ロマン主義時代(1)ワーズワース、コールリッジ
第2回:ロマン主義時代(2)バイロン、シェリー、キーツ
第3回:ヴィクトリア朝期の詩と散文(1)時代精神とカーライル
第4回:ヴィクトリア朝期の詩と散文(2)テニソン、ブラウニング、アーノルド
第5回:ヴィクトリア朝期の詩と散文(3)ラスキン、ペイター、ラファエロ前派、ワイルド
第6回:ヴィクトリア朝の小説(1)ディケンズ、サッカレー
第7回:ヴィクトリア朝の小説(2)ブロンテ姉妹、ジョージ・エリオット、ハーディ
第8回:第2次大戦までの小説(1)ヘンリー・ジェイムズ、コンラッド
第9回:第2次大戦までの小説(2)ウルフ、ジョイス、ロレンス
第10回:第2次大戦までの詩と劇(1)ホプキンズ、パウンド、イエイツ
第11回:第2次大戦までの詩と劇(2)T. S. エリオット、ショー
第12回:戦後の文学(1)40年代の詩人たち、50年代と〈ムーヴメント〉、カトリック作家たち
第13回:戦後の文学(2)逆ユートピア小説、〈怒れる世代〉の作家たち、女流作家たち、ベケット
第14回:現代の文学
第15回:定期試験

●事前・事後学習の内容

授業までに、指示された、教科書の箇所(日本語)とプリント(英語)を読んでおくこと。特にプリントは、事前の準備なしに授業に臨むとついていけなくなるので、注意しなければならない。授業後はすみやかに講義の要点をまとめ、プリントの誤読していた部分を中心に読み直し、理解を徹底させること。そのために、各授業の前後にそれぞれ2時間程度の予習・復習を行うことが望ましい。

●評価方法

定期試験(80%)、レポート(20%)

●受講生へのコメント

訳書で構わないので、教科書に出てくる作家の作品をできるだけ多く読んでおくこと。

●参考文献・教材

教科書:川崎寿彦『イギリス文学史』(成美堂、2013)およびプリント(田中作成)
参考文献:授業中に適宜資料を配布する。

授業科目名	科目NO.	LCENG3204	授業コード	L233040010	
英米文学史Ⅲ History of English and American LiteratureⅢ			単位数	2 単位	
授業形態 講義	担当教員名 古賀　哲男				

●科目の主題

米文学史について主要な知識を習得し、中学校及び高等学校における英語科の授業に生かかすことができる。

●到達目標

英語で書かれた文学を学ぶなかで英語による表現力への理解を深め、英語が使われている国・地域の文化について理解する。

●授業内容・授業計画

米文学についての主要な解説を行い、授業内質疑やレポート等で受講生のテーマについての理解を確認する。
文学作品における英語表現や、文学作品から見る多様な文化、並びに英語で書かれた代表的な文学を学ぶ。
第1回:イントロダクション:米文学史とは何か
第2回:植民地時代の米文学(17世紀から18世紀)
第3回:国民文学創成期の文学1(エマスン、ソローを中心に)
第4回:国民文学創成期の文学2 (ホーソーン、ポウを中心に)
第5回:国民文学創成期の文学3 (メルヴィルを中心に)
第6回:南北戦争期の文学(トウェインを中心に)
第7回:世紀末から第一次世界大戦期の文学(ドライサー、ジェイムズを中心に)
第8回:1920年代の文学1(ヘミングウェイ、フィッツジェラルドを中心に)
第9回:1920年代の文学2(ハーレム・ルネッサンス作家を中心に)
第10回:1930年代の文学(スタインベックを中心に)
第11回:1940年代の文学(フォークナーを中心に)
第12回:1950年代の文学(ベロー、サリンジャーを中心に)
第13回:1960年代から1990年代の文学(ピンチョン、デリーロ、モリソンを中心に)
第14回: 2000年以降の文学、まとめ
定期試験は実施しない。

●事前・事後学習の内容

教科書ならびに配布資料を入念に予習すること。レポート作成にむけて発展的学習を自ら行うこと。

●評価方法

レポート試験(80%)平常授業での発表内容(20%)

●受講生へのコメント

英米コース所属の人のみならず、幅広く英語の教職を目指す人も、英米の文化体験の凝縮する文学にじかに触れてほしい。英語の読解力養成も目指します。

●参考文献・教材

押谷善一郎監修『アメリカ文学新考』大阪教育図書、2004年 授業中に適宜資料を配布する。

授業科目名	科目NO.	LCENG3205	授業コード	L233050010	
英語学概論 I Introduction to English Linguistics I			単位数	2 単位	
授業形態 講義	担当教員名 豊田　純一				

●科目の主題

英文法の理論的側面に着目し、英語とはどのような言語であるかを言語理論の観点から考察する科目である。特に、英語の基盤をなす音の性質・音の仕組み・文の構造・文章内の意味に関する言語学的知見を広め、英語の本質を理解することを目標とする。

●到達目標

・音声の仕組みにおいて、何が重要な要素で、音の差はどのように作られるか、ならびに隣接する音の相互関係を説明できる。
・文の構造を理論に基づいて構成要素に細分化し、それがどのように集まって文となっているかを説明できる。
・言葉の意味の理解において、どのように意味のネットワークが構築されているか説明できる。

●授業内容・授業計画

言語学的な視点から音声と文法の造詣を深めながら、英語を構成している言語的要素を考察する。
第1回:オリエンテーション:言語学と英語学
第2回:音の構成要素
第3回:子音と母音について
第4回:音の組み合わせ
第5回:実際の発音での留意点
第6回:単語としての音声
第7回:文章としての音声
第8回:文章ができる仕組み
第9回:単文の内部構造
第10回:複文の内部構造
第11回:意味の構成要素
第12回:単語同士での意味関係
第13回:意味の拡張
第14回:文章内での意味
第15回:定期試験

●事前・事後学習の内容

教科書で扱う部分を授業前に目を通しておくこと。さらに、普段から読んだり耳にしたりする英語に対して、授業で扱った内容がどのようにあてはまるかを考えるようにできればなお望ましい。

●評価方法

試験・レポート(90%)、平常点(10%)
毎週のレポートの平均点をもって、最終成績とする。

●受講生へのコメント

授業手法は基本遠隔(2. 発展)です。本授業ではZoomによる説明・演習(毎回60分ほど)と課題を両方で行います。Zoomを使ったことがない方は、授業までに設定などをしておくこと。Zoomの詳細は、別途掲示する。Zoomによる説明への参加は、内容確認の演習もあるので必須です。説明内で扱う資料などは、各セッション前後に配布しません(著作権などの諸事情により)。ですので、この授業を受講するかを決める際、お気を付けください。上記の条件で行うので、Zoom説明は1度だけ行い、録画などの公開もしません。各自の責任で参加してください。レポートはほぼ毎週課されます。各週、授業の時間までに課題テーマを開示します。レポートの期限内の提出で受理されます。締め切り時間、ならびに提出方法に留意すること。提出の際は、ファイル名などの詳細に関する指示を守ること。守れていないと受理されず、採点対象外となる。同一もしくはほぼ同じ(表現を少し変えた程度)ものが提出されて場合、該当する提

出物をすべてカンニングとみなす。一回でも該当する場合、単位は与えられないので注意すること。ネットワークなどの不具合で提出が遅れても責任は負えない。締め切りぎりぎりの提出をなるべく避け、余裕を持った提出を心掛けること。単位認定には、70％以上の出席が必要である（欠席は3回まで）。出席点は無いので注意すること。

●参考文献・教材

長谷川瑞穂編著『はじめての英語学』研究社、2006年

その他、授業中に適宜を提示する。

授業科目名	科目NO.	LCENG3206	授業コード	L233060010	
英語学概論Ⅱ Introduction to English Linguistics Ⅱ			単位数	2 単位	
授業形態 講義	担当教員名 豊田　純一				

●科目の主題

英語の構造を、文脈や語の用法の分析や国際語としての英語などの視点から、実際に社会で使われている英語の用法に関した言語学的知見を培う科目である。語用論や社会言語学で扱われている、文脈と意味の解釈、方言、言語接触と言語の歴史的変化などの分野をもとに、現代英語の文法を実際の言語使用に即して考察ができることを目標とする。

●到達目標

・文脈が文の理解に与える影響を把握し、人工の例文を中心とした理論的考察では見えない点を説明できる。

・方言などの言語の多様性を理解し、実際に使用されている英語と教科書の英語との相違を理解できる。

・国際共通語としての英語の重要性を説明できる。

●授業内容・授業計画

言語学的な視点から語用論・歴史的変遷・国際性の造詣を深めながら、英語を構成している言語的要素、及び英語が話されている社会構成を考察する。

第1回:オリエンテーション:文脈と世界における英語の多様性
第2回:意味の多様性
第3回:意味とコンテクスト
第4回:まとまりのある文章
第5回:文章中の情報構造
第6回:日英における情報構造の差
第7回:文法と文化とコンテクスト
第8回:言語相対性仮説
第9回:英語のバリエーション
第10回:多言語コミュニケーション
第11回:ピジン語とクレオール語
第12回:多言語国家について
第13回:バイリンガルとダイグロシア
第14回:公用語としての英語
第15回:定期試験

●事前・事後学習の内容

教科書で扱う部分を授業前に目を通しておくこと。さらに、普段から読んだり耳にしたりする英語に対して、授業で扱った内容がどのようにあてはまるかを考えるようにできればなお望ましい。

●評価方法

定期試験(90%)、平常点(10%)

●受講生へのコメント

状況次第では遠隔授業になるかもしれないので、学期が始まる前に何らかの連絡があるか注意すること 。

出席率が70%に満たないものは、単位の対象外とする。出席点はないので注意すること。

15分以上遅刻したものは欠席とみなすので、気を付けること。

試験・レポートは定期的にあるので、授業中の指示に従うこと。

●参考文献・教材

長谷川瑞穂編著『はじめての英語学』研究社、2006年

（前期と同じ教科書なので、すでに購入した者は再度購入する必要はない）
授業中に適宜資料を配布する。

授業科目名	科目NO.	LCENG3207	授業コード	L233070010	
英米文化演習 Seminar in English and American　Cultural Studies			単位数	2 単位	
授業形態 講義	担当教員名 Ian　M　RICHARDS				

●科目の主題

他の国・地域の歴史・社会・文化への比較も含め、英語による表現力への理解を深め、中学校および高等学校における英語科の授業に資する知見を身に付ける。

●到達目標

外国語やその背景にある文化の多様性及び異文化コミュニケーションの現状と課題について学ぶ。

●授業内容・授業計画

Students will be given a weekly reading assignment related to aspects of American culture.　There will also be a writing component to this course.　Students will be given information in western methods of formal essay writing and will practise writing essays on aspects of culture.

第1回:Introduction, statement of aims of the course.
第2回:Lecture on writing methodology.
第3回:Written Essay 1 on aspects of culture.
第4回:Reformulation, feedback and discussion on essay 1.
第5回:Reading: American diversity.
第6回:Reading: American immigration.
第7回:Reading: America's democracy.
第8回:Written Essay 2 on aspects of culture.
第9回:Reformulation, feedback and discussion on essay 2.
第10回:Reading: America's religions.
第11回:Reading: America's concept of freedom.
第12回:Reading: The American Dream.
第13回:Reading: Competition in American society.
第14回:Written Essay 3 on aspects of culture.
定期試験

●事前・事後学習の内容

辞書を必ず持参すること。

●評価方法

定期試験(50%)、小レポート(50%)

●受講生へのコメント

各授業への準備をしっかりしておくこと。
授業中に課す課題(英語でのレポート)は最終成績に重要な要素である。

●参考文献・教材

特になし。
参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を配布する。

授業科目名	科目NO.	LCENG3208	授業コード	L233080010	
英米文学演習Ⅰ Seminar in English and American Literature Ⅰ			単位数	2 単位	
授業形態 演習	担当教員名 田中　孝信				

●科目の主題

近現代の英文学作品を味読しながら、作品が持つ意義を同時代性と普遍性の両面から探る。

●到達目標

英語で書かれた代表的な文学作品を読み解くことで、1)分析批評する能力を涵養する、2)使用されている様々な英語表現への理解を深める、3)英語が使われている国や地域の文化や歴史を理解する。

●授業内容・授業計画

演劇や映画で馴染み深い、ロバート・ルイス・スティーヴンソンの『ジキル博士とハイド氏』(1866)を読む。人間の内面に存在する二面性、その心理的な事実をジキル博士とハイド氏に探りつつ、ロマンティックな要素と科学的な要素とをうまく取り入れたスティーヴンソンの文体・想像力・技法について考察する。

第1回:オリエンテーション:スティーヴンソンの生涯と『ジキル博士とハイド氏』の梗概説明
第2回:『ジキル博士とハイド氏』を読む①　アタスンとエンフィールド
第3回:『ジキル博士とハイド氏』を読む②　家と住人の関係
第4回:『ジキル博士とハイド氏』を読む③　アタスンとハイド
第5回:『ジキル博士とハイド氏』を読む④　アタスンとジキル
第6回:『ジキル博士とハイド氏』を読む⑤　ジキルとラニョン
第7回:『ジキル博士とハイド氏』を読む⑥　ジキルとハイド
第8回:『ジキル博士とハイド氏』を読む⑦　サー・カルー殺害事件の持つ意味
第9回:『ジキル博士とハイド氏』を読む⑧　退化への誘惑
第10回:『ジキル博士とハイド氏』を読む⑨　複数の語り
第11回:『ジキル博士とハイド氏』を読む⑩　ジキルの死の解釈
第12回:『ジキル博士とハイド氏』の批評を読む(1)人間の内なる善と悪、分身
第13回:『ジキル博士とハイド氏』の批評を読む(2)男同士の絆
第14回:『ジキル博士とハイド氏』全体の主題・文体・語りに関する問題提示と討論
第15回:定期試験

●事前・事後学習の内容

毎週、指定された箇所の英語を読み解き授業に臨むこと。授業後はすみやかに誤読や浅薄な読解しかしていなかった部分を中心に読み直し、理解を徹底させること。そのために、各授業の前後にそれぞれ2時間程度の予習・復習を行うことが望ましい。

●評価方法

定期試験(70%)、レポート(20%)、平常点(10%)

●受講生へのコメント

訳書で構わないので、スティーヴンソンの他の作品も読んでおくこと。

●参考文献・教材

R. L. Stevenson, Dr. Jekyll and Mr. Hyde(開文社、2002)

授業科目名	科目NO.	LCENG3209	授業コード	L233090010	
英米文学演習Ⅱ Seminar in English and American LiteratureⅡ			単位数	2 単位	
授業形態 演習	担当教員名 内丸　公平				

●科目の主題

シェイクスピアの作品を読み、その背景を学習することにより、その理解を、中学校や高等学校において、英語の授業に生かせる。

●到達目標

シェイクスピアの悲劇『ハムレット』(1600年頃)を様々な観点に留意しながら精読し、エリザベス朝の歴史、英国の演劇文化、英語表現への理解を深める

●授業内容・授業計画

シェイクスピアの演劇を読み、その背景を学習することにより、英国演劇文化を理解する。シェイクスピアの英語表現を直接体験して英語力を高めるととともに、英語表現の多様性を理解する。最終的に本作品についてレポートを提出する。

第1回:『ハムレット』の精読(1) シェイクスピアの経歴
第2回:『ハムレット』の精読(2) シェイクスピア当時の英語の特色
第3回:『ハムレット』の精読(3) 本作品のテキストと参考辞書
第4回:『ハムレット』 の精読(4) エリザベス朝の政治制度
第5回:『ハムレット』の精読(5) 祈願文、命令文、倒置文
第6回:『ハムレット』の精読(6) 誓言、慣用句
第7回:『ハムレット』の精読(7) 特殊な関係代名詞
第8回:『ハムレット』の精読(8)文の省略法、Ifのない条件節
第9回:『ハムレット』の精読(9)本作品とその材源との比較
第10回:『ハムレット』の精読(10)エリザベス朝の復讐悲劇との相違
第11回:『ハムレット』の精読(11)ハムレットの性格
第12回:『ハムレット』の精読(12)オフィーリア表象
第13回:『ハムレット』の精読(13)『ハムレット』の上演史
第14回:『ハムレット』の精読(14)『ハムレット』の先行研究
定期試験

●事前・事後学習の内容

授業までに教材の当該箇所を辞書等を用いて一通り読んで、それに対する自身の見解をまとめておくこと。また、学習内容を理解し、身に着けるためには、自分が解釈できず、教員によって解釈法を教わった箇所を、授業後に確認することが重要である。そのため、各授業の前後にそれぞれ2時間程度の予習・復習を行うことが望ましい。具体的な予習方法は、初回の授業時に指示する。

●評価方法

定期試験(60%)、レポート(20%)、確認テスト(20%)

●受講生へのコメント

辞書を引いて予習してくること

●参考文献・教材

高橋康也・河合祥一郎編集『ハムレット』(大修館シェイクスピア双書) 大修館書店
＊補助教材として、毎週Webclassにワークシートをアップロードするので、各自DLして教室に持参すること。

授業科目名	科目NO.	LCENG3210	授業コード	L233100010	
英米文学演習Ⅲ Seminar in English and American LiteratureⅢ			単位数	2 単位	
授業形態 演習	担当教員名 古賀　哲男				

●科目の主題

米文学について主要な知識を習得し、中学校及び高等学校における英語科の授業に活かすことができる。

●到達目標

英語で書かれた文学を学ぶなかで英語による表現力への理解を深め、英語が使われている国・地域の文化について理解する。

●授業内容・授業計画

トニ・モリスン『ビラヴド』(1988) の講読を通じて、受講生のテーマについての理解を確認する。文学作品における英語表現や、文学作品から見る多様な文化、並びに英語で書かれた代表的な文学を学ぶ。

第1回:イントロダクション
第2回:『ビラヴド』講読1(pp. 1-49)
第3回:『ビラヴド』講読2(pp. 50-85)
第4回:『ビラヴド』講読3 (pp. 86-132)
第5回:『ビラヴド』講読4 (pp. 133-166)
第6回:『ビラヴド』講読5(pp. 167-199)
第7回:『ビラヴド』講読6(pp. 200-229)
第8回:『ビラヴド』講読7(pp. 230-262)
第9回:『ビラヴド』講読8(pp. 262-275)
第10回:『ビラヴド』講読9(highlights部分)
第11回:受講生による口頭発表1ならびに批評読解1(作家自身の評論を中心に)
第12回:受講生による口頭発表2ならびに批評読解2(荒このみ、鵜殿えりかを中心に)
第13回:受講生による口頭発表3ならびに批評読解3(Roger Sale、M.S.Mobleyを中心に)
第14回: まとめ
定期試験は行わない。

●事前・事後学習の内容

毎回の講読箇所の予習を入念に行うこと。レポート作成に向けて幅広く読書すること。

●評価方法

レポート試験(80%)平常授業での発表内容(20%)

●受講生へのコメント

読みやすい英語なので、ぜひ、授業以外の箇所も積極的に読んでレポート作成に向かってほしい。

●参考文献・教材

Toni Morrison, Beloved (Penguin).

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配布する。

授業科目名	科目NO.	LCENG3211	授業コード	L233180010	
英米文学演習Ⅳ Seminar in English Literature Ⅳ			単位数	2 単位	
授業形態 演習	担当教員名 田中　孝信				

●科目の主題

英語を通して文学批評理論や技法を学び、英語で書かれた文学テクストを実践的に分析・批評する。

●到達目標

英語圏の文学テクストを文学理論や技法を踏まえて論理的に読み直すことで、使用されている様々な英語表現への理解を深めると同時に、テクストに内包された意味や背景への関心を高め理解する。

●授業内容・授業計画

ジョン・サザーランドの『ジェイン・エアは幸せになれるのか？』(1997)から選んだ、日本でも比較的馴染み深い作家の8編を通して、イギリス小説を読む楽しみを味わうと共に、文学テクストの分析方法を理解する。

第1回:オリエンテーション:文学研究と批評の役割
第2回:ダニエル・デフォー『ロビンソン・クルーソー』(1719)を読む①
第3回:ダニエル・デフォー『ロビンソン・クルーソー』(1719)を読む②
第4回:ヘンリー・フィールディング『トム・ジョーンズ』(1749)を読む
第5回:ジェイン・オースティン『マンスフィールド・パーク』(1814)を読む
第6回:シャーロット・ブロンテ『ジェイン・エア』(1847)を読む①
第7回:シャーロット・ブロンテ『ジェイン・エア』(1847)を読む②
第8回:W. M. サッカレー『虚栄の市』(1848)を読む①
第9回:W. M. サッカレー『虚栄の市』(1848)を読む②
第10回:アンソニー・トロロープ『バーチェスターの塔』(1857)を読む①
第11回:アンソニー・トロロープ『バーチェスターの塔』(1857)を読む②
第12回:トマス・ハーディ『ダーバヴィル家のテス』(1891)を読む
第13回:ヴァージニア・ウルフ『ダロウェイ夫人』(1925)を読む①
第14回:ヴァージニア・ウルフ『ダロウェイ夫人』(1925)を読む②
第15回:定期試験

●事前・事後学習の内容

毎週、指定された箇所の英語を注を参考にしながら読み解き授業に臨むこと。授業後はすみやかに誤読や浅薄な読解しかしていなかった部分を中心に読み直し、理解を徹底させること。そのために、各授業の前後にそれぞれ2時間程度の予習・復習を行うことが望ましい。

●評価方法

定期試験(70%)、レポート(20%)、平常点(10%)

●受講生へのコメント

訳書で構わないので、教科書に取り上げられている作品を読んでおくこと。

●参考文献・教材

John Sutherland, Can Jane Eyre Be Happy?(英宝社、2004)

授業科目名	科目NO.	LCENG3212	授業コード	L233190010	
英語学演習 Seminar in English Linguistics			単位数	2 単位	
授業形態 演習	担当教員名 豊田　純一				

●科目の主題

英国の過去の文化や英語の歴史に関するテクストの講読を通して、英語の形成過程への知見を習得する科目である。難解な用法や多義性を帯びる単語など、共時的に考察すると複雑な文法事項を、通時的に捉えることで紐解き、現代英文法への理解をより深化させることを目的とする。

●到達目標

・現代英語を分析する際に見落とされがちだが重要な、英国の歴史・文化の変動と言語の変化との相関性を文法の中に探ることができるようになる。

・頻度が高く受講生に馴染みのある単語や語法の形成過程を説明できる。

・英語の論理的文章を読解できる。

●授業内容・授業計画

英語に関する幅広い造詣を深める。また、英語の歴史的変遷を見ることにより、英語のコミュニケーションに重要な要素を考察する。

第1回:オリエンテーション:歴史と言語
第2回:Peasant(1)単語の意味と先入観
第3回:Peasant(2)言語から見る英語の歴史
第4回:Peasant(3)農民と教育
第5回:Peasant(4)教育の普及度
第6回:Peasant(5)方言と帰属性
第7回:Peasant(6)標準語
第8回:Peasant(7)意味の変化と世界観
第9回:Damsel(1)中性の女性像
第10回:Damsel(2)Damsel in distress
第11回:Damsel(3)教会と女性
第12回:Damsel(4)女性の社会進出
第13回:Damsel(5)男性像と女性像
第14回:Damsel(6)社会の変容と女性像の変化
第15回:定期試験

●事前・事後学習の内容

授業に備え、講読箇所を必ず訳しておくこと。授業中に単語のひとつひとつを辞書で調べることがないようにする。さらに、普段から読んだり耳にしたりする英語に対して、授業で扱った内容がどのようにあてはまるかを考えるようにできればなお望ましい。

●評価方法

定期試験(80%)、小レポート・課題(20%)

●受講生へのコメント

状況によっては、遠隔授業になるので、学期が始まる前に何らかの連絡があるか、注意すること。
出席率が70%に満たないものは、単位の対象外とする。
欠席点による減点があるので、注意すること。
訳を授業前にしてきていない場合は、減点対象とする。
15分以上遅刻したものは欠席とみなすので、気を付けること。

試験・レポートは定期的にあるので、授業中の指示に従うこと。

●参考文献・教材

特になし。 授業中に適宜資料を配布する。

授業科目名	科目NO.	LCENG3215	授業コード	L233150010	
英語学特講 Special Lecture on English Linguistics			単位数	2 単位	
授業形態 講義	担当教員名 藤川　勝也				

●科目の主題

英語の結果構文や所格交替構文といった主要構文から、懸垂分詞構文や所格倒置構文などのいわゆる有標構文を取り上げ、日本語との比較も交えながら解説する。また、概念意味論、構文文法理論、認知文法などの言語理論を紹介し、これらの現象がどのように分析できるのか、またその分析が妥当なのか考察する。

●到達目標

①さまざまな言語現象を知る。

②複数の言語理論の基本的な考え方を理解する。

③実例に基づいて分析の妥当性を検討することが出来る。

●授業内容・授業計画

本講義は遠隔で実施する。前半は日英対照研究として、懸垂分詞構文や所格倒置構文などのいわゆる有標構文を取り上げ、日本語と英語の相違について考察する。後半は語彙意味論研究として、結果構文や所格交替を取り上げ、概念意味論や構文文法理論の基本的な考え方を学ぶ。

第1回　日英比較:事態把握の相違
第2回　日英語の事態把握の相違(理論(1))
第3回　日英語の事態把握の相違(理論(2))
第4回　日英語の事態把握の相違(理論(3))
第5回　所格倒置構文
第6回　描出話法
第7回　懸垂分詞構文
第8回　「語り」について
第9回　概念意味論と構文文法理論
第10回　結果構文
第11回　所格交替(概念意味論)
第12回　所格交替(構文文法理論)
第13回　over-接辞化(概念意味論)
第14回　over-接辞化(構文文法理論)

●事前・事後学習の内容

【事前学習】

事前に出す問いについて考えておいて下さい。

【事後学習】

ハンドアウトとそこに上げた論文・図書の精読。

●評価方法

授業内コメント(30%)・レポート(70%)

●受講生へのコメント

参考文献であげた論文を積極的に読んでください。

説明で納得の行かない点があれば、遠慮なく質問して下さい。

●参考文献・教材

ハンドアウトを配布します。

授業科目名	科目NO.	LCENG3216	授業コード	L233160010	
英語コミュニケーション Ⅰ English Communication Ⅰ			単位数	2 単位	
授業形態 講義	担当教員名 Ian M RICHARDS				

●科目の主題

領域統合型の言語活動を行うのに必要な、インタラクション技能を身に付ける。

●到達目標

CEFR B2レベル以上のレベルで、英語で授業を行うための英語絵運用能力を身に付ける。

様々なジャンルや話題について、英語で読み・書きして理解することができ、状況に応じて英語で話す（やり取り・発表）・書くことだできるようになり、複数の領域を統合した言語活動を逐行することができるようになる。（テーマ）

●授業内容・授業計画

Ernest HemingwayのThe Sun Also Rises（1926）を講読して内容を理解し、議論やまとめ製作を通して、学生の英語の4技能（読む・書く・話す・聞く）を身に付ける。

第1回:コースと作品概要
第2回:概要説明と書き取り、内容に関する議論 (Masculinity)
第3回:前回の内容のまとめ作成、概要説明と書き取り、内容に関する議論 (War and its impact)
第4回:前回の内容のまとめ作成、概要説明と書き取り、内容に関する議論 (Artistic Bohemia)
第5回:前回の内容のまとめ作成、概要説明と書き取り、内容に関する議論 (Expatriates)
第6回:前回の内容のまとめ作成、概要説明と書き取り、内容に関する議論 (Romantic love)
第7回:前回の内容のまとめ作成、概要説明と書き取り、内容に関する議論 (Sport and its impact)
第8回:前回の内容のまとめ作成、概要説明と書き取り、内容に関する議論 (Social revolution)
第9回:前回の内容のまとめ作成、概要説明と書き取り、内容に関する議論 (The 'Lost Generation')
第10回:前回の内容のまとめ作成、概要説明と書き取り、内容に関する議論 (Cultural myths)
第11回:前回の内容のまとめ作成、概要説明と書き取り、内容に関する議論 (Spain after the civil war)
第12回:前回の内容のまとめ作成、概要説明と書き取り、内容に関する議論 (Economic depression)
第13回:前回の内容のまとめ作成、概要説明と書き取り、内容に関する議論 (Psychological depression)
第14回:前回の内容のまとめ作成、概要説明と書き取り、内容に関する議論 (Escapism)
定期試験

●事前・事後学習の内容

辞書を必ず持参すること。

●評価方法

定期試験（50%）、小レポート（50%）

●受講生へのコメント

出席と授業への積極的な参加が要求される。

授業外で対応する課題がかなりある。

●参考文献・教材

Ernest Hemingway, Fiesta: The Sun Also Rises, Arrow Classic, 1994

授業中に適宜資料を配布する。

授業科目名	科目NO.	LCENG3217	授業コード	L233170010	
英語コミュニケーションⅡ English CommunicationⅡ				単位数	2 単位
授業形態 講義	担当教員名 Ciarán Quinn				

●科目の主題

領域統合型の言語活動を行うのに必要な、インタラクション技能を身に付ける。

●到達目標

CEFR B2レベル以上のレベルで、英語で授業を行うための英語絵運用能力を身に付ける。様々なジャンルや話題について、英語で読み・書きして理解することができ、状況に応じて英語で話す（やり取り・発表）・書くことだできるようになり、複数の領域を統合した言語活動を逐行することができるようになる。

●授業内容・授業計画

基本対面とするが、遠隔に変更する場合がある
多くの作家の文学作品を講読もしくはそれに関する映画やドキュメンタリーを見て内容を理解し、議論やまとめ製作を通して、学生の英語の4技能（読む・書く・話す・聞く）を身に付ける。
第1回：オリエンテーション：文学的背景に関する質問
第2回：The Romantic Movement: William Wordsworth
第3回：The Age of Exploration: Samuel Taylor Coleridge
第4回：The Origins of Modern Education and Children's Literature: Edward Lear –
第5回：Secularisation and the Industrial Age: Matthew Arnold
第6回：The Origins, Development and Growth of Arthurian Legend in Literature and Art: Alfred Lord Tennyson
第7回：The Concepts of Aesthetics with Reference to Intransigence in Life: John Keats
第8回：前半部分のまとめと確認：文学に移された社会とその変容
第9回：Mental Health and Suicide: Sylvia Plath
第10回：Marginality from Society and Community with Reference to Self-Truth and Belief: Emily Dickinson
第11回：Marginality from Society with Reference to Freedom of Speech and Action: Allen Ginsberg
第12回：Love, War, Poverty and Hunger, Colonialism: Chinua Achebe
第13回：International Terrorism and the Individual: Simon Armitage
第14回：The International Appeal of Song and Verse: Robert Burns
第15回：試験

●事前・事後学習の内容

事前：授業で扱う資料を読み、内容を整理しておく。課題への準備をしておくこと。
事後：授業内容を復習し、重要事項を整理する。

●評価方法

出席と授業参加（40%）、小レポート（20%）、プレゼンテーション（40%）

●受講生へのコメント

この授業を通して、文学や詩を理解し、イギリス・アイルランド文化に対する見聞を広げることを期待します。

●参考文献・教材

テキスト
授業中に適宜資料を配布する。
参考資料

(1) Davidson, G. (2004), Roget's Thesaurus: Of English Words and Phrases (Penguin; London).
(2) Bailey, S. (2018; 5th ed.), Academic Writing: A Handbook for International Students (Routledge; London & New York).
(3) Schmidt, M. (1998), Lives of the Poets (Weidenfeld & Nicolson; London).
ウェブサイト
https://www.poetryfoundation.org/

授業科目名	科目NO.	LCDFX3202	授業コード	L234020010
ドイツ語フランス語圏言語文化論Ⅱ Studies in German and Francophone Language and Culture Ⅱ			単位数	2 単位
授業形態 演習	担当教員名 中條　健志			

●科目の主題

欧米のフランス語圏と言語、文化、社会

●到達目標

カナダ、スイス、フランス、ベルギー、ルクセンブルクをフィールドに、それぞれの地域における言語状況がどのような文化をうみだし、社会を形づくっているかについて、自分なりに論じられるようになることを目標とする。

●授業内容・授業計画

第1回:ヨーロッパのフランス語圏について(概論)
第2回:フランスの地域言語
第3回:スイスのフランス語
第4回:ベルギーの言語と地域
第5回:ベルギーの言語と政治
第6回:ベルギーの言語と国家
第7回:ルクセンブルクの言語と地域
第8回:ルクセンブルクの言語と政治
第9回:ルクセンブルクの言語と国家
第10回:カナダの言語と地域
第11回:カナダの言語と政治
第12回:カナダの言語と国家
第13回:受講者によるプレゼンテーション(1)
第14回:受講者によるプレゼンテーション(2)
第15回:受講者によるプレゼンテーション(3)

●事前・事後学習の内容

授業までに、配付された資料や参考書の指定箇所を読んでおくこと。また、授業後には、学習内容について自分なりに論じられるようにするため、授業内でのプレゼンテーションを前提としながらそれを整理しておく。そのため、各授業の前後にはそれぞれ 2 時間程度の予習・復習をおこなうことが望ましい。

●評価方法

演習への参加度(40%)、各授業回の内容にかんするふりかえりコメント(20%)、ならびにプレゼンテーションの完成度(40%)を総合して評価する。

●受講生へのコメント

演習はグループ学習を通じておこなわれるため、受講生には主体的かつ協働的な参加が求められる。

●参考文献・教材

教科書は使用しない。教材・資料は授業中に配付する。一方で、授業で扱う地域にかんする概論的な文献には、あらかじめ可能な限り目を通しておくことが望ましい。

授業科目名	科目NO.	LCDFD3201	授業コード	L234030010	
ドイツ語圏文学史 History of German Literature			単位数	2 単位	
授業形態 講義	担当教員名 髙井　絹子				

●科目の主題

ドイツ語圏文学の展開と変遷を辿ります。現代的な問題意識および視点から、文学史上の各時期の重要な作家、作品、思想を見てゆきます。

●到達目標

文学作品を切り口に、ドイツ語圏の歴史、文化、社会状況について理解を深めます。

●授業内容・授業計画

この授業は対面で行います。

第1回　導入
第2回　宮廷文学と民族叙事詩　1
第3回　宮廷文学と民族叙事詩　2
第4回　近代文学への胎動
第5回　17世紀の文学
第6回　啓蒙主義とシュトルム・ウント・ドラング
第7回　ゲーテの時代
第8回　ロマン主義の文学　1
第9回　ロマン主義の文学　2
第10回　写実主義と自然主義
第11回　反自然主義の文学　1
第12回　反自然主義の文学　2
第13回　二大戦間の文学
第14回　戦後文学
第15回　定期試験・まとめ

●事前・事後学習の内容

事前に授業で扱う箇所を参考文献で確認しておくこと。事後に授業中配布するプリントをもとに不明の点など各自調べること。

●評価方法

平常点50%、試験50%による総合評価。

●受講生へのコメント

作品理解を深めるためにもドイツ語圏の歴史や文化について幅広く関心をもってください。

●参考文献・教材

参考文献：手塚富雄・神品芳夫『増補ドイツ文学案内』岩波文庫別冊3

授業科目名	科目NO.	LCDFD3202	授業コード	L234040010	
ドイツ語圏文化論 German Culture			単位数	2 単位	
授業形態 講義	担当教員名 吉田　孝夫				

●科目の主題

【Geistのドイツ文学】 ドイツの言語文化を特徴づける目印として「ドイツ的内面性」というものがある。精神・夢幻・理想の可能性を重んじるこの立場からドイツ文学を概観しつつ、併せてドイツ語圏のいくつかの町を具体的に取り上げて、その風土と文化を学ぶ。

●到達目標

1)ドイツ語圏の作家・芸術家のなかから、人生の新しい見方を提示してくれるものを見つける。

2)ドイツ語圏の文学・芸術の大きな傾向をつかむ。

3)ドイツ語圏の地理・歴史の基礎をつかむ。

●授業内容・授業計画

基本対面とするが遠隔も取り入れる場合がある。

第1回　基礎の思考(1)ドイツ語のふしぎな単語
第2回　基礎の思考(2)「音」と「目に見えないもの」への感性
第3回　基礎の思考(3)トーマス・マンのドイツ論『ドイツとドイツ人』
第4回　基礎の思考(4)ベートーベン『第九』の歌詞の意味
第5回　基礎の思考(5)『ファウスト』の悪魔
第6回　ベルリン(1)
第7回　ベルリン(2)
第8回　ベルリン(3)
第9回　ミュンヘン(1)
第10回　ミュンヘン(2)＋ニュルンベルク
第11回　90分で理解するドイツ文学史
第12回　チロル
第13回　ウィーン(1)
第14回　ウィーン(2)
第15回　期末試験

＊取り上げる内容と順番は変更する場合があります。

●事前・事後学習の内容

期末試験の課題を初回で公表するので、各回の授業内容をもとに、配布資料・参考文献・課題図書の分析を進める。

●評価方法

平常点(60%:出席とコメント)、期末試験(40%:配布資料とノートの持ちこみ可)から総合的に評価する。4回以上欠席した者は、評価の対象としない。

●受講生へのコメント

期末試験の一部として、課題図書(エンデ、プロイスラー、ノヴァーリス、ゴットヘルフ、シュピリから選択)の分析をしてもらいます。

●参考文献・教材

PDFファイル、もしくは紙の資料を配布します。

授業科目名	科目NO.	LCDFD3203	授業コード	L234050010	
ドイツ語学概論 Introduction to German Linguistics			単位数	2 単位	
授業形態 講義	担当教員名 信國　萌				

●科目の主題

本講義では、まず、言語学における基本概念と主要な研究領域、そして様々な言語理論を紹介する。また、ドイツ語の文法的特徴とドイツ語学について概観する。その後、音韻論、形態論、統語論、意味論などの研究領域に関して、言語学の一般的な基礎知識を学びつつ、他言語（主に英語や日本語）と比較してドイツ語の特徴について論じる。

●到達目標

本講義の到達目標は、現代ドイツ語の言語学的な特徴を理解するとともに、ドイツ語研究やドイツ語教育の基盤となる言語分析の基礎知識を身につけることである。また、ドイツ語に見られる現象を、他言語と比較して説明できるようになることを目標とする。

●授業内容・授業計画

本授業については、基本的には対面とするが、遠隔も取り入れる場合がある 。

第1回　導入：言語の諸特性
第2回　言語学の諸分野とドイツ語
第3回　音声学 ― ドイツ語の母音と子音
第4回　音韻論① ― ドイツ語のアクセントとイントネーション
第5回　音韻論② ― ドイツ語の異音（ichの-chとBuchの-chを例に）
第6回　形態論① ― ドイツ語名詞の語形変化（格変化）
第7回　形態論② ― ドイツ語動詞の語形変化（人称変化）
第8回　造語論 ― ドイツ語の合成語
第9回　統語論① ― ドイツ語の語順
第10回　統語論② ― ドイツ語の結合価
第11回　意味論① ― ドイツ語の格と意味役割（完了の助動詞haben/seinの選択を例に）
第12回　意味論② ― ドイツ語の慣用句と比喩
第13回　語用論 ― ドイツ語の文のタイプと言外の意味
第14回　方言学 ― ドイツ、オーストリア、スイスのドイツ語
第15回　試験

●事前・事後学習の内容

講義前は、事前に配布されるプリントに目を通し、講義内容を把握し、疑問点を整理しておくこと。講義後は、講義内容をノートにまとめ、よく復習しておくこと。内容を深く理解するためには、参考文献などを利用して、自主的に学習することが望ましい。

●評価方法

平常点（50%、コメントカードの内容で判断）と試験（50%）により評価する。

●受講生へのコメント

ドイツ語基礎を履修済みか、それに相当するドイツ語の知識を有していることを前提とする。試験時は配布プリントの持ち込みを許可しないが、手書きのノートは持ち込みを許可する。

●参考文献・教材

教科書は使用せず、プリントを配布する。

参考文献

①『ドイツ語学を学ぶ人のための言語学講義』（西本美彦・河崎靖、現代書館、2013）

②『現代ドイツ言語学入門―生成・認知・類型のアプローチから』（吉田光演・保阪靖人・岡本順治・野村泰幸・小川暁夫、大修館書店、2001）

③『ドイツ方言学―ことばの日常に迫る―』(河崎靖、現代書館、2008)
④『ドイツ言語学辞典』(川島淳夫主幹、紀伊國屋書店、1994)

授業科目名	科目NO.	LCDFD3204	授業コード	L234060010
ドイツ語圏言語文化基礎演習Ⅰ Proseminar in German Language and Culture Ⅰ			単位数	2 単位
授業形態	担当教員名			
演習	信國　萌			

●科目の主題

本演習では、ドイツ語テキストの読解を通じて、初級レベルのドイツ語文法を補完するとともに、ドイツ語圏の文化、社会、そしてドイツ語という言語に関する理解を深める。

●到達目標

本演習の到達目標は、ドイツ語の基礎的な文法知識を定着させ、文法的な構造を意識しながらテキストの内容を正確に捉えられるようになることである。演習を通じて、中級程度の読解力を身につけることを目標とする。

●授業内容・授業計画

本授業については、基本的には対面とするが、遠隔も取り入れる場合がある 。

第1回　形容詞の名詞化（読解テキスト：Brot / Wurst）
第2回　過去形と未来形（読解テキスト：Herr Böse und Herr Streit）
第3回　再帰動詞と接続法第2式（読解テキスト：Berlin – Eine wunderbare Stadt）
第4回　指示代名詞（読解テキスト：Der süße Brei）
第5回　関係代名詞（読解テキスト：Wiener Kaffeehauskultur 1）
第6回　現在完了形（読解テキスト：Wiener Kaffeehauskultur 2）
第7回　zu不定詞句（読解テキスト：Abschlussprüfung）
第8回　過去分詞（読解テキスト：Verdammt heiß hier unten!）
第9回　話法の助動詞（読解テキスト：Kurze Geschichte der Sonntagsruhe 1）
第10回　受動文（読解テキスト：Kurze Geschichte der Sonntagsruhe 2）
第11回　形容詞の比較表現（読解テキスト：Geschichte der Gastarbeiter）
第12回　略語（読解テキスト：Menschen mit Migrationshintergrund）
第13回　冠詞類（読解テキスト：Vom deutschen Stil 1）
第14回　現在分詞（読解テキスト：Vom deutschen Stil 2）
第15回　試験

●事前・事後学習の内容

演習前は、事前に指定された範囲の文法解説に目を通し、読解テキストの予習をしてくること。疑問点はあらかじめまとめておくこと。演習後は、テキストの内容を復習し、教科書の「文法メモ」や「コラム」に目を通して、内容の理解を深めること。

●評価方法

平常点（50%、読解テキストの予習状況で判断）と試験（50%）により評価する。

●受講生へのコメント

読解テキストの予習の際には、教科書に書き込まず、ノート（電子ノート可）にドイツ語のテキストとその日本語訳の両方を書いてくること。毎回、授業の最初に予習状況を確認する。

●参考文献・教材

『ドイツ語トライアングル　やさしい中級テキスト9章』（荻原耕平・畠山寛・高本教之、同学社、2018）

授業科目名	科目NO.	LCDFD3205	授業コード	L234070010	
ドイツ語圏言語文化基礎演習Ⅱ Proseminar in German Language and Culture Ⅱ			単位数	2 単位	
授業形態 演習	担当教員名 髙井　絹子				

●科目の主題

ドイツ語の短いテキストを読みながら初級文法の補完と読解力の養成をおこなう。

●到達目標

冠飾句や、分詞句を含む少し複雑な文の構造を理解することができる。こなれた訳文をつくることができる。

●授業内容・授業計画

この授業は対面で行います。

第1回　導入
第2回　Die geteilte Suppe
第3回　Die Handbremse
第4回　Gänseliebe
第5回　Die Physikprüfung
第6回　Dreimal geblitzt
第7回　Die Katze im Fluggebäck
第8回　Das überfahrene Känguru 1
第9回　Das überfahrene Känguru 2
第10回　Wo Bruno nach seinemTod hinkam 1
第11回　Wo Bruno nach seinemTod hinkam 2
第12回　Geburtstagsüberraschung 1
第13回　Geburtstagsüberraschung 2
第14回　総復習
第15回　試験とまとめ

●事前・事後学習の内容

事前に指定した範囲は必ず予習しておくこと。事後、授業中指示した項目について各自調べ、次の授業で発表すること。

●評価方法

授業に対する参加姿勢40%試験60%の総合評価。

●受講生へのコメント

1話完結の短いテキスト読み、文法問題を解きます。注も充実していますので、事前によく予習しておいて下さい。

●参考文献・教材

教材：三瓶眞一『ホントにあったウソみたいな話』白水社、2002年。

授業科目名	科目NO.	LCDFD3301	授業コード	L234080010	
ドイツ語圏言語文化演習Ⅰ Seminar in German Language and Culture Ⅰ			単位数	2 単位	
授業形態 演習	担当教員名 信國　萌				

●科目の主題

本演習では、中級レベルのドイツ語文法のいくつかの項目に関して、詳しく学ぶ。ドイツ語による文法解説文を読んで、内容を理解する。あわせて、ドイツ語圏の文化に関するテキストの読解も行う。

●到達目標

本演習の到達目標は、ドイツ語のやや難しい文法知識を定着させ、文法的な構造を意識しながらテキストの内容を正確に捉えられるようになることである。演習を通じて、中級程度の読解力を身につけることを目標とする。

●授業内容・授業計画

本授業については、基本的には対面とするが、遠隔も取り入れる場合がある 。

第1回　2格の名詞、3格の名詞の用法①
第2回　2格の名詞、3格の名詞の用法②
第3回　2格の名詞、3格の名詞の用法③
第4回　esを用いた表現①
第5回　esを用いた表現②
第6回　esを用いた表現③
第7回　機能動詞構造①
第8回　機能動詞構造②
第9回　機能動詞構造③
第10回　不定詞句とzu不定詞句①
第11回　不定詞句とzu不定詞句②
第12回　不定詞句とzu不定詞句③
第13回　命令の表現①
第14回　命令の表現②
第15回　試験

●事前・事後学習の内容

演習前は、事前に配布されたプリントに目を通し、指定された文法解説あるいは読解テキストの予習をしてくること。疑問点はあらかじめまとめておくこと。演習後は、新しく覚えた単語や文法事項に関してよく復習しておくこと。内容を深く理解するためには、参考文献などを利用して、自主的に学習することが望ましい。

●評価方法

平常点（50%、配布プリントの予習状況で判断）と試験（50%）により評価する。

●受講生へのコメント

必ず予習をして授業に臨むこと。毎回、授業の最初に予習状況を確認する。

●参考文献・教材

教科書は使用せず、プリントを配布する。

参考文献：

『中級ドイツ文法（新装版）』（中山豊、白水社、2018）

"Duden: die Grammatik: Unentbehrlich für richtiges Deutsch. Herausgegeben von Angelika Wöllstein und der Dudenredaktion. 9., vollständig überarbeitete und aktualisierte Aufgabe" (Dudenverlag, 2016)

授業科目名	科目NO.	LCDFD3302	授業コード	L234090010	
ドイツ語圏言語文化演習Ⅱ Seminar in German Language and Culture Ⅱ			単位数	2 単位	
授業形態	担当教員名				
演習	髙井　絹子				

●科目の主題

現代作家が書いた創作童話を読みます。

●到達目標

平易ではない文学テクストを毎回数ページずつ丹念に読むことで中級以上の読解力をつけます。

●授業内容・授業計画

この授業は対面で行います。

第1回　導入
第2回　Ricarda Huch: Lügenmärchen 1
第3回　Ricarda Huch: Lügenmärchen 2
第4回　Ricarda Huch: Lügenmärchen 3
第5回　Ricarda Huch: Lügenmärchen 4
第6回　Ricarda Huch: Lügenmärchen 5
第7回　Ricarda Huch: Lügenmärchen 6
第8回　Ricarda Huch: Lügenmärchen 7
第9回　Ricarda Huch: Lügenmärchen 8
第10回　Erich Fried: St. Georg und sein Drache 1
第11回　Erich Fried: St. Georg und sein Drache 2
第12回　Erich Fried: St. Georg und sein Drache 3
第13回　Erich Fried: St. Georg und sein Drache 4
第14回　現代の創作童話について(まとめ)
第15回　試験

●事前・事後学習の内容

事前に指定した範囲は必ず予習しておくこと。事後、授業中に指示した語彙や概念など調べること。

●評価方法

授業への参加姿勢50%、試験50%による総合評価。

●受講生へのコメント

中級以上のドイツ語テキストを読みます。2回生時よりも分量が多くなります。よく予習してきてください。

●参考文献・教材

授業中にプリントを配布します。

授業科目名	科目NO.	LCDFD3303	授業コード	L234100010
ドイツ語圏言語文化演習Ⅲ Seminar in German Language and Culture Ⅲ			単位数	2 単位
授業形態 演習	担当教員名 長谷川　健一			

●科目の主題

ドイツ語圏の文化・文学に関するテクストを精読する。

●到達目標

(1)ドイツ語圏の文化・文学に関するテクストを精読し、読解力を鍛えると同時に、(2)関連する諸テーマや作品が成立した時代背景について理解を深める。

●授業内容・授業計画

本授業は、基本対面とするが遠隔も取り入れる場合がある。この授業では、Kinder- und Hausmärchen(KHM)を精読し、幾つかのテーマについて、KHMの独語注釈ならびに研究書・学術論文等を検討しつつ、議論する。第7版をメインテクストとするが、適宜、他の版を確認しながら読む。課題や発表の詳細は授業中に説明する。

第1回　イントロダクション
第2回　KHM150の精読、注釈と関連論文の検討
第3回　KKM153の精読、関連作品の検討
第4回　KHM94の精読、関連文献の検討①
第5回　KHM94の精読、関連文献の検討②
第6回　KHM94の精読、基本文献の報告1）
第7回　KHM94の注釈の検討
第8回　KHM60の精読、基本文献の報告2）
第9回　KHM60の精読、基本文献の報告3）
第10回　KHM60の精読、基本文献の報告4）
第11回　KHM60の精読、基本文献の報告5）
第12回　KHM60の精読、関連文献の検討①
第13回　KHM60の精読、関連文献の検討②
第14回　KHM60の注釈の検討
第15回　試験

●事前・事後学習の内容

指定された箇所を必ず予習して授業にのぞむこと。その際には、『独和大辞典』(小学館)、『大独和辞典』(博友社)などの辞書も利用すること(学部生室に有)。また、音読の練習もしておくこと。予習・復習の際には、文法書の①から④を丹念に調べること。

●評価方法

平常点(70%:課題提出・発表・授業態度)、定期試験(30%)から総合的に評価する。4回以上欠席した者や定期試験を受けなかった者は評価の対象としない。

●受講生へのコメント

授業中に紹介した参考文献を積極的に読むこと。

●参考文献・教材

・教科書:Brüder Grimm: Ausgewählte Kinder- und Hausmärchen. Stuttgart 2014.
・文法書③は必ず購入し、毎回持参すること。
①橋本文夫『詳解ドイツ大文法』三修社(2006)
②桜井和市『ドイツ広文典』第三書房(1968)
③中島悠爾・平尾浩三・朝倉巧『必携ドイツ文法総まとめ(改訂版)』白水社(2010)
④在間進『リファレンス・ドイツ語』第三書房(2017)

・参考文献:Heinz Rölleke(Hg.): Kinder- und Hausmärchen: Ausgabe letzter Hand mit den Originalanmerkungen der Brüder Grimm. Mit einem Anhang sämtlicher, nicht in allen Auflagen veröffentlichter Märchen. Bd. 1, Bd. 2 und Bd. 3. Stuttgart 2014. ; Heinz Rölleke(Hg.): Kinder- und Hausmärchen. Die handschriftliche Urfassung von 1810. Stuttgart 2007. ; Heinz Rölleke: Die Märchen der Brüder Grimm : eine Einführung.(UB 17650) Stuttgart 2004.

授業科目名	科目NO.	LCDFD3304	授業コード	L234110010	
ドイツ語圏言語文化特別演習 Special Seminar in German Language and Culture			単位数	2 単位	
授業形態 演習	担当教員名 長谷川 健一				

●科目の主題

文化・文学に関するテクストの精読を通じてドイツ語の読解力を養うとともに、卒業論文執筆のためのプレ演習として、論文に関する内容・形式面の諸注意、テーマ設定、文献収集の基本的な作法等について学びながら、ミニ論文を作成する。本年は、ドイツ語圏のバラーデ(Ballade)を分析対象とする。

●到達目標

文化・文学に関する中級レベルのテクストを正確に読む力を養い、関連する諸テーマについての理解を深める。また、バラーデ(Ballade)を一つ選び、その作品を自らの関心において設定したテーマのもとで分析・考察し、先行研究の調査を踏まえつつ、ミニ論文を作成することができる。論文の基本的な作法(文献調査の方法、注の付け方、引用の仕方等)を身に付けることができる。

●授業内容・授業計画

本授業は、基本対面とするが遠隔も取り入れる場合がある。この授業では、最初に短いテクストを用いて中級レベルの文法項目を確認した後、いくつかのバラーデ(Ballade)を精読する。受講生は、授業と並行して、ミニ論文の作成を行う。詳細は、各回の授業で指示する。また、個別相談日を別途設ける。

第1回 イントロダクション:図書館の利用について
第2回 短いテクストを読む①:基本文献の調査と文献リストの作成(日本語文献)
第3回 短いテクストを読む②:基本文献の調査と文献リストの作成(ドイツ語文献)
第4回 ミニ論文で扱う作品についての報告会:テーマの検討①
第5回 ドイツ語圏のバラーデを読む1):テーマの検討②
第6回 ドイツ語圏のバラーデを読む1):先行研究の調査報告①
第7回 ドイツ語圏のバラーデを読む1):先行研究の調査報告②
第8回 ドイツ語圏のバラーデを読む2):アウトラインの検討①
第9回 ドイツ語圏のバラーデを読む2):アウトラインの検討②
第10回 ドイツ語圏のバラーデを読む2):注と引用について①
第11回 ドイツ語圏のバラーデを読む3):注と引用について②
第12回 ドイツ語圏のバラーデを読む3):個別相談
第13回 ドイツ語圏のバラーデを読む3):発表の基本と準備について
第14回 ミニ論文の内容をもとにした発表と討論
第15回 総括

●事前・事後学習の内容

・ミニ論文の作成と関連した課題の準備を行うこと。
・指定された箇所を予習して授業にのぞむこと。その際には、『独和大辞典』(小学館)、『大独和辞典』(博友社)などの辞書も利用すること(学部生室に有)。
・音読の練習をしておくこと。
・予習・復習の際には、文法書の①から④を丹念に調べること。

●評価方法

平常点(60%:報告・発表・授業態度)、ミニ論文(40%)から総合的に評価する。4回以上欠席した者は、評価の対象としない。

●受講生へのコメント

発表は、パワーポイントならびにレジュメを使ったプレゼンテーションとなる。時間的な余裕を持って準備に取り組むこと。

●参考文献・教材

・適宜、授業資料を配布する。
・文法書③は必ず購入し、毎回持参すること。文法書：①橋本文夫『詳解ドイツ大文法』三修社（2006）、②桜井和市『ドイツ広文典』第三書房（1968）、③中島悠爾・平尾浩三・朝倉巧『必携ドイツ文法総まとめ（改訂版）』白水社（2010）、④在間進『リファレンス・ドイツ語』第三書房（2017）。
・参考文献：Gunter E. Grimm(Hg.): Gedichte und Interpretationen. Deutsche Balladen. Stuttgart 1988.

授業科目名	科目NO.	LCDFD3305	授業コード	L234120010	
ドイツ語コミュニケーション I German Communication I				単位数	2 単位
授業形態	担当教員名				
演習	Simon OERTLE				

●科目の主題

Wir sprechen, hören, lesen und schreiben Deutsch in Alltagssituationen. Wir trainieren den Wortschatz und üben wichtige Strukturen.

●到達目標

Unser Ziel ist die Verbesserung der Kommunikationsfähigkeit in Alltagssituationen. Wir lernen auch Unterschiede zwischen dem Alltag in deutschsprachigen Ländern und dem in Japan kennen.

●授業内容・授業計画

この授業は対面で実施します。

Alltagsdeutsch auf dem Niveau A2 des europäischen Referenzrahmens. Am meisten geübt werden Sprechen und Hören. Im Zentrum steht die Erweiterung des Wortschatzes, doch werden auch grammatische Strukturen wiederholt.

第1回 Einführung. Thema Frühlingsferien
第2回 Verkehrsmittel
第3回 Verkehrsmittel und Unterkunft
第4回 Unterkunft
第5回 Reisen
第6回 Urlaubsziele
第7回 Aktivitäten im Urlaub
第8回 Vergleiche
第9回 Kultur erleben
第10回 Kultur erleben
第11回 Partys
第12回 Einladungen
第13回 Einladungen und Wünsche
第14回 Zusammenfassung

●事前・事後学習の内容

Hausaufgaben, selbstständige Wiederholung von Grammatikpunkten, Vokabellernen.

●評価方法

Aktive und regelmäßige Teilnahme am Unterricht sowie Hausaufgaben (ca. 25%). Tests und ev. kleine Präsentationen (ca. 75%).

●受講生へのコメント

In der ersten Stunde können Sie Themen wünschen. Vielleicht können wir Ihre Themen im Unterricht behandeln.

●参考文献・教材

Sie müssen kein Buch kaufen. Sie bekommen Kopien.

授業科目名	科目NO.	LCDFD3306	授業コード	L234130010	
ドイツ語コミュニケーションⅡ German CommunicationⅡ				単位数	2 単位
授業形態	担当教員名				
演習	Simon　OERTLE				

●科目の主題

Wir sprechen, hören, lesen und schreiben Deutsch in Alltagssituationen. Wir trainieren den Wortschatz und üben wichtige Strukturen.

●到達目標

Unser Ziel ist die Verbesserung der Kommunikationsfähigkeit in Alltagssituationen. Wir lernen auch Unterschiede zwischen dem Alltag in deutschsprachigen Ländern und dem in Japan kennen.

●授業内容・授業計画

この授業は対面で実施します。

Alltagsdeutsch auf dem Niveau A2 des europäischen Referenzrahmens. Am meisten geübt werden Sprechen und Hören. Im Zentrum steht die Erweiterung des Wortschatzes, doch werden auch grammatische Strukturen wiederholt.

第1回 Einführung. Thema Frühlingsferien
第2回 Verkehrsmittel
第3回 Verkehrsmittel und Unterkunft
第4回 Unterkunft
第5回 Reisen
第6回 Urlaubsziele
第7回 Aktivitäten im Urlaub
第8回 Vergleiche
第9回 Kultur erleben
第10回 Kultur erleben
第11回 Partys
第12回 Einladungen
第13回 Einladungen und Wünsche
第14回 Zusammenfassung

●事前・事後学習の内容

Hausaufgaben, selbstständige Wiederholung von Grammatikpunkten, Vokabellernen.

●評価方法

Aktive und regelmäßige Teilnahme am Unterricht sowie Hausaufgaben (ca. 25%). Tests und ev. kleine Präsentationen (ca. 75%).

●受講生へのコメント

In der ersten Stunde können Sie Themen wünschen. Vielleicht können wir Ihre Themen im Unterricht behandeln.

●参考文献・教材

Sie müssen kein Buch kaufen. Sie bekommen Kopien.

授業科目名	科目NO.	LCDFD3307	授業コード	L234140010	
ドイツ語圏ランデスクンデ German Regional Studies			単位数	2 単位	
授業形態	担当教員名				
演習	Simon　OERTLE				

●科目の主題

Die deutschsprachigen Länder heute. Sie lernen besonders die Schweiz und Unterschiede zwischen der Schweiz, Deutschland, Österreich und Japan kennen.

●到達目標

Das Ziel ist, einen Einblick in die Gesellschaft, Politik, Wirtschaft und Kultur der Schweiz, zu erhalten. Die einzelnen Themen sollen gemeinsam erarbeitet und diskutiert werden. Im letzten Teil des Kurses soll ein selbst gewähltes Thema erarbeitet und präsentiert werden (Projektarbeit).

●授業内容・授業計画

この授業は対面で実施します。

Als Ausgleich zur üblichen Ausrichtung des Germanistikstudiums auf Deutschland steht mit der Schweiz ein anderes deutschsprachiges Land im Zentrum dieses Unterrichts.

第1回 Einführung
第2回 Geografie, Bevölkerung, Sprachen
第3回 Politisches System
第4回 Wirtschaft
第5回 Schulsystem und Ausbildung
第6回 Literatur und Kunst
第7回 Musik
第8回 Religion, Feste und Brauchtum
第9回 Lebensformen: Wohnen, Familie, Freizeit
第10回 Essen und Trinken
第11回 Projektarbeit
第12回 Projektarbeit
第13回 Projektarbeit
第14回 Zusammenfassung

●事前・事後学習の内容

Hausaufgaben, Vokabellernen, selbstständige Arbeit am Projekt.

●評価方法

Aktive und regelmäßige Teilnahme am Unterricht (ca. 30%). Test, Präsentation(en) (ca. 70%).

●受講生へのコメント

Spezielle Themenwünsche werden nach Möglichkeit berücksichtigt. Deutsche Sprachkenntnisse sind bei diesem Kurs Voraussetzung.

●参考文献・教材

Sie müssen kein Buch kaufen. Sie erhalten Kopien. Wir verwenden Materialien aus verschiedenen Medien (Bücher, Broschüren, CDs, DVDs).

授業科目名	科目NO.	LCDFF2101	授業コード	L234150010	
フランス語圏文学史 History of Francophone Literature			単位数	2 単位	
授業形態 演習	担当教員名 原野　葉子				

●科目の主題

主要な作品の抜粋を時代順に読みながら、中世から現代にいたるフランス語圏文学史を概観する。フランス文学の歴史と伝統に関する基礎知識を身に着けるとともに、作品読解とそれに続くグループディスカッションを通じて、フランスの社会と文化、思想、心性について理解を深める。カリブ海、アフリカ、カナダ等におけるフランス語圏文学の成立過程およびその多様性についての知見を獲得する。

●到達目標

フランス語圏文学の主たる流れおよび各時代の主要な特徴について理解し、的確に文章化できる。
さまざまなジャンルの作品読解を通じて、テクストを多面的に分析し考察する力を身につける。
グループディスカッションを通じて、他者に配慮しつつ口頭で表現・討論する力を養い、自律的かつ積極的な知的探究の姿勢を獲得する。

●授業内容・授業計画

以下の内容に従って、作品鑑賞とレクチャーを行う。受講生には毎回、3名～5名規模のグループディスカッションへの参加と、コメントシートの提出が求められる。

第1回 オリエンテーション;中世以前のフランス文学のかたち
第2回 中世:聖人伝、吟遊詩人、物語と演劇の発生
第3回 16世紀:ルネサンス
第4回 17世紀(1):バロック
第5回 17世紀(2):古典主義
第6回 18世紀(1):啓蒙思想の展開
第7回 18世紀(2):近代小説の黎明
第8回 19世紀(1):ロマン主義
第9回 19世紀(2):写実主義から自然主義へ
第10回 19世紀(3):近代詩の発展と象徴主義
第11回 20世紀(1):ベル・エポックの文学
第12回 20世紀(2):前衛の冒険と行動する作家たち
第13回 20世紀(3):第二次世界大戦後の文学
第14回 世界のフランス語圏文学:クレオール文学を中心に
第15回 まとめ

●事前・事後学習の内容

事前に配布されるテキストを読んでくること。
各自が興味を抱いた文学作品や周辺資料の鑑賞およびレポートの準備に、毎回2時間程度を充てること。

●評価方法

1)到達目標の達成度に基づいて評価を行う。
2)評価方法とその割合:授業への参加度50%(出席、グループディスカッション、発表、コメントシート)およびレポート50%。
3)単位取得の最低基準:
①5回以上欠席した場合、単位取得の資格を失う。
②到達目標に掲げた以下の3点を総合的に判断して、60%以上に達していること。
・フランス語圏文学の主たる流れおよび各時代の主要な特徴について理解し、的確に文章化できる。

・さまざまなジャンルの作品読解を通じて、テクストを多面的に分析し考察する力を身につける。
・グループディスカッションを通じて、他者に配慮しつつ口頭で表現・討論する力を養い、自律的かつ積極的な知的探究の姿勢を獲得する。

●受講生へのコメント

講義の限られた時間内では、多種多様なフランス語圏文学のほんの一部しか紹介することができません。興味を持った作品があればどんどん手に取って、「古典」と呼ばれるテクストのけっして色あせることのない輝きとゆたかさをぜひ、存分に味わってみてください。みなさんの知的好奇心に期待しています。

●参考文献・教材

饗庭孝男ほか『新版　フランス文学史』(白水社)。その他は授業中に指示します。

授業科目名	科目NO.	LCDFF3201	授業コード	L234160010	
フランス語圏文化論 Culture of Francophonie			単位数	2 単位	
授業形態 講義	担当教員名 白田　由樹				

●科目の主題

大衆消費社会が出現し、フランスが「文化大国」として隆盛を極めた19世紀後半、とくに世紀末(Fin-de-siècle)やベル・エポック(Belle Époque)と呼ばれる時代に焦点を当て、その文化的様相と背景をとらえ直す。

●到達目標

現在のフランスのイメージと結びつき、発信されている事物が文化的アイデンティティとして意識的に作り出されていった経緯を知ることで、表面的・消費的な情報や知識にとどまらず、さまざまな文化的事象について問いを立て、考察する視点を培う。

●授業内容・授業計画

十九世後半から二十世紀初頭にかけてのフランスの政治や社会動向、技術の進化、ジャーナリズムや諸産業の発展といった多角的観点から、パリを中心とする当時の文化や芸術とその背景について概略的に講じる。
また学期の後半には、授業テーマに関連するトピックについて、受講生自身（個人またはグループ）による発表のセッションを設け、互いの意見やコメントの交換を通じて、より深い理解や考察につなげていく。
各回の内容は以下のように予定している。ただし、順番やトピックスが変更される場合もある。

第1回：はじめに――フランスのイメージについて
第2回：オスマンの都市改造と「19世紀の首都」パリ
第3回：ジャーナリズムの発展と文学
第4回：偶像（アイコン）としての有名人①作家・政治家
第5回：写真の発明と普及
第6回：偶像（アイコン）としての有名人②俳優～ココット
第7回：スペクタクル産業の隆盛（劇場・キャバレー・映画）
第8回：パリ万博
第9回：モード産業の発展とスタイルの変遷
第10回：装飾芸術とアール・ヌーヴォー
第11回：交通網の発達とレジャー／美食と料理
第12回：ドレフュス事件と反ユダヤ主義
第13回：オリエンタリズムと植民地主義
第14回：文学・芸術・文化への視座

●事前・事後学習の内容

前回までの講義内容につき復習しておくこと。また、発表のセッションではハンドアウトやパワーポイントをふくめ、十分な準備をおこなうこと。

●評価方法

毎回の設問カード提出（50%）、発表と討議への参加（20%）、期末テスト（30%）による。
なお、理由のない欠席や大幅遅刻が5回以上あった場合は、評価の対象外とする。

●受講生へのコメント

フランスという国に関して我々が抱くイメージ（芸術、美食、ファッションの国etc.）が作られてきた由来を辿る中で、単なる憧れや通説に流されず、その虚実を見つめ直すことを意識してほしい。

●参考文献・教材

プリント配布。参考文献については授業中に指示する。

授業科目名	科目NO.	LCDFF3202	授業コード	L234170010	
フランス語学概論 Introduction to Francophone Linguistics			単位数	2 単位	
授業形態 講義	担当教員名 福島　祥行				

●科目の主題

いうまでもなく、言語の歴史は人間社会の歴史である。この科目では、「フランス語」――なにが「フランス語」かは、講義のなかであきらかになるであろう――を通時的・共時的にながめることにより、フランス語とフランス語圏、そしてわれわれ人類についての、社会、歴史、存在(ありかた)について思弁する。

●到達目標

人類の言語とフランス語およびフランス語圏の歴史、およびフランス語そのものについて考察をほどこすことにより、人類、言語、国家について多面的に考察する態度を涵養する。

●授業内容・授業計画

フランス語を通時的にながめるなかで、人類、言語、国家について話しあい、かんがえ、あらたな知識を創発することをめざす。

第1回　人類と言語の誕生
第2回　人類と言語と文字の系統
第3回　インド・ヨーロッパ語族と比較言語学
第4回　古代ローマとラテン語
第5回　ケルト人とガリア魂
第6回　ゲルマン民族大移動とフランスの成立
第7回　ラテン語から古フランス語へ
英8回　ノルマンディ侵攻と英語への影響
第9回　ルネサンスと「国語」の誕生
第10回　アカデミー・フランセーズと理性の文法
第11回　啓蒙主義と普遍論、ロマン主義と起源論
第12回　教育の成立と小説の誕生
第13回　英語の擡頭と仏語の防衛
第14回　若者語と言語の変化とふりかえりとまとめ

●事前・事後学習の内容

事前に前回の学習内容のノートを読み返すこと、および、事後のふりかえり等により、1回の授業あたり2時間の自習時間をとること。

●評価方法

ほぼ毎回おこなわれるグループワークと、ポートフォリオによるふりかえり、および自己評価。

●受講生へのコメント

フランス語履修者でなくても受講可能であるが、受講者には、言語と人間と世界＝社会にかんする真摯な洞察がもとめられる。
また「フランス語」ひとつをとりあげても、さまざまなことを論ずることが可能であるという「学問の豊穣さ」も感じてほしい。
なお、理由なき缺席を3回以上おこなった受講生については評価の対象としないので注意されたい。

●参考文献・教材

授業中に指示する。

●参考文献

森本英夫『フランス語の社会学』(駿河台出版社)
P. リカード『フランス語史を学ぶ人のために』(世界思想社)
島岡　茂『古フランス語文法』(大学書林)

島岡　茂『フランス語の歴史』(大学書林)
島岡　茂『フランス語の背景』(大学書林)
島岡　茂『続・フランス文法の背景』(大学書林)
亀井・河野・千野編『言語学大辞典』(三省堂)
柴田・樺山・福井編『フランス史』(山川出版社)
朝倉季雄『新フランス文法事典』(白水社)
朝倉季雄『フランス文法集成』(白水社)
大橋保夫・他『フランス語とはどういう言語か』(駿河台出版社)
佐藤・大木・佐藤『詳解フランス文典』(駿河台出版社)
前島儀一郎『英仏比較文法』(大学書林)
島岡茂『英仏比較文法』(大学書林)
島岡茂『仏独比較文法』(大学書林)
島岡茂『フランス語統辞論』(大学書林)
東京外国語大学グループ〈セメイオン〉『フランス語学の諸問題』(三修社)
東京外国語大学グループ〈セメイオン〉『フランス語を考える』(三修社)
東京外国語大学グループ〈セメイオン〉『フランス語学の諸問題2』(三修社)

授業科目名	科目NO.	LCDFF3203	授業コード	L234180010
フランス語圏言語文化基礎演習Ⅰ Proseminar in Francophone Language and Culture Ⅰ			単位数	2 単位
授業形態 演習	担当教員名 白田　由樹			

●科目の主題

フランスおよびフランス語圏の文化を学ぶ前提となり、その背景を理解するための鍵となるフランス史の概略的な知識と、フランス語の読解力をテクスト講読を通じて培う。

●到達目標

フランスの文学や社会・文化に関わる基礎知識、文学作品や解説書にも頻出するキーワードになじみ、初級～中級レベルのフランス語テクストを、必要に応じて辞書や参考書で知識を補いながら、正確に読解する力をつける。

●授業内容・授業計画

フランス史を講読し、フランスの社会や文化についての基礎的な知識を整理・確認していく。また、必要に応じて日本語の参考書やインターネット情報なども活用しながら、フランス人の文化アイデンティティや、現代にいたるフランス社会の制度をつくってきた歴史背景を概観する。

ある程度学習が進んだ段階で、受講者がテクストの内容や周辺情報を解説する個人またはグループ発表のセッションを設け、フランス語の理解や背景知識の不明な部分を自ら解決し、他者に説明することを通じて、より理解を深める。

以下のように各回の内容を予定している。ただし、順番やトピックスは変更される場合もある。

第1回 ヴェルサンジェトリクス

第2回 クロヴィス

第3回 シャルルマーニュ

第4回 フィリップ・オーギュスト、聖王ルイ

第5回 ジャンヌ・ダルク

第6回 フランソワ1世

第7回 アンリ4世

第8回 ルイ13世～16世

第9回 フランス革命

第10回 第一帝政

第11回 王制復古

第12回 産業革命

第13回 第二帝政

第14回 第三共和制

第15回 レポート・総括

●事前・事後学習の内容

受講者は毎回の授業につき、標準1時間半から2時間程度の予習時間をとって、テクストの下読み（予習）と固有名詞などについての下調べ、音読練習をしてくること。

●評価方法

平常点（毎回の授業の取り組みと、発音・読解の予習状態）80％、レポート20％で成績をつける。なお、事情のない欠席や大幅な遅刻が5回以上あった者については、評価の対象としない。

●受講生へのコメント

フランスの歴史で有名な人物や時代の特徴を知っておくと文化への理解が深まりやすく、たとえばルーヴル美術館やヴェルサイユ宮殿、凱旋門などを訪れたときも見え方が違ってくるはずです。目先のフランス語文の読解に追われるだけでなく、その内容から新たな発見を楽しめるくらいの力をつけていきましょう。

●参考文献・教材

Didier Rober、大嶋優『フランスの歴史Histoire de France』(早美出版社)

授業科目名	科目NO.	LCDFF3204	授業コード	L234190010
フランス語圏言語文化基礎演習Ⅱ Proseminar in Francophone Language and Culture Ⅱ			単位数	2 単位
授業形態	担当教員名			
演習	原野　葉子			

●科目の主題

比較的平易なフランス語で書かれた文学作品の多読を通じて、フランス語の読解能力の基礎を育成する。
中級程度の文法的知識、文学史的な知識を身に着けるとともに、文学テクスト解釈法の基礎を学ぶ。
今期は20世紀フランスを代表する国民的詩人、ジャック・プレヴェールの『おりこうでない子供たちのための8つのおはなし』Contes pour enfants pas sages(2007;1963年刊行のHistoiresからの抜粋)および詩集『パロール』Paroles(1946)をフランス語で読む。
彼が作詞を手掛けたシャンソンや映画『天井桟敷の子供たち』Les enfants du paradis(1945)やシャンソン、コラージュ作品等も鑑賞しつつ、プレヴェールの詩的言語の魅力を多角的に考察する。

●到達目標

初級・中級文法の知識を活用しながら、平易なフランス語原文を正確に読解できる。
文学史的知識および文学テクストに対する分析的アプローチの基礎を身につける。
グループディスカッションを通じて、より豊かな表現力を持った訳文を創造する。

●授業内容・授業計画

初回はプレヴェールの生涯と、彼が生きた時代のフランス文学・文化の動向について概略的に学ぶ。
2回目以降は学生による訳読を中心に、ディスカッション形式で進めてゆく。
第1回 オリエンテーション:プレヴェールとその時代
第2回 Contes pour enfants pas sages より≪ L'Autruche ≫①
第3回 Contes pour enfants pas sages より≪ L'Autruche ≫②
第4回 Contes pour enfants pas sages より≪ Scène de la vie des antilopes ≫①
第5回 Contes pour enfants pas sages より≪ Scène de la vie des antilopes ≫②
第6回 Contes pour enfants pas sages より≪ Le Dromadaire mécontent ≫①
第7回 Contes pour enfants pas sages より≪ Le Dromadaire mécontent ≫②
第8回 Contes pour enfants pas sages より≪ L'Éléphant de mer ≫
第9回 Contes pour enfants pas sages より≪ L'Opéra des girafes ≫
第10回 Contes pour enfants pas sages より ≪ Cheval dans une île ≫
第11回 Contes pour enfants pas sages より ≪ Jeune lion en cages ≫
第12回 Contes pour enfants pas sages より≪ Les premiers ânes ≫
第13回 Parolesと第二次世界大戦下のレジスタンス文学
第14回 Parolesより≪ Barbara ≫≪ La Pêche à la baleine ≫≪ Pater noster ≫ほか
第15回 まとめ

●事前・事後学習の内容

フランス語学習において、日々の地道な努力は必ず実を結びます。(できれば紙の)辞書を最大限に活用して綿密な予習・復習を行いましょう(毎回2時間程度)。

●評価方法

1)到達目標の達成度に基づいて評価を行う。
2)評価方法とその割合:授業への参加度100%(予習、グループディスカッションへの貢献、発表)
3)単位取得の最低基準:
①5回以上欠席した場合、単位取得の資格を失う。
②到達目標に掲げた以下の3点を総合的に判断して、60%以上に達していること。

・初級・中級文法の知識を活用しながら、平易なフランス語原文を正確に読解できる。
・文学史的知識および文学テクストに対する分析的アプローチの基礎を身につける。
・グループディスカッションを通じて、より豊かな表現力を持った訳文を創造する。

●受講生へのコメント

輪読形式で、しかも多くのテクストをどんどん読みすすめていきますので、必ず予習をしてきてください。重要なのは、まずしっかり辞書を引くこと、そしてフランス語の文法的な枠組みを正確につかまえたうえで訳文を組み立てることです。ざっくばらんに話し合いながら、原文ならではの面白さを一緒に味わっていきましょう。

●参考文献・教材

Jacques Prévert, Contes pour enfants pas sages, Gallimard, 2018. Jacques Prévert, Paroles, Gallimard, 1976.
その他は授業中に指示する。

授業科目名	科目NO.	LCDFF3301	授業コード	L234200010	
フランス語圏言語文化演習Ⅰ Seminar in Francophone Language and Culture Ⅰ			単位数	2 単位	
授業形態 講義／演習	担当教員名 福島　祥行				

●科目の主題

言語学という学問領域のあれこれを、フランス語を素材として学ぶとともに、フランス語そのものを深く考察するためのアイテムを身につける。授業は教場につどうすべてのひとびとのあいだの協働と対話によってすすめられる。

●到達目標

授業をとおして、フランス語および言語そのもの、ひいては人間存在へのまなざしを涵養する。

●授業内容・授業計画

今年度もなお、「記号」と「コミュニケーション」の問題について思弁する。われわれのコミュニケーション活動を分析すると、そこにはあまたのことが見過ごされ、誤解されてきたことがあきらかになる。この授業では、這般の消息をたずねることで、あたらしい知識の創発をめざす。なお、授業はグループワークによって進められる。

第1回：記号とはなにか
第2回：コミュニケーションとはなにか
第3回：コード・モデル
第4回：発話の多層性と言語行為論
第5回：会話の協調原理と関連性理論
第6回：推論モデル
第7回：ふたつの独我論
第8回：私的言語と感覚日記
第9回：ヴィトゲンシュタインの「意味」
第10回：プロトタイプとアフォーダンス
第11回：知覚の社会性とエスノメソドロジー
第12回：「意図」の不在
第13回：相互行為モデル
第14回：「弱いロボット」の思想とコミュニケーション＆ふりかえりとまとめ

●事前・事後学習の内容

事前に前回の学習内容のノートを読み返すこと、および、事後のふりかえり等により、1回の授業あたり2時間の自習時間をとること。

●評価方法

ポートフォリオによるふりかえり、および自己評価・相互評価。

●受講生へのコメント

われわれは「コミュニケーション」は「記号」の「伝達」であるとかんがへがちであるが、これらのキーワードについて厳密に考察したけっかではない。そして、「コミュニケーション」をめぐる言説のおおくは、そこをつきつめてかんがえていないがために、頓珍漢な方向へと彷徨している。受講生諸君は、教場における他者との「コミュニケーション」裡につきつめていただきたい。

●参考文献・教材

■参考文献

ウンベルト・エコ『記号論入門』而立書房
西阪仰『相互行為分析という視点――文化と心の社会学的記述』金子書房
好井裕明・西阪仰・山田富秋編『会話分析への招待』世界思想社
前田泰樹・水川喜文・岡田光弘編『エスノメソドロジー』新曜社
鈴木聡志『会話分析・ディスコース分析』新曜社

木村大治・高梨克也・中村美知夫編集『インタラクションの境界と接続』昭和堂
岡田美智男『弱いロボット』医学書院
岡田美智男『〈弱いロボット〉の思考 わたし・身体・コミュニケーション』講談社現代新書
ダニエル・デネット『スウィート・ドリームズ』NTT出版
マイケル・ガザニガ『〈わたし〉はどこにあるのか』
紀伊國屋書店
定延利之『コミュニケーションへの言語的接近』ひつじ書房
ゲルオグ・ノルトフ『脳はいかに意識をつくるのか』白揚社
その他、授業中に指示する。

授業科目名	科目NO.	LCDFF3302	授業コード	L234210010	
フランス語圏言語文化演習Ⅱ Seminar in Francophone Language and Culture Ⅱ			単位数	2 単位	
授業形態 演習	担当教員名 原野　葉子				

●科目の主題

現代フランス文学作品の原書講読を通じて中級文法の定着を図るとともに、フランス語読解能力の向上を目指す。フランス文学史、文学研究史および代表的な文学理論に関する知見を得る。テクスト解釈の多元的なありようを体験的に学び、卒論執筆に必要な思考能力およびテクスト分析力を養う。

今期はアントワーヌ・ド・サンテグジュペリの童話『星の王子さま』Le Petit Prince (1943)をフランス語で読む。

世界的ベストセラーとなった本作にはすでに多くの邦訳が存在する。フランス語の正確な読解力を鍛えつつ、授業を通じて自分だけのオリジナルな翻訳を創りあげることを目標とする。同時に、この「大人向けの童話」にこめられた人間主義的な思索の深さに触れる。

両大戦間期から第二次世界大戦下のフランスにおける「闘う作家たち」の系譜を理解し、当時の歴史的・政治的・文化的状況についての基本的な知識を獲得する。

●到達目標

中級文法の知識を活用しながら、長文の文学テクストを正確に読解できる。

文学史的知識およびフランスの文学理論の主たる流れを理解し、実際のテクスト分析に応用できる。

グループディスカッションを通じて、豊かな表現力を持った訳文を創造するとともに、独創的な分析・考察を展開することができる。

●授業内容・授業計画

初回はサンテグジュペリに関する基本的な情報を学ぶ。2回目以降は学生による訳読を中心に、ディスカッション形式で進めてゆく。

第1回 オリエンテーション：サンテグジュペリとその時代
第2回 序文：語りの戦略
第3回 第一章
第4回 第二章
第5回 第三・四章
第6回 第五・六章
第7回 第七・八章
第8回 第九章、惑星巡り抄（第十章～第十九章）
第9回 第二十・二十一章
第10回 第二十二～二十四章
第11回 第二十五章
第12回 第二十六章
第13回 第二十七章
第14回 『人間の大地』『南方郵便機』と『星の王子さま』
第15回 まとめ

●事前・事後学習の内容

1）原文については、辞書を最大限に活用して綿密な予習を行うこと。

2）サン=テグジュペリの他作品、および『星の王子さま』の関連書籍・資料にあたり、時代背景や解釈の多様性について知識を深めること。

（以上、毎回2時間程度）

●評価方法

1）到達目標の達成度に基づいて評価を行う。

2）評価方法とその割合：授業への参加度100％（予習、グループディスカッションへの貢献、発表）

3）単位取得の最低基準：

①5回以上欠席した場合、単位取得の資格を失う。

②到達目標に掲げた以下の3点を総合的に判断して、60％以上に達していること。

・中級文法の知識を活用しながら、長文の文学テクストを正確に読解できる。

・文学史的知識およびフランスの文学理論の主たる流れを理解し、実際のテクスト分析に応用できる。

・グループディスカッションを通じて、豊かな表現力を持った訳文を創造するとともに、独創的な分析・考察を展開することができる。

●受講生へのコメント

学生による訳読では、仏文和訳に加えて、文法的な解説およびテクスト解釈についての意見が求められます。必ず予習をしてきてください。

●参考文献・教材

Antoine de Saint-Expéry, Le Petit Prince, Gallimard, 2007.その他は授業中に指示する。

授業科目名	科目NO.	LCDFF3303	授業コード	L234220010	
フランス語圏言語文化演習Ⅲ Seminar in Francophone Language and Culture Ⅲ			単位数	2 単位	
授業形態	担当教員名				
演習	白田　由樹				

●科目の主題

フランスおよびフランス語圏の歴史や社会、教育、文化などの時事的側面を紹介したフランス語テクストを講読しながら、より正確な読解のための文法知識を身に着けるとともに、言葉の背景にある社会や文化の多様な広がりを学ぶ。

●到達目標

フランス語のA2～B1レベルのテクストを正確に読みこなす力をつけながら、語彙や発音のさらなる向上を目指す。また、フランスやフランス語圏の現代的な事象について知ることを通じて、多様な価値観や文化のあり方に関する視点を広げるとともに、自らの関心や知識を掘り下げていくための力をつける。

●授業内容・授業計画

『12テーマでわかるフランス事情〔改訂版〕』をもとに、以下の文化的トピックについてフランス語テクストを講読し、フランス語圏について知識を補強するとともに、フランス語の語彙や文法に関する練習問題を解きながら基礎的事項の復習・強化を行う。

以下の内容を予定しているが、順番やトピックスが変更される場合もある。

第1回 Introduction

第2回 Les uniformes de retour ?

第3回 Vers la réforme du baccalauréat et de l'entrée à l'université

第4回 Le rugby, nouveau sport vedette ?

第5回 La France, une nation de startups ?

第6回 L'immigration et la culture française

第7回 Paris, une ville verte ?

第8回 Le Ballet national de l'Opéra de Paris

第9回 La mode française et sa tradition de mécénat

第10回 700 millions de francophones en 2050 ?

第11回 Le télétravail : une organisation idéale du travail ?

第12回 La France, grande nation littéraire

第13回 Parité et disparité : un bilan contrasté

第14回 L'actualité sur internet (テーマ別リサーチ)

第15回 レポート・総括

●事前・事後学習の内容

受講者は毎回の授業につき標準1時間半から2時間程度の予習時間をとり、テクストの下読み(予習)と固有名詞などについて十分な下調べをしてくること。

●評価方法

平常点(毎回の授業参加、予習や宿題、発表)80%、レポート20%で成績をつける。なお、事情のない欠席や大幅な遅刻が5回以上あった者については、評価の対象としない。

●受講生へのコメント

卒業論文の段階では翻訳のないフランス語テクストを自力で読む調査も必要になってきます。自分の関心のあることについてはとくに、基本的な語彙と読解力、周辺知識を実につけながら、専門としての力をつけていきましょう。

●参考文献・教材

岡見さえ・ミカエル・デプレ（著）『12テーマでわかるフランス事情〔改訂版〕』白水社

授業科目名	科目NO.	LCDFF3304	授業コード	L234230010
フランス語圏言語文化特別演習 Special Seminar in Francophone Language and Culture			単位数	2 単位
授業形態 演習	担当教員名 福島　祥行			

●科目の主題

卒業論文執筆にむけたプレ演習として、論文に関する内容・形式面の諸注意、発想法、テーマ設定、文献蒐集、分析理論などについて学ぶことで、自律的に論文を執筆する環境をつくりあげる。

●到達目標

発想法、テーマ設定、文献蒐集、分析理論の学習と対話をとおして、フランス語圏学分野における論文執筆の力を身につける。

●授業内容・授業計画

主として、受講者各人がフランス語圏学の分野において設定したテーマにもとづき、論文執筆のためのワークショップをおこなう。主として受講者による発表と、受講者間のディスカッションによって進行してゆく。そのさい、発表会の司会は受講生が回り持ちでおこなう。また、他の受講生は、発表者にたいするコメントシート(good & more)を書くことを求められる。

第1回:論文とはどのようなものか、ブレーンストーミング、マインドマップ、KJ法、アクションラーニングなどについて、順番決定
第2回:受講生による発表①とコメントと論文をよむ
第3回:受講生による発表②とコメントと論理をくみたてる
第4回:受講生による発表③とコメントと文をつなぐ、書く
第5回:受講生による発表④とコメントと検索する
第6回:受講生による発表⑤とコメントとリサーチクエッションとは
第7回:受講生による発表⑥とコメントと先行研究とは
第8回:受講生による発表⑦とコメントと命題とは
第9回:受講生による発表⑧とコメントとデータとは
第10回:受講生による発表⑨とコメントと言説分析とは
第11回:受講生による発表⑩とコメントと参考文献表と引用とは
第12回:受講生による発表⑪とコメントと質的研究とは
第13回:受講生による発表⑫とコメントとフランスのデータを調べるには
第14回:ふりかえりとまとめ

●事前・事後学習の内容

事前に前回の学習内容のノートを読み返すこと、および、事後のふりかえり等により、1回の授業あたり2時間の自習時間をとること。

●評価方法

出席と発表内容をまとめたレポート。

●受講生へのコメント

フランス語圏領域以外に属する学生が受講したばあいは、テーマの選定をフランス語圏学に限定しない。また、ここで選択したテーマは、あくまで「論文執筆法」を学ぶための仮のものであり、じっさいの執筆時のテーマを拘束するものではない。
なお、発表者と対話することは、論文についてかんがえることの重要な要素をなすので、出席も重視する。

●参考文献・教材

授業中に指示する。

授業科目名	科目NO.	LCDFF3305	授業コード	L234240010	
フランス語コミュニケーション I French Communication I				単位数	2 単位
授業形態	担当教員名				
演習	MENANT Julien				

●科目の主題

Aux travers de différents thèmes de la vie française, d'abord usuels puis dans un deuxième temps culturels, nous souhaitons amener l'apprenant à pouvoir s'exprimer et à échanger avec l'enseignant et les autres participants..

●到達目標

Les objectifs sont communicatifs et linguistiques. Nous travaillerons plus particulièrement les compétences d'interaction et d'expression orale et écrite.

●授業内容・授業計画

Se présenter

1.Donner son numéro de tél. / email
2.Parler de ses loisirs
3.Faire des achats (1) Nourriture
4.Faire des achats (2) Vêtements
5.Proposer / accepter / refuser une invitation
6.Faire une réservation (date) restaurant / dentiste / coiffeur
7.Passer une commande café / restaurant
8.Parler de ses activités (fréquence)
9.Parler de ses habitudes
10.Localiser (indiquer où est quoi)
11.Décrire son logement
12.Demander/indiquer le chemin
13.Parler de ses projets
14.Évaluation : test d'expression orale

●事前・事後学習の内容

Révision de la leçon. Devoirs écrits

●評価方法

Contrôle continu, présence et participation.
Examen final : test d'expression orale

●受講生へのコメント

Participation orale active nécessaire. Apprentissage du vocabulaire et des structures données en classe indispensable. Petit journal à tenir de façon hebdomadaire.

●参考文献・教材

Des polycopiés seront donnés avec les objectifs et les activités de chaque cours.

授業科目名	科目NO.	LCDFF3306	授業コード	L234250010	
フランス語コミュニケーションⅡ French CommunicationⅡ				単位数	2 単位
授業形態	担当教員名				
演習	MENANT Julien				

●科目の主題

Aux travers de différents thèmes de la vie française, d'abord usuels puis dans un deuxième temps culturels, nous souhaitons amener l'apprenant à pouvoir s'exprimer et à échanger avec l'enseignant et les autres participants.

●到達目標

Les objectifs sont communicatifs et linguistiques. Nous travaillerons plus particulièrement les compétences d'interaction et d'expression orale et écrite.

●授業内容・授業計画

1.Se présenter
2.Présenter / décrire quelqu'un
3.Comparer
4.Donner des conseils
5.Suivre et expliquer une recette de cuisine (consigne / repère temporel)
6.Raconter un changement (imparfait / passé composé / présent)
7.Raconter un souvenir / parler de sa semaine
8.Exprimer les émotions (1)
9.Exprimer les émotions (2)
10.Exprimer son point de vue (1)
11.Exprimer son point de vue (2)
12.Présenter une œuvre
13.Parler du futur
14.Faire des hypothèses
15.Évaluation : test d'expression orale

●事前・事後学習の内容

Révision de la leçon. Devoirs écrits. Tenir un petit journal de façon hebdomadaire.

●評価方法

Contrôle continu, présence et participation.
Examen final : test d'expression orale

●受講生へのコメント

Participation orale active nécessaire. Apprentissage du vocabulaire et des structures données en classe indispensable.

●参考文献・教材

Des polycopiés seront donnés avec les objectifs et les activités de chaque cours.

授業科目名	科目NO.	LCDFF3205	授業コード	L234260010	
エチュード・フランコフォーヌ Etudes Francophones				単位数	2 単位
授業形態 講義	担当教員名 岩本　和子				

●科目の主題

ベルギーの文化と芸術

●到達目標

文化的多様性やマイノリティ文化への理解を深めるために、フランコフォニー（フランス語圏）の一つとしてベルギーを対象とし、歴史社会的背景と芸術文化の形成について学び理解する。

●授業内容・授業計画

本講義は、基本的に対面で実施する。

EU の中心であり、多言語・多文化国家であるベルギー。その多様性・多層性を、芸術作品（言語芸術や視覚芸術など）を通して紹介し、文化の交錯や共存について考える糸口としたい。第1回はイントロダクション、第2～7回は都市とその「物語＝記憶」、第8～14回は様々な芸術ジャンルの「現在」をテーマとする。

第1回　ベルギーの成り立ち、多言語・多文化状況
第2回　ブリュッセル　：独立革命と王立モネ劇場
第3回　コルトレイク　：黄金拍車の戦いと「フラーンデレンの獅子」
第4回　ダム　：スペイン支配と「ウーレンシュピーゲル伝説」
第5回　アントウェルペン　：「フランダースの犬」の舞台
第6回　ブルッヘ　：世紀末象徴主義と「死都ブリュージュ」
第7回　ヘント　：メーテルランク「青い鳥」
第8回　アール・ヌーヴォー　：建築とその名残り
第9回　シュルレアリスム　：文化戦略としてのマグリット
第10回　小説　：ジャン＝フィリップ・トゥーサンと日本
第11回　小説　：アメリー・ノートンと日本
第12回　映画　：ダルデンヌ兄弟など
第13回　マンガ（BD）　：「タンタン」や風刺画など
第14回　移民の文化　：移民芸術家の活躍、「ベルギー文化」とは？
第15回　試験

●事前・事後学習の内容

授業1週間前に、次回の講義に関する資料（テキスト）を配布する。それを事前に読んで内容を把握しコメントを用意してくること。授業の最後には講義内容についてのコメントや質問を書いて提出してもらう。次回の初めにそれについても討論する。

●評価方法

学年末試験　70%
出席点（授業中のアンケートや提出物など）　30%

●受講生へのコメント

英語圏やフランスなどの大国だけでなく、周縁文化にも目を向け、多角的な視点を持つようにしてください。チョコやワッフルだけでないベルギーの深くて多様で示唆に富んだ文化・芸術に興味を持ってもらえると嬉しいです。質疑応答で積極的に参加してください。

●参考文献・教材

資料の配布と参考文献の紹介を、授業中に行います。補助資料や映像なども使い、言語や文化、芸術作品にできるだけ直接触れてもらえるようにします。

授業科目名	科目NO.	LCDFX3203	授業コード	L234270010	
ヨーロッパ言語文化特講 Special Lecture on European Languages and Culture			単位数	2 単位	
授業形態 講義	担当教員名 信國　萌				

●科目の主題

初級ドイツ語の授業で扱う基本的な文法事項を取り上げ、他のヨーロッパ言語と比較しながら、ドイツ語の文法的な特徴について説明する。授業を通じて、受講生が多言語を比較、対照して捉える意識を身につけ、ドイツ語という言語の独自性について考えることを目的とする。

●到達目標

言語学的なアプローチの仕方についての知識を習得し、ドイツ語の仕組みについて、他のヨーロッパ言語の例を参照して説明できる。

●授業内容・授業計画

本授業については、基本的には対面とするが、遠隔も取り入れる可能性がある 。(予定)

第1回　導入:ヨーロッパの言語とドイツ語
第2回　ドイツ語の綴りと発音
第3回　ドイツ語の品詞の分類
第4回　ドイツ語の名詞と形容詞の格変化
第5回　ドイツ語の前置詞の格支配
第6回　ドイツ語の冠詞の用法
第7回　ドイツ語の動詞の人称変化
第8回　ドイツ語の定動詞の位置と枠構造
第9回　ドイツ語の否定文
第10回　ドイツ語の時制
第11回　ドイツ語の話法の助動詞
第12回　ドイツ語の心態詞
第13回　ドイツ語の接続法第1式
第14回　ドイツ語の接続法第2式
第15回　試験

●事前・事後学習の内容

講義前は、それぞれの授業回で扱うドイツ語の文法事項について、ドイツ語の教科書や文法書などで確認しておくこと。
講義後は、講義内容をノートにまとめ、よく復習しておくこと。

●評価方法

毎回のコメントカードの内容(50%)と試験の結果(50%)により判断する。

●受講生へのコメント

ドイツ語の既習を必須条件とはしないが、授業でドイツ語を扱うので、初級程度のドイツ語の知識があることが望ましい。

●参考文献・教材

教科書は使用せず、プリントを配布する。

授業科目名	科目NO.	LCLNG2101	授業コード	L235010010	
言語学基礎論 Introduction to Linguistics			単位数	2 単位	
授業形態 講義	担当教員名 山崎　雅人				

●科目の主題

本講義は、初めてこの学問に接する人が、多岐に渡る言語学の知識を取得することで、その知的な面白さを感じ取れるように、言語学を構成するさまざまな分野を理解することを主題とする。

●到達目標

受講生が言語学の基本概念に関する知識を習得することを到達目標とする。

●授業内容・授業計画

テキストは、受講生の既存の知識を確認しながら理解が深まるように工夫された自作教材を用いる。そこでは、受講者は与えられた課題への自分の考えをまずまとめ、後に解説を聞くことで自分の考えの当否を確認しながら、言語研究の基礎的知識を獲得してゆく。

第1回　言語学への招待　その1
第2回　言語学への招待　その2
第3回　構造について　その1
第4回　構造について　その2
第5回　研究方法について　その1
第6回　研究方法について　その2
第7回　比較言語学　その1
第8回　比較言語学　その2
第9回　類型論　その1
第10回　類型論　その2
第11回　記号論
第12回　社会言語学
第13回　心理言語学
第14回　応用言語学
第15回　言語哲学と文学

●事前・事後学習の内容

事前学習としては、予め指定された各回のテーマに関する重要な概念を意味する学術用語を、授業に先立って調べて罫線紙に書いて持って来ること。事後学習としては、授業で触れた内容を題材とした宿題を出すので、それに対する解答を準備して次の授業で提出すること。

●評価方法

受講生は、授業中の課題や指名に対して各自で考えて応答するとともに、宿題としての課題への解答を提出する。さらに、その日の講義内容に関して、「興味が持てたこと」と「理解ができなかったこと」（初めのうちは講義に関する要望を可とする場合もある）をまとめることで復習とする。こうした毎回の作業をきちんとこなすことと、規定以上の出席回数を満たすことに基づいて、成績評価を行う。

●受講生へのコメント

我々が日々関わり囲まれている「言葉の世界」には、少し見方を変えることで得られる「小さな発見」がたくさん潜んでいる。言葉は、自分自身の一部であるとともに、他者とつながる架け橋でもある。上に述べた「発見」は、自分とは何者か、自分が接する社会とはどのような存在か、という問題に何かしらの手がかりを与えてくれると思う。進んで言葉の世界へ赴き、探求の旅を楽しんでもらいたい。

●参考文献・教材

テキストは教員が準備して各回の授業に先立って配布する。参考文献は適宜教室で指示するが、以前にこの講義で用いた以下の本

は、参考図書として有用と考える。

・町田健著『町田健のたのしい言語学』2004年、ソフトバンクパブリッシング
・佐久間淳一、加藤重広、町田健著『言語学入門：これから始める人のための入門書』2004年、研究社
・星浩司著『言語学への扉』2006年、慶應義塾大学出版会
・佐久間淳一著『はじめてみよう言語学』2007年、研究社
・大津由紀雄編著『はじめて学ぶ言語学－ことばの世界をさぐる17章』2009年、ミネルヴァ書房
・大津由紀雄編、池上嘉彦著『ことばワークショップ―言語を再発見する』2011年、開拓社
・東京大学言語情報科学専攻編『言語科学の世界へ―ことばの不思議を体験する45題』2011年、東京大学出版会
・西原哲雄著『言語学入門』2012年、朝倉書店
・佐久間淳一著『フシギなくらい見えてくる! 本当にわかる言語学』2013年、日本実業出版社
・小泉政利編著『ここから始める言語学プラス統計分析（クロスセクショナル統計シリーズ）』2016年、共立出版

授業科目名	科目NO.	LCLNG3201	授業コード	L235020010	
言語応用論 Linguistics Applied				単位数	2 単位
授業形態	担当教員名				
演習	小倉　雅明				

●科目の主題

コーパスを利用した言語分析の基礎

●到達目標

コーパスを利用した言語分析の基礎に習熟する

●授業内容・授業計画

第1回　オリエンテーション・コーパス言語学への招待（第1章）
第2回 コーパスとはなにか（第2章）
第3回　 さまざまなコーパス（第3章）
第4回　コーパスの作成（第4章）
第5回　コーパスの作成（第4章）
第6回　コーパス検索の技術（第5章）(1)
第7回　コーパス検索の技術（第5章）(2)
第8回　コーパス頻度の処理(第6章)(1)
第9回　コーパス頻度の処理(第6章)(2)
第10回　コーパスと語彙（第7章）
第11回　コーパスと語法(第8章)(1)
第12回　コーパスと語法(第8章)(2)
第13回　コーパスと文法(第9章)(1)
第14回　コーパスと文法(第9章)(2)
第15回　コーパスと学習者
第15回　授業のまとめ

●事前・事後学習の内容

事前学習として、授業で扱う範囲の予習（発表者は発表・資料の準備）を行います。事後学習として、発表内容に関する振り返りを行います。

●評価方法

発表内容・授業への取り組み（60%）、期末課題（40%）によって総合的に評価します。

●受講生へのコメント

ことばの使われ方にたいする好奇心をもって受講してください。

●参考文献・教材

石川慎一郎（2012）『ベージックコーパス言語学』ひつじ書房

授業科目名	科目NO.	LCLNG3203	授業コード	L235040010	
言語教育論 Language Education				単位数	2 単位
授業形態 講義／演習	担当教員名 辻　香代				

●科目の主題

複言語・複文化主義に基づいた教育や言語政策等に関する論考、国内外の言語教育に関わる事例を通して、日本の言語教育を考える。

●到達目標

下記の2点を主な目標とする。

1. 言語の多様性や言語の社会的・文化的側面を理解し、包括的な視点で言語教育を捉える。

2. グローバル化における言語政策・教育等に関する論考を通じ、新たな言語教育を探究する姿勢を身につける。

●授業内容・授業計画

本講義は遠隔で実施する。

第1回　世界の言語－言語の多様性－
第2回　言語と教育
第3回　複言語主義に基づいた言語教育政策
第4回　ヨーロッパ言語共通参照枠に学ぶ1（グループ発表）
第5回　ヨーロッパ言語共通参照枠に学ぶ2（グループ発表）
第6回　言語教育への複言語主義の導入
第7回　言語教育活動の多様化
第8回　CEFRの活用－海外の事例から学ぶ－
第9回　外国語教育における母語の果たす役割
第10回 言語と思考
第11回 言語とアイデンディティ
第12回 言語と脳
第13回 機械翻訳に学ぶ英訳プロセス－発想の転換－
第14回 グローバル化の言語教育を考える1（グループ発表）
第15回 グローバル化の言語教育を考える2（グループ発表）

●事前・事後学習の内容

事前学習として、授業で扱う教材の章及び関連文献を分析的に読み、授業内における議論に向けて、共感できる部分や疑問に思う箇所などを整理しておくこと。事後学習として、講義を通じて得られた知見を整理することが望ましい。上記2点を「毎回の課題」とする。

●評価方法

平常点（出席点、授業への積極性、毎回の課題を含む）、授業内における発表、期末レポートによる。授業数の3分の2以上の出席が単位認定の条件となる。

●受講生へのコメント

事前学習を主体的におこなったうえで，積極的に授業に参加することが望ましい。

●参考文献・教材

指定教科書

泉水浩隆 編（2017）「ことばを教える・ことばを学ぶ：複言語・複文化・ヨーロッパ言語共通参照枠（CEFR）と言語教育」行路社

参考文献

杉野俊子（監修）田中富士美・羽多野一真（編著）（2017）『言語と教育－多様化する社会の中で新たな言語教育のあり方を探る』明石書店

欧州評議会　言語政策局（著）　山本冴里（訳）（2016）『言語の多様性から複言語教育へ ヨーロッパ言語教育政策策定ガイド』くろしお書店
久保田竜子（著）（2015）『グローバル社会と言語政策』くろしお書店
山内進（編著）（2003）『言語教育学入門』大修館書店
宮崎里司・杉野俊子（編著）（2017）『グローバル化と言語政策－サスティナブルな共生社会・言語教育の構築に向けて』明石書店
キース・モロウ（編）和田稔他（訳）（2013）『ヨーロッパ言語共通参照枠（CEFR）から学ぶ英語教育』研究社
その他の参考文献・資料等は、必要に応じ、随時紹介する。

授業科目名	科目NO.	LCLNG3204	授業コード	L235050010	
言語情報論 Linguistics and Information			単位数	2 単位	
授業形態 講義／演習	担当教員名 田中　一彦				

●科目の主題

言語(日本語、英語)特有の「らしさ」の本質を探る。

●到達目標

日本語話者の表現形式と英語話者の表現形式の本質的な違いを示すデータの発掘をし、 そのデータからそれぞれの言語の 「らしさ」 を明らかにする。

●授業内容・授業計画

日本語と英語の表現構造の違いに関する説明理論を批判的に概観し、 日本語話者の表現構造と英語話者の表現構造の本質的な違いとその原理を具体例をを通して検討する。 最後に自分で発掘したデータを元に各自の「ら しさ論」 をまとめる。

第1回 イントロダクション
第2回 日本語らしさ ・ 英語らしさ (状況中心的日本語)
第3回 日本語らしさ ・ 英語らしさ (個体中心的英語)
第4回 日本語らしさ ・ 英語らしさ (なる的日本語)
第5回 日本語らしさ ・ 英語らしさ (する的英語)
第6回 日本語らしさ ・ 英語らしさ (ウチとソト 1)
第7回 日本語らしさ ・ 英語らしさ (ウチとソト 2)
第8回 日本語らしさ ・ 英語らしさ (ウチとソト 3)
第9回 日本語らしさ ・ 英語らしさ (集団主義と個人主義 1)
第10 回 日本語らしさ ・ 英語らしさ (集団主義と個人主義2)
第11 回 日本語らしさ ・ 英語らしさ (集団主義と個人主義3)
第12 回 日本語らしさ ・ 英語らしさ (ハイコンテクストとローコンテクスト1)
第13 回 日本語らしさ ・ 英語らしさ (ハイコンテクストとローコンテクスト2)
第14 回 日本語らしさ ・ 英語らしさ (ハイコンテクストとローコンテクスト3)
第15 回 まとめ

●事前・事後学習の内容

授業前には、各回の授業のディスカッションテーマに関する自分の意見をまとめておく。 授業後は授業での議 論を踏まえ、 参考文献も参照しながら採取的に各自の「らしさ論」をまとめられるように準備を行う。

●評価方法

授業での議論に対する積極的な参加態度(課題の提出を含む)(50%)および最終レポート(プレゼン)の成績(50%)を総合的に評価する。

4回以上欠席した場合評価の対象外とする。

●受講生へのコメント

授業中の積極的な発言を重視する。

授業で扱うテーマ以外でも、身近な言語表現に関わることばの「不思議」についての疑問があれば、積極的に話題を提供してほしい。

●参考文献・教材

資料を配付、もしくは、ネット上にアップする予定。

授業科目名	科目NO.	LCLNG3205	授業コード	L235060010	
言語応用論演習 Seminar in Linguistics Applied				単位数	2 単位
授業形態 演習	担当教員名 小倉　雅明				

●科目の主題

コーパスを用いて英語の実例を分析する。

●到達目標

言語応用論で学んだ内容をもとに、英語の実例を分析できるようになる。

●授業内容・授業計画

第1回 オリエンテーション
第2回 語彙リスト1
第3回 語彙リスト2
第4回 コロケーション1
第5回 コロケーション2
第6回 イディオム1
第7回 イディオム2
第8回 n-gram1
第9回 n-gram2
第10回 文体1
第11回 文体2
第12回 辞書の記述1
第13回 辞書の記述2
第14回 辞書の記述3
第15回 授業のまとめ

●事前・事後学習の内容

前学習として、授業で扱う範囲の予習（発表者は発表・資料の準備）を行います。事後学習として、発表内容に関する振り返りを行います。

●評価方法

発表内容・授業への取り組み（60%）、期末課題（40%）によって総合的に評価します。

●受講生へのコメント

ことばの使われ方にたいする好奇心をもって受講してください。

●参考文献・教材

必要に応じて適宜資料を配布します。

授業科目名	科目NO.	LCLNG3206	授業コード	L235070010	
言語比較論演習 Seminar in Comparative Analysis of Language			単位数	2 単位	
授業形態 講義	担当教員名 山崎　雅人				

●科目の主題

本講義は、初めてこの学問に接する人が、多岐に渡る言語学の知識を取得することで、その知的な面白さを感じ取れるように、言語学を構成するさまざまな分野を理解することを主題とする。

●到達目標

受講生が言語学の基本概念に関する知識を習得することを到達目標とする。

●授業内容・授業計画

テキストは、受講生の既存の知識を確認しながら理解が深まるように工夫された自作教材を用いる。そこでは、受講者は与えられた課題への自分の考えをまずまとめ、後に解説を聞くことで自分の考えの当否を確認しながら、言語研究の基礎的知識を獲得してゆく。

第1回　言語学への招待　その1
第2回　言語学への招待　その2
第3回　構造について　その1
第4回　構造について　その2
第5回　研究方法について　その1
第6回　研究方法について　その2
第7回　比較言語学　その1
第8回　比較言語学　その2
第9回　類型論　その1
第10回　類型論　その2
第11回　記号論
第12回　社会言語学
第13回　心理言語学
第14回　応用言語学
第15回　言語哲学と文学

●事前・事後学習の内容

事前学習としては、予め指定された各回のテーマに関する重要な概念を意味する学術用語を、授業に先立って調べて罫線紙に書いて持って来ること。事後学習としては、授業で触れた内容を題材とした宿題を出すので、それに対する解答を準備して次の授業で提出すること。

●評価方法

受講生は、授業中の課題や指名に対して各自で考えて応答するとともに、宿題としての課題への解答を提出する。さらに、その日の講義内容に関して、「興味が持てたこと」と「理解ができなかったこと」（初めのうちは講義に関する要望を可とする場合もある）をまとめることで復習とする。こうした毎回の作業をきちんとこなすことと、規定以上の出席回数を満たすことに基づいて、成績評価を行う。

●受講生へのコメント

我々が日々関わり囲まれている「言葉の世界」には、少し見方を変えることで得られる「小さな発見」がたくさん潜んでいる。言葉は、自分自身の一部であるとともに、他者とつながる架け橋でもある。上に述べた「発見」は、自分とは何者か、自分が接する社会とはどのような存在か、という問題に何かしらの手がかりを与えてくれると思う。進んで言葉の世界へ赴き、探求の旅を楽しんでもらいたい。

●参考文献・教材

テキストは教員が準備して各回の授業に先立って配布する。参考文献は適宜教室で指示するが、以前にこの講義で用いた以下の本

は、参考図書として有用と考える。

・町田健著『町田健のたのしい言語学』2004年、ソフトバンクパブリッシング
・佐久間淳一、加藤重広、町田健著『言語学入門：これから始める人のための入門書』2004年、研究社
・星浩司著『言語学への扉』2006年、慶應義塾大学出版会
・佐久間淳一著『はじめてみよう言語学』2007年、研究社
・大津由紀雄編著『はじめて学ぶ言語学－ことばの世界をさぐる17章』2009年、ミネルヴァ書房
・大津由紀雄編、池上嘉彦著『ことばワークショップ―言語を再発見する』2011年、開拓社
・東京大学言語情報科学専攻編『言語科学の世界へ―ことばの不思議を体験する45題』2011年、東京大学出版会
・西原哲雄著『言語学入門』2012年、朝倉書店
・佐久間淳一著『フシギなくらい見えてくる! 本当にわかる言語学』2013年、日本実業出版社
・小泉政利編著『ここから始める言語学プラス統計分析（クロスセクショナル統計シリーズ）』2016年、共立出版

授業科目名	科目NO.	LCLNG3207	授業コード	L235080010	
言語教育論演習 Seminar in Language Education			単位数	2 単位	
授業形態 演習	担当教員名 辻　香代				

●科目の主題

国内外の言語教育に関わる事例を通して、日本の言語教育を考える。専門領域に対する理解を深めると共に、問いを立て解決する姿勢、情報や考えを英語で伝える能力等を鍛える。

●到達目標

下記の2点を主な目標とする。

1. 言語教育に関する文献・資料等を通じて、言語と教育に対する理解を深める。

2. 言語教育に関する新たな問いを立て、主体的に問題を解決する姿勢を身につける。

●授業内容・授業計画

各回に関連する文献を読み、口頭発表と議論を展開する。

第1回　授業の説明
第2回　子どもの言語学習
第3回　幼児期のバイリンガリズム
第4回　言語学習を説明する理論
第5回　言語習得を促す教授法
第6回　言語と教育－海外の事例より－
第7回　言語と教育－国内の言語教育を考える－
第8回　リサーチ・プロジェクトの考案
第9回　学生による発表1（以降の発表言語：英語）
第10回　学生による発表2
第11回　学生による発表3
第12回　学生による発表4
第13回　学生による発表5
第14回　学生による発表6
第15回　授業の振り返り

●事前・事後学習の内容

事前学習として、授業で扱う教材の章及び関連文献を分析的に読み、授業内における議論に向けて、共感できる部分や疑問に思う箇所などを整理しておくこと。事後学習として、講義を通じて得られた知見を整理することが望ましい。上記2点を「毎回の課題」とする。

●評価方法

平常点（出席点、授業への積極性、毎回の課題を含む）、授業内における発表、期末レポートによる。授業数の3分の2以上の出席が単位認定の条件となる。

●受講生へのコメント

事前学習を主体的におこなったうえで，積極的に授業に参加することが望ましい。

●参考文献・教材

指定教科書

パッツィ・M. ライトバウン/ニーナ・スパダ（白井恭弘・岡田雅子（訳））（2014）『言語はどのように学ばれるか：外国語学習・教育に生かす第二言語習得論』岩波書店

参考文献

尾島司郎・藤原康弘（編）（2020）『第二言語習得論と英語教育の新展開』金星堂

キース・モロウ(編)和田稔他(訳)(2013)『ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)から学ぶ英語教育』研究社
泉水浩隆(編)(2018)『ことばを教える・ことばを学ぶ－複言語・複文化・ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)と言語教育』行路社
杉野俊子(監修)　田中富士美・羽多野一真(編著)(2017)『言語と教育－多様化する社会の中で新たな言語教育のあり方を探る』明石書店
欧州評議会　言語政策局(著)　山本冴里(訳)(2016)『言語の多様性から複言語教育へ ヨーロッパ言語教育政策策定ガイド』くろしお書店
山内進(編著)(2003)『言語教育学入門』大修館書店
宮崎里司・杉野俊子(編著)(2017)『グローバル化と言語政策－サスティナブルな共生社会・言語教育の構築に向けて』明石書店
その他の参考文献・資料等は、必要に応じ、随時紹介する。

授業科目名	科目NO.	LCLNG3301	授業コード	L235100010	
言語応用特論 Special Studies in Linguistics Applied			単位数	2 単位	
授業形態 演習	担当教員名 田中　一彦				

●科目の主題

資料収集、先行研究の考察などの卒業論文を執筆するための基礎的事柄について学ぶ。

●到達目標

自ら課題を設定して、資料収集を行い、先行研究の知見を踏まえながら検討を加え、論文の作成に至る過程を十分に理解することを目標とする。

●授業内容・授業計画

まず、興味あるテーマを扱った過去の卒業論文について各自が報告し、クラスで議論する。次に、卒論作成につながる基礎的訓練として、各自の興味のあるテーマについて発表を行う。

第1回 イントロダクション
第2回 卒業論文作成概説
第3回 報告・討議 ①
第4回 報告・討議 ②
第5回 報告・討議 ③
第6回 報告・討議 ④
第7回 報告・討議 ⑤
第8回 報告・討議 ⑥
第9回 報告・討議 ⑦
第10回 ミニ研究発表 ①
第11回 ミニ研究発表 ②
第12回 ミニ研究発表 ③
第13回 ミニ研究発表 ④
第14回 ミニ研究発表 ⑤
第15回 全体のまとめ

●事前・事後学習の内容

事前学習としては、自分の興味に合う過去に言語応用コースで提出された卒論および雑誌論文をみつけて、指定された観点から分析をし、発表資料を作成すること。また、指定された方法に合った発表と質疑応答ができるように準備すること。
事後学習としては、自分の発表と他の受講者の発表に対する比較対照を行うことで、発表並びに講評の技量を上達させるようにすること。

●評価方法

発表準備、発表内容、並びに他の発表者へのコメントを総合的に評価する。

●受講生へのコメント

日常生活の様々な場面で、言葉に対する問題意識をもつことを心がけてほしい。受講生は言語応用コース所属の学生のみとする。

●参考文献・教材

必要に応じて、授業中に資料を配布する。

授業科目名	科目NO.	LCLNG3302	授業コード	L235110010	
言語比較特論 Special Studies in Comparative Analysis of Language			単位数	2 単位	
授業形態 講義	担当教員名 山崎　雅人				

●科目の主題

本講義は、初めてこの学問に接する人が、多岐に渡る言語学の知識を取得することで、その知的な面白さを感じ取れるように、言語学を構成するさまざまな分野を理解することを主題とする。

●到達目標

受講生が言語学の基本概念に関する知識を習得することを到達目標とする。

●授業内容・授業計画

テキストは、受講生の既存の知識を確認しながら理解が深まるように工夫された自作教材を用いる。そこでは、受講者は与えられた課題への自分の考えをまずまとめ、後に解説を聞くことで自分の考えの当否を確認しながら、言語研究の基礎的知識を獲得してゆく。

第1回　言語学への招待　その1
第2回　言語学への招待　その2
第3回　構造について　その1
第4回　構造について　その2
第5回　研究方法について　その1
第6回　研究方法について　その2
第7回　比較言語学　その1
第8回　比較言語学　その2
第9回　類型論　その1
第10回　類型論　その2
第11回　記号論
第12回　社会言語学
第13回　心理言語学
第14回　応用言語学
第15回　言語哲学と文学

●事前・事後学習の内容

事前学習としては、予め指定された各回のテーマに関する重要な概念を意味する学術用語を、授業に先立って調べて罫線紙に書いて持って来ること。事後学習としては、授業で触れた内容を題材とした宿題を出すので、それに対する解答を準備して次の授業で提出すること。

●評価方法

受講生は、授業中の課題や指名に対して各自で考えて応答するとともに、宿題としての課題への解答を提出する。さらに、その日の講義内容に関して、「興味が持てたこと」と「理解ができなかったこと」（初めのうちは講義に関する要望を可とする場合もある）をまとめることで復習とする。こうした毎回の作業をきちんとこなすことと、規定以上の出席回数を満たすことに基づいて、成績評価を行う。

●受講生へのコメント

我々が日々関わり囲まれている「言葉の世界」には、少し見方を変えることで得られる「小さな発見」がたくさん潜んでいる。言葉は、自分自身の一部であるとともに、他者とつながる架け橋でもある。上に述べた「発見」は、自分とは何者か、自分が接する社会とはどのような存在か、という問題に何かしらの手がかりを与えてくれると思う。進んで言葉の世界へ赴き、探求の旅を楽しんでもらいたい。

●参考文献・教材

テキストは教員が準備して各回の授業に先立って配布する。参考文献は適宜教室で指示するが、以前にこの講義で用いた以下の本

は、参考図書として有用と考える。

・町田健著『町田健のたのしい言語学』2004年、ソフトバンクパブリッシング
・佐久間淳一、加藤重広、町田健著『言語学入門：これから始める人のための入門書』2004年、研究社
・星浩司著『言語学への扉』2006年、慶應義塾大学出版会
・佐久間淳一著『はじめてみよう言語学』2007年、研究社
・大津由紀雄編著『はじめて学ぶ言語学－ことばの世界をさぐる17章』2009年、ミネルヴァ書房
・大津由紀雄編、池上嘉彦著『ことばワークショップ―言語を再発見する』2011年、開拓社
・東京大学言語情報科学専攻編『言語科学の世界へ―ことばの不思議を体験する45題』2011年、東京大学出版会
・西原哲雄著『言語学入門』2012年、朝倉書店
・佐久間淳一著『フシギなくらい見えてくる! 本当にわかる言語学』2013年、日本実業出版社
・小泉政利編著『ここから始める言語学プラス統計分析（クロスセクショナル統計シリーズ）』2016年、共立出版

授業科目名	科目NO.	LCLNG3209	授業コード	L235120010	
言語教育特論 Special Studies in Language Education			単位数	2 単位	
授業形態 講義／演習	担当教員名 田中　一彦				

●科目の主題

言語学の知見が言語教育にどのように貢献できるのかを判断できるに足る言語学的知識を養成する。

●到達目標

語用論の知見が言語教育にどのような貢献が出来るかを判断するための理論的材料を身につける。

●授業内容・授業計画

我々の日常言語のコミュニケーションに関わる特定のトピックに関してディスカッションをする。
以下の予定は変更の可能性あり。
第1回 授業の概要説明
第2回 語用論とは何か1
第3回 語用論とは何か2
第4回 コミュニケーション論1 (Code Model)
第5回 コミュニケーション論2(Inferential Model)
第6回 グライスのコミュニケーション論1
第7回 グライスのコミュニケーション論2
第8回 第4回から7回のまとめ
第9回 関連性理論1
第10回 関連性理論2
第11回 関連性理論3
第12回 ポライトネス理論1
第13回 ポライトネス理論2
第14回 言語教育への応用1
第15回 言語教育への応用2、および総括

●事前・事後学習の内容

事前に与えられる課題について準備をして授業に臨み、当該テーマについて積極的に議論に参加できるようにようにしておく。
授業後は、他の受講生の議論と比較しながら、自らが展開した議論が妥当であったかを検証する。

●評価方法

授業への積極的な参加態度(課題の提出を含む)(50%)、および最終課題(レポートもしくはプレゼン)の成績(50)を総合的に評価する。
4回以上欠席した場合評価の対象外とする。

●受講生へのコメント

授業中の積極的な発言を重視する。
授業で扱うテーマ以外でも、身近な言語表現に関わることばの「不思議」についての疑問があれば、積極的に話題を提供してほしい。

●参考文献・教材

資料を配付、もしくは、ネット上にアップする予定。

授業科目名	科目NO.	LEART3201	授業コード	L241010010	
文化理論 Lecture in Culture Theory			単位数	2 単位	
授業形態 講義	担当教員名 高島　葉子				

●科目の主題

19 世紀以後、社会の産業化、都市化が進み民衆あるいは一般大衆の文化のあり方は大きく変わった。かつての村落共同体での「民衆文化」は衰退し、大量生産の産業技術とマス・メディアの発達が新たな形の「大衆文化」をもたらした。19世紀以降の「文化」が、どのように理解され、研究されてきたか、文化研究理論の変遷をたどりながら、おもに「大衆文化」がどうとらえられてきたかを重要な観点として概観する。その際、大衆文化と道徳秩序、道徳的価値の関係も関心の一つとなる。

●到達目標

文化に関する理論や理論間の対立、継承、発展を理解することにより、 表現文化研究の歴史と視点を把握するともに、表現文化を研究する意義と方法を自ら思考する姿勢を身に着ける。

●授業内容・授業計画

主要な理論、学説を取上げて講義する。講義内容は状況によって変更する場合もある。 受講者数に応じて、 演習形式も取り入れる。（対面授業を予定しているが、状況によってはリモート授業あるいは混合授業になる可能性もある。）

第1回 イントロダクション:「文化」、「大衆文化」とはなにか
第2回　19 世紀の文化論 （1）:アーノルド、リーヴィス
第3回　19 世紀の文化論 （2）:大衆文化批判
第4回　文化主義： ホガード、レイモンド
第5回　現代文化研究所とカルチュラル・スタディーズ
第6回　フランクフルト学派（1）:アドルノ、ホルクハイマー
第7回　フランクフルト学派（2）:ベンヤミン
第8回　 古典的マルクス主義
第9回　 マルクス主義文化論： アルテュセール、グラムシ
第10回　構造主義： レヴィ―ストロース
第11回　記号論： バルト
第12回　ポスト構造主義： フーコー
第13回　フェミニズムとポストフェミニズム
第14回　大衆文化と全体主義
第15回　 総括

●事前・事後学習の内容

事前学習:授業前に指示する。 事後学習:授業中に配布された資料を基に講義内容を復習する。

●評価方法

平常点20%、小レポート30%、期末試験50%で評価する。

●受講生へのコメント

講義形式だが、講義の内容の理解のためには、能動的な学習態度が求められる。

●参考文献・教材

John Storey (ed.), Cultural Theory and Popular Culture: An Introduction, 9th ed. (Routledge, 2018); John Storey (ed.), Cultural Theory and Popular Culture: A Reader, 4th ed. (Routledge, 2008). 授業中に適宜 指示する。 資料（英文、 和文） を配布する。

授業科目名	科目NO.	LEART3205	授業コード	L241050010	
テクスト文化論 Lecture in Text Culture				単位数	2 単位
授業形態 講義	担当教員名 野末　紀之				

●科目の主題

西欧の前衛的な芸術運動の影響を受けて、日本の1920～30年代の文学テクストで流行したもののひとつに、「機械」を題材とするものがある。横光利一の「機械」(1930)がよく知られている。それらは、大都市および資本主義のメカニズム、人々の感覚知覚の急激な変容をとらえ、また表現するための実験的な試みであった。それらの内実を現代の視点からあらためて考察する。

●到達目標

当該テーマが現代の文化現象や作品を考察するさいに有益な知見や視点を獲得することが目標である。

●授業内容・授業計画

第1回: イントロダクション
第2回: 機械と文学
第3回: 機械の映画
第3回: ロボット、人造人間(1)
第4回: ロボット、人造人間(2)
第5回: ロボット、人造人間(3)
第6回: 機械と労働者(1)
第7回: 機械と労働者(2)
第8回: 機械と労働者(3)
第9回: 機械のエロス(1)
第10回:機械のエロス(2)
第11回: 機械のエロス(3)
第12回: 機械と都市生活(1)
第13回: 機械と都市生活(2)
第14回: まとめ
第15回: 試験

●事前・事後学習の内容

配布資料の読解に2時間の事前学習、問題点の整理と考察に1時間の事後学習が必要。

●評価方法

必要な出席回数を満たしたうえで、平常点(30%)、レポート(35%)、試験(35%)による。

●受講生へのコメント

テーマにかかわる文学テクストをみずから積極的に読んでほしい。

●参考文献・教材

テクストのいくつかは、海野弘編『モダン都市文学VI　機械のメトロポリス』(平凡社、1990)所収のものをプリントにして配布する。参考文献は適宜指示する。

授業科目名	科目NO.	LEART3202	授業コード	L241020010	
表象文化論 Lecture in Art and Representation			単位数	2 単位	
授業形態 講義	担当教員名 海老根 剛				

●科目の主題

本講義のねらいは、映像作品の考察のための基礎作りです。対象としては実写映画とアニメーション、および近年のデジタル映像を扱います。考察される作品は映画が中心になりますが、映画以外の動画表現の分析にも不可欠な映像リテラシーの習得に役立つはずです。

●到達目標

この講義では、みなさんに多くの作品に触れてもらい、映像作品を考察するための言葉を獲得してもらうことが目標です。したがって、受講者の積極的な参加が求められます。なお第1回目の授業の前に見ておいてもらう映画作品をポータルサイトで伝えますので、受講者は必ず対象作品を見たうえで授業に参加してください。

●授業内容・授業計画

毎回、いくつかの作品から特定の場面を選んで上映し、その場面の特徴やそこで用いられている技法を考察しながら、映画表現の多様な側面に光を当てていきます。またそれらの考察を通して、映画の分析に不可欠な基礎概念の導入も行います。

第1回 イントロダクション
第2回 映画と運動 (1)
第3回 映画と運動 (2)
第4回 映画と空間 (1)
第5回 映画と空間 (2)
第6回 映画と時間 (1)
第7回 映画と時間 (2)
第8回 映画における声と身体～ミュージカル映画(1)
第9回 映画における声と身体～ミュージカル映画(2)
第 10 回 アニメーション表現の諸特徴
第 11 回 アニメーションとデジタル映像(1)
第 12 回 アニメーションとデジタル映像(2)
第 13 回 映画的身体の系譜と変容(1)
第 14 回 映画的身体の系譜と変容(2)

●事前・事後学習の内容

受講者は実際に映画作品を見て、分析的な観点から映画表現を考察するレッスンを重ねることが望ましい。

●評価方法

中間レポートと期末レポートで評価する。

●受講生へのコメント

使用教室の制限上、受講希望者多数の場合には履修制限を行う。その場合、表現文化コースの学生を優先したうえで、 残りについて抽選を行う。

またこの授業では Microsoft Teams および Microsoft Forms を利用する。使用方法は初回の授業で説明する。

●参考文献・教材

適宜、プリントを配布する。

授業科目名	科目NO.	LEART3204	授業コード	L241040010	
比較表現論 Lecture in Comparative Representation			単位数	2 単位	
授業形態	担当教員名				
講義	高島　葉子				

●科目の主題

民話の比較研究に関する概説と理論、方法について講義する。対面授業を予定しているが、状況によってはリモート授業あるいは混合になる可能性もある。

●到達目標

話型やモチーフなどの民間説話（神話を含む）の基本事項および国際性、地域性について学ぶとともに、民間説話（神話を含む） 研究のための理論と方法の知識を得ることを目標とする。

●授業内容・授業計画

第1回：導入：民話とは何か
第2回：民話の特徴（リューティー理論）
第3回：民話の国際話型(1)「シンデレラ」
第4回：民話の国際話型(2)「小人の贈り物 / 瘤取り爺さん」
第5回：民話の国際話型(3)「白鳥乙女 / 天人女房」
第6回：民話の国際話型(4)「援助者の名前」
第7回：民話の地域性(1) アイヌの民話
第8回：民話の地域性(2) 民話による比較文化
第9回：民話研究の理論(1) 民話の起源と伝播
第10回：民話研究の理論(2) 形態学（構造論）：プロップ
第11回：民話研究の理論(3)形態学（構造論）：ダンダス
第12回：民話研究の理論(4) 精神分析的解釈：フロイト、ユング
第13回：民話研究の理論(5) 社会学的アプローチ（イデオロギー的分析）：ザイプス
第14回：民話研究の理論(6) 世界神話学：ヴィッツェル
第15回：期末試験

●事前・事後学習の内容

事前学習：授業前に指示する。 事後学習：授業中に配布された資料を基に講義内容を復習する。

●評価方法

平常点30%、期末試験70%で評価する。

●受講生へのコメント

予め、グリム童話、日本、イギリス、フランス、ロシアの代表的な民話を読んでおく必要がある。

●参考文献・教材

教材 授業中に指示する。

授業科目名	科目NO.	LEGEN1201	授業コード	L240030010	
文化構想学基礎演習Ⅰ a Basic Seminar in Cultural Management Ⅰ			単位数	2 単位	
授業形態 演習	担当教員名 堀　まどか				

●科目の主題

文化構想学科の学生が、現代のさまざまな文化現象や表現のもつ意味を理解し、分析するさいに必要な基本的観点や理論を身につける。

●到達目標

上記の観点や理論を演習形式により身につけて、レポート作成のさいに応用できるようにすることが目標である。

●授業内容・授業計画

第1回:イントロダクション
第2回:怪異を伝えるために試みられたこと①
第3回:怪異を伝えるために試みられたこと②
第4回:怪異を伝えるために試みられたこと③
第5回:怪異を伝えるために試みられたこと④
第6回:怪異を伝えるために試みられたこと⑤
第7回:怪異を通じて語りうること①
第8回:怪異を通じて語りうること②
第9回:怪異を通じて語りうること③
第10回:怪異を通じて語りうること④
第11回:怪異に読者が期待すること①
第12回:怪異に読者が期待すること②
第13回:怪異に読者が期待すること③
第14回:総括・まとめ

●事前・事後学習の内容

事前に1時間半の予習(内容理解、疑問点の考察)、事後に1時間の復習(問題点の整理と考察)。
1学期に2回以上は発表演習して貰う予定。
・発表担当者は、担当の章の①要旨(＋どのような構成で論文が書かれているのかの分析) ②論文内に示されている具体例・事象の独自の分析と研究の発展性 ③疑問点と、あらたな問い ④コメントの4点 をレジュメに記すこと。
また、その章の参考文献のうち少なくとも1つ以上は読んで、コメントすること。
・発表者ではない参加者も、全員が毎回、各章の要旨はまとめてくること。

●評価方法

平常点(30%)、演習・プレゼンテーション(35%)、レポート(35%)。

●受講生へのコメント

知らないことは積極的に調べたり、見聞きしたりすること。
論文の書き方について、積極的に学ぶこと。

●参考文献・教材

一柳廣孝編『怪異を魅せる』(青弓社、2016年12月)を各自購入すること。
その他の参考文献については授業中に適宜指示する。

授業科目名	科目NO.	LEGEN1201	授業コード	L240030020	
文化構想学基礎演習Ⅰ b Basic Seminar in Cultural Management Ⅰ			単位数	2 単位	
授業形態 演習	担当教員名 小田中　章浩				

●科目の主題

本科目は、文化構想学科の2回生を主な対象とする科目である。

本科目の主題は、専門分野に関係するいくつかのテキストについて、学生がそれらを正確に読み、かつ批評する力を養うことによって、専門分野に関する「基礎体力」を付けることである。

●到達目標

文化構想学専攻の2回生が、専門分野についての基礎的な教養を構成するいくつかのテキストを出来る限り正確に読み、テキストの文脈に配慮しつつ適切に理解し、自身の立場から批判的に考える能力を身につけるようにすること。

●授業内容・授業計画

【授業内容】下記に示したテキストについて受講生の中から担当者を決め、担当者に各章の内容のまとめと内容に対する批評を報告してもらい、その報告とテキストに対する議論を行う。

【授業計画】

第一回:ガイダンス。
第二回:吉見俊哉『大学とは何か』(1)
第三回:吉見俊哉『大学とは何か』(2)
第四回:なだいなだ『民族という名の宗教』(1)
第五回:なだいなだ『民族という名の宗教』(2)
第六回:東浩紀『動物化するポストモダン』(1)
第七回:東浩紀『動物化するポストモダン』(2)
第八回:東浩紀『動物化するポストモダン』(3)
第九回:大澤真幸『不可能性の時代』(1)
第十回:大澤真幸『不可能性の時代』(2)
第十一回:大澤真幸『不可能性の時代』(3)
第十二回:テッサ・モーリスースズキ『過去は死なない』(1)
第十三回:テッサ・モーリスースズキ『過去は死なない』(2)
第十四回:テッサ・モーリスースズキ『過去は死なない』(3)
第十五回:授業のまとめ

●事前・事後学習の内容

受講者全員が使用するテキストを事前に読んで授業に臨むことが求められる。また毎回の授業で学んだことを整理し、次回の授業に備えることも必要である。授業中にディスカッションでは、担当する報告者以外も指名される。その時の対応も平常点としてカウントされる。

●評価方法

平常点70%(報告＋議論)、期末レポート30%

●受講生へのコメント

授業で用いるテキストは、文化構想学という学問について学ぶための「基礎的な教養」の一部になるものを選んだ。受講者は各自購入すること。新本の入手が難しい場合はAmazon等の中古本による購入で構わないし、それによって費用も節約することができる。

●参考文献・教材

吉見俊哉『大学とは何か』 岩波新書
なだいなだ『民族という名の宗教』 岩波新書

東浩紀『動物化するポストモダン』 講談社現代新書
大澤真幸『不可能性の時代』岩波新書
テッサ・モーリス－スズキ『過去は死なない』岩波現代文庫

授業科目名	科目NO.	LEGEN1202	授業コード	L240040010	
文化構想学基礎演習Ⅱ a Basic Seminar in Cultural Management Ⅱ				単位数	2 単位
授業形態 演習	担当教員名 高島 葉子				

●科目の主題

本講義は、文化構想学科の研究領域、研究テーマなどについて、演習形式の授業をもとに理解を深めていく。本講義は、文化構想学基礎演習Ⅰとあわせて、文献読解、資料収集、プレゼンテーションなど、文化構想学科諸領域に共通して求められる基礎的研究能力の修得を第一の目標とする。なお基礎演習Ⅱについては主として英語文献の講読をおこなう。

●到達目標

文化構想学科での研究に求められる基礎的な研究手法を自らもちいることができる。

●授業内容・授業計画

対面授業を予定しているが、状況によっては、遠隔授業あるいは混合授業に変更する可能性もある。

第1回:オリエンテーション
第2回:文献講読、受講生による発表と討論
第3回:同上
第4回:同上
第5回:同上
第6回:同上
第7回:同上
第8回:同上
第9回:同上
第10回:同上
第11回:同上
第12回:同上
第13回:受講生による研究発表
第14回:同上
第15回:同上

●事前・事後学習の内容

毎回の課題文献を読んでおくこと。

●評価方法

到達目標への達成度をもとに評価する。評価は、期末の研究発表(60%)と文献講読にさいしての討論への参加度合いなど(40%)によっておこなう。合格のための最低基準として、文化構想学科での研究に求められる基礎的な研究手法をもとに、自ら設定した課題について研究発表ができることを求める。

●受講生へのコメント

十分な予習と、積極的は発言を期待する。

●参考文献・教材

授業中に課題文献を指示する。

授業科目名	科目NO.	LEGEN1202	授業コード	L240040020	
文化構想学基礎演習Ⅱ b Basic Seminar in Cultural Management Ⅱ			単位数	2 単位	
授業形態 演習	担当教員名 多和田　裕司				

●科目の主題

本講義は、文化構想学科の研究領域、研究テーマなどについて、演習形式の授業をもとに理解を深めていく。本講義は、文化構想学基礎演習Aとあわせて、文献読解、資料収集、プレゼンテーションなど、文化構想学科諸領域に共通して求められる基礎的研究能力の修得を第一の目標とする。なお基礎演習Bについては主として英語文献の講読をおこなう。

●到達目標

文化構想学科での研究に求められる基礎的な文献（日本語、英語）を読解し、内容を正確に理解し、要点を分かりやすく報告することができるようになる。また、関連資料を収集し、自らの関心に基づいて報告することを通して、プレゼンテーションのスキルを身に着ける。

●授業内容・授業計画

この授業は対面によって実施する（予定）。

第1回：オリエンテーション
第2回：文献講読、受講生による報告と討論
第3回：同上
第4回：同上
第5回：同上
第6回：同上
第7回：同上
第8回：同上
第9回：同上
第10回：同上
第11回：同上
第12回：同上
第13回：受講生による研究発表
第14回：同上
第15回：同上

●事前・事後学習の内容

授業前は課題文献を読んで要点を把握しておき、授業後は講読箇所の復習をおこなうこと。

●評価方法

到達目標への達成度をもとに評価する。評価は、期末の研究発表（60％）と文献講読にさいしての討論への参加度合いなど（40％）によっておこなう。

●受講生へのコメント

毎回予習を行った上で受講すること。授業の進め方、課題文献の入手方法等についてはオリエンテーション時に指示する。

●参考文献・教材

授業中に課題文献を指示する。

授業科目名	科目NO.	LEART3206	授業コード	L241060010	
表現文化論基礎演習 Basic Seminar in Art and Representation			単位数	2 単位	
授業形態	担当教員名				
演習	海老根 剛／江村 公				

●科目の主題

(1)作品分析の基礎を学ぶ。特定の方法論や理論にもとづく分析の一歩手前にとどまり、ひとつの具体的な対象としての作品と向き合い、それを構成している表現の特徴や構造を具体的に把握し、考察するレッスンを行う。作品は私たちの前に、ひとつの触知可能なまとまりとして、たとえば書かれた言葉(小説、エッセイ)、描かれた線と記号(マンガ)、 俳優の身体と声(演劇)、静止した光と影(写真)、明滅する映像の連なり(映画)として与えられています。この授業では、そのような触知可能なまとまりとしての作品がどのように形作られており、どのような動き、出来事がそこに生起しているのかを明らかにするとともに、それを言葉によって記述するレッスンを行います。

(2)文献調査、画像編集にもとづく簡潔なプレゼンテーションを作成し、発表するレッスンを行う。口頭発表における補助資料の位置づけ正しくを理解し、プレゼンテーション用ソフトウェアの欠点と利点を把握した上で、効果的な発表資料を作成する技術を学習する。

●到達目標

(1)自分が感じたことを手がかりに論理的に思考することを学ぶ。(2)口頭発表の方法と技術的補助手段の使用法を学ぶ。

●授業内容・授業計画

今回の授業では、マンガ、小説、絵画、写真、映画、演劇、現代美術を扱う。それぞれのジャンルについて、指定された作品の分析を行う。また学期末には作品分析の口頭発表を受講者全員にしてもらう。

第1回 イントロダクション
第2回 マンガ分析
第3回 小説分析
第4回 絵画分析
第5回 映画作品上映
第6回 映画作品分析
第7回 演劇作品上映
第8回 演劇作品分析
第9回 写真分析
第10回 現代美術作品上映
第11回 現代美術作品分析
第12回 プレゼンテーション入門
第13回 口頭発表(1)
第14回 口頭発表(2)

●事前・事後学習の内容

授業開始前に授業で取り扱う課題に関する資料を Microsoft Teams に掲載する。Teams の使用方法は初回の授業で説明する。
必ず事前に内容を確認し、それに関した小レポートを締め切りまでに提出する。授業終了後は添削された小レポートを確認して、理解・分析の問題点を整理しておく。

●評価方法

6回のレポートと口頭発表で評価する。

●受講生へのコメント

この授業は表現文化コースに新たに進学した2回生向けの授業です。他コースの学生は受講できません。

●参考文献・教材

作品資料は授業内で配布する。

授業科目名	科目NO.	LEART3207	授業コード	L241070010	
表象文化論演習 Seminar in Culture and Representation			単位数	2 単位	
授業形態 演習	担当教員名 海老根　剛				

●科目の主題

この授業では、毎回、一本の映画作品から特定の場面を選び出し、その場面がどのような仕方で構成されているのかを具体的に考察します。関連する二次文献も参照しながら、場面の構成、映画全体の中での位置づけ、物語上の機能、表現上の特徴、細部の照応関係などに注目し、場面分析を掘り下げていきます。また映画とアニメーションの基本文献の講読も行います。

●到達目標

映画作品の研究の基礎を学びます。映像、音響、ショット、モンタージュ、コンポジティング、演出などの観点から、多様な映画作品を柔軟に分析する方法を学びます。二次文献をも参照しつつ、映像と音響の具体的分析に基づいて映像作品を考察し、議論する基礎的なスキルを身につけます。また必ずしも最終的なコンセンサスを志向しないオープンかつフラットな議論を通して、共同で作品を考察するレッスンも行います。

●授業内容・授業計画

この授業では、まず映画を1本まるごと上映し、その後、指定した場面について発表とディスカッションを行います。また映画とアニメーションの基礎文献の購読を行います。実写映画3本、アニメーション映画2本を取り上げる予定です。

第1回　　イントロダクション
第2回　　映画分析の基礎概念
第3回　　映画論の講読
第4回　　映画上映（1）
第5回　　場面分析（1）
第6回　　映画上映（2）
第7回　　場面分析（2）
第8回　　映画上映（3）
第9回　　場面分析（3）
第10回　アニメーション映画論の講読
第11回　　映画上映（4）
第12回　　場面分析（4）
第13回　　映画上映（5）
第14回　　場面分析（5）

●事前・事後学習の内容

受講者は毎週配布される関連文献を読んだうえで授業に参加すること。

●評価方法

単位取得の条件は、発表を担当することです。作品分析の発表者には事前に作品のDVD（ストリーミングの場合もある）および関連二次文献を配布します。発表者はこれらの資料にもとづいて指定された場面の分析を行います。期末レポートを課さないので、入念な準備をして発表することが求められます。

●受講生へのコメント

(1)この授業は、受講者が映画表現について最低限の知識も持ち、映画を考察するための基礎概念を学んでいることを前提しています。したがって、2020年度前期開講または2021年度前期開講の「表象文化論」（担当：海老根剛）を受講し、単位取得していることを受講の条件とします。

(2)作品上映の授業日は、作品の長さによって規定の授業時間を超過する可能性があります（その場合には、お昼休みの時間から上

映を行います)。このことを了解のうえ受講のこと。

(3)受講者全員に発表を担当してもらうため、受講希望者多数の場合には、表現文化コースの学生を優先したうえで、抽選を行います。

(4)積極的に議論に参加する意欲のある学生のみ受講すること。

(5)授業では Microsoft Teams を利用する。使用方法は初回の授業時に説明する。

●参考文献・教材

適宜、配布する。

授業科目名	科目NO.	LEART3301	授業コード	L241110010	
表現文化論特殊演習I Advanced Seminar in Culture and Representation I			単位数	2 単位	
授業形態	担当教員名				
演習	増田　聡／海老根　剛				

●科目の主題

「映像と音楽」をテーマとし、その相互関係の諸相を分析検討する。授業は2名の教員によるコ・ティーチング形式で行われる。

●到達目標

映像と音楽の関係について理論的に分析できる視点を獲得し、自身の研究テーマに応じて適切に用いることができるようになること。
また、演習での報告を通じて、各種情報機器や映像・音楽のプレゼンテーションの手法に習熟すること。

●授業内容・授業計画

(1)イントロダクション、授業の進め方について
(2)映像と音楽の関係についての基礎的概念(イン、アウト、オフ)
(3)映像メディアにおける音の歴史
(4)映像と音の関係の実例(1)
(5)映像と音の関係の実例(2)
(6)映像と音の関係の実例(3)
(7)分析と検討
(8)ミュージカル映像
(9)映画の中の音楽
(10)ライブ映像
(11)ビデオクリップ
(12)音響効果
(13)CM映像と音
(14)インターネット動画
(15)まとめ

●事前・事後学習の内容

(事前学習)指示された文献を読んでおく。また発表を指示された履修者は調査を行い、発表準備をしておく。
(事後学習)授業での討議を踏まえて、映像と音の関係についての知見を整理しておく。

●評価方法

討議への参加度(20%)、発表内容(40%)、事後レポート(40%)の内容などを総合的に勘案して評価する。

●受講生へのコメント

映像と音楽それぞれを専門とする教員2名のコ・ティーチング形式により映像と音楽の関係を多面的に検討する演習であり、授業では多角的な見地からの討議がなされる。履修者も積極的に討議に参加するとともに、映像と音楽の関係について興味を惹かれる事例を各自で収集し、報告してもらうことが望まれる。
履修登録者多数の場合は、表現文化コースを優先して履修許可したうえで、他コースの履修者を抽選により選抜する。

●参考文献・教材

ミシェル・シオン『映画にとって音とは何か』(勁草書房)ほか、授業中で指示する。

授業科目名	科目NO.	LEART3208	授業コード	L241080010	
ポピュラー文化論演習 Seminar in Popular Culture			単位数	2 単位	
授業形態 演習	担当教員名 増田　聡				

●科目の主題

音楽をはじめとする現代文化・大衆文化を解釈するために必要となる理論体系として、記号論（記号学）に関する文献を講読し、内容の討議を通じてその体系的な知見を獲得する。

記号論は70年代から80年代にかけて世界的に「流行」した理論体系であり、現代の文化研究に決定的ともいえる強い影響を及ぼしているが、ディシプリンとして制度化されることがなかったため（少なくとも日本に「記号学部」「記号論学科」は存在しない）、そのブームが退潮したこんにち、学生が体系的にその知見を身につける機会は少ない。しかし、記号論の知見や概念枠に関する知識は、こんにちの現代文化研究やポピュラー文化研究、芸術研究の前提をなす「常識」であり、これらの領域の諸研究に触れる際に記号論の知見があるのとないのとでは理解の深度が根本的に異なってくる。本授業の履修により、履修者は記号論という「世界の新しい見方」を体系的に身につけることができるだろう。

●到達目標

記号論の概要、理論、研究の手法、概念枠を体系的に身につけ、自身の研究テーマに即して応用するために必要となる能力を獲得する。

●授業内容・授業計画

第1回：オリエンテーション
第2回：文献購読と討議
第3回：文献購読と討議
第4回：文献購読と討議
第5回：文献購読と討議
第6回：文献購読と討議
第7回：文献購読と討議
第8回：文献購読と討議
第9回：文献購読と討議
第10回：文献購読と討議
第11回：文献購読と討議
第12回：文献購読と討議
第13回：文献購読と討議
第14回：文献購読と討議
第15回：文献購読と討議、最終レポート提出
授業では適宜、基礎的な概念に関する口頭試問を行う。

●事前・事後学習の内容

事前学習：毎回提示されるテキストの該当箇所を事前に精読し、内容を把握するとともに該当箇所を要約し、要点および発展的な内容をまとめたレジュメを作成し疑問点をメモしておく（毎回全員がレジュメを作成し、当日の授業で発表者を決定する）。

事後学習：授業内の討議を踏まえて、テキストを再読し、理論的要点を把握する。

●評価方法

記号論の概要、理論、研究の方法論を身につけ、自身の研究テーマに即して応用するために必要となる能力を評価する。毎回のレジュメ作成課題と授業での報告や討議への貢献（70%）および最終レポート（30%）。現代文化を学術的に捉える視点を獲得し、記号論的な枠組みを用いつつ適切に説明できるようになることを合格の最低基準とする。

●受講生へのコメント

毎回のレジュメ作成が必要であり、さらにその中で必ず疑問点の質問が必須となる（質問がない場合はテキストの当該箇所を完全に理解しているとみなし、教員からの質問に答えることが義務となる）。授業はハードだが、現代文化研究を理解する上で必須の教養の一つとして記号論の体系的知見はいまだ有用であり、それをしっかりと身につけたい意欲的な学生の履修を期待したい。初回の授業には必ず出席すること。

●参考文献・教材

石田英敬『記号論講義：日常生活批判のためのレッスン』（ちくま学芸文庫）。テキストは必ず購入しておくこと。

また授業内容の理解に極めて資する参考文献として、内田樹『寝ながら学べる構造主義』（文春新書）を推薦しておく。

授業科目名	科目NO.	LEART3210	授業コード	L241100010	
テクスト文化論演習 Seminar in Text Culture				単位数	2 単位
授業形態	担当教員名				
演習	野末　紀之				

●科目の主題

文学テクストを読み、分析するさいの基本的な視点を、いくつかの作品を取上げながら身につける。

●到達目標

文学テクストを読み、分析するさいに応用できる基本的視点を身につけるようにすることが目標である。

●授業内容・授業計画

第1回:イントロダクション
第2回:作者の位置(1)
第3回:作者の位置(2)
第4回:視点(1)
第5回:視点(2)
第6回:物語の構造(1)
第7回:物語の構造(2)
第8回:階級・階層(1)
第9回:階級・階層(2)
第10回:教養(1)
第11回:教養(2)
第12回:空白と不確かさ(3)
第13回:空白と不確かさ(4)
第14回:質疑応答とまとめ
第15回:試験

●事前・事後学習の内容

事前学習(配布資料の内容理解)に2時間、事後学習(内容確認と問題点の整理)に1時間必要。

●評価方法

必要な出席回数を満たしたうえで、平常点(30%)、レポート(35%)、試験(35%)による。

●受講生へのコメント

さまざまな文学テクストを積極的に読んでほしい。

●参考文献・教材

プリントを配布する。

授業科目名	科目NO.	LEART3209	授業コード	L241090010	
比較表現論演習 Seminar in Comparative Representation			単位数	2 単位	
授業形態 演習	担当教員名 高島　葉子				

●科目の主題

「赤ずきん」のような元来伝承の物語であったおとぎ話は社会のイデオロギーの影響を受けて変化してきた。また、それは意図的に改変された結果でもある。ペローの「赤ずきん」、グリムの「赤帽子」には、製作当時のイデオロギーが反映されている。17世紀や19世紀のヨーロッパのイデオロギーの表出であるおとぎ話は、はたして現代においてどのような意味があるのか。「赤ずきん」には様々な作家によるパロディ作品が存在するが、そこにはどのような意図があるのか。こうした問題について考察する。

●到達目標

物語を社会との関係のなかで考察し、物語を批判的に読むための視点と姿勢を身につけるとともに、パロディ制作をとおして創造的思考、グループでの協同活動を通して計画性、協調性、リーダーシップ、そしてプレゼンテーション能力を養うことを目標とする。

●授業内容・授業計画

授業は基本的にグループワーク形式で行う。まず、「赤ずきん」に関する文献をグループごとにと担当を決め、レジュメを作成したうえで論点をまとめて報告する。次に、「赤ずきん」のパロディ作品を複数取り上げ、グループで作品について討論した後、口頭発表する。最後に、グループごとに「赤ずきん」のパロディ作品を作成し、発表する。（対面授業を予定しているが、状況によっては遠隔授業あるいは混合授業に変更する可能性もある。）

第1回 イントロダクション
第2回 文献の報告
第3回 文献の報告
第4回 文献の報告
第5回 文献の報告
第6回 文献報告
第7回 文献報告
第8回 パロディ作品の分析
第9回 パロディ作品の分析
第10回 パロディ作品の分析
第11回 パロディ作品制作
第12回 パロディ作品制作
第13回 パロディ作品制作
第14回 作品発表
第15回 総括

●事前・事後学習の内容

文献講読については、事前に文献を読み込み、事後に学んだ知識を復習することにより定着させ、それに基づいて考察を深める。パロディ作品の分析では、事前に作品を熟読し、グループでの討論後は各自で考察を深める。パロディ作品製作では、グループ内で分担して資料収集やアイデアのメモを作っておく、授業内で未解決な問題については持ち帰って考察する。

●評価方法

口頭発表30%、グループでの活動30%、学期末レポート60%。また発表時の討論参加などの平常点も加味する。

●受講生へのコメント

「赤ずきん」はよく知られた物語であるが、受講前にもう一度、グリム童話とペローの童話集を読んでおいて下さい。
授業はグループワークで行うので、遅刻や欠席はできるだけ謹み、積極的に討論に参加するようにしてほしい。

●参考文献・教材

授業中に適宜指示する。

授業科目名	科目NO.	LEART3303	授業コード	L241130010	
文化理論演習 Seminar in Culture Theory			単位数	2 単位	
授業形態 演習	担当教員名 増田　聡				

●科目の主題

表現文化研究の手法と方法論に関する基礎的文献購読とミニ論文作成を通して、文化理論に基づいた卒論執筆に必要となる各種能力を獲得する。表現文化研究における基礎的文献を講読しディスカッションするとともに、各自のテーマに従った先行研究調査・作品分析・テーマ発表を行い、ミニ論文の執筆を行う。

●到達目標

表現文化研究の手法と方法論に関する基礎的文献購読とミニ論文作成を通して、文化理論に基づいた卒論執筆に必要となる文献読解力、文献調査能力、学術的な執筆能力、適切な学術的対話能力を獲得する。

●授業内容・授業計画

第1回:オリエンテーション
第2回:文献要約1『動物化するポストモダン』1
第3回:文献要約2『動物化するポストモダン』2
第4回:文献要約3『不可能性の時代』1
第5回:文献要約4『不可能性の時代』2
第6回:ミニ論文テーマ作成およびそのための調査法
第7回:ミニ論文テーマ発表(1)
第8回:ミニ論文テーマ発表(2)
第9回:論文作成(1)アウトラインの作成
第10回:論文作成(2)序論と本論と結論
第11回:論文作成(3)引用の手法と書式
第12回:論文作成(4)全体の完成
第13回:論文作成(5)全体の修正
第14回:執筆論文の提出と購読、批評(1)
第15回:執筆論文の提出と購読、批評(2)、まとめ

●事前・事後学習の内容

第1回~第5回:(事前学習)教科書を熟読し、指示された分量での要約を作成する。(事後学習)授業での討議と指摘を踏まえて、自身の作成した要約の修正を行う。
第6回~第8回:(事前学習)自身のミニ論文テーマを案出するとともに、それに関連する文献を検索し、書誌リストを作成しておく。(事後学習)授業での討議と指摘を踏まえて、自身のテーマや書誌リストの修正を行う。
第9回~第13回:(事前学習)授業で行う作業の準備を行う。(事後学習)授業での討議と指摘を踏まえて、作成したものの修正を行う。
第14回 第15回:(事前学習)他の履修生の論文を読み、質問をリストアップしておく。(事後学習)授業での討議と指摘を踏まえて他の履修者の論文を再読するとともに、自身の論文の評価を行う。

●評価方法

文化理論に基づいた卒論執筆に必要となる文献読解力、文献調査能力、学術的な執筆能力、適切な学術的対話能力について評価を行う。各回の課題提出と授業での報告や討議への貢献(50%)、作成したミニ論文の内容(50%)により評価する。文献読解力、文献調査能力、学術的な執筆能力、適切な学術的対話能力を総合的に判断するが、上記について卒業論文執筆に必要な最低限度の能力を示すことが評価の最低基準となる。

●受講生へのコメント

本授業は表現文化コース三回生は必ず履修すること。また提出物は締め切り厳守のこと。

●参考文献・教材

以下の二冊を教科書として用いるので、授業開始前に各自入手しておくこと。東浩紀『動物化するポストモダン』(講談社現代新書)、大澤真幸『不可能性の時代』(岩波新書)。

その他の文献や資料については授業内で指示、あるいは 配布する。

授業科目名	科目NO.	LEART3203	授業コード	L241030010	
ポピュラー文化論 Lecture in Popular Culture			単位数	2 単位	
授業形態 講義	担当教員名 増田　聡				

●科目の主題

音楽をはじめとするポピュラー文化について、いくつかのトピックを通じて概要、理論、研究の方法論を講義する。特にポピュラー音楽の制作と受容、およびそれを媒介するメディア環境を対象とし、「音楽的主体」のあり方から生じる諸問題（メディア環境、産業構造と所有権意識、「送り手主体」の変容、ファン意識の流動化）の検討を通じ、こんにちのポピュラー文化にアプローチする際に留意すべき理論的・方法論的論点を具体例とともに提示する。

●到達目標

ポピュラー文化への学術的アプローチに必要となる「対象の捉え方」を獲得し、研究に必要な基礎的な視座を身につけるとともに、現代ポピュラー文化表現の特徴をメディア環境の変化との関連で説明することができるようになる。

●授業内容・授業計画

第1回：オリエンテーション：「ポピュラー」とは何か
第2回：ウォークマン：「文化表現」を共有すること
第3回：アーティスト：ブランド、キャラ、主体
第4回：音楽的主体の複層性と可変性
第5回：演奏リアリズム概念とその相対化
第6回：虚構キャラクターの「実体化」とアイドルの「虚構化」
第7回：映像と音楽：ビデオクリップ小史（1）
第8回：映像と音楽：ビデオクリップ小史（2）
第9回：映像と音楽：ビデオクリップ小史（3）
第10回：ポピュラー文化と所有権意識：パクリと盗作
第11回：copyrightと著作権：産業と文化
第12回：文化表現の複製と再生産
第13回：「複製の普遍化」に伴うポピュラー文化の拡散
第14回：ポピュラー文化表現の学術的アプローチの諸相
第15回：まとめ

●事前・事後学習の内容

事前学習：毎回の授業内容に応じて参考文献を読み、疑問点をメモしておく。
事後学習：授業で言及した人名・グループ名や作品名などの固有名詞、あるいは音楽ジャンル名などについて、wikipediaなどのウェブ上のリソースも用いながら背景知識を補足しておくほか、YouTubeなどを用いて関連する楽曲や動画などを視聴しておくこと。

●評価方法

期末レポート（70%）および授業時に実施するミニレポート（30%）によって評価する。ポピュラー文化への学術的アプローチの基礎を身につけ、自身の関心を持つポピュラー文化表現に即して説明できること、および現代ポピュラー文化表現の特徴をメディア環境の変化との関連で説明できることを基準とする。

●受講生へのコメント

とくになし。

●参考文献・教材

増田聡『聴衆をつくる』（青土社）、増田聡・谷口文和『音楽未来形』（洋泉社）、柴那典『ヒットの崩壊』（講談社現代新書）ほか、授業内で指示する。

授業科目名	科目NO.	LEART3305	授業コード	L241150010	
表象文化特論 Specific Lecture in Culture and Representation			単位数	2 単位	
授業形態 講義	担当教員名 山中　千恵				

●科目の主題

本授業では、主に日本で発展してきたマンガというメディアの特性とそれが生み出す文化について考察する。マンガ史、マンガ産業論、表現論などのマンガ・コミックス研究の成果を整理し、社会学的な観点も踏まえつつ、マンガ文化について理解していくこととする。

●到達目標

マンガ研究の基本的理論を理解し、研究を行う上で必要な知識を習得する。

●授業内容・授業計画

基本対面とするが遠隔も取り入れる場合がある。

第1回　イントロダクション：授業スケジュールと注意事項を確認し，この授業での到達目標や身につく力についての説明を行なう。また，この授業で扱う「マンガ研究」の特性について，簡単に学習する。さらに，事前・事後学習として使う書籍等についても説明する。

第2回～3回マンガの歴史：マンガはいかに社会的に位置づけられてきたのか。言説および産業構造からこれを考察する。

第4回～7回マンガ表現論：マンガ表現論の議論及び、役割語の議論に基づきマンガ表現の特質について考察する。

第8回マンガと教育：学習マンガをとりあげ、その歴史とイデオロギーについて考察する。

第9回マンガと戦争の記憶：戦争・災害を描くマンガをとりあげ、リアリティとマンガ表現の関係について考察する。

第10回　少女マンガ：少女マンガの歴史を確認し、その特徴を考察する。

第11回～14回（京都国際マンガミュージアムでの授業）　マンガとミュージアム：マンガの展示やマンガとミュージアムの関係について考察する。

第15回授業のまとめ

●事前・事後学習の内容

各授業回に以下の事前事後学習を行うこと。

［事前学習］大学の授業支援システムWebClassにアクセスし、配付プリント等を印刷・参照し、授業内容を理解しておく。

［事後学習］配布プリントを読み返し、学んだ内容に関連する参考資料にあたって理解を深めるとともに、新しく学んだ語彙や概念を要約し、自分なりに説明できるようにしておく。

●評価方法

平常点（授業時レポート・小テストなど）100％

●受講生へのコメント

集中講義最終日は京都国際マンガミュージアムでの学外実習を行います。

●参考文献・教材

授業中に指示・配布

授業科目名	科目NO.	LEART3211	授業コード	L241140010	
表現文化特論 Specific Lecture in Art and Representation			単位数	2 単位	
授業形態 講義	担当教員名 木村　覚				

●科目の主題

笑いを哲学的に考察することが本科目の主題である。その際に、「パフォーマンスとしての笑い」にフォーカスし、笑いを表現の問題として取り扱い、ときにダンスのような他のパフォーマンス表現との違いにも視点を向けながら考察してゆく。笑いはこれまで西洋の哲学者たちによって様々に論じられてきた。とくに際立ったものとしては、三つあげられる。優越の理論、不一致の理論、ユーモアの理論である。本講義では、それらを一つずつ取り上げながら、漫才、コント、モノマネなどの具体的事例に照らし合わせつつ、研究を深めてゆく。そこでは、それら具体的事例に対する批評的視点も求めることになるだろう。

●到達目標

笑いという身近なテーマにアクセスしながら、哲学的な考察が展開できるようにする。現象とそれに対する思考とをダイナミックに往還しながら考える力を身につける。最終的に、各自が哲学的知見を得ながら、各自の笑い論が展開できるようになることを目指す。

●授業内容・授業計画

本講義は対面で行う（予定）

1. イントロダクション
2. 美しいとかわいいと滑稽
3. ホラーと滑稽
4. 優越の理論（1）ホッブズの議論
5. 優越の理論（2）ベルクソンの議論（ダンスとお笑いの違い）
6. 優越の理論（3）笑われたいという気持ちをめぐって
7. 不一致の理論（1）機知について（ナイツとサンドウィッチマン）
8. 不一致の理論（2）シニフィアン／シニフィエあるいは物真似論
9. 不一致の理論（3）カントの笑い論
10. 不一致の理論（4）フロイトの機知論とシュールな笑い
11. ユーモアの理論（1）ユーモアの定義
12. ユーモアの理論（2）ユーモアの事例
13. ユーモアの理論（3）ユーモアのある社会に向けて
14. 笑いと社会（まとめ）

●事前・事後学習の内容

事前にまた事後に、教材となる『笑いの哲学』を読んでおくことを勧める。

●評価方法

4回程度の小レポート（100%）

主として授業の理解と授業で紹介した問題を自分の問題として捉え応用する力を評価します。

●受講生へのコメント

研究対象は身近なものですけれども、それをどこまで深度をもって思考できるか、みなさんと試してみたいです。

●参考文献・教材

木村覚『笑いの哲学』（講談社、2020年）

授業科目名	科目NO.	LEART3302	授業コード	L241120010	
表現文化論特殊演習Ⅱ Advanced Seminar in Culture and Representation Ⅱ			単位数	2 単位	
授業形態 演習	担当教員名 江村　公				

●科目の主題

1920年代の芸術と文化

本授業は1920年代の芸術表現について考察する。20年代とは、歴史的には第一次世界大戦が終結し、ロシアは戦時共産主義から新経済政策へと移行、日本では関東大震災が起き、アジアもまた終戦の影響とともに、植民地主義が強化された時代でもあった。くわえて、1918年から世界的に猛威をふるったスペインかぜが終息することで、パンデミック後の束の間の解放感を味わった時代だったと考えてみれば、この時代について知ることは、私たちが今おかれた状況を枠付け直す手がかりとなるかもしれない。では、現在からするとほぼ100年前にあたるこの時代には、どのような新しい表現や芸術作品が生み出されたのだろうか？

この授業の目的は、主にヨーロッパ、ロシア、日本における1920年代に注目し、それぞれの地域の文化を比較検討しつつ、社会と芸術作品の結びつきを理解し、広い意味での表現の分析から「近代」を現代的な視点から再考することである。演習として、まず、ペアもしくはグループワークにより上記の地域の歴史や文化について報告してもらうことで理解を深め、比較文化的な視点から捉え直す。その上で、最終的には、参加者それぞれがこの時代に生み出された事象や表現について調査・発表を行ない（どのようなジャンルでも可）、その意義を発見することを目指している。

●到達目標

・20世紀初頭の芸術の様式とそれが担っている歴史的コンテクストを理解できるようになる。
・比較文化的な視点を学び、異文化についての関心、他者への理解を深める。
・社会・文化と芸術表現の結びつきを意識しつつ、広い視野から解釈を行えるようになる。
・発表やレポート作成をとおして、自身の考えを論理的かつ明快に表現できる能力を養う。

●授業内容・授業計画

本授業は基本的には対面で行なう予定である。

1.はじめに（授業の概要説明）
2.前史
3.ペアもしくはグループ発表（西ヨーロッパ・東ヨーロッパ・ロシア）
4.ペアもしくはグループ発表（アメリカ）
5.ペアもしくはグループ発表（アジア・日本）
6.1920年代の芸術表現1
7.1920年代の芸術表現2
8.1920年代の芸術表現3
9.1920年代の芸術表現4
10.個人での発表
11.個人での発表
12.個人での発表
13.個人での発表
14.フィードバックとまとめ

●事前・事後学習の内容

履修者は前半のペアもしくはグループ発表、および後半の個人での発表が義務付けられるため、事前の学習に相当時間を費やすことが必要となる。また、全員が指定された課題に取り組み、議論に参加できるよう準備すること。

●評価方法

前半の発表（授業参加度含む）30%。後半の個人発表（授業参加度含む）30%。個人発表を基にして作成する学期末レポート40%。
単位取得のためには、履修者は前半の発表、後半の発表、レポート提出、この三つを必ずこなす必要がある。

●受講生へのコメント

授業計画は現時点でものであり、実際の履修者人数によって若干変更する可能性がある。

●参考文献・教材

参考文献については授業中に指示する。

授業科目名	科目NO.	LCART3211	授業コード	L236180010	
表現文化講読Ⅲ Reading in Art and RepresentationⅢ				単位数	2 単位
授業形態 演習	担当教員名 増田　聡				

●科目の主題

視聴覚文化論の展開においては昨今、聴覚研究の領域においての進展がめざましい。この授業では聴覚文化論・音響メディア論を代表する諸研究を綿密に読解することで、こんにちの聴覚文化論の理論的な動向とその方法論を身につけることを目指す。おもにジョナサン・スターン『聞こえくる過去』(インスクリプト)を中心に、関連する日本語および英語の諸文献を履修者による自発的な調査によって収集・読解する。授業は大変厳しくハードなものとなるので、履修の決断は十分な覚悟をもって行うこと。

●到達目標

聴覚文化論・音響メディア論のこんにちの理論的知見を高度な水準で身につけ、自身のテーマに応じて自在に適用することができるようになること。

●授業内容・授業計画

(1)イントロダクション
(2)文献購読(スターン『聞こえくる過去』まえがき)
(3)文献購読(スターン『聞こえくる過去』第1章)
(4)文献購読(スターン『聞こえくる過去』第2章)
(5)文献購読(スターン『聞こえくる過去』第3章)
(6)文献購読(スターン『聞こえくる過去』第4章)
(7)文献購読(スターン『聞こえくる過去』第5章)
(8)文献購読(スターン『聞こえくる過去』第6章)
(9)文献購読(スターン『聞こえくる過去』あとがき)
(10)履修者による文献調査結果報告および中間試験
(11)履修者による聴覚文化論動向報告
(12)文献購読(履修者による調査文献(英語))
(13)文献購読(履修者による調査文献(日本語))
(14)履修者による自身のテーマとの関連に関する報告
(15)まとめおよび学期末試験
履修者の理解深度に応じて授業計画は変更されることもある。

●事前・事後学習の内容

(1)～(9)は指定された文献に詳細に目を通し、詳細なノートを作成するとともに、言及された引用文献の原文の所在を確認しておくこと。また事後には授業時の討議を踏まえて、自身の理解を再確認し、事後ノートの作成を行うこと。また中間試験に備えて課題文献の理解を進めておくこと。

(10)～(15)は基本的に履修者自身による能動的な授業となるので、聴覚文化論に関する専門的文献を調査し詳細な文献リストを作成するとともにそれを読み込み、聴覚文化論の理論動向について自身のテーマとの関連において位置付けることができるような自主学習を精力的に進めておくこと。事後には授業の討議を踏まえた文献ノートを作成し、毎回の提出が義務となる。

●評価方法

授業における報告、講読の際の理解の水準、毎回の課題の提出状況、および積極的な学習姿勢、さらに中間試験、学期末の試験などを総合的に勘案しつつ厳格に評価する。

●受講生へのコメント

聴覚文化論に関する非常に高度な水準での理解と自主的な文献調査が求められるので、不足単位取得を第一の目的とした履修は

おすすめしない。中間試験、期末試験のほか、毎回の課題はかなりの負担となり、不十分な課題の提出には水準に達するまで再提出が必要となる。聴覚文化論の理論水準を身につけたい学生の履修のみを希望する。履修者の学習意欲が感じられない場合には履修中止を求める場合もあるので、知的関心と学術的な向上心を伴った学生以外の履修は歓迎しない。

●参考文献・教材

ジョナサン・スターン『聞こえくる過去』(インスクリプト)。高価な専門研究書であるが聴覚文化論の重要文献であり、履修者が購入していることを前提として授業は進められる。その他、履修者による文献調査に伴って必要な文献は増大するが、それについては授業内で指示する。

授業科目名	科目NO.	LEART3201	授業コード	L241010010	
文化理論 Lecture in Culture Theory			単位数	2 単位	
授業形態 講義	担当教員名 高島　葉子				

●科目の主題

19 世紀以後、社会の産業化、都市化が進み民衆あるいは一般大衆の文化のあり方は大きく変わった。かつての村落共同体での「民衆文化」は衰退し、大量生産の産業技術とマス・メディアの発達が新たな形の「大衆文化」をもたらした。19世紀以降の「文化」が、どのように理解され、研究されてきたか、文化研究理論の変遷をたどりながら、おもに「大衆文化」がどうとらえられてきたかを重要な観点として概観する。その際、大衆文化と道徳秩序、道徳的価値の関係も関心の一つとなる。

●到達目標

文化に関する理論や理論間の対立、継承、発展を理解することにより、 表現文化研究の歴史と視点を把握するともに、表現文化を研究する意義と方法を自ら思考する姿勢を身に着ける。

●授業内容・授業計画

主要な理論、学説を取上げて講義する。講義内容は状況によって変更する場合もある。 受講者数に応じて、 演習形式も取り入れる。（対面授業を予定しているが、状況によってはリモート授業あるいは混合授業になる可能性もある。）

第1回 イントロダクション:「文化」、「大衆文化」とはなにか
第2回　19 世紀の文化論 （1）:アーノルド、リーヴィス
第3回　19 世紀の文化論 （2）:大衆文化批判
第4回　文化主義： ホガード、レイモンド
第5回　現代文化研究所とカルチュラル・スタディーズ
第6回　フランクフルト学派（1）:アドルノ、ホルクハイマー
第7回　フランクフルト学派（2）:ベンヤミン
第8回　 古典的マルクス主義
第9回　 マルクス主義文化論： アルテュセール、グラムシ
第10回　構造主義： レヴィ―ストロース
第11回　記号論： バルト
第12回　ポスト構造主義： フーコー
第13回　フェミニズムとポストフェミニズム
第14回　大衆文化と全体主義
第15回　 総括

●事前・事後学習の内容

事前学習:授業前に指示する。 事後学習:授業中に配布された資料を基に講義内容を復習する。

●評価方法

平常点20%、小レポート30%、期末試験50%で評価する。

●受講生へのコメント

講義形式だが、講義の内容の理解のためには、能動的な学習態度が求められる。

●参考文献・教材

John Storey (ed.), Cultural Theory and Popular Culture: An Introduction, 9th ed. (Routledge, 2018); John Storey (ed.), Cultural Theory and Popular Culture: A Reader, 4th ed. (Routledge, 2008). 授業中に適宜 指示する。 資料（英文、 和文） を配布する。

授業科目名	科目NO.	LEART3202	授業コード	L241020010	
表象文化論 Lecture in Art and Representation			単位数	2 単位	
授業形態 講義	担当教員名 海老根 剛				

●科目の主題

本講義のねらいは、映像作品の考察のための基礎作りです。対象としては実写映画とアニメーション、および近年のデジタル映像を扱います。考察される作品は映画が中心になりますが、映画以外の動画表現の分析にも不可欠な映像リテラシーの習得に役立つはずです。

●到達目標

この講義では、みなさんに多くの作品に触れてもらい、映像作品を考察するための言葉を獲得してもらうことが目標です。したがって、受講者の積極的な参加が求められます。なお第1回目の授業の前に見ておいてもらう映画作品をポータルサイトで伝えますので、受講者は必ず対象作品を見たうえで授業に参加してください。

●授業内容・授業計画

毎回、いくつかの作品から特定の場面を選んで上映し、その場面の特徴やそこで用いられている技法を考察しながら、映画表現の多様な側面に光を当てていきます。またそれらの考察を通して、映画の分析に不可欠な基礎概念の導入も行います。

第1回 イントロダクション
第2回 映画と運動 (1)
第3回 映画と運動 (2)
第4回 映画と空間 (1)
第5回 映画と空間 (2)
第6回 映画と時間 (1)
第7回 映画と時間 (2)
第8回 映画における声と身体～ミュージカル映画(1)
第9回 映画における声と身体～ミュージカル映画(2)
第 10 回 アニメーション表現の諸特徴
第 11 回 アニメーションとデジタル映像(1)
第 12 回 アニメーションとデジタル映像(2)
第 13 回 映画的身体の系譜と変容(1)
第 14 回 映画的身体の系譜と変容(2)

●事前・事後学習の内容

受講者は実際に映画作品を見て、分析的な観点から映画表現を考察するレッスンを重ねることが望ましい。

●評価方法

中間レポートと期末レポートで評価する。

●受講生へのコメント

使用教室の制限上、受講希望者多数の場合には履修制限を行う。その場合、表現文化コースの学生を優先したうえで、 残りについて抽選を行う。

またこの授業では Microsoft Teams および Microsoft Forms を利用する。使用方法は初回の授業で説明する。

●参考文献・教材

適宜、プリントを配布する。

授業科目名	科目NO.	LEART3203	授業コード	L241030010	
ポピュラー文化論 Lecture in Popular Culture			単位数	2 単位	
授業形態 講義	担当教員名 増田　聡				

●科目の主題

音楽をはじめとするポピュラー文化について、いくつかのトピックを通じて概要、理論、研究の方法論を講義する。特にポピュラー音楽の制作と受容、およびそれを媒介するメディア環境を対象とし、「音楽的主体」のあり方から生じる諸問題（メディア環境、産業構造と所有権意識、「送り手主体」の変容、ファン意識の流動化）の検討を通じ、こんにちのポピュラー文化にアプローチする際に留意すべき理論的・方法論的論点を具体例とともに提示する。

●到達目標

ポピュラー文化への学術的アプローチに必要となる「対象の捉え方」を獲得し、研究に必要な基礎的な視座を身につけるとともに、現代ポピュラー文化表現の特徴をメディア環境の変化との関連で説明することができるようになる。

●授業内容・授業計画

第1回：オリエンテーション：「ポピュラー」とは何か
第2回：ウォークマン：「文化表現」を共有すること
第3回：アーティスト：ブランド、キャラ、主体
第4回：音楽的主体の複層性と可変性
第5回：演奏リアリズム概念とその相対化
第6回：虚構キャラクターの「実体化」とアイドルの「虚構化」
第7回：映像と音楽：ビデオクリップ小史（1）
第8回：映像と音楽：ビデオクリップ小史（2）
第9回：映像と音楽：ビデオクリップ小史（3）
第10回：ポピュラー文化と所有権意識：パクリと盗作
第11回：copyrightと著作権：産業と文化
第12回：文化表現の複製と再生産
第13回：「複製の普遍化」に伴うポピュラー文化の拡散
第14回：ポピュラー文化表現の学術的アプローチの諸相
第15回：まとめ

●事前・事後学習の内容

事前学習：毎回の授業内容に応じて参考文献を読み、疑問点をメモしておく。
事後学習：授業で言及した人名・グループ名や作品名などの固有名詞、あるいは音楽ジャンル名などについて、wikipediaなどのウェブ上のリソースも用いながら背景知識を補足しておくほか、YouTubeなどを用いて関連する楽曲や動画などを視聴しておくこと。

●評価方法

期末レポート（70%）および授業時に実施するミニレポート（30%）によって評価する。ポピュラー文化への学術的アプローチの基礎を身につけ、自身の関心を持つポピュラー文化表現に即して説明できること、および現代ポピュラー文化表現の特徴をメディア環境の変化との関連で説明できることを基準とする。

●受講生へのコメント

とくになし。

●参考文献・教材

増田聡『聴衆をつくる』（青土社）、増田聡・谷口文和『音楽未来形』（洋泉社）、柴那典『ヒットの崩壊』（講談社現代新書）ほか、授業内で指示する。

授業科目名	科目NO.	LEART3204	授業コード	L241040010	
比較表現論 Lecture in Comparative Representation			単位数	2 単位	
授業形態	担当教員名				
講義	高島　葉子				

●科目の主題

民話の比較研究に関する概説と理論、方法について講義する。対面授業を予定しているが、状況によってはリモート授業あるいは混合になる可能性もある。

●到達目標

話型やモチーフなどの民間説話（神話を含む）の基本事項および国際性、地域性について学ぶとともに、民間説話（神話を含む） 研究のための理論と方法の知識を得ることを目標とする。

●授業内容・授業計画

第1回：導入：民話とは何か
第2回：民話の特徴（リューティー理論）
第3回：民話の国際話型(1)「シンデレラ」
第4回：民話の国際話型(2)「小人の贈り物 / 瘤取り爺さん」
第5回：民話の国際話型(3)「白鳥乙女 / 天人女房」
第6回：民話の国際話型(4)「援助者の名前」
第7回：民話の地域性(1) アイヌの民話
第8回：民話の地域性(2) 民話による比較文化
第9回：民話研究の理論(1) 民話の起源と伝播
第10回：民話研究の理論(2) 形態学（構造論）：プロップ
第11回：民話研究の理論(3)形態学（構造論）：ダンダス
第12回：民話研究の理論(4) 精神分析的解釈：フロイト、ユング
第13回：民話研究の理論(5) 社会学的アプローチ（イデオロギー的分析）：ザイプス
第14回：民話研究の理論(6) 世界神話学：ヴィッツェル
第15回：期末試験

●事前・事後学習の内容

事前学習：授業前に指示する。 事後学習：授業中に配布された資料を基に講義内容を復習する。

●評価方法

平常点30%、期末試験70%で評価する。

●受講生へのコメント

予め、グリム童話、日本、イギリス、フランス、ロシアの代表的な民話を読んでおく必要がある。

●参考文献・教材

教材 授業中に指示する。

授業科目名	科目NO.	LEART3205	授業コード	L241050010	
テクスト文化論 Lecture in Text Culture				単位数	2 単位
授業形態 講義	担当教員名 野末　紀之				

●科目の主題

西欧の前衛的な芸術運動の影響を受けて、日本の1920～30年代の文学テクストで流行したもののひとつに、「機械」を題材とするものがある。横光利一の「機械」(1930)がよく知られている。それらは、大都市および資本主義のメカニズム、人々の感覚知覚の急激な変容をとらえ、また表現するための実験的な試みであった。それらの内実を現代の視点からあらためて考察する。

●到達目標

当該テーマが現代の文化現象や作品を考察するさいに有益な知見や視点を獲得することが目標である。

●授業内容・授業計画

第1回: イントロダクション
第2回: 機械と文学
第3回: 機械の映画
第3回: ロボット、人造人間(1)
第4回: ロボット、人造人間(2)
第5回: ロボット、人造人間(3)
第6回: 機械と労働者(1)
第7回: 機械と労働者(2)
第8回: 機械と労働者(3)
第9回: 機械のエロス(1)
第10回:機械のエロス(2)
第11回: 機械のエロス(3)
第12回: 機械と都市生活(1)
第13回: 機械と都市生活(2)
第14回: まとめ
第15回: 試験

●事前・事後学習の内容

配布資料の読解に2時間の事前学習、問題点の整理と考察に1時間の事後学習が必要。

●評価方法

必要な出席回数を満たしたうえで、平常点(30%)、レポート(35%)、試験(35%)による。

●受講生へのコメント

テーマにかかわる文学テクストをみずから積極的に読んでほしい。

●参考文献・教材

テクストのいくつかは、海野弘編『モダン都市文学VI　機械のメトロポリス』(平凡社、1990)所収のものをプリントにして配布する。参考文献は適宜指示する。

授業科目名	科目NO.	LEART3206	授業コード	L241060010	
表現文化論基礎演習 Basic Seminar in Art and Representation			単位数	2 単位	
授業形態	担当教員名				
演習	海老根 剛／江村 公				

●科目の主題

(1)作品分析の基礎を学ぶ。特定の方法論や理論にもとづく分析の一歩手前にとどまり、ひとつの具体的な対象としての作品と向き合い、それを構成している表現の特徴や構造を具体的に把握し、考察するレッスンを行う。作品は私たちの前に、ひとつの触知可能なまとまりとして、たとえば書かれた言葉(小説、エッセイ)、描かれた線と記号(マンガ)、 俳優の身体と声(演劇)、静止した光と影(写真)、明滅する映像の連なり(映画)として与えられています。この授業では、そのような触知可能なまとまりとしての作品がどのように形作られており、どのような動き、出来事がそこに生起しているのかを明らかにするとともに、それを言葉によって記述するレッスンを行います。

(2)文献調査、画像編集にもとづく簡潔なプレゼンテーションを作成し、発表するレッスンを行う。口頭発表における補助資料の位置づけ正しくを理解し、プレゼンテーション用ソフトウェアの欠点と利点を把握した上で、効果的な発表資料を作成する技術を学習する。

●到達目標

(1)自分が感じたことを手がかりに論理的に思考することを学ぶ。(2)口頭発表の方法と技術的補助手段の使用法を学ぶ。

●授業内容・授業計画

今回の授業では、マンガ、小説、絵画、写真、映画、演劇、現代美術を扱う。それぞれのジャンルについて、指定された作品の分析を行う。また学期末には作品分析の口頭発表を受講者全員にしてもらう。

第1回 イントロダクション
第2回 マンガ分析
第3回 小説分析
第4回 絵画分析
第5回 映画作品上映
第6回 映画作品分析
第7回 演劇作品上映
第8回 演劇作品分析
第9回 写真分析
第10回 現代美術作品上映
第11回 現代美術作品分析
第12回 プレゼンテーション入門
第13回 口頭発表(1)
第14回 口頭発表(2)

●事前・事後学習の内容

授業開始前に授業で取り扱う課題に関する資料を Microsoft Teams に掲載する。Teams の使用方法は初回の授業で説明する。
必ず事前に内容を確認し、それに関した小レポートを締め切りまでに提出する。授業終了後は添削された小レポートを確認して、理解・分析の問題点を整理しておく。

●評価方法

6回のレポートと口頭発表で評価する。

●受講生へのコメント

この授業は表現文化コースに新たに進学した2回生向けの授業です。他コースの学生は受講できません。

●参考文献・教材

作品資料は授業内で配布する。

授業科目名	科目NO.	LEART3207	授業コード	L241070010	
表象文化論演習 Seminar in Culture and Representation			単位数	2 単位	
授業形態 演習	担当教員名 海老根　剛				

●科目の主題

この授業では、毎回、一本の映画作品から特定の場面を選び出し、その場面がどのような仕方で構成されているのかを具体的に考察します。関連する二次文献も参照しながら、場面の構成、映画全体の中での位置づけ、物語上の機能、表現上の特徴、細部の照応関係などに注目し、場面分析を掘り下げていきます。また映画とアニメーションの基本文献の講読も行います。

●到達目標

映画作品の研究の基礎を学びます。映像、音響、ショット、モンタージュ、コンポジティング、演出などの観点から、多様な映画作品を柔軟に分析する方法を学びます。二次文献をも参照しつつ、映像と音響の具体的分析に基づいて映像作品を考察し、議論する基礎的なスキルを身につけます。また必ずしも最終的なコンセンサスを志向しないオープンかつフラットな議論を通して、共同で作品を考察するレッスンも行います。

●授業内容・授業計画

この授業では、まず映画を1本まるごと上映し、その後、指定した場面について発表とディスカッションを行います。また映画とアニメーションの基礎文献の購読を行います。実写映画3本、アニメーション映画2本を取り上げる予定です。

第1回　　イントロダクション
第2回　　映画分析の基礎概念
第3回　　映画論の講読
第4回　　映画上映（1）
第5回　　場面分析（1）
第6回　　映画上映（2）
第7回　　場面分析（2）
第8回　　映画上映（3）
第9回　　場面分析（3）
第10回　アニメーション映画論の講読
第11回　　映画上映（4）
第12回　　場面分析（4）
第13回　　映画上映（5）
第14回　　場面分析（5）

●事前・事後学習の内容

受講者は毎週配布される関連文献を読んだうえで授業に参加すること。

●評価方法

単位取得の条件は、発表を担当することです。作品分析の発表者には事前に作品のDVD（ストリーミングの場合もある）および関連二次文献を配布します。発表者はこれらの資料にもとづいて指定された場面の分析を行います。期末レポートを課さないので、入念な準備をして発表することが求められます。

●受講生へのコメント

(1)この授業は、受講者が映画表現について最低限の知識も持ち、映画を考察するための基礎概念を学んでいることを前提しています。したがって、2020年度前期開講または2021年度前期開講の「表象文化論」（担当：海老根剛）を受講し、単位取得していることを受講の条件とします。

(2)作品上映の授業日は、作品の長さによって規定の授業時間を超過する可能性があります（その場合には、お昼休みの時間から上

映を行います)。このことを了解のうえ受講のこと。

(3)受講者全員に発表を担当してもらうため、受講希望者多数の場合には、表現文化コースの学生を優先したうえで、抽選を行います。

(4)積極的に議論に参加する意欲のある学生のみ受講すること。

(5) 授業では Microsoft Teams を利用する。使用方法は初回の授業時に説明する。

●参考文献・教材

適宜、配布する。

授業科目名	科目NO.	LEART3208	授業コード	L241080010	
ポピュラー文化論演習 Seminar in Popular Culture			単位数	2 単位	
授業形態 演習	担当教員名 増田　聡				

●科目の主題

音楽をはじめとする現代文化・大衆文化を解釈するために必要となる理論体系として、記号論（記号学）に関する文献を講読し、内容の討議を通じてその体系的な知見を獲得する。

記号論は70年代から80年代にかけて世界的に「流行」した理論体系であり、現代の文化研究に決定的ともいえる強い影響を及ぼしているが、ディシプリンとして制度化されることがなかったため（少なくとも日本に「記号学部」「記号論学科」は存在しない）、そのブームが退潮したこんにち、学生が体系的にその知見を身につける機会は少ない。しかし、記号論の知見や概念枠に関する知識は、こんにちの現代文化研究やポピュラー文化研究、芸術研究の前提をなす「常識」であり、これらの領域の諸研究に触れる際に記号論の知見があるのとないのとでは理解の深度が根本的に異なってくる。本授業の履修により、履修者は記号論という「世界の新しい見方」を体系的に身につけることができるだろう。

●到達目標

記号論の概要、理論、研究の手法、概念枠を体系的に身につけ、自身の研究テーマに即して応用するために必要となる能力を獲得する。

●授業内容・授業計画

第1回：オリエンテーション
第2回：文献購読と討議
第3回：文献購読と討議
第4回：文献購読と討議
第5回：文献購読と討議
第6回：文献購読と討議
第7回：文献購読と討議
第8回：文献購読と討議
第9回：文献購読と討議
第10回：文献購読と討議
第11回：文献購読と討議
第12回：文献購読と討議
第13回：文献購読と討議
第14回：文献購読と討議
第15回：文献購読と討議、最終レポート提出
授業では適宜、基礎的な概念に関する口頭試問を行う。

●事前・事後学習の内容

事前学習：毎回提示されるテキストの該当箇所を事前に精読し、内容を把握するとともに該当箇所を要約し、要点および発展的な内容をまとめたレジュメを作成し疑問点をメモしておく（毎回全員がレジュメを作成し、当日の授業で発表者を決定する）。

事後学習：授業内の討議を踏まえて、テキストを再読し、理論的要点を把握する。

●評価方法

記号論の概要、理論、研究の方法論を身につけ、自身の研究テーマに即して応用するために必要となる能力を評価する。毎回のレジュメ作成課題と授業での報告や討議への貢献（70%）および最終レポート（30%）。現代文化を学術的に捉える視点を獲得し、記号論的な枠組みを用いつつ適切に説明できるようになることを合格の最低基準とする。

●受講生へのコメント

毎回のレジュメ作成が必要であり、さらにその中で必ず疑問点の質問が必須となる（質問がない場合はテキストの当該箇所を完全に理解しているとみなし、教員からの質問に答えることが義務となる）。授業はハードだが、現代文化研究を理解する上で必須の教養の一つとして記号論の体系的知見はいまだ有用であり、それをしっかりと身につけたい意欲的な学生の履修を期待したい。初回の授業には必ず出席すること。

●参考文献・教材

石田英敬『記号論講義：日常生活批判のためのレッスン』（ちくま学芸文庫）。テキストは必ず購入しておくこと。

また授業内容の理解に極めて資する参考文献として、内田樹『寝ながら学べる構造主義』（文春新書）を推薦しておく。

授業科目名	科目NO.	LEART3209	授業コード	L241090010	
比較表現論演習 Seminar in Comparative Representation			単位数	2 単位	
授業形態 演習	担当教員名 高島　葉子				

●科目の主題

「赤ずきん」のような元来伝承の物語であったおとぎ話は社会のイデオロギーの影響を受けて変化してきた。また、それは意図的に改変された結果でもある。ペローの「赤ずきん」、グリムの「赤帽子」には、製作当時のイデオロギーが反映されている。17世紀や19世紀のヨーロッパのイデオロギーの表出であるおとぎ話は、はたして現代においてどのような意味があるのか。「赤ずきん」には様々な作家によるパロディ作品が存在するが、そこにはどのような意図があるのか。こうした問題について考察する。

●到達目標

物語を社会との関係のなかで考察し、物語を批判的に読むための視点と姿勢を身につけるとともに、パロディ制作をとおして創造的思考、グループでの協同活動を通して計画性、協調性、リーダーシップ、そしてプレゼンテーション能力を養うことを目標とする。

●授業内容・授業計画

授業は基本的にグループワーク形式で行う。まず、「赤ずきん」に関する文献をグループごとにと担当を決め、レジュメを作成したうえで論点をまとめて報告する。次に、「赤ずきん」のパロディ作品を複数取り上げ、グループで作品について討論した後、口頭発表する。最後に、グループごとに「赤ずきん」のパロディ作品を作成し、発表する。（対面授業を予定しているが、状況によっては遠隔授業あるいは混合授業に変更する可能性もある。）

第1回 イントロダクション
第2回 文献の報告
第3回 文献の報告
第4回 文献の報告
第5回 文献の報告
第6回 文献報告
第7回 文献報告
第8回 パロディ作品の分析
第9回 パロディ作品の分析
第10回 パロディ作品の分析
第11回 パロディ作品制作
第12回 パロディ作品制作
第13回 パロディ作品制作
第14回 作品発表
第15回 総括

●事前・事後学習の内容

文献講読については、事前に文献を読み込み、事後に学んだ知識を復習することにより定着させ、それに基づいて考察を深める。パロディ作品の分析では、事前に作品を熟読し、グループでの討論後は各自で考察を深める。パロディ作品製作では、グループ内で分担して資料収集やアイデアのメモを作っておく、授業内で未解決な問題については持ち帰って考察する。

●評価方法

口頭発表30%、グループでの活動30%、学期末レポート60%。また発表時の討論参加などの平常点も加味する。

●受講生へのコメント

「赤ずきん」はよく知られた物語であるが、受講前にもう一度、グリム童話とペローの童話集を読んでおいて下さい。
授業はグループワークで行うので、遅刻や欠席はできるだけ謹み、積極的に討論に参加するようにしてほしい。

●参考文献・教材

授業中に適宜指示する。

授業科目名	科目NO.	LEART3210	授業コード	L241100010	
テクスト文化論演習 Seminar in Text Culture				単位数	2 単位
授業形態	担当教員名				
演習	野末　紀之				

●科目の主題

文学テクストを読み、分析するさいの基本的な視点を、いくつかの作品を取上げながら身につける。

●到達目標

文学テクストを読み、分析するさいに応用できる基本的視点を身につけるようにすることが目標である。

●授業内容・授業計画

第1回:イントロダクション
第2回:作者の位置(1)
第3回:作者の位置(2)
第4回:視点(1)
第5回:視点(2)
第6回:物語の構造(1)
第7回:物語の構造(2)
第8回:階級・階層(1)
第9回:階級・階層(2)
第10回:教養(1)
第11回:教養(2)
第12回:空白と不確かさ(3)
第13回:空白と不確かさ(4)
第14回:質疑応答とまとめ
第15回:試験

●事前・事後学習の内容

事前学習(配布資料の内容理解)に2時間、事後学習(内容確認と問題点の整理)に1時間必要。

●評価方法

必要な出席回数を満たしたうえで、平常点(30%)、レポート(35%)、試験(35%)による。

●受講生へのコメント

さまざまな文学テクストを積極的に読んでほしい。

●参考文献・教材

プリントを配布する。

授業科目名	科目NO.	LEART3301	授業コード	L241110010	
表現文化論特殊演習I Advanced Seminar in Culture and Representation I			単位数	2 単位	
授業形態	担当教員名				
演習	増田　聡／海老根　剛				

●科目の主題

「映像と音楽」をテーマとし、その相互関係の諸相を分析検討する。授業は2名の教員によるコ・ティーチング形式で行われる。

●到達目標

映像と音楽の関係について理論的に分析できる視点を獲得し、自身の研究テーマに応じて適切に用いることができるようになること。
また、演習での報告を通じて、各種情報機器や映像・音楽のプレゼンテーションの手法に習熟すること。

●授業内容・授業計画

(1)イントロダクション、授業の進め方について
(2)映像と音楽の関係についての基礎的概念(イン、アウト、オフ)
(3)映像メディアにおける音の歴史
(4)映像と音の関係の実例(1)
(5)映像と音の関係の実例(2)
(6)映像と音の関係の実例(3)
(7)分析と検討
(8)ミュージカル映像
(9)映画の中の音楽
(10)ライブ映像
(11)ビデオクリップ
(12)音響効果
(13)CM映像と音
(14)インターネット動画
(15)まとめ

●事前・事後学習の内容

(事前学習)指示された文献を読んでおく。また発表を指示された履修者は調査を行い、発表準備をしておく。
(事後学習)授業での討議を踏まえて、映像と音の関係についての知見を整理しておく。

●評価方法

討議への参加度(20%)、発表内容(40%)、事後レポート(40%)の内容などを総合的に勘案して評価する。

●受講生へのコメント

映像と音楽それぞれを専門とする教員2名のコ・ティーチング形式により映像と音楽の関係を多面的に検討する演習であり、授業では多角的な見地からの討議がなされる。履修者も積極的に討議に参加するとともに、映像と音楽の関係について興味を惹かれる事例を各自で収集し、報告してもらうことが望まれる。
履修登録者多数の場合は、表現文化コースを優先して履修許可したうえで、他コースの履修者を抽選により選抜する。

●参考文献・教材

ミシェル・シオン『映画にとって音とは何か』(勁草書房)ほか、授業中で指示する。

授業科目名	科目NO.	LEART3302	授業コード	L241120010	
表現文化論特殊演習Ⅱ Advanced Seminar in Culture and Representation Ⅱ			単位数	2 単位	
授業形態 演習	担当教員名 江村　公				

●科目の主題

1920年代の芸術と文化

本授業は1920年代の芸術表現について考察する。20年代とは、歴史的には第一次世界大戦が終結し、ロシアは戦時共産主義から新経済政策へと移行、日本では関東大震災が起き、アジアもまた終戦の影響とともに、植民地主義が強化された時代でもあった。くわえて、1918年から世界的に猛威をふるったスペインかぜが終息することで、パンデミック後の束の間の解放感を味わった時代だったと考えてみれば、この時代について知ることは、私たちが今おかれた状況を枠付け直す手がかりとなるかもしれない。では、現在からするとほぼ100年前にあたるこの時代には、どのような新しい表現や芸術作品が生み出されたのだろうか？

この授業の目的は、主にヨーロッパ、ロシア、日本における1920年代に注目し、それぞれの地域の文化を比較検討しつつ、社会と芸術作品の結びつきを理解し、広い意味での表現の分析から「近代」を現代的な視点から再考することである。演習として、まず、ペアもしくはグループワークにより上記の地域の歴史や文化について報告してもらうことで理解を深め、比較文化的な視点から捉え直す。その上で、最終的には、参加者それぞれがこの時代に生み出された事象や表現について調査・発表を行ない（どのようなジャンルでも可）、その意義を発見することを目指している。

●到達目標

・20世紀初頭の芸術の様式とそれが担っている歴史的コンテクストを理解できるようになる。
・比較文化的な視点を学び、異文化についての関心、他者への理解を深める。
・社会・文化と芸術表現の結びつきを意識しつつ、広い視野から解釈を行えるようになる。
・発表やレポート作成をとおして、自身の考えを論理的かつ明快に表現できる能力を養う。

●授業内容・授業計画

本授業は基本的には対面で行なう予定である。

1.はじめに（授業の概要説明）
2.前史
3.ペアもしくはグループ発表（西ヨーロッパ・東ヨーロッパ・ロシア）
4.ペアもしくはグループ発表（アメリカ）
5.ペアもしくはグループ発表（アジア・日本）
6.1920年代の芸術表現1
7.1920年代の芸術表現2
8.1920年代の芸術表現3
9.1920年代の芸術表現4
10.個人での発表
11.個人での発表
12.個人での発表
13.個人での発表
14.フィードバックとまとめ

●事前・事後学習の内容

履修者は前半のペアもしくはグループ発表、および後半の個人での発表が義務付けられるため、事前の学習に相当時間を費やすことが必要となる。また、全員が指定された課題に取り組み、議論に参加できるよう準備すること。

●評価方法

前半の発表（授業参加度含む）30%。後半の個人発表（授業参加度含む）30%。個人発表を基にして作成する学期末レポート40%。

単位取得のためには、履修者は前半の発表、後半の発表、レポート提出、この三つを必ずこなす必要がある。

●受講生へのコメント

授業計画は現時点でものであり、実際の履修者人数によって若干変更する可能性がある。

●参考文献・教材

参考文献については授業中に指示する。

授業科目名	科目NO.	LEART3303	授業コード	L241130010	
文化理論演習 Seminar in Culture Theory			単位数	2 単位	
授業形態 演習	担当教員名 増田　聡				

●科目の主題

表現文化研究の手法と方法論に関する基礎的文献購読とミニ論文作成を通して、文化理論に基づいた卒論執筆に必要となる各種能力を獲得する。表現文化研究における基礎的文献を講読しディスカッションするとともに、各自のテーマに従った先行研究調査・作品分析・テーマ発表を行い、ミニ論文の執筆を行う。

●到達目標

表現文化研究の手法と方法論に関する基礎的文献購読とミニ論文作成を通して、文化理論に基づいた卒論執筆に必要となる文献読解力、文献調査能力、学術的な執筆能力、適切な学術的対話能力を獲得する。

●授業内容・授業計画

第1回:オリエンテーション
第2回:文献要約1『動物化するポストモダン』1
第3回:文献要約2『動物化するポストモダン』2
第4回:文献要約3『不可能性の時代』1
第5回:文献要約4『不可能性の時代』2
第6回:ミニ論文テーマ作成およびそのための調査法
第7回:ミニ論文テーマ発表(1)
第8回:ミニ論文テーマ発表(2)
第9回:論文作成(1)アウトラインの作成
第10回:論文作成(2)序論と本論と結論
第11回:論文作成(3)引用の手法と書式
第12回:論文作成(4)全体の完成
第13回:論文作成(5)全体の修正
第14回:執筆論文の提出と購読、批評(1)
第15回:執筆論文の提出と購読、批評(2)、まとめ

●事前・事後学習の内容

第1回~第5回:(事前学習)教科書を熟読し、指示された分量での要約を作成する。(事後学習)授業での討議と指摘を踏まえて、自身の作成した要約の修正を行う。
第6回~第8回:(事前学習)自身のミニ論文テーマを案出するとともに、それに関連する文献を検索し、書誌リストを作成しておく。(事後学習)授業での討議と指摘を踏まえて、自身のテーマや書誌リストの修正を行う。
第9回~第13回:(事前学習)授業で行う作業の準備を行う。(事後学習)授業での討議と指摘を踏まえて、作成したものの修正を行う。
第14回 第15回:(事前学習)他の履修生の論文を読み、質問をリストアップしておく。(事後学習)授業での討議と指摘を踏まえて他の履修者の論文を再読するとともに、自身の論文の評価を行う。

●評価方法

文化理論に基づいた卒論執筆に必要となる文献読解力、文献調査能力、学術的な執筆能力、適切な学術的対話能力について評価を行う。各回の課題提出と授業での報告や討議への貢献(50%)、作成したミニ論文の内容(50%)により評価する。文献読解力、文献調査能力、学術的な執筆能力、適切な学術的対話能力を総合的に判断するが、上記について卒業論文執筆に必要な最低限度の能力を示すことが評価の最低基準となる。

●受講生へのコメント

本授業は表現文化コース三回生は必ず履修すること。また提出物は締め切り厳守のこと。

●参考文献・教材

以下の二冊を教科書として用いるので、授業開始前に各自入手しておくこと。東浩紀『動物化するポストモダン』(講談社現代新書)、大澤真幸『不可能性の時代』(岩波新書)。

その他の文献や資料については授業内で指示、あるいは 配布する。

授業科目名	科目NO.	LEART3211	授業コード	L241140010	
表現文化特論 Specific Lecture in Art and Representation			単位数	2 単位	
授業形態 講義	担当教員名 木村　覚				

●科目の主題

笑いを哲学的に考察することが本科目の主題である。その際に、「パフォーマンスとしての笑い」にフォーカスし、笑いを表現の問題として取り扱い、ときにダンスのような他のパフォーマンス表現との違いにも視点を向けながら考察してゆく。笑いはこれまで西洋の哲学者たちによって様々に論じられてきた。とくに際立ったものとしては、三つあげられる。優越の理論、不一致の理論、ユーモアの理論である。本講義では、それらを一つずつ取り上げながら、漫才、コント、モノマネなどの具体的事例に照らし合わせつつ、研究を深めてゆく。そこでは、それら具体的事例に対する批評的視点も求めることになるだろう。

●到達目標

笑いという身近なテーマにアクセスしながら、哲学的な考察が展開できるようにする。現象とそれに対する思考とをダイナミックに往還しながら考える力を身につける。最終的に、各自が哲学的知見を得ながら、各自の笑い論が展開できるようになることを目指す。

●授業内容・授業計画

本講義は対面で行う（予定）

1. イントロダクション
2. 美しいとかわいいと滑稽
3. ホラーと滑稽
4. 優越の理論（1）ホッブズの議論
5. 優越の理論（2）ベルクソンの議論（ダンスとお笑いの違い）
6. 優越の理論（3）笑われたいという気持ちをめぐって
7. 不一致の理論（1）機知について（ナイツとサンドウィッチマン）
8. 不一致の理論（2）シニフィアン／シニフィエあるいは物真似論
9. 不一致の理論（3）カントの笑い論
10. 不一致の理論（4）フロイトの機知論とシュールな笑い
11. ユーモアの理論（1）ユーモアの定義
12. ユーモアの理論（2）ユーモアの事例
13. ユーモアの理論（3）ユーモアのある社会に向けて
14. 笑いと社会（まとめ）

●事前・事後学習の内容

事前にまた事後に、教材となる『笑いの哲学』を読んでおくことを勧める。

●評価方法

4回程度の小レポート（100%）

主として授業の理解と授業で紹介した問題を自分の問題として捉え応用する力を評価します。

●受講生へのコメント

研究対象は身近なものですけれども、それをどこまで深度をもって思考できるか、みなさんと試してみたいです。

●参考文献・教材

木村覚『笑いの哲学』（講談社、2020年）

授業科目名	科目NO.	LEART3305	授業コード	L241150010	
表象文化特論 Specific Lecture in Culture and Representation			単位数	2 単位	
授業形態 講義	担当教員名 山中　千恵				

●科目の主題

本授業では、主に日本で発展してきたマンガというメディアの特性とそれが生み出す文化について考察する。マンガ史、マンガ産業論、表現論などのマンガ・コミックス研究の成果を整理し、社会学的な観点も踏まえつつ、マンガ文化について理解していくこととする。

●到達目標

マンガ研究の基本的理論を理解し、研究を行う上で必要な知識を習得する。

●授業内容・授業計画

基本対面とするが遠隔も取り入れる場合がある。

第1回　イントロダクション：授業スケジュールと注意事項を確認し，この授業での到達目標や身につく力についての説明を行なう。また，この授業で扱う「マンガ研究」の特性について，簡単に学習する。さらに，事前・事後学習として使う書籍等についても説明する。

第2回～3回マンガの歴史：マンガはいかに社会的に位置づけられてきたのか。言説および産業構造からこれを考察する。

第4回～7回マンガ表現論：マンガ表現論の議論及び、役割語の議論に基づきマンガ表現の特質について考察する。

第8回マンガと教育：学習マンガをとりあげ、その歴史とイデオロギーについて考察する。

第9回マンガと戦争の記憶：戦争・災害を描くマンガをとりあげ、リアリティとマンガ表現の関係について考察する。

第10回　少女マンガ：少女マンガの歴史を確認し、その特徴を考察する。

第11回～14回（京都国際マンガミュージアムでの授業）　マンガとミュージアム：マンガの展示やマンガとミュージアムの関係について考察する。

第15回授業のまとめ

●事前・事後学習の内容

各授業回に以下の事前事後学習を行うこと。

［事前学習］大学の授業支援システムWebClassにアクセスし、配付プリント等を印刷・参照し、授業内容を理解しておく。

［事後学習］配布プリントを読み返し、学んだ内容に関連する参考資料にあたって理解を深めるとともに、新しく学んだ語彙や概念を要約し、自分なりに説明できるようにしておく。

●評価方法

平常点（授業時レポート・小テストなど）100％

●受講生へのコメント

集中講義最終日は京都国際マンガミュージアムでの学外実習を行います。

●参考文献・教材

授業中に指示・配布

授業科目名	科目NO.	LEASA3201	授業コード	L242010010	
アジア文化学基礎論 Introduction to Asian Studies			単位数	2 単位	
授業形態 講義	担当教員名 多和田　裕司				

●科目の主題

本講義では、アジア文化を学ぶための基礎的な知識の修得を目指す。東アジア、東南アジアを中心に、自然、地理、歴史、宗教、政治、経済などアジアについての基本的な事項を概説するとともに、アジア文化をとらえるさいの着目点やアジア文化の活用などについて教授する。

●到達目標

東アジア、東南アジアの文化と社会について基本的な説明ができる。アジア文化を学問的対象として「課題化」することができる。

●授業内容・授業計画

この授業は対面により実施する。

第1回：アジア文化を学ぶ意義
第2回：東アジア・東南アジア概観(1)：自然と地理
第3回：東アジア・東南アジア概観(2)：歴史
第4回：東アジア・東南アジア概観(3)：宗教
第5回：東アジア・東南アジア概観(4)：政治と経済
第6回：アジア文化を学ぶ視点(1)：アジアの共通性
第7回：アジア文化を学ぶ視点(2)：アジアの多様性
第8回：アジア文化を学ぶ視点(3)：アジアはひとつなのか多様なのか？
第9回：アジア文化の活用(1)：商品化と観光文化
第10回：アジア文化の活用(2)：アジア的価値論
第11回：アジア文化の活用(3)：ソフトパワー
第12回：現代アジアにおける文化の共通化(1)
第13回：現代アジアにおける文化の共通化(2)
第14回：課題としてのアジア文化
第15回：講義の総括

●事前・事後学習の内容

授業中に配布される資料をもとに、基本的概念や用語などについて事前、事後に確認しておくこと。授業中に示される課題文献について予習しておくこと。

●評価方法

到達目標への達成度をもとに評価する。評価は、期末レポート(70%)と小テスト(30%)(3回程度を予定)によって行う。合格のための最低基準として、東アジア、東南アジアの文化と社会について基本的な説明ができること、ならびにアジア文化を学問的対象として「課題化」することができることを求める。

●受講生へのコメント

講義科目であるが、課題文献の予習を前提にした演習的な要素も適宜組み込んで授業をおこなう。

●参考文献・教材

授業中に資料を配付する。

授業科目名	科目NO.	LEASA3202	授業コード	L242020010	
アジア地域文化概論 Introduction to Region and Culture in Asia			単位数	2 単位	
授業形態 講義	担当教員名 松浦　恆雄				

●科目の主題

本科目は、アジア地域の文化、特に中華圏の文化についての概要を理解することを主題とする。

●到達目標

アジア地域の文化、特に中華圏の文化についての概要を理解し、興味のある事象については、さらに深い理解に到達することを目標とする。

●授業内容・授業計画

【授業内容】テキストに『中国文化スター列伝』(関西学院大学出版会、2016年)を用いる。授業は、受講生によるテキストの各章の報告と教員による最新の研究動向の紹介・分析を織り交ぜて実施する。報告者以外の受講者にも各章の内容についての発言を求める。報告の仕方については、ガイダンス時に説明する。

【授業計画】

第一回:ガイダンス。
第二回:第一章宋慶齢
第三回:第二章毛沢東
第四回:第三章白毛女
第五回:第四章魯迅
第六回:第五章廃名
第七回:第六章張愛玲
第八回:第七章梅蘭芳
第九回:第八章李香蘭
第十回:第九章ブルース・リー
第十一回:第十章テレサ・テン
第十二回:第十一章銭鍾書
第十三回:第十二章劉暁波
第十四回:まとめ

●事前・事後学習の内容

受講生は、テキストの当該箇所を読み、紹介されている作品などについての理解を深めて授業に臨むこと。

●評価方法

平常点(出席40%、報告＋議論60%)

●受講生へのコメント

第一回のガイダンスにおいて、授業の具体的な進め方を説明し、受講生の担当個所についても決めるため、受講希望者は必ず出席すること。

●参考文献・教材

中国モダニズム研究会『中華文化スター列伝』関西学院大学出版会、2016年。

授業科目名	科目NO.	LEASA3301	授業コード	L242030010	
アジア伝統文化概論 Introduction to Traditional Culture in Asia			単位数	2 単位	
授業形態 講義	担当教員名 宋　恵媛				

●科目の主題

本講義では、日本を含めた東アジアの伝統文化について概説すると同時に、その批判的な検討を行う。中国文化の強い影響下にありながらも、日本や朝鮮では独自の伝統文化が発展していった。そしてそれらの文化は、この地域で長い歴史の間に幾度も起きた政治形態の変容とともに、様々に解釈、再解釈が行われてきた。本講義では、東アジアの各地域における伝統文化の特徴、相互影響関係、融合などについて把握した上で、「伝統」とは何か、各文化間の境界を定めるものは何か、といった問いを立て、多角的に検討する。

●到達目標

アジアの伝統文化について具体的な事例を用いて説明ができる。

現代の視点から、「伝統文化」が持つ意味について自分自身の考えを述べられる。

●授業内容・授業計画

本授業については基本対面とするが、遠隔も取り入れる場合がある。

第1回 オリエンテーション
第2回 東アジア地域の概説
第3回 東アジア伝統文化の特徴①
第4回 東アジア伝統文化の特徴②
第5回 東アジア伝統文化の特徴③
第6回 東アジア伝統文化の影響関係①
第7回 東アジア伝統文化の影響関係②
第8回 東アジア伝統文化の影響関係③
小テスト(1)
第9回 「伝統」とは何か①
第10回 「伝統」とは何か②
第11回 現代から「東アジアの伝統文化」を問う①
第12回 現代から「東アジアの伝統文化」を問う②
第13回 現代から「東アジアの伝統文化」を問う③
第14回 現代から「東アジアの伝統文化」を問う④
小テスト(2)
第15回 講義の総括

●事前・事後学習の内容

事前および事後学習として、毎回、基本的概念や用語について確認する。

●評価方法

到達目標への達成度をもとに評価する。評価は、期末レポート(70%)と小テスト(30%)によって行う。

合格のための最低基準として、東アジア地域の伝統文化を、自らの考えを含めながら説明できることを求める。

●受講生へのコメント

過去について学ぶことを通して、それに連なる現在と未来について自分なりに考えられるようになることを期待する。

●参考文献・教材

初回授業時に指示する。

授業科目名	科目NO.	LEASA3203	授業コード	L242040010	
アジア共生文化概論 Introduction to Multicultural Coexistence in Asia			単位数	2 単位	
授業形態 講義	担当教員名 多和田　裕司				

●科目の主題

本講義では、日本を含めた東アジア、東南アジアを中心とするアジアにおける多文化共生の諸相を、おもに民族と宗教という観点から概説する。民族と宗教、それに国家というそれぞれが異なったベクトルのなかに人々を結びつける力こそが、共生と対立の動因に他ならないからである。アジアにおける共生についての現状認識を踏まえた上で、多様なものが共生する社会を実現するための方策について検討する。

●到達目標

アジアにおける多文化共生の現状を説明することができる。文化の共生と対立を民族、宗教、国家という三者の関係性から論じることができる。共生社会実現に向けての自らの考えを述べることができる。

●授業内容・授業計画

この授業は対面により実施する(予定)。
第1回:多文化共生から共生文化へ:講義のねらい
第2回:民族とナショナリズム
第3回:同上
第4回:民族とナショナリズムにかんする議論
第5回:宗教によるつながりと衝突
第6回:同上
第7回:宗教によるつながりと衝突にかんする議論
第8回:日本社会における多民族性
第9回:国家と民族をめぐる対立
第10回:多民族社会にかんする議論
第11回:対立と共存をとらえる視点
第12回:同上
第13回:共生文化の可能性
第14回:文化の対立と共存、共生にかんする議論
第15回:講義の総括

●事前・事後学習の内容

授業中に配布される資料をもとに、基本的概念や用語などについて事前、事後に確認しておくこと。

●評価方法

到達目標への達成度をもとに評価する。評価は、期末レポート(70%)と小テスト(30%)(3回程度を予定)によっておこなう。合格のための最低基準として、アジアにおける多文化共生の現状を説明すること、ならびに文化の共生と対立を民族、宗教、国家という三者の関係性から論じることができることを求める。

●受講生へのコメント

講義科目であるが、各パートのまとめとして受講生による議論の機会を設けている。そのさいには議論への積極的な参加を求める。

●参考文献・教材

授業中に資料を配付する。

授業科目名	科目NO.	LEASA3204	授業コード	L242050010	
アジア比較文化概論 Introduction to Comparative Culture in Asia			単位数	2 単位	
授業形態 講義	担当教員名 坂　知尋				

●科目の主題

アジアの宗教や文化は互いに直接的また間接的な影響を受けながら展開してきました。本講義では日本を含むアジアの宗教と具体的な視覚資料等にふれながら、そこに宗教的・文化的な関わりがどのように反映されているのかを検討します。

●到達目標

日本を含むアジアの文化の具体例を検討しながら、代表的な資料や概念についての理解を深めることを目指します。

●授業内容・授業計画

1. イントロダクション
2. 日本の美術：仏像（飛鳥～平安時代）
3. 日本の美術：仏像（鎌倉時代と以降の展開）
4. 日本の美術：宗教画
5. 日本の美術：風俗画
6. 日本の美術：儀式・宗教実践
7. アイヌの文化と美術
8. 琉球の文化と美術
9. 中国の宗教と美術
10. 韓国の仏教美術
11. タイの宗教と美術
12. チベットの宗教と美術
13. アジアにおける地獄イメージの展開
14. まとめ

●事前・事後学習の内容

参考文献や講義で紹介するテキスト、パワーポイントスライド等を参照し、講義内容の予習・復習をしてください。

●評価方法

平常点 70%（毎回の講義で提出するコメントシートやクイズ、ディスカッションなどへの参加姿勢で評価します）
試験 30%

●受講生へのコメント

積極的に学習する姿勢・授業に参加する姿勢を歓迎します。

●参考文献・教材

適宜授業内で指示します。

授業科目名	科目NO.	LEASA3205	授業コード	L242060010	
アジア地域文化論 Region and Culture in Asia			単位数	2 単位	
授業形態 講義	担当教員名 松浦　恆雄				

●科目の主題

本科目の主題は、アジア地域文化、特に中華圏の文化状況について、基礎的で幅広い知識を把握し、興味のある対象に対しては深い理解が可能となる視野を獲得することにある。

●到達目標

本科目の到達目標は、アジア文化、特に中華圏に文化状況について、授業を通じて、個別の興味のある対象を深く理解することのできる視野を獲得することである。

●授業内容・授業計画

授業は、受講生の報告と教員の説明を織り交ぜながら進めてゆく。以下の書籍より一部を抜粋してテキストとする。なお、受講生の情況によって、取り上げる書籍、テキストを変更することがある。

第一回:ガイダンス。
第二回:『中国二〇世紀文学を学ぶ人のために』世界思想社、(1)
第三回:『中国二〇世紀文学を学ぶ人のために』(2)
第四回:『中国二〇世紀文学を学ぶ人のために』(3)
第五回:丸尾常喜『魯迅 「人」「鬼」の葛藤』岩波書店、(1)
第六回:丸尾常喜『魯迅 「人」「鬼」の葛藤』岩波書店、(2)
第七回:松永正義『台湾を考えるむずかしさ』研文出版。
第八回:松永正義『台湾文学のおもしろさ』研文出版。
第九回:星名宏修『植民地を読む 「贋」日本人の肖像』法政大学出版局。
第十回:菅原慶乃『映画館のなかの近代　映画観客の上海史』晃洋書房。
第十一回:佐藤賢『中国ドキュメンタリー映画論』平凡社。
第十二回:『現代中国文化の光芒』中央大学出版部。
第十三回:上田信『伝統中国』講談社選書メチエ。
第十四回:まとめ。

●事前・事後学習の内容

毎回、事前に授業で取り扱うテキストを深く読み込んでくること。また、事後には、授業で配布される資料などをきちんと整理し、読み返すこと。

●評価方法

平常点(出席、報告、議論から総合的に)

●受講生へのコメント

第一回の授業で、テキストを配布し受講生の担当を決定するため、必ず出席すること。

●参考文献・教材

プリントを配布する。

授業科目名	科目NO.	LEASA3302	授業コード	L242070010	
アジア伝統文化論 Traditional Culture in Asia			単位数	2 単位	
授業形態 講義	担当教員名 宋　恵媛				

●科目の主題

本講義では主に朝鮮半島の文化を対象にし、文化の形成や発展、日本文化や中国文化との関係についての知見を得ることを第一の目標とする。その上で、韓国、朝鮮民主主義共和国という朝鮮半島の二つ国家の観点からの「伝統文化」の比較検討、さらには朝鮮半島を離れて暮らすコリアン・ディアスポラの視点からの「伝統文化」について探求する。伝統文化というものが、静的で一貫した継続性を持つものというよりも、歴史の中で幾度も塗り替えられてきたものであることを理解し、グローバル化の時代である現代社会に引きつけて考えられる力を養う。

●到達目標

アジアの伝統文化について具体的な事例を用いて説明ができる。
現代の視点から、「伝統文化」が持つ意味について自分自身の考えを述べられる。

●授業内容・授業計画

本授業については基本対面とするが、遠隔も取り入れる場合がある。
第1回 オリエンテーション
第2回 東アジア地域の概説
第3回 東アジア伝統文化の特徴①
第4回 東アジア伝統文化の特徴②
第5回 東アジア伝統文化の特徴③
第6回 東アジア伝統文化の影響関係①
第7回 東アジア伝統文化の影響関係②
第8回 東アジア伝統文化の影響関係③
小テスト(1)
第9回 「伝統」とは何か①
第10回 「伝統」とは何か②
第11回 現代から「東アジアの伝統文化」を問う①
第12回 現代から「東アジアの伝統文化」を問う②
第13回 現代から「東アジアの伝統文化」を問う③
第14回 現代から「東アジアの伝統文化」を問う④
小テスト(2)
第15回 講義の総括

●事前・事後学習の内容

事前および事後学習として、毎回、基本的概念や用語について確認する。

●評価方法

到達目標への達成度をもとに評価する。評価は、期末レポート(70%)と小テスト(30%)によって行う。
合格のための最低基準として、東アジア地域の伝統文化を、自らの考えを含めながら説明できることを求める。

●受講生へのコメント

過去について学ぶことを通して、それに連なる現在と未来について自分なりに考えられるようになることを期待する。

●参考文献・教材

初回授業時に指示する。

授業科目名	科目NO.	LEASA3206	授業コード	L242080010	
アジア共生文化論 Multicultural Coexistence in Asia			単位数	2 単位	
授業形態 講義	担当教員名 多和田　裕司				

●科目の主題

本講義では、主として島嶼部東南アジアを対象としながら、多文化共生の実態、課題、展望などについて考察する。島嶼部東南アジア諸国は、いずれも多民族、多宗教、多言語から構成される多文化社会であり、多文化共生に向けた各国の取り組みの特徴やその功罪などを検討することで、多文化共生社会を考えるための手がかりを得る。

●到達目標

島嶼部東南アジア諸国における多文化共生の実態や課題について説明することができる。東南アジア諸国の多文化共生への試みを手がかりに、共生文化のありかたを構想することができる。

●授業内容・授業計画

この授業は対面によって実施する(予定)。

第1回:オリエンテーション:多文化共生から共生文化へ
第2回:島嶼部東南アジア概観
第3回:タイにおける多文化状況と共生への試み
第4回:同上
第5回:同上
第6回:マレーシアにおける多文化状況と共生への試み
第7回:同上
第8回:同上
第9回:インドネシアにおける多文化状況と共生への試み
第10回:同上
第11回:同上
第12回:シンガポールにおける多文化状況と共生への試み
第13回:同上
第14回:同上
第15回:講義の総括

●事前・事後学習の内容

授業中に配布される資料をもとに、基本的概念や用語などについて事前、事後に確認しておくこと。

●評価方法

到達目標への達成度をもとに評価する。評価は、期末レポート(60%)および小テスト(40%)(4回程度を予定)によって行う。合格のための最低基準として、島嶼部東南アジア諸国における多文化共生の実態や課題について説明することができること、ならびに共生文化のありかたについての自らの見解をまとめられることを求める。

●受講生へのコメント

東南アジア各国における取り組みをもとに、真に共生的な社会実現のための方策を考えてほしい。

●参考文献・教材

授業中に資料を配付する。

授業科目名	科目NO.	LEASA3207	授業コード	L242090010	
アジア比較文化論 Comparative Culture in Asia			単位数	2 単位	
授業形態 講義／演習	担当教員名 堀　まどか				

●科目の主題

本講義では、日本語で書かれた近現代文学をテーマにして、比較文化的な視点からアジアのなかの文化の特徴や現在にいたる諸課題について講義する。とくに扱うのは、日本の「外」にあたる場所で書かれた作品、「外」にあたる場所を題材にした作品であり、その文芸表現をとおして、日本近代の歴史と文化事象の基礎を学ぶ。世界の読者の視点を意識しながら作品を読み、同時にそこに関連していた政策、政治、経済など、諸理論をあわせて理解していくことで、日本とアジアについての理解を深める。日本語文学を読むことを通して、アジア文化の多様性と特質を概略的に学び、理解を深める。

●到達目標

学生が、アジアのなかの日本を比較文化的な視点で再認識し、基礎的な知識と歴史を理解することができる。従来の日本文学史からはずれているといえる日本語文学やその文化的研究の意義がどこにあるのかを考え、自分のことばで説明することができる。

●授業内容・授業計画

第1回:イントロダクション／目的と概説
第2回:文化研究の方法/基礎①作者の立ち位置
第3回:文化研究の方法/基礎②作品・表現
第4回:文学研究の方法/基礎③読者
第5回:境界の文学／日本の西①
第6回:境界の文学／日本の西②
第7回:境界の文学／日本の西③
第8回:境界の文学／日本の東①
第9回:　境界の文学／日本の東②
第10回:境界の文学／日本の東③
第11回:　境界の文学／日本の南①
第12回:境界の文学／日本の南②
第13回:境界の文学／日本の北①
第14回:境界の文学／日本の北②
第15回:総括/意義と展開

●事前・事後学習の内容

指示された作品、論文、記事を事前に読み、疑問点や課題点を整理しておくこと。

●評価方法

到達目標の達成度について評価をおこなう。
評価方法は、授業内でのコメントペーパー(50%)、試験(50%)
合格のための最低基準は70%

●受講生へのコメント

毎回、授業で扱う作品を読み、感想や意見をまとめてくることが求められる。

●参考文献・教材

毎回、読むべき資料を配布、もしくは指示する。参考書は、受講生の到達度に合わせて、授業内で指示する。
(参考文献としては、堀まどか著『野口米次郎と「神秘」なる日本』(人文学のフロンティア/大阪市立大学・人文選書8)和泉書院、2021年1月。購入は任意。)

授業科目名	科目NO.	LEASA3303	授業コード	L242100010	
アジア地域文化論演習 Seminar in Region and Culture in Asia			単位数	2 単位	
授業形態 演習	担当教員名 松浦　恆雄				

●科目の主題

本授業の目的は、中華圏の文化の多様性を、具体的なテキストに基づき、明らかにすることにある。受講生は、自らテキストのもつ問題を見つけ、掘り下げ、参考文献を検討しながら、自分の考えをまとめ、報告する。この一連の調査、研究、思考、報告の流れを身につけることが重要である。

●到達目標

主題の項において述べたように、一連の調査、研究、思考、報告の流れを身につけることが到達目標である。

●授業内容・授業計画

本授業では、中華圏の文学・芸術を対象とする。テキストは、なるべく日本語訳のあるテキストを用いる。最初の授業において、授業の進め方について説明するので必ず出席すること。

第1回:ガイダンス。
第2回:中国大陸　奇妙な物語に映る迷宮のような中国　余華
第3回:中国大陸　車椅子で考え抜いたのは生きること　史鉄生
第4回:中国大陸　チャイナ・ミストの晴れた空に見える21世紀詩歌
第5回:中国大陸　やられた方法でやり返せ　反骨芸術家の真骨頂　アイ・ウェイウェイ
第6回:中国大陸　チベットの心は中国語で表現できるのか　チベット族中国語作家・阿来
第7回:中国大陸　今のような未来か未来のような今か　物語王国のSF
第8回:中国大陸　釣り名人が釣り上げたのは寓話だった　現代劇の奇才・過士行
第9回:台湾　古都に現れたシュルレアリスム集団・風車詩社
第10回:台湾　堀辰雄をこよなく愛する日本語作家・龍瑛宗
第11回:台湾　日本語で詠み続けたささやかな人生　台湾万葉集
第12回:台湾　クィアでサイバーパンクな台湾　クィアSFの祖・紀大偉
第13回:マレーシア　中華アイデンティティの幻影を追う黄錦樹
第14回:マレーシア　熱帯雨林に消えた象の群れ　張貴興
第15回:まとめ

●事前・事後学習の内容

指示された資料、テキストを、事前に十分読みこんで出席すること。

●評価方法

授業中の報告、発言により平常点で採点する。

●受講生へのコメント

特になし。

●参考文献・教材

授業時に指示する。

授業科目名	科目NO.	LEASA3304	授業コード	L242110010	
アジア伝統文化論演習 Seminar in Traditional Culture in Asia			単位数	2 単位	
授業形態 講義	担当教員名 宋　恵媛				

●科目の主題

朝鮮半島を主な対象にし、演習形式でアジア伝統文化についての多角的な考察を行う。伝統文化の生成と他文化との融合、伝統文化の定義や解釈の変遷を理解するために、朝鮮半島内外の朝鮮伝統文化に関する学術文献、文学作品、映像資料などを分析し、受講生とともに検討を行う。本演習を通して、伝統文化を研究対象とする際の方法論を習得し、受講生自身がアジア伝統文化をローカルとグローバルの両方の視点から考察する能力を涵養する。

●到達目標

東アジアの伝統文化について、多角的に考察することができる。
専門文献の分析をもとに、論理的に自らの考えを発表することができる。

●授業内容・授業計画

本授業については基本対面とするが、遠隔も取り入れる場合がある。
第1回 オリエンテーション
第2回 朝鮮半島を中心とする東アジア伝統文化の定義、解釈に関する文献読解①
第3回 朝鮮半島を中心とする東アジア伝統文化の定義、解釈に関する文献読解②
第4回 朝鮮半島を中心とする東アジア伝統文化の定義、解釈に関する文献読解③
第5回 朝鮮半島を中心とする東アジア伝統文化の定義、解釈に関する文献読解④
第6回 朝鮮伝統文化に関する文献読解①
第7回 朝鮮伝統文化に関する文献読解②
第8回 朝鮮伝統文化に関する文献読解③
第9回 朝鮮伝統文化に関する文献読解④
第10回 コリアン・ディアスポラと朝鮮伝統文化に関する文献読解①
第11回 コリアン・ディアスポラと朝鮮伝統文化に関する文献読解②
第12回 コリアン・ディアスポラと朝鮮伝統文化に関する文献読解③
第13回 コリアン・ディアスポラと朝鮮伝統文化に関する文献読解④
第14回 受講生による発表
第15回 受講生による発表

●事前・事後学習の内容

毎回、課題文献を事前に読んでおくこと

●評価方法

到達目標への達成度をもとに評価する。評価は受講生による発表によって行う。合格のための最低基準として、東アジアの伝統文化について、知識と根拠に基づいて自らの見解をまとめ、発表できることを求める。

●受講生へのコメント

過去について学ぶことを通して、それに連なる現在と未来について自分なりに考えられるようになることを期待する。

●参考文献・教材

授業中に資料を指示または配付する。

授業科目名	科目NO.	LEASA3305	授業コード	L242120010
アジア共生文化論演習 Seminar in Multicultural Coexistence inAsia			単位数	2 単位
授業形態 演習	担当教員名 多和田　裕司			

●科目の主題

本講義では、アジアの多文化共生をテーマに、主として文化人類学分野の日本語ないし英語の代表的論考を演習形式で読み進めながら、多文化共生についての専門的な理解を深めていく。グローバル化とナショナリズム、経済発展と文化の共通化、世俗社会における宗教などをサブテーマとして設定することで、受講生にたして、多文化共生の現状や実現にいたる課題をより具体的な相において理解させる。

●到達目標

専門文献をもとに、自らの考えを発表することができる。アジアの多文化共生について、自ら考察することができる。

●授業内容・授業計画

この授業は対面により実施する(予定)。

上記主題に即した文献を演習形式で読み進める。授業は受講生による文献内容についての報告、全員での討論によって進めていく。

第1回:オリエンテーション
第2回:グローバル化とナショナリズムにかんする文献講読(1)
第3回:同上(2)
第4回:同上(3)
第5回:同上(4)
第6回:経済発展と文化の共通化にかんする文献講読(1)
第7回:同上(2)
第8回:同上(3)
第9回:同上(4)
第10回:世俗社会における宗教かんする文献講読(1)
第11回:同上(2)
第12回:同上(3)
第13回:同上(4)
第14回:受講生による発表(1)
第15回:受講生による発表(2)

●事前・事後学習の内容

毎回の課題文献を事前に読んでおくこと。発表の準備(配付資料の作成、プレゼンテーション資料の作成などを含む)をしておくこと。

●評価方法

到達目標への達成度をもとに評価する。評価は、平常点(60%)と受講生による発表(40%)によって行う。合格のための最低基準として、アジアの多文化共生について、自らの見解をまとめ発表できることを求める。

●受講生へのコメント

各回の課題文献や授業の進め方についてはオリエンテーション時に説明するので、受講希望者は必ず出席すること。

●参考文献・教材

オリエンテーション時に指示する。

授業科目名	科目NO.	LEASA3306	授業コード	L242130010	
アジア比較文化論演習 Seminar in Comparative Culture in Asia			単位数	2 単位	
授業形態 演習	担当教員名 堀　まどか				

●科目の主題

日本を含むアジアの文化や歴史に関する特徴や現状課題について、文学、思想史、歴史学等、主として文献資料や文学作品をもとにして、比較文化的な視点から研究を進める方法をまなぶ。比較する・相対化するという目的や意義を考え、対象とするテーマの範囲のとりかた、概念の把握、論文の構成の作り方について、基礎的な方法を知り、演習のなかで実践的に理解する。また研究のなかで、そのテーマのもつ相互関係を見直し、評価史を検討しながら、あたらしい文化研究の方法を模索することの可能性と必要性を経験的にまなぶ。本科目でめざしているもの、研究の方法、演習のテーマ設定において注目してもらいたいキーワードや方法については、最初に話しあいのなかで決定する。知識を応用して、人文研究の未来を構築することをめざすような発表が期待される。

●到達目標

学生が、アジアと日本について、比較文化論的視点から自ら課題をみつけ、考察することができる。比較や分析を的確におこない、また研究の評価史を学び、みずからの見つけ出した課題と研究について的確にわかりやすく説明することができる。

●授業内容・授業計画

第1回:研究の意義・イントロダクション
第2回:論文のかたちと、新聞雑誌研究の醍醐味について
第3回:演習／目的と方法の確認
第4回:演習／テーマの枠組と構成
第5回:演習／対象の範囲
第6回:演習／作品と比較の方法①
第7回:演習／作品と比較の方法②
第8回:演習／作品と比較の方法③
第9回:演習／作品と比較の方法④
第10回:演習／相互関係のみなおし①
第11回:演習／相互関係のみなおし②
第12回:演習／評価史の検討①
第13回:演習／評価史の検討②
第14回:演習／既成概念の再編
第15回:総括

●事前・事後学習の内容

次回の授業範囲を予習し、指定した文献や配布資料を読み終えて、専門用語などの意味を理解しておくこと。
(授業の事前に2時間の予習、事後に1時間の復習をおこなうこと。)

●評価方法

(1)到達目標の達成度について評価をおこなう。(2)評価方法は、授業内での演習発表(質疑、ディスカッションを含む)(60%)、レポート(40%)(3)合格のための最低基準は70%

【評価の観点】①グループワークや討議に積極的に参加しているか。対象や歴史を深く考えてみようとする意欲をもっているか。他者との交流や異文化に対する理解や好奇心をもっているか。②独自のテーマ設定を検討する意欲がみられたか。調査・分析・論述展開は的確であったか。論理的でわかりやすいプレゼンや表現をこころがけていたか。③当科目まとめのレポートとして、自分が発表した課題テーマを中心にして研究活動や分析結果の報告ができているか。自分が現状で出来た事と出来ていない事を自覚できているか。人文学の学術知識や教養を、現代社会へ実践的に結びつけてみようとする意欲や好奇心がみられるか。

●受講生へのコメント

積極的に独創的に孤独に学ぶ意欲と、友人らと相互に交流し学び高めあいたいという好奇心をもって、受講してください。

●参考文献・教材

テキストは授業で指示する、あるいはレジュメを配布する。参考書は、受講生の到達度に合わせて、授業内で指示する。

授業科目名	科目NO.	LEASA3208	授業コード	L242140010	
文化人類学 Cultural Anthropology			単位数	2 単位	
授業形態 講義	担当教員名 多和田　裕司				

●科目の主題

本講義は、文化人類学の中心的概念である「文化」についての理解を深めることを目的とする。人間の行動は知らず知らずのうちに文化によって拘束されている。その一方で、自らの行動をとおして文化を創り上げ、それを変化させてきたのも他ならぬ人間である。講義では、このような人間行動と文化のダイナミックな関係をあきらかにし、文化を動態的に把握する方法について考えていく。

●到達目標

本講義は、受講生が、(1)文化概念、(2)「異」文化理解をめぐる諸問題、(3)動態としての文化等の諸点について、文化人類学における代表的議論を把握するとともに、その作業を通して文化について考察するための自らの立脚点を作り上げることを到達目標とする。

●授業内容・授業計画

この授業は対面により実施する(予定)。

授業は、毎回の課題として設定される基本文献の事前学習を前提に、当該文献についての解説および授業参加者による討論を通しての内容理解という形で進められる。なお個別の授業計画およびそこで扱われるテーマは以下の通りである。

第1回 オリエンテーション:講義のポイント、授業の進め方、課題文献の紹介、評価方法についての説明
第2回 人類学における文化概念(テーマ解説):人類学は文化をどうとらえてきたか
第3回 人類学における文化概念(1)
第4回 人類学における文化概念(2)
第5回 人類学における文化概念(3)
第6回 「異」文化理解をめぐる諸問題(テーマ解説):多文化主義と「文明の衝突」論、文化相対主義の可能性と限界、オリエンタリズム
第7回 「異」文化理解をめぐる諸問題(1)
第8回 「異」文化理解をめぐる諸問題(2)
第9回 「異」文化理解をめぐる諸問題(3)
第10回 動態としての文化(テーマ解説):文化とナショナリズム、越境する文化、現代消費社会における文化、文化の力
第11回 動態としての文化(1)
第12回 動態としての文化(2)
第13回 動態としての文化(3)
第14回 動態としての文化(4)
第15回 総合討論

●事前・事後学習の内容

毎回設定される課題文献を事前に読んだ上で、内容についての要点整理、疑問点の洗い出し等を行っておくこと。

●評価方法

平常点をもとに総合的に評価する。平常点は、課題文献に関する議論のさいの発言回数を基礎として算出する。授業に積極的に関わらない者(出席していても議論に参加しない者など)については評価しない。

●受講生へのコメント

各回の課題文献や授業の進め方についてはオリエンテーション時に説明するので、受講希望者は必ず出席すること。なお本講義には演習的な授業形態も取り入れているので、受講希望者はこの点を了解した上で受講すること。

●参考文献・教材

オリエンテーション時に指示する。

授業科目名	科目NO.	LEASA3307	授業コード	L242150010	
アジア文化特論 I Specific Lecture in Asian Studies I			単位数	2 単位	
授業形態 講義	担当教員名 Shulatov Yaroslav				

●科目の主題

日露関係を中心として、東アジアにおける国際関係史について考える

●到達目標

あるひとつの地域の文化的特性を包括的にとらえることの意味や当該専門分野における方法論を学ぶ

●授業内容・授業計画

本講義は遠隔で実施する。
第1回:ガイダンス。アジアにおけるロシア、東アジア・極東政策の歴史的背景、概要と構造
第2回:日露関係の概要、全体構造と相互イメージ。「初顔合わせ」
第3回:東アジアにおけるロシアと日露関係の黎明。「官民」交流の実態と「相互発見」
第4回:映画観賞(「おろしあ国酔夢譚」)
第5回:江戸時代における日露関係と対露観。「救難者」、「脅威」、「文明国」のロシア
第6回:衝突から国交樹立へ。19世紀前半における東アジアと日露関係
第7回:幕末の危機:動揺する対露観。(「幕末のスパシーボ」)
第8回:明治維新から19世紀末まで。「先生」から「敵」へ
第9回:日露戦争への道、戦争経過と結果。「第0次世界大戦」と東アジアにおける新秩序
第10回:近代における文化交流:技術・学問・芸術など
第11回:近代における文化交流:文学を中心に
第12回:「敵国」から「同盟国」へ。日露関係の「黄金時代」の内外要因と
第13回:ロシア革命と東アジア。ソヴィエト・ロシアと日本
第14回:戦前期における日ソ関係と東アジア。
第15回:まとめ・試験(レポート)

●事前・事後学習の内容

＊ 講義で使われるテーマに関する参考資料(オンデマンド資料の文献など)を授業HPにアップするので、授業の前に各自でダウンロードして、必ず事前に読むこと。

＊ それ以外、適宜紹介する

●評価方法

授業への参加(出席／コメントペーパー) 40 %
期末レポート 60 %

●受講生へのコメント

＊ 初回授業(4月14日(水)4限)には、必ずWebclassを確認して、双方向の初回講義に出席してください。授業の受講方法や日時について指導・確認をする。

＊ 積極的に参加して、しっかりとノートを取り、授業中でも質問することを歓迎する。

●参考文献・教材

＊ 参考書:五百旗頭 真 (編集), 下斗米 伸夫 (編集), A.V.トルクノフ (編集)『日ロ関係史:パラレル・ヒストリーの挑戦』東京大学出版会、2015年。

＊ 参考資料(オンデマンド文献など)をWebClassまたは別のソースにアップロードする。詳しくは初回の授業で紹介する。

授業科目名	科目NO.	LEASA3308	授業コード	L242160010	
アジア文化特論Ⅱ Specific Lecture in Asian Studies Ⅱ			単位数	2 単位	
授業形態 講義／演習	担当教員名 王　静				

●科目の主題

現代中国における「茶文化」を事例として、ナショナル化とグローバル化の反復を特徴とする現代文化の生産・消費のメカニズムを検証するとともに、今日における文化の動態を捉える方法について考察する。

●到達目標

文化の生成をめぐる多様なメカニズムについて、日常生活におけるごく「ありきたり」の事象をもとに具体的に検討していく過程を示すことで、受講生に文化研究の一つの方向性とそのための方法を理解させる。

●授業内容・授業計画

本講義は、「対面で行なう」。現代中国における茶文化の様態を概説した上で、茶文化の生成から拡大、定着へと至るメカニズムを政治・学術研究・外交・経済活動等の側面から講義とディスカッションの形式で検討する。

第1回　オリエンテーション、中国茶文化の概要
第2回　文化と政治①：新中国の茶葉生産
第3回　文化と政治②：茶葉経済を支えるための茶文化創造
第4回　文化と政治③：中華文化の復興と台湾茶芸の構築
第5回　文化と政治④：中国茶芸の再構築
第6回　文化と学術研究①：「茶文化」の提唱
第7回　文化と学術研究②：飲茶と健康
第8回　文化と学術研究③：茶文化を対象とした研究・教育
第9回　文化と外交①：茶葉生産を通した国交締結
第10回　文化と外交②：茶芸を中心とした茶文化交流
第11回　文化と経済活動①：茶芸館
第12回　文化と経済活動②：茶文化観光
第13回　文化と経済活動③：「中国茶」の経済価値
第14回　文化の伝播と受容、アジア茶文化圏の現在
第15回　期末レポートの討論

●事前・事後学習の内容

毎回次回の授業に関する参考文献の予習箇所を指定する。各自で事前に読んでおくとともに、内容の整理や疑問点の洗い出しなど、ディスカッションに備えた準備をしておくこと。なお、各回の準備には4時間以上の学習を行なうことが望ましい。

●評価方法

平常点（授業内の質問やディスカッション）50%、期末レポート50%で総合的に評価する。

●受講生へのコメント

・第1回目の授業はオリエンテーションを行なうため、受講予定者は第1回授業には必ず出席すること。
・第2回目の授業からは、講義の内容や教科書の指定箇所を踏まえたディスカッションを行うため、予習が必須である。

●参考文献・教材

王静（2017）『現代中国茶文化考』（思文閣出版）

授業科目名	科目NO.	LECRS3201	授業コード	L243010010	
文化資源基礎論 Introduction to Cultural Resources studies			単位数	2 単位	
授業形態 講義	担当教員名 菅原　真弓				

●科目の主題

21世紀初頭に登場する「文化資源」という言葉。様々な事物を「文化資源」として捉え直すことで、既成の価値だけにとらわれない新しい見方や意味が生まれる。「文化資源とは何か」を関連諸分野の研究と比較しながら詳説する。

●到達目標

「文化資源」についてより豊かに理解し、文化資源研究の基礎的理解を醸成する。

●授業内容・授業計画

第1回：ガイダンス～文化資源とは何か、文化資源学とは何か
第2回：文化資源学が扱うモノ、コト（概説）
第3回：文化資源としての視覚芸術1
第4回：文化資源としての視覚芸術2
第5回：文化資源と「観光」～絵はがきというキーワードから
第6回：文化資源としての「アート」「アートプロジェクト」～まちづくり、アートツーリズムというキーワードから～
第7回：文化観光推進法を批判的に検討する
第8回：「文化資源」の活用？としての演劇、音楽祭、観光まちづくり
第9回：文化財と「観光」まちづくり
第10回：文化財の指定と文化資源
第11回：文化資源を社会に役立てること1～観光の観点から
第12回：文化資源を社会に役立てること2～いわゆるイベント、プロジェクトを概観して
第13回：文化資源とは何か～身近な「何か」と文化資源
第14回：まとめにかえて：文化資源を発見する～フィールドワーク

●事前・事後学習の内容

事前学習は特に必要としないが、各回の内容に関心を持って各自文献や実際の事物にあたる経験をしておくことを求める。事後においては、各回で取り上げた内容を「文化資源」として捉え直すことで生まれる事について、より深く学習することを望む。

●評価方法

授業の内容をベースにした期末レポートと、各回の小レポート（出席カードにそれぞれ記す授業の感想や学び）に基づき評価（内訳はレポートが50%、小レポート（＝授業への意欲）が50%）。

●受講生へのコメント

「文化資源」というおそらくは耳慣れぬ言葉を、自らの生活の周囲にもある身近なものとして認識し、これを研究することの楽しさを見つけてもらいたい。

●参考文献・教材

授業時にプリントを配布し、適宜、授業内で参考文献を紹介する。

授業科目名	科目NO.	LECRS3202	授業コード	L243020010	
観光文化論 Lecture on Tourism in Cultural Context			単位数	2 単位	
授業形態 講義	担当教員名 天野　景太				

●科目の主題

本科目では、文化資源の社会的運用のあり方に関して扱う科目群のうち、観光領域におけるあり方を中心に講義する科目である。観光を文化現象として捉え、現代観光の文化的な特質について、関西を中心とした国内外のさまざまな事例に基づきながら考察する。具体的には、「現代日本・大阪におけるニューツーリズムの観光文化論」をテーマとする。観光文化とは、観光者や観光事業者といった主体が紡ぎ出す観光経験や観光形態の諸相、あるいは、観光を通じた文化の交流等により生成、展開していく地域文化の諸相のことで、場所や時代によってさまざまな展開をみせている。特に近年においては、「見物」や「遊楽」といった昔ながらの観光スタイルだけではなく、各地で体験型観光や地域独自の魅力の発掘、持続可能な観光の推進などに象徴されるような新しい観光文化（ニューツーリズム）のあり方が模索されている。本科目では、これらの文化的な特質の解読を通じて、観光文化のダイナミズムに関して検討する。

●到達目標

授業の内容を自らの身近な地域において展開する具体的な観光文化の考察に敷衍することで、観光文化の多様性に関して理解を深めることができる。また、現在政府（観光庁）の施策としても「ニュー・ツーリズム創出・流通促進事業」が推進されるようになっているが、それらの批判的検討を含め、観光を一つの文化現象として総合的、相対的に捉える視点を獲得できる。さらに、文化ガイドなど、地域における観光文化の担い手として実際に活躍するための素養を身につけることができるたり、観光における文化変容のダイナミズムを捉えるセンスを養うことができる。

●授業内容・授業計画

第1回：イントロダクション～現代における観光文化の諸相と変容
第2回：飽くなき食文化の探求～フードツーリズム
第3回：“ストレス解消”から“ウェルネス”の探求へ～ヘルスツーリズム
第4回：大阪・関西万博の観光的インパクト～イベントツーリズム
第5回：ものがたりの足跡を訪ねる～コンテンツツーリズム
第6回：「大人の社会科見学」は浸透するのか？～インダストリアルツーリズム
第7回：国際観光地としての日本橋オタロード～サブカルチャーツーリズム
第8回：昭和の追憶と郷愁の彼方へ～レトロツーリズム
第9回：千社詣からドラクエウォークまで～ゲーミングツーリズム
第10回：被災記憶の継承から復興への願いをかたちに～ダーク／ボランティアツーリズム
第11回：観光行動が「エコ活動」となるのか？～エコツーリズム【1】
第12回：観光振興と環境保護は両立できるのか？～エコツーリズム【2】
第13回：「廃」なるものの固有価値を求めて～ヘリテージツーリズム
第14回：観光を通じた都市と農村の交流～グリーン／ブルーツーリズム

●事前・事後学習の内容

全回を通じて、ニュースなどを通じて日頃から講義内容に関連する観光に関する動向についての情報収集を行ってほしい。その上で事後学習として、授業内容を参考に自身で構想するニューツーリズムの企画や、実施の可能性についてのシミュレーションが求められる。

●評価方法

毎回、講義される観光文化のあり方について、的確に理解し、具体例を想起するとともに考察出来ているのかが評価のポイントであり、それが出来ることが単位取得の最低条件である。毎回の授業の最後に、コミュニケーションペーパーに授業内容を受けての自らの考察を記してもらうが、そのコミュニケーションペーパーへの回答内容（30%）と、中間レポート（35%）、期末試験（35%）により評価する。

ただし、コミュニケーションペーパーへの回答数が学期を通じて10回未満の場合、中間レポートや期末試験の評定にかかわらず、原則としてF評価となる。なお、授業開始後30分以上遅刻した場合、コミュニケーションペーパーの回答権を失う。

●受講生へのコメント

本科目は文学資源コースの選択必修科目であると同時に、大阪市立大学文学部履修証明プログラム「大阪文化ガイド＋講座」の必修科目となっている。この意味で、大阪を中心とした関西の事例を取り上げ、身近な地域における今後の観光文化のあり方について考えてもらえることを意識しつつ講義を展開する。また授業中に写真や映像などのビジュアルな資料を豊富に呈示する。板書はほとんど行わないので、講義内容をリアルタイムに考察、整理しながらメモをとっていくことが求められる。受講者は単に授業の内容を記憶するだけではなく、授業の内容と自分の過去の観光体験等とをリンクさせつつ、理解・考察する姿勢をもって授業に臨んでもらいたい。また、観光や異文化コミュニケーションに関してより深く探求したい学生は、観光現象に関してより複眼的な視野を獲得する意味で「文化資源特論Ⅰ」「日本文化発信のための英語」、全学共通教育の「観光研究入門」「観光と文化」「地域実践演習」などを並行履修することを推奨する。

●参考文献・教材

安福恵美子・天野景太『都市・地域観光の新たな展開』古今書院、2020年。ほか、毎回教場にてプリントを配布する。参考文献は、必要に応じて授業中に紹介する。また、観光文化に関するup to dateな話題は、新聞やインターネット等を通じて入手されたい。

授業科目名	科目NO.	LECRS3203	授業コード	L243030010	
文化デザイン論 Lecture on Cultural Design			単位数	2 単位	
授業形態 講義	担当教員名 沼田　里衣				

●科目の主題

本科目は、文化資源の社会的運用のありかたを理解する科目群のうち、音楽文化のあり方について、社会の様々な場面や領域におけるものを取り上げ、多角的に学ぶことが目的である。前半は、楽器、場所、楽譜など主に音楽が行われる場における諸要素に着目して文化を捉える。中盤では、異なる社会や領域においてどのように音楽形態が異なるのかを学ぶ。後半では、音楽実践に関連する諸要素を考察する。本授業の目的は、社会的背景や音楽文化の伝統を踏まえた上で、社会的課題にも目を向け、文化を構想する視点を養うことである。また、本授業では、グループワークを伴う。

●到達目標

社会の多様な人々が関係する音楽実践について知り、芸術の機能と社会的意味の関連について理解すること。

●授業内容・授業計画

第1回:イントロダクション
第2回:楽器と音楽文化
第3回:音楽と場
第4回:音楽文化における楽譜の役割
第5回:音楽と身体
第6回:教育における音楽文化
第7回:福祉・医療における音楽文化
第8回:コミュニティと音楽
第9回:障害者と音楽
第10回:音楽と政治
第11回:音楽と対話実践
第12回:音楽における批評
第13回:音楽文化とその担い手
第14回:総括

●事前・事後学習の内容

授業中に示す参考資料について疑問点を整理しておくこと。授業後は新たに得た知見についてまとめ、関連する資料をテキストやウェブ等であたり、現場に足を運ぶなどして考察を深めること。

●評価方法

音楽文化の成り立ちに関して、各回に提示された視点の理解度を、コミュニケーションカードにより評価する(30%)。芸術の機能と社会的意味についての理解度をレポートの提出により評価する(70%)。

●受講生へのコメント

文化について、多様な観点から思考することを求める。適宜視聴覚教材を用いる。

●参考文献・教材

各授業において、必要な文献を示し、資料を配布する。

授業科目名	科目NO.	LECRS3204	授業コード	L243040010	
視覚芸術文化論 Lecture on Visual Art in Cultural Context			単位数	2 単位	
授業形態 講義	担当教員名 菅原 真弓				

●科目の主題

絵画や彫刻(立体)といった美術作品や写真、映像、建築。こうした既存の視覚芸術の歴史を踏まえ、加えて近現代における視覚芸術について、主に社会との関係において検討する。取り上げるテーマは日本の視覚芸術(≒美術)とする。

●到達目標

視覚芸術に関する基礎的な知見を獲得する

●授業内容・授業計画

第1回:「美術」とは何かー美術史学と「美術」
第2回:宗教と美術①
第3回:宗教と美術②
第4回:産業と美術①
第5回:産業と美術②
第6回:産業と美術③
第7回:報道メディアと美術①
第8回:報道メディアと美術②
第9回:政治と美術
第10回:技術と美術
第11回:概念と美術①
第12回:概念と美術②
第13回:「世界」と美術
第14回:戦争と美術

●事前・事後学習の内容

本授業の授業計画に沿って、準備学習と復習を行なうこと。さらに、授業内容に関連する課題に関する調査・考察を含めて、毎回の授業ごとに自主的学習を求める。

●評価方法

授業の内容をベースにした期末レポートと、各回の小レポート(出席カードにそれぞれ記す授業の感想や学び)に基づき評価(内訳はレポートが50%、小レポート(=授業への意欲)が50%)。

●受講生へのコメント

まずは美術作品(視覚芸術)に関心を持ってもらいたい。また自国の文化である日本美術については、ことさらである。授業内容はいわゆる「美術史」に含まれるものだが、美術史とは、作品が成立した時代、作家、作品名を「憶える」ことではない。各回すべて作品スライドを映写するので、画像イメージをしっかりと「見る」こと、そして何らかの感想を自分で持つこと、を大切にしてもらいたい。

●参考文献・教材

授業プリントを配布するほか、適宜、授業内で紹介

授業科目名	科目NO.	LECRS3205	授業コード	L243050010	
舞台芸術文化論 Lecture on Theatre in Cultural Context			単位数	2 単位	
授業形態 講義	担当教員名 小田中　章浩				

●科目の主題

本科目は、文化資源の社会的運用のあり方を理解する科目群のうち、演劇分野について理解を深めることが目的である。この授業では古代ギリシャからシェイクスピアを経て現代に至る、西洋演劇の上演のあり方に焦点を絞り、演劇が社会とどのように関わっているのかを考察する。

●到達目標

西洋における演劇と社会の関わりについて、その歴史を系統的に説明できること。

●授業内容・授業計画

第1回：イントロダクション：演劇とはどのような芸術か
第2回：古代ギリシャの演劇1：表現形式と劇場
第3回：古代ギリシャの演劇2：劇作家と世界観
第4回：古代ローマの演劇：表現形式と劇場
第5回：中世ヨーロッパの演劇：表現形式と世界観
第6回：ルネッサンスの演劇1：イタリアにおける革新
第7回：ルネッサンスの演劇2：イギリスにおける劇世界の進化
第8回：ルネッサンスの演劇3：スペインでの劇世界の進化
第9回：古典主義の演劇：劇作家と世界観
第10回：市民演劇とメロドラマ：劇作家と世界観
第11回：ロマン主義の演劇：劇作家と世界観
第12回：ヨーロッパにおける演劇とリアリズム：劇作家と世界観
第13回：20世紀における演劇の革新1：反リアリズムへの動き
第14回：20世紀における演劇の革新2：パフォーマンスと演劇の融合
第15回：授業のまとめ

●事前・事後学習の内容

各回の講義内容を整理し、次回の講義に備えるために毎週2時間の事後学習を必要とする。

●評価方法

少なくとも古代ギリシャ、シェイクスピア時代（エリザベス朝）、古典主義演劇、19世紀以降の近代劇の上演形式について、その違いを理解し、かつ説明できること。評価は期末試験（50％）とコミュニケーションカードによる平常点（50％）によって行う。

●受講生へのコメント

毎回の講義終了前に配布するコミュニケーションカードによって前回（一週間前）の講義の理解度を確認する。

●参考文献・教材

講義開始時に参考文献を示すと共に、講義時に資料を配付する

授業科目名	科目NO.	LECRS3206	授業コード	L243060010	
視覚文化資源論演習 Seminar on Visual art and Cultural Resources			単位数	2 単位	
授業形態 演習	担当教員名 菅原　真弓				

●科目の主題

視覚文化資源に関する研究手法を学び、その実践を行う。受講生各自が関心を持つテーマを設定し、そのテーマに関する研究史を調べ、それを基に報告を行う。各自、他の受講生の関心の所在について理解して事前に学び、報告内容についてディスカッションを行う。

●到達目標

視覚文化資源に関する研究手法を学び、それを自ら研究発表という形で実践することで、自らが選んだ視覚文化資源に関する研究を進め、成果を得る。卒業論文執筆入門を兼ねる。

●授業内容・授業計画

第1回:本授業の進め方と視覚文化資源の研究方法についての説明、各自の自己紹介(関心の所在確認)
第2回:基礎文献の調べ方と研究史のまとめ方
第3回:基礎文献と研究史に関する報告①
第4回:基礎文献と研究史に関する報告②
第5回:基礎文献と研究史に関する報告③
第6回:基礎文献と研究史に関する報告④
第7回:基礎文献と研究史に関する報告⑤
第8回:中間講評および研究テーマ設定について
第9回:テーマ発表①
第10回:テーマ発表②
第11回:テーマ発表③
第12回:テーマ発表④
第13回:テーマ発表⑤
第14回:総合講評

●事前・事後学習の内容

自らの報告にあたっては、課された課題に対しての発表準備を自ら行う(報告一週前の要旨配布、レジュメ作成、パワーポイント作成など)。他者の報告の際には、事前(前週)に公開される報告要旨を基に予習をし、各回のディスカッションへの積極的な参加のための準備を行う。事後は発表時のディスカッション(質疑応答)内容を基に学びを深め、これを期末レポートに生かしていく。

●評価方法

授業時の報告(発表)と最終レポートで総合的に評価する。

●受講生へのコメント

自らの発表回は無論のこと、他者の発表にも積極的に参加をし、幅広い知見を得るよう努力してもらいたい。

●参考文献・教材

適宜、プリント等を配布する。

授業科目名	科目NO.	LECRS3207	授業コード	L243070010	
地域文化資源論演習 Seminar on Region and Cultural Resources			単位数	2 単位	
授業形態 演習	担当教員名 天野　景太				

●科目の主題

地域活性や観光まちづくりに関連する文献の購読を通じて、地域における文化資源の創造や活用のあり方について学んだ上で、地域文化を活かした実践（地域の国際交流、文化資源を通じた活性化策の提言、ツアーやまち歩き、イベント等）の企画を行う。なおその過程で、現地視察や関係者への聞き取りを逐次実施する。その成果に基づき、各種の学生コンテストへの出展を目指す（大学生観光まちづくりコンテスト、街のにぎわい創出アイデアコンテスト、日本観光学会学生プレゼン大会など）。前半は、観光学やまちづくりに関する文献の講読を通じて、地域における文化資源とその活用のあり方とについて理解を深める。後半は、グループワークを通じて、各自の関心や、各種コンテストのレギュレーションに則りつつ、履修者が構想する観光実践やまちづくりの企画を報告し、議論する。

●到達目標

地域文化資源活用に関する企画力、および地域文化資源創発に関する想像力が身につく。

●授業内容・授業計画

第1回：イントロダクション
第2回：地域文化資源活用に関する文献講読【1】
第3回：地域文化資源活用に関する文献講読【2】
第4回：地域文化資源活用に関する文献講読【3】
第5回：地域文化資源活用に関する文献講読【4】
第6回：地域文化資源活用に関する文献講読【5】
第7回：地域文化資源活用に関する企画会議【1】～地域課題の現状認識
第8回：地域文化資源活用に関する企画会議【2】～対象地域の魅力創造に向けたアプローチの検討
第9回：地域文化資源活用に関する企画会議【3】～現地調査
第10回：地域文化資源活用に関する企画会議【4】～地域文化資源を活かすプランの策定
第11回：地域文化資源活用に関する企画会議【5】～効果・実現可能性の検証
第12回：企画発表会・ピアレビュー【1】
第13回：企画発表会・ピアレビュー【2】
第14回：企画発表会・ピアレビュー【3】

●事前・事後学習の内容

学期全体を通じて現地取材を含む下準備、資料の作成、発表後に得られた知見に基づく事後の修正やさらなる完成度の向上が求められる。そのため、授業時間外における活動が、企画の質に大きく影響する。なおグループワークを基本とする後半では、積極的にプロジェクトに関与し、自らの責任を果たしていくことが望まれる。

●評価方法

自ら行動し・試行錯誤する経験を経ながら、オリジナルな地域文化資源活性の企画を生み出す（作品化）し得たかが、評価の基準となる。それらを、授業参画（プロジェクトワーク）への意欲（30%）、プレゼンテーションのクオリティ（35%）、最終レポート（35%）によって評価する。なお、コンテストへの出展や審査結果は、単位認定のための必要条件とはならない。

●受講生へのコメント

本演習を通じたスキルの獲得、自己成長に強い意欲をもった学生の参加を期待する。また、現地調査をはじめ、PCを用いた資料作成など、一定の時間的、金銭的投資が発生することを了解の上、履修されたい。また前期開講の「地域文化資源論演習」と一体的に運営するので、原則として「地域文化資源論演習」と「地域文化資源論実習」をセットで履修することが求められる。

●参考文献・教材

安福恵美子・天野景太『都市・地域観光の新たな展開」古今書院、2020年。そのほか、前半に講読する文献、および参考文献は、逐

次授業時に紹介する。

授業科目名	科目NO.	LECRS3301	授業コード	L243080010	
音楽文化資源論演習 Seminar on Music Culture and Resources			単位数	2 単位	
授業形態 演習	担当教員名 沼田　里衣				

●科目の主題

本科目は、文化資源の社会的運用のありかたを理解する科目群のうち、音楽分野についての理解を深めることが目的である。授業では、技術の優劣や価値観の差異を超えた世界の様々な多様性のある音楽活動の事例を紹介し、個々の地域の社会文化背景と企画意図の関連を分析する。主にコミュニティ音楽や地域のアートプロジェクトを取り上げ、用いられている芸術形態や手法に見られる特徴を理解する。

●到達目標

技術の優劣や価値観の差異を超えた世界の様々な音楽活動を知り、その方法を実践できること。

●授業内容・授業計画

第1回 イントロダクション：文献紹介、および授業内容と方法の概説
第2回 即興音楽における自由と枠組み
第3回 ワークショップにおける音楽づくり
第4回 コミュニティ音楽における音楽形態
第5回 現代音楽と福祉
第6回 即興音楽療法1：創造的音楽療法
第7回 即興音楽療法2：分析的音楽療法
第8回 音楽療法からコミュニティ音楽療法へ
第9回 健康と音楽
第10回 アウトサイダー・ミュージックにおける評価の問題
第11回 即興音楽における美的価値観の問題
第12回 アートマネジメントにおける事業構想
第13回 アートマネジメントにおける手法
第14回 アートマネジメントにおける評価の問題
第15回 総括

●事前・事後学習の内容

授業内で提示される音楽について吟味し、その形態と文化的意味について、自分の興味と合わせて探求すること。

●評価方法

プロ・アマを問わず音楽に関わる様々な人々の視点を理解した上で、即興音楽の手法をコミュニティ音楽実践に援用する方法を理解できること。評価は、各回において提示した具体的な手法を理解できているかを問うコミュニケーションカード（50％）、及び実際に現場をオーガナイズする方法についてのレポートの提出（50％）によって行う。60％以上を合格ラインとする。

●受講生へのコメント

授業では、音楽実践と言葉での対話の両方を伴うが、音楽に関する特別な知識や技術は必要としない。

●参考文献・教材

適宜授業内で提示する。

授業科目名	科目NO.	LECRS3302	授業コード	L243090010	
舞台文化資源論演習 Seminor on Culture and Theatre			単位数	2 単位	
授業形態 演習	担当教員名 小田中　章浩				

●科目の主題

本科目は、文化資源の社会的運用のあり方を理解する科目群のうち、演劇分野について理解を深めることが目的である。この授業では西洋および日本におけるいくつの代表的な舞台芸術作品を紹介しつつ、それらが特定の歴史、社会的な状況において果たした文化的な機能について検討する。

●到達目標

古代ギリシャ劇、シェイクスピアの作品、人形浄瑠璃、西洋近代劇のそれぞれについて、作品と社会との関わりについて説明できること。

●授業内容・授業計画

第1回：イントロダクション：演劇と社会との関係
第2回：アイスキュロス『オレステイア』とアテネの政治制度
第3回：ソポクレス『アンチゴネー』と社会制度への抵抗
第4回：エウリピデス『メデイア』における女性の疎外と異邦人の関係
第5回：シェイクスピア『リチャードⅢ世』における歴史と政治の問題
第6回：シェイクスピア『ヴェニスの商人』における資本主義と疎外の問題
第7回：シェイクスピア『ハムレット』におけるメタシアターの社会的機能
第8回：近松門左衛門『国性爺合戦』と近世日本のナショナリズム
第9回：竹田出雲他『義経千本桜』における歴史と民衆
第10回：竹田出雲他『仮名手本忠臣蔵』における武士道と社会
第11回：チェーホフ『三人姉妹』における時間感覚
第12回：ブレヒト『肝っ玉おっ母』に描かれる民衆と戦争
第13回：ミラー『セールスマンの死』に描かれるアメリカンドリーム
第14回：ウィリアムズ『欲望という名の電車』における物質主義
第15回：ピンター『バースデー・パーティ』における言葉と暴力性

●事前・事後学習の内容

受講者は事前に指定された戯曲を読み、最終的なレポート作成のために授業中に行われたディスカッションを授業後にまとめておく必要がある。そのため毎週少なくとも2時間の事前・事後学習を必要とする。

●評価方法

古代ギリシャ劇、シェイクスピアの作品、人形浄瑠璃、西洋近代劇について、それぞれ少なくとも一つの作品の概要と、そこに含まれる問題意識を説明できること。評価は授業における発表内容およびディスカッションの貢献度（50%）、期末レポート（50%）によって行う

●受講生へのコメント

授業は、受講者による発表、ならびにその後教員を交えて行われるディスカッションによって進行する。

●参考文献・教材

講義開始時に指示する。

授業科目名	科目NO.	LECRS3208	授業コード	L243100010	
視覚文化資源論実習 Practical Seminar on Visual arts and Cultural Resources			単位数	2 単位	
授業形態 実習	担当教員名 菅原　真弓				

●科目の主題

文化資源はどのように地域社会で活用できるのか。本実習では、主に視覚的な文化資源と社会を結ぶ仕組みづくりを考察し、一つのプロジェクトとして企画し、これを実施する。現実的かつ実践的な企画を立てて実施するまでの手法を訓練する。

●到達目標

文化資源の地域社会での活用を考察し、実際のプロジェクトとして企画実施する能力を養う

●授業内容・授業計画

第1回:ガイダンス:文化資源と社会を結ぶ仕組みづくりとは
第2回:文化資源を社会で活かす～実例紹介とその検討
第3回:企画立案①グループディスカッション
第4回:企画立案②グループディスカッションおよびプレゼンテーション
第5回:グループワーク①
第6回:グループワーク②
第7回:グループワーク③
第8回:グループワーク④
第9回:中間総括:進捗状況報告および問題点の抽出
第10回:グループワーク⑤
第11回:グループワーク⑥
第12回:プロジェクト実施準備
第13回:プロジェクト実施準備
第14回:プロジェクト実施

●事前・事後学習の内容

授業内で適宜、事前、事後学習について指示をする。

●評価方法

グループワークでの貢献や実際のイベント作業における関わり方とその成果、加えてイベントの成果を以て評価する。

●受講生へのコメント

本授業の性格上、授業時間外での作業や検討が必要になることをあらかじめ承知しておくこと。また「文化資源を社会に役立てるには」を考え、その上で実際の事業を企画して実施することは、やがて社会人となる学生の皆さんにとって有益な学びとなると考える。また、単独ではなく、複数のメンバーとの協働は、自らの特性を知るきっかけともなると思う。この世にある仕事はすべて、「“何か”を社会に役立てる」ものである。本授業を通して「仕事とは何か」についてを考えるきっかけとなればよいと思われる。

●参考文献・教材

授業内で資料を配布したり、あるいは参考となる文献資料、サイトなどを紹介する。

授業科目名	科目NO.	LECRS3209	授業コード	L243110010	
地域文化資源論実習 Practical Seminar on Region and CulturalResources			単位数	2 単位	
授業形態 実習	担当教員名 天野　景太				

●科目の主題

前期の地域文化資源論演習と接続し、「地域づくりの現場をあるく、みる、きく」をテーマとした、現地フィールドワークを主体とした実習を行う。全課程を、参加学生のイニシアティブのもとで行うアクティブラーニング形式の実習として実施する。全国各地に住民や地元の組織が主体となって、外国人観光客を含むさまざまな人々に対して魅力を持つ地域づくりが課題となっている。そうした取組みのなかから履修者各自が事例を選び、詳細を調べ、発表する。その中から2つ程度のフィールドを選定し、実際に現地に出向いて調査を行い、文化資源の活用を通じた地域づくりの可能性について探求する。前半は、観光まちづくりの実例をサーベイし、フィールドの選定と予備調査を行う。11月から12月の週末にかけて、現地調査合宿を2回程度実施する。後半はそこで得られたデータを整理・解釈し、各自のレポートを集成して報告書を作成する。

●到達目標

地域文化資源の実態を、自らの視点・方法論に基づいて調査・分析ができる。

●授業内容・授業計画

第1回:イントロダクション～前期の振り返りと後期のプロジェクトに向けて
第2回:文化資源を活かした地域づくりに関する発表【1】
第3回:文化資源を活かした地域づくりに関する発表【2】
第4回:文化資源を活かした地域づくりに関する発表【3】
第5回:文化資源を活かした地域づくりに関する発表【4】
第6回:フィールド選定コンペ
第7回:対象フィールドに関する下調べ【1】
第8回:対象フィールドに関する　下調べ【2】
第9回:現地調査に向けての準備【1】～問題設定・旅程の検討
第10回:現地調査に向けての準備【2】～合宿計画の決定・各種手配
第11回:データの整理と解釈に関する発表【1】
第12回:データの整理と解釈に関する発表【2】
第13回:データの整理と解釈に関する発表【3】
第14回:ラウンドテーブル(座談会)

●事前・事後学習の内容

前半(第2～10回)は調査候補地、調査対象地に関する机上調査、プレゼンテーション資料の作成、調査合宿の準備、インタビュー対象者へのアポ取りなど、後半(第11～15回)は、現地調査で得られたデータの整理、分析作業、レポート(報告書原稿)の執筆、報告書の編集、協力者への礼状の作成、送付などが求められる。なお発表は個人で行うものの、現地調査プロジェクトは、グループワークを基本とするため、積極的にプロジェクトに関与し、自らの責任を果たしていくことが望まれる。

●評価方法

自ら行動し・試行錯誤する経験を経ながら、地域文化資源の実態を、自らの視点・方法論に基づいて調査・分析ができることが単位認定の最低基準である。それらを、授業参画への意欲(30%)、プレゼンテーションのクオリティ(35%)、最終レポート(35%)によって評価する。

●受講生へのコメント

本演習を通じたスキルの獲得、自己成長に強い意欲をもった学生の参加を期待する。また、現地合宿調査への参加など、一定の時間的、金銭的投資が発生することを了解の上履修されたい。また前期開講の「地域文化資源論演習」と一体的に運営するので、原則として「地域文化資源論演習」と「地域文化資源論実習」をセットで履修することが求められる。

●参考文献・教材

安福恵美子・天野景太『都市・地域観光の新たな展開』古今書院、2020年。そのほかの参考文献は、授業中に紹介する。

授業科目名	科目NO.	LECRS3303	授業コード	L243120010	
音楽文化資源論実習 Practical Seminar on Music Culture and Resrouces			単位数	2 単位	
授業形態 実習	担当教員名 沼田　里衣				

●科目の主題

本科目は、文化資源の社会的運用のありかたを理解する科目群のうち、音楽分野についての理解を深めることが目的である。授業では、音による対話とそれに関する言語的対話の方法を紹介し、音を聴く、音を出す、という原初的な体験を通して、個人の持つ表現の可能性を探求し、集団でのパフォーマンスの方法を見出す過程を体験する。数名から多数でのワークを行い、協働で創作するための実践知を培う。またそれを振り返る言語的対話を通して、既存の文化ジャンルとの関連から個々の発表がどのように意味付けられるかという批評的視点を養う。なお、音楽の経験や技術は要求しません。

●到達目標

対話を通した協働による音楽作りを学習し、多様な価値観を内包する共同制作ができること。

●授業内容・授業計画

第1回 イントロダクション：協働で音楽づくりをすること
第2回 音によるコミュニケーション1
第3回 音によるコミュニケーション2
第4回 図形を用いた実践1
第5回 図形を用いた実践2
第6回 ルールと即興音楽
第7回 音楽ゲーム1
第8回 音楽ゲーム2
第9回 音とことば1
第10回 音とことば2
第11回 作曲ワーク1
第12回 作曲ワーク2
第13回 プレゼンテーション
第14回 作品と評価
第15回 総括

●事前・事後学習の内容

授業内で学習する音楽について、適宜準備を要する。

●評価方法

対話を通じた即興的な音楽づくりを行う場をファシリテートできること。評価は、各方法の理解度を問うコミュニケーションカードによる平常点（50%）、及び価値観の異なる人々との協働による音楽体験についてまとめたレポートの提出（50%）によって行う。60%以上を合格ラインとする。

●受講生へのコメント

音の鳴るもの（楽器でなくても良い）及び簡易な文具の持参を指示する場合がある。

●参考文献・教材

各授業において、必要な文献を示し、資料を配布する。

・「即興演奏ってどうやるの―CDで聴く!音楽療法のセッション・レシピ集」野村誠、片岡祐介著、あおぞら音楽社（2004）
・「おとなと子どものための即興音楽ゲーム」リリ・フリーデマン（著）、山田 衛子（翻訳）、音楽之友社（2002）
・「授業がもっと楽しくなる 音楽作りのヒント：作曲なんてへっちゃらだー！」野村誠(著)、音楽之友社（2010）
・「フリー・インプロヴィゼーション聴取の手引き」ジョン・コルベット(著)、工藤遥(翻訳)、カンパニー社(2019)

授業科目名	科目NO.	LECRS3304	授業コード	L243130010	
舞台文化資源論実習 Practical Seminor on Culture and Theatre			単位数	2 単位	
授業形態 実習	担当教員名 小田中　章浩				

●科目の主題

本科目は、文化資源の社会的運用のあり方を理解する科目群のうち、演劇分野について理解を深めることが目的である。この授業では舞台制作を仮想的に実施する(シミュレーションする)ことによって、演劇と実社会との関わり、言語と身体表現の関係、さらに演劇制作の場における役割分担と対人関係の重要性を学ぶ。

●到達目標

人間の社会的行動の縮図として、演劇制作が果たす役割を理解し、それを他者に説得的に説明できる能力を備えること。

●授業内容・授業計画

第1回:イントロダクション:演劇制作とは何か
第2回:ィスカッションとシミュレーション:台本の選択
第3回:ディスカッションとシミュレーション:台本の選択
第4回:ディスカッションとシミュレーション:劇場の選択
第5回:ディスカッションとシミュレーション:劇場の選択
第6回:ディスカッションとシミュレーション:役割分担
第7回:ディスカッションとシミュレーション:役割分担
第8回:ディスカッションとシミュレーション:アウトリーチと費用の計算
第9回:ディスカッションとシミュレーション:アウトリーチと費用の計算
第10回:ディスカッションとシミュレーション:稽古の開始
第11回:ディスカッションとシミュレーション:稽古の開始
第12回:ディスカッションとシミュレーション:稽古の開始
第13回:ディスカッションとシミュレーション:本番前の仕込みと上演
第14回:ディスカッションとシミュレーション:本番前の仕込みと上演
第15回:活動の総括

●事前・事後学習の内容

受講者は毎回の授業に備えて、必要な情報収集、役割分担、必要な計画の実施のために緊密に連絡を取り合う必要がある。そのため毎週少なくとも2時間の事前・事後学習が求められる。

●評価方法

演劇制作の仮想的なプロジェクトにおいて自分が取るべき役割、あるいは与えられた役割を自覚して行動を起こし、それを教員を含めた他者に明示的に示すことができること。さらにプロジェクト終了時にプロジェクトの意義について客観的に記述できること。評価は授業における活動内容(70%)、および期末レポート(30%)によって行う。

●受講生へのコメント

受講者は最低1回は実際の劇場に赴き、その業務の実際について見学することが必要。ただし劇場はプロ、アマを問わない。

●参考文献・教材

授業中に適宜指示する。

授業科目名	科目NO.	LECRS3210	授業コード	L243140010	
文化資源特論 I Specific Lecture on Curtural Resources I			単位数	2 単位	
授業形態 講義	担当教員名 天野　景太				

●科目の主題

観光文化資源をめぐる歴史的展開と近年のup to dateな動向に関するテーマ(国際観光論・観光メディア論・文化政策論など)を毎年設定し、それぞれのテーマについて講義を行う。2021年度は「メディアと観光の文化資源論」をテーマとする。前半(第3～9回)は「観光とメディアの文化史」をテーマに、観光の史的展開のなかでどのような観光メディアが用いられ、人々の観光行動に対していかなる役割を果たしてきたのかについて概説する。後半(第10～14回)は「メディアイベントとしての観光」をテーマに、マスメディアによって構築される出来事という視点から観光現象を捉え、それらの諸事例を紐解きつつ概説する。

●到達目標

観光メディアの歴史や社会との関わりを理解することを通じ、文化資源論的な観点から観光メディア、ひいてはマスメディア一般の特色に関して、具体例とともに理解できる。

●授業内容・授業計画

第1回:イントロダクション
第2回:観光におけるメディア・コミュニケーションの過程
第3回:中世以前の旅の相克と旅行記・和歌
第4回:江戸の旅人と観光メディア～道中記・名所図会と『旅行用心集』
第5回:鉄道交通の発展と未踏の地への好奇心～鳥瞰図・絵はがき
第6回:ヨーロッパにおける旅行ガイドブックの誕生～『ベデカー』『マレー』
第7回:評価情報の提示～『ミシュランガイド』
第8回:観光の大衆化と広報活動～『満鉄沿線案内』『旅程と費用概算』『ブルーガイド』
第9回:脱・物見遊山の視点～『るるぶ』『地球の歩き方』とネットメディアの普及
第10回:マスメディアによって構築・拡散される観光地イメージ
第11回:「疑似イベント」としての観光～朝日新聞社が主催した世界一周ツアー
第12回:観光地の国民投票～日本新八景、日本観光地百選
第13回:地域資源の広告・宣伝論～デスティネーションキャンペーン
第14回:メディアがつくる／伝えるショーイベント～オリンピック・万国博覧会の共時性

●事前・事後学習の内容

当日の授業内容に関して文章化しノートにまとめておくと良い。授業中・授業後を問わず、授業内容に関して常に思考し、その結果を文章で表現するトレーニングを重ねておくことが望ましい。また、日頃から主体的に観光メディアに親しんでおくことが望ましい。

●評価方法

毎回、講義される内容について、的確に理解し、具体例を想起するとともに考察出来ているのかが評価のポイントであり、それが出来ることが単位取得の最低条件である。毎回の授業の最後に、コミュニケーションペーパーに授業内容を受けての自らの考察を記してもらうが、そのコミュニケーションペーパーへの回答内容(30%)と、期末試験(70%)により評価する。ただし、コミュニケーションペーパーへの回答数が学期を通じて10回未満の場合、中間レポートや期末試験の評定にかかわらず、原則としてF評価となる。なお、授業開始後30分以上遅刻した場合、コミュニケーションペーパーの回答権を失う。

●受講生へのコメント

授業は講義形式で展開する。毎回授業テーマの内容に関連するプリントを配布するが、加えて実際の観光ガイドブックの誌面や旅番組の映像、観光CMや広告、WEBサイト、イベントの写真など、ビジュアルな資料を豊富に提示していく。板書は基本的に行わないので、真剣に講義を受け、内容をリアルタイムに考察、整理しながらコミュニケーションペーパーに記入していくことが求められる。

●参考文献・教材

教科書は用いない。毎回教場にてプリントを配布する。

授業科目名	科目NO.	LECRS3211	授業コード	L243150010	
文化資源特論Ⅱ Specific Lecture on Curtural Resources			単位数	2 単位	
授業形態 講義	担当教員名 木川　剛志				

●科目の主題

文化資源としての映画やテレビ放送、デジタル動画などの映像コンテンツに注目し、それらが社会において果たしてきた役割を歴史的に考察するとともに、現在国内外で行われている映画あるいは映像イベントについて、それらを文化的、社会的、あるいはイデオロギー的なコンテクストの中で読み解くことによって、その意義について検討する。

●到達目標

文化資源としての映画やテレビ放送、デジタル動画などの映像コンテンツの歴史的経緯とその意義について理解を深める。

●授業内容・授業計画

第1回　概説：映像とはなにか。
第2回　映画の誕生：リュミエール兄弟、シネマトグラフと映像の原体験
第3回　メディアとは1：マクルーハン「メディアはメッセージである」
第4回　メディアとは2：ハーバード・J・ガンズ、メディアとコミュニティ
第5回　エンターテイメントとしての映画：チャップリンを中心に
第6回　日本映画の誕生：その歴史と特徴、黒澤明と小津安二郎の比較を通じて
第7回　1-6のまとめ
第8回　映像とジャーナリズム
第9回　日本における映画文化：ATGを中心に
第10回　映画からテレビへ：劇場からお茶の間へ
第11回　テレビからネットへ：アメリカと日本の構造的差異
第12回　映画祭、ローカルから世界へ
第13回　観光映像：マーケティングと動画配信のこれからの形
第14回　5G時代の映像のあり方
第15回　試験

本授業では映像の歴史を扱うので、現在の常識では不適切と思われる表現の映像も閲覧することもある。その際には閲覧前に不適切な理由も説明した上で上映する。また、見ることを望まない受講者の一時退出も認める。

●事前・事後学習の内容

本授業では取り扱うメディア作品や映画などを見たことを前提に授業を進める。短い作品は授業内でも上映するが、多くは授業時間内では鑑賞できない長さの作品なので、受講者は事前に見ておくこと（2時間程度）。また、行った授業に関するReading Listも提供するので事後に復習を行うことが望ましい（2時間程度）。

●評価方法

試験50%　レポート30%　毎回の授業で配るコメントシート20%の配分で評価する。

●受講生へのコメント

本授業では、メディア学から映画、情報学と幅広い分野を学ぶ。そのためにもっとも重要なことは好奇心であり、授業内で扱う内容だけでなく、映像全般に興味を持っていることを期待する。また授業内でも興味への動機付けを積極的に行う。

●参考文献・教材

参考文献

吉見俊哉「メディア文化論」有斐閣
伊藤守「よくわかるメディア・スタディーズ」ミネルヴァ書房
吉田喜重「小津安二郎の反映画」岩波現代文庫""

授業科目名	科目NO.	LECRS3305	授業コード	L243160010	
文化資源特論Ⅲ Specific Lecture on Curtural Resources			単位数	2 単位	
授業形態 講義	担当教員名 福田　一史				

●科目の主題

文化資源としてのマンガ、アニメ、デジタルゲームの可能性について検討する。これらを対象とした文化振興の方策について、草の根のゲーム博物館の運営や地域組織のコスプレイベントの仕掛けづくりといった、アーカイブやツーリズム分野における実践事例に基づきつつ展望する。

●到達目標

文化資源としてのマンガ、アニメ、デジタルゲームの可能性について検討し、現代における社会的な役割と今後について展望する。

●授業内容・授業計画

第1回:ガイダンス

講義構成や評価ポリシーなど、その枠組みを紹介する。また、本講義で主要なテーマとなる文化資源の定義を整理し、近年の動向を概観する。

第2～3回:文化資源としてのマンガ・アニメ・デジタルゲーム

これまで文化資源研究の主要な対象は、伝統的な文化資源や、学術資源などであった。それらと比較して、本講義で対象となるマンガ・アニメ・デジタルゲームなどは、いくつかの点において性質を異にする。ここでは、これらの文化資源としての特徴について議論する。

第4～6回:文化資源の保存と情報化

2001年に制定された「文化芸術振興基本法」では、マンガ・アニメ・デジタルゲームなどのポピュラー文化も、その対象として想定されている。そのような背景もあり、これらを保存し、活用する施策が各地で行われるようになった。また、各分野の研究・教育なども活発化しつつあり、それらをいかに情報化し、学術的・産業的に利活用する基盤を構築するかということも一つのテーマとなっている。ここではそのような保存や情報基盤構築の現状と、今後の展望などについて議論する。

第7回:文化資源の保存と情報化:海外の動向

文化資源の保存と情報化について、海外の事例などを紹介しつつ、その動向を紹介する。

第8～9回:文化資源の利活用

フィルムコミッションなどに見られる通り、映像などの文化資源を活用した地域振興などの利活用事例は古くから展開されてきた。2000年代以降は、アニメーションをテーマにした町おこしイベントや聖地巡り、ゲームの見本市の開催など、ポピュラー文化に根ざした新しい地域振興やアイデンティティ形成などが行われるようになっている。ここでは、そのような活動の全体像を捉えるとともに、権利者やファンなどとどのように関係性を構築すべきか、といった論点について論じる。

第10～11回:文化資源の利活用(事例研究)

文化資源を用いた地域振興、またポピュラー文化振興のための施策、これらについて事例を取り上げて、具体的に検討を行う。その上で、文化資源を如何にして振興すべきか、またポピュラー文化をそのような施策に用いる上で問題点がどのよう形で生じるか、また以下に文化資源を創造するコミュニティに貢献できるか、講義参加者らとディスカッションを行う。

第12～14回:グループワーク

受講生でグループを組織し、文化資源の保存と情報化、もしくは文化資源の利活用をテーマとする調査を実施する。また、第14回目の講義の際に、各グループの調査結果の発表を実施する。

第15回:総括

ここまでの講義内容を振り返り、包括的な整理を行うほか、ディスカッションによる補完を実施

する。

●事前・事後学習の内容

各講義で配布する講義資料やスライドを活用し、事後学習を実施することを推奨する。

また、セッションごとに文献が指定され、その講読が必要となることがある。

●評価方法

以下の割合により評価を実施する。最も大きな割合を占めるのはレポートであるが、出席点や講義での発言など、講義期間全般のコミットメントを重視する。

・講義への出席・グループワークにおけるコミットメント(30%)

・講義での発言や課題の提出(30%)

・レポート(40%)

●受講生へのコメント

講義の後半でグループワークを実施する。

●参考文献・教材

教科書・参考文献は指定しない。ただし、講読すべき文献は随時講義中に指定する。

授業科目名	科目NO.	LECRS3212	授業コード	L243170010	
文化資源論特別演習 Special seminar in Cultural Resources studies			単位数	2 単位	
授業形態 演習	担当教員名 天野　景太				

●科目の主題

さまざまな文化資源を文化的所産として、文化論、社会文化史的に、あるいは社会事象として社会学、経済・経営学的にアプローチする視点、手法を学ぶ。また検討を経た上で、これを社会に活かす方法を考察できるようにする。履修者各自が関心のある任意の文化資源を取り上げ、その文化資源の特徴を調べた上で自らの視点に基づきつつ論理的に考察を行い、その成果を他者（演習参加者）に対してプレゼンテーションする。各教員が開講する「文化資源論演習／実習」科目が実践を重視する科目であるのに対し、本科目は、来たるべき卒業論文の執筆に向けて必要となる学問的な考究や論述に関するトレーニングを重視する科目と位置づけられている。

●到達目標

「文化資源」という存在についての複眼的なアプローチを学び、文化資源の価値を相対化する視点を獲得できると同時に、これを社会に生かすすべが身につく。文化資源を対象とした学術研究に向けた視点や手法を獲得する。

●授業内容・授業計画

第1回：イントロダクション
第2回：教員による文化資源の呈示の実演
第3回：参加者によるプレゼンテーション【1】
第4回：参加者によるプレゼンテーション【2】
第5回：参加者によるプレゼンテーション【3】
第6回：参加者によるプレゼンテーション【4】
第7回：参加者によるプレゼンテーション【5】
第8回：参加者によるプレゼンテーション【6】
第9回：参加者によるプレゼンテーション【7】
第10回：参加者によるプレゼンテーション【8】
第11回：参加者によるプレゼンテーション【9】
第12回：参加者によるプレゼンテーション【10】
第13回：参加者によるプレゼンテーション【11】
第14回：まとめ、振り返り

●事前・事後学習の内容

事前学習として、自らが取り上げたい文化資源に関する資料（先行研究、雑誌記事、WEB記事など）を丹念に調査し、目録化など各自の視点から整理すること、さらに、それを社会で活かすためにはどのように「魅せて」いけばよいのかを考えながら、プレゼンテーションに向けた準備が求められる。プレゼンテーションの後は、レポートの執筆に向けて上記の作業をより精緻に行っていくことが求められる。

●評価方法

任意の文化資源に対して自らの調べ、まとめた成果を、熱意をもって他者に対して説得的に語ることができることが、評価のポイントであり、単位認定の最低基準である。それを、授業参画への積極性とプレゼンテーションの成果（50％）と、最終レポート（50％）により評価する。

●受講生へのコメント

たとえば日本の芸術文化を例にとるなら、日本画や版画、寺院建築、雅楽、純文学、日本舞踊、茶道、和食などを想起するかもしれないが、街場の広告やお菓子の空き箱、ゆるキャラグッズ、ギャルメイク、地下アイドル、深夜アニメ、スマホゲーム、B級グルメに至るまで、丹念に記録・資料化していくことで、等しく文化資源として位置づけることができる。それらを「まじめに」ガクモンすることへの意欲を持った者の参加を期待したい。なお、文化資源活用の現場学習の一環として、博物館、見本市等エキシビジョンの見学、まち歩き

ツアーへの参加など、インターンシップ的な行事も適宜企画し、実施する（参加の有無は成績評価には反映しない）。

●参考文献・教材

教科書は用いない。参考文献は、適宜授業中に紹介する。

授業科目名	科目NO.	LXGEN3201	授業コード	L200110010	
美術史通論 Outline of Art History			単位数	2 単位	
授業形態 講義	担当教員名 宇埜 直子				

●科目の主題

西洋美術史の基礎をなす様式と主題について学ぶ。

●到達目標

具体的な西洋の美術作品を通して主題解釈と様式分析について理解する。西洋美術の読み解きに必要となるキリスト教やギリシャ・ローマ神話、アトリビュートなどの知識を習得する。

●授業内容・授業計画

第1回　美術史とは何か
第2回　ゴシック末期からバロックまでの様式変遷
第3回　受胎告知と聖母
第4回　キリスト伝1
第5回　キリスト伝2
第6回　最後の審判
第7回　聖人1
第8回　聖人2
第9回　聖会話
第10回　神話画1
第11回　神話画2
第12回　寓意画
第13回　風俗画
第14回　風景画

●事前・事後学習の内容

講義内容が連続的かつ多重的なため事後学習に努めてください。

●評価方法

各回の小レポート(50%)、期末レポート(50%)

●受講生へのコメント

西洋美術に関心のある学生を歓迎します。

●参考文献・教材

プリントを配布し、参考文献は適宜指示します。

授業科目名	科目NO.	LXGEN3202	授業コード	L200120010	
民俗学 Folklore				単位数	2 単位
授業形態	担当教員名				
講義	岡本　真生				

●科目の主題

日本では、これまで「民俗学」といえば、「柳田國男の民俗学」のイメージのもと、古くから伝わる民間伝承を研究する学問と認識されてきた傾向が強かったように思われる。しかし、民俗学は、日本国内でのみ生み出された学問ではない。

近年、「民俗」とは、「何らかの社会的コンテクストを共有する人びとの一人としての個人の生世界において、生み出され、生きられる経験・知識・表現で、とくに、啓蒙主義的道理性では必ずしも割り切ることのできない、あるいは覇権主義や普遍主義、主流的・中心的思考とは相入れない、意識・感情・感覚をそこに見出すことができるもの、もしくは見出すことができると予期されるもの」〔島村　2019 66〕とされている。本講義は、この定義にもとづいてすすめる。

講義全体は2部構成とする。「第1部　現代の民俗学」は第2回から第9回までを、「第2部　日本民俗学」は第10回から第12回までとして、第13回から第15回にかけて全体総括を行う予定である。

●到達目標

(1) 現代民俗学の基礎的知識と方法論を理解することができる。

(2) 具体例を示しながら、(1)を説明することができる。

●授業内容・授業計画

第1回: 民俗学とはどのような学問か
第2回: 世界民俗学学史①:ドイツを中心に
第3回: 世界民俗学学史②:中国、アメリカを中心に
第4回: フィールドワークの方法
第5回: 現代の民俗学①:インターネット
第6回: 現代の民俗学②:世界遺産、日本遺産
第7回: 現代の民俗学③:聖地巡礼
第8回: 現代の民俗学④:小括
第9回: 日本民俗学学史①:柳田國男
第10回: 日本民俗学学史②:採集と研究会
第11回: 日本民俗学学史③:都市で考える
第12回: 日本民俗学学史④:個人から考える
第13回: 民俗と信仰
第14回: 全体総括
第15回: 全体総括

●事前・事後学習の内容

ミニ・レポートを計5回提出してもらう。

ミニ・レポート課題は、その都度指定する(1000字程度)。

たとえば、つぎのような課題が考えられる。

ⅰ)指定された論文を読み、自分の考えを述べる。

ⅱ)民俗の定義にもとづいて、日常生活の身近なヴァナキュラー文化を発見し、自らが発見したヴァナキュラー文化の具体例を説明する。

これらの課題に即して、事後学習を行うこととなる。事前学習は各自の判断に任せる。

●評価方法

ミニ・レポート(12点満点×5回)および期末レポート(40点満点)によって評価する。

●受講生へのコメント

遠隔授業となります。

【発展】形式

本授業では、PowerPointに音声を録音した動画ファイルを配信します。

また適宜、参考動画も共有します。

各自ノートをとりながら受講してください。

講義形式ですが、単なる知識の習得だけではなく、自らの生活と照らし合わせて、考えていく姿勢を望みます。

●参考文献・教材

教科書は特に指定しない。

（参考書）:

桑山敬己・島村恭則・鈴木慎一郎2019『文化人類学と現代民俗学』風響社

授業科目名	科目NO.	LEASA3208	授業コード	L242140010	
文化人類学 Cultural Anthropology			単位数	2 単位	
授業形態 講義	担当教員名 多和田　裕司				

●科目の主題

本講義は、文化人類学の中心的概念である「文化」についての理解を深めることを目的とする。人間の行動は知らず知らずのうちに文化によって拘束されている。その一方で、自らの行動をとおして文化を創り上げ、それを変化させてきたのも他ならぬ人間である。講義では、このような人間行動と文化のダイナミックな関係をあきらかにし、文化を動態的に把握する方法について考えていく。

●到達目標

本講義は、受講生が、(1)文化概念、(2)「異」文化理解をめぐる諸問題、(3)動態としての文化等の諸点について、文化人類学における代表的議論を把握するとともに、その作業を通して文化について考察するための自らの立脚点を作り上げることを到達目標とする。

●授業内容・授業計画

この授業は対面により実施する(予定)。

授業は、毎回の課題として設定される基本文献の事前学習を前提に、当該文献についての解説および授業参加者による討論を通しての内容理解という形で進められる。なお個別の授業計画およびそこで扱われるテーマは以下の通りである。

第1回 オリエンテーション:講義のポイント、授業の進め方、課題文献の紹介、評価方法についての説明
第2回 人類学における文化概念(テーマ解説):人類学は文化をどうとらえてきたか
第3回 人類学における文化概念(1)
第4回 人類学における文化概念(2)
第5回 人類学における文化概念(3)
第6回 「異」文化理解をめぐる諸問題(テーマ解説):多文化主義と「文明の衝突」論、文化相対主義の可能性と限界、オリエンタリズム
第7回 「異」文化理解をめぐる諸問題(1)
第8回 「異」文化理解をめぐる諸問題(2)
第9回 「異」文化理解をめぐる諸問題(3)
第10回 動態としての文化(テーマ解説):文化とナショナリズム、越境する文化、現代消費社会における文化、文化の力
第11回 動態としての文化(1)
第12回 動態としての文化(2)
第13回 動態としての文化(3)
第14回 動態としての文化(4)
第15回 総合討論

●事前・事後学習の内容

毎回設定される課題文献を事前に読んだ上で、内容についての要点整理、疑問点の洗い出し等を行っておくこと。

●評価方法

平常点をもとに総合的に評価する。平常点は、課題文献に関する議論のさいの発言回数を基礎として算出する。授業に積極的に関わらない者(出席していても議論に参加しない者など)については評価しない。

●受講生へのコメント

各回の課題文献や授業の進め方についてはオリエンテーション時に説明するので、受講希望者は必ず出席すること。なお本講義には演習的な授業形態も取り入れているので、受講希望者はこの点を了解した上で受講すること。

●参考文献・教材

オリエンテーション時に指示する。

授業科目名	科目NO.	LEASA3201	授業コード	L242010010	
アジア文化学基礎論 Introduction to Asian Studies			単位数	2 単位	
授業形態 講義	担当教員名 多和田　裕司				

●科目の主題

本講義では、アジア文化を学ぶための基礎的な知識の修得を目指す。東アジア、東南アジアを中心に、自然、地理、歴史、宗教、政治、経済などアジアについての基本的な事項を概説するとともに、アジア文化をとらえるさいの着目点やアジア文化の活用などについて教授する。

●到達目標

東アジア、東南アジアの文化と社会について基本的な説明ができる。アジア文化を学問的対象として「課題化」することができる。

●授業内容・授業計画

この授業は対面により実施する。

第1回：アジア文化を学ぶ意義
第2回：東アジア・東南アジア概観(1)：自然と地理
第3回：東アジア・東南アジア概観(2)：歴史
第4回：東アジア・東南アジア概観(3)：宗教
第5回：東アジア・東南アジア概観(4)：政治と経済
第6回：アジア文化を学ぶ視点(1)：アジアの共通性
第7回：アジア文化を学ぶ視点(2)：アジアの多様性
第8回：アジア文化を学ぶ視点(3)：アジアはひとつなのか多様なのか？
第9回：アジア文化の活用(1)：商品化と観光文化
第10回：アジア文化の活用(2)：アジア的価値論
第11回：アジア文化の活用(3)：ソフトパワー
第12回：現代アジアにおける文化の共通化(1)
第13回：現代アジアにおける文化の共通化(2)
第14回：課題としてのアジア文化
第15回：講義の総括

●事前・事後学習の内容

授業中に配布される資料をもとに、基本的概念や用語などについて事前、事後に確認しておくこと。授業中に示される課題文献について予習しておくこと。

●評価方法

到達目標への達成度をもとに評価する。評価は、期末レポート(70%)と小テスト(30%)(3回程度を予定)によって行う。合格のための最低基準として、東アジア、東南アジアの文化と社会について基本的な説明ができること、ならびにアジア文化を学問的対象として「課題化」することができることを求める。

●受講生へのコメント

講義科目であるが、課題文献の予習を前提にした演習的な要素も適宜組み込んで授業をおこなう。

●参考文献・教材

授業中に資料を配付する。

授業科目名	科目NO.	LECRS3202	授業コード	L243020010	
観光文化論 Lecture on Tourism in Cultural Context			単位数	2 単位	
授業形態 講義	担当教員名 天野　景太				

●科目の主題

本科目では、文化資源の社会的運用のあり方に関して扱う科目群のうち、観光領域におけるあり方を中心に講義する科目である。観光を文化現象として捉え、現代観光の文化的な特質について、関西を中心とした国内外のさまざまな事例に基づきながら考察する。具体的には、「現代日本・大阪におけるニューツーリズムの観光文化論」をテーマとする。観光文化とは、観光者や観光事業者といった主体が紡ぎ出す観光経験や観光形態の諸相、あるいは、観光を通じた文化の交流等により生成、展開していく地域文化の諸相のことで、場所や時代によってさまざまな展開をみせている。特に近年においては、「見物」や「遊楽」といった昔ながらの観光スタイルだけではなく、各地で体験型観光や地域独自の魅力の発掘、持続可能な観光の推進などに象徴されるような新しい観光文化（ニューツーリズム）のあり方が模索されている。本科目では、これらの文化的な特質の解読を通じて、観光文化のダイナミズムに関して検討する。

●到達目標

授業の内容を自らの身近な地域において展開する具体的な観光文化の考察に敷衍することで、観光文化の多様性に関して理解を深めることができる。また、現在政府（観光庁）の施策としても「ニュー・ツーリズム創出・流通促進事業」が推進されるようになっているが、それらの批判的検討を含め、観光を一つの文化現象として総合的、相対的に捉える視点を獲得できる。さらに、文化ガイドなど、地域における観光文化の担い手として実際に活躍するための素養を身につけることができるたり、観光における文化変容のダイナミズムを捉えるセンスを養うことができる。

●授業内容・授業計画

第1回：イントロダクション～現代における観光文化の諸相と変容
第2回：飽くなき食文化の探求～フードツーリズム
第3回：“ストレス解消”から“ウェルネス”の探求へ～ヘルスツーリズム
第4回：大阪・関西万博の観光的インパクト～イベントツーリズム
第5回：ものがたりの足跡を訪ねる～コンテンツツーリズム
第6回：「大人の社会科見学」は浸透するのか？～インダストリアルツーリズム
第7回：国際観光地としての日本橋オタロード～サブカルチャーツーリズム
第8回：昭和の追憶と郷愁の彼方へ～レトロツーリズム
第9回：千社詣からドラクエウォークまで～ゲーミングツーリズム
第10回：被災記憶の継承から復興への願いをかたちに～ダーク／ボランティアツーリズム
第11回：観光行動が「エコ活動」となるのか？～エコツーリズム【1】
第12回：観光振興と環境保護は両立できるのか？～エコツーリズム【2】
第13回：「廃」なるものの固有価値を求めて～ヘリテージツーリズム
第14回：観光を通じた都市と農村の交流～グリーン／ブルーツーリズム

●事前・事後学習の内容

全回を通じて、ニュースなどを通じて日頃から講義内容に関連する観光に関する動向についての情報収集を行ってほしい。その上で事後学習として、授業内容を参考に自身で構想するニューツーリズムの企画や、実施の可能性についてのシミュレーションが求められる。

●評価方法

毎回、講義される観光文化のあり方について、的確に理解し、具体例を想起するとともに考察出来ているのかが評価のポイントであり、それが出来ることが単位取得の最低条件である。毎回の授業の最後に、コミュニケーションペーパーに授業内容を受けての自らの考察を記してもらうが、そのコミュニケーションペーパーへの回答内容（30%）と、中間レポート（35%）、期末試験（35%）により評価する。

ただし、コミュニケーションペーパーへの回答数が学期を通じて10回未満の場合、中間レポートや期末試験の評定にかかわらず、原則としてF評価となる。なお、授業開始後30分以上遅刻した場合、コミュニケーションペーパーの回答権を失う。

●受講生へのコメント

本科目は文学資源コースの選択必修科目であると同時に、大阪市立大学文学部履修証明プログラム「大阪文化ガイド＋講座」の必修科目となっている。この意味で、大阪を中心とした関西の事例を取り上げ、身近な地域における今後の観光文化のあり方について考えてもらえることを意識しつつ講義を展開する。また授業中に写真や映像などのビジュアルな資料を豊富に呈示する。板書はほとんど行わないので、講義内容をリアルタイムに考察、整理しながらメモをとっていくことが求められる。受講者は単に授業の内容を記憶するだけではなく、授業の内容と自分の過去の観光体験等とをリンクさせつつ、理解・考察する姿勢をもって授業に臨んでもらいたい。また、観光や異文化コミュニケーションに関してより深く探求したい学生は、観光現象に関してより複眼的な視野を獲得する意味で「文化資源特論Ⅰ」「日本文化発信のための英語」、全学共通教育の「観光研究入門」「観光と文化」「地域実践演習」などを並行履修することを推奨する。

●参考文献・教材

安福恵美子・天野景太『都市・地域観光の新たな展開』古今書院、2020年。ほか、毎回教場にてプリントを配布する。参考文献は、必要に応じて授業中に紹介する。また、観光文化に関するup to dateな話題は、新聞やインターネット等を通じて入手されたい。

授業科目名	科目NO.	LXGEN3206	授業コード	L200400010	
観光文化実践演習 Seminar and Practice in Culture and Tourism			単位数	2 単位	
授業形態	担当教員名				
演習	天野　景太				

●科目の主題

履修者各自の地元、あるいは大阪市およびその周辺地域を対象として、インタープリテーション（ガイド）の企画と実践、ガイドマップの作成、観光モデルコースのデザイン、などをワークショップ形式で行う。出来上がった成果物は、ボランティアガイドの方々にとっては、各自の実践活動に役立てていただけるようなものを目指す。履修者の人数により、ガイドマップづくりやモデルコースづくりに関しては、数人のグループ単位で実施する可能性もある。

●到達目標

着地型観光の企画、フィールドワーク、観光メディアの編集、観光モデルコースのデザインなどの総合的な実践を通じて、地域資源の発掘、魅力の洗い出し、他者への呈示の工夫など、自身が観光文化の担い手として活躍できるための基礎的な素養を体得していただくことを目指すものである。そのため、観光・旅行に興味があったり、観光業界への就職を目指す学生のみならず、文化の発信、異文化コミュニケーション、インスタグラム、まち歩き、イベントの企画や運営、広告などに興味を持つ学生の履修も歓迎する。

●授業内容・授業計画

授業は3つのパートに分けて行われる。第一に、地域資源の発掘と呈示の実践として、地元を歩きその地域の文化的実態を観察、記録、さらにそれらの魅力を観光客などの訪問者に呈示するための工夫を考え、発表する。第二に、観光ガイドマップの作成の実践として、各自のなじみのある地域をプリントメディアに表現することで、地域文化を呈示する工夫を考え、発表する。第三に、観光モデルコースの企画の実践として、多様な文化的背景をもつ観光客に対して、周遊旅行やまち歩きのプロデュースを想定したプランをデザイン、発表する。また、履修者の関心に応じて、旅行会社のツアープロデューサーなど観光実践の第一線で活躍されている方をゲストスピーカーとして招聘することも検討したい。

第1回：ガイダンス
第2回：観光文化を創造する・地域文化のリアリティへの感応力を磨く！（講義形式）
第3回：観光的魅力の洗い出しから文化の呈示の実際（講義形式）
第4回：フィールドノートからく地域文化の呈示へ（実習）
第5回：インタープリテーション（ガイド）の実践(1)（発表と討論）
第6回：インタープリテーション（ガイド）の実践(2)（発表と討論）
第7回：観光メディアをデザインする～絵地図をつくる（講義形式）
第8回：ガイドマップづくり（実習）
第9回：ガイドマップのプレゼンテーション(1)（発表と討論）
第10回：ガイドマップのプレゼンテーション(2)（発表と討論）
第11回：観光行動をデザインする～まち歩きのデザイニング（講義形式）
第12回：観光モデルコースとまち歩きツアーの企画（実習）
第13回：観光モデルコースとまち歩きツアーの企画(1)（発表と討論）
第14回：観光モデルコースとまち歩きツアーの企画(2)（発表と討論）

●事前・事後学習の内容

授業内容に示したとおり、授業全体を通じて、最低3回の成果発表が求められます。そのための現地取材を含む下準備、資料の作成、発表後に得られた知見に基づく事後の修正やさらなる完成度の向上が、主たる学習内容である。

●評価方法

各パートにおける発表と討論を中心に評価する。具体的には、実習の成果および発表（70%）、討論への参加度（30%）に関して加点方式で評価を行う。ただし、出席率が70%を下回った場合、3つのパートにすべてにおいて発表がなされなかった場合、原則としてF

評価となる可能性がある。

●受講生へのコメント

授業時間は、主に各自の成果物の発表と討論の場となります。そのため、ガイドマップやガイド資料などの制作のための現地取材、観光パンフレットなど既存のメディアのレビューなど、授業時間外に於ける各自の活動が多くのウエイトを占める。そのための相応の時間的、場合によっては金銭的な負担が発生することを了解の上、履修を検討されたい。

＊「大阪文化ガイド＋講座」受講者の方へ：本科目と他の科目との関係ですが、「大阪の地域・文化実践演習」や「歴史のなかの大阪」などの科目の受講を通じて得られた個々の大阪の歴史や文化に関する知識を、第一に観光プロデュースという視点から捉え直してみること、第二に個々の観光スポット（点）をマップやトラベルプランに展開し、線や面として表現することが（本科目の）眼目です。

●参考文献・教材

観光文化の呈示の実践に関する参考文献として、西村幸夫編著『観光まちづくり：まち自慢からはじまる地域マネジメント』学芸出版社、などがある。その他参考文献は授業時に紹介する。

授業科目名	科目NO.	LXGEN3208	授業コード	L200160010	
広報情報論Ⅱ Advertisements and InformationⅡ			単位数	2 単位	
授業形態 講義	担当教員名 中嶋　晋平				

●科目の主題

広告・広報・宣伝－これらの用語は、現在では日常的に使われているものの、その違いが意識されることは少ない。しかし、インターネット等の発達に伴い、マス・コミュニケーションが我々にとってより身近なものとなっている現代社会において、これらを概念的に整理し、それぞれの意味や歴史性を理解することは重要である。本講義では、とりわけ広報の歴史と現状の課題を明らかにし、理解を深めることを目的とする。

●到達目標

1）広報・PRに関する歴史および概念について体系的に理解する。

2）現在、各組織体が行っている広報・PRの考え方や実際の活動について理解する。

3）広報・PRに関わる諸問題を理解し、今後のあり方について考察する力を身につける。

●授業内容・授業計画

第 1 回　ガイダンス、広報・PRとは
第 2 回　日本広報史①－戦前期の「広報」
第3回　日本広報史②－敗戦後から高度経済成長期まで
第4回　日本広報史③－大衆消費社会の広報・PR
第5回　日本広報史④－問われる企業の社会性
第6回　日本広報史⑤－成熟社会における広報
第7回　日本広報史⑥－バブル後の広報
第8回　日本広報史⑦－21世紀の広報と課題
第9回　マーケティングPR
第10回　インターネットと広報・PR
第11回　社会貢献と広報・PR
第12回　災害時の広報・PR
第13回　非営利組織の広報・PR
第14回　行政広報
第15回　試験

●事前・事後学習の内容

事前学習として、教科書・参考書の該当箇所を読んでおくこと。また授業後は試験に備えて、教科書、ノート、配布資料を読み返し、授業内容の理解に努めるようこと。

●評価方法

出席等平常点40%、期末試験60%

●受講生へのコメント

本授業では、学術的な視点から広報・PRについて取り上げる。

●参考文献・教材

教科書：伊吹勇亮・川北眞紀子・北見幸一・関谷直也・薗部靖史『広報・PR論　パブリック・リレーションズの理論と実際』世界思想社
参考文献：猪狩誠也『増補版　日本の広報・PR100年　満鉄、高度成長そしてグローバル化社会』同友館
その他、参考資料は適宜紹介する。

授業科目名	科目NO.	LXGEN3209	授業コード	L200170010	
マス・コミュニケーション論Ⅰ Mass Communication Studies Ⅰ				単位数	2 単位
授業形態 講義	担当教員名 湯谷　茂樹				

●科目の主題

マスコミュニケーションの主体であるマスメディアの役割について、過去から現在までの新聞報道を中心に考える。
そのなかで、報道対象となる時事問題や近現代の歴史についても学ぶ。

●到達目標

時事問題を学ぶ過程で、現代史の基礎知識を身につけ、大まかな歴史認識、時代感覚を獲得する。社会の諸問題に向き合い、問題解決の回路を探る力を身につける。そのためのツールとして、新聞の活用方法を習得する。

●授業内容・授業計画

本授業は対面で行う予定。
下記のテーマについて新聞報道などを題材にマスメディアの役割を考察する(テーマは変更する可能性がある)。
講義のテーマに関連した小論文の提出を求めることなどもある。
第1回 マスメディアとは
第2回 権力とマスメディア
第3回 新型コロナ
第4回 地球温暖化
第5回 日本と中国
第6回 沖縄と日本
第7回 労働と格差
第8回 表現の自由
第9回 事件報道
第10回 プラバシーと安全
第11回 災害と防災
第12回 日本と韓国、北朝鮮
第13回 愛国心
第14回 平和のために
第15回 試験

●事前・事後学習の内容

図書館などを活用してふだんから新聞を読んでほしい。授業で取り上げたテーマに関する記事などにも積極的にあたってほしい。
講義内容に関係する小論文の提出を求めることがある。

●評価方法

期末試験＝65%　日常点・その他＝35%

●受講生へのコメント

社会の出来事を巡って、さまざまな情報が発信されている。そうした出来事について考え・判断する際、新聞は役に
立つツールだ。新聞記者としての経験をもとに、授業の際のコミュニケーションカードなどを通じたみなさん
とのやりとりも踏まえ、情報をいかに判断し、社会の諸問題にどのように向き合うかについて共に考えていきたい。

●参考文献・教材

教科書は使わない。必要に応じプリントを配布したり、参考文献を紹介したりする。

授業科目名	科目NO.	LXGEN3211	授業コード	L200190010	
中国古典語Ⅰ Classical Chinese Ⅰ			単位数	2 単位	
授業形態 講義	担当教員名 垣内　智之				

●科目の主題

日本における中国古典語(漢文)受容の歴史を辿ったうえで、漢文という外国語を日本語に翻訳する訓練を行なう。

●到達目標

主に江戸時代に出版された和刻本漢籍(訓点が付けられた中国語文献)を資料として中国古典に触れることで、同じ文章に対しても異なる訓読が行なわれてきた事実を確認する。あわせて、自らが訓読する際にどのような基準に立つべきか、中国語の語法、日本語の文法を踏まえて考察することを目標とする。

●授業内容・授業計画

高校生向けの参考書などには、漢文は〈句形〉を暗記したうえで訓読すべきとするものもあるが、現在一般的に行なわれている訓読法は、長い歴史のなかで生み出された様々な読み方を元にして整理されたものであり、訓読に唯一絶対の規則があるわけではない。

本講義では、まず漢文が日本語に与えた影響などを考えたうえで、現代中国語と古典中国語の違いと共通点、古典中国語における書き言葉と話し言葉の違いなどを確認する。そのうえで、日本における漢文訓読の歴史を辿り、訓読において許容される幅を考えながら、実際に読解の訓練を行なう。

第1回　日本語と漢文
第2回　古典中国語と現代中国語／文言と白文
第3回「漢文教授ニ関スル調査報告」(明治45年官報8630号)を読む
第4回　工具書の使い方
第5回　資料選読①
第6回　資料選読②
第7回　資料選読③
第8回　資料選読④
第9回　資料選読⑤
第10回　資料選読⑥
第11回　資料選読⑦
第12回　資料選読⑧
第13回　資料選読⑨
第14回　資料選読⑩
第15回　試験

●事前・事後学習の内容

第1・2回の事前学習

高校等で学習した内容を振り返り、可能であれば、使用していた参考書等を確認すること。

第3回以降の事前学習

講義時等に配布する事前学習用資料を読んでおくこと。課題については、資料配付時に指示する。

事後学習

限られた時間のなかで、訓読するうえで重要な語句や語法を網羅的に取り上げるのは不可能である。講義後は、講義内容について整理するとともに、関連する語句や語法等について、漢和辞典や参考書を利用して各自で確認すること。疑問点があれば、次回の講義時に質問できるように準備すること。

WebClassを利用して配布する補足資料等の内容を確認すること。

●評価方法

評価の割合は、平常（50％）、期末試験（50％）を基準とする。

講義中にも、訓点の付け方，書き下し，現代日本語訳などの実力を試す問題に取り組んでもらう。これらの点数のほか、発表内容、受講態度などで平常評価を算出する。

●受講生へのコメント

第4回以降、訓読の訓練にあたっては漢和辞典を持参すること。

後期の「中国古典語Ⅱ」と連続して受講することが望ましい。

●参考文献・教材

テキストは指定しない。随時、複写資料を配布する。

参考文献

戸川芳郎監修『全訳　漢辞海　第四版』（三省堂）

江連隆著『漢文語法ハンドブック』（大修館書店）

沖森卓也『日本の漢字　1600年の歴史』（ベレ出版）

授業科目名	科目NO.	LXGEN3212	授業コード	L200200010	
中国古典語Ⅱ Classical Chinese Ⅱ			単位数	2 単位	
授業形態 講義	担当教員名 垣内　智之				

●科目の主題

前期の「中国古典語Ⅰ」に引き続き、中国古典語（漢文）受容の歴史を辿りつつ、漢文という外国語を日本語に翻訳する訓練を行なう。

●到達目標

主に江戸時代に出版された和刻本漢籍（訓点が付けられた中国語文献）を資料として読解の訓練を行ない、漢文訓読の力をさらに高めることを目標とする。あわせて、中国古典文献を扱う際の基本的な手続きを確認する。

●授業内容・授業計画

前期の「中国古典語Ⅰ」の内容を踏まえつつ、訓読の訓練を行ない、自らが訓読する際の基準を確立していく。
後期の講義では、目録における著録状況の確認や解題の読解を通じて個々の文献の性格を知るといった、中国古典文献を扱う際の基本的手続きの確認を通じて、中国古典文献の全体像を概観する。また、陰陽や五行といった基本的な概念についても確認し、中国文化に対する認識を深める。

第1回　訓読の変遷
第2回　中国古典文献と目録学
第3回　儒教経典概説
第4回　注釈の読み方
第5回　資料選読①
第6回　資料選読②
第7回　資料選読③
第8回　資料選読④
第9回　資料選読⑤
第10回　資料選読⑥
第11回　資料選読⑦
第12回　資料選読⑧
第13回　資料選読⑨
第14回　資料選読⑩
第15回　試験

●事前・事後学習の内容

第1回の事前学習

漢文に関する既習事項を確認しておくこと。

第2回以降の事前学習

講義時等に配布する事前学習用資料を読んでおくこと。課題については、資料配付時に指示する。

事後学習

限られた時間のなかで、訓読するうえで重要な語句や語法を網羅的に取り上げるのは不可能である。講義後は、講義内容について整理するとともに、関連する語句や語法等について、漢和辞典や参考書を利用して各自で確認すること。疑問点があれば、次回の講義時に質問できるように準備すること。

WebClassを利用して配布する補充資料等の内容を確認すること。

●評価方法

評価の割合は、平常（50%）、期末試験（50%）を基準とする。
前期に引き続き、講義中に訓点の付け方，書き下し，現代日本語訳の実力を試す問題に各自で取り組んでもらう。これらの点数のほ

か、受講態度、発表内容などで平常評価を算出する。

●受講生へのコメント

漢和辞典を必ず持参すること。

前期の「中国古典語Ⅰ」と連続して受講することが望ましい。

●参考文献・教材

テキストは指定しない。 随時、 複写資料を配布する。

参考書

戸川芳郎監修『全訳　漢辞海　第四版』(三省堂)

江連隆著『漢文語法ハンドブック』(大修館書店)

沖森卓也『日本の漢字　1600年の歴史』(ベレ出版)

授業科目名	科目NO.	LXGEN2103	授業コード	L200230010	
ラテン語 I Latin I				単位数	2 単位
授業形態	担当教員名				
演習	佐藤　義尚				

●科目の主題

ラテン語の初歩を学ぶ. 古代ローマから近世にいたるまで哲学, 文学は言うに及ばず, 法律, 自然科学の書物もラテン語で書かれている. ラテン語は長期にわたって西欧文化の表現手段であった. 西欧の諸言語, 文化はラテン語という母胎から産み落とされてきたという事実はもう少し知られてもいいだろう. ラテン語を知らずして西欧の理解はありえない

●到達目標

古代, 中世, 近世にラテン語で書かれた文献が読解できるようになることを目標とする.

フランス語, イタリア語などの近代語を生み出した言語を学ぶことで, これらの言語の仕組みがより深く理解できるようになることを目標とする.

●授業内容・授業計画

授業は教科書にそってすすむ. 各課の文法事項を説明し、ラテン語和訳とラテン語作文の練習問題をおこなう. ラテン語は単語の変化がすべてとも言える言語なので, 変化の練習は繰り返しおこなう. 教科書は類書のなかでもっとも簡潔、平易であるが、動詞、名詞、形容詞の語形変化はプリントを配布して詳述する. 一回の授業で二課ぐらいの進度ですすむ. 前期で教科書前半を, 後期で後半を学修する.

授業計画

1 ラテン語の歴史と仕組み.
2 文字, 発音, アクセント
3 動詞・現在・能動相(1). 名詞・第一活用.
4 動詞・現在・能動相(2). 名詞・第二活用(1).
5 形容詞・第一, 第二活用(1). 動詞・未完了過去・能動相.
6 名詞・第二活用(2). 形容詞・第一, 第二活用(2).
7 動詞・未来・能動相. 前置詞.
8 不定法. 名詞・第三活用(1).
9 形容詞・第三活用(1). 動詞・完了・能動相.
10 動詞・過去完了／未来完了・能動相. 名詞・第三活用(2).
11 名詞・第三活用(3). 動詞・現在／未完了過去／未来・受動相.
12 名詞・第三活用(4). 名詞・第三活用(5).
13 形容詞・第三活用(2). 動詞・完了／過去完了／未来完了・受動相.
14 動詞の主要部分. 名詞・第四／第五活用.
15 これまでの授業内容の確認

●事前・事後学習の内容

授業前は先回の授業で指定された練習問題を解いておくこと. 授業後は授業で出てきた単語変化を覚えること.

●評価方法

平常点15%. 期末試験85%.

●受講生へのコメント

教科書に語彙集が付いているので辞書不要.

●参考文献・教材

田中利光『ラテン語初歩改訂版』岩波書店

授業科目名	科目NO.	LXGEN2104	授業コード	L200240010	
ラテン語Ⅱ LatinⅡ				単位数	2 単位
授業形態	担当教員名				
演習	佐藤　義尚				

●科目の主題

前期に続き教科書後半を学ぶ.「賢い」を意味するsapiens(サピエンス)というラテン語は,「味わう」を意味するsapio(サピオー)から派生している. 古典を一字一句かみしめて味わうような読み方を身につける.

●到達目標

古代, 中世, 近世にラテン語で書かれた文献が読解できるようになることを目標とする.

フランス語, イタリア語などの近代語を生み出した言語を学ぶことで, これらの言語の仕組みがより深く理解できるようになることを目標とする

●授業内容・授業計画

前期と同じく配布プリントで説明しながら授業を行う. 一回の授業で二課進み, 今学期で教科書を学修し終え, 余裕があれば簡単なラテン語文献を読む.

授業計画

1　能相欠如動詞. 指示代名詞.
2　動詞・現在／未完了過去・能動／受動・接続法.
3　人称代名詞. 所有形容詞.
4　動詞・完了／過去完了・能動／受動・接続法. 条件文(1).
5　条件文(2). 不定法(1).
6　不定法 (2). 関係代名詞.
7　非人称動詞. 分詞(1).
8　分詞 (2). 奪格の独立的用法.
9　比較級 . 不規則な比較級.
10　数詞. 動名詞.
11　動形容詞. 動名詞の代わりに用いられる動形容詞.
12　命令法・能動相. 能相欠如動詞の命令法.
13　主文における接続法.
14　目的分詞.
15　これまでの授業内容の確認

●事前・事後学習の内容

授業前は先回の授業で指定された練習問題を解いておくこと. 授業後は授業で出てきた単語変化を覚えること.

●評価方法

平常点15%. 期末試験85%.

●受講生へのコメント

前期の続きなので前期授業の出席者、あるいは初歩的知識(動詞の直説法の変化、名詞の変化を知っているレベル)を有する者が出席可能. 辞書不要.

●参考文献・教材

田中利光『ラテン語初歩改訂版』岩波書店

授業科目名	科目NO.	LXGEN2105	授業コード	L200250010	
西洋古典学 Classical Studies			単位数	2 単位	
授業形態 講義	担当教員名 堀川　宏				

●科目の主題

古代ギリシャの「文学」についての入門的な授業です。今年度は『イーリアス』『オデュッセイア』に代表される「英雄叙事詩」を切り口にして、古代ギリシャにおける文学的営為について、なるべく具体的に学んでみるつもりです。古代ギリシャ的な価値観や美意識に触れ、また古代ギリシャが現代に対して持つ影響力などを確認しながら、そもそも「文学」とは何なのかというところまで考えてみようと思っています。

●到達目標

古代ギリシャ・ローマの文学について基本的な知識を得るとともに、対象について自分なりの見方が出来るようになることが目標です。

●授業内容・授業計画

本授業は原則として対面で実施する予定です。はじめに「西洋古典学」「古代ギリシャ」「英雄叙事詩」について概略を学んだ上で、古代ギリシャを代表する叙事詩作品『イーリアス』について、原典からの引用や映像資料などを交えながら、なるべく具体的に考えてゆこうと思います。あくまでも目安ですが、おおよそ以下のような内容を予定しています。

第1回　イントロダクション：授業の概要と成績評価方法の確認
第2回「西洋古典学」概説：どのような学問か？
第3回「古代ギリシャ世界」の確認：地理的・時間的フォーカス
第4回「英雄叙事詩」の成立について：口誦詩の伝統と「ホメーロス問題」
第5回『イーリアス』の世界（1）：アキレウスの怒り
第6回『イーリアス』の世界（2）：神々と英雄，人間の有限性
第7回『イーリアス』の世界（3）：英雄らしさとは何か
第8回『イーリアス』の世界（4）：名誉と永遠性，歌うことの意義
第9回　映画『トロイ』観賞：古典作品に基づく二次創作の問題
第10回　映画『トロイ』観賞（つづき）
第11回『イーリアス』の世界（5）：ギリシャ神話との関係
第12回『イーリアス』の世界（6）：トロイアの陥落
第13回『イーリアス』のまとめ：何を語る文学なのか？
第14回「古代ギリシャ文学」のアクチュアリティ
第15回　レポート試験

●事前・事後学習の内容

開講に先立っての準備や基礎知識は必要ありません。開講後は、毎回の授業後に、その日に学んだことを復習してください。開講期間中、折に触れて皆さんの理解を問う簡単な「確認テスト」を実施する予定です。

●評価方法

毎回の授業の理解度（30%）　授業への積極的参加の度合い（30%）　レポート（40%）

●受講生へのコメント

私たちがふだん何気なく使う「文学」という言葉ですが、それについて深く考えてみようとするとき、古代ギリシャにおける文学的営為を無視することはできません。今回テーマとする「英雄叙事詩」はその最初期に現れた文学ジャンルで、たとえば『イーリアス』の成立は紀元前8世紀だと考えられています（異説もある）。その当時に作者によって発せられ、人々が楽しんだその言葉を、現代を生きる私たちもまた聞く（読む）ことが出来るというのは、考えてみるととても不思議なことです。この不思議を手がかりにして、「文学」について一緒に考えてみませんか？　古くさいものとして何となく敬遠していた「古典」が、もしかしたら身近なものになるかもしれません。

●参考文献・教材

ホメロス『イリアス』(岩波文庫)

その他、授業中にいろいろ紹介する予定です。

授業科目名	科目NO.	LXGEN3215	授業コード	L200280010	
比較文化交流論 I Comparative Cultural Exchange I				単位数	2 単位
授業形態 講義／実習	担当教員名 Geerhardt KORNATOWSKI				

●科目の主題

The main focus of this course will be on comparative urbanism and the global cultural context surrounding it. In particular, it will explore alternative conceptualizations of the current urban age, and the implications for how we perceive cities and urban society. We start off with a structural (mostly market economy-based) understanding of cities and their urbanization process, and the kind of contradictory tendencies they inherentlty produce. From there we will look at how various interest groups try to offset these tendencies, as part of a complex totality that underlies urban society. In order to deepen our understanding of these intricacies, several case studies from East Asia will be introduced and discussed.

●到達目標

・ The purpose of this course is to get you familiar with the social dimension of urbanization and the commonalities of contemporary urbanism on a global scale. Explicit attention will go out to concurrent issues such as inequality, real estate speculation, migration, informal markets, voluntary care networks, social movements and alternative practices in urban governance.

・ The last 10 minutes of each class will be used for discussion.

・ A one-day fieldwork in the central areas of Osaka City will be organized as a final excercise to connect the theoretical insights provided during this course with your own observations.

●授業内容・授業計画

〈All classes will be held in-person〉

Day 1 - Class 1: Introduction
Class 2: Theory I
Class 3: Theory II
Day 2 - Class 4: Grey zones I
Class 5: Grey zones II
Class 6: Grey zones III
Day 3 - Class 7: Solidarity I
Class 8: Solidarity II
Class 9: Solidarity II
Day 4 - Class 10 - 14 : Fieldwork in Osaka City
Class 15: Report assignment

●事前・事後学習の内容

In order to get most out of the fieldwork it is advised to review all the class handouts before heading out to the field on the fourth day. I will guide you through the areas of interest.

●評価方法

Active participation in class & fieldwork: 40%

Report assignment: 60%

●受講生へのコメント

This is a introductory course that looks at the social conditions of global urbanization. No prior knowledge of urban studies is required but an active interest in urban issues is appreciated.

●参考文献・教材

Only powerpoint and handouts. Reference sources will also be provided throughout the course.

授業科目名	科目NO.	LXGEN2106	授業コード	L200340010	
上方文化講座 Kamigata Culture Course				単位数	2 単位
授業形態 講義	担当教員名 久堀　裕朗				

●科目の主題

「上方文化講座」は、大阪の地に歴史的に育まれた文化、とりわけ伝統芸能に光を当て、学問的体系の下にこれを学ぼうとする試みである。講師として伝統芸能の第一線で活躍する専門家を招き、本学教員との共同作業により授業を組み立てていく。当授業は本学学生のみならず、一般市民にも公開する。

「上方文化講座」が取り上げるのは文楽（人形浄瑠璃）である。大阪を代表するこの伝統芸能は、2003年にユネスコの世界無形遺産（人類の口承及び無形遺産の傑作）にも選定された。大阪生まれの文楽が「人類共通の宝」たりうるのはなぜか、その普遍的意義を捉え、世界的芸術文化の広がりの中に位置づけようとするのが当授業の目指すところである。

●到達目標

・文楽（人形浄瑠璃）を様々な角度から考察し、その魅力を発見するとともに、上方文化に関する知見を獲得し、それをレポート課題の考察に盛り込むことができる。

・文楽技芸員による芸談・実演に触れることによって、伝統芸能の伝承や、その現代におけるあり方について考え、それをレポート課題の考察に盛り込むことができる。

●授業内容・授業計画

本授業は、大阪を代表する伝統芸能である文楽（人形浄瑠璃）を学問的体系の下に学ぼうとするものである。文楽技芸員と文学部の教員とが、それぞれの専門性を生かしつつ、共同で授業を展開する。授業では文楽の現行演目の中から一作品を取り上げ、その作品のもつ普遍的な魅力を多角的に分析していく。

授業は夏期3日間（8月25・26・27日）の集中講義の形式で行う。取り上げる作品の内容、文章表現、時代背景、テーマ等に関わる講義を教員が行い（初日、2・3日目午前）、その上で文楽技芸員（竹本錣太夫・鶴澤清介・桐竹勘十郎、他）が実演を交えて作品を解説する（2・3日目午後）。今回は文楽を代表する名作『伊賀越道中双六』（沼津の段）を取り上げる。

授業内容の詳細は後日掲示する。以下におおよその授業構成を示す。

第1・2回　講座前の事前解説（学生のみWebClassで実施）
第3・4回　講座1日目午前　教員による講義（文楽案内、作品解説）
第5・6回　講座1日目午後　教員による講義（作品講読ほか）
第7・8回　講座2日目午前　教員による講義（作品講読ほか）
第9・10回　講座2日目午後　文楽技芸員による作品解説・芸談／素浄瑠璃実演
第11・12回　講座3日目午前　教員による講義（文楽とその周辺）
第13・14回　講座3日目午後　文楽技芸員による作品解説・芸談／人形浄瑠璃実演
第15回　まとめ／レポート提出（学生のみ）

●事前・事後学習の内容

第1・2回　文楽や、講座で取り上げる作品について調べる。
第3～14回　配布テキスト（取り上げる作品）をよく読み、講座後にレポート課題に取り組む。
第15回　全体のふり返りとまとめ

●評価方法

到達目標の達成度について、以下の通りの評価を行う。
評価方法とその割合：レポート100％
合格（単位修得）のための最低基準：レポートにおいて、講座内容を踏まえた適切な考察がなされていること。なお授業全体の三分の二以上の出席がなければ、成績評価対象としない。

●受講生へのコメント

本授業は一般市民にも公開する。履修登録の際に、400字程度で受講動機を記入したものを提出すること。希望者多数の場合は選抜を行い、受講許可者については後日掲示する。（なお新型コロナウイルス感染症の流行状況によって、開講形態は変更される可能性がある。）

●参考文献・教材

教材：テキストは授業時間に配布する。

参考文献：2004年度第1回の講座が『上方文化講座　曾根崎心中』（和泉書院）として、2007年度第4回講座が『上方文化講座　菅原伝授手習鑑』（同）として、2008年度第5回講座が『上方文化講座　義経千本桜』（同）として、それぞれ刊行されている。

授業科目名	科目NO.	LXGEN1101	授業コード	L200370010～50	
文学部基礎演習 a,b,c,d,e Basic Seminar for Students at The Faculty of Literature and Human Sciences			単位数	2 単位	
授業形態 演習	担当教員名 沼田　里衣／石川　優／渡辺　拓也／佐伯　綾那／大山　大樹				

●科目の主題

大学の学習は、社会の諸事象を探求の対象として捉え、現実の課題を解決するための視点と能力を身につけ、かつ、そのための情報を発信する能力を身につけることが目標となる。そのような能力を身につけるためには、高校までの教育で修得してきたものとは異なった、批判的能力や思考能力、情報発信能力が求められる。本科目では、大学で求められるこれらの諸能力を演習形式の授業を通じて身につける。

●到達目標

自ら設定した課題について、資料や文献調査を踏まえて分析・考察し、自分なりの結論を導くことができる。また、その結論を、ミニ論文や発表によって、論理的かつ明確に第三者に伝えることができる。

●授業内容・授業計画

※授業形態は、時間割表を確認すること

まず、まとまった文章を要約する訓練から始まり、ミニ論文を作成するためのテーマ（課題）設定、アウトラインの構想、執筆と推敲といった過程を通じて、大学で身につけるべき文章表現法を習得する。また、その過程において、1）文献・資料の調査方法、2）論文のマナー、3）発表の基本を身につける。

第1回　ガイダンス
第2回　文章を要約する①
第3回　文章を要約する①／課題設定①
第4回　文章を要約する②／課題設定②
第5回　文章を要約する②／文献・資料の調査方法
第6回　ミニ論文の作成：アウトラインの構想を立てる①
第7回　ミニ論文の作成：アウトラインの構想を立てる①
第8回　ミニ論文の作成：本文を書く――論文のルールを学ぶ①
第9回　ミニ論文の作成：本文を書く――論文のマナーを学ぶ①
第10回　ミニ論文の作成：アウトラインの構想を立てる②
第11回　ミニ論文の作成：本文を書く②
第12回　発表の基本と準備
第13回　発表と議論①
第14回　発表と議論②

●事前・事後学習の内容

事前学習：各回の授業で提示される課題のための予備調査
事後学習：授業を踏まえた課題の作成および完成

●評価方法

課題提出（30％）、発表（30％）、学期末のミニ論文（40％）

●受講生へのコメント

本授業の内容は、大学での学修はもとより、大学卒業後の社会生活においても求められる諸能力の基礎を提供するものである。したがって大学生活および卒業後の自己のあり方を展望しながら受講することが望ましい。
なおa)～e)の各クラスとも、受講生は15～20名程度とする。もし受講希望者多数の場合、初回の授業にて抽籤を行う。

●参考文献・教材

参考文献：授業中に適宜指示する。教材：授業中にプリントを配布する。

授業科目名	科目NO.	LXGEN3223	授業コード	L201040010	
日本文化発信のための英語 English for Guiding Japanese Culture			単位数	2 単位	
授業形態 実習	担当教員名 奥西　佐智子				

●科目の主題

授業形態は基本対面としますが、遠隔も取り入れる場合があります。(予定)

諸外国と日本の文化を比較し、日本の魅力をどのように英語で伝えるかを考えます。

講義内容を参考にし、古墳、日本庭園、住吉大社、四天王寺、大阪城(全5回)のプレゼンテーションを英語でしてもらいます。

プレゼンテーションは、各回担当個所を決め、一人5分以内で発表をしてもらいます。

上記の観光箇所を通して、日本文化を紹介する際の話の膨らませ方を学びます。

＜受講に必要な英語力について＞

＊英検2級程度が望ましい。

＊全国通訳案内士資格保持者は、受講対象外とします。

●到達目標

大阪の魅力を、日本の文化、伝統、歴史などを通して、基礎英語で紹介できるよう、各々のガイディングスタイルを構築するサポートをします。

日本文化を発信する事は、日本人の精神、生活、生き様を理解してもらう事でもあります。

講義では、各内容を深く掘り下げるよりも、要点をわかりやすい英語で表現することに重点を置きます。

日本事情についての豆知識や、使える優しい英語表現も学びます。

英語のリスニングでは、外国人が日本で不思議に思う事を題材に取り上げ、諸外国の方が興味を持つ多くの話題に触れます。

様々な方向に話を膨らませられるようになる事と、これらの旅行業界で求められるおもてなしの精神や、コミュニケーション能力を養う事を到達目標とします。

●授業内容・授業計画

第1回　ガイダンス　　(木曜日)
第2回　大阪の魅力　講義　(木曜日)
第3回　日本庭園　講義　(木曜日)
第4回　日本庭園　☆学内プレゼンテーション/英語で発表)☆　(木曜日)
第5回　古墳　講義　(木曜日)
第6回　古墳　☆学内プレゼンテーション/英語で発表)☆　(木曜日)
第7回　住吉大社　講義　(木曜日)
第8回　住吉大社　★現地実習/英語で発表★　(日曜日)
第9回　四天王寺　講義　(木曜日)
第10回　四天王寺　★現地実習/英語で発表★　(日曜日)
第11回　茶道　講義　(木曜日)
第12回　大阪城　講義　(木曜日)
第13回　大阪城　★現地実習/英語で発表★　(日曜日)
第14回　大阪南　講義　(木曜日)
第15回　まとめ

＜注意事項＞

★現地実習　は、全3回で日曜日に行います(日時については第一回ガイダンスでお知らせします)。
①住吉大社　②四天王寺　③大阪城

☆学内プレゼンテーション は、全2回で木曜日に行います。

①日本庭園 ②古墳

●事前・事後学習の内容

普段から、以下の事を心がけるようにして下さい。

・あらゆる分野において、日本と諸外国の違いに関心を持つ。

・日常生活の中で感じる事を英語で表現する習慣を身につける。

・英語を聞く時間をつくる。（ニュース、日本文化についてのドキュメンタリー番組等）

●評価方法

全5回のプレゼンテーション（英語で発表）、授業中の学習意欲、出席率を通して総合的に評価をします。

最後の授業では、まとめと記述式試験も行う予定です。

●受講生へのコメント

諸外国の方の目線で日本の見所を探ります。

幅広い年齢層の生徒が、意見交換や情報共有をしながら、日本文化発信に必要な知識や英語力を身につけます。

生徒による全5回のプレゼンテーション（各回英語で5分以内の発表）では、全員の案内を聞いて良いところを学び、講師（現役全国通訳案内士）がアドバイスをします。

受講生が知識を共有し、意見交換をする機会もつくります。

●参考文献・教材

授業で使用する、独自のテキストを購入してもらう予定です。

適宜参考資料も配布します。

授業科目名	科目NO.	LXGEN3224	授業コード	L201070010	
大阪の地域・文化実践演習 Seminar and Practice for Regional Culture in Osaka			単位数	2 単位	
授業形態 演習	担当教員名 菅原　真弓／天野　景太				

●科目の主題

地域間競争の時代といわれる現代において、地域に存在する有形・無形の資産（＝地域の「文化資源」）を(再)発見・(再)評価し、それらを「まちの魅力」としていかに活用・発信していくかが、都市の活性化にあたつて重要な課題となっている。また、その際には、あわせて行政、地元企業・団体、住民など、地区に関わる様々なアクターによる多種多様な取り組みが、新たな都市居住の魅力を創出し、地域の再生・発展に寄与しうるポテンシヤルを有しており、そうしたアクターの参加と協働が鍵を担つていることもいうまでもない。この授業は、大阪市とその周辺地域をフィールドとして、地域文化・地域資源を再発見し、それをまちづくりにどう活かしていくかを、講義・現地実習を通じて実践的に学ぶものである。

担当は菅原真弓（文化資源学、美術史学：講義担当）と天野景太（観光学：現地実習担当）となる。

●到達目標

江戸から明治期にかけてビジュアルとして記録された「場」を実際に巡りながら、①地域の現状把握、②フィールドワークによる地域文化・地域資源の再発見、③受講生相互の意見交換を行う。こうしたプロセスを通じて大阪に存在する有形・無形の地域資産（文化資源）の活用方法を考え、さらにはそれらのまちづくりや集客事業への展開を図りながら、地区の活性化に対する提言を行うことを目的とする。

素材とするビジュアルとしては、寛政8～10(1796～98)年に出版された『摂津名所図会』（秋里籬島著、 全九巻）に加え、幕末から明治期にかけて刊行された二種の浮世絵版画シリーズ「浪花百景」とする。

●授業内容・授業計画

教室での講義形式の授業と、毎月1回土曜に行う現地実習によって構成。現地実習は毎回3時間程度を予定しているので、授業2コマ分としてカウントする。講義担当は菅原、現地実習担当は天野である。

第一回　4/8　ガイダンス　本演習の進め方
第二回、第三回　現地実習（1）天六～毛馬　※4月中の土曜日、日程相談
第四回　5/6　講義（1）地域資源の再発見
第五回　5/13　講義（2）描かれた大坂1ー『摂津名所図会』とこれを基にした絵画
第六回、第七回　現地実習（2）梅田～中崎町　※5月中の土曜日、日程相談
第八回　6/3　講義（3）描かれた大坂2ー二種の「浪花百景」
第九回　6/10　講義（4）地域に遺された文化資源とその意義
第十回、第十一回　現地実習（3）九条～川口居留地　※6月中の土曜日、日程相談
第十二回、第十三回　現地実習（4）住吉大社～帝塚山　※7月中の土曜日、日程相談
第十四回　7/22　まとめ・成果発表会

●事前・事後学習の内容

各回授業終了時に、コミュニケーション・カードを提出してもらうとともに、次回の講義内容について3～4個のキーワードを挙げて予告するので、必ず事前にそれらの内容を確認し、授業に臨むこと。また、現地実習の実施後には当日観察したことやそれに関連した学習内容をまとめたレポートを提出してもらうこととしている。したがって、授業終了後には、各自講義の要点や現地観察の内容を整理するなど、復習を欠かさないようにすること。

●評価方法

コミュニケーション・カードもしくは現地実習後のレポート提出による授業参加意欲の状況(30%)、 成果発表会におけるプレゼン内容（意欲も含む）30%、期末レポート(40%)により評価する。なお期末レポートは、成果発表会のプレゼン内容に基づくものとする。

●受講生へのコメント

本科目は、文学部共通の専門科目であると同時に、大阪市立大学文学部履修証明プログラム「大阪文化ガイド+講座」の選択科目と

なっている。また、週末に現地実習を実施するため、この科目は日程が変則的となるため履修の際には注意すること。なお、演習科目のため、履修希望者多数の場合は抽選となる。

●参考文献・教材

テキストはなし。参考文献等については、授業内で適宜紹介する。

授業科目名	科目NO.	LXGEN3225	授業コード	L224130010	
自然地理学概論 Introduction to Physical Geography			単位数	2 単位	
授業形態 講義	担当教員名 小倉　博之				

●科目の主題

■自然地理学は地理学の一分野であり，自然科学に属する学問でもある。本授業では，自然地理学の視点に立って地表付近で展開する自然現象を理解し，自然現象と人間活動との関わり，ならびに災害への対応を考えていく。

●到達目標

■地表空間で展開する自然現象の科学的理解を第一目標とし，さらに知識習得のみにとどまらず，自然現象を適切にとらえ，それに関する理論構築と法則追究とを目指したい。

●授業内容・授業計画

■上述の主題・目標にそって，プリント資料・プロジェクター等で図・表・写真を提示し解説する講義を主体とする。なお，受講者の理解を深めるため，作業や論理展開をともなう課題も出す。各時限の内容は次の通り。

■第1回 自然地理学とは
■第2回 自然地理学の歩み
■第3回 自然現象のとらえ方 －－ 地形のスケール，海岸地形の解釈
■第4回 自然現象の観察から理論の構築へ －－ 氷河・周氷河地形，地形発達の概念
■第5回 地形をつくる作用 －－ 火山地形，山地地形，気候地形，乾燥地形
■第6回 地質時代区分と年代 －－ 地球史の時間目盛り
■第7回 新生代第四紀 －－「最近」の地球環境の変遷
■第8回 平野の種類とその分布 －－ 侵食・堆積地形
■第9回 日本の地質と地形 －－ 沖積平野の形成過程
■第10回 沖積平野の特性
■第11回 地震の発生源
■第12回 内陸地震と活断層 －－ 変動地形
■第13回 活断層地形 －－ 地殻変動の表出
■第14回 活断層の調査方法と情報
■第15回 最終試験

●事前・事後学習の内容

■事前学習として，自然や災害に関する情報に関心を持ち，自然現象の全体像を把握しておくことが求められる。詳細は授業で説明する。さらに，授業で取りあげた専門的な用語や概念は次回までに理解しておかなければならない。これらのために，毎回2時間程度の予復習が必要となる。

●評価方法

■最終評価は，授業中に数回実施する小テスト・小レポートの評価点と最終試験の点数を総合し，絶対評価でおこなう。配点比率は前者が30%，後者(最終試験)を70%とする。

●受講生へのコメント

■本授業では毎回多くの図・表が提示され，内容は回を追って深化していくので，欠席すると理解が困難になる。受講者自らが「体系的なノート」を作成して，解説内容・配付資料・板書を有機的に関連づけ，系統的な授業内容が理解できるよう心掛けることが必要である。

配付資料は講義のほか，授業内の小試験でも使用する。過去に配付したものも毎回持参すること。

●参考文献・教材

■教科書は指定せず配付プリントを使用する。おもな参考図書は次のとおりで，その他は授業内で紹介する。

太田陽子ほか編「日本の地形6　近畿・中国・四国」東京大学出版会（他に本シリーズ各巻）.
貝塚爽平ほか編「写真と図でみる地形学」東京大学出版会.
貝塚爽平「平野と海岸を読む（自然景観の読み方5）」岩波書店.

授業科目名	科目NO.	KLPED1101	授業コード	L200510010,20,30	
教職概論 a,b,c Introduction to Teaching Profession			単位数	2 単位	
授業形態 講義	担当教員名 森 久佳				

●科目の主題

教職の意義や教員の役割・資質能力・職務内容等に関する基本的な知識や考え方を身に付け、教職への意欲を高めること、また、適性を判断することを通して、進路選択に資する教職の在り方を理解することを目的としている。

●到達目標

具体的な到達目標は以下の通りである。

①教職の職務内容の全体像や教員に課せられる服務上・身分上の義務に関する事項を理解する。

②今日の教育の動向を踏まえながら、教員に求められる役割や資質能力について理解し、教職の意義について検討する。

③我が国における今日の学校教育や教職に関する社会的意義を理解し、自らの進路選択について主体的に考える。

④学校が内外の専門家等と連携・分担する必要性とそこで求められる役割や資質能力について理解し、これらからの学校教育や教職の在り方について検討する。

●授業内容・授業計画

講義形式だけでなく、コメントシートの記入やグループワークなど、多様な学習形態を通して主体的・対話的な活動を展開し、学生の学びが深まるよう促す。また、テキストに加えて、レジュメや資料のプリントも使用する。

第1回:オリエンテーション(授業の進め方などの説明・教員・教師の概念について)

第2回:教職に関する基本的な知識・考え方などの理解①(免許状・資格の種類／任用・身分、など)

第3回:教職に関する基本的な知識・考え方などの理解②(免許状の取得／教師教育と教員養成、など)

第4回:教職に関する基本的な知識・考え方などの理解③(教職課程の履修の目的と意義、など)

第5回:教職の現状と主要業務についての理解①(教職の職務の現状)

第6回:教職の現状と主要業務についての理解②(授業)

第7回:教職の現状と主要業務についての理解③(授業研究／校内研究、など)

第8回:教職の現状と主要業務についての理解④(教育課程とカリキュラム)

第9回:教職の現状と主要業務についての理解⑤(学級づくりと教師)

第10回:教職の現状と主要業務についての理解⑥(学校づくりと教師:「チーム学校」をめぐって)

第11回:教職の現状と主要業務についての理解⑦(保護者・地域と教師:「チーム学校」をめぐって)

第12回:専門職としての教職のあり方についての理解①(教職の抱える課題:多忙化等)

第13回:専門職としての教職のあり方についての理解②(教職の専門職性と専門性)

第14回:専門職としての教職のあり方についての理解③(教職のもつジレンマと今後の教職のあり方:働き方改革等)

定期試験:実施しない。

●事前・事後学習の内容

・テキスト及びレジュメ・資料の確認等

●評価方法

以下の評価観点を踏まえながら、出席コメントシート、レポート課題等によって行う。

評価観点1:教員の職務について基本的事項を理解している。

評価観点2:教職の意義について分析・検討している。

評価観点3:自らの進路のひとつとして教職をとらえている。

●受講生へのコメント

・「教師」や「教職」について、「そもそも」の水準から考えてみて下さい。

・教職に関する身近な話題やニュース等にも関心を抱いて、自分で調べてみてください。

●参考文献・教材

テキスト

・羽田積男・関川悦雄編著（2016）『Next教科書シリーズ　現代教職論』弘文堂.

参考書・参考資料等

・佐藤晴雄（2015）『教職概論』（第4次改訂版）学陽書房.
・臼井嘉一編著（2014）『学生と教師のための現代教職論とアカデミックフリーダム』学文社.
・曽余田浩史編著（2014）『教職概論』（教師教育講座第1巻）協同出版.
・高橋陽一編（2014）『新しい教師論』武蔵野美術大学出版局.
・髙谷哲也編著（2011）『教師の仕事と求められる力量：新たな時代への対応と教師研究の知見から』あいり出版.
・奈須恵子・逸見敏郎（2012）『学校・教師の時空間：中学校・高等学校の教師をめざすあなたに』三元社.
・C・デー／Q・グー（2015）『教師と学校のレジリエンス：子どもの学びを支えるチーム力』（小柳和喜雄・木原俊行監訳）北大路書房.

その他、参考書等の紹介は講義の中で行う

授業科目名	科目NO.	KLPED2201	授業コード	L200520010,20	
教育基礎論 a,b Fundamentals in Education				単位数	2 単位
授業形態	担当教員名				
講義	津田 徹				

●科目の主題

受講者が教員としての基礎知識並びに基礎教養を習得し、「教育とは何か」ということついて、自ら考え、直面する課題を解決するための素材を提供することを本講義の主題とする。

●到達目標

以下の三点を到達目標とする。

(1)教育の意義や目的、およびその背景となる思想について理解する。

(2)教育の歴史的流れと、思想や理念の展開過程を知る。

(3)児童生徒の学習や発達に関わる基本的事項並びに現代の教育課題について自分なりの考えを持ち、教育現象を理解し、課題を解決するための視点を養う。

●授業内容・授業計画

第1回で教育の基本理念に関する概要について解説し、第2～3回目は子どもが学習することの社会的意義を理解する。第4回目以降は学校の歴史、教育の思想的展開、日本における学校教育の史的展開を系統的・多面的に学ぶ。第13回において、それまで得た知識や理解を軸に、現代の教育問題を受講者が主体的に考え、課題解決のための視点を構築する。

第1回:ガイダンス(教育の基本的概念および歴史に関する概説)
第2回:「教育」の意味と社会的意義
第3回:子どもの権利と親の権利
第4回:学校と教育の歴史――古代～中世
第5回:学校と教育の歴史――近世～近代初期
第6回:教育思想の流れ(1)――古代ヨーロッパと古代中国
第7回:教育思想の流れ(2)――西洋近代および新教育思想
第8回:明治期における教育理念と学校
第9回:大正期における教育理念と自由主義、家庭教育の登場
第10回:昭和戦時期における教育・教員・子どもの変容
第11回:戦後教育改革による教育理念の転換
第12回:教育基本法の理念、意義と課題
第13回:現代教育の諸問題――学力問題、体罰問題、子どもの教育と家庭・地域など――
第14回:現代教育の諸問題(2)――子どもの教育と家庭・地域――
定期試験

●事前・事後学習の内容

事前の学習としては、シラバスで掲載された内容を参考にしつつ概念や人物に着目して下調べや文献を探るなどをして、各回の対象領域や問題の構造、登場人物の基本的な理解を目指してください。また、教科書や指定する書籍・資料などをあらかじめ読んでおくことを推奨します。

事後の学習としては、シラバスで掲載された内容や授業中において触れた内容について、書籍、インターネット等を利用して、深化発展させることを目指してください。また、講義内で取り上げた書籍・資料などを読んで、さらに学習内容を深化させていくことを推奨します。

●評価方法

学生に対する評価

以下の3つの事柄を評価の基準とする。

(1)教育の理念を理解している。

(2)教育に関する歴史を理解している。

(3)教育に関する思想を理解している。

●受講生へのコメント

人間にとって教育作用は非常に大きな問題です。教育が人間にとってどのような意味をもつのか。子どもに対する認識や学校の登場が社会においてどう変化し、理解されてきたか。また近代から現代の教育理念、学校制度改革などについても触れていく予定です。積極的な受講を期待します。

●参考文献・教材

テキスト

広岡義之他著、『はじめて学ぶ教育の制度と歴史』、ミネルヴァ書房、2019年

参考書・参考資料等

中学校学習指導要領(平成29年3月告示、文部科学省)

高等学校学習指導要領解説特別活動編(平成30年3月、文部科学省)

その他参考と文献については、講義中に適宜指示する。

授業科目名	科目NO.	KLPED2201	授業コード	L200520030	
教育基礎論 c Fundamentals in Education				単位数	2 単位
授業形態	担当教員名				
講義	森岡 伸枝				

●科目の主題

受講者が教員としての基礎知識並びに基礎教養を習得し、「教育とは何か」ということついて、自ら考え、直面する課題を解決するための素材を提供することを本講義の主題とする。

●到達目標

以下の三点を到達目標とする。

(1)教育の意義や目的、およびその背景となる思想について理解する。

(2)教育の歴史的流れと、思想や理念の展開過程を知る。

(3)児童生徒の学習や発達に関わる基本的事項並びに現代の教育課題について自分なりの考えを持ち、教育現象を理解し、課題を解決するための視点を養う。

●授業内容・授業計画

第1回で教育の基本理念に関する概要について解説し、第2～3回目は子どもが学習することの社会的意義を理解する。第4回目以降は学校の歴史、教育の思想的展開、日本における学校教育の史的展開を系統的・多面的に学ぶ。第13～14回において、それまで得た知識や理解を軸に、現代の教育問題を受講者が主体的に考え、課題解決のための視点を構築する。

第1回:ガイダンス(教育の基本的概念および歴史に関する概説)
第2回:「教育」の意味と社会的意義
第3回:子どもの権利と親の権利
第4回:学校と教育の歴史――古代～中世
第5回:学校と教育の歴史――近世～近代初期
第6回:教育思想の流れ(1)――古代ヨーロッパと古代中国
第7回:教育思想の流れ(2)――西洋近代および新教育思想
第8回:明治期における教育理念と学校
第9回:大正期における教育理念と自由主義、家庭教育の登場
第10回:昭和戦時期における教育・教員・子どもの変容
第11回:戦後教育改革による教育理念の転換
第12回:教育基本法の理念、意義と課題
第13回:現代教育の諸問題(1)――学力問題、体罰問題など――
第14回:現代教育の諸問題(2)――子どもの教育と家庭・地域――
定期試験

●事前・事後学習の内容

事前の学習としては、シラバスで掲載された内容を参考にしつつ概念や人物に着目して下調べや文献を探るなどをして、各回の対象領域や問題の構造、登場人物の基本的な理解を目指してください。また、教科書や指定する書籍・資料などをあらかじめ読んでおくことを推奨します。

事後の学習としては、シラバスで掲載された内容や授業中において触れた内容について、書籍、インターネット等を利用して、深化発展させることを目指してください。また、講義内で取り上げた書籍・資料などを読んで、さらに学習内容を深化させていくことを推奨します。

●評価方法

学生に対する評価

以下の3つの事柄を評価の基準とする。

(1)教育の理念を理解している。

(2)教育に関する歴史を理解している。

(3)教育に関する思想を理解している。

●受講生へのコメント

人間にとって教育作用は非常に大きな問題です。教育が人間にとってどのような意味をもつのか。子どもに対する認識や学校の登場が社会においてどう変化し、理解されてきたか。また近代から現代の教育理念、学校制度改革などについても触れていく予定です。積極的な受講を期待します。

●参考文献・教材

テキスト

田中智志他編『教育の理念・歴史』新・教育課程シリーズ、一藝社、2013

年 講義中に必ず使用しますので、何らかの方法でお求めください。

古本でも内容は変わりませんので使用できます。

授業科目名	科目NO.	KLPED2202	授業コード	L200530010,20,30	
発達・学習論 a,b,c Theory of Human Development and Learning			単位数	2 単位	
授業形態 講義	担当教員名 上宮　愛				

●科目の主題

幼児期、児童期、青年期を対象とし、子どもがどのように学び，どのような発達を遂げるのかについて，学習心理学，発達心理学，認知心理学，社会心理学の基礎的な知識・理論を学び，教育場面におけるこれらの知識の重要性，かつ、応用可能性について考える。また、教育現場や教育機関と関連する今日の社会問題についても心理学の観点から考える機会をもつ。

●到達目標

学習心理学，発達心理学，認知心理学，社会心理学の基礎知識を習得し，教育場面での活用・応用方法を学ぶ。

●授業内容・授業計画

本講義は、遠隔で実施する。発達・学習の各領域から主要な心理学的現象・理論を取り上げ，講義を行う。

第1回:イントロダクション:教育心理学とは何か
第2回:学習(1):学習の理論
第3回:学習(2):観察学習・模倣学習
第4回:動機づけ(1):動機づけの基礎
第5回:動機づけ(2):動機づけの応用
第6回:記憶(1):記憶の仕組み
第7回:記憶(2):記憶の理論を活かす
第8回:メタ認知・学習方略・学習観
第9回:発達(1):発達の理論
第10回:発達(2)アタッチメント
第11回:発達(3):青年期の発達
第12回:発達障がいとその支援
第13回:児童虐待への対応と関係機関との連携
第14回:道徳性の発達
定期試験

●事前・事後学習の内容

事前学習は特になし。しかし，事後に授業内容について復習し，小レポートとして，その日の講義で取り上げた内容についての質問，疑問点，感想などを記入し、提出すること。

●評価方法

学期末試験(60%) と小レポート提出(40%) により評価を行なう。

評価の観点A:幼児、児童および生徒の心身の発達について理解している。

評価の観点B:学習の過程について理解している。

評価の観点C:障害のある幼児、児童及び生徒の発達及び学習の支援を考えることができる。

●受講生へのコメント

講義を通して，実験結果やデータに基づいて論理的に考えることを学び，心理学的な基礎知識を暗記するのではなく，その知識の「使い方」を学んでもらいたい。また，講義の中で取り上げる心理学的な現象が，現代の教育場面でどのような意味を持つのかについて，自分なりの考え・意見を自分の言葉で説明できるようになってもらいたい。

●参考文献・教材

テキストの指定はなし。 毎回，A4用紙4～6枚程度の配布資料とパワーポイント資料を配布する。 参考書・参考資料等「絶対役立つ教育心理学」 藤田哲也編著 ミネルヴァ書房 2007

授業科目名	科目NO.	KLPED2203	授業コード	L200540010,20	
教育制度論 a,b Theory of Educational Systems				単位数	2 単位
授業形態 講義	担当教員名 井上 真求				

●科目の主題

公教育制度の成立と発展について理解を深めるとともに、日本の教育制度の課題と展望を考察する。

●到達目標

公教育制度の意義・原理・構造について、法制に関する基礎的知識を身に付けるとともに、内在する課題を理解するために、次の4点を目標とする。

1. 学校を中心とした教育制度の原理について理解ができる。
2. 教育基本法などの主要な教育関係法規の基礎的事項について理解ができる。
3. 現代日本の教育制度を学校と地域や社会との関係性のなかで捉えることができる。
4. 近年の教育政策の動向を理解し、その特徴や問題点について考察することができる。

●授業内容・授業計画

本授業は対面で行う。本授業では、まず、日本および欧米諸国における教育制度の成立と発展について検討する。そのうえで、現代日本の教育制度について、学校教育はもとより、社会教育や教育行財政制度なども含めて具体的に考察していく。

第1回:教育制度とは何か―学習の視点
第2回:学校教育制度の成立と発展(1)近代学校の二つの系譜と複線型学校体系
第3回:学校教育制度の成立と発展(2)アメリカにおける単線型学校体系の成立
第4回:日本における教育制度の発展(1)近代教育の出発と学制
第5回:日本における教育制度の発展(2)大正自由教育と戦時下の教育
第6回:日本における教育制度の発展(3)戦後教育改革と教育基本法の成立
第7回:戦後日本の教育法制の理念と教育政策の展開
第8回:現代日本の教育制度(1)教育行政の原理と組織
第9回:現代日本の教育制度(2)教育条件整備と教育財政
第10回:現代日本の教育制度(3)学校経営(地域との連携を含む)と安全管理
第11回:現代日本の教育制度(4)教育課程と教科書制度
第12回:現代日本の教育制度(5)教職員制度
第13回:現代日本の教育制度(6)社会教育制度
第14回:まとめ―現代日本の教育制度改革の課題
第15回:試験

●事前・事後学習の内容

授業のなかで配布あるいは提示した資料・文献について、よく読んで予復習するようにしてください。

●評価方法

平常点(受講態度やコメントカードの提出など、40%)および定期試験(60%)により総合的に評価します。

評価観点1　学校教育を中心とした教育制度について理解している。

評価観点2　教育に関する法令の基本的事項を理解している。

評価観点3　現在の教育改革の動向を理解している。

●受講生へのコメント

授業内でのディスカッションや毎回のコメントカード等を通して、受講生の皆さんの意見や考えの交流を積極的に行っていきたいと思います。

●参考文献・教材

配布資料（プリント）に基づき授業を進めます。授業内容に関連するテキストや参考文献については、適宜紹介します。

授業科目名	科目NO.	KLPED2203	授業コード	L200540030	
教育制度論 c Theory of Educational Systems				単位数	2 単位
授業形態 講義	担当教員名 三羽　光彦				

●科目の主題

マクロな公教育制度の法制をミクロな教育の営みとのかかわりにおいてとらえる。

●到達目標

公教育制度の意義・原理・構造について、法制に関する基礎的知識を身に付けるとともに、内在する課題を理解する。

●授業内容・授業計画

本講義は遠隔により行う(予定)。

教育制度について、学校教育、教育行政、学校外教育といったマクロな文脈からとらえ、教育の営みを支える制度について考えていく。

第1回:教育制度の概観
第2回:学校教育の制度
第3回:教職員の制度
第4回:学級の制度(学校事故対応を含む)
第5回:教育行政の制度(1)　中央教育行政
第6回:教育行政の制度(2)　地方教育行政
第7回:教育課程の制度
第8回:教育財政の制度
第9回:学校経営の制度(学校―地域間関係を含む)
第10回:諸外国の教育制度
第11回:社会教育の制度
第12回:家庭教育・保育・幼児教育と教育政策
第13回:子どもの自律的発達と教育制度(学校安全・危機管理を含む)
第14回:教育制度の改革課題
定期試験

●事前・事後学習の内容

授業内において適宜指示する。

●評価方法

評価観点1　学校教育を中心とした教育制度について理解している。
評価観点2　教育に関する法令の基本的事項を理解している。
評価観点3　現在の教育改革の動向を理解している。

●受講生へのコメント

「教育制度」という領域は、教育の内容や方法ではなく、それをとりまくマクロなしくみを扱うため、一見すると親しみにくい内容に映るかもしれない。教師になって授業することをイメージしたときに、日本では「どのように教えるか」(方法)は教師に工夫の余地があるものの、「何を教えるか」(内容)は制度化されており個人的努力には限界がともなう。「教育は人なり」と言ってみても、現実には教師個人の努力ではいかんともしがたい領域が存在する。学校の内部にとどまらず、広く学校を超えた教育について考えるのが教育制度である。教育とは、学校はもとより、図書館や博物館、公民館、家庭内などと、様々な場で学びながら生きている存在だ。一人旅のような機会からも多くを学んでいる。そこで、人間にとって学ぶという営みを支える制度に広く目を向けようとするのが本授業である。

●参考文献・教材

配布資料に基づき授業を進めるが、テキストを別途指定する場合は事前に告知する。

岡本徹・佐々木司編著(2016)『現代の教育制度と経営』ミネルヴァ書房

授業科目名	科目NO.	KLJPN2201	授業コード	L200580010	
国語科教育法Ⅰ Methods of Teaching Japanese Ⅰ				単位数	2 単位
授業形態 講義	担当教員名 木村　雅則				

●科目の主題

国語科教員の仕事内容と、教科として指導すべき内容を理解する。

●到達目標

国語科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された学習内容について理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付け、国語科教員として教育界に貢献するための基本的な能力や知識を身に付ける。

●授業内容・授業計画

授業の概要　国語科についての様々な内容について概説し、教科担当者としての基本的な視点や能力を培う。また、第2回以降は毎回小テストを実施し、基礎的な実力を培う手立てとする。ただし、オンデマンド型授業の場合の小テストについては、実施の有無を含めて別途指示することとする。

授業計画

第1回:ガイダンスとオリエンテーション(国語科とはどんな教科か)
第2回:「国語」の授業の周辺①――専門用語など
第3回:「国語」の授業の周辺②――教科書・情報機器および教材の効果的な活用など
第4回:授業の構築①――授業前(学習指導計画・学習指導案の作成、情報機器の効果的な活用など)
第5回:授業の構築②――授業中(実際の展開・板書、情報機器の効果的な活用など)
第6回:授業の構築③――授業後(学習評価・考査問題の作成など)
第7回:教材研究とICT教育に関して
第8回:学習指導要領①――内容と変遷
第9回:学習指導要領②――校種間連携など
第10回:教え方の基礎①――現代文分野
第11回:教え方の基礎②――古典分野
第12回:学習指導案①――高等学校
第13回:学習指導案②――中学校
第14回:学習指導案③――作成演習
定期試験

●事前・事後学習の内容

・【事前学習】小テストへの準備――各回の小テストについては、第1回授業時に詳細を説明するので、十分勉強をして臨むこと。
・【事後学習】講義内容の復習と暗記――各回の講義内容について十分復習するとともに、覚えておくべき語句や内容について、必要に応じて確実に暗記すること。

●評価方法

評価観点1　日本語表現に関わる問題点について理解している。
評価観点2　国語科教員として、必要な国語能力を再確認できている。
評価観点3　学習指導要領の「国語」の項目について理解している。

●受講生へのコメント

・第1回目の「ガイダンスとオリエンテーション」は、本授業の内容について説明するものです。いわゆる「お試し授業」ではありませんので、本授業を受講しようと考えている人は必ず出席してください。第1回目欠席の場合、もしその欠席に伴う不利益があれば、それについては自己責任としますので、ご注意ください。

●参考文献・教材

テキスト

・『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説　国語編』（平成30年7月、文部科学省）

・『高等学校　精選国語総合改訂版』(国総338、三省堂。文部科学省検定済高等学校国語科用教科書)

参考書・参考資料等

　中学校学習指導要領解説　国語編（平成29年6月、文部科学省）

授業科目名	科目NO.	KLJPN2202	授業コード	L200590010	
国語科教育法Ⅱ Methods of Teaching JapaneseⅡ			単位数	2 単位	
授業形態 演習	担当教員名 木村　雅則				

●科目の主題

具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。

●到達目標

学習指導要領に示された国語科の学習内容について、背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習理論を踏まえて古典分野の模擬授業を行い、それを通じて授業設計を行う方法を身に付ける。

●授業内容・授業計画

授業の概要　古典分野（高等学校）を想定した模擬授業を行い、その検討を通じた古典分野の各領域について、授業の実践的研究を行う。

授業計画

第1回：ガイダンスと授業担当者の決定

第2回：「古典」の授業と指導の研究【講義】

第3回：模擬授業と分野別研究1――古文・随筆（一）2年生前期想定

第4回：模擬授業と分野別研究2――漢文・小話　2年生前期想定

第5回：模擬授業と分野別研究3――古文・物語（一）2年生後期想定

第6回：模擬授業と分野別研究4――漢文・詩（近体詩）2年生後期想定

第7回：模擬授業と分野別研究5――古文・物語（二）2年生後期想定

第8回：模擬授業と分野別研究6――漢文・史伝　2年生後期想定

第9回：模擬授業と分野別研究7――古文・日記　2年生後期想定

第10回：模擬授業と分野別研究8――漢文・思想　2年生後期想定

第11回：模擬授業と分野別研究9――古文・随筆（二）3年生前期想定

第12回：模擬授業と分野別研究10――漢文・文章　3年生前期想定

第13回：模擬授業と分野別研究11――古文・日記（二）3年生前期想定

第14回：模擬授業全体のまとめ【講義】

定期試験は実施しない

※模擬授業の回数は、受講者数により増減することがある。詳細は、第1回授業で決定・連絡することとする。

●事前・事後学習の内容

・【事前学習】模擬授業の計画立案と準備――自分の担当する回については、授業を計画・立案するとともに、責任を持ってその準備を万全に行うこと。他の人の回については、自分ならどのようにそれぞれの単元を指導するかを、授業までにシミュレーションしておくこと。自分が担当しない回についても、教材研究をしておくことが望ましい。

・【事後学習】模擬授業の反省と課題作成――自分が担当する回については、その振り返りや指摘されたことを基に、指定された課題に取り組むこと。他の人の回については、他の人の模擬授業や分野ごとの指導重点について復習し、自分の授業時に生かせる点を検討すること。

●評価方法

評価観点1　模擬授業に対して、意欲的に関わっている。

評価観点2　教材の問題点を的確に理解できている。

評価観点3　学習指導要領に沿って、教材を取り扱っている。

●受講生へのコメント

・第1回目の授業は、本授業の説明だけでなく各回の担当者も決定します。いわゆる「お試し授業」ではありませんので、本授業を受

講する予定の人は欠席しないでください。なお、欠席の場合は模擬授業については授業担当者で決定しますので、一任願います。

●参考文献・教材

テキスト

「精選古典B改訂版」（古B335、三省堂。文部科学省検定済高等学校国語科用教科書）

参考書・参考資料等

高等学校学習指導要領解説国語編（平成22年6月、文部科学省）

授業科目名	科目NO.	KLJPN2203	授業コード	L200600010	
国語科教育法Ⅲ Methods of Teaching JapaneseⅢ				単位数	2 単位
授業形態 講義／演習	担当教員名 木村　雅則				

●科目の主題

国語科・現代文分野の授業研究

●到達目標

・国語科教員として教育界に貢献できる能力や知識が身についており、自己の力でより一層の向上を図ることができる。

・現代文を教材として正しく読解する能力を持ち、授業計画が立てられる。

・現代文を教えるために必要な知識や技術が身についており、実際に授業ができる。

●授業内容・授業計画

国語科・現代文分野（書写と表現を除く）について、各時間担当者を決めて模擬授業を行う。その後、その検討を通して、現代文分野の各領域または指定教材について、授業の実践的研究を行う。

第1回 ガイダンス
第2回 現代文の基本的な指導法1【講義】
第3回 現代文の基本的な指導法2【講義】
第4回 模擬授業と分野別研究① 小説1
第5回 模擬授業と分野別研究② 随想
第6回 模擬授業と分野別研究③ 詩・短歌・俳句
第7回 模擬授業と分野別研究④ 評論1
第8回 模擬授業と分野別研究⑤ 小説2
第9回 模擬授業と分野別研究⑥ 評論2
第10回 模擬授業と分野別研究⑦ 小説3
第11回 模擬授業と分野別研究⑧ 評論3
第12回 模擬授業と分野別研究⑨ 指定教材:『山月記』
第13回 模擬授業と分野別研究⑩ 指定教材:《中学校・論理的文章》
第14回 模擬授業と分野別研究⑪ 指定教材:《中学校・文芸的文章》
第15回 まとめ

●事前・事後学習の内容

・【事前学習】自分が担当する授業について、教材研究や教材の準備が確実にできること。

・【事後学習】自分が担当した単元について、考査問題を作成できること。

・【事後学習】担当者の授業やその後の検討会の内容を理解し、自分がその単元を担当することになっても可能なレベルまでまとめておくこと。

●評価方法

・模擬授業に対して評価する。

・また、レポートとして考査問題を提出させ、それに対して評価する。

・以上の点と検討会での参加状況とを総合的に判断して評価する。期末考査は実施しない。

【評価観点】

1 学習指導要領の理解に基づいた、現代文分野の授業の計画ができる。

2 教材の内容を正しく理解し、それを授業に展開できる。

3 現代文分野の指導法の基礎を理解し、授業経営の基本を習得している。

●受講生へのコメント

・受講者数によって模擬授業の時間数や内容が変わることが考えられますので、初回の授業で担当者を決定する予定です。初回は欠席がないようにしてください。欠席の場合は、担当をこちらで決定しますので、それに従ってください。
・本授業は「国語科教育法Ⅰ」との並行履修が考えられますので、学習指導案については必修とはしません。ただし「授業の計画」については評価します（詳細は初回の「ガイダンス」で説明します）。また、既に「国語科教育法Ⅰ（またはⅡ）」で学習指導案を学んだ人は、提出すれば添削後に返却し、プラス評価として扱います。
・教材は、主として高校1年生をターゲットとしたものを取り扱いますが、中学校教材や指定教材も含めることで、中等教育全体の学年について包括的に扱うこととします。

●参考文献・教材

テキスト:『精選国語総合　改訂版』(国総338・文部科学省検定済教科書高等学校国語科用・三省堂)←「国語科教育法Ⅰ」でテキストとして指定してあるもの。
・模擬授業①～⑧の教材はすべてここから選ぶので、全員購入の上、授業に持参すること。
・模擬授業⑨～⑪の教材はプリントを配布する予定。参考書:『高等学校学習指導要領解説　国語編』(教育出版)←「国語科教育法Ⅰ」でテキストとして指定してあるもの。他に必要あらば、適宜、授業内で紹介する。

授業科目名	科目NO.	KLJPN2204	授業コード	L200610010	
国語科教育法Ⅳ Methods of Teaching JapaneseⅣ				単位数	2 単位
授業形態	担当教員名				
講義／演習	木村　雅則				

●科目の主題

具体的な授業場面を想定した表現分野の授業設計を行う方法を身に付ける。

●到達目標

国語科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された国語科の学習内容について、模擬授業を含めて授業設計を行う方法を身に付ける

●授業内容・授業計画

授業の概要 「言語活動」と表現分野の目標や方法について講義するとともに、担当者を決めて模擬授業を行い、その検討を通じて表現分野について授業の実践的研究を行う。ただし、オンデマンド型授業の場合、実質的に模擬授業はできないので、課題演習や討論など、それに代わる内容とする予定である。

授業計画

第1回:ガイダンスと授業担当者の決定

第2回:言語活動1――「言語活動」とは何か①　高等学校の場合

第3回:言語活動2――「言語活動」とは何か②　中学校の場合

第4回:言語活動3――言語活動例の演習①(課題作成)

第5回:言語活動4――言語活動例の演習②(作成された課題の検討)

第6回:言語活動5――「言語活動」を含む模擬授業

第7回:表現1――「国語表現」とはどのような科目か(高等学校)

第8回:表現2――「話す・聞くこと」の指導

第9回:表現3――「書くこと」の指導①　意見文・小論文

第10回:表現4――「書くこと」の指導②　創作と評価

第11回:表現5――表現分野の模擬授業1 「話す・聞くこと」

第12回:表現6――表現分野の模擬授業2 「書くこと」①意見文を書く

第13回:表現7――表現分野の模擬授業3 「書くこと」②創作する

第14回:まとめ

定期試験は実施しない

●事前・事後学習の内容

・本授業は、事前学習(予習)より事後学習(復習)を重視します。

・【事前学習】次回の範囲について、必要ならテキストを使いつつ、あらかじめ自分の考えをまとめておくこと。

・【事後指導】授業の内容について確実に復習するとともに、必要に応じて重要事項を暗記したり、テキストで補ったりしながら、自分の授業につながる知識として体系化しておくこと。また、次時までの課題を課した場合は、授業内容を踏まえた上で、提出期間中に必ず提出すること。

●評価方法

評価観点1　意見交換に対して、意欲的に関わっている。

評価観点2　教材の取り扱い方、問題点を的確に理解できている。

評価観点3　学習指導要領に沿って、教材を取り扱っている。

●受講生へのコメント

・第1回授業は、ガイダンスだけでなく、本授業で必要なことを全て伝達・決定します。いわゆる「お試し授業」ではありませんので、少しでも履修を考えている人は、必ず出席してください。第1回目の授業欠席に伴う不利益については、自己責任でお願いします。

●参考文献・教材

テキスト

「国語表現」(国表303、京都書房。文部科学省検定済高等学校国語科用教科書)

参考書・参考資料等

高等学校学習指導要領解説国語編(平成22年6月、文部科学省)、 高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説国語編(平成30年7月、文部科学省)、中学校学習指導要領解説国語編(平成29年6月、文部科学省)

授業科目名	科目NO.	KLSGH2201	授業コード	L200620010	
社会科・地理歴史科教育法Ⅰ a Methods of Teaching Geography and History Ⅰ			単位数	2 単位	
授業形態 講義	担当教員名 中　善則				

●科目の主題

社会科授業の理論と教材開発

●到達目標

中学校社会科（主に地理・歴史分野）および高校地理歴史科の授業を構想・計画し、実践できるようになるために必要な基礎的力量を身につけることを目標とする。

具体的には、

1.社会科・地歴科授業の基礎的な理論を理解すること、

2.社会科・地歴科授業についての視野を広げ、多様な教授方法や活動とコミュニケーションの組織の方法について知ること、

3.社会科・地歴科における教材研究と授業構想のあり方を理解すること、 が到達目標である。

●授業内容・授業計画

授業の概要　学習指導要領や社会科教育の理論と実践を学ぶこととを通して、社会科授業についてのイメージを拡張し、社会科・地歴科において目指すべき資質・能力をより豊かに実現する道筋を理解する。　できるかぎりディスカッションやワークショップなどの形式を取り入れながら、多様な授業のあり方を体験的に知る機会を多くつくっていきたい。

授業計画

第1回:オリエンテーション　社会科教育の歴史から

第2回:社会科授業の構成要素授業の主体とコミュニケーション

第3回:社会科の目標と内容

第4回:社会科授業の方法

第5回:社会科授業の組織形態と評価

第6回:社会科授業におけるグループワーク

第7回:社会科授業におけるメディアの活用

第8回:社会参加を通した社会科授業

第9回:社会科における教材開発

第10回:シミュレーション教材の意義

第11回:シミュレーション教材の活用

第12回:地理的分野の授業構成と展開

第13回:歴史的分野の授業構成と展開

第14回:社会科教育における評価

定期試験 なし

●事前・事後学習の内容

事後学習としては、授業中に紹介した論文や文献を読んで、活用できるようにすること。

事前学習としては、次回の授業までの課題に積極的に取り組むことが求められる。

●評価方法

授業への参加・貢献（毎回のコメントカードを含む）30% 課題レポート（教材研究と授業構想）50% まとめのレポート20%

評価の観点 1　社会科の歴史について理解している

評価の観点 2　社会科・地歴科の目標と内容について理解している。

評価の観点 3　社会科・地歴科の教授方法と評価について理解している。

●受講生へのコメント

この授業を通して、社会科授業についてのイメージを拡張し、より豊かな社会科の可能性を認識してもらいたい。また授業への参加の仕方が、現実の社会への参加の仕方とつながっていることに気づいてほしい。そのために、できるかぎりディスカッションやワークショップなどの形式を取り入れながら、多様な授業のあり方を体験的に知る機会を多くつくっていくので、積極的な参加を期待します。

●参考文献・教材

教科書:「ともに学ぶ　人間の歴史　中学社会　歴史的分野」(学び舎)・・生協等で購入しておくこと

参考文献:文部科学省『中学校学習指導要領』、『中学校学習指導要領解説社会編』

文部科学省『高等学校学習指導要領解説地理歴史編』

授業科目名	科目NO.	KLSGH2202	授業コード	L200630010	
社会科・地理歴史科教育法Ⅱ a Methods of Teaching Geography and HistoryⅡ			単位数	2 単位	
授業形態 講義	担当教員名 中　善則				

●科目の主題

社会科・地歴科の授業実践力を身につける。

●到達目標

社会科・地歴科授業実践の分析の視点を獲得すること。

授業プランづくりと模擬授業実践を通して、社会科・地歴科授業実践の基礎的な力量を身につけること。とくに、「アクティブ・ラーニングの視点」を自分なりに理解すること。

●授業内容・授業計画

前半は主に社会科・地歴科の授業実践を分析し、具体的な授業づくりと実践について理解を深める。
後半はグループ（個人）に分かれて授業プランを作成して模擬授業を行い、それぞれの授業についての討議を行う。（フィールドワークの実践についても考察する予定であるが、受講生の人数によっては、変更する可能性がある）
第1回 オリエンテーション（授業プラン作成と模擬授業に向けて）
第2回 地理実践に学ぶ
第3回 歴史実践に学ぶ
第4回 フィールドワーク（地理・野外観察、歴史・野外調査）の実践に学ぶ
第5回 フィールドワークの実践
第6回 フィールドワークのまとめ
第7回 授業プランの作成
第8回 模擬授業（1）
第9回 模擬授業（2）
第10回 模擬授業（3）
第11回 模擬授業（4）
第12回 模擬授業（5）
第13回 模擬授業（6）
第14回 模擬授業全体のふり返りと総括（まとめのレポート記入）

●事前・事後学習の内容

事前学習としては、自身の授業プラン作成のため、次期学習指導要領の概要等の諸資料を読み込んでおくこと。また、模擬授業の指導案を、教員の指示に合わせて、作成し、修正を重ねること。

事後指導としては、他者の模擬授業については、毎回、専用シートに、そのふりかえりを記入すること。また、自身の模擬授業については、他者から受けたふりかえりシートを熟読し、その批判に対して、再反論したレポートを作成すること。さらに、より必要であると実感した理論書を読み直すこと。

●評価方法

出席および毎回の振り返りシート（15%）、授業プランの作成（40%）、模擬授業の実践（30%）、まとめのレポート（15%）

評価観点1　社会科・地歴科の授業を分析し、多面的に論じることができる。

評価観点2　社会科・地歴科の授業プラン（フィールドワークを含む）を構成することができる。

評価観点3　模擬授業を実践し、自らの実践について反省的に考察することができる。

●受講生へのコメント

社会科・地理歴史科教育法Ⅰを履修していることが望ましい。

学習指導要領および解説については、事前に熟読しておいてください。生徒と夢中になって課題に取り組めるような授業づくりを共に

考えていきましょう。

●参考文献・教材

教科書:「ともに学ぶ　人間の歴史　中学社会　歴史的分野」(学び舎)・・生協等で購入しておくこと

参考文献:文部科学省『中学校学習指導要領』、『中学校学習指導要領解説社会編』

文部科学省『高等学校学習指導要領解説地理歴史編』

授業科目名	科目NO.	KLSCV2201	授業コード	L200640010,20	
社会科・公民科教育法Ⅰ a,b Methods of Teaching Social Studies and Civics Ⅰ			単位数	2 単位	
授業形態 講義	担当教員名 岩本 賢治				

●科目の主題

この講義では、主に中学校社会科教育並びに高校公民科教育の課題について考えていきたい。

講義の前半では、戦後社会科教育の成立から現在に至るまでの社会科教育の歴史を振り返りながら、社会科教育の目標について考える。

後半では、教材研究を行う。現行の教科書の問題点、戦後社会科教科書の記述の変遷、戦後社会科教育実践の分析から、社会科教育実践上の課題について考える。

●到達目標

戦後社会科教育の政策の変化と実践史への理解を通じて、 今日の社会科教育の目標と課題について考察を深める。 特に社会科教育の実践例と特徴ある教材を分析することにより、自分が受けてきた社会科教育のイメージにとらわれることなく、社会科教育のあるべき実践の姿について考えられるようになる。

●授業内容・授業計画

講義の前半では、戦後社会科教育の成立から現在に至るまでの社会科教育の歴史を振り返りながら、社会科教育の目標について考える。

後半では、教材研究を行う。現行の教科書の問題点、戦後社会科教科書の記述の変遷、戦後社会科教育実践の分析から、社会科教育実践上の課題について考える。

1.めざす中等社会科教育像―中学生の学習状況調査(社会科)と大学生の被教育体験から考える。
2.戦後の社会科のあゆみ(1)―戦前の「社会科」教育の歴史と公民教育構想から初期社会科の誕生へ
3.戦後の社会科のあゆみ(2)―問題解決学習と初期社会科実践、系統主義か生活主義かの論争
4.戦後の社会科のあゆみ(3)―指導要領改訂の歴史とさまざまな社会科教育実践(～1989年)
5.戦後の社会科のあゆみ(4)―指導要領改訂の歴史とさまざまな社会科教育実践(1989年～)
6.戦後社会科教育実践の授業分析(1)―生活綴方を生かした授業
7.戦後社会科教育実践の授業分析(2)―地域の歴史を生かした授業(小学校)
8.戦後社会科教育実践の授業分析(3)―地域の歴史を生かした授業(中学校)
9.戦後公民科教育実践の授業分析(4)―主権者教育をめざした授業(高校)
10.社会科・公民科教材づくりの視点と方法(1)―教育内容と教材の区分、中学校の教科書分析
11.社会科・公民科教材づくりの視点と方法(2)―学習指導案づくり、授業構想と教材研究
12.社会科・公民科教材づくりの視点と方法(3)―学習指導案づくり、具体的な授業案づくり
13.社会科教材づくりの視点と方法(4)―「対話的主体的で深い学び」につながる授業づくり
14.社会科教材づくりの視点と方法(5)―情報機器を生かした授業づくり
15.試験

●事前・事後学習の内容

高校公民科「現代社会」や中学校公民的分野で導入や展開で使えそうな資料(文字資料＝新聞・書籍・雑誌など、音声音楽資料＝演説やラジオニュース・邦楽洋楽など、絵画動画資料＝絵本・マンガ・テレビ映画映像など、日常生活のなかから身近にある公民に関係のある教材を発見する。

●評価方法

評価観点 1　社会科・公民科教育の諸理論や意義について理解している
評価観点 2　社会科・公民科教育並びに授業をめぐる諸課題について理解している
評価観点 3　社会科・公民科教育並びに授業について、 自分なりの意見を持っている

●受講生へのコメント

この授業は出席を重視するので注意すること。

授業の中でグループワークを通じて、意見形成、意見表明を求めるので、自分なりの考えを持ち、表現できるよう努めること。

●参考文献・教材

プリント配布

参考書『中学校学習指導要領解説社会編』

『高等学校学習指導要領解説公民編』文部科学省

授業科目名	科目NO.	KLSCV2202	授業コード	L200650010,20	
社会科・公民科教育法Ⅱ a,b Methods of Teaching Social Studies and Civics Ⅱ			単位数	2 単位	
授業形態 講義	担当教員名 岩本　賢治				

●科目の主題

教育実習での研究授業を念頭において、社会科・公民科「学習指導案（細案）」を作成することができる。授業実践の模擬体験を通して、授業技術の基礎を身につける。協力して授業実践及び相互批評を行うことを通して、授業研究や授業改善の方法を知る。

●到達目標

1　中等社会科の授業を自ら構成し、「学習指導案」の形で表現し、授業ができる。 2　そのために、社会科・公民科の目標及び主な内容並びに全体構造を理解し、学習内容について指導上の留意点を理解し、学習評価の考え方を理解している。

●授業内容・授業計画

授業の概要　前半は講義を中心に、社会科の教科書研究、教材教具づくり、授業方法、学習指導案について概略を学ぶ。後半は小集団または個人によって教材を開発し、学習指導案を作成し、模擬授業実践から相互批評を行い、授業力向上のための授業研究方法までを学ぶ。

授業計画　第1回:めざす中等社会科授業像―大学生の被教育体験から考える。
第2回:中学社会科公民的分野・高校公民科教育の課題（授業紹介）
第3回:公民科の授業実践の工夫と課題①（「対話的主体的で深い学び」について）
第4回:公民科の授業実践の工夫と課題②（情報機器の活用について）
第5回:社会科・公民科と評価―21世紀に求められる資質・能力、相対評価と絶対評価、観点別学習状況評価
第6回:学習指導案の作成①（学習指導案とは、その書き方など）
第7回:学習指導案の作成②（テーマ設定）
第8回:学習指導案の作成③（作成作業と添削）
第9回:学生による模擬授業の実施（現代社会の諸課題、ESD）
第10回:学生による模擬授業の実施（青年期と自己形成）
第11回:学生による模擬授業の実施（他者と共に生きる倫理）
第12回:学生による模擬授業の実施（民主政治と日本国憲法）
第13回:学生による模擬授業の実施（現代の経済社会）
第14回:学生による模擬授業の実施（国際政治・経済の動向）
定期試験なし

●事前・事後学習の内容

高校公民科「現代社会」や中学校公民的分野で導入や展開で使えそうな資料（文字資料＝新聞・書籍・雑誌など、音声・音楽資料＝演説やラジオニュース・邦楽洋楽など、絵画動画資料＝絵本・マンガ・テレビ映画映像など、日常生活のなかから身近にある公民に関係のある教材を発見する。

●評価方法

評価観点1　公民科の授業における課題について理解している
評価観点2　公民科の学習指導案を適切に作成できる
評価観点3　個性的な授業プランを構想できる

●受講生へのコメント

あらかじめ社会科・公民科教育法Ⅰの授業を履修しておくことが望ましい。
この授業は出席を重視するので注意すること

●参考文献・教材

テキスト

中学校学習指導要領社会科編（平成29年3月告示、文部科学省）　高等学校学習指導要領（平成30年3月告示、文部科学省）、

参考書・参考資料等

特になし

授業科目名	科目NO.	KLENG2201	授業コード	L200660010	
外国語科教育法(英語) I Methods of Teaching Foreign Languages(English) I			単位数	2 単位	
授業形態 実習	担当教員名 石野　未架				

●科目の主題

英語の授業方法についての基礎を学ぶ

●到達目標

英語の教育法についての基本的知識を身につけることを大きな目標とする。

具体的に、受講生は授業終了までに以下の知識を身に着けることを目標とする。

1. 英語授業の基本的な構成
2. 授業を英語で教えるために使う基本的な教授方略。
3. 授業実践を分析するための基本的な観点

●授業内容・授業計画

第1回:英語指導の目標と内容
第2回:学習者の要因、教師の役割と良い教師の条件
第3回:英語習得の理論上の諸問題、英語指導の原理
第4回:発音の指導、文字とつづり字の指導
第5回:語彙の指導、文法の指導
第6回:リスニングの指導
第7回:スピーキングの指導
第8回:リーディングの指導
第9回:ライティングの指導
第10回:コミュニケーションの指導、統合的指導
第11回:教材研究と授業の準備、授業案の作成と授業の進め方
第12回:教材と機器の活用、ネイティブ・スピーカーの活用
第13回:テストと評価
第14回:小学校の英語教育、これからの英語教育

●事前・事後学習の内容

授業 1 週間前に、次回の講義に関する資料を本授業の Web サイトに掲載する。必ず事前に内容を確認し、授業に臨むこと。

●評価方法

授業内に模擬授業やプレゼンテーションを課す。これらのパフォーマンスと授業内でのディスカッションへの積極的な参加, 提出物により評価する。

＜評価内訳＞

レポート等の提出物:20%

授業への参加度(発言回数など):30%

授業内での発表:50%

●受講生へのコメント

授業までに指定した文献を読んでおくこと。指定文献を読んできたうえで授業内でディスカッションを行うため、文献の内容を理解してくることは必須である。したがって各授業の前後にそれぞれ 2 時間程度の予習・復習の時間は必要である。

●参考文献・教材

第一回の授業で提示する。また、授業のすすみ具合に応じて適宜授業内で資料を配布する。

授業科目名	科目NO.	KLENG2202	授業コード	L200670010	
外国語科教育法(英語)Ⅱ Methods of Teaching Foreign Languages(English)Ⅱ				単位数	2 単位
授業形態 講義／演習	担当教員名 溝畑　保之				

●科目の主題

英語科教育法に関する主体的・対話的で深い学びを修める。知識理解定着型アクティブ・ラーニング(AL)型授業を経験し、AL型指導を体得する。基本的な英語指導技術を修得する。

●到達目標

AL型授業でディスカッションで道筋を立て発言できる。理論に基づいた基本的な模擬授業ができる。他者の模擬授業を評価できる。

●授業内容・授業計画

1. 英語教育の目的　グローバル化と英語帝国主義
2. 知識注入型と能力主義　CEFRとCan-Do
3. 第2言語習得理論①
4. 第2言語習得理論②
5. アクティブ・ラーニングとルーブリック
6. 英語中心のラウンド制指導　体験
7. 英語中心のラウンド制指導　準備と練習
8. 英語中心のラウンド制指導　模擬授業と相互評価
9. ジグソー法　(情報を集めることが目的)　体験と準備
10. ジグソー法　模擬授業と相互評価
11. KP法　　(わかりやすい展開の物語で)
12.ミニ・ディベート　(身近な論題で)
13. 文法指導　体験と準備
14. 文法指導　模擬授業と相互評価
15. スピーキングとライティング

●事前・事後学習の内容

【事前】提供されるテーマで英語でディスカッションできるように準備。

【授業の最後】振り返りシート提出。

●評価方法

授業内での発言振り返りシート模擬授業の工夫と授業実践力定期考査なし

●受講生へのコメント

積極的に授業に主体的参加をする。模擬授業が当たっていない時は、他の人の発表を評価し、自分の模擬授業に活かす。自分が受けた授業に基づくよりも、自ら創意工夫して、生徒にわかりやすい授業をするように心掛ける。教職科目であることを勘案し、出席状況及び授業態度の悪い者は、単位不認定となる。

●参考文献・教材

テキスト『英語スピーキング指導ハンドブック』 泉　惠美子・門田　修平　編　大修館書店　2016

授業科目名	科目NO.	KLENG2203	授業コード	L200680010	
外国語科教育法(英語)Ⅲ Methods of Teaching Foreign Languages(English)Ⅲ				単位数	2 単位
授業形態 講義／演習	担当教員名 溝畑　保之				

●科目の主題

英語科教育法に関して主体的・対話的で深い学びを修める。知識理解定着型アクティブ・ラーニング(AL)型授業を経験し、AL型指導を体得する。発展的な指導技術を修得する。

●到達目標

AL型授業でディスカッションで道筋を立て発言し、話し合いができる。理論に基づいた発展的な模擬授業ができる。他者の模擬授業を公正に批判的に評価できる。

●授業内容・授業計画

1. 学習指導要領の変遷　学力の3要素
2. コミュニケーション能力とは
3. 学習者の動機についてと
4. 非認知能力(ソフトスキル)
5. Task based learning(TBL)
6. 内容言語統合型指導(CLIL)　体験
7. 内容言語統合型指導(CLIL)　準備と練習
8. 内容言語統合型指導(CLIL)　模擬授業と相互評価
9. ジグソー法　(情報を集めることが目的)　体験と準備
10. ジグソー法　模擬授業と相互評価
11. KP法　(発展的な内容の物語で)体験と準備
12. KP法　(発展的な内容の物語で)模擬授業と相互評価
13. 文法指導　体験と準備
14. 文法指導　模擬授業と相互評価

●事前・事後学習の内容

【事前】提供されるテーマで英語でディスカッションできるように準備。

【授業の最後】振り返りシート提出。

●評価方法

授業内での発言振り返りシート模擬授業の工夫と授業実践力定期考査なし

●受講生へのコメント

積極的に授業に主体的参加をする。模擬授業が当たっていない時は、他の人の発表を評価し、自分の模擬授業に活かす。自分が受けた授業に基づくよりも、自ら創意工夫して、生徒にわかりやすい授業をするように心掛ける。教職科目であることを勘案し、出席状況及び授業態度の悪い者は、単位不認定となる。

●参考文献・教材

『英語スピーキング指導ハンドブック』泉　惠美子・門田　修平　編　大修館書店　2016

授業科目名	科目NO.	KLENG2204	授業コード	L200690010	
外国語科教育法(英語)Ⅳ Methods of Teaching Foreign Languages(English)Ⅳ			単位数	2 単位	
授業形態 実習	担当教員名 石野　未架				

●科目の主題

外国語科教育法の基礎技能を身に着ける

●到達目標

英語の教育法についての基本的技術を身につけることを大きな目標とする。

具体的に、受講生は授業終了までに以下の技術を身に着けることを目標とする。

1. 生徒との英語インタラクションの観点から教師の実践を分析する技術。

2. 生徒との英語インタラクションの視点から自らの授業を内省する技術。

●授業内容・授業計画

第1回: 模擬授業及びその分析 (アクティブラーニング[ペアワーク])
第2回: 模擬授業及びその分析 (アクティブラーニング[グループワーク])
第3回: 模擬授業及びその分析 (英語指導法[L2理論、ALT、異文化理解、情報機器利用])
第4回: 模擬授業及びその分析 (音声指導[発音、イントネーションなど])
第5回: 模擬授業及びその分析 (文字指導[フォニックス、音読、黙読])
第6回: 模擬授業及びその分析 (語彙指導[単語、定型表現など])
第7回: 模擬授業及びその分析 (文法指導[分詞、不定詞、動名詞])
第8回: 模擬授業及びその分析 (文法指導[分詞構文、受動態])
第9回: 模擬授業及びその分析 (文法指導[関係詞、比較級、仮定法])
第10回:模擬授業及びその分析 (リーディング指導)
第11回:模擬授業及びその分析 (リスニング指導)
第12回:模擬授業及びその分析 (ライティング指導)
第13回:模擬授業及びその分析 (スピーキング指導)
第14回:模擬授業及びその分析 (コミュニケーション指導)

●事前・事後学習の内容

授業 1 週間前に、次回の講義に関する資料を本授業の Web サイトに掲載する。必ず事前に内容を確認し、授業に臨むこと。

●評価方法

毎回の授業で模擬授業を課す。これらのパフォーマンスと授業内でのディスカッションへの積極的な参加、提出物により評価する。

＜評価内訳＞

レポート等の提出物:20%

授業への参加度(発言回数など):30%

授業内での発表:50%

●受講生へのコメント

授業までに指定した文献を読んでおくこと。指定文献を読んできたうえで授業内でディスカッションを行うため、文献の内容を理解してくることは必須である。したがって各授業の前後にそれぞれ 2 時間程度の予習・復習の時間は必要である。

●参考文献・教材

第一回の授業で提示する。また、授業のすすみ具合に応じて適宜授業内で資料を配布する。

授業科目名	科目NO.	KLGER2201	授業コード	L200700010	
外国語科教育法(独語) I Methods of Teaching Foreign Languages(German) I			単位数	2 単位	
授業形態 講義	担当教員名 神竹 道士				

●科目の主題

日本におけるドイツ語教育の歴史とその流れを把握する。

●到達目標

外国語(ドイツ語)教育の歴史的変遷について学び、現状の課題について理解する。

●授業内容・授業計画

授業の概要:

外国語(ドイツ語)教育が時代の要請と共に変遷していく様を概観し、外国語(ドイツ語)教育の本来あるべき姿について考察する。

授業計画

第1回:オリエンテーション:授業の概略について説明
第2回:ドイツ語教育の歴史:明治から昭和初期まで
第3回:ドイツ語教育の歴史:戦前から戦後70年代まで
第4回:ドイツ語教育の歴史:1980年代から現代まで
第5回:外国語(英語)教育とドイツ語教育:初等教育から中等教育
第6回:外国語(英語)教育とドイツ語教育:高等教育から大学
第7回:DaF(外国語としてのドイツ語)とドイツ語教育:ドイツの場合
第8回:DaF(外国語としてのドイツ語)とドイツ語教育:日本の場合
第9回:Germanistik(ドイツ語学・文学)とドイツ語教育:ドイツの場合
第10回:Germanistik(ドイツ語学・文学)とドイツ語教育:日本の場合
第11回:外国語(英語)教育と異文化理解
第12回:外国語(ドイツ語)教育と異文化理解
第13回:ドイツ語教育の現状と課題
第14回:ドイツ語教育の果たすべき役割
レポート提出

●事前・事後学習の内容

事前学習:配布資料に目を通す。

事後学習:問題点を整理する。

●評価方法

平常点(50%)とレポート(50%)により評価する。

評価観点1:日本におけるドイツ語教育の歴史について理解している。

評価観点2:DaF(外国語としてのドイツ語)について理解している。

評価観点3:外国語(ドイツ語)教育と異文化理解について理解している。

●受講生へのコメント

授業中、積極的に意見交換をすること。

●参考文献・教材

授業中、適宜資料を配布する。

授業科目名	科目NO.	KLGER2202	授業コード	L200710010	
外国語科教育法(独語) Ⅱ Methods of Teaching Foreign Languages(German) Ⅱ				単位数	2 単位
授業形態 講義	担当教員名 神竹　道士				

●科目の主題

ドイツ語教育の方法論について、その特徴と課題について熟知する。

●到達目標

外国語教育で導入されているさまざまな方法論(教授法)について学び、現状におけるドイツ語の授業形態に応じた教授法の取り入れ方について理解する。

●授業内容・授業計画

授業の概要:

同一の学習項目であっても教授法が変わることで習得のプロセスが大きく異なることを、授業参観および体験学習を通して考察する。

授業計画

第1回:オリエンテーション:授業の概略について説明
第2回:文法訳読法
第3回:ダイレクト・メソッド(直接教授法)
第4回:オーラル・アプローチ
第5回:アクティブ・ラーニング
第6回:CALL授業
第7回:説明方法:明示的説明と暗示的説明
第8回:ペア練習とグループ練習
第9回:ポートフォリオの作成
第10回:副教材:CDとビデオ教材
第11回:TAの導入の仕方
第12回:自立学習と生涯学習
第13回:授業参観(1年次文系クラス)
第14回:授業参観(1年次理系クラス)
レポート提出

●事前・事後学習の内容

事前学習:配布資料に目を通す。

事後学習:問題点を整理する。

●評価方法

平常点(50%)とレポート(50%)により評価する。

評価観点1:さまざまな教授法とその特徴について理解している。

評価観点2:授業形態に応じた教授法が任意に選択できる。

評価観点3:学習者に応じて、さまざまな教授法を任意に組み合わせて指導できる。

●受講生へのコメント

授業中、積極的に意見交換をすること。

●参考文献・教材

授業中、適宜資料を配布する。

授業科目名	科目NO.	KLGER2204	授業コード	L200730010	
外国語科教育法(独語)Ⅳ Methods of Teaching Foreign Languages(German)Ⅳ			単位数	2 単位	
授業形態 講義	担当教員名 神竹　道士				

●科目の主題

大学1年次および2年次に開講されるドイツ語の授業クラス(文系・理系)に則したティーチングプランを作成して、模擬授業を行う。

●到達目標

ドイツ語学習の到達目標に応じた授業設計をし、学習者の能力を公平に評価する相対的基準を理解する。

●授業内容・授業計画

授業の概要:

学習項目をどのようにして教えるのかをティーチングプランで示し、公平・公正な成績評価の基準について考察する。

授業計画

第1回:オリエンテーション(授業の概略について説明)
第2回:ドイツ語学習の到達目標(1年次共通教育)
第3回:ドイツ語学習の到達目標(2年次共通教育)
第4回:ドイツ語学習の到達目標(専門教育)
第5回:発音指導
第6回:文法指導
第7回:読解指導
第8回:ティーチングプランの作成(1年次文系クラス)
第9回:ティーチングプランの作成(1年次理系クラス)
第10回:テストの形式(中間テスト、小テスト、他)
第11回:テストの形式(学期末テスト)
第12回:成績評価の公平性
第13回:模擬授業(文系クラス)
第14回:模擬授業(理系クラス)
レポート提出

●事前・事後学習の内容

事前学習:配布資料に目を通す。

事後学習:問題点を整理する。

●評価方法

平常点(50%)とレポート(50%)により評価する。

評価観点1:ドイツ語の運用能力を十分に有している。

評価観点2:適切なティーチングプランを作成することができる。

評価観点3:公平な成績評価をすることができる。

●受講生へのコメント

授業中、積極的に意見交換をすること。

●参考文献・教材

授業中、適宜資料を配布する。

授業科目名	科目NO.	KLFRN2201	授業コード	L200740010	
外国語科教育法(仏語) I Methods of Teaching Foreign Languages(French) I			単位数	2 単位	
授業形態 講義	担当教員名 福島　祥行				

●科目の主題

外国語教育のありかたを論じつつ、中等教育におけるフランス語教育の理論と実践、外国語学習のありかたについて、具体的に考察する。

●到達目標

中等教育におけるフランス語教育のありかたと、そもそも言語を教えるとはいかなることかについて対話し、あらたな知識を創発することをめざす。

●授業内容・授業計画

外国語教育の歴史をまなびつつ、中等教育におけるフランス語教育の理論と実践について対話し、あらたな知識を創発する。

第1回:中等教育における外国語科学習指導要領とフランス語教育の現在
第2回:外国語教育法の思想と方法論(文法訳読法)
第3回:外国語教育法の思想と方法論(ダイレクト・メソッド)
第4回:外国語教育法の思想と方法論(オーディオ・リンガル・メソッド)
第5回:外国語教育法の思想と方法論(SGAV)
第6回:外国語教育法の思想と方法論(コミュニカティヴ・アプローチ)
第7回:外国語教育法の思想と方法論(TPR、サイレント・ウェイ)
第8回:外国語教育法の思想と方法論(サジェストペディア、イマージョン・プログラム)
第9回:外国語教育法の思想と方法論(タスク中心指導法、コンテンツ中心指導法)
第10回:協働学習 apprentissage collaboratif と協調(協同)学習 apprentissage coopératif
第11回:自律学習
第12回:学習ポートフォリオ
第13回:シラバスと教材
第14回:テスティングと評価＆ふりかえりとまとめ

●事前・事後学習の内容

事前に前回の学習内容のノートを読み返すこと、および、事後のふりかえり等により、1回の授業あたり2時間の自習時間をとること。

●評価方法

評価観点1:学習指導要領の外国語科の項目とその意味について理解している。
評価観点2:外国語科教育の方法論とその思想を理解している。
評価観点3:言語教育とはなにかについて深くかんがえている。

●受講生へのコメント

外国語教育において、方法論の選択は皮相な問題にすぎない。そもそも言語をおしえるとはどういうことなのかについて深く思弁されたい。

●参考文献・教材

テキスト
プリント配布
参考書・参考資料等
小学校学習指導要領
中学校学習指導要領

高等学校学習指導要領
リチャーズ、ロジャーズ『アプローチ＆メソッド　世界の言語教授・指導法』東京書籍
中村啓佑、長谷川富子『フランス語をどのように教えるか』(駿河台出版社)
ジョンソン、ジョンソン『外国語教育学大事典』(大修館書店)
中村洋一『テストで言語能力は測れるか』(桐原書店)
小池、他編『応用言語学事典』(研究社)

授業科目名	科目NO.	KLFRN2202	授業コード	L200750010	
外国語科教育法(仏語)Ⅱ Methods of Teaching Foreign Languages(French)Ⅱ				単位数	2 単位
授業形態 講義	担当教員名 福島　祥行				

●科目の主題

フランス語で書かれた外国語教育にかんする書物や論文を精読することで、フランス語教育に必要な基礎知識とフランス語力を身につける。

●到達目標

中等教育におけるフランス語教育のありかたを思弁し、どうじにフランス語教員としての仏語運用能力を涵養する。

●授業内容・授業計画

前半は教員の用意した文献を精読し、後半は受講生の選択した文献を精読する。今年度は、CEFRと Volume complémentaire を読む。

第1回:CEFR 1.1をよむ
第2回:CEFR 1.2をよむ
第3回:CEFR 1.3をよむ
第4回:CEFR 1.4をよむ
第5回:CEFR 1.5をよむ
第6回:CEFR 1.6をよむ
第7回:CEFR 3.1をよむ
第8回:CEFR 8.1をよむ
第9回:CEFR 8.2をよむ
第10回:VC 1をよむ
第11回:VC 2をよむ
第12回:VC 3をよむ
第13回:VC 4をよむ
第14回:ふりかえりとまとめ

●事前・事後学習の内容

事前に前回の学習内容のノートを読み返すこと、および、事後のふりかえり等により、1回の授業あたり2時間の自習時間をとること。

●評価方法

ポートフォリオと自己評価。

評価観点1:学習指導要領の外国語科の項目とその意味について理解している。

評価観点2:外国語科教育の方法論とその思想を理解している。

評価観点3:言語教育とはなにかについて深くかんがえている。

●受講生へのコメント

外国語教育において、方法論の選択は皮相な問題にすぎない。そもそも言語をおしえるとはどういうことなのかについて対話し、知識を創発されたい。

●参考文献・教材

テキスト

プリント配布

参考書・参考資料等

小学校学習指導要領

中学校学習指導要領

高等学校学習指導要領
リチャーズ、ロジャーズ『アプローチ＆メソッド　世界の言語教授・指導法』東京書籍
中村啓佑、長谷川富子『フランス語をどのように教えるか』(駿河台出版社)
ジョンソン、ジョンソン『外国語教育学大事典』(大修館書店)
中村洋一『テストで言語能力は測れるか』(桐原書店)
小池、他編『応用言語学事典』(研究社)

授業科目名	科目NO.	KLFRN2204	授業コード	L200770010	
外国語科教育法(仏語)Ⅳ Methods of Teaching Foreign Languages(French)Ⅳ				単位数	2 単位
授業形態 演習	担当教員名 大山　大樹				

●科目の主題

外国語教育の実践について考察しつつ、教育の思想そのものについてかんがえる。

●到達目標

中等教育におけるフランス語教育のありかたと、そもそも言語を教えるとはいかなることかについて思弁する力を涵養する。

●授業内容・授業計画

中等教育における学習形態、具体的には一斉授業と自律学習、グループワーク、ポートフォリオについて、受講生とともに考察してゆく。

第1回 外国語教育とはなにか？
第2回 外国語教育はなにをめざすのか？
第3回 中等教育における外国語教育のありかた
第4回 中等教育における仏語教育とは？
第5回 中等教育における仏語教育の現状
第6回 中等教育における仏語教育の未来
第7回 自律的学習者とは？
第8回 一斉授業とは？
第9回 自学自習とは？
第10回 反転授業とは？
第11回 グループワークとは？
第12回 ポートフォリオとは？
第13回 ポートフォリオの理論的裏づけ
第14回 ポートフォリオの作成と改善
第15回 ふりかえりとまとめ

●事前・事後学習の内容

事前に前回の学習内容のノートを読み返すこと、および、事後のふりかえり等により、1回の授業あたり2時間の自習時間をとること。

●評価方法

授業参加度と自己評価。■評価の観点

外国語教育ー学習の方法論とその思想を理解している。

外国語科教育ー学習のツールについて深い思弁ができる。

外国語教育ー学習の社会性について議論できる。

●受講生へのコメント

外国語教育において、方法論の選択は皮相な問題にすぎない。そもそも言語をおしえるとはどういうことなのかについて深く思弁されたい。

●参考文献・教材

■参考文献

中村啓佑、長谷川富子『フランス語をどのように教えるか』(駿河台出版社)

日本フランス語教育学会『Etude dicactique du francais』

竹蓋幸生『英語教育の科学』(アルク)

ジョンソン、ジョンソン『外国語教育学大事典』(大修館書店)

中村洋一『テストで言語能力は測れるか』(桐原書店)
小池、他編『応用言語学事典』(研究社)
土持ゲーリー法一『ラーニング・ポートフォリオ』(東信堂)

授業科目名	科目NO.	KLCHN2201	授業コード	L200780010	
外国語科教育法(中国語) I Methods of Teaching Foreign Languages(Chinese) I			単位数	2 単位	
授業形態 講義	担当教員名 岩本 眞理				

●科目の主題

中国語教育の現状と歴史的経緯への理解を深める。高校での中国語教育の達成目標に基づいて、授業計画を作成する。

●到達目標

基本的に対面により授業を進める。『高等学校の中国語と韓国語学習のめやす』に基づき、年間・月間・週間の授業計画を作成し、模擬授業を実施する。受講者同士で相互評価を行い、それぞれの課題を共有する。

●授業内容・授業計画

到達目標を明確にして、学習者の積極的参加を促すよう毎回の授業を創り上げる。

第1回 中国語教育の現状
第2回 中国語教育の歴史
第3回 現行テキストの検討1
第4回 現行テキストの検討2
第5回 言語習得とは
第6回 発音教育の課題1
第7回 発音教育の課題2
第8回 初級段階文法事項の課題1
第9回 初級段階文法事項の課題2
第10回 授業計画の作成1
第11回 授業計画の作成2
第12回 模擬授業1
第13回 模擬授業2
第14回 相互評価
第15回 まとめ

●事前・事後学習の内容

事前学習:複数の教科書を丹念に読み比べ、それぞれが目指す教室活動を整理しておくこと

事後学習:模擬授業後の指摘から、教案を再度作り直すこと

●評価方法

授業中の発表とレポートによる

評価観点1 中国語教育の歴史を理解している

評価観点2 中国語による授業遂行を行うに十分な学力を具えている

評価観点3 到達目標に即した授業計画を作成できる

●受講生へのコメント

中国語教育の現状だけではなく、歴史的背景にも関心をもち、メディア報道による知識の蓄積に偏らず、多方面の読書に努めて、異なる視点からの考察や分析ができるよう努めてほしい。

●参考文献・教材

胡玉華『中国語教育とコミュニケーション能力の育成』東方書店

このほか、授業中に指示する。

授業科目名	科目NO.	KLCHN2202	授業コード	L200790010	
外国語科教育法(中国語)Ⅱ Methods of Teaching Foreign Languages(Chinese)Ⅱ			単位数	2 単位	
授業形態 講義	担当教員名 岩本 眞理				

●科目の主題

基本的に対面による授業をおこなう。初級段階を終えた学習者に対する授業計画の作成、適切な質と練習量を備えた教材の作成、多元的な評価方法の摸索。

●到達目標

初級段階を終えた学習者に対する授業計画の作成、適切な質と練習量を備えた教材の作成。並びに多元的な評価尺度の作成。

●授業内容・授業計画

授業の概要　中級段階の課題を整理し、評価方法の多様性について検討した後に、教科書の作成作業に入る。

授業計画

第1回:教科書を教えるのか、教科書で教えるのか
第2回:中級段階の課題―使役と受動など
第3回:中級段階の課題―複文と論理展開
第4回:評価方法についての検討―主観と客観
第5回:評価方法についての検討―相互評価
第6回:授業活性化のためのアイデア―身近な達成目標
第7回:授業活性化のためのアイデア―機器の適切な使用
第8回:教材作成―文法事項に特化
第9回:教材作成―語彙量の拡大に特化
第10回:教材作成―文化背景に特化
第11回:教材作成―総合的な展開
第12回:模擬授業―初級段階
第13回:模擬授業―中級段階
第14回:受講者による相互評価
第15回:まとめと整理

●事前・事後学習の内容

事前学習:中級段階の必須事項について自分の観点から整理しておく。

事後学習:生きた教材作成のために、日々素材の収集に努める。多様なコミュニケーションの場を視野におさめ、多方面への関心を維持しつづける。

●評価方法

評価観点1　教材作成のための必要事項を理解している
評価観点2　中国語の運用能力を十分備えている
評価観点3　学力評価のための基準を理解している

●受講生へのコメント

教材作成のための準備には十分な時間をかけて臨んでほしい。

●参考文献・教材

テキスト:プリントを配布する

参考書・参考資料等

野口裕之他『テスティングの基礎理論』研究社 中学校学習指導要領(平成29年3月告示、文部科学省) 高等学校学習指導要領(平成30年3月告示、文部科学省)

授業科目名	科目NO.	KLCHN2204	授業コード	L200810010	
外国語科教育法(中国語)Ⅳ Methods of Teaching Foreign Languages(Chinese)Ⅳ			単位数	2 単位	
授業形態 講義	担当教員名 岩本 眞理				

●科目の主題

中国語能力を測る種々の方法について全般的な知識をもち、自らが考案作成した原案に対して客観的立場から検討を加え、絶えず練り直す作業を続ける。

●到達目標

基本的に対面による授業をおこなう。言語の習熟状況を測るとは、そもそもどういうことなのか、という根源的な問いを共有化し、議論や授業の実践を通じて探究を続ける。

●授業内容・授業計画

第1回 ガイダンス
第2回 テストで何が測れるのか
第3回 言語テストの種々相
第4回 現行の大規模テストの特徴
第5回 カリキュラムとテスト
第6回 ポートフォリオ1
第7回 ポートフォリオ2
第8回 口頭試験の実施方法1
第9回 口頭試験の実施方法2
第10回 テストの作成1
第11回 テストの作成2
第12回 テストの作成3
第13回 相互評価
第14回 評価の信頼性
第15回 まとめ

●事前・事後学習の内容

事前 これまで自身が受けてきた種々のテストを思い出し、その時に感じた違和感や、納得のいかなかった点を洗い出す。
事後 自分を含む受講者が授業中に作成したテストについて、目的に適ったものであったか、複数の視点から再検討する。

●評価方法

授業中の発表とレポートによる。
評価観点1 言語テストに関する基礎知識を有している
評価観点2 中国語による試験作成が可能となるに十分な学力を有している
評価観点3 到達目標に即した授業計画を作成できる

●受講生へのコメント

試験の作成のみならず、その結果の分析を丹念に行うことは、授業改善への様々なヒントが得られる重要なプロセスである。点数分布などのテクニカルな面だけに目を奪われることなく、何が良問なのかという問いかけや、そもそも人間の能力を測るための手段に正当性をどこまで求めらるのか、自らの問いかけを忘れないで取り組んでほしい。

●参考文献・教材

プリントを配布する。
参考資料 J.Dブラウン『言語テストの基礎知識―正しい問題作成・評価のために』大修館書店

授業科目名	科目NO.	KLPED2204	授業コード	L200570010	
教育方法論 a Theory of Teaching Methods				単位数	2 単位
授業形態 講義	担当教員名 古田　紫帆				

●科目の主題

これからの教育方法に関し講義した上で，学習指導案を作成する。

後半では教育の情報化をテーマとした講義を行う。

●到達目標

子どもたちに育みたい資質・能力を明確にした上で，授業を作ることができる。

学校で進められている教育の情報化について，その概要を説明できる。

●授業内容・授業計画

※　基本対面とするが遠隔も取り入れる場合がある（予定）

第1回：これからの子どもたちに育みたい資質・能力

第2回：授業をつくるということ

第3回：評価をデザインする

第4回：学習環境をデザインする

第5回：教師としての授業力を高めるために

第6回：授業を支える指導技術

第7回：学びを引き出す指導技術

第8回：学習指導案をつくる（1）学習目標の設定

第9回：学習指導案をつくる（2）深い学びを導く教材研究

第10回：学習指導案をつくる（3）主体的・対話的な学習過程

第11回：学習指導案をつくる（4）学びが見える評価方法

第12回：授業の魅力を高めるICTの活用

第13回：子どもたちの学びを支えるICT環境

第14回：情報活用能力を育てる

●事前・事後学習の内容

指定したテキストについて，事前に読んだ上で，課題を準備してきていただきます。

事前課題に基づき，講義を展開する予定です。

●評価方法

学習指導案の作成（70%），教育の情報化に関するレポート（30%）

評価の観点A：教育方法の基礎的な理論と具体的な授業づくりの方法を理解している。

評価の観点B：教育技術の具体的な活用方法、教育評価のあり方を理解している。

評価の観点C：情報機器および教材・教具の活用について理解している。

●受講生へのコメント

授業においては，受講者間で議論することが多くなりますので，積極的に意見を出せるようにしていただければと思います。

●参考文献・教材

テキスト　←　※　授業中に指示するまで購入する必要はありません

稲垣忠（編著）（2018年度発行予定）授業設計マニュアルver.3（北大路書房）

参考書・参考資料等中学校学習指導要領（平成29年3月告示、文部科学省）

中学校学習指導要領解説総則編（平成29年7月、文部科学省）

高等学校学習指導要領（平成30年3月告示、文部科学省）

高等学校学習指導要領解説総則編（平成〇年〇月予定、文部科学省）

教育の情報化の推進 http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/index.htm

授業科目名	科目NO.	KLPED2204	授業コード	L200570020	
教育方法論 b Theory of Teaching Methods				単位数	2単位
授業形態 講義	担当教員名 坂本 將暢				

●科目の主題

これからの教育方法に関し講義した上で，学習指導案を作成する。

後半では教育の情報化をテーマとした講義を行う。

●到達目標

子どもたちに育みたい資質・能力を明確にした上で，授業を作ることができる。

学校で進められている教育の情報化について，その概要を説明できる。

●授業内容・授業計画

本講義は遠隔で実施する。

授業計画

第1回:これからの子どもたちに育みたい資質・能力

第2回:授業をつくるということ

第3回:評価をデザインする

第4回:学習環境をデザインする

第5回:教師としての授業力を高めるために

第6回:授業を支える指導技術

第7回:学びを引き出す指導技術

第8回:学習指導案をつくる(1)学習目標の設定

第9回:学習指導案をつくる(2)深い学びを導く教材研究

第10回:学習指導案をつくる(3)主体的・対話的な学習過程

第11回:学習指導案をつくる(4)学びが見える評価方法

第12回:授業の魅力を高めるICTの活用

第13回:子どもたちの学びを支えるICT環境

第14回:情報活用能力を育てる

●事前・事後学習の内容

指定したテキストについて，事前に読んだ上で，課題を準備してきていただきます。

事前課題に基づき，講義を展開する予定です。

●評価方法

学習指導案の作成(70%)，教育の情報化に関するレポート(30%)

評価の観点A:教育方法の基礎的な理論と具体的な授業づくりの方法を理解している。

評価の観点B:教育技術の具体的な活用方法、教育評価のあり方を理解している。

評価の観点C:情報機器および教材・教具の活用について理解している。

●受講生へのコメント

授業においては，受講者間で議論することが多くなりますので，積極的に意見を出せるようにしていただければと思います。

●参考文献・教材

テキスト

稲垣忠(編著)(2018年度発行予定)授業設計マニュアルver.3(北大路書房)

参考書・参考資料等

中学校学習指導要領(平成29年3月告示、文部科学省)

中学校学習指導要領解説総則編（平成29年7月、文部科学省）
高等学校学習指導要領（平成30年3月告示、文部科学省）
高等学校学習指導要領解説総則編（平成○年○月予定、文部科学省）
教育の情報化の推進 http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/index.htm

授業科目名	科目NO.	KLPED2204	授業コード	L200570030	
教育方法論 c Theory of Teaching Methods				単位数	2 単位
授業形態 講義	担当教員名 寺嶋 浩介				

●科目の主題

これからの教育方法に関し講義した上で，学習指導案を作成する。

後半では教育の情報化をテーマとした講義を行う。

●到達目標

子どもたちに育みたい資質・能力を明確にした上で，授業を作ることができる。

学校で進められている教育の情報化について，その概要を説明できる。

●授業内容・授業計画

対面で行う。

第1回：これからの子どもたちに育みたい資質・能力
第2回：授業をつくるということ
第3回：評価をデザインする
第4回：学習環境をデザインする
第5回：教師としての授業力を高めるために
第6回：授業を支える指導技術
第7回：学びを引き出す指導技術
第8回：学習指導案をつくる（1）学習目標の設定
第9回：学習指導案をつくる（2）深い学びを導く教材研究
第10回：学習指導案をつくる（3）主体的・対話的な学習過程
第11回：学習指導案をつくる（4）学びが見える評価方法
第12回：授業の魅力を高めるICTの活用
第13回：子どもたちの学びを支えるICT環境
第14回：情報活用能力を育てる

●事前・事後学習の内容

指定したテキストについて，事前に読んだ上で，課題を準備してきていただきます。

事前課題に基づき，講義を展開する予定です。

●評価方法

学習指導案の作成（70%），教育の情報化に関するレポート（30%）

評価の観点A：教育方法の基礎的な理論と具体的な授業づくりの方法を理解している。

評価の観点B：教育技術の具体的な活用方法、教育評価のあり方を理解している。

評価の観点C：情報機器および教材・教具の活用について理解している。

●受講生へのコメント

授業においては，受講者間で議論することが多くなりますので，積極的に意見を出せるようにしていただければと思います。

●参考文献・教材

稲垣忠（編著）（2019）教育の方法と技術　主体的・対話的で深い学びをつくるインストラクショナルデザイン（北大路書房）

参考書・参考資料等

中学校学習指導要領（平成29年3月告示、文部科学省） 中学校学習指導要領解説総則編（平成29年7月、文部科学省） 高等学校学習指導要領（平成30年3月告示、文部科学省） 高等学校学習指導要領解説総則編（平成30年7月告示、文部科学省） 教育の情報化の推進 http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/index.htm

授業科目名	科目NO.	KLPED2205	授業コード	L200550010	
教育課程論 a Theory of School Curriculum				単位数	2単位
授業形態 講義	担当教員名 島田　希				

●科目の主題

本講義では、教育課程の編成やカリキュラム開発に関して、理論的・実践的に学ぶ機会を提供する。受講生には、講義における解説、事例紹介を通じて、教育課程の編成やカリキュラム開発について多面的に考察してもらいたい。また、受講者相互による事例の検討・作業等を通じて、それらを創造的に思考する営みにも従事してもらいたい。以上により、カリキュラムを創造する主体としての力量形成を目指してほしい。

●到達目標

・教育課程の意義と編成の方法、カリキュラムとその開発の概念について説明することができる。

・わが国における教育課程編成、カリキュラム開発の変遷や今日的動向について説明することができる。

・様々な実践事例にふれることで、カリキュラム開発の事例知識やそれらを分類・整理する視点を会得する。

・カリキュラム・マネジメントの基本的な考え方やその意義について説明することができる

●授業内容・授業計画

まず、教育課程やカリキュラムに関わる諸概念およびその編成や開発に関わる基本原理、教育課程が社会において果たしている役割等を整理する。次いで、学習指導要領改訂の変遷およびその社会的背景や教科・領域横断的な視点にもとづく教育課程の編成について、事例を交えて解説する。加えて、生徒・学校・地域の実態をふまえた中・長期的な教育課程の編成や今日的な教育課題に対応した取り組みについても解説する。さらに、カリキュラム・マネジメントに関する基本的な考え方やカリキュラム評価の視点・方法を講ずる。最後に、カリキュラム・マネジメントに資する教師の力量について、総括的に考察する。

第1回:オリエンテーション(キー概念に関する診断的評価と解説)
第2回:教育課程とカリキュラムに関わる諸概念の整理
第3回:教育課程編成とカリキュラム開発の基本原理
第4回:社会に開かれた教育課程とその役割・機能
第5回:学習指導要領改訂の変遷とその社会的背景1(中学校)
第6回:学習指導要領改訂の変遷とその社会的背景2(高等学校)
第7回:教科・領域横断的な視点にもとづく教育課程の編成1(教科を中心として)
第8回:教科・領域横断的な視点にもとづく教育課程の編成2(総合的な学習の時間を中心として)
第9回:生徒・学校・地域の実態をふまえた中・長期的な教育課程の編成
第10回:今日的な教育課題に対応した教育課程の編成
第11回:次世代のため教育課程の編成を目指す先導的な取り組み
第12回:カリキュラム・マネジメントの基本的な考え方
第13回:カリキュラム評価の視点と方法
第14回:カリキュラム・マネジメントに資する教師の力量
定期試験

●事前・事後学習の内容

・講義終了後、各回に配付するワークシートの課題に取り組んで、次なる講義に臨むこと(具体的には、授業中に指示する)。

・講義に関連する資料(論文、文献、新聞記事など)を授業の事前・事後に収集、読解するなど、授業内容のさらなる理解に努めること。

●評価方法

授業中におけるグループワーク等の取り組み(30%)と定期試験(70%)で総合的に評価する。

評価の観点A：教育課程の意義を理解している。

評価の観点B：学習指導要領をその歴史的変遷のなかに位置づけて、説明することができる。

評価の観点C：教育課程の編成および授業づくりの方法について理解している。

●受講生へのコメント

・講義を中心として授業を進めるが、グループでのディスカッション等の機会も設けるので、それらへの受講生の積極的な参加を求める。

・授業担当者との連絡は、電子メールによって行っていただきたい。

●参考文献・教材

テキスト

中学校学習指導要領（平成29年3月告示、文部科学省）

中学校学習指導要領解説総則編（平成29年7月、文部科学省）

高等学校学習指導要領（平成30年3月告示、文部科学省）

高等学校学習指導要領解説総則編（平成30年7月、文部科学省）

参考書・参考資料等

木原俊行（2011）『活用型学力を育てる授業づくり』ミネルヴァ書房.

佐藤学（1996）『教育方法学』岩波書店.

田中博之（2013）『カリキュラム編成論』放送大学教育振興会.

田中耕治編（2009）『よくわかる教育課程』ミネルヴァ書房.

授業科目名	科目NO.	KLPED2205	授業コード	L200550020
教育課程論 b Theory of School Curriculum			単位数	2単位
授業形態 講義	担当教員名 木原 俊行			

●科目の主題

本講義では、教育課程の編成やカリキュラム開発に関して、理論的・実践的に学ぶ機会を提供する。受講生には、講義における解説、事例紹介を通じて、教育課程の編成やカリキュラム開発について多面的に考察してもらいたい。また、受講者相互による事例の検討・作業等を通じて、それらを創造的に思考する営みにも従事してもらいたい。以上により、カリキュラムを創造する主体としての力量形成を目指してほしい。

●到達目標

・教育課程の意義と編成の方法、カリキュラムとその開発の概念について説明することができる。
・わが国における教育課程編成、カリキュラム開発の変遷や今日的動向について説明することができる。
・様々な実践事例にふれることで、カリキュラム開発の事例知識やそれらを分類・整理する視点を会得する。
・カリキュラム・マネジメントの基本的な考え方やその意義について説明することができる。

●授業内容・授業計画

まず、教育課程やカリキュラムに関わる諸概念およびその編成や開発に関わる基本原理、教育課程が社会において果たしている役割等を整理する。次いで、学習指導要領改訂の変遷およびその社会的背景や教科・領域横断的な視点にもとづく教育課程の編成について、事例を交えて解説する。加えて、生徒・学校・地域の実態をふまえた中・長期的な教育課程の編成や今日的な教育課題に対応した取り組みについても解説する。さらに、カリキュラム・マネジメントに関する基本的な考え方やカリキュラム評価の視点・方法を講ずる。最後に、カリキュラム・マネジメントに資する教師の力量について、総括的に考察する。

第1回:オリエンテーション(キー概念に関する診断的評価と解説)
第2回:教育課程とカリキュラムに関わる諸概念の整理
第3回:教育課程編成とカリキュラム開発の基本原理
第4回:社会に開かれた教育課程とその役割・機能
第5回:学習指導要領改訂の変遷とその社会的背景1(中学校)
第6回:学習指導要領改訂の変遷とその社会的背景2(高等学校)
第7回:教科・領域横断的な視点にもとづく教育課程の編成1(教科を中心として)
第8回:教科・領域横断的な視点にもとづく教育課程の編成2(総合的な学習の時間を中心として)
第9回:生徒・学校・地域の実態をふまえた中・長期的な教育課程の編成
第10回:今日的な教育課題に対応した教育課程の編成
第11回:次世代のため教育課程の編成を目指す先導的な取り組み
第12回:カリキュラム・マネジメントの基本的な考え方
第13回:カリキュラム評価の視点と方法
第14回:カリキュラム・マネジメントに資する教師の力量
定期試験

●事前・事後学習の内容

・講義終了後、各回に配付するワークシートの課題に取り組んで、次なる講義に臨むこと(具体的には、授業中に指示する)。
・講義に関連する資料(論文、文献、新聞記事など)を授業の事前・事後に収集、読解するなど、授業内容のさらなる理解に努めること。

●評価方法

授業中におけるグループワーク等の取り組み、小テスト(30%)と定期試験(70%)で総合的に評価する。

評価の観点A：教育課程の意義を理解している。

評価の観点B：学習指導要領をその歴史的変遷のなかに位置づけて、説明することができる。

評価の観点C：教育課程の編成および授業づくりの方法について理解している。

●受講生へのコメント

・講義を中心として授業を進めるが、グループでのディスカッション等の機会も設けるので、それらへの受講生の積極的な参加を求める。

・授業担当者との連絡は、電子メールによって行っていただきたい。

・ビデオ会議システム（Zoom等）を用いて講義を実施する場合がある。

●参考文献・教材

テキスト

中学校学習指導要領（平成29年3月告示、文部科学省） 中学校学習指導要領解説総則編（平成29年7月、文部科学省） 高等学校学習指導要領（平成30年3月告示、文部科学省） 高等学校学習指導要領解説総則編（平成31年1月、文部科学省）

参考書・参考資料等

木原俊行（20111）『活用型学力を育てる授業づくり』ミネルヴァ書房．佐藤学（1996）『教育方法学』岩波書店．田中博之（2013）『カリキュラム編成論』放送大学教育振興会．田中耕治編（2009）『よくわかる教育課程』ミネルヴァ書房．

授業科目名	科目NO.	KLPED2205	授業コード	L200550030
教育課程論 c Theory of School Curriculum			単位数	2単位
授業形態 講義	担当教員名 廣瀬　真琴			

●科目の主題

本講義では、教育課程の編成やカリキュラム開発に関して、理論的・実践的に学ぶ機会を提供する。受講生には、講義における解説、事例紹介を通じて、教育課程の編成やカリキュラム開発について多面的に考察してもらいたい。また、受講者相互による事例の検討・作業等を通じて、それらを創造的に思考する営みにも従事してもらいたい。以上により、カリキュラムを創造する主体としての力量形成を目指してほしい。

●到達目標

・教育課程の意義と編成の方法、カリキュラムとその開発の概念について説明することができる。

・わが国における教育課程編成、カリキュラム開発の変遷や今日的動向について説明することができる。

・様々な実践事例にふれることで、カリキュラム開発の事例知識やそれらを分類・整理する視点を会得する。

・カリキュラム・マネジメントの基本的な考え方やその意義について説明することができる

●授業内容・授業計画

まず、教育課程やカリキュラムに関わる諸概念およびその編成や開発に関わる基本原理、教育課程が社会において果たしている役割等を整理する。次いで、学習指導要領改訂の変遷およびその社会的背景や教科・領域横断的な視点にもとづく教育課程の編成について、事例を交えて解説する。加えて、生徒・学校・地域の実態をふまえた中・長期的な教育課程の編成や今日的な教育課題に対応した取り組みについても解説する。さらに、カリキュラム・マネジメントに関する基本的な考え方やカリキュラム評価の視点・方法を講ずる。最後に、カリキュラム・マネジメントに資する教師の力量について、総括的に考察する。

第1回:オリエンテーション(キー概念に関する診断的評価と解説)

第2回:教育課程とカリキュラムに関わる諸概念の整理

第3回:教育課程編成とカリキュラム開発の基本原理

第4回:社会に開かれた教育課程とその役割・機能

第5回:学習指導要領改訂の変遷とその社会的背景1(中学校)

第6回:学習指導要領改訂の変遷とその社会的背景2(高等学校)

第7回:教科・領域横断的な視点にもとづく教育課程の編成1(教科を中心として)

第8回:教科・領域横断的な視点にもとづく教育課程の編成2(総合的な学習の時間を中心として)

第9回:生徒・学校・地域の実態をふまえた中・長期的な教育課程の編成

第10回:今日的な教育課題に対応した教育課程の編成

第11回:次世代のため教育課程の編成を目指す先導的な取り組み

第12回:カリキュラム・マネジメントの基本的な考え方

第13回:カリキュラム評価の視点と方法

第14回:カリキュラム・マネジメントに資する教師の力量

定期試験

●事前・事後学習の内容

・講義終了後、各回に配付するワークシートの課題に取り組んで、次なる講義に臨むこと(具体的には、授業中に指示する)。

・講義に関連する資料(論文、文献、新聞記事など)を授業の事前・事後に収集、読解するなど、授業内容のさらなる理解に努めること。

●評価方法

授業中におけるグループワーク等の取り組み(30%)と定期試験(70%)で総合的に評価する。

評価の観点A：教育課程の意義を理解している。
評価の観点B：学習指導要領をその歴史的変遷のなかに位置づけて、説明することができる。
評価の観点C：教育課程の編成および授業づくりの方法について理解している。

●受講生へのコメント

・講義を中心として授業を進めるが、グループでのディスカッション等の機会も設けるので、それらへの受講生の積極的な参加を求める。
・授業担当者との連絡は、電子メールによって行っていただきたい。

●参考文献・教材

テキスト

中学校学習指導要領（平成29年3月告示、文部科学省） 中学校学習指導要領解説総則編（平成29年7月、文部科学省） 高等学校学習指導要領（平成30年3月告示、文部科学省） 高等学校学習指導要領解説総則編（平成〇年〇月告示予定、文部科学省）

参考書・参考資料等

木原俊行（20111）『活用型学力を育てる授業づくり』ミネルヴァ書房．佐藤学（1996）『教育方法学』岩波書店．田中博之（2013）『カリキュラム編成論』放送大学教育振興会．田中耕治編（2009）『よくわかる教育課程』ミネルヴァ書房．

授業科目名	科目NO.	KLPED2206	授業コード	L200560010,20	
特別活動論 a,b Theory of Extracurricular Activities			単位数	2 単位	
授業形態 講義	担当教員名 小原 淳一				

●科目の主題

教員にとって必要な、特別活動の指導に関わる知識・技能・態度を身につける

●到達目標

教育課程における特別活動の位置づけ、特別活動の特徴と意義、特別活動の内容(学級活動・ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事、関連する活動として部活動)、道徳、総合的な学習の時間、生徒指導との関連について知り、それに基づき、特別活動の実践的指導について考えることができる。

●授業内容・授業計画

原則として毎回課題を出します。必ず次回授業時までに準備をしてください。授業ではそれを前提にして活動を展開します。毎回の授業開始時に課題に関する小テストを課します。また、小グループに分かれての班別課題も出しますので、授業時間以外に班ごとに学習する場面もあります。なお、第1回目はオリエンテーションですので、準備の必要はありません。

第1回:オリエンテーション、新しい学習指導要領の基本理念と特別活動
第2回:特別活動の目標・特質・方法原理
第3回:学習指導要領上の特別活動と各教科・領域
第4回:望ましい集団活動と人間関係
第5回:学級活動(ホームルーム)の目標と指導
第6回:合意形成と意思決定の話合い
第7回:学習指導案の書き方　話合い活動
第8回:学習指導案づくり(1)　生徒観、題材観、指導観
第9回:学習指導案づくり(2)　本時の展開と事前指導、事後指導、評価
第10回:学校行事指導の事例研究
第11回:生徒会活動の事例研究
第12回:いじめ問題の基礎、いじめをなくす生徒会活動
第13回:　特別活動における家庭・地域住民や関係機関との連携
第14回:全国学力学習状況調査と特別活動、まとめ　最終レポート提出

●事前・事後学習の内容

原則として毎回課題を出します。必ず次回授業時までに準備をしてください。授業ではそれを前提にして活動を展開します。毎回の授業開始時に課題に関する小テストを課します。また、小グループに分かれての班別課題も出しますので、授業時間以外に班ごとに学習する場面もあります。なお、第1回目はオリエンテーションですので、準備の必要はありません。

●評価方法

毎回の課題、レポート

評価観点1　　特別活動の今日的課題を理解している。

評価観点2　　特別活動の特徴と意義を理解している。

評価観点3　　特別活動の実践的展開に必要な基本を理解している。

●受講生へのコメント

特別活動の指導は話会い活動の指導が重要な柱になります。特別活動の指導法を考える本科目では、授業中に話合う活動を多く取り入れることによって、話合いの指導についても考えていただきます。

●参考文献・教材

テキスト 文部科学省『中学校学習指導要領解説　特別活動編』平成29年3月

参考書・参考資料等 特になし

授業科目名	科目NO.	KLPED2206	授業コード	L200560030	
特別活動論 c Theory of Extracurricular Activities				単位数	2 単位
授業形態 講義	担当教員名 添田　晴雄				

●科目の主題

教員にとって必要な、特別活動の指導に関わる知識・技能・態度を身につける

●到達目標

教育課程における特別活動の位置づけ、特別活動の特徴と意義、特別活動の内容（学級活動・ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事、関連する活動として部活動）、道徳、総合的な学習の時間、生徒指導との関連について知り、それに基づき、特別活動の実践的指導について考えることができる。

●授業内容・授業計画

第1回：オリエンテーション、新しい学習指導要領の基本理念と特別活動
第2回：特別活動の目標・特質・方法原理
第3回：学習指導要領上の特別活動と各教科・領域
第4回：望ましい集団活動と人間関係
第5回：学級活動（ホームルーム）の目標と指導
第6回：合意形成と意思決定の話合い
第7回：学習指導案の書き方　話合い活動
第8回：学習指導案づくり(1)　生徒観、題材観、指導観
第9回：学習指導案づくり(2)　本時の展開と事前指導、事後指導、評価
第10回：学校行事指導の事例研究
第11回：生徒会活動の事例研究
第12回：いじめ問題の基礎、いじめをなくす生徒会活動
第13回：　特別活動における家庭・地域住民や関係機関との連携
第14回：全国学力学習状況調査と特別活動、
まとめ　最終レポート提出

●事前・事後学習の内容

原則として毎回課題を出します。必ず次回授業時までに準備をしてください。授業ではそれを前提にして活動を展開します。毎回の授業開始時に課題に関するレポートを書いてもらいます。また、小グループに分かれての班別課題も出しますので、授業時間以外に班ごとに学習する場面もあります。なお、第1回目はオリエンテーションですので、準備の必要はありません。

●評価方法

毎回の課題、レポート

評価観点1　　特別活動の今日的課題を理解している。

評価観点2　　特別活動の特徴と意義を理解している。

評価観点3　　特別活動の実践的展開に必要な基本を理解している。

●受講生へのコメント

特別活動の指導は話会い活動の指導が重要な柱になります。特別活動の指導法を考える本科目では、授業中に話合う活動を多く取り入れることによって、話合いの指導についても考えていただきます。

●参考文献・教材

テキスト

文部科学省『中学校学習指導要領』平成29年3月、『中学校学習指導要領解説　特別活動編』平成29年6月

上田学、林尚示編著『アクティベート教育学　特別活動の理論と実践』ミネルヴァ書房、2020年

参考書・参考資料等

特になし

授業科目名	科目NO.	KLPED2207	授業コード	L200821010,20	
道徳指導論 a,b Theory of Moral Teaching			単位数	2 単位	
授業形態 講義	担当教員名 丸田 健				

●科目の主題

道徳教育に必要な基本的観点を養う。

●到達目標

道徳に関する諸理論、学習指導要領の道徳の指導内容、および道徳の指導方法について、基本的な理解を得ることを目指す。

●授業内容・授業計画

教師を目指す者はおのずと道徳と関わることになるが、道徳について教えることには戸惑いが伴いがちである。授業では、道徳を理論的に理解するための基本的観点・概念を紹介するとともに、道徳的事象に柔軟に向き合うための基礎的思考力を養う。

第1回:導入
第2回:道徳教育の歴史:戦前
第3回:道徳教育の歴史:戦後
第4回:道徳の指導について
第5回:道徳は主観的なものか
第6回:道徳は文化に相対的であるのか
第7回:人間の利己主義と道徳
第8回:功利主義:幸福の手段としての道徳／道徳の指導法 補足
第9回:義務論:義務としての道徳
第10回:義務論:義務としての道徳(続き)／道徳の指導法 補足
第11回:徳倫理:人格としての道徳／道徳教育及び道徳科の目標
第12回:応用倫理の諸トピック:生命倫理
第13回:応用倫理の諸トピック:動物とのかかわり
第14回:伝統と文化の尊重
定期試験は実施しない(レポート課題)

●事前・事後学習の内容

各回の事前学習は特に不要だが、事後学習としては、毎回、配布資料を読み返すこと、講義ノートを整理すること、各回のテーマについて自分の考えを整理すること、を行う。また学習指導要領には予め目を通しておくとよい。

●評価方法

評価観点A 道徳教育にかかわる基本的知識を有している。
評価観点B 学習指導要領の道徳の項目について知識を有している。
評価観点C 道徳の授業の指導方法について知識を有している。

●受講生へのコメント

授業を通し、道徳教育の内容を理解するだけでなく、自分の道徳観を練り直す機会をもち、(一見とらえどころがない)道徳に対する自分なりの構えを築けるようになるとよいと考えています。

●参考文献・教材

(各回で資料を配布する。)
参考書・参考資料等
中学校学習指導要領(平成29年3月告示、文部科学省)、中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編(平成29年7月、文部科学省)、高等学校学習指導要領(平成30年3月告示、文部科学省)

授業科目名	科目NO.	KLPED2208	授業コード	L200840010,20	
教育相談論 a,b Theory of Counselling in Education				単位数	2 単位
授業形態	担当教員名				
講義	弘田　洋二／齊藤　紀子				

●科目の主題

教育相談を進める際に必要なカウンセリングの基礎知識を習得し、教育相談全般の基本的スタイルと、特別な支援を要する生徒への対応法と学内・学外連携のありかたについて知る。

●到達目標

生徒指導における教育相談の位置づけ、教育相談の意義と特徴、教育相談の進め方について学び、子どもの発達に即した適切な支援をするうえで必要な基礎的理解を身につける。

●授業内容・授業計画

教育現場で起こっている不登校やいじめ、非行といった具体的な問題について論じ、既存の知見や理論を紹介しつつ、相談対応の在り方について考察を進めていく。特に心理学的介入については、ケース・スタディを通して学生の主体的な関心を喚起しながら、教育相談の基本的なスタンスの重要性を伝達する。

第1回:『教育相談論』の沿革と大枠
第2回:生徒指導における教育相談の意義と役割
第3回:発達を理解した相談の必要性①思春期青年期の心性と発達課題
第4回:発達を理解した相談の必要性②つまづきと発達の失調現象
第5回:学校におけるカウンセリング理論の活用と教育相談①カウンセリングの基礎知識
第6回:学校におけるカウンセリング理論の活用と教育相談②予防的関り
第7回:学校におけるカウンセリング理論の活用と教育相談③問題行動への対応
第9回:特別な支援を必要とする相談対応①不登校
第10回:特別な支援を必要とする相談対応②非行傾向
第11回:特別な支援を必要とする相談対応③いじめ
第12回:相談を生かす環境調整①校内の相談体制の構築
第13回:相談を生かす環境調整②保護者への支援
第14回:相談を生かす環境調整③専門機関との連携
第15回:試験

●事前・事後学習の内容

1)事前学習としては、文部科学省『生徒指導提要』第5章;教育相談p99～135、第3章第3節:青年期の心理と発達p58～72を読んでおくこと

対応する箇所は授業内で指示します。

2)授業は資料を配布し、それらを利用し進めていきます。事後学習として、配布資料を整理し、要点のまとめ、キーワードや重要項目の暗記などの復習が望ましい。

また事後学習の1つとして、課題をだします。

●評価方法

試験(70%)、課題の提出(30%)で評価します。

1)試験に関しては以下の観点を評価します。

評価観点1　学校における教育相談の意義と理論を理解している。

評価観点2　教育相談を進める際に必要な基礎知識(カウンセリングに関する基礎的知識を含む)を理解している。

評価観点3　教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取り組みや連携の必要性を理解している。

2)課題の提出に関しては、提出の有無と内容で評価します。

●受講生へのコメント

1）授業の進め方、評価方法等について、第1回の授業で説明しますので、必ず出席して下さい。

2）配布資料は、後の授業でも繰り返し利用します。毎授業に必ず持参して下さい。

●参考文献・教材

・随時資料を配布する。

・参考書・参考資料等

生徒指導提要（文部科学省）

一丸藤太郎・菅野信夫『教育相談論』ミネルヴァ書房、2011年

長尾博『学校カウンセリング』ナカシニヤ出版、2010年

授業科目名	科目NO.	KLPED2209	授業コード	L200831010,20	
生徒・進路指導論 a,b Theory of Student Guidance and Career Education			単位数	2 単位	
授業形態 講義	担当教員名 新井 肇				

●科目の主題

学校における生徒指導・進路指導の諸課題を総合的に理解するとともに、実践に役立てるための方法(ガイダンス・カウンセリング・人間関係づくりなど)の理論と技法について学習する。生徒指導については、基礎的学習事項を先行研究や学習指導要領、各種審議会答申等を通じて理解することを第一目標とする。第二目標は、時事的な問題をとりあげ、今日求められている生徒指導実践の内容について考察を行うことである。また、キャリア教育の目的・内容・方法についての基礎的理解を図る。

●到達目標

児童生徒の問題行動や内的葛藤に対する理解を深め、生徒指導の多様な方法を身につけ、方向性を持って様々な問題行動に対応できる実践的指導力の形成を図る。あわせて、今後ますます必要とされる学校における危機対応能力や学校内外での連携を進めるコーディネイト能力の基盤を形成することを目標とする。また、キャリア教育の観点に立つ進路指導の考え方と方法について理解し、実践的指導力の基礎を身につけることを目標とする。

●授業内容・授業計画

第1回:ガイダンス:生徒指導と進路指導
第2回:学校教育における生徒指導・進路指導の位置づけ
第3回:生徒指導の意義と内容、および歴史と理論的背景
第4回:日本の生徒指導・進路指導とアメリカのスクールカウンセリング
第5回:生徒指導における児童生徒理解の理論と方法
第6回:関係機関との連携に基づく組織的対応の理論と方法及び生徒指導に関する主要法令の理解
第7回:児童生徒の問題行動の現状とこれからの生徒指導の方向性と課題
第8回:不登校の理解と対応
第9回:いじめ問題の理解と対応
第10回:非行問題の理解と対応
第11回:自殺予防の理解と対応
第12回:進路指導・キャリア教育の意義と内容、および理論的背景
第13回:進路指導における生徒理解の方法と相談の実際
第14回:生徒指導・進路指導に関する実践事例の検討
第15回:試験

●事前・事後学習の内容

第1回:自分の小・中・高校時代を振り返り、生徒指導・進路指導に関する経験とイメージについて整理するとともに、自分が教師になったときの生徒指導・進路指導における取り組みの姿勢についてまとめる。
第2回:授業前に『生徒指導提要』第2章を読み、授業後、講義内容と照らし合わせて整理する。
第3回:授業前に『生徒指導提要』第1章を読み、授業後、講義内容と照らし合わせて整理する。
第4回:授業前に『生徒指導提要』第5章を読み、授業後、講義内容と照らし合わせて整理する。
第5回:授業前に『生徒指導提要』第3章を読み、授業後、講義内容と照らし合わせて整理する。
第6回:授業前に『生徒指導提要』第4章、第7章および第6章Ⅰを読み、授業後、講義授業内容と照らし合わせて整理する。
第7回:文部科学省『問題行動調査』(2019年)のデータに目を通し、全体的傾向について検討しておく。第8回:授業前に『生徒指導提要』第6章Ⅱ第12節を読み、授業後、講義授業内容と照らし合わせて整理する。
第9回:自分の母校(小・中・高校のいずれか)の「学校いじめ防止基本方針」について調べる。
第10回:授業前に『生徒指導提要』第6章Ⅱ第4節および第5節を読み、授業後、講義授業内容と照らし合わせて整理する。

第11回：授業前に『生徒指導提要』第6章Ⅱ第9節を読み、授業後、講義授業内容と照らし合わせて整理する。

第12回：自分が小・中・高校時代に受けてきた進路指導について振り返り、その具体的内容と課題についてまとめる。

第13回：中央教育審議会教育課程部会『審議のまとめ』(2016年)論点整理1「2030年の社会と子供たちの未来」について調べる。

第14回：日本もしくは外国の小・中・高校における生徒指導・進路指導に関する先進的な実践事例について調べる。

●評価方法

定期試験(60%)、課題に関する小レポート(授業中に実施)(20%)授業における討論等への参加度および発表(20%)。

評価観点1　生徒指導の理論について理解している。

評価観点2　進路指導の理論について理解している。

評価観点3　生徒指導・進路指導の方法について理解している。

●受講生へのコメント

講義だけでなく，課題に応じてグループ協議や事例検討などの演習も実施するので，毎時間授業に出席し、積極的に学習に取り組んでほしい。また、授業でとりあげるテーマに関して、自分の小・中・高校時代の経験を振り返るとともに、教師になった未来の自分の視点から考えることを心がけてほしい。

●参考文献・教材

テキスト：文部科学省編「生徒指導提要」教育図書(2010)、あわせて、授業時に講義資料を配付する。

参考書：日本生徒指導学会編「現代生徒指導論」学事出版(2015)

授業科目名	科目NO.	KLPED2210	授業コード	L201120010	
特別支援教育論 a Theory of Special Needs Education				単位数	2単位
授業形態 講義	担当教員名 羽山　裕子				

●科目の主題

各回の授業では、以下のような内容について資料の検討やグループディスカッションを通して学ぶ。

・特別支援教育の理念、制度、対象を理解する(主に第1回～第2回)。

・様々な障害の特性について基礎的な知識を習得する。そのうえで、障害のある生徒が学校生活で経験する困難について、実践事例の検討も行いながら具体的に理解し、適切な支援方法を考える(主に第3回～第8回)。

・特別支援教育に関する教育課程の特徴(「自立活動」の内容と位置づけ、「通級による指導」の対象、位置づけ、指導内容等)を理解するとともに、一人ひとりの実態に応じて一貫性のある支援を提供するための方法(個別の指導計画、個別の教育支援計画の作成等)について知る(主に第9回～第10回)。

・組織的かつ継続的な支援を実現するために、学校内での支援体制および学校外機関との連携体制をどのように構築すべきかについて、地域の特性等もふまえて考える(主に第11回)。

・障害はないが特別の教育的ニーズのある生徒について、どのような困難を抱えているのかを知り、効果的な支援の在り方について考える(主に第12回～第13回)。

●到達目標

・特別支援教育に関する基礎的な知識(理念、制度、対象等)を得る。

・障害種ごとの特性を知り、学校生活で経験する困難を具体的に理解する。

・教育課程、授業づくり、生徒指導などの各場面で教師として行うべき支援について知り、その組織的かつ継続的な実践のための学校内外の仕組みについて理解する。

・障害以外の困難やニーズの存在を知り、支援の現状と課題を理解する。

●授業内容・授業計画

授業計画

第1回:オリエンテーション――特別な支援を必要とする生徒たちとは

第2回:特別支援教育の理念と制度

第3回:視覚障害、聴覚障害のある生徒の困難と支援

第4回:知的障害のある生徒の困難と支援

第5回:肢体不自由、病弱の生徒の困難と支援

第6回:発達障害、軽度知的障害の生徒の心理的特性と発達上の課題

第7回:発達障害、軽度知的障害の生徒の困難と支援

第8回:学校現場における特別な支援の実践方法

第9回:特別支援教育に関する教育課程上の特徴――通級による指導、自立活動

第10回:個別の指導計画、個別の教育支援計画の役割

第11回:特別支援教育のための学校内外の連携体制

第12回:母国語の問題等による特別の教育的ニーズのある生徒の困難と支援

第13回:貧困の問題等による特別の教育的ニーズのある生徒の困難と支援

第14回:まとめ

定期試験

●事前・事後学習の内容

【事前・事後学習で深めるべき内容】

・特別支援教育に関する基礎的な知識(理念、制度、対象等)を身に付ける。

・授業で学んだ各障害の基礎知識をもとに、学校生活で経験する様々な困難を想定してみる。
・教育課程、授業づくり、生徒指導などの各場面で教師として行うべき支援について知り、その組織的かつ継続的な実践のための学校内外の仕組みについて考える。
・障害以外の困難やニーズの存在とその支援の現状を知り、身近なところで何ができるかを考える。
【事前学習】・授業内で指定された資料を読んでくる。
・グループ発表の当たっている回については、グループごとに指定されたテーマについて調べてくる。
【事後学習】・テキストの該当箇所を読み返す。
・授業内で指定された課題に取り組む。

●評価方法

学生に対する評価
【評価基準】
・特別の支援を必要とする生徒の教育についての理念・制度を理解している
・特別の支援を必要とする生徒の障害の特性及び心身の発達を理解している
・特別の支援を必要とする生徒に対する教育課程や支援の方法を理解している
・障害はないが特別の教育的ニーズのある生徒の学習上又は生活上の困難とその対応を理解している
【評価方法】
授業内でのミニレポート　30%、授業内での発表　10%、期末試験　60%

●受講生へのコメント

障害等の特別な教育的ニーズを有する子どもたちが、学校という場で何に困っているのか。自分自身の学校生活をふりかえりながら、想像力を働かせて学んでいってください。

●参考文献・教材

テキスト
玉村公二彦・清水貞夫・黒田学・向井啓二編『キーワードブック特別支援教育』クリエイツかもがわ、2015年
参考書・参考資料等
上野一彦監修『平成29年版 学習指導要領改訂のポイント 通常の学級の特別支援教育』明治図書、平成29年
大阪市教育委員会指導部「障がいのあるお子さんの入学について　就学に関するリーフレットの作成と活用」(http://www.ocec.jp/shidoubu/index.cfm/9,42,15,1,html)

授業科目名	科目NO.	KLPED2210	授業コード	L201120020	
特別支援教育論 b Theory of Special Needs Education				単位数	2単位
授業形態 講義	担当教員名 田中　裕美子				

●科目の主題

各回の授業では、以下のような内容について資料の検討やグループディスカッションを通して学ぶ。

・特別支援教育の理念、制度、対象を理解する(主に第1回～第2回)。

・様々な障害の特性について基礎的な知識を習得する。そのうえで、障害のある生徒が学校生活で経験する困難について、実践事例の検討も行いながら具体的に理解し、適切な支援方法を考える(主に第3回～第8回)。

・特別支援教育に関する教育課程の特徴(「自立活動」の内容と位置づけ、「通級による指導」の対象、位置づけ、指導内容等)を理解するとともに、一人ひとりの実態に応じて一貫性のある支援を提供するための方法(個別の指導計画、個別の教育支援計画の作成等)について知る(主に第9回～第10回)。

・組織的かつ継続的な支援を実現するために、学校内での支援体制および学校外機関との連携体制をどのように構築すべきかについて、地域の特性等もふまえて考える(主に第11回)。

・障害はないが特別の教育的ニーズのある生徒について、どのような困難を抱えているのかを知り、効果的な支援の在り方について考える(主に第12回～第13回)。

●到達目標

・特別支援教育に関する基礎的な知識(理念、制度、対象等)を得る。

・障害種ごとの特性を知り、学校生活で経験する困難を具体的に理解する。

・教育課程、授業づくり、生徒指導などの各場面で教師として行うべき支援について知り、その組織的かつ継続的な実践のための学校内外の仕組みについて理解する。

・障害以外の困難やニーズの存在を知り、支援の現状と課題を理解する。

●授業内容・授業計画

第1回:オリエンテーション――特別な支援を必要とする生徒たちとは
第2回:特別支援教育の理念と制度
第3回:視覚障害、聴覚障害のある生徒の困難と支援
第4回:知的障害のある生徒の困難と支援
第5回:肢体不自由、病弱の生徒の困難と支援
第6回:発達障害、軽度知的障害の生徒の心理的特性と発達上の課題
第7回:発達障害、軽度知的障害の生徒の困難と支援
第8回:学校現場における特別な支援の実践方法
第9回:特別支援教育に関する教育課程上の特徴――通級による指導、自立活動
第10回:個別の指導計画、個別の教育支援計画の役割
第11回:特別支援教育のための学校内外の連携体制
第12回:母国語の問題等による特別の教育的ニーズのある生徒の困難と支援
第13回:貧困の問題等による特別の教育的ニーズのある生徒の困難と支援
第14回:まとめ

●事前・事後学習の内容

【事前・事後学習で深めるべき内容】

・特別支援教育に関する基礎的な知識(理念、制度、対象等)を身に付ける。

・授業で学んだ各障害の基礎知識をもとに、学校生活で経験する様々な困難を想定してみる。

・教育課程、授業づくり、生徒指導などの各場面で教師として行うべき支援について知り、その組織的かつ継続的な実践のための学

校内外の仕組みについて考える。
・障害以外の困難やニーズの存在とその支援の現状を知り、身近なところで何ができるかを考える。
【事前学習】・授業内で指定された資料を読んでくる。
・グループ発表の当たっている回については、グループごとに指定されたテーマについて調べてくる。
【事後学習】・テキストの該当箇所を読み返す。
・授業内で指定された課題に取り組む。
●評価方法
【評価基準】
評価観点A. 特別の支援を必要とする生徒(障害以外の特別の教育的ニーズを含 む)の教育についての理念・制度を理解している。
評価観点B. 特別の支援を必要とする生徒(障害以外の特別の教育的ニーズを含 む)の特性及び心身の発達を理解している。
評価観点C. 特別の支援を必要とする生徒(障害以外の特別の教育的ニーズを含 む)に対する教育課程や支援の方法を理解している。
【評価方法】
授業内でのミニレポート 30%、授業内での発表 10%、期末試験 60%
●受講生へのコメント
障害等の特別な教育的ニーズを有する子どもたちが、学校という場で何に困っているのか。自分自身の学校生活をふりかえりながら、想像力を働かせて学んでいってください。
●参考文献・教材
上野一彦監修『平成29年版 学習指導要領改訂のポイント 通常の学級の特別支援教育』明治図書、平成29年
玉村公二彦・清水貞夫・黒田学・向井啓二編『キーワードブック特別支援教育』クリエイツかもがわ、2015年
参考書・参考資料等
大阪市教育委員会指導部「障がいのあるお子さんの入学について 就学に関するリーフレットの作成と活用」(http://www.ocec.jp/shidoubu/index.cfm/9,42,15,1,html)

授業科目名	科目NO.	KLPED2210	授業コード	L201120030	
特別支援教育論 c Theory of Special Needs Education				単位数	2単位
授業形態 講義	担当教員名 古井　克憲				

●科目の主題

各回の授業では、以下のような内容について資料の検討やグループディスカッションを通して学ぶ。

・特別支援教育の理念、制度、対象を理解する(主に第1回～第2回)。

・様々な障害の特性について基礎的な知識を習得する。そのうえで、障害のある生徒が学校生活で経験する困難について、実践事例の検討も行いながら具体的に理解し、適切な支援方法を考える(主に第3回～第8回)。

・特別支援教育に関する教育課程の特徴(「自立活動」の内容と位置づけ、「通級による指導」の対象、位置づけ、指導内容等)を理解するとともに、一人ひとりの実態に応じて一貫性のある支援を提供するための方法(個別の指導計画、個別の教育支援計画の作成等)について知る(主に第9回～第10回)。

・組織的かつ継続的な支援を実現するために、学校内での支援体制および学校外機関との連携体制をどのように構築すべきかについて、地域の特性等もふまえて考える(主に第11回)。

・障害はないが特別の教育的ニーズのある生徒について、どのような困難を抱えているのかを知り、効果的な支援の在り方について考える(主に第12回～第13回)。

●到達目標

・特別支援教育に関する基礎的な知識(理念、制度、対象等)を得る。

・障害種ごとの特性を知り、学校生活で経験する困難を具体的に理解する。

・教育課程、授業づくり、生徒指導などの各場面で教師として行うべき支援について知り、その組織的かつ継続的な実践のための学校内外の仕組みについて理解する。

・障害以外の困難やニーズの存在を知り、支援の現状と課題を理解する。

●授業内容・授業計画

第1回:オリエンテーション――特別な支援を必要とする生徒たちとは
第2回:特別支援教育の理念と制度
第3回:視覚障害、聴覚障害のある生徒の困難と支援
第4回:知的障害のある生徒の困難と支援
第5回:肢体不自由、病弱の生徒の困難と支援
第6回:発達障害、軽度知的障害の生徒の心理的特性と発達上の課題
第7回:発達障害、軽度知的障害の生徒の困難と支援
第8回:学校現場における特別な支援の実践方法
第9回:特別支援教育に関する教育課程上の特徴――通級による指導、自立活動
第10回:個別の指導計画、個別の教育支援計画の役割
第11回:特別支援教育のための学校内外の連携体制
第12回:母国語の問題等による特別の教育的ニーズのある生徒の困難と支援
第13回:貧困の問題等による特別の教育的ニーズのある生徒の困難と支援
第14回:まとめ

●事前・事後学習の内容

【事前・事後学習で深めるべき内容】

・特別支援教育に関する基礎的な知識(理念、制度、対象等)を身に付ける。

・授業で学んだ各障害の基礎知識をもとに、学校生活で経験する様々な困難を想定してみる。

・教育課程、授業づくり、生徒指導などの各場面で教師として行うべき支援について知り、その組織的かつ継続的な実践のための学

校内外の仕組みについて考える。
・障害以外の困難やニーズの存在とその支援の現状を知り、身近なところで何ができるかを考える。
【事前学習】・授業内で指定された資料を読んでくる。
・グループ発表の当たっている回については、グループごとに指定されたテーマについて調べてくる。
【事後学習】・テキストの該当箇所を読み返す。
・授業内で指定された課題に取り組む。
●評価方法
【評価基準】
・特別の支援を必要とする生徒の教育についての理念・制度を理解している
・特別の支援を必要とする生徒の障害の特性及び心身の発達を理解している
・特別の支援を必要とする生徒に対する教育課程や支援の方法を理解している
・障害はないが特別の教育的ニーズのある生徒の学習上又は生活上の困難とその対応を理解している
【評価方法】
授業内でのミニレポート 30%、授業内での発表 10%、期末試験 60%
●受講生へのコメント
障害等の特別な教育的ニーズを有する子どもたちが、学校という場で何に困っているのか。自分自身の学校生活をふりかえりながら、想像力を働かせて学んでいってください。
●参考文献・教材
上野一彦監修『平成29年版 学習指導要領改訂のポイント 通常の学級の特別支援教育』明治図書、平成29年
玉村公二彦・清水貞夫・黒田学・向井啓二編『キーワードブック特別支援教育』クリエイツかもがわ、2015年
参考書・参考資料等
大阪市教育委員会指導部「障がいのあるお子さんの入学について 就学に関するリーフレットの作成と活用」(http://www.ocec.jp/shidoubu/index.cfm/9,42,15,1,html)

授業科目名	科目NO.	KLPED2211	授業コード	L201130010	
総合的な探究の指導論 a Theory of Teaching in Integrated Inquiry			単位数	2 単位	
授業形態 講義	担当教員名 香田 健治				

●科目の主題

学習指導要領に示される目標、内容など、総合的な探究の時間の基本的な考え方について理解し、総合的な探究の時間の意義と特質に基づく授業構想と単元指導計画、学習指導案の作成や学習指導の基礎的な考え方について、発表、評価などを通して、総合的な探究の時間の授業実践に関して理解を深める。

●到達目標

・総合的な探究の時間の意義と教育課程において果たす役割について、教科を越えて必要となる資質・能力の育成の視点から説明できる。

・探究のプロセスを理解した上で、年間指導計画及び指導計画の事例についての考察をもとに、それらを作成することができる。

・総合的な探究の時間の学習指導の基本的な考え方を理解し、説明できるとともに、学習指導案の事例の検討を通して、具体的な手立てを活用して学習指導案を作成することができる。

・総合的な探究の時間の学習状況の評価とカリキュラム・マネジメントの視点からの評価の方法と留意点について説明できる。

●授業内容・授業計画

第1回:オリエンテーション、学校教育における総合的な探究の時間の意義と目指す資質・能力
第2回:各学校において定める目標及び内容の考え方
第3回:総合的な探究の時間の指導計画の作成と内容の取扱い
第4回:総合的な探究の時間の全体計画の具体例の検討
第5回:総合的な探究の時間の年間指導計画の事例の検討
第6回:総合的な探究の時間の年間指導計画の作成
第7回:総合的な探究の時間の単元計画の具体例の検討
第8回:総合的な探究の時間の単元計画の作成
第9回:探究的な学習における学習指導の基本的な考え方
第10回:総合的な探究の時間の学習指導案の具体例の検討
第11回:総合的な探究の時間の学習指導案の作成
第12回:総合的な探究の時間における学習状況の評価
第13回:総合的な探究の時間とカリキュラム・マネジメントの視点からの評価
第14回:総合的な探究の時間の体制づくりと学習環境
第15回:試験

●事前・事後学習の内容

・事前学習:毎回、事前に講義資料を配布するので、しっかりと通読し要点を理解し、予め自分の考えをまとめておくこと。

・事後学習:講義内容について自分なりに整理して、次回授業までにまとめて、ノートを提出できるようにしておくこと。

●評価方法

評価観点A:総合的な学習の時間の意義や、各学校において目標及び内容を定める際の考え方を理解している。

評価観点B:総合的な学習の時間の指導計画作成の考え方を理解し、その実現のために必要な基礎的な能力を身に付けている。

評価観点C:総合的な学習の時間の指導と評価の考え方および実践上の留意点を理解している。

・授業後のミニッツペーパー(30%)、作成した年間指導計画及び指導計画、学習指導案(30%)、試験(40%)

●受講生へのコメント

・将来、教師及び教員免許状の取得をめざす受講生であることから、出席、受講マナーはもとより、探究活動へ積極的に参加・参画すること。

●参考文献・教材

(参考書):

・文部科学省『小学校学習指導要領(平成29年公示)解説　総合的な学習の時間編』東洋館出版、2018年。

・文部科学省『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説　総合的な学習の時間編』東山書房、2018年。

・文部科学省『小学校学習指導要領(平成30年告示)解説　総合的な探究の時間編』学校図書、2019年。

授業科目名	科目NO.	KLPED2211	授業コード	L201130020,30	
総合的な探究の指導論 b,c Theory of Teaching in Integrated Inquiry			単位数	2 単位	
授業形態 講義	担当教員名 鈴木 伸尚				

●科目の主題

探究することを理論的に理解し、それに基づいて、教育課程の考え方、指導方法の在り方を理解できるように学びを展開する。「主体的・対話的で深い学び」を体験しながら、「主体的・対話的で深い学び」の在り方についても考えることができるようにする。

●到達目標

総合的な学習の時間の意義や、各学校において目標及び内容を定める際の考え方を理解し、総合的な学習の時間の指導計画作成、指導方法、評価の考え方および実践上の留意点を理解する。

●授業内容・授業計画

第1回:オリエンエーション、新学習指導要領の特徴
第2回:総合的な学習の時間の意義
第3回:総合的な学習の時間の目標:学習指導要領と各学校設定目標
第4回:探究の理論と探究的な学習の過程
第5回:主体的・対話的で深い学び
第6回:総合的な学習の時間と各教科等との関連
第7回:発散的思考と収束的思考
第8回:課題を見つけるための指導
第9回:情報収集の指導
第10回:発表活動の指導
第11回:総合的な学習の時間における評価
第12回:総合的な学習の時間の指導計画
第13回:総合的な学習の時間の模擬授業
第14回:まとめ
定期試験

●事前・事後学習の内容

第2回:総合的な学習の時間の意義についての予習課題に取り組む
第3回:総合的な学習の時間の目標:学習指導要領と各学校設定目標についての予習課題に取り組む
第4回:探究の理論と探究的な学習の過程についての予習課題に取り組む
第5回:主体的・対話的で深い学びについての予習課題に取り組む
第6回:総合的な学習の時間と各教科等との関連についての予習課題に取り組む
第7回:発散的思考と収束的思考についての予習課題に取り組む
第8回:課題を見つけるための指導についての予習課題に取り組む
第9回:情報収集の指導についての予習課題に取り組む
第10回:発表活動の指導についての予習課題に取り組む
第11回:総合的な学習の時間における評価についての予習課題に取り組む
第12回:総合的な学習の時間の指導計画についての予習課題に取り組む
第13回:総合的な学習の時間の模擬授業についての予習課題に取り組む

●評価方法

評価観点1:総合的な学習の時間の意義や、各学校において目標及び内容を定める際の考え方を理解している。
評価観点2:総合的な学習の時間の指導計画作成の考え方を理解し、その実現のために必要な基礎的な能力を身に付けている。

評価観点3：総合的な学習の時間の指導と評価の考え方および実践上の留意点を理解している。

●受講生へのコメント

取得しようとしている免許の教科における「探究」とはなにかを考え、それを手がかりに、教科横断的な「探究」について考えてほしい。

●参考文献・教材

テキスト

中学校学習指導要領解説　総合的な学習の時間編（平成29年7月）

参考書・参考資料等

中学校学習指導要領（平成29年6月）

授業科目名	科目NO.	KKSEM4401	授業コード	L200880010
教職実践演習（中・高） Practical Seminar on Teaching			単位数	2 単位
授業形態	担当教員名			
演習	島田　希／添田　晴雄／辻野　けんま／鈴木　伸尚／小原　淳一			

●科目の主題

教職課程の履修を通じて修得した知識・技能が、教職に求められる基本的な資質能力に照らして充分なものとなっているのかを確認し、補完的な学習、指導を行う。

●到達目標

・教職課程の個々の科目の履修および教職に関するさまざまな経験を振り返る。

・専門的な知識・技能を基に、教員としての使命感や責任感、教育的愛情等を持って、学級や教科を担任しつつ、教科指導、生徒指導等の職務を実践できる資質能力が身に付いているかを確認する。

・教職キャリアを通しての今後の課題を考える。

●授業内容・授業計画

演習を中心として、教職課程履修カルテを利用しつつ教職課程の個々の科目の履修や教職に関するさまざまな経験を振り返り、教職に求められる基本的な資質能力がどれだけ身についているかを確認する。また、授業実践、生徒理解、特別活動、教職員・保護者・地域住民との連携協力、学びつづける教師についてゲストスピーカーによる講義を聴き、それに基づいてグループ・ディスカッションを行う。最後に、再度教職に求められる基本的な資質能力について自己評価を行い、個々人の教職キャリアにおける今後の課題について考える。

第1回「教師に必要とされる資質能力」

第2回「教師に必要とされる資質能力」（ゲストティーチャー：現職教員）及び演習

第3回「リレートーク：「チーム学校」「学び続ける教員像」を問い直す」

第4回「咲くやこの花中学校・高等学校の概要」（ゲストティーチャー：現職教員）

第5回「主体的・対話的で深い学びを実現する社会科の授業づくり」

第6回「主体的・対話的で深い学びを実現する社会科の授業づくり」（ゲストティーチャー：現職教員）及び演習

第7回「教師が働く環境のデザイン」

第8回「教師が働く環境のデザイン」（ゲストティーチャー：現職教員）及び演習

第9回「産業社会と人間」における教科横断的な授業づくり」

第10回「産業社会と人間」における教科横断的な授業づくり」（ゲストティーチャー：現職教員）及び演習

第11回「効果的な進路指導を実践するために必要なことは？」

第12回「効果的な進路指導を実践するために必要なことは？」（ゲストティーチャー：現職教員）及び演習

第13回「咲くやこの花中学校・高等学校における「チーム学校」にむけた取り組み（総括）」（ゲストティーチャー：現職教員）及び演習

第14回「教育実習校からの評価を踏まえた自己評価とまとめ」

●事前・事後学習の内容

事前学習：各回のテーマについて、各自の教育実習での経験を振り返っておき、関連する自分の見解や意見などを整理しておくこと。

事後学習：各時間の講義内容やグループワークを振り返り、当該テーマについてどのように学び続けることができるか、最終回の演習で行う自己評価へとつなげる考察をしておくこと。

●評価方法

受講態度10%、演習レポート（ワークシート）70%、最終レポート20%

●受講生へのコメント

原則として連続した2コマで週1回、7週間のグループ演習を行う。7週のうち5週程度は、外部講師の講義に続いて、グループ演習を行う。

原則として欠席を認めない。通院等やむを得ない理由の場合、診断書等の提出を求めることがある。

●参考文献・教材

テキスト

プリント等を授業中に配布する。

参考書・参考資料等

授業中に指示する。

授業科目名	科目NO.	KKPRA4402	授業コード	L200860010	
教育実習A(2単位) Practice in Teaching A				単位数	2 単位
授業形態	担当教員名				
実習	島田　希／辻野　けんま				

●科目の主題

大学での教職科目で履修した教育理論を踏まえて、教育実践を実地に体験することを通して教職に関する実践的指導力の基礎を身につける。教育実習を通して教職への意識をさらに高めることを目的とする。

●到達目標

大学等で学んだ教育理論に基づき、また各学校の方針や担当教諭の方針に従って、様々な教育実践を体験し、教職に関する基礎的で実践的な能力を身につける。

●授業内容・授業計画

各教育実習校の計画にそって行う。

第1回 教育実習
第2回 教育実習
第3回 教育実習
第4回 教育実習
第5回 教育実習
第6回 教育実習
第7回 教育実習
第8回 教育実習
第9回 教育実習
第10回 教育実習
第11回 教育実習
第12回 教育実習
第13回 教育実習
第14回 教育実習

●事前・事後学習の内容

各学校および指導教員の指導に基づく。

●評価方法

教育実習校での評価を参考にして教育実習担当者会議で評価する。

評価観点1　教職員と協力し、自らの役割を積極的に果たすことができる。

評価観点2　生徒の発達段階を考慮し、積極的に関わることができる。

評価観点3　事前の計画・準備を十分にし、生徒の反応を活かした教育実践を行うことができる。

●受講生へのコメント

教育実習を希望する者は前年度の教育実習ガイダンスに必ず出席し、教育実習校に対する依頼手続きを進めておかなくてはならない。

●参考文献・教材

大阪市立大学編『教育実習の手引き』

授業科目名	科目NO.	KKPRA4401	授業コード	L200850010	
教育実習B(4単位) Practice in Teaching B				単位数	4 単位
授業形態	担当教員名				
実習	島田　希／辻野　けんま				

●科目の主題

大学の教職課程で履修した教育理論を踏まえて、教育実践を実地に体験することを通して教職に関する実践的指導力の基礎を身につける。教育実習を通して教職への意識をさらに高めることを目的とする。

●到達目標

大学等で学んだ教育理論に基づき、また各学校の方針や担当教諭の方針に従って、様々な教育実践を体験し、教職に関する基礎的で実践的な能力を身につける。

●授業内容・授業計画

各教育実習校の計画にそって行う。

第1回 教育実習
第2回 教育実習
第3回 教育実習
第4回 教育実習
第5回 教育実習
第6回 教育実習
第7回 教育実習
第8回 教育実習
第9回 教育実習
第10回 教育実習
第11回 教育実習
第12回 教育実習
第13回 教育実習
第14回 教育実習

●事前・事後学習の内容

各学校および指導教員の指導に基づく。

●評価方法

教育実習校の評価を参考にして教育実習担当者会議で評価する。

評価観点1　教職員と協力し、自らの役割を積極的に果たすことができる。

評価観点2　生徒の発達段階を考慮し、積極的に関わることができる。

評価観点3　事前の計画・準備を計画的にし、生徒の反応を活かした教育実践を行うことができる。

●受講生へのコメント

教育実習を希望する者は前年度の教育実習ガイダンスに必ず出席し、教育実習校に対する依頼手続きを進めておかなくてはならない。

●参考文献・教材

大阪市立大学編『教育実習の手引き』

授業科目名	科目NO.	KKLEC4401	授業コード	L200871010	
教育実習事前事後指導(中・高) Guidance in Teaching Practice			単位数	1 単位	
授業形態 講義	担当教員名 島田　希／辻野　けんま				

●科目の主題

教育実習の事前と事後において、実習の準備と振り返りに関する指導を行う。実習の一般的な心構えと教育現場の教育活動に必要とされる知識・態度について理解を深める。実習後には教育実習の反省や考察を少人数による討論によって行う。

●到達目標

⑴教育実習に必要な具体的事項を知り、教育実習のための準備を行うことができる。

⑵教育実習に関連する基本的な問題を理解して、教育実習に向けた心構えができる。

⑶学生の視点からではなく、「教師」の視点から学校教育を見ることができるようになる。

⑷教育実習の体験を意義づけ、教職に対する理解を深める。

●授業内容・授業計画

教育実習の前後に、以下の内容について行う。

第1回 教育実習一般について
第2回 教育実習の心構えについて
第3回 学校と教育実習の実際について
第4回 同和教育・特別支援教育について
第5回 特別支援学校参観
第6回 なし
第7回 教育実習後の経験交流と反省
第8回 なし
第9回 なし
第10回 なし
第11回 なし
第12回 なし
第13回 なし
第14回 なし
第15回 なし

●事前・事後学習の内容

事前学習:これまでに教職課程等で学んだ事柄を振り返り、教育実習で取り組む課題を考える。

事後学習:各自の教育実習を振り返り、また他の履修者との経験交流を踏まえながら今後の課題を展望する。

●評価方法

毎回の講義についてのレポートによる。本科目は、教育実習の評価と連動しているので、教育実習の評価と分割して評価しない。

評価観点1　教育実習に必要な具体的事項を理解している。

評価観点2　学生の視点ではなく、教師の視点から学校教育を理解している。

評価観点3　教育実習の体験を意義づけ、教職をより深く理解している。

●受講生へのコメント

教育実習を行う年次に必ず出席して、教職と教育実習への意識を高めるように心かけること。

●参考文献・教材

大阪市立大学編『教育実習の手引き』

授業科目名	科目NO.	KLJPN2205	授業コード	L200940010	
書道 Calligraphy				単位数	2 単位
授業形態 実習	担当教員名 南條　佳代				

●科目の主題

中学校国語科書写の基礎的理解と教育実践力を養成する。

●到達目標

書写における硬筆・毛筆の用具・用材の扱い方や文字の結構法などの基礎知識や技術を講義・実技を通して習得する。

●授業内容・授業計画

書写指導における必要な基礎知識や技術を講義・実技を通して養う。

第1回 書写の説明、用具・用材の扱い方
第2回 姿勢・執筆法・基本用筆・硬筆
第3回 点画の種類、文字の配置・配列
第4回 楷書 ①
第5回 楷書 ②
第6回 平仮名・片仮名
第7回 楷書に調和する平仮名
第8回 行書 ①
第9回 行書 ②
第10回 行書に調和する平仮名
第11回 漢字仮名交じりの書・細字
第12回創作作品①・実用書
第13回 創作作品②
第14回 創作作品③・総括

●事前・事後学習の内容

硬筆・毛筆に慣れるために、各自授業時間外にも練習し、課題を提出すること。
創作作品については、課題に応じた草稿を作成し、それを基盤に授業内に作品を完成させること。

●評価方法

提出作品・授業内リポート(80%),出席時数(20%)

●受講生へのコメント

全時間、対面授業(予定)。ただし状況に応じて、グループLINEのビデオ通話を使用し、オンラインにて講義、実習を行う。(欠席者にも個々に対応する)
毛筆書写に適した用具・用材を用意すること。(初回に説明)
毎回の課題は必ず提出し、欠席の場合も後日提出する。

●参考文献・教材

初回に資料配布。必要に応じて、授業時に追加資料を配布する。

授業科目名	科目NO.	KLPRA1104	授業コード	L200930010
教職ボランティア実習Ⅳ Volunteer Experiences for Teaching ProfessionⅣ			単位数	2 単位
授業形態	担当教員名			
実習	添田　晴雄			

●科目の主題

大阪市学校支援学生ボランティア等に参加することにより、学校現場の内側から学校教育の意義と課題について体験的・実践的に考える。また、自らのボランティア体験を踏まえ、生徒のボランティアのあり方についても考察する。

●到達目標

評価観点1 学校園においてボランティアを合計30時間以上行う。

評価観点2 ボランティア経験を通して現実の学校園について考察する。

評価観点3 ボランティア経験を通して自らの教職キャリア形成について考察する。

●授業内容・授業計画

この科目は1年間継続し、履修届では通年集中講義扱いとする。ボランティアは合計30時間以上行うこととし、2回のレポートを課す。Web上で適宜、ボランティアの進捗状況を確認し、ボランティア経験を踏まえた意見交換を行う。ボランティアの日程は受け入れ校と受講生が相談の上個々に決めるが、ボランティアのための公認欠席の措置はとらない。具体的な年間計画は、第1回の授業で説明する。

「教職ボランティア実習Ⅰ」「教職ボランティア実習Ⅱ」「教職ボランティア実習Ⅲ」「教職ボランティア実習Ⅳ」は、4年周期で交互にどれかの科目が1つだけ提供される。したがって、学生は希望すれば4年間、毎年ボランティアを行うことが可能である。 すでに「教職ボランティア実習Ⅰ」などを履修している場合は、「教職ボランティア実習Ⅰ」などで注目した児童・生徒以外の児童・生徒に着目して本科目を履修すること。

授業計画

第1回:オリエンテーション(第1回授業は前期に行う→掲示等注意)

第2回:ボランティア校の決定

第3回:ボランティア校との打ち合わせ

第4回:ボランティア校の教育の特徴の理解

第5回:大阪市の高等学校・中学校・小学校・幼稚園におけるボランティア(児童・生徒Cの発言の理解)

第6回:大阪市の高等学校・中学校・小学校・幼稚園におけるボランティア(児童・生徒Cの行動の理解)

第7回:大阪市の高等学校・中学校・小学校・幼稚園におけるボランティア(児童・生徒Dの発言の理解)

第8回:大阪市の高等学校・中学校・小学校・幼稚園におけるボランティア(児童・生徒Dの行動の理解)

第9回:大阪市の高等学校・中学校・小学校・幼稚園におけるボランティア(ボランティア行動の中間ふりかえり)

第10回:大阪市の高等学校・中学校・小学校・幼稚園におけるボランティア(ボランティア行動と児童・生徒Cの変化の考察)

第11回:大阪市の高等学校・中学校・小学校・幼稚園におけるボランティア(ボランティア行動と児童・生徒Dの変化の考察)

第12回:大阪市の高等学校・中学校・小学校・幼稚園におけるボランティア(教師の働きかけの理解)

第13回:大阪市の高等学校・中学校・小学校・幼稚園におけるボランティア(ボランティアのあり方の考察)

第14回:ボランティア体験を踏まえたふりかえり

定期試験に代わるレポート

●事前・事後学習の内容

ボランティアを始める前にボランティア校の特色や教育方針について知っておく。

●評価方法

レポートおよびWeb上の届等の提出状況により評価する

●受講生へのコメント

本気で教職につきたい人はぜひとも履修して欲しい科目である。

ボランティアの登録の関係上（履修届では後期集中講義扱いではあるが）第1回の授業は4月に行う。その日程は掲示等で指示する。第1回目の授業に万一欠席し、かつ、受講を希望する（またはその可能性がある）者は掲示の指示に従い、所定期間内に添田まで直接申し出ること。

大阪市立咲くやこの花中学校・高等学校または大阪市立我孫子南中学校でボランティアを行う場合は、、原則として「教職ボランティア実習Ⅴ」（前期集中扱い）、「教職ボランティア実習Ⅵ」（後期集中扱い）も履修することが望ましい。

●参考文献・教材

4月の説明会で「教職ボランティア実習の手引き」を配布する。

授業科目名	科目NO.	KLPRA1105	授業コード	L201050010	
教職ボランティア実習Ⅴ Volunteer Experiences for Teaching ProfessionⅤ			単位数	2 単位	
授業形態 実習	担当教員名 添田　晴雄				

●科目の主題

並行して履修する「教職ボランティア実習Ⅰ～Ⅳ」(いずれか1科目)を通して大阪市立咲くやこの花中学校・高等学校または大阪市立我孫子南中学校において学校ボランティアを行うことを前提とし、同校において意義あるボランティアができるようにするための準備やふりかえり、ボランティアの意義などの考察を行う。

●到達目標

(1)大阪市立咲くやこの花中学校・高等学校または大阪市立我孫子南中学校をフィールドにして、学校教育の実態を踏まえ、学校教育支援のあり方を考える。

(2)教職キャリア形成過程における学校支援ボランティアの経験のあり方を考える。

(3)これらを踏まえて、学校支援ボランティアの内容を企画し、実践に向けて準備を行う。

●授業内容・授業計画

第1回:教職ボランティア実習のオリエンテーション(制度)
第2回:教職ボランティア実習のオリエンテーション(事例)
第3回:ボランティアとは
第4回:我孫子南中学校について知る
第5回:咲くやこの花中学校・高等学校について知る
第6回:我孫子南中学校授業見学
第7回:咲くやこの花中学校・高等学校見学
第8回:試行ボランティアの計画づくり
第9回:試行ボランティアの相互見学(我孫子南中学校)
第10回:試行ボランティアの相互見学(咲くやこの花中学校・高等学校)
第11回:試行ボランティアのふりかえり(我孫子南中学校)
第12回:試行ボランティアのふりかえり(咲くやこの花中学校・高等学校)
第13回:後期ボランティアの計画づくり
第14回:ボランティア受け入れ学校担当者からの助言
レポート提出

●事前・事後学習の内容

ボランティアの計画や振り返りを行う。

●評価方法

レポートおよびWeb上の届等の提出状況により評価する

●受講生へのコメント

本気で教職に就きたい人、とくに将来的に学校内のミドルリーダーとして活躍したい人にはぜひとも受講してもらいたい科目である。

ボランティアの登録の関係上、第1回の授業は4月に行う。その日程は掲示等で指示する。第1回目の授業に万一欠席し、かつ、受講を希望する(またはその可能性がある)者は掲示の指示に従い、所定期間内に添田まで直接申し出ること。

履修する同一年度に、並行して「教職ボランティア実習Ⅰ～Ⅳ」のうちの1科目を履修し、かつ、その科目に関わる学校ボランティアを大阪市立咲くやこの花中学校・高等学校または大阪市立我孫子南中学校で行うことを本科目の履修条件とする。

【備考】「教職ボランティア実習Ⅰ～Ⅳ」は、30時間以上の学校ボランティアを行ってレポートを提出することによって単位を修得するのに対し、「教職ボランティア実習Ⅴ・Ⅵ」は「教職ボランティア実習Ⅰ～Ⅳ」のボランティア実習を前提として、その学校ボランティア実習の質を高めるための学修を行い、ボランティア活動を振り返り、ボランティア内容を計画することを通して単位を修得する。

同年度に「教職ボランティア実習Ⅵ」（後期）も履修することが望ましい。

●参考文献・教材

4月の説明会で「教職ボランティア実習の手引き」を配布する。

授業科目名	科目NO.	KLPRA1106	授業コード	L201060010	
教職ボランティア実習Ⅵ Volunteer Experiences for Teaching ProfessionⅥ				単位数	2 単位
授業形態 実習	担当教員名 添田　晴雄				

●科目の主題

学校ボランティアをより有意義に行うための考察を行う

●到達目標

(1)大阪市立咲くやこの花中学校・高等学校または大阪市立我孫子南中学校をフィールドにして、学校支援ボランティアの経験を振り返る。

(2)教職キャリア形成過程における学校支援ボランティアの経験の意義について考える。

(3)これらを踏まえて、学校支援ボランティアの内容の改善を企画する。

●授業内容・授業計画

(1)大阪市立咲くやこの花中学校・高等学校または大阪市立我孫子南中学校をフィールドにして、学校支援ボランティアの経験を振り返る。

(2)教職キャリア形成過程における学校支援ボランティアの経験の意義について考える。

(3)これらを踏まえて、学校支援ボランティアの内容の改善を企画する。

第1回:オリエンテーション

第2回:前期ボランティア報告

第3回:後期ボランティア計画づくり

第4回:我孫子南中学校授業見学

第5回:他校ボランティア報告(A中学校)

第6回:他校ボランティア報告(B高等学校)

第7回:ボランティア相互見学(我孫子南中学校)

第8回:ボランティア相互見学(咲くやこの花中学校)

第9回:ボランティア相互見学(咲くやこの花高等学校)

第10回:咲くやこの花中学校・高等学校授業見学

第11回:学生ボランティアに求められるもの(学習指導)

第12回:学生ボランティアに求められるもの(生徒指導)

第13回:ボランティアのふりかえり

第14回:次年度ボランティアの計画づくり(学習指導)

第15回:次年度ボランティアの計画づくり(生徒指導)

レポート提出

●事前・事後学習の内容

大学での授業時間以外に大阪市立咲くやこの花中学校・高等学校または大阪市立我孫子南中学校において学校ボランティアを行うことを前提とする。

●評価方法

レポートおよびWeb上の届等の提出状況により評価する

●受講生へのコメント

本気で教職に就きたい人、とくに将来的に学校内のミドルリーダーとして活躍したい人にはぜひとも受講してもらいたい科目である。

ボランティアの登録の関係上(履修届では後期集中講義扱いではあるが)第1回の授業は4月に行う。その日程は掲示等で指示する。

第1回目の授業に万一欠席し、かつ、受講を希望する(またはその可能性がある)者は掲示の指示に従い、所定期間内に添田まで直接申し出ること。

履修する同一年度に、並行して「教職ボランティア実習Ⅰ～Ⅳ」のうちの1科目を履修し、かつ、その科目に関わる学校ボランティアを大阪市立咲くやこの花中学校・高等学校または大阪市立我孫子南中学校で行うことを本科目の履修条件とする。

【備考】「教職ボランティア実習Ⅰ～Ⅳ」は、30時間以上の学校ボランティアを行ってレポートを提出することによって単位を修得するのに対し、「教職ボランティア実習Ⅴ・Ⅵ」は「教職ボランティア実習Ⅰ～Ⅳ」のボランティア実習を前提として、その学校ボランティア実習の質を高めるための学修を行い、ボランティア活動を振り返り、ボランティア内容を計画することを通して単位を修得する。

同年度に「教職ボランティア実習Ⅴ」（前期）も履修することが望ましい。

●参考文献・教材

4月の説明会で「教職ボランティア実習の手引き」を配布する。

授業科目名	科目NO.	MULEC1101	授業コード	L200410010	
生涯学習概論 Life-long Learning				単位数	2 単位
授業形態	担当教員名				
講義	赤尾　勝己				

●科目の主題

本授業については遠隔で行う。(予定)

本講義では、生涯学習に関する理論と実態を把握し、そのあり方について考える。

●到達目標

今日の後期近代社会における人々の生涯学習がミクロ・レベル、マクロ・レベル、グローバル・レベルでどのような様相を呈しどのような問題に直面しているか構造的に理解することができる。

●授業内容・授業計画

下記の教科書の目次に沿って授業を進める。第1部学習社会学理論のフロンティア(第1回～第5回)、第2部学習社会学のケーススタディ(第6章～第10章)。第11回からはパワーポイント等による資料を配布する。

第1回 第1章 「生涯発達」の社会学
第2回 第2章 「学習の可視化」の社会学
第3回 第3章 「学習する組織」の社会学
第4回 第4章 「学習都市」の社会学
第5回 第5章 「学力・能力のグローバル化」をめぐる社会学
第6回 第6章　ライフコースにおけるジェンダー意識の変容
第7回 第7章　移動する子どもたちの文化とアイデンティティ
第8回 第8章 生涯学習政策・行政の動向と課題
第9回 第9章　シティズンシップ教育から「シティズンシップ学習」へ
第10回 第10章 移民・移住者のシティズンシップの獲得をめぐって
第11回 図書館
第12回 博物館
第13回 公民館および生涯学習関連施設
第14回 生涯学習社会の可能性と課題
第15回 まとめ

●事前・事後学習の内容

第1回から第10回は、事前に教科書の該当章を読んでおくこと。

第11回からは事後に復習をしておくこと。

●評価方法

論述式の筆記試験による。前年度の様式を公開します。詳細は初回の授業時に説明します。

●受講生へのコメント

本科目は、博物館学芸員の資格取得のための必修科目であるが、受講生の皆さんには、博物館だけでなく、より広く人々の生涯にわたる学習が、どのようなメカニズムによってなされ、国家や行政や企業によって支援・振興・管理されようとしているのかについて、批判的な観点をもちながら学んでほしい。この講義では社会学的なセンスが必要とされる。

●参考文献・教材

教科書　赤尾勝己編著『学習社会学の構想』晃洋書房、2017年。

授業科目名	科目NO.	MULEC1102	授業コード	L200420010	
博物館概論 Museology : Introduction				単位数	2 単位
授業形態 講義	担当教員名 岸本　直文				

●科目の主題

博物館科目の入口となる科目であり、博物館の学芸員をめざそうという受講生に対し、わが国の博物館が現代にいたるまでどのような歴史的過程を経てきたのか、どのような社会的役割が期待されているのか、博物館の業務全般について基礎的な知識と理解を身につける。

●到達目標

博物館の現況を歴史的側面、現代社会的側面から考え、博物館の意義と抱える課題、今後のあり方について、学芸員をめざす諸君に考えてほしい。

●授業内容・授業計画

遠隔授業とする。資料をウェブクラスに上げ、パワーポイントに音声を入れた動画を配信する。

第1回 博物館とはなんだろう
第2回 博物館と法律
第3回 生涯学習と博物館
第4回 世界の博物館の歴史
第5回 文化財は誰のものか
第6回 日本の博物館の歴史
第7回 大阪の博物館
第8回 公立博物館の運営
第9回 自治体の文化政策
第10回 博物館の資料
第11回 博物館資料の保存　学芸員の研究
第12回 博物館の展示
第13回 博物館の教育
第14回 博物館の評価
第15回 まとめ

●事前・事後学習の内容

普段から、身近な博物館はもちろん、旅先など出かける機会に際して、博物館や美術館を訪れるようにしてほしい。毎回の授業時に配布した資料に即して、それを見返しておくこと。

●評価方法

授業に即した小レポートを10回（各10点）提出してもらい、これにより評価する。

●受講生へのコメント

博物館の学芸員の仕事は多様で期待される役割は大きいが、専門性を活かし、資料を扱いわかりやすく意義を提示するプロとして、地域の文化を守り人材を育てる重要な役割を担う職務であることを意識してほしい。

●参考文献・教材

ウェブクラスにPDF必要と動画を配信する。

授業科目名	科目NO.	MULEC1103	授業コード	L200960010	
博物館経営論 Museum Management Theory				単位数	2 単位
授業形態 講義	担当教員名 小野　昌弘				

●科目の主題

博物館施設の組織体制や日常運営の実態等、博物館経営の現状と課題を考える。

国内の博物館の経営や運営の状況を知り、経営にあたって必要な枠組みを学ぶ。

また、地方独立行政法人としては初の博物館運営を担うこととなった、地方独立行政法人　大阪市博物館機構に属する大阪市立美術館、大阪市立自然史博物館、大阪市立東洋陶磁美術館、大阪市立科学館、大阪歴史博物館の経営の在り方や運営方法について具体的な活動内容から理解することで、国内の博物館の運営状況を把握できるようにし、

博物館経営にあたっての必要な素地を学ぶ。

●到達目標

博物館の組織や活動について、歴史・美術・自然史・科学など幅広い分野の実例を学び、博物館経営に関する基礎的な知識を習得する。

また、博物館が今後社会のなかで果たすべき役割や、現在の博物館を経営する知識や手法を理解し、

今後の我が国における博物館の経営に関する新たな定理や、

ニーズについて自分の考えをまとめることができるようにする。

●授業内容・授業計画

博物館の組織体制や日常運営について実例を紹介する。

博物館の使命や計画、評価について、その実例から学び、

現在の博物館経営に求められる社会的背景も理解する。

大阪市博物館機構が運営する美術、自然史、科学など幅広い館種での

博物館運営の実際や課題について実状について学び、

博物館における各種連携や市民参加についても紹介する。

第1回 イントロダクション

第2回 ミュージアムマネジメントとわが国の博物館

第3回 運営の実態（組織体制・財務・日常運営・設備等）

第4回 歴史系博物館の運営

第5回 美術館の運営1

第6回 博物館の使命

第7回 博物館の計画・評価

第8回　 自然史博物館の運営

第9回　 美術館の運営2

第10回 博物館と倫理

第11回 博物館における市民参加

第12回 科学館の運営

第13回 他館・他機関との連携

第14回 まとめ

注）各回の講義内容は変更されることがある。

●事前・事後学習の内容

授業に先立って、大阪市内をはじめとする関西の博物館施設を見学しておくことが望ましい。特に、大阪歴史博物館、大阪市立自然史博物館、大阪市立科学館、大阪市立美術館、大阪市立東洋陶磁美術館などは、授業のなかで言及されるので、見学することが望

ましい。
また、地方独立行政法人　大阪市博物館機構のホームページ
https://ocm.osaka
に掲載されている、「基本情報」内の各種資料を確認しておくこと。

●評価方法

レポートを基本とし、適宜、別途課題を課し、提出を求める。

●受講生へのコメント

日頃から博物館・美術館などの見学や事業への参加をおこない、博物館施設の実際を自分の目で確認しておいてほしい。

●参考文献・教材

講義において指示する。

授業科目名	科目NO.	MULEC1104	授業コード	L200970010	
博物館資料論 Museum Collection			単位数	2 単位	
授業形態 講義	担当教員名 伊藤　純				

●科目の主題

博物館での研究・展示活動において、最も重要なものは実物資料(モノ・作品・標本)である。本授業では、文系の博物館・美術館だけでなく、理系の博物館・資料館にも視野を広げ、博物館資料をめぐる課題・問題について、基本的な知識を学んでいきたい。

●到達目標

博物館学芸員の資格取得にあたって、必要な博物館資料についての知識を習得する。

●授業内容・授業計画

対面授業

博物館における資料について、様々な角度から知識を提供したい。

第1回 博物館資料論を始めるにあたって
第2回 資料の収集
第3回 資料とは(1)人文系
第4回 資料とは(2)自然系
第5回 資料の分類と整理(1)人文系
第6回 資料の分類と整理(2)自然系
第7回 資料の劣化と保存
第8回 資料の修復
第9回 資料の記録と写真
第10回 資料の研究
第11回 展示資料の集荷
第12回 資料の展示
第13回 大学博物館紹介
第14回 まとめ

●事前・事後学習の内容

自身の興味・関心を狭めないで下さい。自身の研究テーマを豊かにするためには、一見無駄と思えるような周辺の知識の厚さが重要となります。

博物館の活動は、博物館資料の研究を下敷きにし、展示活動を通じて、学問と社会、そして地域とを結ぶ重要な役割をもっています。授業で提供した知識を踏まえ、各所にある博物館を見ながら、自身の知識を増やすとともに、新たな現代的課題を見つけ出して下さい。

●評価方法

小レポート30点×2回　60点
課題レポート　40点
（合計　100点）
※コミュニケーションカードでの対話を加味する

●受講生へのコメント

近畿圏には多くの博物館・美術館・資料館があります。
興味の範囲を狭めず、さまざまな分野の博物館・美術館・資料館の見学を勧めます。
この活動は、授業・博物館資料論のみに役立つのではなく、あなた自身の専門分野の勉強にとっても必ず寄与することでしょう。

●参考文献・教材

博物館学（資料論）に関する参考文献は多数あるが、下記の文献は手近に入手できるので目を通すことが望ましい。

『日本博物館学入門』雄山閣　1993年

『博物館学総論』雄山閣　1996年

『新版博物館学講座　5　博物館資料論』雄山閣　1999年

『博物館学概説』関西大学出版部　2001年

『新時代の博物館学』芙蓉書房　2012年

『博物館資料論』放送大学教育振興会　2012年

授業科目名	科目NO.	MULEC1105	授業コード	L201010010	
博物館資料保存論 Museum Collection Care			単位数	2 単位	
授業形態 講義	担当教員名 松本　百合子				

●科目の主題

考古・歴史・美術・自然史等に関する諸資料について、保存や修復に必要な基礎知識を学ぶ。

温湿度や光、虫害等に関する備えについて実例に即して紹介する。

資料の修復や処理に関して、保存科学の観点から最新成果等を学ぶ。

●到達目標

博物館において、さまざまな分野の資料を、展示環境や収蔵環境を含めて良好な状態で保存・継承するために必要な基礎的知識や技術を身につけるとともに、資料の修復や科学的分析についても、最新の成果を含めて習得する。

●授業内容・授業計画

第1回 4/9(市大:岸本直文)イントロダクション
第2回 4/23(大文協:藤田浩明)資料の状態調査・現状把握
第3回 4/30(大文協:藤田浩明)資料の科学的保存処理
第4回 5/7(大文協:藤田浩明)資料の修復・修理(考古)
第5回 5/14(自然史:石田　惣)自然環境の保護(生物多様性・種の保存を含む)
第6回 5/21(自然史:松本吏樹郎)自然環境の保護(生物多様性・種の保存を含む)
第7回 5/28(大市美:石川温子)資料の取り扱い、梱包と輸送
第8回 6/4(歴博:松本百合子)資料の修復・修理(美術・歴史)
第9回 6/11(歴博:松本百合子)災害の防止と対策(火災、地震、水害、盗難等)
第10回 6/18(歴博:松本百合子)伝統的保存方法
第11回 6/25(歴博:寺井　誠)保存の諸条件とその影響(温湿度、光、振動、大気等)、生物被害とIPM(総合的有害生物管理)
第12回 7/2(歴博:寺井　誠)収蔵の保存環境
第13回 7/9(歴博:寺井　誠)展示の保存環境
第14回 7/16(大文協:清水和明)文化財の保存と活用
第15回(市大:岸本直文)まとめ

●事前・事後学習の内容

講義内容をより理解するために、ジャンルを問わず多くの博物館・美術館に見学に行き、展示や資料保存に関する知見を広めておくこと。講義後は、例示された博物館・美術館で展示の様子を実見し、理解を深めること。

●評価方法

平常点(コミュニケーションカード:50%・レポート:50%)

●受講生へのコメント

講義内容をより理解するために、ジャンルを問わずなるべく多くの博物館・美術館に見学に行き、展示構成や展示方法の知見を広めてください。

●参考文献・教材

各回配布

授業科目名	科目NO.	MULEC1106	授業コード	L201020010	
博物館展示論 Museum Exhibition			単位数	2 単位	
授業形態 講義	担当教員名 佐久間　大輔／岸本　直文				

●科目の主題

博物館機能の中心となる展示について、多分野の博物館の具体例を通じて学ぶ。

●到達目標

博物館の展示について、歴史・美術・自然史など幅広い分野の実践例を通じて、理論や具体的技術・手法を習得し、博物館の展示機能に関する基礎的能力を養う。あわせて、特別展（企画展）等の企画から実施までの具体的手続きについて学ぶ。

●授業内容・授業計画

さまざまな博物館・美術館での展示の実例を学ぶ。資料毎の特性に基づいた展示・解説手法を学ぶ。展覧会の企画から実施までを実例に即して紹介する。展示手法や技術について紹介する。第6回の現地見学は、講義の時間とは別枠で、指定する土曜日に見学・受講する。第10回の現地見学は講義時間内に実施予定。
対面授業で実施予定である。

第1回　イントロダクション　展示とは
第2回　科学の展示手法と来館者コミュニケーション
第3回　歴史展示に関する諸問題
第4回　考古資料の展示、遺跡の利用
第5回　建築と展示
第6回　11月6日見学（東洋陶磁）　展示の諸形態1　東洋陶磁美術館の展示〈現地見学と講義〉
第7回　科学館のプラネタリウムと天文展示
第8回　自然史資料の展示手法
第9回　特別展の企画と運営
第10回　12月3日見学（自然史）　展示の諸形態2　自然史博物館の展示〈現地見学と講義〉
第11回　巡回展示の企画・運営
第12回　海外資料の展示に関する諸問題
第13回　展示技術のいろいろ
第14回　観覧者からみた展示
第15回　まとめ

●事前・事後学習の内容

将来学芸員という仕事をめざす受講生にとって、いろいろな機会に多種多様な博物館を訪れて、展示を見学するとともに、展示以外の博物館活動に触れておくことがのぞましい。その経験があると、各回の講義内容の理解度も深まると考える。なおこの授業内容には、実践的な内容が中心となるため、「博物館の展示」・「展示論」などに関した教科書に触れておくことを薦める。

●評価方法

授業中のミニレポート（60%）と出席（40%）により総合的に評価する。

●受講生へのコメント

授業内容・計画にもあるように、大阪市立の博物館施設について、2回の現地見学・現地講義があります。特に第6回は通常の講義日程とは別に指定した日時となるので注意してください。各回ともに、現職学芸員による実践経験に裏打ちされた講義内容で、教科書的な「展示論」とはひと味違う講義を展開します。

●参考文献・教材

授業中に適宜指示、紹介する。

授業科目名	科目NO.	MULEC1107	授業コード	L201030010	
博物館教育論 Museum Education				単位数	2 単位
授業形態 講義	担当教員名 井上 敏				

●科目の主題

博物館における博物館教育の意義と理念について講義を行い、事例の紹介も行います。また博物館教育を企画、実施する際に必要となる視点を習得してもらいます。

●到達目標

博物館の諸機能のうち、博物館教育の重要性を認識し、博物館における教育活動の基盤となる理論や実践に関する知識と方法を習得し、博物館教育を企画、実施するための基礎的能力や必要となる視点を養うことを目標とします。

●授業内容・授業計画

以下の内容の講義を予定しています。但し、まだ変更の余地があり、講義の第1回目で改めて告知します。

第1回 ガイダンス
第2回 人の学びと博物館
第3回 博物館教育の意義と理念(1)－コミュニケーションとしての博物館教育
第4回 博物館教育の意義と理念(2)－生涯学習の場としての博物館
第5回 博物館教育の意義と理念(3)－人材養成の場としての博物館・博物館と学校教育
第6回 博物館教育の意義と理念(4)－地域における博物館
第7回 博物館教育の意義と理念(5)－博物館リテラシーの涵養
第8回 博物館の利用と学び(1)－博物館の利用実態
第9回 博物館の利用と学び(2)－博物館体験
第10回 博物館の利用と学び(3)－博物館における学びの特性
第11回 博物館教育の実際(1)－博物館教育活動の手法(館内)
第12回 博物館教育の実際(2)－博物館教育活動の手法(館外)
第13回 博物館教育の実際(3)－博物館教育活動の企画と実施
第14回 博物館教育の実際 (4) －博物館と学校教育
第15回 まとめ

●事前・事後学習の内容

事前の学習については講義前から積極的に博物館(ミュージアム、動物園や植物園、水族館も含む)に行き、積極的に見学してください。その際、ただ展示を見るだけでなく、教育普及に関わる事業(ワークシートやワークショップ、講演会やギャラリートーク等)に関する情報を積極的に集めておいてください。事後の学習についても更に博物館に行ってもらうことに変わりません。しかし講義内で学んだ生涯学習の理論を思い起こしつつ、学んだことと実際の教育普及事業との関わりについてよく考えてください。そして自分であれば、見学した館の教育普及事業についてどのように展開していくのかを考えてみてください。

●評価方法

成績評価について、レポート70%と受講態度30%(出席点を含む)で評価する予定です。受講態度については遠隔授業に切り替わった場合には小課題の提出をもって変える可能性があります。その場合には講義やこのユニバーサルパスポート等で指示します。今後、変更の可能性はあるので、注意しておいてください。

●受講生へのコメント

博物館(ミュージアム)は貴重な博物館資料を後世に残すという使命を持つ一方で、図書館などとともに社会教育・生涯学習の機関として、人の生涯にわたる学びを行う場であり、それをサポートする使命を持っています。そのことをこの講義で認識してもらい、そこから受講生各人が博物館(ミュージアム)の持つポテンシャルをどう引き出すか、博物館(ミュージアム)が生涯学習の面でどのような貢献ができるのか、を考えてほしいと思います。

●参考文献・教材

講義中に指示しますが、基本的に資料を配布します。

授業科目名	科目NO.	MULEC1108	授業コード	L200980010	
博物館情報・メディア論 Museum Informatics				単位数	2 単位
授業形態 講義	担当教員名 吉田　健				

●科目の主題

本講義では、博物館で教育や情報発信に利用されているメディアに焦点を当て、それらの特性を正しく理解し、活用することができるようになることを目指す。そのためにメディア利用の歴史を振り返る。さらに、様々な情報を、メディアを使って来館者らに的確に伝えられるような方策を考えていく。

●到達目標

博物館の展示や教育普及活動で取り扱う情報にはどの様なものがあるのかを理解し、メディアを活用しながら展示したり情報発信することが可能となるようにする。また、インターネットの利用や新しいデジタルメディアの登場などの変化に対応できるようにすることを目指す。

●授業内容・授業計画

本講義は、遠隔で実施する。
さまざまなメディアについて、その特徴や歴史を概観しながら、博物館における利用を考えていく。
第1回 オリエンテーション
第2回 コミュニケーションとメディア
第3回 博物館と学習
第4回 メディアの歴史―言語と文字
第5回 メディアの歴史―印刷
第6回 メディアの歴史―写真と映像
第7回 メディアの歴史―通信
第8回 メディアの歴史―マスメディア
第9回 メディアを使った教育の歴史
第10回 博物館での情報発信―映像展示
第11回 博物館での情報発信―コンピュータの活用
第12回 博物館での情報発信―携帯型情報端末の活用
第13回 博物館からの情報発信―広報紙の作成
第14回 博物館からの情報発信―インターネットの活用
第15回 まとめ

●事前・事後学習の内容

授業で配布した資料をよく読み、次回の講義に備えてください。
また、事前学習として課題を設定することもあります。

●評価方法

期末のレポート60%、授業中の小課題20%、授業へ取り組む姿勢など平常点20%。

●受講生へのコメント

多くの博物館や科学館を訪れて、どんな情報があるのか、どの様なメディアを活用しているのかを実際に見てください。そして、自分ならどの様に情報を展示するのか、発信するのか、考えてみてください。

●参考文献・教材

講義の中で紹介する。

授業科目名	科目NO.	MUPRA3301	授業コード	L200990010	
博物館実習Ⅰ Practice in Museology Ⅰ				単位数	2 単位
授業形態	担当教員名				
実習	岸本 直文				

●科目の主題

博物館の実際を見る見学実習、大学に所蔵・保管する考古資料・文書・自然系標本などを扱い調書を取るなどの実務実習、写真撮影を含む資料化、関連資料のスキャニング、それらを用いた絵はがき・チラシ・資料カードなどの作成、そうした基礎的訓練の上に、博物館の展示活動に準じた実習展示を学術情報総合センターを利用して行う。企画立案、展示物の選定、パネルや解説文の作成、説明リーフレットの作成、そして実際の展示を実施する。

●到達目標

見学実習は、博物館に関する科目の履修を踏まえ、いくつかの観点の項目を定めた上で、博物館を実際に訪れ、施設や展示などについて論評し、よりよい展示を提案する力量を養う。実務実習は、館園実習の前に、実際に資料にふれ、その取り扱いの基礎を学ぶ。そして、受講者の討論により実習展示企画を立て、パネルの作成等の準備、実際の陳列や解説まで、博物館活動の柱である企画展実施のひととおりのプロセスを経験する。

●授業内容・授業計画

通年で実施する。前期は見学実習と実務実習が中心となり、後期は実習展示が中心となる。

第1回 オリエンテーション通年のスケジュール説明／見学実習の説明／実習展の説明
第2回 見学実習(1)
第3回 見学実習についてのレポートにもとづく討論(1)
第4回 見学実習(2)
第5回 見学実習についてのレポートにもとづく討論(2)
第6回 見学実習(3)
第7回 見学実習についてのレポートにもとづく討論(3)
第8回 実務実習①写真撮影
第9回 実務実習①考古資料の取り扱い
第10回 実務実習②古文書の取り扱い
第11回 実務実習③自然系標本の取り扱い
第12回 実務実習④大学史資料室の見学と展示業務の講義
第13回 展示企画の立案①
第14回 展示企画の立案②
第15回 館園実習事前指導
第1回 館園実習事後指導 実習展の説明
第2回 展示研究①企画案の研究1
第3回 展示研究②企画案の研究2
第4回 展示研究③企画案の研究3(企画案の検討含む)
第5回 展示企画企画の最終的な検討出品リスト・パネル・リーフレットの検討
第6回 展示準備①
第7回 展示準備②
第8回 展示準備③
第9回 展示A設営
第10回 この間に実習展Aの解説

第11回　展示A撤収／展示B設営

第12回　実習展Aの振り返り（この間に実習展Bの解説）

第13回　実習展報告書の準備／展示B撤収

第14回　実習展報告書の仕上げ

第15回　まとめ

●事前・事後学習の内容

実習であるので、毎回の授業時に真摯に取り組むこと。実習展企画や準備に際しては、企画案を考えたり、班に分かれてそれぞれの分担についての下調べなど、時間外の調査等の準備が必要である。また毎回、内容を振り変えること。

●評価方法

出席、レポートおよび討論への参加状況、実習展の企画・準備などの状況を総合的に判断する。

●受講生へのコメント

通年科目であり、1年を通じての出席が必要である。また、博物館見学は、時間割の時間外となる。さらに実習展では、企画や研究などの準備作業が必要であるとともに、一定の到達のために実習時間を越えて進めなければならない場合もありうる。過大な負担にならないようにするが、一方で作り上げることの楽しみを体感できるよう努めたい。受講生にも、通常の講義ではない博物館実習の特性を理解しておいてほしい。

●参考文献・教材

教材必要に応じて資料を配付する。

授業科目名	科目NO.	MUPRA3302	授業コード	L201000010	
博物館実習Ⅱ Practice in Museology Ⅱ				単位数	1 単位
授業形態 実習	担当教員名 岸本　直文				

●科目の主題

博物館実習Iをふまえ、博物館施設において博物館活動の基本について学ぶ。

●到達目標

博物館施設により扱う資料や実習内容に差はあるが、施設、資料の保管、資料の扱い、展示、普及活動、運営等について、学芸員の方々から博物館の基本的活動について学び、学芸員業務の実際を学習する。

●授業内容・授業計画

4～5日の集中講義の形式で、主として夏休み期間に行われる。内容は各館の館園実習メニューによる。

第1回 －
第2回 －
第3回 －
第4回 －
第5回 －
第6回 －
第7回 －
第8回 －
第9回 －
第10回 －
第11回 －
第12回 －
第13回 －
第14回 －
第15回 －

●事前・事後学習の内容

履修生に配布する「博物館実習の栞」をよく読んでおき、博物館実習Ⅰで学んだことを振り返っておくこと。限られた実習期間のなかで、できるだけのことを吸収するよう真摯に取り組むとともに、日々、その日の実習内容をレポートにまとめ振り返ること。

●評価方法

全期間出席することが必須である。また博物館実習Iに組み込んで実施している事前指導と事後指導を受けなければならない。その上で、実習内容について、日々学んだ点をまとめたレポートにまとめ、全体を通しての反省・自己評価等からなるレポートをあわせた実習レポートを提出する。事後指導の討論を含めて総合的に判定する。

●受講生へのコメント

前期の履修登録期間においては、各館の実習期間が決まっていない場合があるが、必ず登録を済ませておくこと。博物館実習Ⅰの初回に博物館実習Ⅱ（館園実習）のガイダンスを、博物館実習Ⅰの前期最終回および後期初回に博物館実習Ⅱ（館園実習）の事前指導と事後指導を実施する。博物館実習Ⅰを履修済みで、博物館実習Ⅱのみの履修者についても、これら3回に必ず出席すること。

●参考文献・教材

各受け入れ館による。